鳥取県教育文化財団調査報告書 93

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ　第１分冊

鳥取県西伯郡名和町

茶畑遺跡群

茶畑第１遺跡

２００４

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省 倉吉河川国道事務所

正誤表

頁	行・場所	誤	正
1-3	3	後期旧石器後半	後期旧石器時代後半
1-5	2	４遺跡は、一般国道９号	４遺跡は、将来の山陰自動車道を跨んだ一般国道９号
1-5	8	茶畑第１遺跡以外の工事予定地は、	本報告書の４遺跡は平成14・15年度の２ヶ年度に調査を実施した近接する位置に所在する遺跡である。工事予定地は、
1-5	8	登録が行われている	登録されている
1-5	9	建設省中国地方建設局倉吉工事事務所より	建設省中国地方建設局倉吉工事事務所（現在は「倉吉河川国道事務所」。以下、平成14年度まで同じ）より
1-5	12	倉吉工事事務所（現在は倉吉河川国道事務所、以下、平成14年度まで同じ）は	倉吉工事事務所長は
1-5	18	提出した。	提出し調査を実施した。
1-5	20	鳥取県教育委員会に	鳥取県教育委員会教育長に
1-5	21	委託し、組織変更した埋蔵文化財センター名和調査事務所が	委託し、埋蔵文化財センターが
1-14	18	Ⅸ層：橙色砂質土、Ⅹ層：にぶい褐色粘質土	Ⅸ層：橙色砂質土層、Ⅹ層：にぶい褐色粘質土層
1-25	15	図22～24	図22～25
1-33	31	①層理土	理土の①層
1-58	3	土坑101	土坑103
1-66	10	（６）住居理土の層は	（６）住居理土の各層は
1-67	3	存在する。	存在する。掘立柱建物24に切られる。
図版9	1	掘立柱建物１南独立棟持柱完掘状況	掘立柱建物１独立棟持柱（P18）完掘状況
図版9	2	南独立棟持柱土層断面	独立棟持柱（P18）土層断面
図版21	2	茶畑15号墳周溝土層断面	茶畑15号墳北周溝土層断面

鳥取県教育文化財団調査報告書 93

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ　第１分冊

鳥取県西伯郡名和町

茶畑遺跡群

茶畑第１遺跡

２００４

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省 倉吉河川国道事務所

1　茶畑遺跡群遠景（東から）

2　茶畑第１遺跡　掘立柱建物10　完掘状況（南から）

巻頭図版2

1　茶畑第１遺跡　竪穴住居14・同16：掘立柱建物11　完掘状況（北西から）

2　茶畑第１遺跡　竪穴住居16　完掘状況（西から）

1　茶畑第１遺跡　掘立柱建物12　完掘状況（東から）

2　茶畑第１遺跡　掘立柱建物12　復元模型（S＝１／20）

巻頭図版4

1　押平尾無遺跡　平坦部　完掘状況（北から）

2　古御堂笹尾山遺跡　竪穴住居22　炭化材、焼土検出状況（西から）

序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

ところで、県内においては、現在、山陰自動車道の整備が着々と進められているところでありますが、当財団は、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道９号（名和淀江道路）の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施してきました。

そのうち、名和町にある茶畑第１遺跡、押平尾無遺跡、古御堂笹尾山遺跡、古御堂新林遺跡からは、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡が見つかりました。そのうち、茶畑第１遺跡では特異な形態を持つ建物跡が、他の遺跡からも数多くの建物跡が見つかり、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができ、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

財団法人　鳥取県教育文化財団

理事長　有田　博充

序文

一般国道９号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡泊村から米子市（鳥取―島根県境）までの76.6kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

名和淀江道路は、西伯郡淀江町から名和町にかけての、国道９号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成15年度は、「押平尾無遺跡」、「古御堂笹尾山遺跡」、「古御堂新林遺跡」、「茶畑六反田遺跡」、「名和乙ヶ谷遺跡」、「名和飛田遺跡」、「名和小谷遺跡」の７遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査の委託契約を締結し、同埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「押平尾無遺跡」、「古御堂笹尾山遺跡」、「古御堂新林遺跡」に、平成14年度に発掘調査を行った「茶畑第１遺跡」と「押平尾無遺跡」、「古御堂笹尾山遺跡」の調査成果を加えてまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた財団法人鳥取県文化財団の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成16年３月

国土交通省　倉吉河川国道事務所

所長　矢田　光夫

例　言

1．本書は、鳥取県教育文化財団が2002（平成14）年度、2003（平成15）年度に実施した「一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」の調査報告書である。

2．発掘調査報告書は、つぎの１～３分冊にわけて報告する。

第１分冊「茶畑第１遺跡」　第２分冊「押平尾無遺跡」　第３分冊「古御堂笹尾山遺跡･古御堂新林遺跡」

3．それぞれの遺跡の所在地は次の通りである。

茶畑第１遺跡：西伯郡名和町大字押平字小坂平ル805ほか

押平尾無遺跡：西伯郡名和町大字押平字尾無834ほか

古御堂笹尾山遺跡：西伯郡名和町大字古御堂字上笹尾836ほか

古御堂新林遺跡：西伯郡名和町大字古御堂字上前場653ほか

4．掲載した地形図は、名和町発行の1/2500地形図、および国土地理院発行の1/25000地形図を使用している。

5．本書で使用した座標は公共測量成果（世界測地系準拠）、方位は公共座標方位に基づく。

6．本書の作成は、鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター名和調査事務所の職員が協議しておこない、編集は第１分冊が西川徹、第２分冊は湯川善一、第３分冊は岡野雅則がおこなった。文責は各項目の文末に記載している。

第６章　特論（第３分冊）については、以下の方々に執筆をお願いし、玉稿をいただいた。

第１節　浅川滋男･竹中千恵（鳥取環境大学）　第２節　白石　純（岡山理科大学自然科学研究所）

第３節　佐々木　稔（神奈川大学）　第４節　古川郁夫･菅野仁美（鳥取大学）

第５節　パリノサーヴェイ株式会社（辻本裕也）

7．掲載した遺構図面は、調査員または補助員が作成したものを、室内整理作業員が浄書をおこなった。遺物実測図の作成および浄書は基本的には室内整理作業員がおこない、各段階で調査員が検討をおこなった。また、掲載した遺構・遺物の写真撮影は、いずれも調査員がおこなった。

8．出土遺物ならびに図面･写真類はすべて鳥取県埋蔵文化財センターに保管している。

9．調査時点における遺跡の略号は次のとおりである。略号は、遺構図面の記載および遺物の注記に使用した。なお、現場で採取した図面･写真などのデータ類には、すべて調査時点での遺構番号を記載している。参照の際にはそれぞれの分冊に記載した遺構番号対照表をご覧いただきたい。

茶畑第１遺跡：ＴＹＡ　押平尾無遺跡：ＯＯＮ　古御堂笹尾山遺跡：ＫＳＡ　古御堂新林遺跡：ＫＳＢ

10．報告に際して、遺構名称に付与すべき「跡」を略して表現した。例えば「竪穴住居跡１」は「竪穴住居１」と表現した。

11．各遺跡における現地調査及び本報告書の作成にあたっては、下記の方々をはじめ多くの方々から助言、支援をいただきました。末筆ながら深謝いたします。（敬称略、順不同）

赤澤　徳明（福井県教育庁埋蔵文化財センター）、穴澤　義功（たたら研究会）、浅川　滋男（鳥取環境大学）、遠藤勝壽（大山自然公園指導員の会）、武末　純一（福岡大学）、富長源十郎（県文化財保護指導委員）、寺前　直人（大阪大学）、林　大智（石川県埋蔵文化財センター）、伴野　幸一（守山市教育委員会）、古川　郁夫（鳥取大学）、森岡　秀人（芦屋市教育委員会）、安　英樹（石川県埋蔵文化財センター）、白石　純（岡山理科大学）

凡　例

1．本書の遺構、遺物の実測図は以下の縮尺を基本として掲載した。分冊により一部が異なるので留意されたい。

遺構図　　竪穴住居・掘立柱建物・テラス：1／80、1／60　　土坑：1／40、1／20

遺物実測図　土器：1／3、1／4　　石器：1／1、1／2、1／3　　鉄製品：1／1、1／2

2．遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、その他の土器を白抜きで表現した。石器では擦り範囲を破線、敲打範囲を実線で表現した。

3．本報告書における土器、石器の分類、編年観についてはおもに次のものを参考に遺構並びに遺物の時期比定を行っている。

柳浦俊一 2001「山陰地方における縄文前期土器の地域編年」『島根考古学会誌』18　島根考古学会

濵田竜彦 2000「山陰地方における弥生文化成立期の様相」『弥生文化の成立』 第47回埋蔵文化財研究集会発表要旨

辻　信広 1999「弥生中期中～後葉の土器について」『茶畑山道遺跡』名和町教育委員会

濵田竜彦 2003「大山北麓地域における弥生時代後期土器の編年」『史跡妻木晩田遺跡第４次発掘調査報告書』鳥取県教育委員会

清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年（山陽・山陰編）』

松井　潔 1997「東の土器、南の土器－山陰東部における弥生時代中期後葉～古墳時代初頭の非在地系土器の動態」『古代吉備』第19集

牧本哲雄 1994「土器編年について」『南大山遺跡Ⅱ、南谷29号墳』 財団法人鳥取県教育文化財団

牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ、園第６遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団

岡野雅則 2004「古墳時代中期から後期の土器について」『茶畑遺跡群（第３分冊）』 財団法人鳥取県教育文化財団

平井　勝 1991『弥生時代の石器』 ニューサイエンス社

編年対照表

時代／時期			濵田2000	辻2000	濵田2003	清水1992	松井1997	牧本1994	牧本1999	岡野2004
弥生時代	前期		越敷山式／前期1式							
			前期2式			Ⅰ－1				
			前期3式			Ⅰ－2				
			前期4式			Ⅰ－3				
	中期	前葉				Ⅱ－1・2				
		中葉				Ⅲ－1				
				Ⅲ－1		Ⅲ－2	西伯耆Ⅰ期			
				Ⅲ－2		Ⅲ－3	西伯耆Ⅱ期			
		後葉		Ⅳ－1a		Ⅳ－1	西伯耆Ⅲ期			
				Ⅳ－1b		Ⅳ－2				
				Ⅳ－3		Ⅳ－3	西伯耆Ⅳ期			
	後期	前葉			Ⅴ－1期古相	Ⅴ－1	西伯耆Ⅴ期	大山Ⅰ期		
					Ⅴ－1期新相					
		中葉			Ⅴ－2期古相	Ⅴ－2	西伯耆Ⅵ期	空白期		
					Ⅴ－2期新相					
		後葉			Ⅴ－3期	Ⅴ－3	西伯耆Ⅶ期	大山Ⅱ期		
	終末期	前半				Ⅵ－1	西伯耆Ⅷ・Ⅸ期			
							西伯耆Ⅹ期	大山Ⅲ期		
		後半				Ⅵ－2		大山Ⅳ期		
古墳時代							西伯耆ⅩⅠ期	大山Ⅴ期	天神川Ⅰ期	
	前期	前葉					西伯耆ⅩⅡ期		天神川Ⅱ期	
							西伯耆ⅩⅢ期	大山Ⅵ期(古)		
		中葉					西伯耆ⅩⅣ期	大山Ⅵ期(新)	天神川Ⅲ期	
		後葉							天神川Ⅳ期	
	中期	前葉						大山Ⅶ期	天神川Ⅴ期	
		中葉						空白期	天神川Ⅵ期	
								大山Ⅷ期	天神川Ⅶ期	1期
		後葉							天神川Ⅷ期	
		末葉						大山Ⅸ期	天神川Ⅸ期	2期
	後期	前葉							天神川Ⅹ期	3期
		中葉								4期
		後葉								5期

第1分冊　目次

巻頭図版
序
序文
例言・凡例
目次
第1章　茶畑遺跡群の概要
第1節　茶畑遺跡群の位置と環境　（湯川・浜田）　1－1
第2節　調査の経緯　（西川）　1－5
第3節　調査の経過　（西川）　1－6
第2章　茶畑第1遺跡の調査
第1節　調査の概要
1．調査の経過と方法　（西川）　1－9
2．調査地の地形と層序　（日置）　1－14
3．遺構の概要　（西川）　1－14
第2節　弥生時代中期の調査　（西川・日置）　1－15
第3節　弥生時代後期の調査　（西川）　1－54
第4節　弥生時代終末期から古墳時代前期の調査　（西川・湯川・日置）　1－56
第5節　古墳時代中期から後期の調査　（西川・日置）　1－86
第6節　その他の遺構と遺物　（西川・日置）　1－92
出土遺物観察表
図版

第2分冊　目次

例言・凡例
目次
第3章　押平尾無遺跡の調査
第1節　調査の概要　（西川・湯川・三木）　2－1
1．調査の経過と方法
2．調査地の地形と層序
3．遺構の概要
第2節　弥生時代中期から後期前葉の調査　（湯川）　2－13
第3節　弥生時代後期後葉から古墳時代前期の調査　（西川・森本・湯川・三木）　2－23
第4節　古墳時代中期の調査　（西川・湯川）　2－69
第5節　その他の時期の遺構と遺物　（北・浜田・湯川）　2－93
出土遺物観察表

第3分冊　目次

例言･凡例

目次

第4章　古御堂笹尾山遺跡の調査

第1節　調査の概要　（岡野）　3－1

1．調査の経過と方法

2．調査地の地形と層序

3．遺構の概要

第2節　弥生時代後期から古墳時代前期の調査　（森本･小林･岡野）　3－6

第3節　古墳時代中期から後期の調査　（森本･小林･岡野）　3－44

第4節　その他の時期の遺構と遺物　（森本･小林）　3－102

第5節　古御堂笹尾山遺跡の集落変遷　（岡野）　3－117

出土遺物観察表　3－120

第5章　古御堂新林遺跡の調査

第1節　調査の経過と方法　（岡野）　3－135

第2節　調査地内の堆積　（岡野）　3－135

第3節　遺構の概要　（岡野）　3－135

第4節　弥生時代後期から終末期の調査　（岡野）　3－140

第5節　時期不明の遺構および包含層の調査　（岡野）　3－147

出土遺物観察表　155

第6章　特論

第1節　茶畑第1遺跡掘立柱建物3の復原設計　浅川滋男　3－158

第2節　押平尾無・古御堂笹尾山・茶畑第1遺跡出土土器　白石　純　3－166

第3節　鳥取県名和町茶畑第1遺跡出土鉄片の金属学的解析　佐々木稔　3－176

第4節　古御堂笹尾山遺跡焼失住居跡から出土した炭化材の樹種　古川郁夫　3－181

第5節　古御堂新林遺跡・茶畑第1遺跡・押平尾無遺跡における出土炭化材の樹種

ﾊﾟﾘﾉｻｰｳﾞｪｲ　3－187

第6節　竪穴住居床面にみられる斜坑状のピットについて　森本倫弘　3－192

第7節　弥生時代遺構出土桃核についての一考察　小林桃子　3－195

第8節　古墳時代中期から後期の土器について　岡野雅則　3－198

第7章　まとめ

図版

挿図目次

第１章　茶畑遺跡群の概要

図１　周辺の遺跡分布図 …… １－２
図２　茶畑遺跡群調査地配置図 …… １－３

第２章　茶畑第１遺跡の調査

図１　遺跡位置図 …… １－９
図２　遺跡周辺地形図 …… １－９
図３　調査地基本層序図 …… １－10
図４　調査地土層断面図（１） …… １－10
図５　調査地土層断面図（２） …… １－11
図６　調査前地形測量図 …… １－12
図７　全体遺構配置図 …… １－13
図８　弥生時代中期遺構位置図 …… １－15
図９　竪穴住居１ …… １－16
図10　竪穴住居１出土遺物 …… １－17
図11　竪穴住居２・３ …… １－18
図12　竪穴住居２出土遺物 …… １－19
図13　竪穴住居３出土遺物 …… １－19
図14　竪穴住居４ …… １－20
図15　竪穴住居４出土遺物 …… １－21
図16　竪穴住居５ …… １－21
図17　竪穴住居５出土遺物 …… １－22
図18　竪穴住居６ …… １－23
図19　竪穴住居６出土遺物 …… １－24
図20　竪穴住居７ …… １－25
図21　竪穴住居７出土遺物 …… １－25
図22　竪穴住居８（１） …… １－26
図23　竪穴住居８（２） …… １－27
図24　竪穴住居８出土遺物（１） …… １－28
図25　竪穴住居８出土遺物（２） …… １－29
図26　竪穴住居９ …… １－31
図27　竪穴住居９出土遺物 …… １－31
図28　竪穴住居10 …… １－32
図29　竪穴住居10出土遺物 …… １－32
図30　竪穴住居11（１） …… １－34
図31　竪穴住居11（２） …… １－35
図32　竪穴住居11出土遺物 …… １－35
図33　竪穴住居12（１） …… １－36
図34　竪穴住居12（２） …… １－37
図35　竪穴住居12出土遺物 …… １－38
図36　掘立柱建物１ …… １－39
図37　掘立柱建物１出土遺物 …… １－40
図38　掘立柱建物２ …… １－42
図39　掘立柱建物２出土遺物 …… １－42
図40　掘立柱建物３ …… １－43
図41　掘立柱建物３出土遺物 …… １－43
図42　掘立柱建物４ …… １－43
図43　掘立柱建物４出土遺物 …… １－43
図44　掘立柱建物５ …… １－44
図45　掘立柱建物５出土遺物 …… １－44
図46　掘立柱建物６ …… １－45
図47　掘立柱建物６出土遺物 …… １－45
図48　土坑１ …… １－46
図49　土坑１出土遺物 …… １－46
図50　土坑２ …… １－46
図51　土坑２出土遺物 …… １－46
図52　土坑３ …… １－47
図53　土坑３出土遺物 …… １－47
図54　土坑４ …… １－47
図55　土坑４出土遺物 …… １－47
図56　土坑５ …… １－48
図57　土坑５出土遺物 …… １－48
図58　土坑６ …… １－48
図59　土坑６出土遺物 …… １－48
図60　土坑７ …… １－49
図61　土坑７出土遺物 …… １－49
図62　土坑８ …… １－50
図63　土坑８出土遺物 …… １－51
図64　土坑９ …… １－52
図65　土坑９出土遺物 …… １－52
図66　土坑10 …… １－52
図67　土坑10出土遺物 …… １－52
図68　テラス１ …… １－53
図69　テラス１出土遺物 …… １－53
図70　弥生時代後期遺構位置図 …… １－54
図71　土坑11 …… １－54

図72　土坑11出土遺物 …… 1 －55
図73　弥生時代終末期から古墳時代前期遺構位置図 …… 1 －56
図74　竪穴住居13 …… 1 －57
図75　竪穴住居13出土遺物 …… 1 －57
図76　竪穴住居14 …… 1 －59～62
図77　竪穴住居14出土遺物（1） …… 1 －63
図78　竪穴住居14出土遺物（2） …… 1 －64
図79　竪穴住居15 …… 1 －65
図80　竪穴住居15出土遺物 …… 1 －66
図81　竪穴住居16（1） …… 1 －68
図82　竪穴住居16（2） …… 1 －69
図83　竪穴住居16出土遺物（1） …… 1 －70
図84　竪穴住居16出土遺物（2） …… 1 －71
図85　竪穴住居17（1） …… 1 －73
図86　竪穴住居17（2） …… 1 －74
図87　竪穴住居17出土遺物（1） …… 1 －75
図88　竪穴住居17出土遺物（2） …… 1 －76
図89　掘立柱建物 7 …… 1 －76
図90　掘立柱建物 7 出土遺物 …… 1 －76
図91　土坑12 …… 1 －77
図92　土坑13 …… 1 －77
図93　土坑12出土遺物 …… 1 －77
図94　土坑13出土遺物 …… 1 －77
図95　溝 1 …… 1 －79
図96　溝 1 出土遺物 …… 1 －79
図97　茶畑14・15・16号墳 …… 1 －81～84
図98　茶畑14・15・16号墳出土遺物 …… 1 －85
図99　古墳時代中期から後期の遺構位置図 …… 1 －86
図100　竪穴住居18（1） …… 1 －87
図101　竪穴住居18（2） …… 1 －88
図102　竪穴住居18出土遺物（1） …… 1 －89
図103　竪穴住居18出土遺物（2） …… 1 －90
図104　掘立柱建物 8 …… 1 －91
図105　掘立柱建物 8 出土遺物 …… 1 －91
図106　土坑14 …… 1 －91
図107　土坑14出土遺物 …… 1 －91
図108　その他の時期の遺構位置図 …… 1 －92
図109　土坑15 …… 1 －93
図110　土坑15出土遺物 …… 1 －93
図111　土坑16 …… 1 －93
図112　土坑16出土遺物 …… 1 －93
図113　土坑17 …… 1 －94
図114　土坑17出土遺物 …… 1 －94
図115　土坑18 …… 1 －94
図116　土坑18出土遺物 …… 1 －94
図117　土坑19 …… 1 －95
図118　土坑19出土遺物 …… 1 －95
図119　土坑20 …… 1 －95
図120　土坑20出土遺物 …… 1 －95
図121　土坑21 …… 1 －96
図122　土坑21出土遺物 …… 1 －96
図123　土坑22 …… 1 －96
図124　土坑22出土遺物 …… 1 －96
図125　土坑23 …… 1 －97
図126　土坑23出土遺物 …… 1 －97
図127　土坑24 …… 1 －98
図128　土坑24出土遺物 …… 1 －98
図129　土坑25 …… 1 －98
図130　土坑25出土遺物 …… 1 －98
図131　掘立柱建物 9 …… 1 －99
図132　掘立柱建物 9 出土遺物 …… 1 －99
図133　時期不明な遺構位置図 …… 1 －100
図134　竪穴住居19 …… 1 －101
図135　竪穴住居19出土遺物 …… 1 －102
図136　竪穴住居20 …… 1 －102
図137　竪穴住居20出土遺物 …… 1 －102
図138　竪穴住居21 …… 1 －102
図139　竪穴住居21出土遺物 …… 1 －102
図140　竪穴住居22 …… 1 －102
図141　掘立柱建物10（1） …… 1 －104
図142　掘立柱建物10（2） …… 1 －105
図143　掘立柱建物10（3） …… 1 －107
図144　掘立柱建物10出土遺物 …… 1 －108
図145　掘立柱建物10変遷図 …… 1 －108
図146　掘立柱建物11 …… 1 －111～114
図147　掘立柱建物11出土遺物 …… 1 －111～114
図148　掘立柱建物12（1） …… 1 －116
図149　掘立柱建物12（2） …… 1 －117
図150　掘立柱建物12出土遺物 …… 1 －118
図151　掘立柱建物13 …… 1 －119

図152 掘立柱建物14 …… 1 －119
図153 掘立柱建物14出土遺物 …… 1 －119
図154 掘立柱建物15 …… 1 －120
図155 掘立柱建物16 …… 1 －120
図156 掘立柱建物16出土遺物 …… 1 －120
図157 掘立柱建物17 …… 1 －120
図158 掘立柱建物18 …… 1 －121
図159 掘立柱建物19 …… 1 －122
図160 掘立柱建物20 …… 1 －122
図161 掘立柱建物20出土遺物 …… 1 －122
図162 掘立柱建物21 …… 1 －122
図163 掘立柱建物22 …… 1 －123
図164 掘立柱建物23 …… 1 －124
図165 掘立柱建物24 …… 1 －124
図166 掘立柱建物25 …… 1 －125
図167 掘立柱建物26 …… 1 －126
図168 掘立柱建物27 …… 1 －126
図169 掘立柱建物28 …… 1 －127
図170 掘立柱建物29 …… 1 －128
図171 掘立柱建物30 …… 1 －128
図172 掘立柱建物31 …… 1 －128
図173 掘立柱建物32 …… 1 －129
図174 掘立柱建物33 …… 1 －130
図175 掘立柱建物34 …… 1 －130
図176 掘立柱建物35 …… 1 －131
図177 掘立柱建物36 …… 1 －131
図178 土坑26 …… 1 －132
図179 土坑26出土遺物 …… 1 －132
図180 土坑27 …… 1 －132
図181 土坑28～31 …… 1 －132
図182 土坑32～35 …… 1 －133
図183 土坑36～39 …… 1 －134
図184 土坑40～43 …… 1 －135
図185 土坑44～47 …… 1 －136
図186 土坑48～52 …… 1 －137
図187 土坑53～56 …… 1 －138
図188 土坑57～61 …… 1 －139
図189 土坑62～66 …… 1 －140
図190 土坑67～72 …… 1 －141
図191 土坑73～78 …… 1 －142
図192 土坑79～84 …… 1 －143
図193 土坑85～89 …… 1 －144
図194 土坑90～95 …… 1 －145
図195 土坑96～102 …… 1 －146
図196 土坑103～108 …… 1 －147
図197 土坑109～114 …… 1 －148
図198 土坑115～119 …… 1 －149
図199 テラス２・３ …… 1 －151
図200 テラス２・３出土遺物 …… 1 －151
図201 溝２ …… 1 －152
図202 溝２出土遺物 …… 1 －152
図203 溝３ …… 1 －152
図204 溝４ …… 1 －152
図205 溝５ …… 1 －153
図206 溝５出土遺物 …… 1 －154
図207 溝６出土遺物 …… 1 －154
図208 溝６ …… 1 －155
図209 ピット内出土遺物 …… 1 －156
図210 ピット位置図（１）…… 1 －157
図211 ピット位置図（２）…… 1 －158
図212 ピット位置図（３）…… 1 －159
図213 遺構外出土遺物（１）…… 1 －165
図214 遺構外出土遺物（２）…… 1 －166
図215 遺構外出土遺物（３）…… 1 －167
図216 遺構外出土遺物（４）…… 1 －168
図217 遺構外出土遺物（５）…… 1 －169
図218 遺構外出土遺物（６）…… 1 －170

新旧遺構対照表

報告時遺構名	調査時遺構名
竪穴住居１	ＳＩ－１２
竪穴住居２	ＳＩ－１４
竪穴住居３	ＳＩ－２０
竪穴住居４	ＳＩ－２３
竪穴住居５	ＳＩ－１６
竪穴住居６	ＳＩ－９
竪穴住居７	ＳＩ－１７
竪穴住居８	ＳＩ－２
竪穴住居９	ＳＩ－３
竪穴住居１０	ＳＩ－１５
竪穴住居１１	ＳＩ－１
竪穴住居１２	ＳＩ－２４
竪穴住居１３	ＳＩ－４
竪穴住居１４	ＳＩ－５
竪穴住居１５	ＳＩ－８
竪穴住居１６	ＳＩ－６
竪穴住居１７	ＳＩ－１０
竪穴住居１８	ＳＩ－７
竪穴住居１９	ＳＩ－１１
竪穴住居２０	ＳＩ－１９
竪穴住居２１	ＳＩ－２２
竪穴住居２２	ＳＩ－２１
掘立柱建物１	ＳＢ－１４
掘立柱建物２	ＳＢ－４
掘立柱建物３	ＳＢ－５
掘立柱建物４	ＳＢ－９
掘立柱建物５	ＳＢ－４２
掘立柱建物６	ＳＢ－１８
掘立柱建物７	ＳＢ－６
掘立柱建物８	ＳＢ－１５
掘立柱建物９	ＳＢ－８
掘立柱建物１０	ＳＢ－２
掘立柱建物１１	ＳＢ－１
掘立柱建物１２	ＳＢ－３
掘立柱建物１３	ＳＢ－１３
掘立柱建物１４	ＳＢ－１１
掘立柱建物１５	ＳＢ－１０
掘立柱建物１６	ＳＢ－１２
掘立柱建物１７	ＳＢ－３２
掘立柱建物１８	ＳＢ－１６
掘立柱建物１９	ＳＢ－２５
掘立柱建物２０	ＳＢ－３０
掘立柱建物２１	ＳＢ－２０
掘立柱建物２２	ＳＢ－２１
掘立柱建物２３	ＳＢ－３１
掘立柱建物２４	ＳＢ－２８
掘立柱建物２５	ＳＢ－３７
掘立柱建物２６	ＳＢ－３４
掘立柱建物２７	ＳＢ－４１
掘立柱建物２８	ＳＢ－１７
掘立柱建物２９	ＳＢ－２２
掘立柱建物３０	ＳＢ－１９
掘立柱建物３１	ＳＢ－７
掘立柱建物３２	ＳＢ－３６
掘立柱建物３３	ＳＢ－３３
掘立柱建物３４	ＳＢ－２３
掘立柱建物３５	ＳＢ－３８
掘立柱建物３６	ＳＢ－４０
土坑１	ＳＫ－４
土坑２	ＳＫ－１４
土坑３	ＳＫ－３６
土坑４	ＳＫ－３７

報告時遺構名	調査時遺構名
土坑５	ＳＫ－２４
土坑６	ＳＫ－２６
土坑７	ＳＫ－４２
土坑８	ＳＫ－１２３
土坑９	ＳＫ－９２
土坑１０	ＳＫ－１４１
土坑１１	ＳＫ－３
土坑１２	ＳＫ－２
土坑１３	ＳＫ－１０９
土坑１４	ＳＫ－４３
土坑１５	ＳＫ－１６
土坑１６	ＳＫ－１３６
土坑１７	ＳＫ－８０
土坑１８	ＳＫ－４１
土坑１９	ＳＫ－５７
土坑２０	ＳＫ－１１９
土坑２１	ＳＫ－１１２
土坑２２	ＳＫ－１１７
土坑２３	ＳＫ－７０
土坑２４	ＳＫ－９０
土坑２５	ＳＫ－１３
土坑２６	ＳＫ－３４
土坑２７	ＳＫ－１３１
土坑２８	ＳＫ－１２７
土坑２９	ＳＫ－３３
土坑３０	ＳＫ－１３０
土坑３１	ＳＫ－８
土坑３２	ＳＫ－４５
土坑３３	ＳＫ－１２
土坑３４	ＳＫ－２２
土坑３５	ＳＫ－６
土坑３６	ＳＫ－２５
土坑３７	ＳＫ－１５
土坑３８	ＳＫ－９７
土坑３９	ＳＫ－４０
土坑４０	ＳＫ－７
土坑４１	ＳＫ－１３９
土坑４２	ＳＫ－５０
土坑４３	ＳＫ－５１
土坑４４	ＳＫ－８６
土坑４５	ＳＫ－１３４
土坑４６	ＳＫ－１３５
土坑４７	ＳＫ－６７
土坑４８	ＳＫ－１２０
土坑４９	ＳＫ－１２９
土坑５０	ＳＫ－１２４
土坑５１	ＳＫ－４８
土坑５２	ＳＫ－１２５
土坑５３	ＳＫ－１２６
土坑５４	ＳＫ－１０７
土坑５５	ＳＫ－８９
土坑５６	ＳＫ－８７
土坑５７	ＳＫ－８８
土坑５８	ＳＫ－６０
土坑５９	ＳＫ－６１
土坑６０	ＳＫ－６２
土坑６１	ＳＫ－６３
土坑６２	ＳＫ－６５
土坑６３	ＳＫ－６９
土坑６４	ＳＫ－７１
土坑６５	ＳＫ－７３
土坑６６	ＳＫ－８１

報告時遺構名	調査時遺構名
土坑６７	ＳＫ－１０２
土坑６８	ＳＫ－１２８
土坑６９	ＳＫ－１０３
土坑７０	ＳＫ－１０４
土坑７１	ＳＫ－１１４
土坑７２	ＳＫ－１１６
土坑７３	ＳＫ－１１３
土坑７４	ＳＫ－８２
土坑７５	ＳＫ－１１１
土坑７６	ＳＫ－１２１
土坑７７	ＳＫ－１３３
土坑７８	ＳＫ－１３７
土坑７９	ＳＫ－１３８
土坑８０	ＳＫ－４４
土坑８１	ＳＫ－１０８
土坑８２	ＳＫ－８４
土坑８３	ＳＫ－１４２
土坑８４	ＳＫ－１１５
土坑８５	ＳＫ－５４
土坑８６	ＳＫ－６６
土坑８７	ＳＫ－１１０
土坑８８	ＳＫ－９８
土坑８９	ＳＫ－１４３
土坑９０	ＳＫ－６４
土坑９１	ＳＫ－７７
土坑９２	ＳＫ－１７
土坑９３	ＳＫ－１０
土坑９４	ＳＫ－１８
土坑９５	ＳＫ－２３
土坑９６	ＳＫ－３８
土坑９７	ＳＫ－５２
土坑９８	ＳＫ－７４
土坑９９	ＳＫ－１０６
土坑１００	ＳＫ－１１
土坑１０１	ＳＫ－２８
土坑１０２	ＳＫ－３１
土坑１０３	ＳＫ－４６
土坑１０４	ＳＫ－９５
土坑１０５	ＳＫ－２９
土坑１０６	ＳＫ－１３２
土坑１０７	ＳＫ－５８
土坑１０８	ＳＫ－５
土坑１０９	ＳＫ－２０
土坑１１０	ＳＫ－７９
土坑１１１	ＳＫ－３９
土坑１１２	ＳＫ－６８
土坑１１３	ＳＫ－５６
土坑１１４	ＳＫ－４９
土坑１１５	ＳＫ－８５
土坑１１６	ＳＫ－１１８
土坑１１７	ＳＫ－１４４
土坑１１８	ＳＫ－７２
土坑１１９	ＳＫ－１０５
溝１	ＳＤ－８
溝２	ＳＤ－１９
溝３	ＳＤ－２
溝４	ＳＤ－１８
溝５	ＳＤ－１
溝６	ＳＤ－１０
テラス１	ＳＳ－２
テラス２・３	ＳＳ－４・５

第１章　茶畑遺跡群の概要

第１節　茶畑遺跡群の位置と環境

１．位置

茶畑遺跡群（１）は、大山北麓のなだらかな台地上と、それを開析する谷部に展開している。蛇の川を挟み、南北に細長い範囲に広がっており、蛇の川西岸の茶畑山道遺跡・茶畑六反田遺跡・東高田遺跡、東岸の原古墳群・茶畑第１遺跡・茶畑古墳群・押平尾無遺跡・古御堂笹尾山遺跡・古御堂新林遺跡・茶畑第２遺跡から構成される。現在の行政区画では鳥取県西伯郡名和町、旧国郡では伯耆国汗入郡に属する。

1979年の茶畑第２遺跡の調査を皮切りに、1998年の茶畑山道遺跡、2002年から開始された茶畑六反田遺跡・茶畑第１遺跡・押平尾無遺跡・古御堂笹尾山遺跡・古御堂新林遺跡の調査により、各遺跡において弥生時代中期から古墳時代後期を中心とする集落遺跡の存在が確認された。茶畑山道遺跡では弥生時代中期、茶畑第１遺跡では弥生時代終末期から古墳時代前期と考えられる大型掘立柱建物が検出された。同時期の集落遺跡が隣接する台地や、同一の尾根筋に集中することから、これら大型掘立柱建物を中核とする集落を想定し、茶畑遺跡群を設定した。（湯川）

２．地理的環境

名和町茶畑遺跡群は大山北麓のなだらかな台地上に展開している。台地はこれを開削する小河川（西より阿弥陀川、蛇の川、名和川およびそれらの支流）によって画されている。本遺跡群付近の地形を詳細にみると、阿弥陀川およびその東西両岸の台地と（ア）、その東にある蛇の川以東（イ）では地形が若干異なっている。

（ア）阿弥陀川は顕著な支流に乏しく、川筋は直線的である。河岸の台地平坦面は広く、北西に向かう単調な緩傾斜となっている。この地形的特徴より、（ア）の地形は「阿弥陀川扇状地」とされてきた。茶畑遺跡群西半はこのいわゆる「扇状地」東縁に位置する。

（イ）蛇の川以東はその様相が異なり、支流を含めた水系は樹枝状に発達している。従って各遺跡の乗る台地平坦面は、（ア）に比較して狭小である。

（ア）・（イ）ともに地形発達的には幼年地形と言えるだろうが、（イ）の方がより開削が進んでいる。茶畑第１遺跡をはじめその他阿弥陀川以東の遺跡は（イ）の台地上に分布する。この地形の違いは地質（大山噴出物）に起因すると考えられる。（ア）・（イ）の地質層序を概略すると下表のようになる。

（ア）阿弥陀川流域（茶畑六反田遺跡）	（イ）蛇の川以東（茶畑第１遺跡・その他）
黒褐色土（下部に拳～人頭大安山岩亜円礫） （ＡＴ火山灰層を欠く） 清原火砕流（弥山熱雲）*か：２０±４Ｋａ	ローム層 ＡＴ火山灰層：２５Ｋａ 名和火砕流：９０－１００Ｋａ

＊岡田昭明 2002「名和町茶畑の火砕流堆積物」『茶畑六反田遺跡・押平弘法堂遺跡』
（財）鳥取県教育文化財団 pp303-304

上の表より地形の違いについて、次のような点が指摘できるだろう。

名和火砕流の流下およびＡＴ火山灰の降灰の後（両層とも谷地形で切られている）、小河川による開削が始まる。その後（イ）の地域では縄文海進による海水面上昇時をのぞき、開削は現在まで引き続いた。（ア）の地域には清原火砕流が流下したため、起伏は一旦埋設された。そのため（イ）の地区にみられるような樹枝状の水系は覆い隠されて、地形は平坦化された。茶畑六反田遺跡の最終遺構面に遺された安山岩礫は、阿弥陀川が押し流してきたものであろう。（浜田）

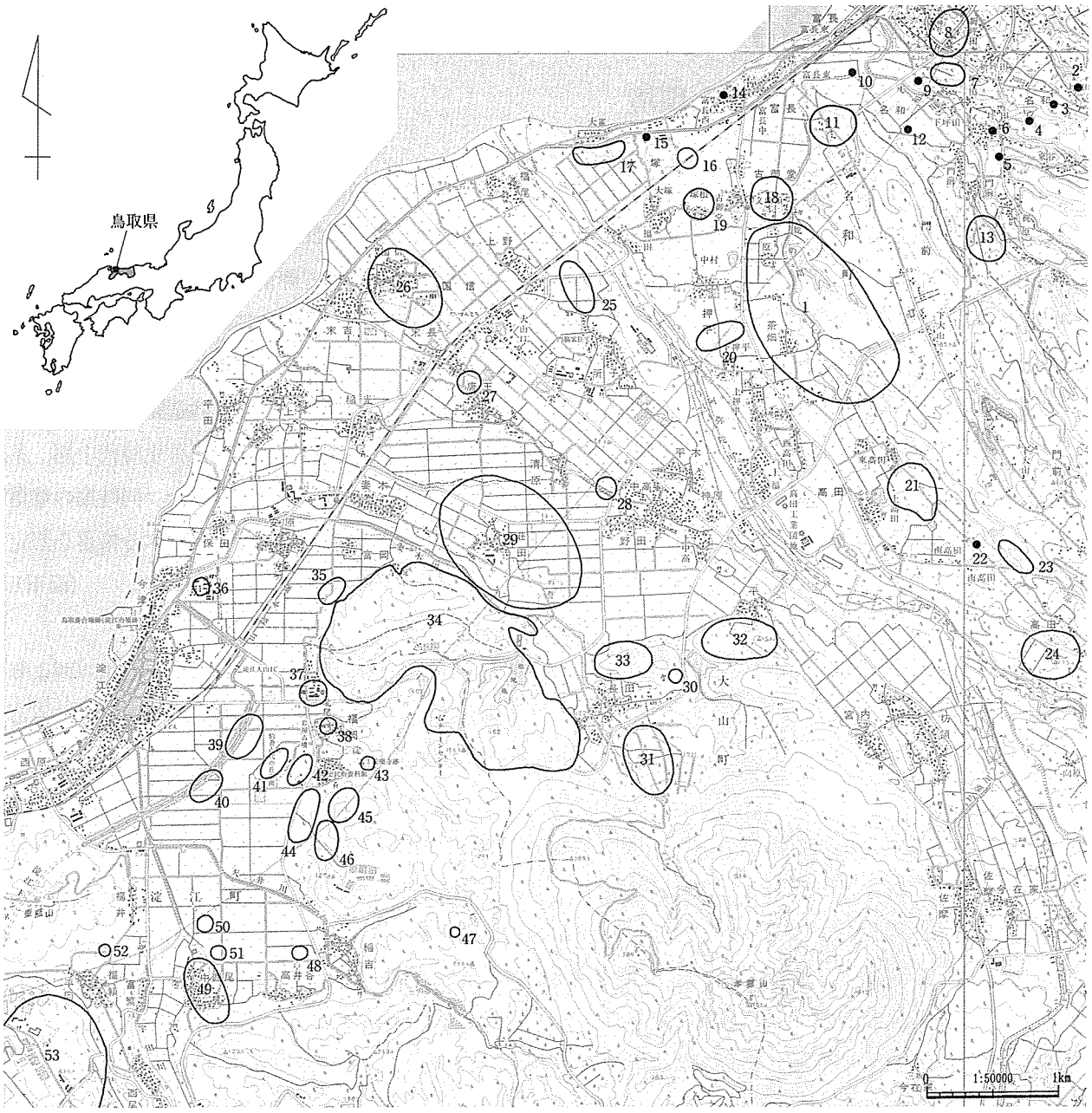


図１　周辺の遺跡分布図

表１　周辺遺跡一覧表

No.	遺　跡　名		No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名
1	茶畑遺跡群		8	長者原遺跡	24	高田第10遺跡	39	福岡遺跡
	A	茶畑第１遺跡	9	ハンボ塚古墳	25	上野遺跡群	40	井手胯遺跡
	B	押平尾無遺跡	10	南川遺跡	26	国信遺跡	41	瓶山古墳群
	C	古御堂笹尾山遺跡	11	富長山村古墳群	27	唐王遺跡	42	向山古墳群
	D	古御堂新林遺跡	12	門前礎石群	28	清原遺跡	43	上淀廃寺
	E	茶畑第２遺跡	13	門前古墳群	29	荘田遺跡群	44	彼岸田遺跡
	F	東高田遺跡	14	富長城跡	30	徳楽方墳	45	小枝山古墳群
	G	茶畑古墳群	15	大塚岩田遺跡	31	源平山古墳群	46	城山古墳群
	H	茶畑六反田遺跡	16	大塚塚根遺跡	32	平古墳群	47	四十九谷横穴墓群
	I	茶畑山道遺跡	17	大塚遺跡	33	長田古墳群	48	稲吉角田遺跡
2	名和小谷遺跡		18	文珠領屋敷遺跡	34	妻木晩田遺跡	49	中西尾古墳群
3	名和衣装谷遺跡		19	古御堂遺跡	35	富岡播磨洞遺跡	50	鮒ヶ口遺跡
4	名和乙ヶ谷遺跡		20	押平弘法堂遺跡	36	今津岸ノ上遺跡	51	河原田遺跡
5	名和飛田遺跡		21	高田古墳群	37	晩田遺跡	52	福頼遺跡
6	名和公館跡伝承地		22	高田原遺跡・高田原廃寺	38	下埜利遺跡・宮廻遺跡	53	百塚遺跡
7	坪田遺跡・坪田古墳群		23	高田第10遺跡				

３．歴史的環境

旧石器・縄文時代

遺跡群内最古の遺物は、押平尾無遺跡で出土した角錐状石器であり、後期旧石器後半に属する。この時期の詳細は不明であるが、名和小谷遺跡（２）で国府型のナイフ形石器が出土しており、今後の資料の増加が期待される。これ以降は、茶畑六反田遺跡において縄文時代前期の遺構・遺物が確認されているのをはじめ、落し穴と考える遺構が多くの遺跡で検出されている。遺物も少ないながら、早期～晩期の土器が出土している。

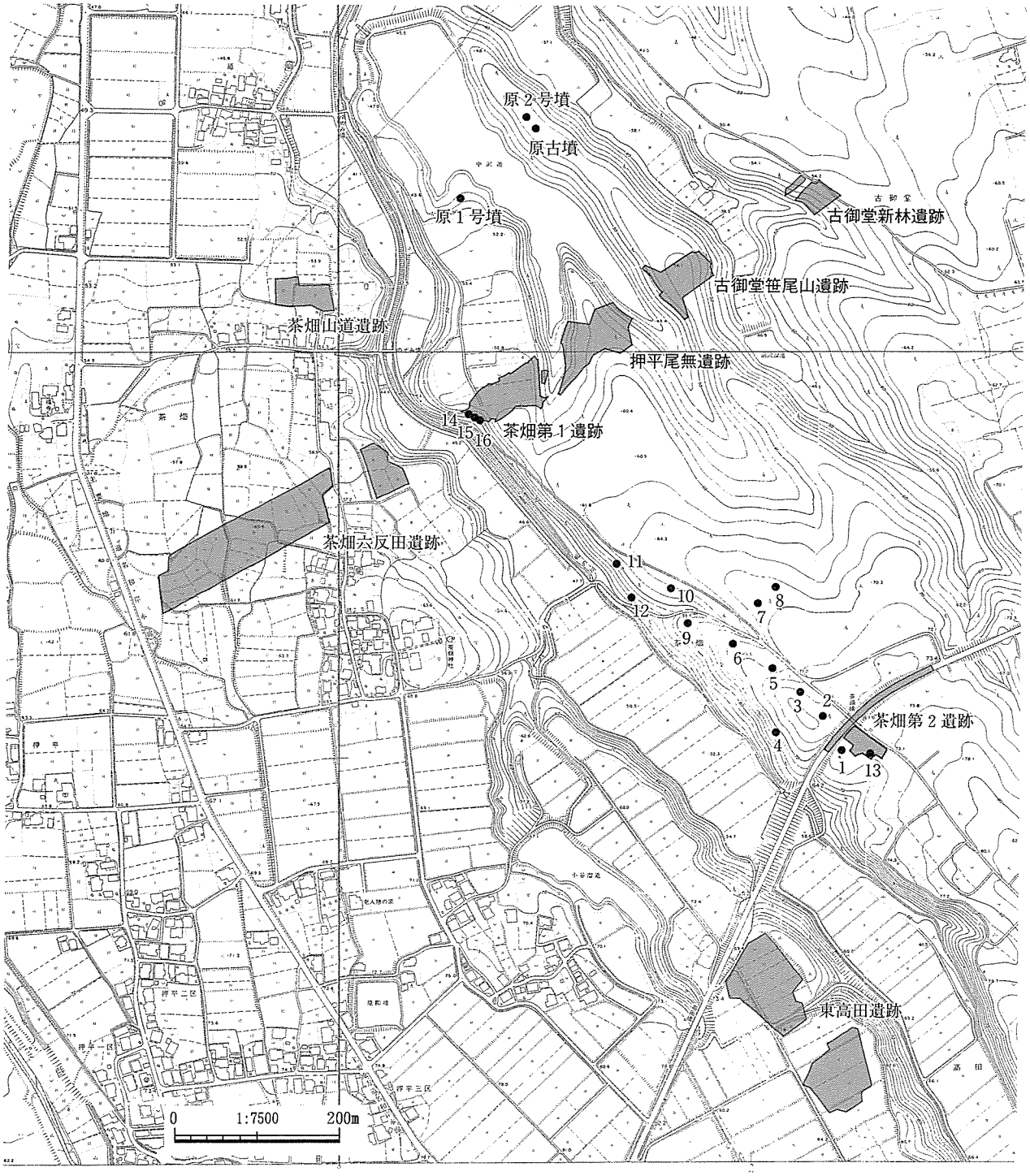


図２　茶畑遺跡群調査地配置図（数字は茶畑古墳群の番号）

弥生時代

弥生時代前期の遺構遺物は、本遺跡群で検出していない。環濠の可能性のある溝状遺構を検出した大塚岩田遺跡（15）をはじめ、井手胯遺跡（40）、福岡遺跡（39）、荘田遺跡群の妻木法大神遺跡（29）などで当該期の遺構・遺物が確認されている。

続く弥生時代中期では、中葉から後葉にかけて、前述の茶畑山道遺跡で検出された、独立棟持柱を持つ大型掘立柱建物をはじめ、茶畑遺跡群内の多くの遺跡で、竪穴住居や掘立柱建物が多く検出されている。集落としての利用が、この時期から開始されたと推定される遺跡も多い。淀江平野周辺でも、絵画土器が出土した稲吉角田遺跡（48）や、妻木晩田遺跡（34）などで当該期の遺構・遺物が確認されている。

後期に入ると茶畑遺跡群内では、前葉から中葉に遺構数が激減する。後葉に入ると茶畑第２遺跡・東高田遺跡・古御堂笹尾山遺跡・古御堂新林遺跡において、複数の竪穴住居などの遺構を検出している。妻木晩田遺跡では、環濠や四隅突出型墳丘墓の造成と、それに続く集落規模の拡大があり、日本最大級の弥生集落遺跡の体をなす。また明確な時期決定はできないものの、原古墳で試掘調査の結果出土した土器は弥生時代後期のものが最新であり、弥生時代の墳丘墓である可能性がある。

終末期から古墳時代前期前葉にかけては、茶畑遺跡群内では、前述の茶畑第１遺跡で検出された大型掘立柱建物をはじめ、ほとんどの遺跡で竪穴住居などの遺構数が増加する。妻木晩田遺跡では、継続的に集落が営まれるものの、その規模は縮小してゆく。

古墳時代

茶畑遺跡群では、前期中葉から後葉にかけて再び遺構数が激減する。茶畑第１遺跡では、台地縁辺部に沿い、３基の方墳が検出されている。妻木晩田遺跡においても、前期後半になると遺構数が激減し、これ以降晩田山古墳群の築造が始まる。

中期に入ると、茶畑六反田遺跡・押平尾無遺跡・古御堂笹尾山遺跡で、竪穴住居をはじめとする遺構が検出される。周辺においては、集落の様相に不明確な部分が多い。特異な形象埴輪が出土したハンボ塚古墳（９）などの古墳の存在が知られている。

後期では、茶畑古墳群の造成が進み、古御堂笹尾山遺跡で焼失住居を含む竪穴住居など、多くの遺構が検出されている。周辺では高田古墳群（21）、門前古墳群（13）、坪田古墳群（７）、富長山村古墳群（11）など群集墳が営まれる。淀江平野周辺では、本州唯一の石馬が出土した石馬谷古墳（45）や、向山古墳群（42）が築造される。また、百塚遺跡（53）では、竪穴住居など多くの遺構が検出されている。

古代以降

奈良時代に入ると、茶畑遺跡群内において検出された遺構は少なく、茶畑第１遺跡の掘立柱建物など極少数である。特異な伽藍配置と彩色壁画の出土で注目される上淀廃寺（43）や、上淀廃寺と同じ系統の瓦が出土した高田原廃寺（22）、汗入郡正倉と考えられる長者原遺跡（８）などが注目される。

平安時代では、阿弥陀川扇状地の開発が進み、この地にも条里制が施行される。茶畑六反田遺跡では、条里プランの痕跡が検出され、墨書土器や緑釉陶器なども出土している。

中世では、茶畑六反田遺跡と押平弘法堂遺跡（20）で集落が確認されている。周辺には、富長城跡（14）などの城や、門前礎石群（12）で検出された礎石建物が存在する。

近世では、茶畑六反田遺跡で掘立柱建物が検出されている。茶畑遺跡群の蛇の川東岸では、少量の遺物とともに、炭焼窯と考えられる土坑が検出されており、集落も近いことから、里山・村山として利用されていたと考えられる。

（湯川）

第２節　調査の経緯

本報告書に掲載した４遺跡は、一般国道９号の改築工事に伴って調査された遺跡であり、鳥取県西伯郡名和町押平から古御堂地内にかけての工事予定地上に位置している。

この道路改築工事に伴う発掘調査は既に平成12年度から始まっており、本報告書掲載の４遺跡以外にも大山町の妻木法大神遺跡(1)、安原溝尻遺跡、富岡播磨洞遺跡、名和町の茶畑六反田遺跡１～３区、押平弘法堂遺跡(2)、古御堂金蔵ヶ平遺跡、名和衣装谷遺跡(3)、名和乙ヶ谷遺跡(4)の調査が実施され、報告書が順次刊行されている。

茶畑第１遺跡以外の工事予定地は、周知の遺跡として登録が行われている所ではなかったが、分布調査の結果遺跡の存在が想定された。そのため、建設省中国地方建設局倉吉工事事務所より埋蔵文化財の確認調査についての依頼を受けた名和町教育委員会が、国及び県の補助金を受けて平成11年度に試掘調査を実施したところ、弥生時代から古墳時代を中心とする遺構・遺物が出土し、遺跡の存在が確認された。この結果を受け、鳥取県教育委員会事務局文化課と国土交通省倉吉工事事務所が協議を行ったが、遺跡の現状保存は困難との判断にいたり、倉吉工事事務所（現在は倉吉河川国道事務所、以下、平成14年度まで同じ）は文化財保護法第57条の３に基づく発掘通知を鳥取県教育委員会教育長に提出した。その上で、記録保存のための事前発掘調査の指示を受けた倉吉工事事務所は、発掘調査を財団法人鳥取県教育文化財団に委託した。平成14年度の調査は西部埋蔵文化財名和調査事務所が担当することになり、財団法人鳥取県教育文化財団理事長から鳥取県教育委員会教育長に文化財保護法57条に基づく発掘届を提出した。

翌平成15年度においても引き続き発掘調査が実施されることになり、国土交通省倉吉河川国道事務所長から鳥取県教育委員会に文化財保護法57条の３に基づく発掘通知が提出され、記録保存のための事前発掘調査の指示を受けた倉吉河川国道事務所は、発掘調査を財団法人鳥取県教育文化財団に委託し、組織変更した埋蔵文化財センター名和調査事務所が調査を実施した。　（西川）

註

(1)『妻木法大神遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団　2003

(2)『茶畑六反田遺跡・押平弘法堂遺跡・富岡播磨洞遺跡・安原溝尻遺跡』
財団法人鳥取県教育文化財団　2002

(3)『名和衣装谷遺跡・古御堂金蔵ヶ平遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団　2003

(4)『名和乙ヶ谷遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団　2003

第３節　調査の経過

本報告書に記載の遺跡は平成14年度及び平成15年度に調査を実施した遺跡である。平成14年度には茶畑第１遺跡及び古御堂笹尾山遺跡・押平尾無遺跡の３遺跡、平成15年度は押平尾無遺跡（前年度継続調査)、古御堂笹尾山遺跡、古御堂新林遺跡の３遺跡の調査を実施した。（西川）

茶畑第１遺跡

茶畑第１遺跡の調査は、平成14年４月22日～平成15年３月13日まで実施した。

調査地は台地上の平坦面と谷斜面部から構成される。谷斜面部には遺物包含層が存在した。平坦面は後世の削平を受けていたものの、弥生時代中期から古墳時代前期にかけてが主たる時期と考えられる竪穴住居や掘立柱建物など多くの遺構を検出、調査した。（西川）

押平尾無遺跡

押平尾無遺跡の調査は、平成14年10月22日～同11月28日、平成15年４月21日～同10月３日の期間に実施された。調査地は尾根上平坦面と平坦面を挟む東西の斜面部から構成される。平成14年度調査は土層確認用トレンチ掘り下げを実施して終了。平成15年度調査においては、斜面部に存在する遺物包含層出土遺物を設定したグリッドごとに取り上げた後にテラスなどの遺構を調査した。平坦面には、弥生時代中期から古墳時代中期にかけての竪穴住居や掘立柱建物など、多くの遺構が存在しており、それらを調査した。（西川）

古御堂笹尾山遺跡

古御堂笹尾山遺跡は、調査区の拡張等の原因により以下の３回にわけて調査した。平成14年10月１日～同15年３月13日、平成15年４月23日～同５月30日、平成15年７月１日～同７月31日である。調査は、調査区を縦断する数本のサブトレンチを設定し、これにより便宜的にＡ～Ｑまでのグリッドを設定し、包含層遺物の取り上げなどの基準とした。遺構面は２面確認した。第一遺構面(Ⅱ層上面)において古墳時代の集落跡、第二遺構面（Ⅲ層上面）において弥生時代の集落跡ほかの調査を行った。古墳時代中期後葉から後期後葉にかけての竪穴住居跡21棟、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡13棟のほか掘立柱建物跡、土坑などを調査した。（岡野）

古御堂新林遺跡

古御堂新林遺跡の調査は、５月26日に開始し８月29日に終了した。台地上の平坦面と南西側の斜面部からなる調査区のうち、平坦面の集落遺構を優先して調査し、次に斜面部の遺物包含層の調査をおこなった。包含層の調査は、斜面方向に直交し、かつ調査区を横断するトレンチを設定し、このトレンチを境に北西側からＡ～Ｅ区に区分した。遺物取り上げは地区ごと、層位ごとに一括して取り上げを行った。（岡野）

調査体制

平成14年度

○調査主体　**財団法人鳥取県教育文化財団**

理　事　長	有田　博充
常務理事	川口　一彦（兼・鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長	下田　弘人

埋蔵文化財センター

所　　長	田中　弘道（兼・鳥取県埋蔵文化財センター所長）
次　　長	竹内　　茂
次　　長	加藤　隆昭
調査研究課長（兼）	加藤　隆昭
企画調整班長	松田　　潔（８月異動・転出）
文化財主事	原田　雅弘
庶務課長（兼）	竹内　　茂
主任事務職員	矢部　美恵
事務職員	中島 いづみ
	大川　秋子

○調査担当　第２調査班　西部埋蔵文化財名和調査事務所

所　　長	西村　成徳
班　　長	八峠　　興
主任調査員	西川　　徹（茶畑第１遺跡担当）
	中森　　祥（押平尾無遺跡担当）
	岡野　雅則（古御堂笹尾山遺跡担当）
	森本　倫弘（古御堂笹尾山遺跡担当）
調　査　員	日置　　智（茶畑第１遺跡担当）
	藤原　　渉（茶畑第１遺跡担当、10月末退職）
	浅田　康行（押平尾無遺跡担当）
	小林　桃子（古御堂笹尾山遺跡担当）
調査補助員	中橋　智明（茶畑第１遺跡担当）
	山本　宗昭（押平尾無遺跡担当）
事務補助員	金田　かおる

○調査指導　鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力　名和町教育委員会

平成15年度

○調査主体　**財団法人鳥取県教育文化財団**

理　事　長	有田　博充
常務理事	川口　一彦（兼・鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長	下田　弘人

埋蔵文化財センター

所　　長	田中　弘道（兼・鳥取県埋蔵文化財センター所長）
次　　長	竹内　　茂
次　　長	加藤　隆昭
調査課長（兼）	加藤　隆昭
企画調整班長	山枡　雅美
文化財主事	下江　健太
庶務課長（兼）	竹内　　茂
主任事務職員	矢部　美恵
事務職員	田中　陽子　大川　秋子　植田　恵子（９月退職） 谷垣　真寿美　小谷　有里
事務補助員	山根　美代（11月採用）

○調査担当　埋蔵文化財センター名和調査事務所

所　　長	国田　俊雄
班　　長	西川　　徹（押平尾無遺跡担当）
文化財主事	岡野　雅則（古御堂笹尾山遺跡・古御堂新林遺跡担当）
	森本　倫弘（古御堂笹尾山遺跡・押平尾無遺跡担当）
	浜田　真人（押平尾無遺跡担当）
調　査　員	湯川　善一（押平尾無遺跡担当）
	三木　雅子（押平尾無遺跡担当）
調査補助員	遠藤　万須美（押平尾無遺跡担当）
	山本　宗昭（古御堂笹尾山遺跡・古御堂新林遺跡担当）
事務補助員	金田　かおる

○調査指導　鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力　名和町教育委員会

第２章　茶畑第１遺跡の調査

第１節　調査の概要

１．調査の経過と方法

発掘調査は、平成14年４月22日～平成15年３月13日まで実施した。調査面積は6,320㎡である。

調査地は台地上の平坦面と斜面部から構成される。当初は斜面部全域が調査予定地であったが、トレンチを設定し掘り下げを行ったところ、明確な遺構が無く、遺物の分布にも偏りが存在したため、企画調整班と協議の上で遺物が濃密に分布する箇所以外は調査地から除外することになった。平坦部には調査範囲際に土層確認用のトレンチを設定し掘り下げを行った。その結果、調査地の大部分を占める畑地部分は、削平のため古墳時代以降に堆積した土層がほとんど遺存しておらず、表土直下で古代及びそれ以前の遺構を検出した。

調査は平坦部と斜面部に並行して着手した。斜面部については遺物が多く出土したが遺構は存在しなかった。平坦部については、竪穴住居・土坑・溝・ピットなどが密に存在した。遺構掘り下げは検出面が乾燥しやすく硬化するために東側から着手することにした。ピットの掘り下げは、竪穴住居等の調査が終了したのちに再度東側から行う方針とした。調査地外とした斜面肩部に遺構が存在することが分かり、企画調整班と再度協議の上、改めて調査範囲に含めて調査を実施した。

調査の進捗に伴い、調査地の中央から北西側にかけて薄く遺存するⅠ層以下の調査を行ったが、基盤層と遺構埋土の識別は困難であった。土坑などと共に多数のピットが存在することが明らかとなっ

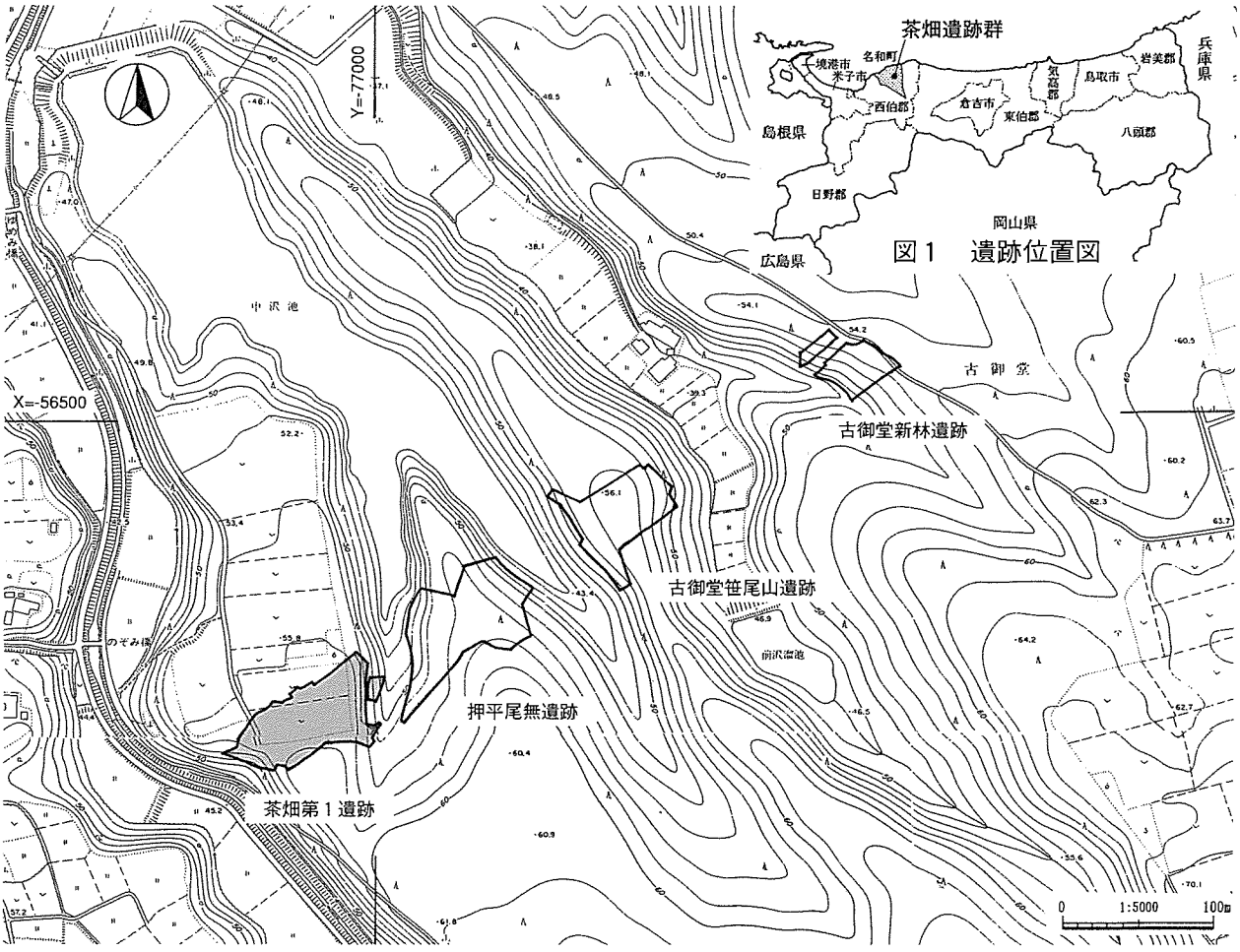
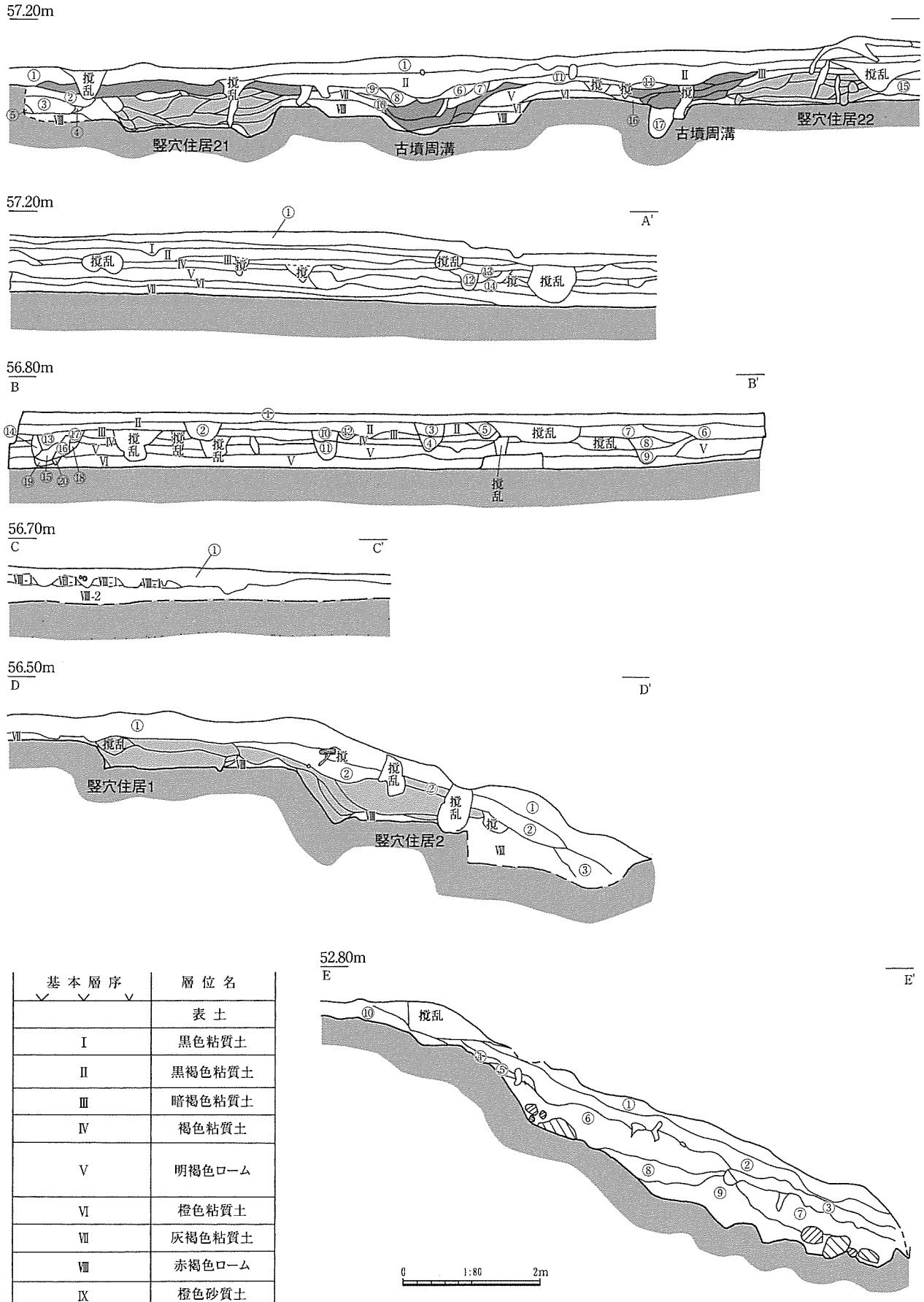


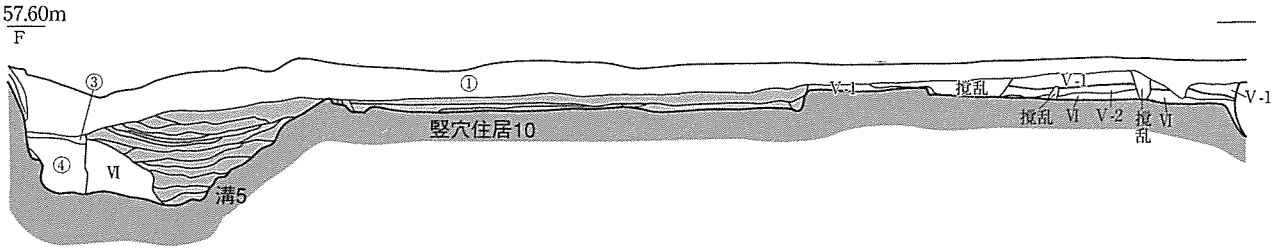
図２　遺跡周辺地形図

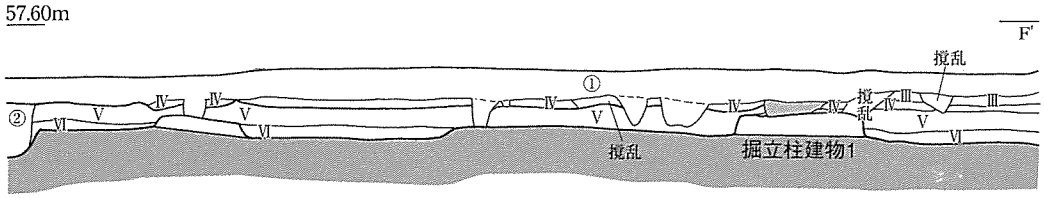


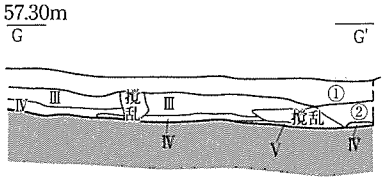
基本層序	層位名
	表土
Ⅰ	黒色粘質土
Ⅱ	黒褐色粘質土
Ⅲ	暗褐色粘質土
Ⅳ	褐色粘質土
Ⅴ	明褐色ローム
Ⅵ	橙色粘質土
Ⅶ	灰褐色粘質土
Ⅷ	赤褐色ローム
Ⅸ	橙色砂質土
Ⅹ	にぶい褐色粘質土

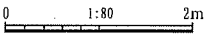
図３　調査地基本層序図

図４　調査地土層断面図（１）









A－A'
①表土
②褐色粘質土（しまり悪い）
③明褐色粘質土
④橙色粘質土
⑤にぶい褐色粘質土
⑥黒色粘質土（暗褐色土ブロック混）
⑦暗褐色粘質土
⑧極暗褐色粘質土
⑨黒褐色粘質土
⑩暗褐色粘質土
⑪黒褐色粘質土
⑫暗褐色粘質土
⑬褐色粘質土
⑭褐色粘質土（黒褐色土ブロック多量混）
⑮風化礫
⑯褐色粘質土
⑰褐色粘質土

B－B'
①表土
②黒褐色粘質土
③黒褐色粘質土（Ⅳ層土ブロック少量混）
④③層土とⅣ層土混在
⑤暗褐色粘質土
⑥暗褐色粘質土（褐色土ブロック多量混）
⑦褐色粘質土（Ⅴ層ブロック少量混）
⑧暗褐色粘質土（Ⅴ層土ブロック混）
⑨褐色粘質土（Ⅴ層土ブロック混）
⑩褐色粘質土（Ⅴ層土ブロック多量混）
⑪黒褐色粘質土
⑫暗褐色粘質土（Ⅳ層土ブロック混）
⑬極暗褐色粘質土
⑭暗褐色粘質土
⑮褐色粘質土（Ⅴ層土ブロック多量混）
⑯黒色褐色粘質土（Ⅴ層土ブロック多量混）
⑰黒褐色粘質土
⑱褐色粘質土
⑲Ⅵ層土ブロック
⑳黒褐色粘質土

C－C'
①表土
Ⅷ－１土壌化の進んだⅧ層土
Ⅷ－２土壌化の進んでいないⅧ層土

D－D'
①表土
②黒褐色粘質土（褐色土ブロック混）
③極暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）

E－E'
①表土
②黒褐色粘質土
③暗褐色粘質土
④黒褐色粘質土
⑤褐色粘質土
⑥褐色粘質土（粘性弱い）
⑦黒褐色粘質土
⑧暗褐色粘質土
⑨暗褐色粘質土（⑧層より黒い）
⑩明褐色粘質土

F－F'
①表土
②極暗褐色粘質土（柱穴）
③極暗褐色粘質土
④黒色粘質土

G－G'
①表土
②腐植土

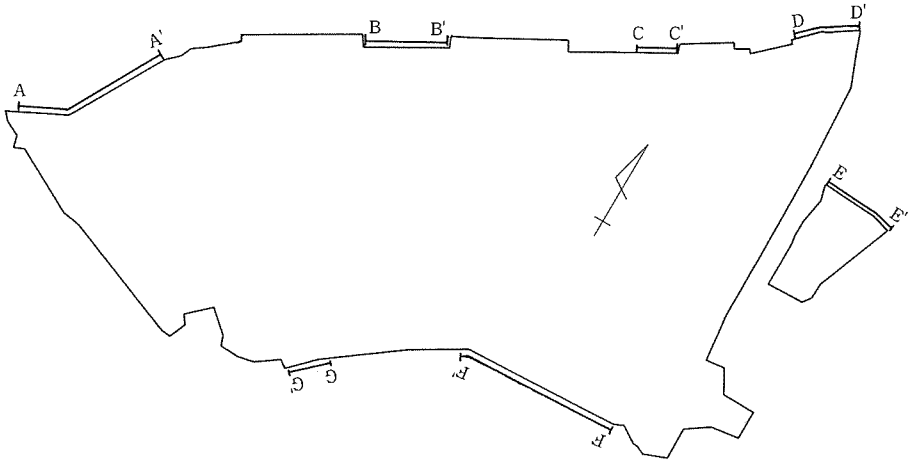


図５　調査地土層断面図（２）

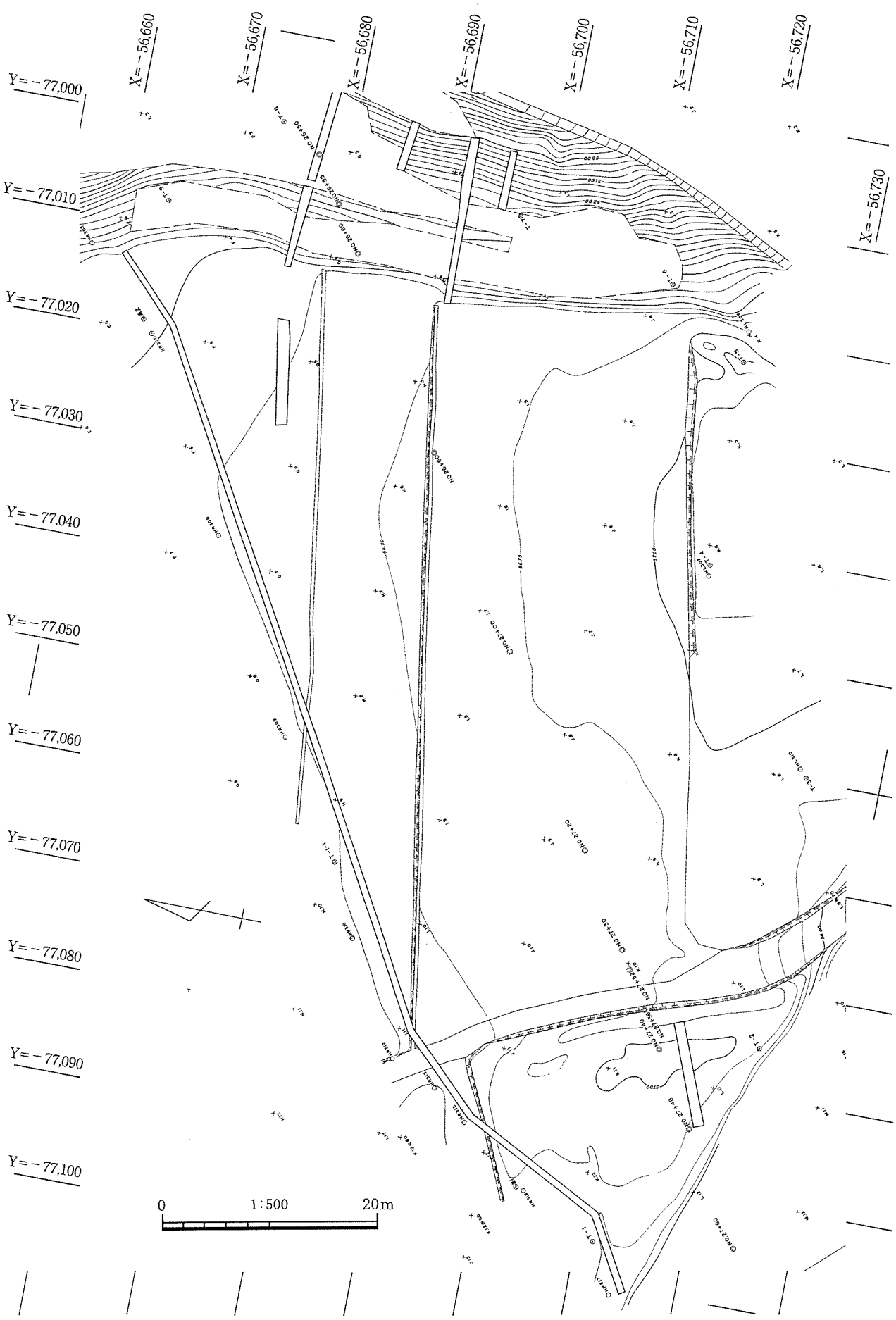

X=−56,660
X=−56,670
X=−56,680
X=−56,690
X=−56,700
X=−56,710
X=−56,720
X=−56,730
Y=−77,000
Y=−77,010
Y=−77,020
Y=−77,030
Y=−77,040
Y=−77,050
Y=−77,060
Y=−77,070
Y=−77,080
Y=−77,090
Y=−77,100
0
1:500
20m

図６　調査前地形測量図

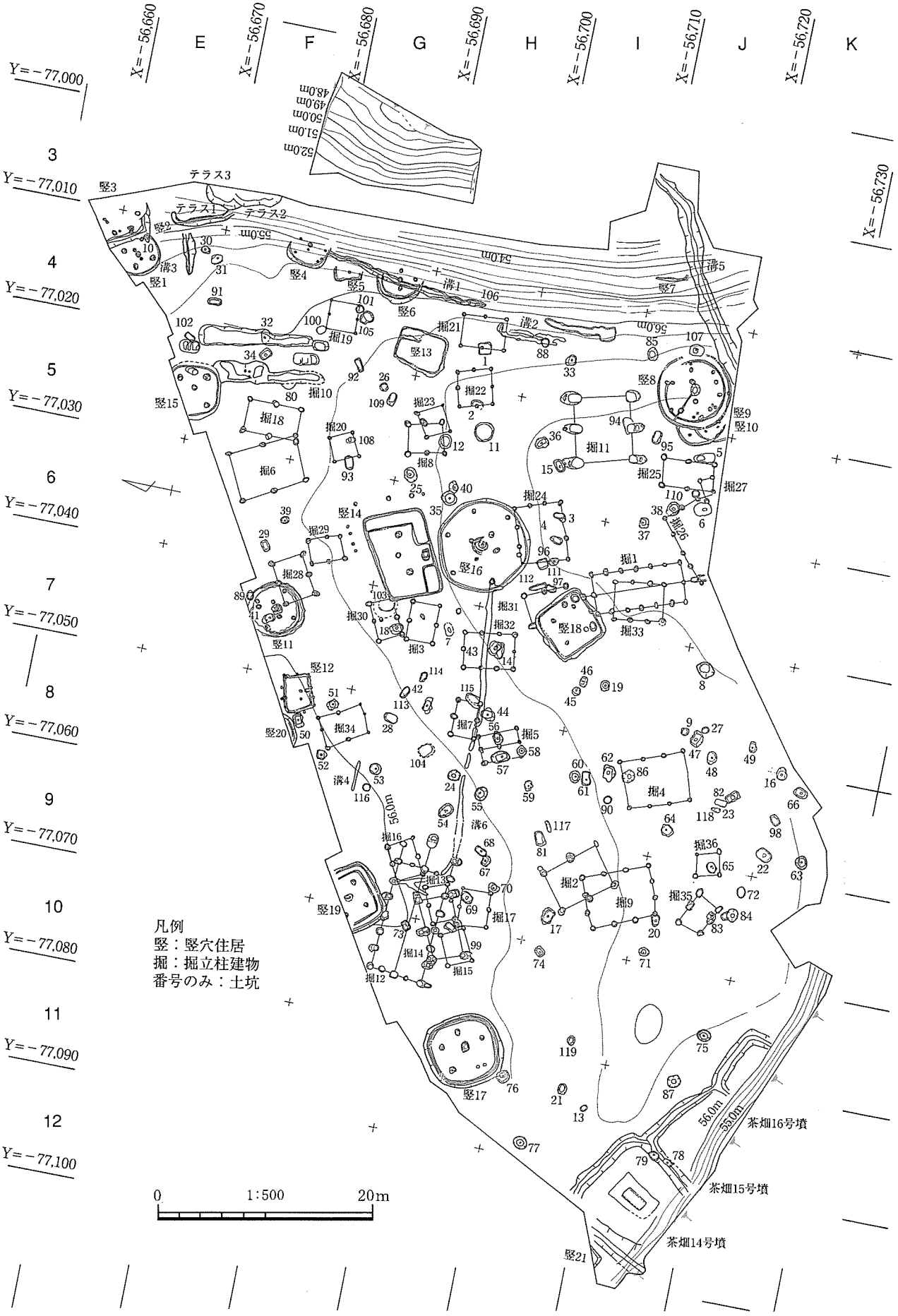

E
F
G
H
I
J
K
X=−56,660
X=−56,670
X=−56,680
X=−56,690
X=−56,700
X=−56,710
X=−56,720
X=−56,730
Y=−77,000
Y=−77,010
Y=−77,020
Y=−77,030
Y=−77,040
Y=−77,050
Y=−77,060
Y=−77,070
Y=−77,080
Y=−77,090
Y=−77,100
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
テラス1
テラス2
テラス3
溝1
溝2
溝3
溝4
溝5
溝6
竪1
竪2
竪3
竪4
竪5
竪6
竪7
竪8
竪9
竪10
竪11
竪12
竪13
竪14
竪15
竪16
竪17
竪18
竪19
竪20
竪21
掘1
掘2
掘3
掘4
掘5
掘6
掘7
掘8
掘9
掘10
掘11
掘12
掘13
掘14
掘15
掘16
掘17
掘18
掘19
掘20
掘21
掘22
掘23
掘24
掘25
掘26
掘27
掘28
掘29
掘30
掘31
掘32
掘33
掘34
掘35
掘36
52.0m
51.0m
50.0m
49.0m
48.0m
55.0m
54.0m
56.0m
茶畑16号墳
茶畑15号墳
茶畑14号墳
凡例
竪：竪穴住居
掘：掘立柱建物
番号のみ：土坑
0
1:500
20m

図７　全体遺構配置図

たため方針を変更し、ピットについても並行して調査を進めることにした。

調査期間中の９月13日と11月25日の２度にわたり芦屋市教育委員会の森岡秀人氏に、12月５日と６日には福岡大学の武末純一氏に現地指導をお願いした。また、11月21日の片山善博鳥取県知事をはじめとして多くの方々に現場を視察して頂き、ご指導・ご助言を賜った。また、12月14日の土曜日に現地説明会を実施し、160人以上の見学者を迎えることが出来た。作業員の稼働は12月27日で終了したが、調査員・補助員は遺構の実測を継続し、平成15年３月13日に調査を終了した。

出土遺物の整理や報告書の作成は発掘調査の開始と同時に着手し、平成16年３月末まで実施した。本報告書に記載した遺構番号は、編集の都合により報告書作成段階に新たに遺構番号を付け直したものであり、調査時点の遺構番号とは異なっている。そのため、新旧遺構対照表に両者を表示した。しかし、ピットについては記載を省略した。

２．調査地の地形と層序

調査地は台地上の平坦部と斜面部におよぶ。平坦部は開墾に伴って、雑木林であった西端部分と農道部分を除いて、そのほとんどが、ほぼ水平に削平されている（図４、図５）。最も遺存状況が良い部分の基本層序は図３の通りである。また、開墾時の整地作業は西側から東側へと削り、その土砂は東側斜面部に流したようである。

表土（耕作土）、Ⅰ層：黒色粘質土層、Ⅱ層：黒褐色粘質土層、Ⅲ層：暗褐色粘質土層、Ⅳ層：褐色　粘質土層、Ⅴ層：明褐色ローム層、Ⅵ層：橙色粘質土層（いわゆるＡＴ、姶良丹沢火山灰層）、Ⅶ層：灰褐色粘質土層、Ⅷ層：赤褐色ローム層、Ⅸ層：橙色砂質土、Ⅹ層：にぶい褐色粘質土調査地内でⅠ層～Ⅲ層が遺存していた範囲は、ほぼＨ８グリッドからＫ10グリッドより西北側の部分である。この部分以外の範囲では、遺構を一面検出しなければならなかった。時期が明らかな各遺構群の埋土の色調をみると、古代（８世紀前葉）の遺構埋土は黒色である。古墳時代中期の遺構埋土は黒褐色である。弥生時代終末期から古墳時代前期の遺構埋土は褐色か暗褐色である。弥生時代中期の遺構埋土は暗褐色か褐色である。これらの埋土の色調から復元すると、Ⅰ層上面は古代の遺構面である。Ⅱ層上面は古墳時代中期から同時代後期の遺構面である。Ⅱ層は弥生土器を多く含む遺物包含層である。Ⅲ層上面は弥生時代中期後葉から古墳時代前期前葉の遺構面である。さらに、縄文時代前期と同時代晩期の土坑があり、それらの土坑の埋土は黒色から黒褐色を呈する。よって、Ⅳ層とⅤ層の間には流失してしまい現存はしないが、黒色から黒褐色の土層が堆積していたと考えられる。東側斜面部は、岩盤の上に流土である①～⑩層が堆積する。開墾時の整地で台地上平坦部から排出されたものも含む。これらの土層②層～⑩層は遺物を包含する。

３．遺構の概要

茶畑第１遺跡は弥生時代中期後葉、弥生時代終末期～古墳時代前期を中心とする集落遺跡である。時期を想定できる遺構は、弥生時代中期後葉は竪穴住居12棟、掘立柱建物６棟、土坑10基、テラス１基。弥生時代終末期～古墳時代前期では竪穴住居６棟（埋土等から推測：１棟）、掘立柱建物２棟（切り合いから推測：１棟）、土坑２基、溝１条、古墳３基が存在する。その他にも縄文時代の土坑11基。弥生時代後期の土坑１基。古墳時代後期の竪穴住居１棟。奈良時代の掘立柱建物１棟が存在する。調査地内で見る限り、弥生時代後期前葉から後期後葉にかけては建物類が存在せず、遺物もほとんど認められないことから、集落は継続されず、断絶期が存在すると考えられる。

第２節　弥生時代中期の調査

図８　弥生時代中期遺構位置図

１．竪穴住居

竪穴住居１（図９・10　図版２・54）

竪穴住居１は調査地北東際のＥ４グリッド北端に位置する。平坦面から斜面部への地形変換点部分にあたる。竪穴住居２に東側を切られる。

竪穴住居１は、平面形が円形を呈すると推測される遺構であるが、北西側が一部調査地外にかかっており、東側についても竪穴住居２によって破壊されているため明確な規模は不明である。現状での規模は長軸4.08m、残存部短軸3.52m、検出面からの最大の深さは0.47mを測る。床面標高はおよそ55.1m、残存部の床面積は9.96㎡である。

周壁下に１条の周壁溝を検出した。幅約10cm、深さが最大で８cmである。

主柱穴は周壁溝から25～35cm離れた位置に４基存在する。Ｐ１は径43cm、深さ33cm。Ｐ２は径43cm、深さ20cm以上。Ｐ３は径50cm、深さ78cmで下半部には柱痕が認められる。Ｐ４は径55cm、深さ70cmを測る。このうち、Ｐ３・４は同程度の規模であるが、Ｐ１・２はＰ３・４に比べ40cm以上浅い柱穴である。配置を見ると中央ピットであるＰ７から80～100cmの距離で方形となるように配置されている。Ｐ７は中央ピットであるが、径56cm、深さ29cmを測る。Ｐ７の脇には主柱穴Ｐ１－Ｐ４、Ｐ２－Ｐ３と並行するようにＰ５・６が存在する。Ｐ７とは７cm程度離れるのみで、近接している。主柱穴と比較してやや規模が小さい。棟を支える補助柱と考えられる。同様な柱を持つものには後述する竪穴住居８や11がある。

Ｐ７から東方向に伸びる溝を検出した。幅６～８cm、長さ66cm、深さ約２cmを測る。Ｐ２方向に伸びるが周壁溝までは続かない。

焼土面を３箇所検出した。いずれも径が20cm程度の規模である。Ｐ７からは35～40cm離れた位置に存在する

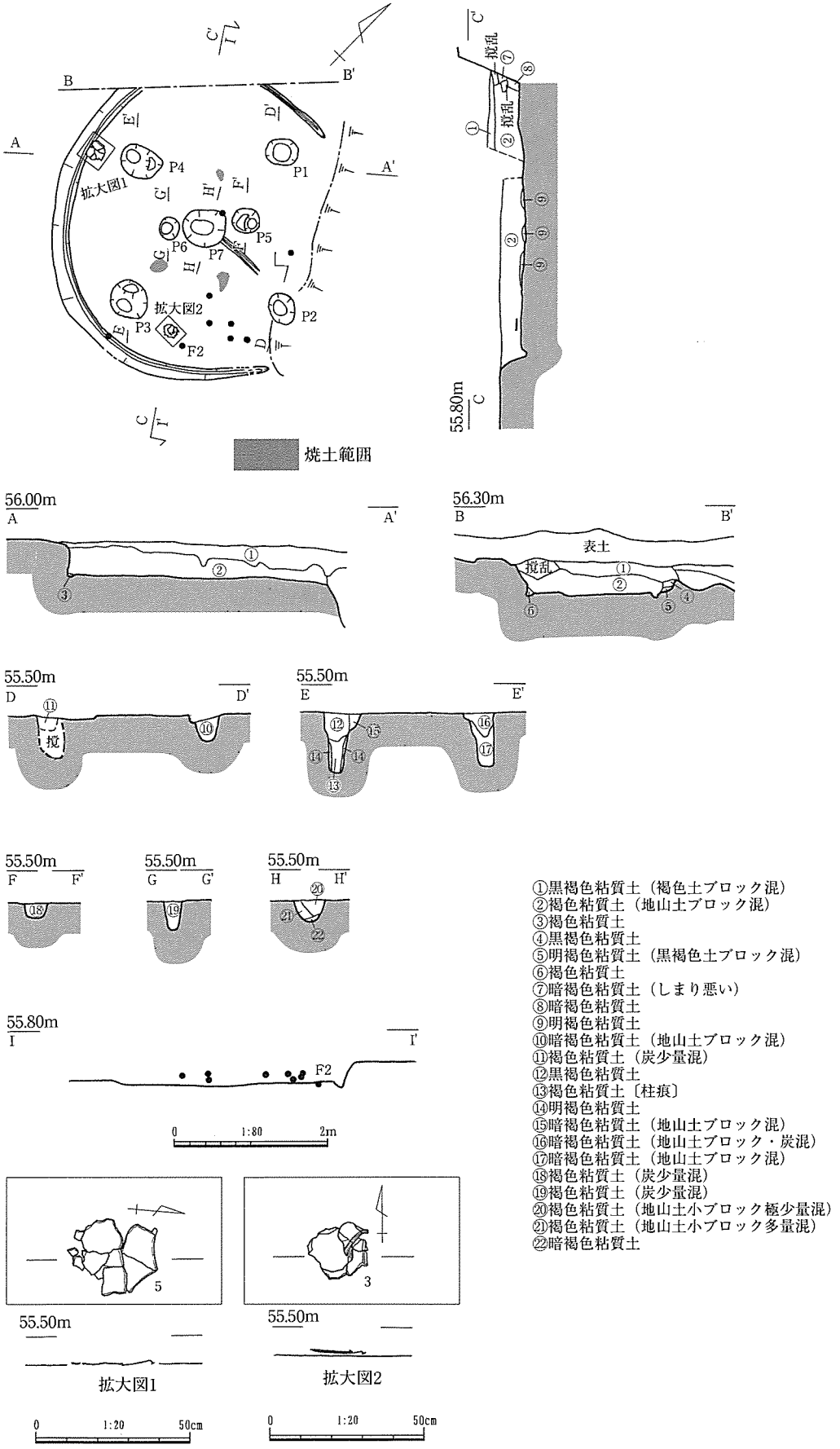

焼土範囲
拡大図1
拡大図2
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
F2
撹乱
55.80m
56.00m
56.30m
表土
55.50m
55.80m
0　1:80　2m
0　1:20　50cm
①黒褐色粘質土（褐色土ブロック混）
②褐色粘質土（地山土ブロック混）
③褐色粘質土
④黒褐色粘質土
⑤明褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
⑥褐色粘質土
⑦暗褐色粘質土（しまり悪い）
⑧暗褐色粘質土
⑨明褐色粘質土
⑩暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑪褐色粘質土（炭少量混）
⑫黒褐色粘質土
⑬褐色粘質土〔柱痕〕
⑭明褐色粘質土
⑮暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑯暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭混）
⑰暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑱褐色粘質土（炭少量混）
⑲褐色粘質土（炭少量混）
⑳褐色粘質土（地山土小ブロック極少量混）
㉑褐色粘質土（地山土小ブロック多量混）
㉒暗褐色粘質土

図９　竪穴住居１

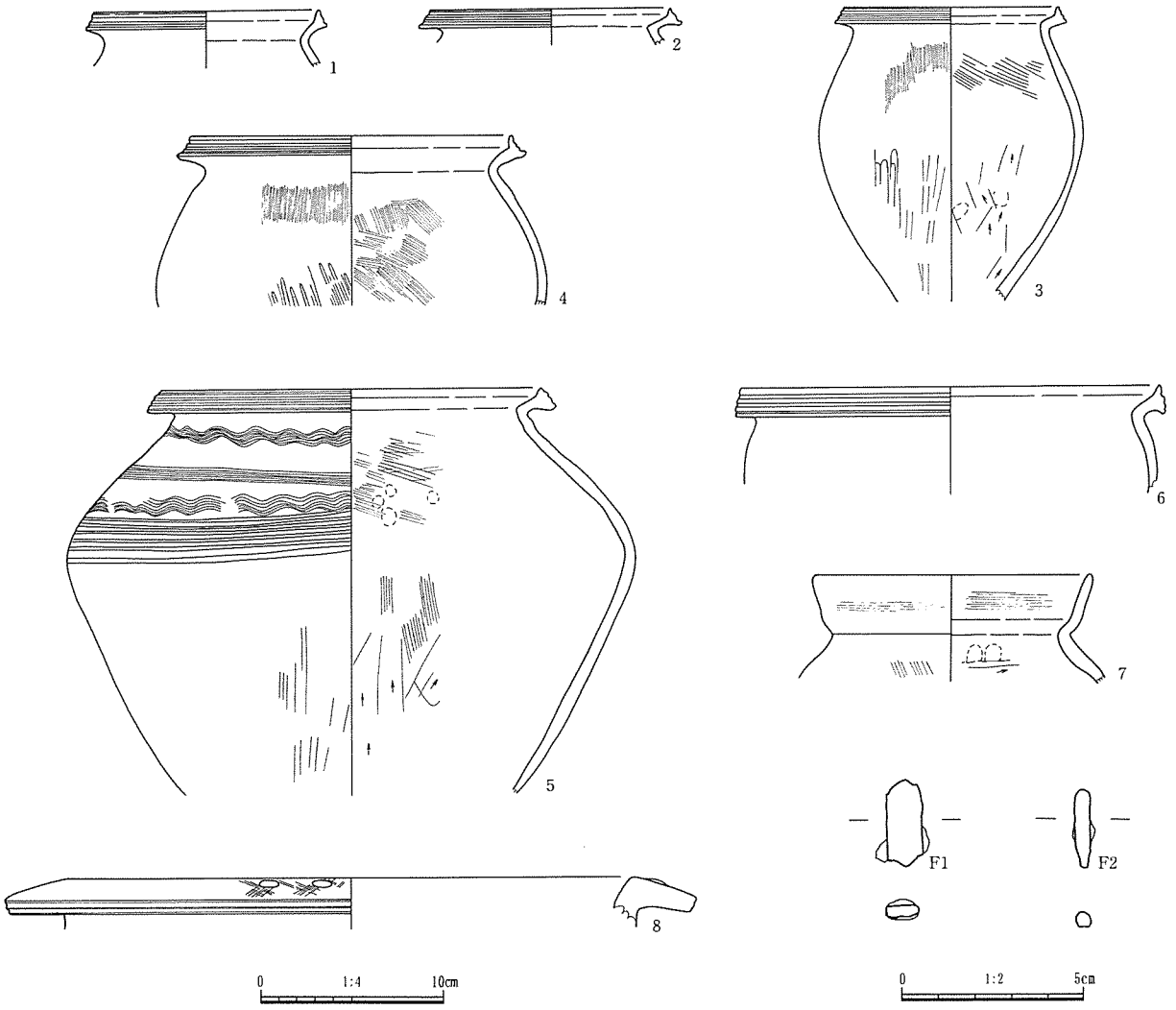


図10　竪穴住居１出土遺物

出土遺物は多くはないが、時期を判断できる遺物が床面上から出土した。３はＰ３の東約30cmの位置から出土した。口縁部から胴部下半まで残存するが底部は残っていない。５は住居西側の周壁溝脇から出土した。胴部が「く」字状に屈曲し、胴部上半には波状文が２条施される。このような形態の土器は他に出土していない。また、用途不明であるが針状を呈するＦ２が土器３の東脇から出土した。床面からの出土である。土器８は埋土中位からの出土であるが、口径約31cmに復元できる大型の壺である。

出土遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

竪穴住居２（図11・12　図版２・54）

竪穴住居２は調査地北東際のＤ・Ｅ４グリッドにかけて位置する。平坦面から斜面部への地形変換点部分にあり、竪穴住居１の東側を切る。

竪穴住居２は、平面形が方形状を呈すると推測される遺構であるが、北側が一部調査地外にかかるうえ、東側は斜面部のため流失しており、明確な規模は不明である。残存部の規模は長軸4.90m、短軸2.58m、検出面からの最大の深さは0.80mを測る。床面標高はおよそ54.5m、残存部の床面積は8.5㎡である。

周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約50cm、深さが最大で18cm存在する。断面形は浅いＶ字状

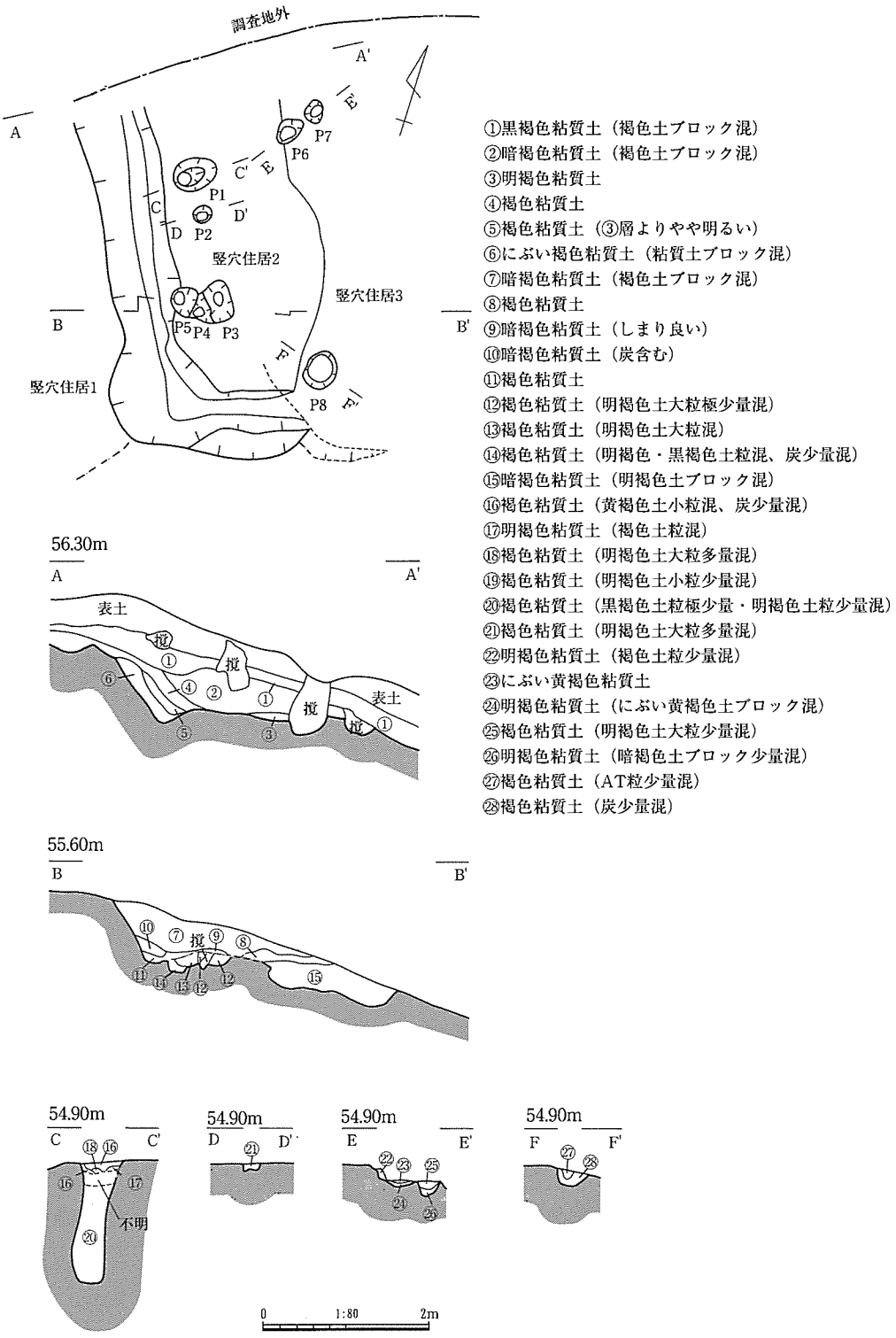

調査地外
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
竪穴住居1
竪穴住居2
竪穴住居3
56.30m
表土
撹
55.60m
54.90m
不明
0
1:80
2m
①黒褐色粘質土（褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
③明褐色粘質土
④褐色粘質土
⑤褐色粘質土（③層よりやや明るい）
⑥にぶい褐色粘質土（粘質土ブロック混）
⑦暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
⑧褐色粘質土
⑨暗褐色粘質土（しまり良い）
⑩暗褐色粘質土（炭含む）
⑪褐色粘質土
⑫褐色粘質土（明褐色土大粒極少量混）
⑬褐色粘質土（明褐色土大粒混）
⑭褐色粘質土（明褐色・黒褐色土粒混、炭少量混）
⑮暗褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
⑯褐色粘質土（黄褐色土小粒混、炭少量混）
⑰明褐色粘質土（褐色土粒混）
⑱褐色粘質土（明褐色土大粒多量混）
⑲褐色粘質土（明褐色土小粒少量混）
⑳褐色粘質土（黒褐色土粒極少量・明褐色土粒少量混）
㉑褐色粘質土（明褐色土大粒多量混）
㉒明褐色粘質土（褐色土粒少量混）
㉓にぶい黄褐色粘質土
㉔明褐色粘質土（にぶい黄褐色土ブロック混）
㉕褐色粘質土（明褐色土大粒少量混）
㉖明褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
㉗褐色粘質土（AT粒少量混）
㉘褐色粘質土（炭少量混）

図11　竪穴住居２・３

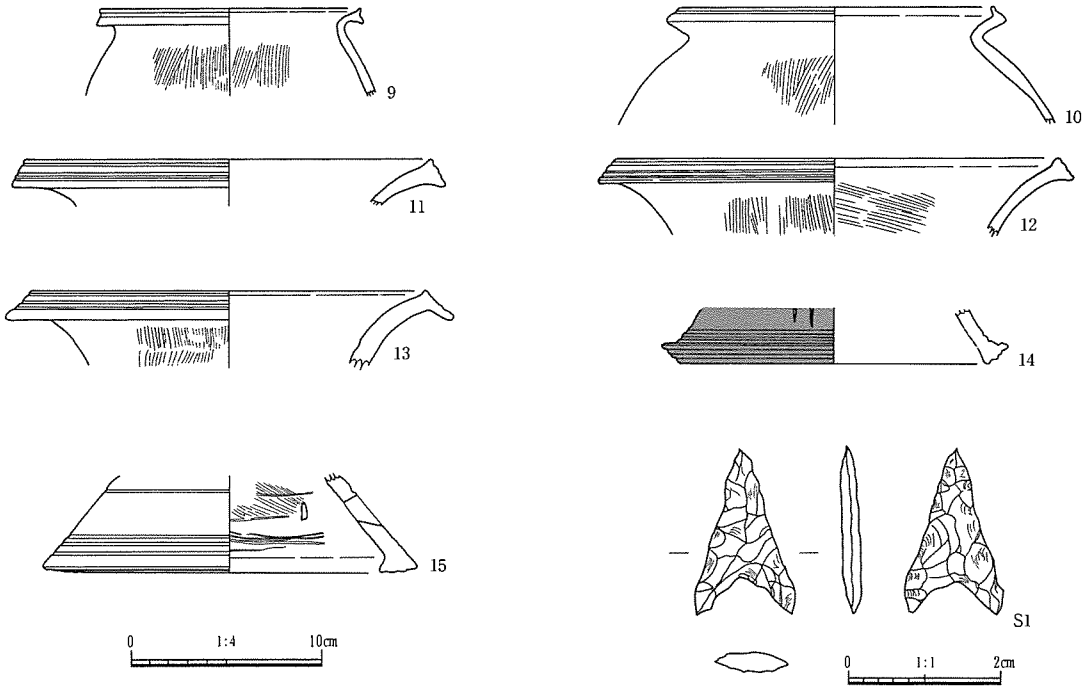


図12　竪穴住居２出土遺物

を呈している。

位置的に主柱穴と考えられるのはＰ１である。Ｐ１は周壁溝から約15cmと近接した位置にあり、深さが1.45m存在する。あまりに深さがあるため根等の撹乱の可能性を考える必要がある。その他にＰ２～８が存在するが、位置的ないし規模的に不適当なものである。焼土面は認められなかった。

出土遺物はいずれも埋土中からの出土であり、出土位置が明らかなものは存在しない。土器９～15、Ｓ１を図化した。このうち、土器15は透かしが施されるもので器台脚部と判断したが、遺構外（斜面部）出土土器のなかに類似した形態の土器434が存在する。434は透かしが存在しないため器台受部と判断したものであるが、15と434は同一個体かきわめて類似した形態の土器であろう。

出土遺物は埋土中からの出土ではあるが、限られた時期の遺物のみであるため、弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

竪穴住居３（図11・13　図版２・54）

竪穴住居３は調査地北東際のＤ・Ｅ４グリッドにかけて位置する。竪穴住居２に上部を切られる。

竪穴住居３は、竪穴住居２による削平や斜面部に位置するための流失などによって、平面形が不明確な遺構である。南端部は検出できたが、全体形は不明である。屈曲部が認められることから平面形は円形ではなかった可能性が高い。残存部で判断する限り、周壁溝は存在しない。

埋土中から出土した遺物のうち、16・17を図化した。ともに甕の口縁部である。

出土した遺物と竪穴住居２に切られることから弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

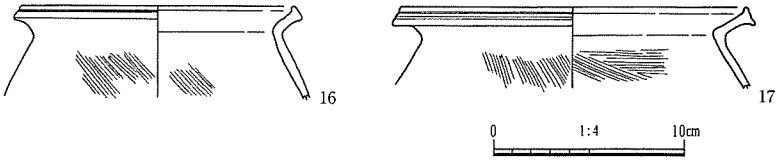


図13　竪穴住居３出土遺物

竪穴住居４（図14・15　図版３・54）

竪穴住居４は調査地東際のＦ３・４グリッド南端にまたがり位置する。平坦面から斜面部への地形変換点部分にあたり、南側約１ｍには後述する竪穴住居５が存在する。

竪穴住居４は、平面形が円形を呈すると推測される遺構であるが、斜面部に位置するため東側が流失しており、明確な形態・規模は不明である。現状での規模は長軸3.83ｍ、残存部短軸2.26ｍ、検出面からの最大の深さは0.47ｍを測る。床面標高はおよそ55.2ｍ、残存部での床面積は6.2㎡である。

周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約15㎝、深さは約10㎝である。床面規模は長軸3.65ｍ、残存部短軸2.00ｍを測る。

位置関係と規模から主柱穴と考えられるのはＰ２であり、周壁溝から30㎝離れた位置に存在する。径22㎝、深さ25㎝を測る。Ｐ１は中央ピットと考えられるもので、径51㎝、深さ27㎝を測る。Ｐ１の西側12㎝に存在するＰ７は深さが44㎝あり、棟を支える補助柱と考えられるものであるが、竪穴住居１のように対となるものは検出できなかった。この他にもＰ３～６が存在し、Ｐ５・６については、Ｐ２との位置関係から考えて主柱穴の可能性があるが、ともに浅くて周壁溝に近すぎるため主柱穴とするには困難である。

出土した遺物の内、土器18・19、石鏃Ｓ２の３点を図化した。18は床面直上から出土した遺物である。胴部が張る大型の甕と推測されるものであり、肩部に斜格子帯が２段存在する。斜格子文様はシャープであり、鋭利な工具によって直線的に描かれている。19は埋土中から出土した壺の口頸部である。口縁端部の立ち上がりが垂直に近くなっており新しい要素が認められるが、肩部内面はハケ目が施されている。

出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

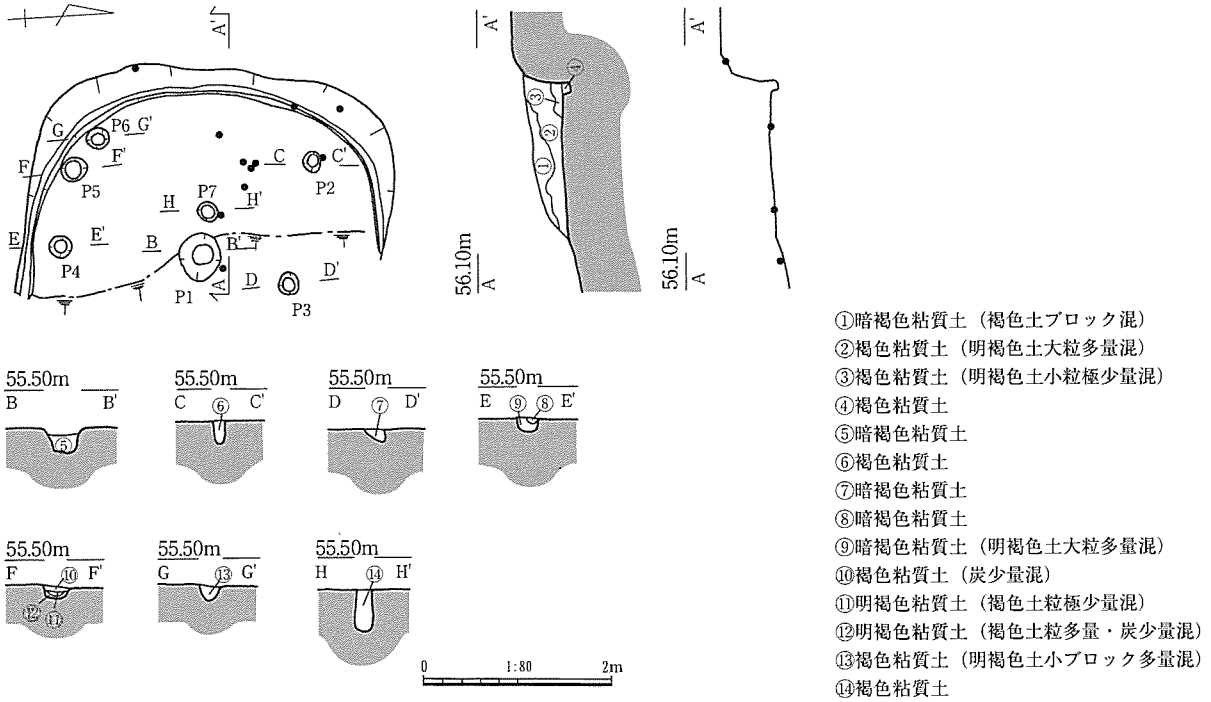


図14　竪穴住居４

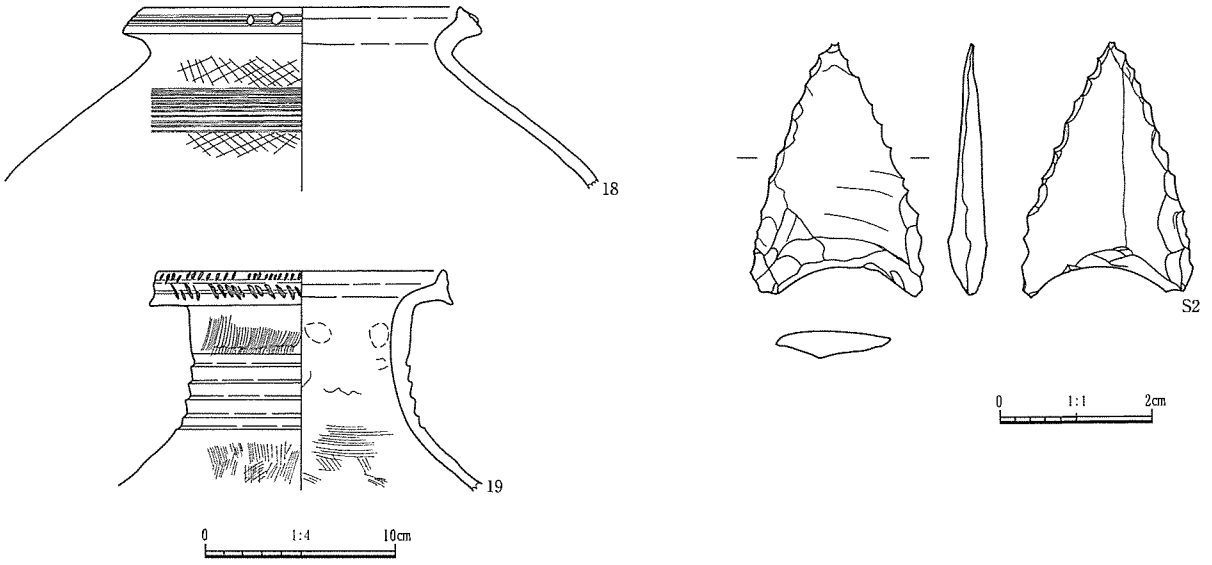


図15　竪穴住居４出土遺物

竪穴住居５（図16・17　図版３・55）

竪穴住居５は調査地東際のＧ４グリッド北東隅に位置する。平坦面から斜面部への地形変換点部分にあたり、北東側約１ｍには前述した竪穴住居４が存在する。

竪穴住居５は、平面形が方形状を呈すると推測される遺構であるが、斜面部に位置するため東側が流失しており、明確な形態・規模は不明である。現状での規模は長軸2.77ｍ、残存部短軸1.45ｍ、検出面からの最大の深さは0.35ｍを測る。床面標高はおよそ55.6ｍ、残存部での床面積は1.9㎡である。

周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約８～20㎝、深さは２～４㎝程度の浅いものである。床面規模は長軸2.10ｍ、残存部短軸1.32ｍを測る。

主柱穴と明確に判断できるものは存在しない。住居内部分からはＰ１・２の２基が検出されたが、Ｐ１は深さ７㎝と浅いもので、Ｐ２は残存する深さが28㎝を測る。上部が流失していることを考慮すると38㎝程度存在したことになる。

出土遺物の内20～24を図化した。このうち甕の口縁部21・22は床面直上から出土した。他の20・23・24は埋土中から出土したものである。24は無頸壺であるが、焼成のきわめて良好な遺物である。

出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

竪穴住居６（図18・19　図版４・55）

竪穴住居６は調査地東際のＧ４グリッド南東寄りに位置する。平坦面から斜面部への地形変換点部分にあたり、北東側約1.5ｍには前述した竪穴住居５が存在する。また、上部には南北方向に伸びる溝１があり、竪穴住居６の埋土を切っている。

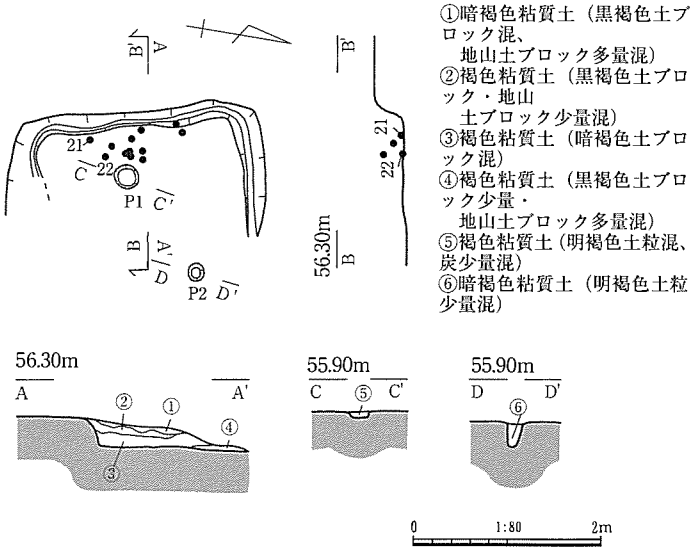


図16　竪穴住居５

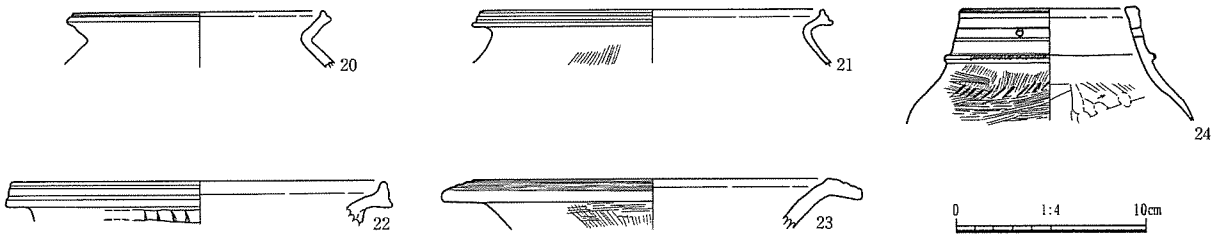


図17　竪穴住居５出土遺物

竪穴住居６は平面形が円形を呈すると推測される遺構であるが、斜面部に位置するため東側が流失しており、明確な形態・規模は不明である。壁面は全体の1/2程度まで残存している。検出面での規模は長軸3.83m、残存部短軸2.26mを測る。周壁下に２条の周壁溝が存在するが、埋土断面に新たに切り込んだ痕跡が認められないことから床面積の拡張を伴う建て替えが１度行われていると判断した。外側の新しいものを竪穴住居６ｂ、内側の古いものを竪穴住居６ａと呼称し、それぞれについて以下で記述する。

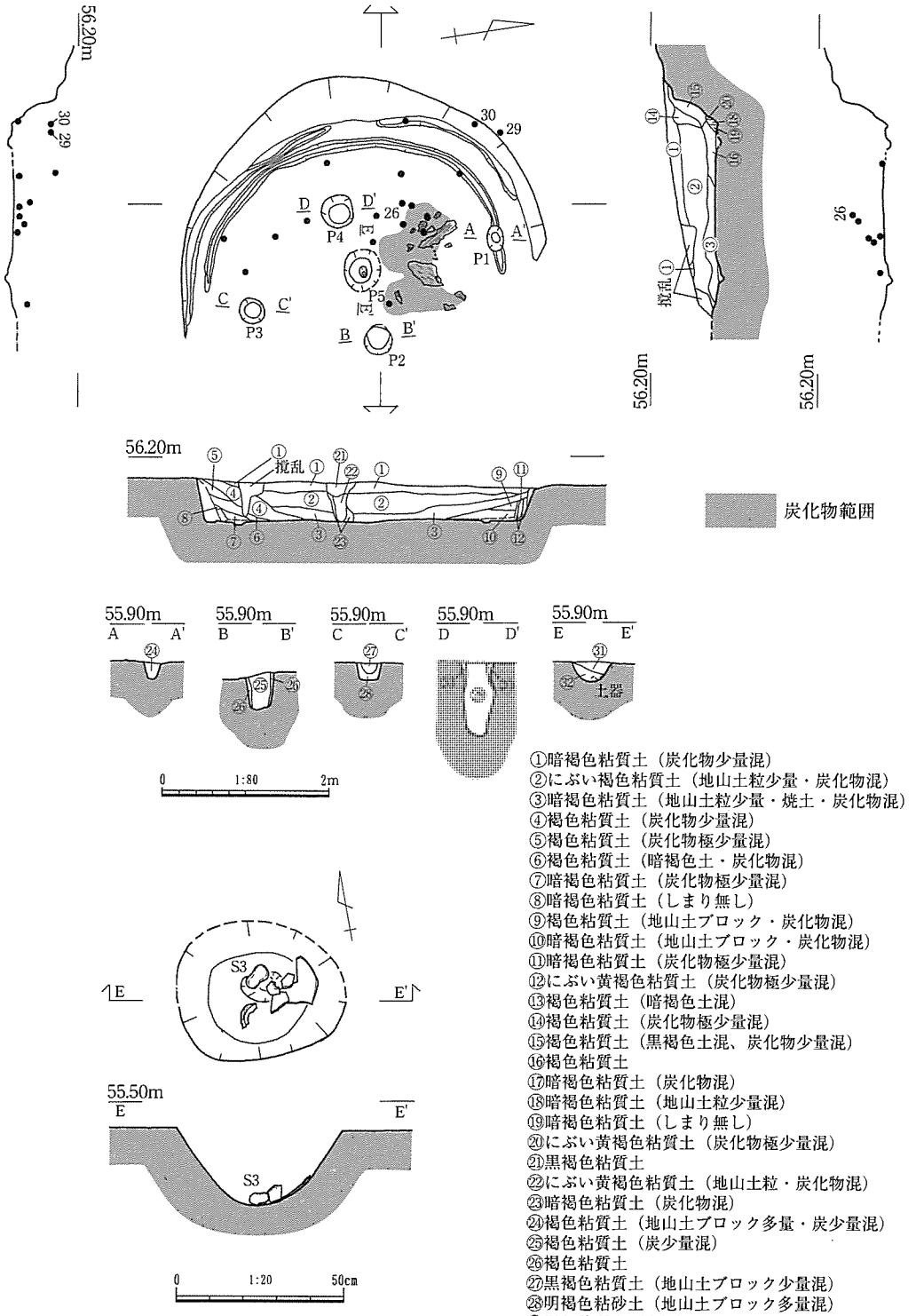
竪穴住居６ｂは、床面規模が長軸3.65m、残存部短軸2.00mで、検出面からの最大の深さは0.62mを測る。床面標高はおよそ55.2mで、残存部の床面積は7.4㎡である。

周壁下から周壁溝を検出した。溝は幅６～15cm、深さ２～５cmと浅いものである。西側は途切れており、北側も途中で消えているが、断面を見ると周壁溝に設置された壁板の痕跡と推測される層が⑪・⑱層に認められる。

主柱穴と推測されるのはＰ１～４である。このうち、Ｐ１・３はともに深さが50cmを越えるもので、裏込め土と考えられる層も存在している。それに対し、Ｐ２・４は深さが20cm程度と浅く、裏込め土と考えられる層も認められない。しかし、その位置関係を見ると通常認められる方形配置ではないものの、中央ピットのＰ５を中心として菱形状に位置しており企画性が認められる。Ｐ１については後述する竪穴住居６ｂの周壁溝を切り込んでいる。主柱穴と推測されるＰ１～４は規模の点で２分されるため、Ｐ５を挟んで対置するＰ２・４が主たる主柱穴、Ｐ１・３は補助的な主柱穴として機能したのではないかと考える。

Ｐ５は楕円形状の中央ピットであり、長径50cm、深さ25cmを測る。その底部には長径13cm、深さ７cmのくぼみが存在する。Ｐ５の底部から土器及び石器が出土した。土器は胴部のため図化していないが、石錘Ｓ３を図化した。埋土の㉛層には地山土のブロックが含まれていることから人為的な埋め戻しが想定され、住居廃絶段階にはＰ５は穴としての機能がなかったと考える。

Ｐ５北側から炭化材と焼土が混在した堆積を確認した。東側は斜面のため流失しているので、本来は床面の北側から東側にかけて存在していたことが想定される。厚い箇所では10cm程度堆積しており比較的大きな炭化材が堆積の上面に存在した。住居の構造材と考えられるが、遺存状態は悪く、具体的な構造を復元することは出来ない。埋土にも炭化材が含まれる層が多く存在しており、焼失住居と考える。しかし、床面には遺物が存在していないことから、失火ではなく人為的な放火によるものと



①暗褐色粘質土（炭化物少量混）
②にぶい褐色粘質土（地山土粒少量・炭化物混）
③暗褐色粘質土（地山土粒少量・焼土・炭化物混）
④褐色粘質土（炭化物少量混）
⑤褐色粘質土（炭化物極少量混）
⑥褐色粘質土（暗褐色土・炭化物混）
⑦暗褐色粘質土（炭化物極少量混）
⑧暗褐色粘質土（しまり無し）
⑨褐色粘質土（地山土ブロック・炭化物混）
⑩暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭化物混）
⑪暗褐色粘質土（炭化物極少量混）
⑫にぶい黄褐色粘質土（炭化物極少量混）
⑬褐色粘質土（暗褐色土混）
⑭褐色粘質土（炭化物極少量混）
⑮褐色粘質土（黒褐色土混、炭化物少量混）
⑯褐色粘質土
⑰暗褐色粘質土（炭化物混）
⑱暗褐色粘質土（地山土粒少量混）
⑲暗褐色粘質土（しまり無し）
⑳にぶい黄褐色粘質土（炭化物極少量混）
㉑黒褐色粘質土
㉒にぶい黄褐色粘質土（地山土粒・炭化物混）
㉓暗褐色粘質土（炭化物混）
㉔褐色粘質土（地山土ブロック多量・炭少量混）
㉕褐色粘質土（炭少量混）
㉖褐色粘質土
㉗黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㉘明褐色粘砂土（地山土ブロック多量混）
㉙褐色粘質土（炭混）
㉚明褐色粘砂土
㉛暗褐色粘質土（地山土ブロック・焼土・炭化物混）
㉜褐色粘質土（暗褐色土ブロック・焼土・炭化物混）

図18　竪穴住居６

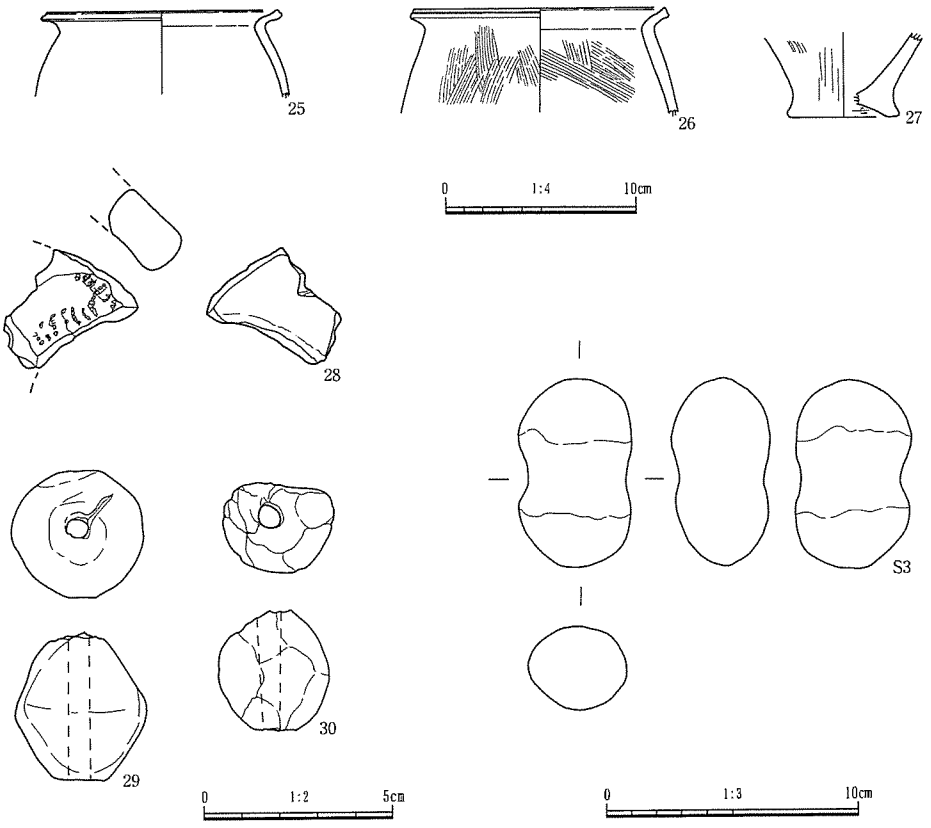


図19　竪穴住居６出土遺物

考える。

埋土中から出土した遺物の内、土器・土製品25～30を図化した。25～27は土器、28は分銅形土製品である。28は全体の1/4にも満たない小破片であるが、文様の残る表面は凸状、文様のない裏面は凹状を呈している。現状では表裏とも赤彩は認められない。表面縁辺部には櫛列点文が施されるが、側面から裏面にかけての貫孔は存在しない。流入遺物であろう。29・30は土玉であり、30は一部欠損するが29は完存する。29上部孔脇には人為的と推測される切れ込みが存在する。ともに検出面付近の埋土最上部から出土したもので流入遺物である。

遺物は流入したものではあるが、他の時期の遺物を含まないことからも弥生時代中期後葉の遺構と考える。

竪穴住居６ａは、床面規模が長軸3.65m、残存部短軸2.00mで、検出面からの最大の深さは0.47mを測る。床面標高はおよそ55.2mである。残存部の床面積は4.7㎡である。

周壁溝は幅８～12cm、深さ３～７cmを測る。

竪穴住居６ａに確実に伴うと考えられる柱穴は存在しない。しかし、竪穴住居６ｂに伴うと判断したＰ１・３はＰ２・４と異なり深いもので様相が異なる。そのため、Ｐ１・３は竪穴住居６ａの柱穴で、その柱穴が竪穴住居６ｂで再利用された可能性も考えられるが、断面による確認はできない。中央ピットの有無についても判断できない。

竪穴住居６ａに伴うと推測される遺物は存在しない。

竪穴住居６ａは竪穴住居６ｂの建て替え前の遺構と考えられるため、竪穴住居６ｂに先行する弥生時代中期後葉段階の遺構と考える。　（西川）

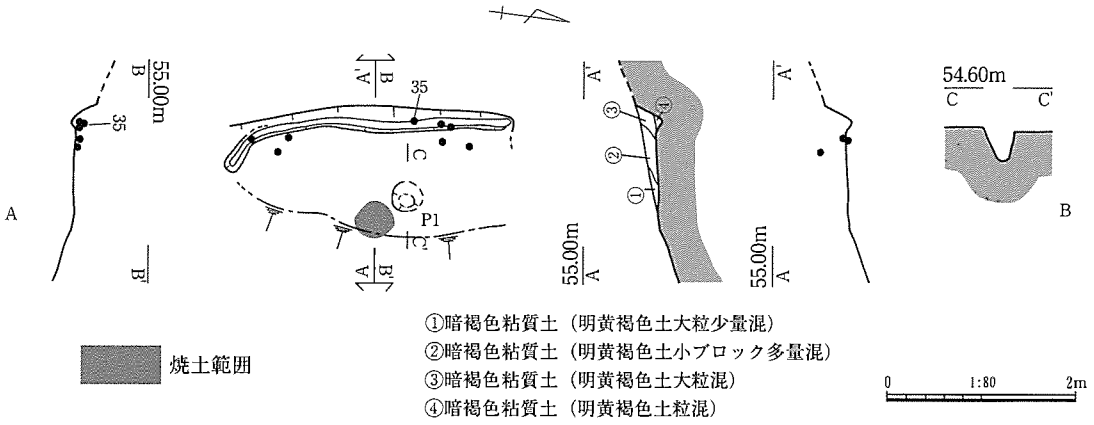


図20　竪穴住居７

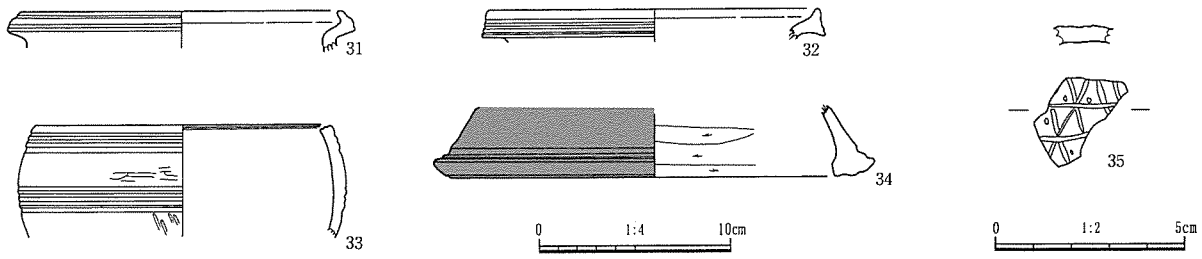


図21　竪穴住居７出土遺物

竪穴住居７（図20・21　図版３・55）

竪穴住居７は調査地南東隅のＪ３グリッド北側に位置する。斜面部途中に形成されており、南側約0.5mには後述する溝５が存在する。

竪穴住居７は、平面形が方形状を呈すると推測される遺構であるが、斜面部に位置するため東側が流失しており、明確な形態・規模は不明である。現状での規模は長軸3.10m、残存部短軸1.37m、検出面からの最大の深さは0.42mを測る。床面標高はおよそ54.2m、残存部での床面積は3.1㎡である。

周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約10～15cm、深さは３～６cm程度の浅いものである。床面規模は長軸2.90m、残存部短軸1.08mを測る。

主柱穴と明確に判断できるものは存在しないが、径30cm・深さ36cmを測るＰ１が存在する。

Ｐ１の南東脇に焼土面が存在する。長径24cm・短径20cmの円形状を呈する。

出土遺物の内31～35を図化した。35は外面に斜格子状の文様を持つ胴部片である。31～34は埋土中からの出土であり、いずれも流入遺物と考えられる。

竪穴住居７の時期を直接判断できる遺物は存在しないが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

竪穴住居８（図22～24　図版５・55・56）

竪穴住居８は調査地南東際のＪ４グリッドに位置する。後述する竪穴住居９・10を切る。

竪穴住居８は、平面形が円形状を呈する遺構である。検出面での規模は長径7.21m、短径6.87mを測る。周壁下に２条の周壁溝が存在するが、内側にある１条は貼床の下から検出されたことから、床面積の拡張を伴う建て替えが１度行われていると判断した。外側の新しいものを竪穴住居８ｂ、内側

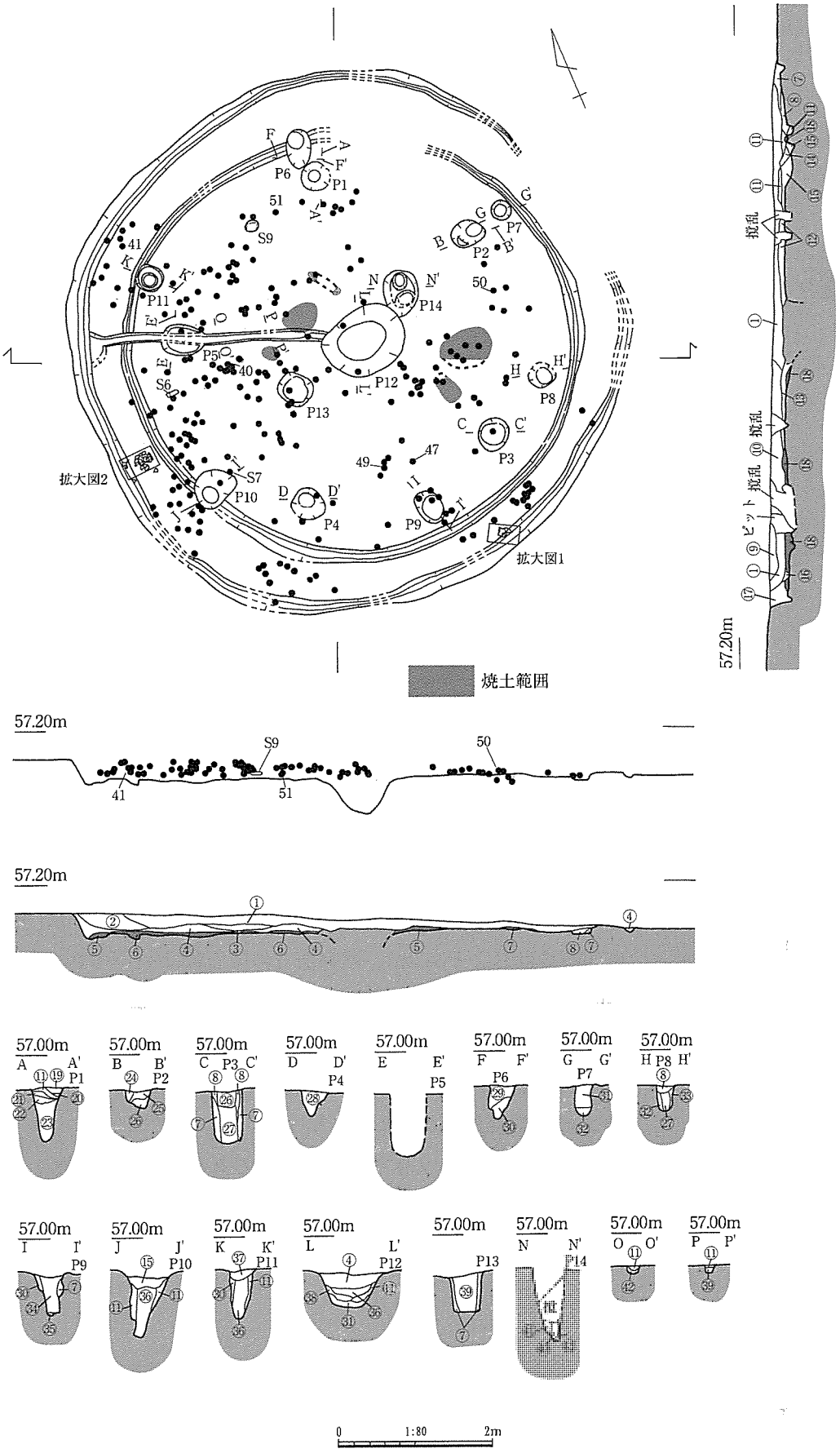


図22　竪穴住居８（１）

①褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
②暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
③褐色粘質土（地山土ブロック・炭極少量混）
④暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑤暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑥にぶい褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑦褐色粘質土
⑧暗褐色粘質土
⑨暗褐色粘質土（炭少量混）
⑩暗褐色粘質土（炭・粘質土ブロック少量混）
⑪褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑫褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑬褐色粘質土（地山土ブロック・炭極少量混）
⑭褐色粘質土（黒褐色土・地山土ブロック混）
⑮暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑯暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭極少量混）
⑰褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑱褐色粘質土・暗褐色粘質土混在
⑲明褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑳明褐色粘砂土（地山土ブロック混）
㉑褐色粘質土（地山土ブロック混。29層よりやや暗い）
㉒褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
㉓明褐色粘質土（褐色土ブロック・炭多量混）
㉔褐色粘質土（炭混）
㉕褐色粘質土（暗褐色土ブロック・炭混）
㉖にぶい褐色粘質土
㉗褐色粘質土
㉘暗褐色粘質土・地山土ブロック混在（炭多量混）
㉙褐色粘質土（地山土ブロック・炭混）
㉚褐色粘砂土（地山土ブロック混）
㉛暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㉜褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㉝褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
㉞暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭混）
㉟明褐色粘質土
㊱褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
㊲暗褐色粘砂土（地山土ブロック・炭少量混）
㊳褐色粘質土（地山土ブロック混、炭少量混）
㊴明褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
㊵褐色粘質土〔柱痕〕
㊶明褐色粘砂土
㊷褐色粘質土（黒褐色土ブロック極少量混）

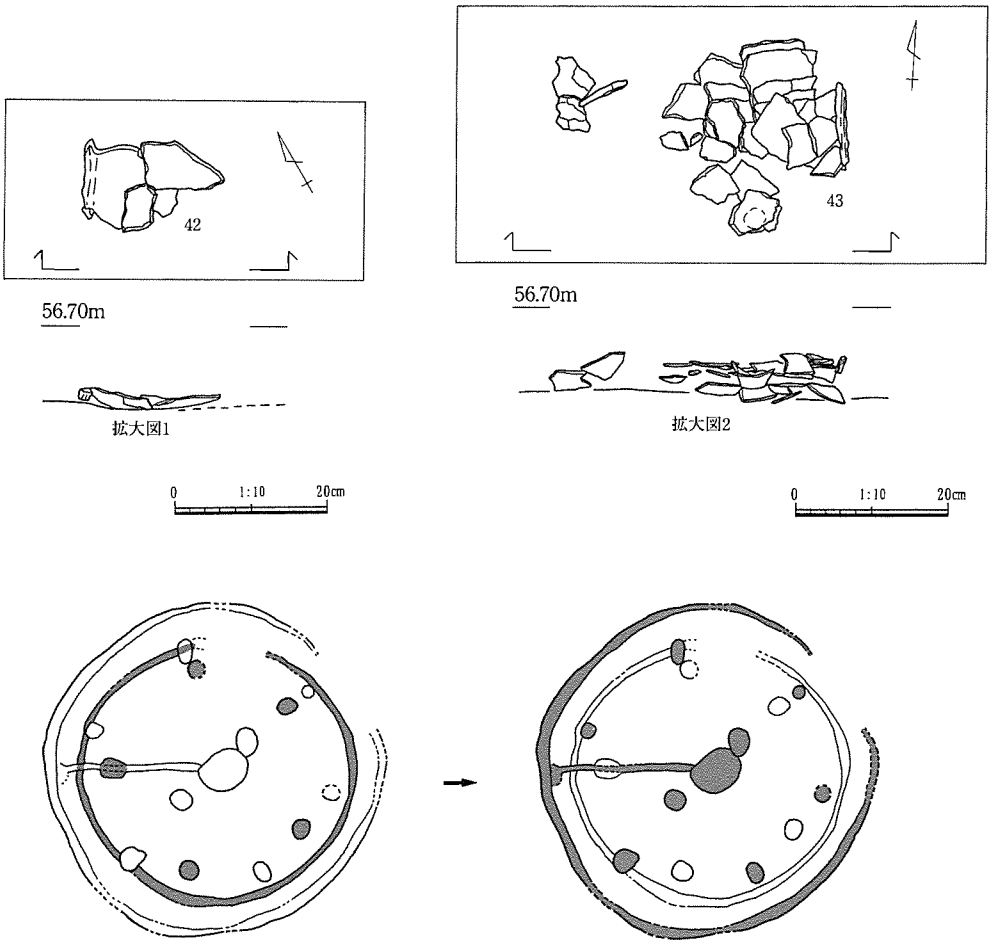


図23　竪穴住居８（２）

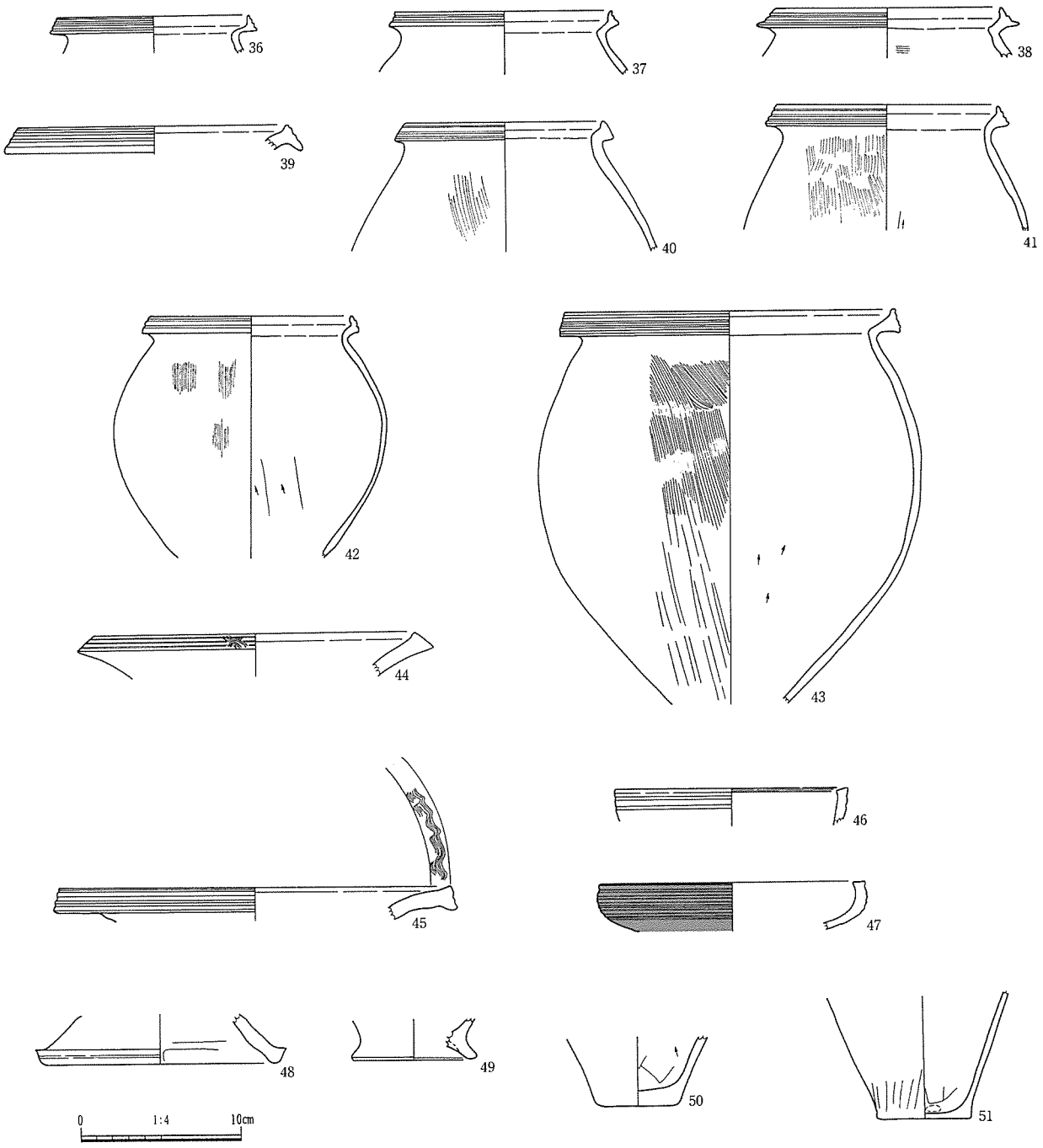


図24　竪穴住居８出土遺物（１）

の古いものを竪穴住居８ａと呼称し、それぞれについて以下で記述する。

竪穴住居８ｂは、平面形が円形ないし隅丸の六角形状を呈するものである。床面規模は長軸6.88m、短軸6.44mで、検出面からの最大の深さは0.26mを測る。床面標高はおよそ56.6mであり、床面積はおよそ38.8㎡に復元できる。

周壁溝は幅10～18cm、深さ３～６cmを測る。東側は土坑107と切り合う位置関係にあるが、撹乱が激しい箇所のうえ斜面部に近く埋土がほぼ失われているため切り合い関係は判断できなかった。

主柱穴は周壁溝から50～70cm離れた位置に存在するＰ６～11の６本である。Ｐ６は長径31cm、深さ43cm。Ｐ７は長径26cm、深さ40cm。Ｐ８は長径38cm、深さ34cm。Ｐ９は長径48cm、深さ56cm。Ｐ10は

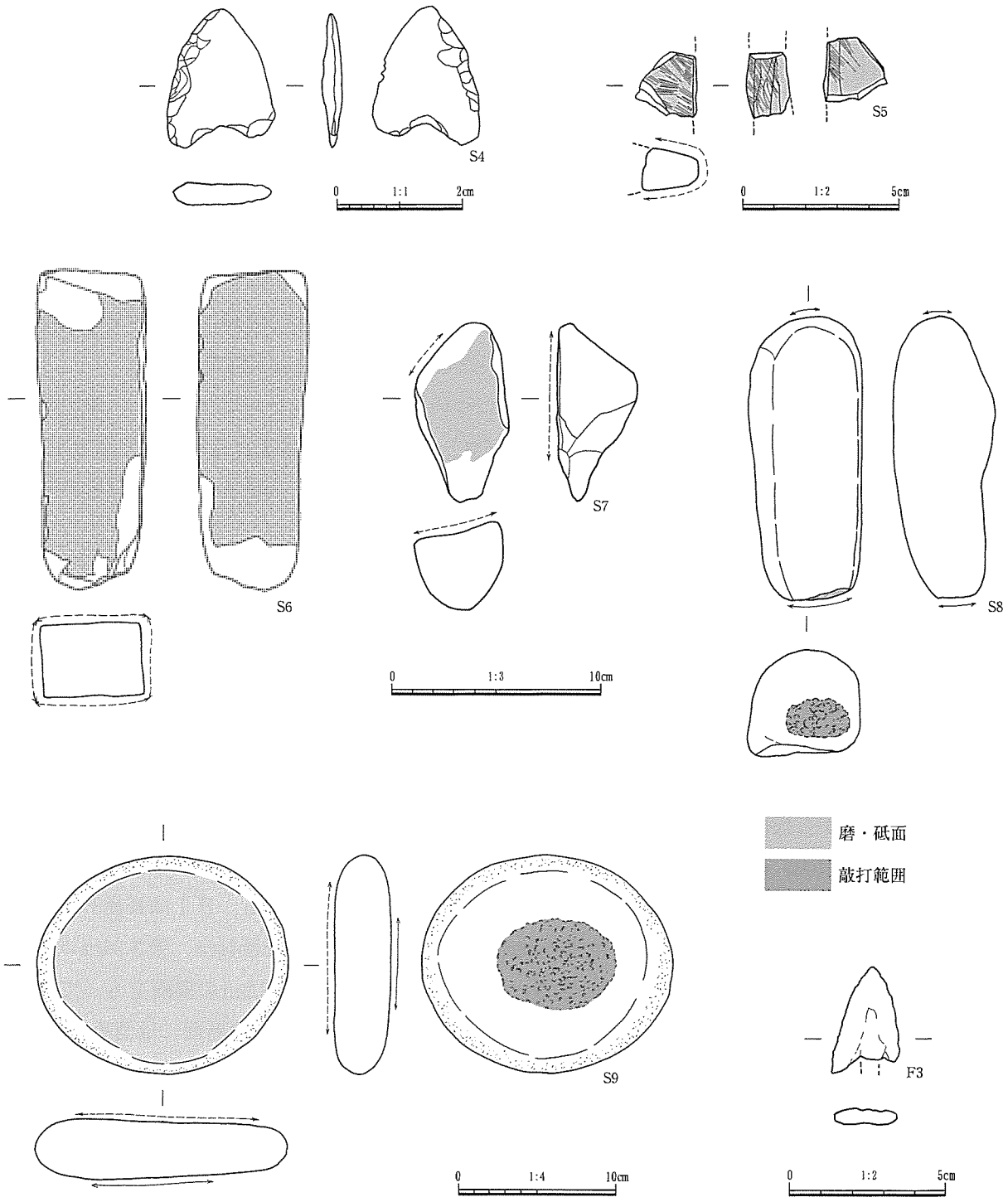


図25　竪穴住居８出土遺物（２）

長径56cm、深さ88cm。Ｐ11は長径38cm、深さ65cmを測る。このうち、Ｐ６・10・11は後述する竪穴住居８ａの周壁溝を切り込んでいる。また、Ｐ８～11には柱痕跡の㉗・㉞・㊱層が認められる。Ｐ７とＰ10を結ぶ対角線上の位置には中央ピットP12と、棟を支える補助柱と考えられるＰ13・14が存在する。中央ピットＰ12は楕円形状を呈し、長軸1.04m、短軸0.82m、深さ0.48mを測る。P13は長軸44cm、深さ52cmである、P14は長軸49cm、深さ0.94mである。Ｐ14は埋土上半が撹乱のため不明であるが、残された底部付近については柱痕跡の㊵層が存在する。Ｐ13の柱痕跡㊴層は幅約30cmなのに対し、Ｐ

14の㊵層は約10cmと格差が存在する。Ｐ14は撹乱を受けているため明確ではないが、底部形態を見ると２小穴が存在すること、Ｐ12とＰ14は接するが竪穴住居１などの例を見ても多少は離れることから、Ｐ14は柱穴が切り合っていると想定される。

Ｐ12を取り巻いて６箇所に焼土面が存在する。それらの規模には格差があり、長軸70cmのものから12cmのものまで存在する。南東側の２つはＰ12とＰ８の中間付近に位置するが、北東側の３つはＰ12に近い位置にあり、そのうち２つは溝を挟んで対置している。南にある焼土面は最も小さなものである。どのような用途によって焼土が形成されたのかは不明である。

Ｐ12から西方向に伸びる溝を検出した。幅10～14cm、長さ293cm、深さ約７～９cmを測る。周壁溝際まで伸びてハ字状に開き、周壁溝とは直接繋がらない。焼土面のなかには溝に接するように位置するものが存在することから、この溝は埋め戻されていたと考える。用途は不明である。

埋土は削平のため遺存状況が良くない。特に東側については撹乱が激しいこともあり、埋土の堆積状況はほとんど分からない。埋土中には地山土の小ブロックや炭化物が含まれる層が多く存在するが、その量はいずれも僅かなものであり自然堆積したものと考える。床面には厚さ１～３cm程度の貼り床が存在する。

埋土中からは多くの土器が出土したが、その多くは小破片である。土器36～51、石器Ｓ４～Ｓ９、鉄器Ｆ３を図化した。床面上からは42・43、Ｓ７が出土した。床面からやや浮いた位置からは40・41・47・49～51、Ｓ６・９が出土した。

時期を判断できる遺物が床面上から出土した。42・43は共に周壁溝脇から出土したもので、残存部位も多い遺物である。これらの遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。

竪穴住居８ａは、平面形が円形を呈する遺構である。床面規模は長軸5.67m、短軸5.30mで、竪穴住居８ｂ貼り床下から検出した。床面積はおよそ25.7㎡に復元できる。

周壁溝は幅10～24cm、深さ３～６cmを測る。北側の一部が撹乱のため残っていない。

主柱穴は周壁溝から20～50cm離れた位置に存在するＰ１～５の５本である。Ｐ１は長径37cm、深さ69cm。Ｐ２は長径44cm、深さ64cm。Ｐ３は長径44cm、深さ72cm。Ｐ４は長径41cm、深さ36cm以上だが不明瞭。Ｐ５は長径53cm、深さ80cm程度である。これらの主柱穴は1.7～2.2mの間隔をもって五角形に配置されている。Ｐ12に先行する中央ピットが存在した可能性があるものの断面には認められない。貼り床は存在しない。

竪穴住居８ａに伴う遺物は認められない。

時期を判断できる遺物が存在しないため明確な時期は判断できないが、竪穴住居８ｂに先行する遺構であり、ほぼ規格的に拡張されていることから連続する遺構と推測される。そのため、弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

竪穴住居９（図26・27　図版５・６・56）

竪穴住居９は調査地南東際のＪ４・５グリッドにまたがって位置する。前述した竪穴住居８に切られ、後述する竪穴住居10を切る。

竪穴住居９は平面形が円形ないし楕円形状を呈すると推測される遺構であるが、竪穴住居８に全体の1/2以上を破壊されるため、明確な形態・規模は不明である。現状での残存部規模は長軸4.58m、短軸1.54m、検出面からの最大の深さは0.04mである。床面標高はおよそ56.9m、残存部の床面積は5.4㎡である。

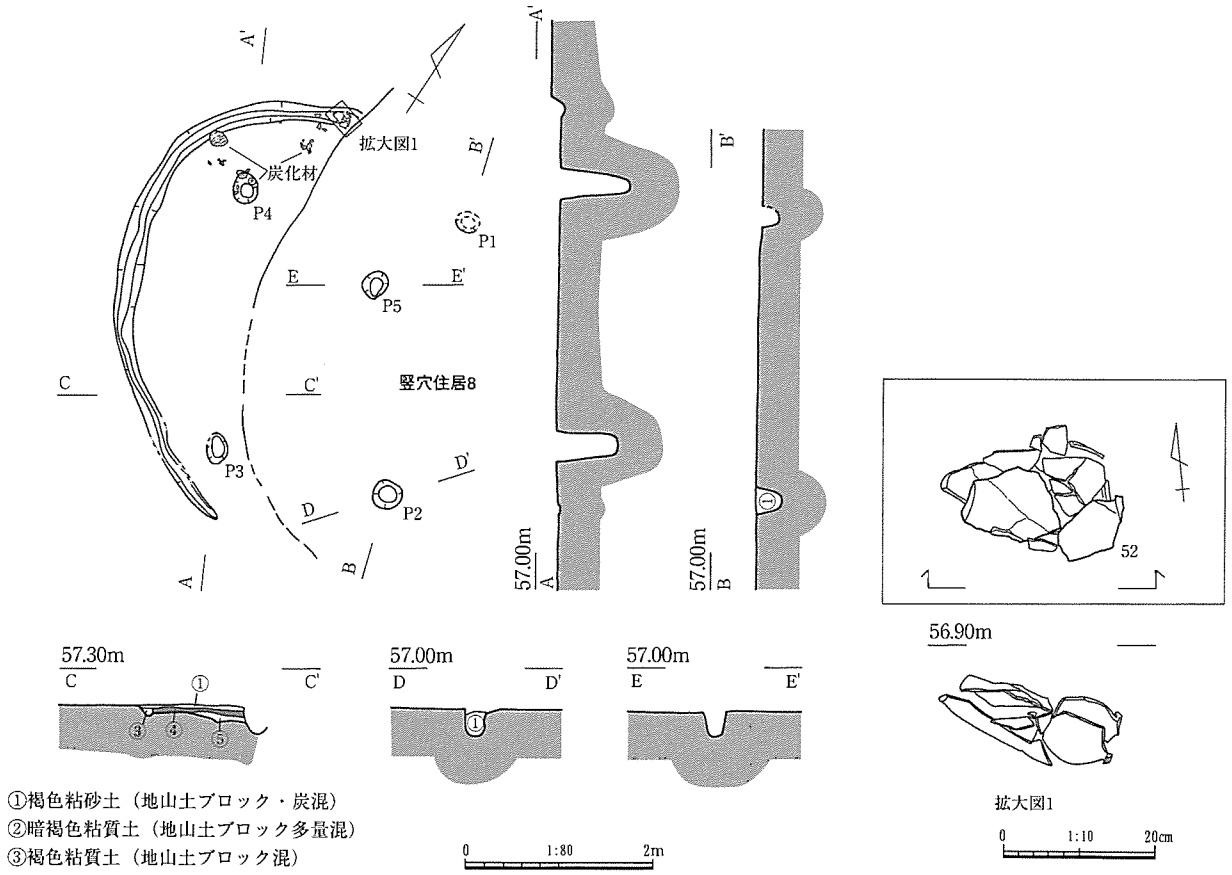


図26　竪穴住居９

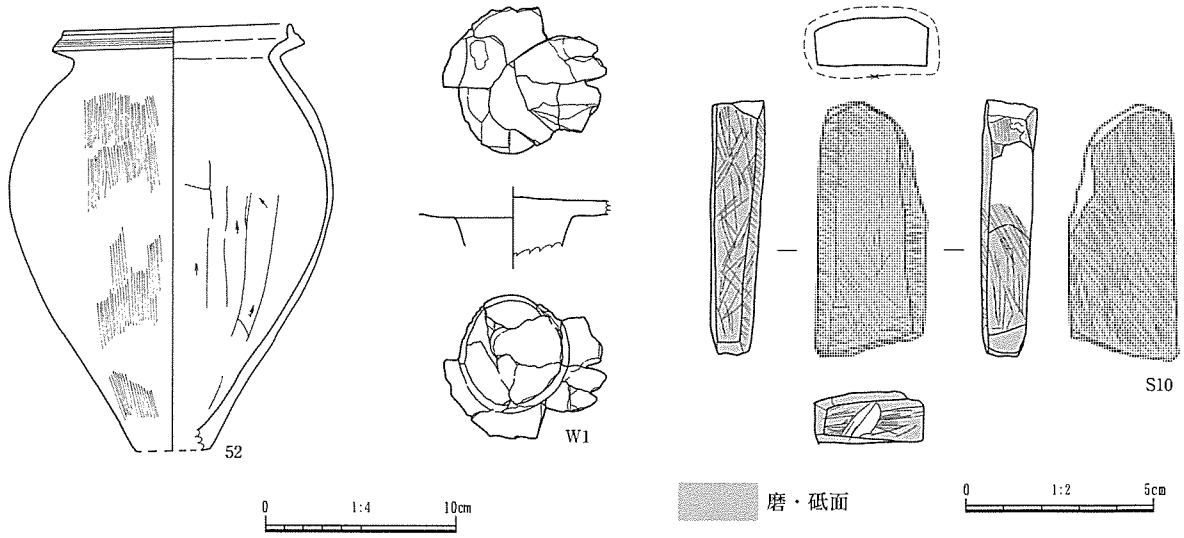


図27　竪穴住居９出土遺物

周壁はほとんど残っていないが、その下から１条の周壁溝を検出した。幅約10～22cm、深さは３～９cm程度のものである。南側は残りが悪く、途中から確認できなくなる。残存部分の床面規模は長軸4.30m、残存部短軸1.34mである。厚さ２～３cmの貼り床が存在した。

主柱穴と推測されるものに、Ｐ１～４が存在する。このうち、Ｐ１・２は竪穴住居８によって30cm程度の削平を受けているため残存する深さは僅かであるが、底部標高は共に56.3m程度と揃う。Ｐ１は径25cm・推定深さ71cm、Ｐ２は径31cm・推定深さ74cmを測る。また、Ｐ３は径33cm・深さ66cm、Ｐ４は径33cm・深さ75cmを測るものであり、ほぼ長方形状に配置される。この他に、規模から柱穴と推測されるＰ５が存在する。径30cm・推定深さ74cmを測るが、位置関係をみると他の柱穴とは対応しないため、竪穴住居９に伴う柱穴ではない可能性もある。

残存部分には焼土面は存在しなかった。

埋土は３～４cm遺存したのみで、ほとんど残されていなかった。しかし、床面にはＰ４北側を中心として炭化材や遺物が存在した。炭化材は遺存状態が悪いものではあるが、多くが建物の構造部材と推定されるものであり、焼失住居の可能性もある。

検出できた遺物は僅かであるが、そのうち甕52、炭化した木製品Ｗ１、砥石Ｓ10を図化した。52は周壁溝上に重なる位置から出土したもので、ほぼ完存する。Ｗ１は蓋の可能性もあるが、ここでは木製高坏の坏部から脚部への部分と考える。坏部内面は炭化面の風化が激しく調整等は不明であるが、脚部外面は明瞭に調整が残されており、丁寧な仕上げがなされていることがわかる。他の屋根部材と

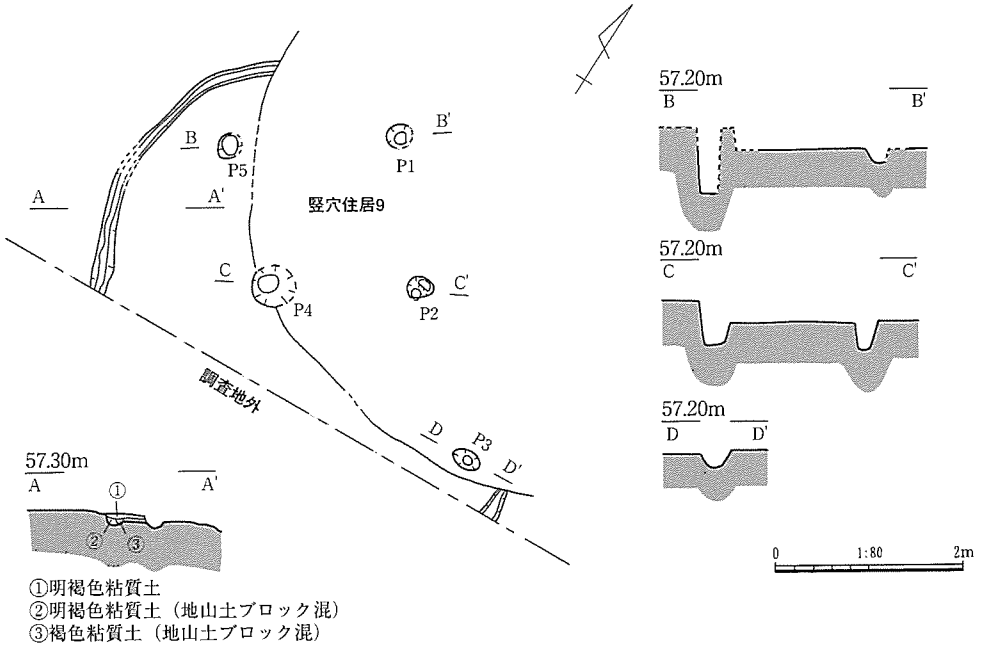


図28　竪穴住居10

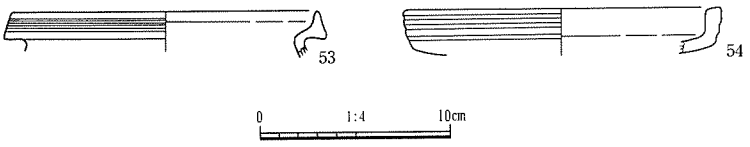


図29　竪穴住居10出土遺物

推測される炭化材に混じって出土した。Ｓ10は長さ７cmほどの砥石である。表面には無数の擦痕が存在している。

竪穴住居９は、出土した52から弥生時代中期後葉の遺構と考えられるもので、同時期の竪穴住居８ａとは切り合い関係から古い遺構である。（西川）

竪穴住居10（図28・29　図版５・６・55）

竪穴住居10は調査地南東際のＪ４・５グリッドにまたがって位置する。前述した竪穴住居８および竪穴住居９に切られる。竪穴住居９と床面標高はほとんど同じである。

竪穴住居10は平面形が楕円形状を呈すると推測される遺構であるが、竪穴住居８に1/2近くを破壊され、南側は調査地外となっているため、明確な形態・規模は不明である。現状での残存部規模は長軸5.62m、短軸1.77m、検出面からの最大の深さは0.07mである。床面標高はおよそ56.8m、残存部の床面積は5.1㎡である。薄い貼り床が存在する。

周壁はほとんど残っていないが、周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約13～22cm、深さ３～６cmの浅いものである。南側は残りが悪く、途中から確認できなくなる。残存部分の床面規模は長軸5.32m、残存部短軸1.62mである。

竪穴住居10に伴う確実は柱穴は不明であるが、規模から柱穴の可能性が推測されるものにＰ１～５が存在する。このうち、Ｐ１～３は竪穴住居８によって25cm程度の削平を受けているため残存深さは僅かである。Ｐ１は径26cm・残存深さ15cm、Ｐ２は径28cm・残存深さ30cm、Ｐ３は径31cm・残存深さ21cmを測る。Ｐ４は竪穴住居８の周壁にかかるもので、径54cm以上・深さ48cm、Ｐ５は上部に撹乱を受けるが径26cm・深さ70cmを測るものである。Ｐ１～３はほぼ直線状に位置し、Ｐ４・５も対応する位置にある。そのため、Ｐ３に対応するものが調査地外部分にあると想定すれば、６本柱の構造であった可能性もある。

検出できた遺物は僅かであるが、そのうち甕53、高坏坏部54を図化した。どちらも埋土中からの出土である。しかし、埋土がほとんど残っておらず、削平を受けていることから、出土遺物はほぼ床面近くからの出土と判断できる。

竪穴住居10は、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考えられるもので、同時期の竪穴住居９よりも切り合い関係から古い遺構である。（西川）

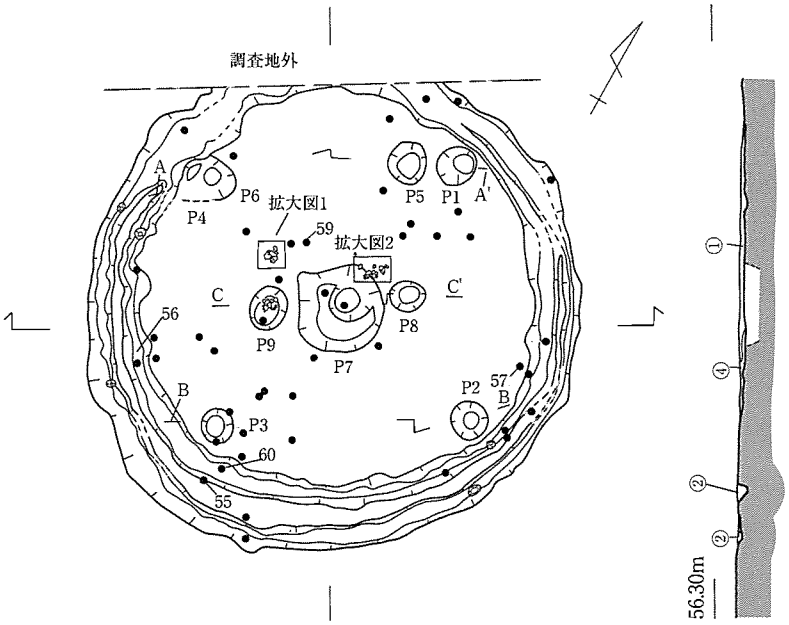
竪穴住居11（図30～32、図版７・56）

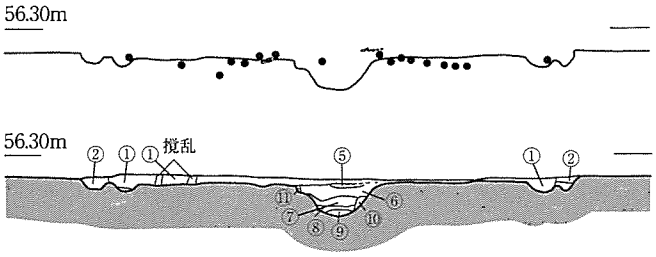
竪穴住居11は、調査地中央部北端のＦ・Ｇ７グリッドにまたがって位置する竪穴住居であるが、北側はわずかに調査地外に掛かっている。耕作土直下で検出した。

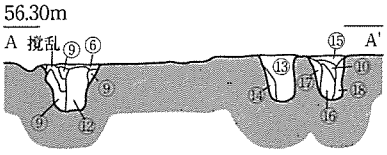
竪穴住居11は平面円形を呈し、検出面での規模は長径5.22m、残存部短径4.92mを測る。周壁下に２条の周壁溝が存在するが、①層埋土が②層を切り込んでいることから、床面積の縮小を伴う建て替えが１度行われていると判断した。内側の新しいものを竪穴住居11ｂ、外側の古いものを竪穴住居11ａと呼称し、それぞれについて以下で記述する。

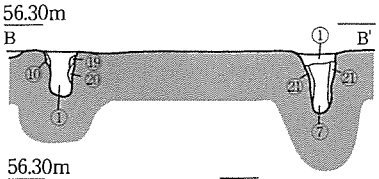
竪穴住居11ｂは、床面規模が長軸4.23m、短軸4.18mで、周壁溝内の床面積は16.2㎡を測る。削平のため周壁及び埋土はほとんど遺存していない。

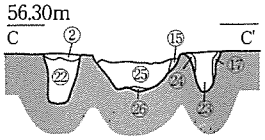
検出された周壁溝は、幅約14～31cm、深さ５～９cmを測る。北側は後述する竪穴住居11ａの周壁溝と重なるため形態が不明確となる。周壁溝は全体としては円形を呈するが、細部を見ると凹凸を繰り返すいびつな形態であり、溝の内形と外形はほぼ対応した変化をしている。

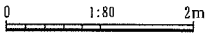












①暗褐色粘質土（炭少量混）
②暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土
④暗褐色粘質土（炭小片混）
⑤暗褐色粘質土（地山土ブロック・焼土・炭少量混）
⑥黒褐色粘質土
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑧暗褐色粘質土（地山土ブロック・礫少量混）
⑨褐色粘質土（暗褐色土ブロック多量混）
⑩暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑪地山土ブロック
⑫暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑬にぶい黄褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑭明褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
⑮褐色粘質土
⑯褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑰褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
⑱褐色粘砂土
⑲褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑳明褐色粘質土
㉑明褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
㉒明褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
㉓黒褐色粘砂土（地山土ブロック・炭少量混）
㉔黄褐色粘質土（炭少量混）
㉕礫
㉖灰黄褐色粘質土

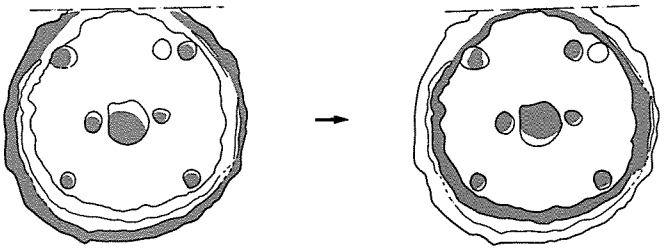


図30　竪穴住居11（１）

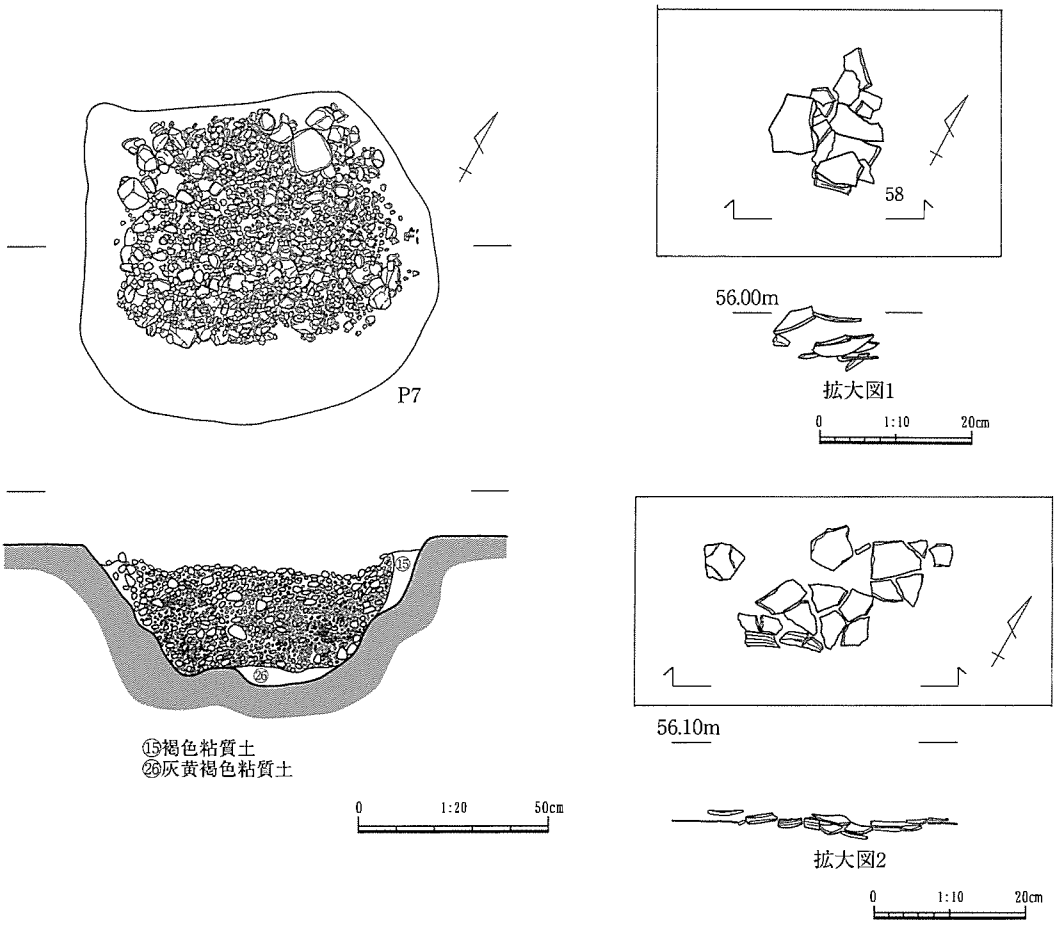


図31　竪穴住居11（２）

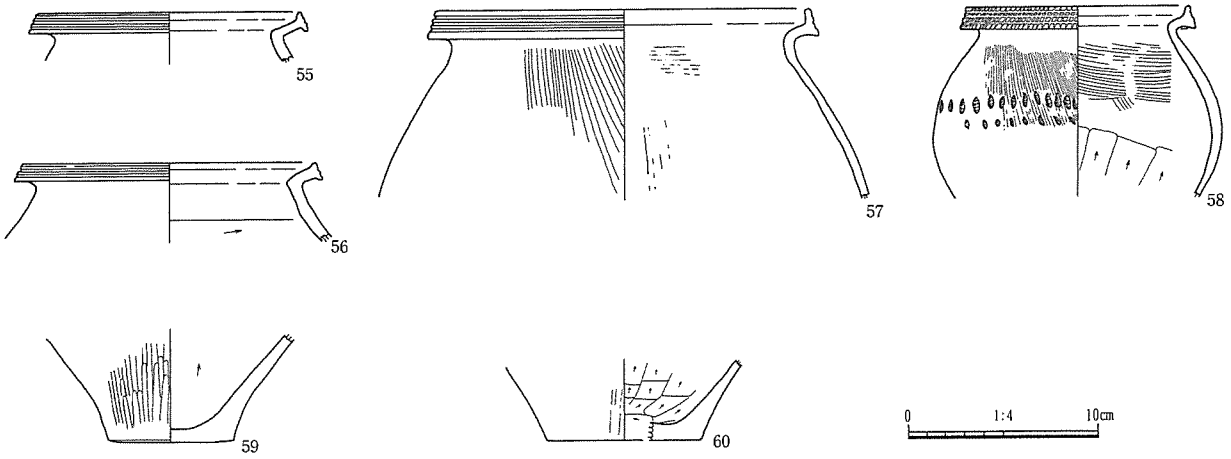


図32　竪穴住居11出土遺物

主柱穴は、周壁溝から約10～30cmの位置にあるＰ２・３・５・６の４本と推測される。Ｐ７は中央ピットであり、住居のほぼ中央に位置する。Ｐ７は、底面に段が存在する底面形態や図31のＰ７断面で礫層（㉕層）が⑮層を切り込んでいること、また礫層はＰ７の北に寄っていて全面に存在するものではないことから、再掘削が行われていると考えられる。そのため、竪穴住居11ｂに伴うものをＰ７ｂ、竪穴住居11ａに伴うものをＰ７ａとする。Ｐ７ｂは長軸92cm、短軸64cm以上の隅丸方形状を呈し、深さは36cmを測る。最上部が土で覆われるが、それ以下には径２～４cmのものを中心とする礫が厚さ

27cmにわたってびっしりと詰まっていた。このような例は周辺遺跡においては、管見の限りでは認められないが、兵庫県三田市の奈カリ与遺跡東尾根区１号住居に、中央壙に円礫をつめた例が存在する。[1] Ｐ７の脇には、Ｐ８・９が存在する。これらは棟を支える補助柱と考えられるものである。Ｐ８は長軸37cm・深さ43cm、Ｐ９は長軸47cm・深さ53cmを測る。Ｐ９では、底面から僅かに浮いた位置から径２～７cmの小礫が20個程度検出された。

焼土面及び貼り床は認められない。

検出できた遺物は多くはないが、そのうちで甕55～58、底部59・60を図化した。埋土がほとんど存在しないためいずれの遺物も混入の可能性を完全には排除できないが、土器から判断する限り同一時期の遺物であり、いずれも竪穴住居11ｂに伴う床面直上の遺物と判断する。

出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。

竪穴住居11ａは、床面規模が長軸4.79m、残存部短軸4.67mで、周壁溝内の床面積は19.0㎡を測る。竪穴住居11ｂと同じく、削平のため埋土はほとんど遺存していない。

(1)『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅱ』兵庫県教育委員会　1983

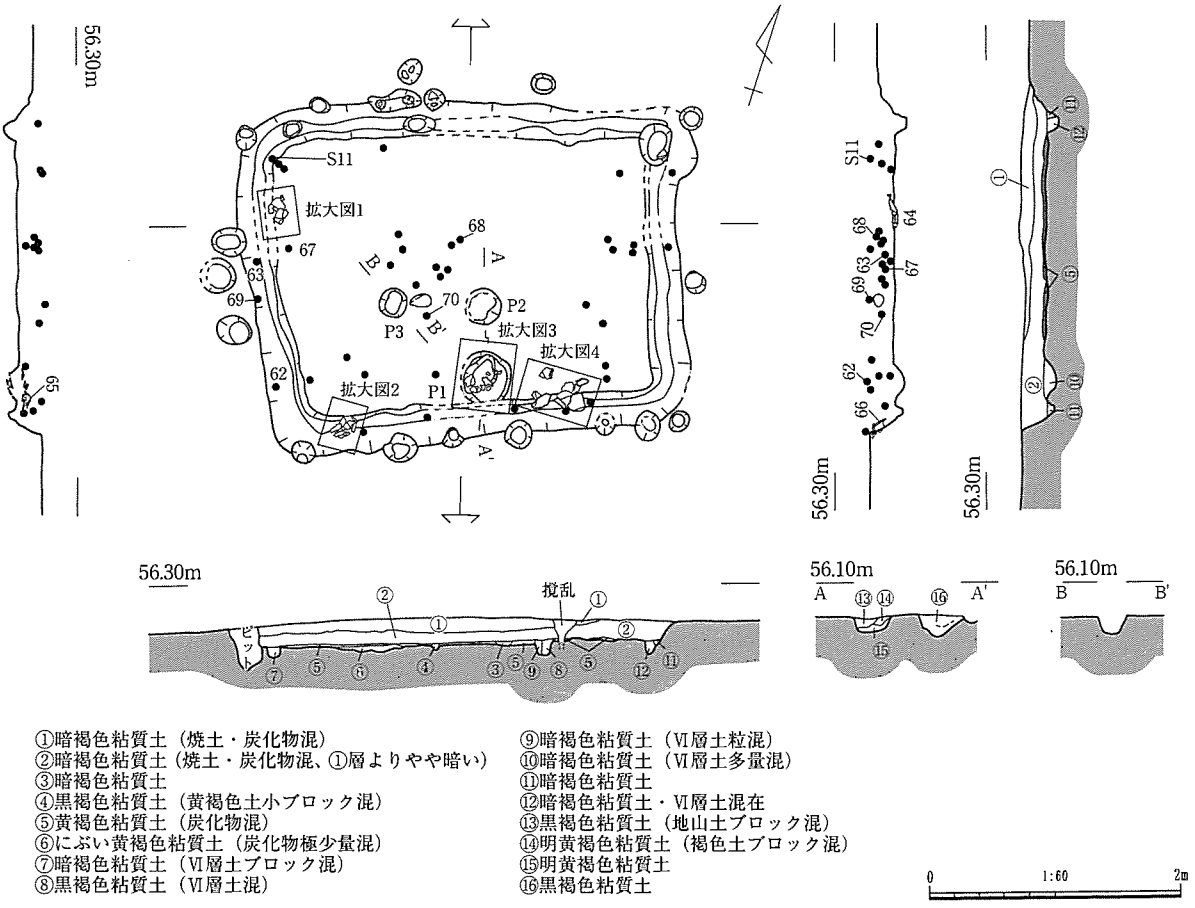


図33　竪穴住居12（１）

検出された周壁溝は、幅約14～30cm、深さ３～７cmを測る。北側は前述した竪穴住居11ｂの周壁溝と重なるため形態・規模が不明確となる。

主柱穴は、周壁溝から約20～30cmの位置に存在するＰ１～４の４本と推測される。このうち、Ｐ２・３は前述した建て替え後の竪穴住居11ｂにおいても柱穴配置から考えて再利用されたと推測されるものである。補助柱のＰ８・９については、断面観察では掘り直し等の痕跡は確認できないが、竪穴住居11ｂは竪穴住居11ａと同一の柱穴配置構造を採用していたと推測されることから、Ｐ８・９に先行する補助柱が存在した可能性が高いと考える。中央ピットのＰ７ａはＰ７ｂに切られるために明確な形態・規模は不明であるが、Ｐ７ｂはやや北寄りに中心があり、南辺はＰ７ａの輪郭が残っていることから判断すると、長軸90cm程度の平面形が隅丸長方形状を呈するものであったと推測される。その埋土は、Ａ－Ａ′の⑧～⑬層である。

焼土面及び貼り床は認められず、検出された僅かな遺物の内で図化できたものはない。

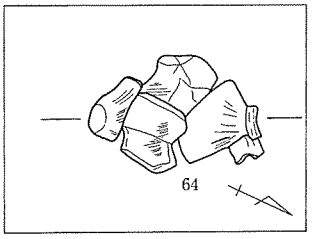
竪穴住居11ｂよりも僅かに古い遺構であるため、同じく弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

竪穴住居12（図33～35、図版８・57）

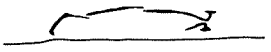
竪穴住居12は、調査地中央部北端のＧ７・８グリッドにまたがって位置する。北東約４ｍには竪穴住居11が存在する。

竪穴住居12は平面形が長方形を呈する遺構である。その規模は長軸3.45m、短軸2.50～2.76m、検出面からの最大の深さは0.23mを測る。

周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約13～23cm、深さ６～10cmを測る。床面規模は長軸2.96m、短軸2.01～2.20mで、床面積は

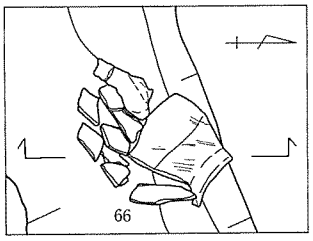


56.00m

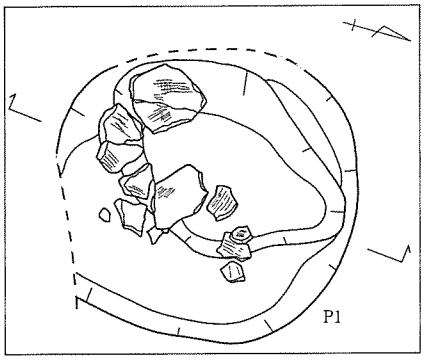


拡大図1

0　1:10　20cm

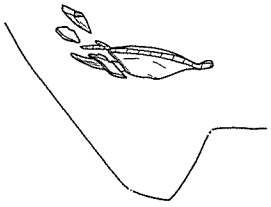


56.00m



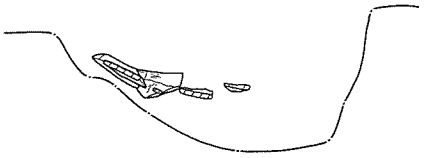
55.90m

56.00m



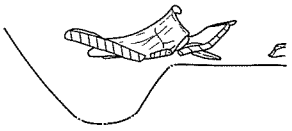
拡大図2

0　1:10　20cm



拡大図3

0　1:10　20cm



拡大図4

0　1:10　20cm

図34　竪穴住居12（２）

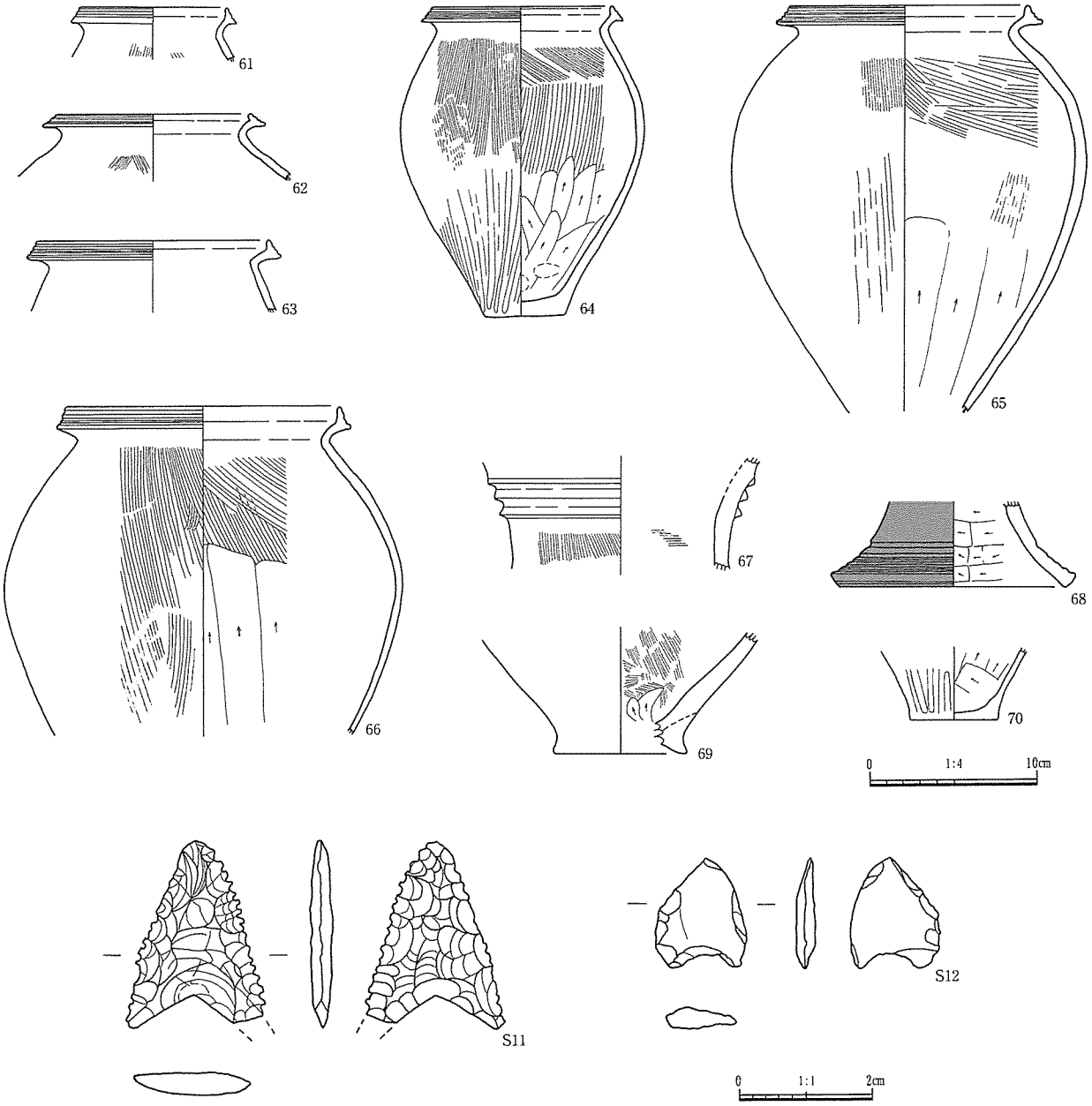


図35　竪穴住居12出土遺物

7.3㎡である。

主柱穴と考えられるものは存在しないが、住居掘り方脇に径15～30cm・深さ20～30cm程度を中心とする小穴が取り囲むように存在している。いずれも形態はいびつなもので、規格的なものではない。床面上には３基の小穴が存在する。Ｐ１は床面南辺中央にあり、周壁溝と接する。長軸43cm・深さ18cmを測る。埋土は１層であるが中位付近から土器胴部片が出土した。Ｐ２は長軸29cm・深さ12cm、Ｐ３は長軸22cm・深さ15cmを測るものである。

床面には薄い貼り床が存在する。

埋土は暗褐色系の土で、人為的な埋め戻しなのか自然堆積なのかは判断できない。

埋土中から出土した遺物の内、土器61～70、石器Ｓ11・12を図化した。床面直上からは64・65が出土した。共に周壁溝脇にあり、64は横倒しで潰れた状況が認められる。

出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

２．掘立柱建物

検出した掘立柱建物で当該期のものと認められるものは、少なくとも６棟ある。これらの分布は、調査地平坦部のほぼ10ライン以東の全域に分布する。

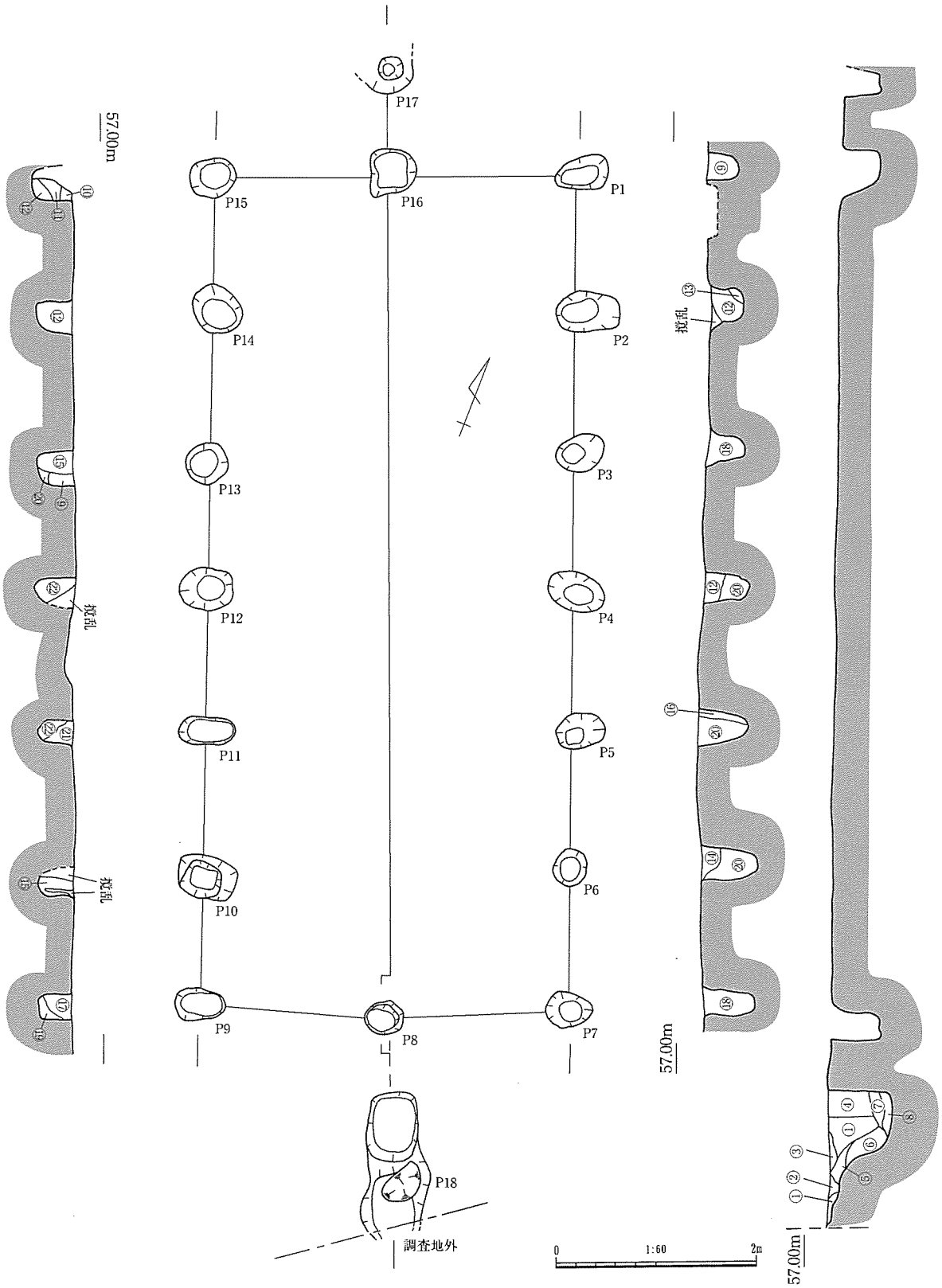


図36　掘立柱建物１

①暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック混）
②暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック多量混）
④暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック混、粘性強い）
⑤暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック少量混、粘性強い）
⑥暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混、粘性強くやや暗い）
⑦暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック少量混）
⑧暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック少量混、⑦層より暗い）
⑨暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック、地山Ⅵ層ブロック共に混）
⑩暗褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
⑪暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
⑫暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
⑬暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混、⑫層より暗い）
⑭暗褐色粘質土（褐色土ブロック、炭化物少量混）
⑮暗褐色粘質土（炭化物少量混）
⑯褐色粘質土（地山Ⅴ層ブロック少量混）
⑰暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
⑱暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック少量混）
⑲暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック、炭化物共少量混）
⑳暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック、炭化物共少量混）
㉑暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック、褐色土ブロック共に混）
㉒暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック、黄褐色土ブロック共に少量混）

表１　掘立柱建物１柱穴計測表

柱穴番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面の高さ(m)	柱穴番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面の高さ(m)
P1	54	30	33	56.45	P10	57	42	36	56.43
P2	63	42	36	56.4	P11	57	24	36	56.42
P3	48	36	39	56.38	P12	54	42	39	56.42
P4	60	39	45	56.35	P13	42	42	36	56.37
P5	48	36	51	56.37	P14	54	36	36	56.38
P6	39	33	57	56.29	P15	48	39	39	56.35
P7	48	36	51	56.32	P16	45	42	36	56.32
P8	39	33	48	56.25	P17	48※	24※	36	56.3
P9	51	33	33	56.13	P18	39	132※	63	56.22

※撹乱によって破壊、調査地外に続くため残存値

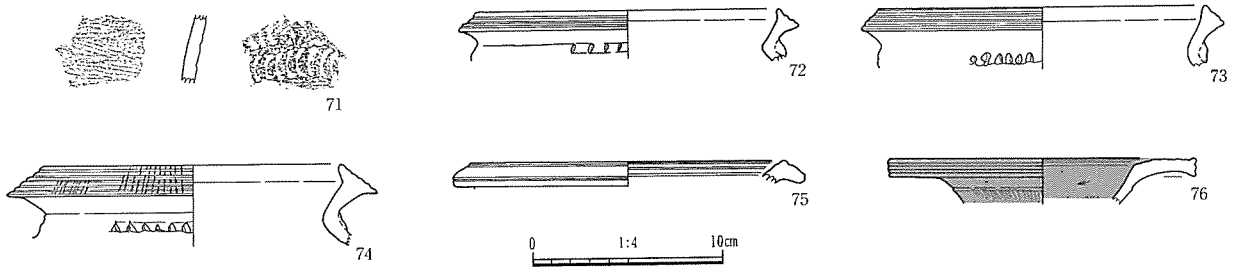


図37　掘立柱建物１出土遺物

掘立柱建物１（図36・37　図版９・57）

Ｉ６・Ｊ６グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。独立棟持柱を備える大型掘立柱建物である。古墳時代後期の竪穴住居18と時期不明の掘立柱建物33と重複し、前者に後出し後者との新旧関係は不明である。南側独立棟持柱掘り方の南端は調査地外に外れる。規模は梁行２間（3.7m）、桁行６間（8.3m）である。床面積は30.5㎡である。棟柱の長さは約10.4mと想定される。棟の方位は西に19度傾いた南北棟である。北側の独立棟持柱Ｐ19は竪穴住居18に切られるため、その規模・形態は不明である。南側の独立棟持柱Ｐ18は、柱材を滑らせる斜路を有し、上端・底面とも平面形は隅丸の長方形を呈する。柱痕が遺存し、棟持柱は掘り方の北壁に接して直立していた。柱材の径は27cm前後と想定される。底面との間に間層を置いているため、掘り方底面には柱当たりは残っていなかった。その他の柱穴は、上端の平面形および底面の平面形が、円形のもの、楕円形のもの、隅丸方形のものと様々である。柱材はすべて抜き取っている。規模は径（一辺）24cm～63cm、深さは33cm～57cmである。梁行の柱間距離は1.7m～1.9mである。桁行の柱間距離は1.3m～1.4mである。独立棟持柱の出は、北側では1.05m、南側では90cmである。柱穴の埋土はいずれも暗褐色を呈する。側柱は、本調査地内

で検出した一般的な規模の掘立柱建物の柱穴や、建物を構成しないピットと大差ない規模である。

出土遺物には、縄文土器と弥生土器がある。図化しえたのは６点である。71はＰ５から出土した縄文土器で、混入した遺物である。深鉢の胴部片で、外面には爪形文を施す。羽島下層Ⅰ式に相当し、縄文時代前期の土器である。以下の土器は全て弥生土器である。72はＰ１から出土した甕の口頸部片である。頸部に指頭圧痕貼付突帯を有する。73はＰ12から出土した甕の口頸部片である。口縁部端部は拡幅し５条の凹線に刻み目を施す。頸部には指頭圧痕貼付突帯を有するが、その上から強くナデており、その装飾性は退化している。75はＰ６から出土した壺の口縁端部片である。縁帯部の上端と下端に凹線を施す。76はＰ11から出土した、赤彩した壺の口頸部片である。頸部外面にはハケを施し、内面は口縁部との屈曲部までケズっており、口縁部内外面を強くナデ調整したうえで凹線を施す。

掘立柱建物１から出土した遺物の時期は弥生時代中期後葉の様相を示す。掘立柱建物１は当該期の遺構と考える。（日置）

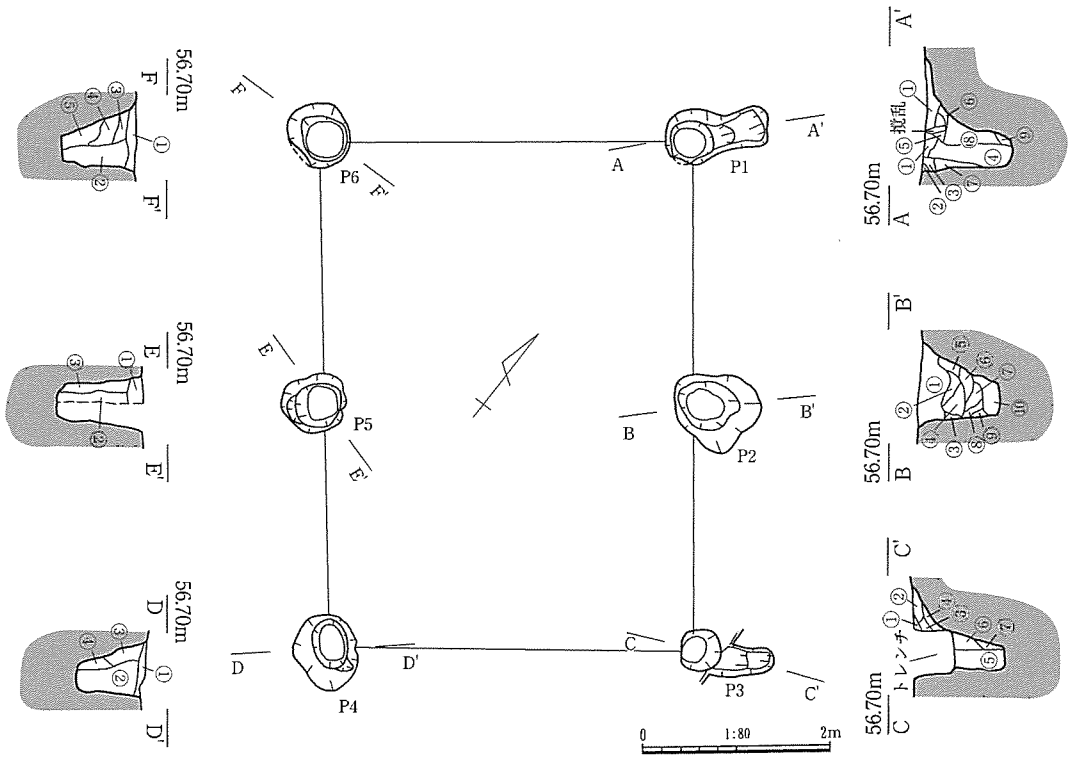
掘立柱建物２（図38・39　図版10・58）

Ｊグリッドで検出した。平坦部の中心よりやや西寄りに位置する。奈良時代の掘立柱建物９と重複する。規模は梁行１間（3.8m）、桁行２間（5.4m）である。床面積は20.6㎡である。棟の方位は西に38度傾いた南北棟である。柱間距離は梁行では3.8m、桁行では2.6～2.8mである。検出面での各柱穴上端の平面形は、径64cm～96cmの不整な円形と、長径116cm前後の小判形のものがある。隅柱であるＰ１とＰ３は小判形を呈し、建物の外側に柱材を落とし込むための斜路を有する形態である。それ以外の柱穴の平面形は不正な円形を呈するが、断面を観察すると、Ｐ２やＰ４、Ｐ６の掘り方は一方の壁面が緩やかである。そのため、いずれの柱穴も斜路を有する形態であった可能性がある。いずれの柱穴も柱材は抜き取っている。

遺物はＰ２から弥生土器がわずかに出土した。建物廃絶時の柱材を抜き取った後、柱穴を埋め戻す最終段階で土器片を廃棄している。図化できたのは２点である。77は赤彩された器台の脚部片である。78は甕の底部片である。ほかの時期の遺物は混入しておらず、遺物の時期から当該期の建物と考える。（日置）

掘立柱建物３（図40・41　図版10・58）

Ｈ７グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。規模は梁行１間（2.5m）、桁行２間（3.6m）で、床面積は8.9㎡である。棟の方位はほぼ正確な東西棟である。柱穴の埋土は暗褐色を呈する。柱材は抜き取っているが、Ｐ１、Ｐ２、Ｐ６の断面観察から、柱材の径は20cm以下であったと考えられる。出土遺物には、Ｐ３から脚部片79がある。摩滅が激しいが、中位に斜格子文をその天地に２条ないし３条の凹線文を施す。遺物はいずれも弥生時代中期後葉の様相を示す。遺物の時期から当該期の建物と考える。（日置）



P１
①暗褐色粘質土（地山Ⅴ層ブロック混）
②暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土
④暗褐色粘質土（Ⅳ層土ブロック少量混）
⑤黒褐色粘質土（Ⅴ層ブロック少量混）
⑥にぶい黄褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
⑦にぶい黄褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
⑧暗褐色　粘質土（地山Ⅵ層ブロック、黒色土ブロック少量混）
⑨にぶい黄褐色粘質土
P２
①暗褐色粘質土(炭化物、褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土（にぶい黄褐色土ブロック混）
④暗褐色粘質土（炭化物少量、地山Ⅷ層ブロック混）
⑤にぶい黄褐色　粘質土（黄褐色土ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック少量混）
⑦暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量混）
⑧暗褐色粘質土（炭化物少量混）
⑨暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
⑩暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
P３
①暗褐色粘質土(黄褐色土ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
③暗褐色粘質土(地山Ⅷ層ブロック少量混）
④暗褐色粘質土
⑤にぶい黄褐色粘質土（炭化物、地山Ⅷ層ブロック共に少量混）
⑥暗褐色粘質土(地山Ⅷ層ブロック少量混）
⑦にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック少量混）
P４
①褐色粘質土（炭化物少量混）
②にぶい黄褐色粘質土(黄褐色土ブロック、黒色土ブロック少量混）
③褐色粘質土（炭化物、黄褐色土ブロック共に少量混）
④褐色粘質土（暗褐色土ブロック、黄褐色土ブロック少量混）
P５
①暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土(炭化物少量、褐色土ブロック混）
③暗褐色粘質土（地山Ⅶブロック少量混）
P６
①にぶい黄褐色粘質土（炭化物少量、地山Ⅴ層ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（炭化物少量、にぶい黄褐色土ブロック混）
③にぶい黄褐色粘質土（炭化物少量混）
④暗褐色粘質土（炭化物少量、黄褐色土ブロック混）
⑤にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック少量混）

図38　掘立柱建物２

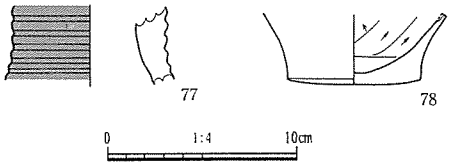


図39　掘立柱建物２出土遺物

表２　掘立柱建物２柱穴計測表

柱穴番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面の高さ(m)
P1	112	60	96	55.38
P2	160	80	88	55.45
P3	96※	44	92	55.48
P4	76	72	72	55.75
P5	72	64	96	55.62
P6	72	52	76	55.57

※トレンチによって破壊、残存値

Ｐ１
①暗褐色粘質土（地山ブロック混）
②黒褐色粘質土（地山ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山ブロック混）
④暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
⑤暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
Ｐ２
①暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
②褐色粘質土（地山ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
④褐色粘質土（地山ブロック少量混）
Ｐ３
①黒褐色粘質土（地山ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山ブロック、炭化物少量混）
Ｐ４
①黒褐色粘質土（炭化物微量混）
②暗褐色粘質土（地山ブロック、炭化物とも少量混）
③褐色粘質土（②層ブロック混）
Ｐ５
①暗褐色粘質土（地山ブロック、炭化物とも少量混）
②暗褐色粘質土（地山ブロック、炭化物とも少量混）
③暗褐色粘質土（地山ブロック、炭化物とも少量混）
④褐色粘質土
⑤暗褐色粘質土（地山ブロック、炭化物とも少量混）
Ｐ６
①褐色粘質土
②暗褐色粘質土
③褐色粘質土

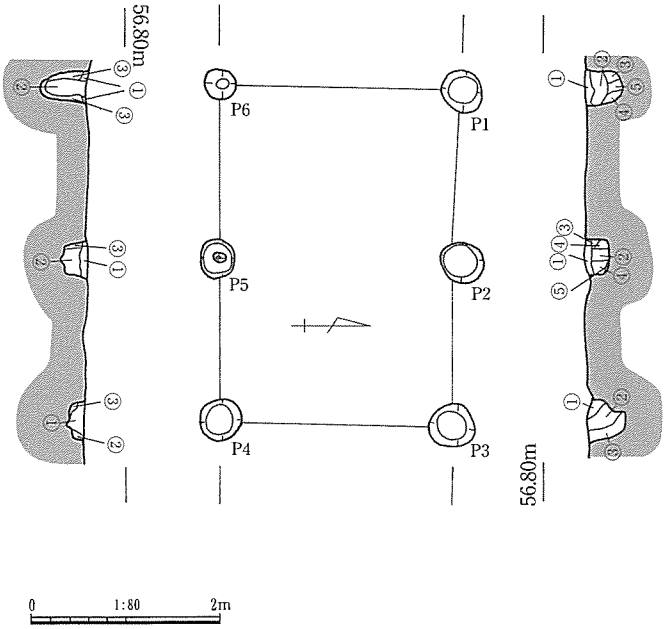


図40　掘立柱建物３

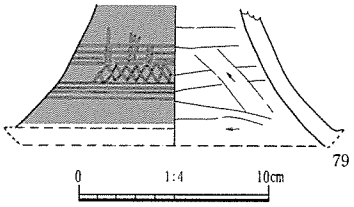


図41　掘立柱建物３出土遺物

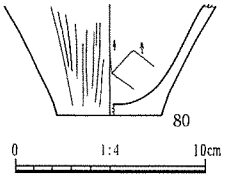
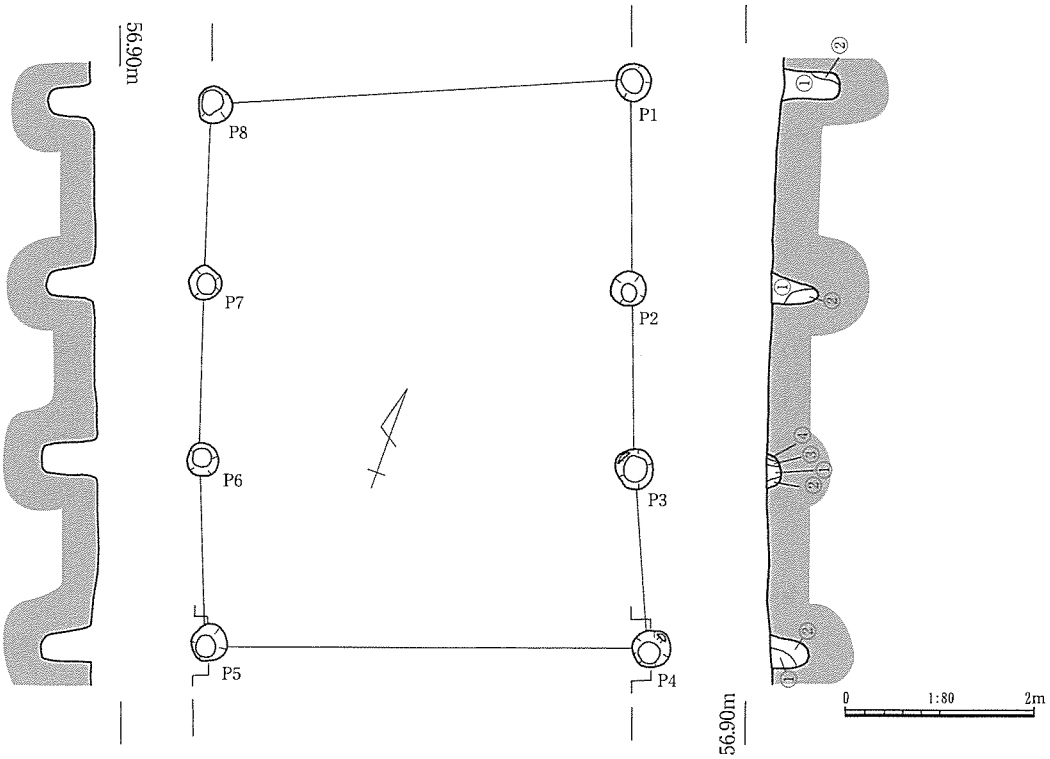


図43　掘立柱建物４出土遺物



Ｐ１
①黒褐色粘質土
②明褐色粘質土（褐色土ブロック多量混）
Ｐ２
①暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック極少量混）
②暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
Ｐ３
①黒褐色粘質土(炭化物、地山Ⅵ層ブロックともに少量混）
②暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
④にぶい黄褐色粘質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅵ層ブロック共に少量混）
Ｐ４
①暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
②にぶい黄褐色粘質土

図42　掘立柱建物４

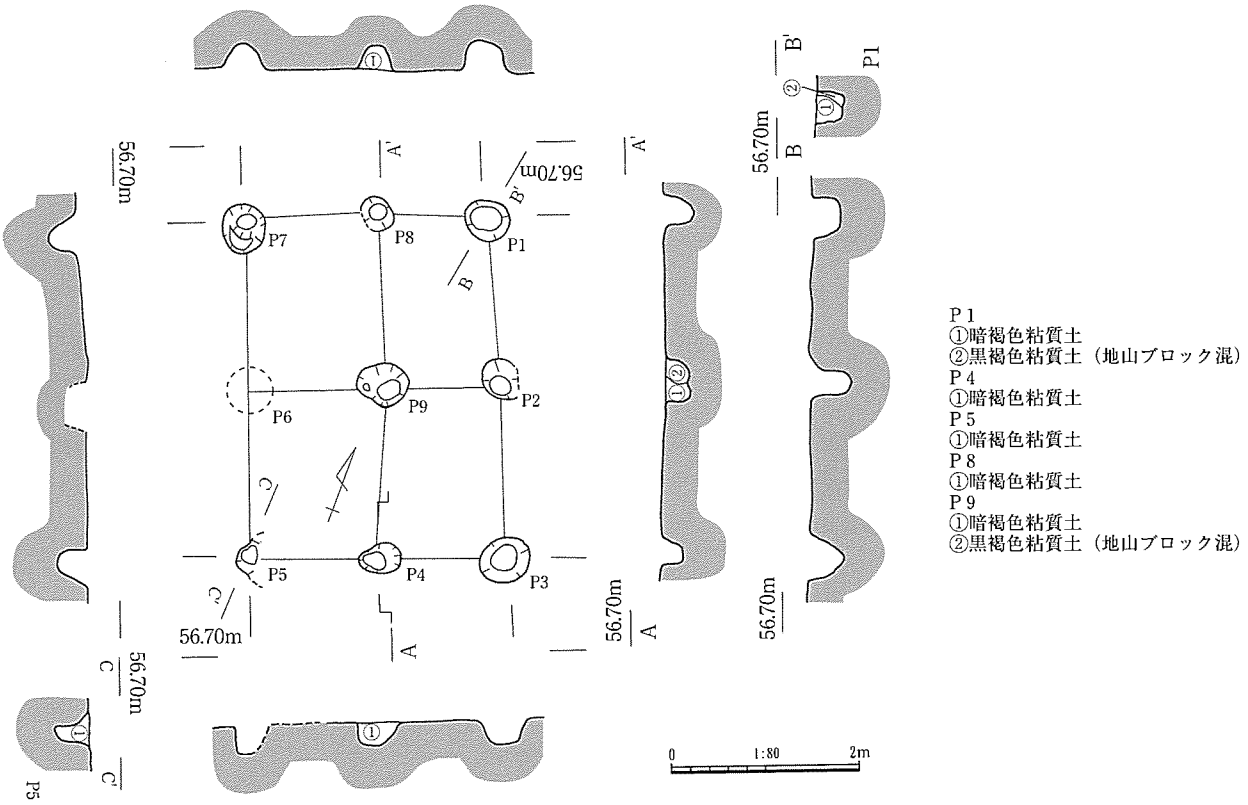


図44　掘立柱建物５

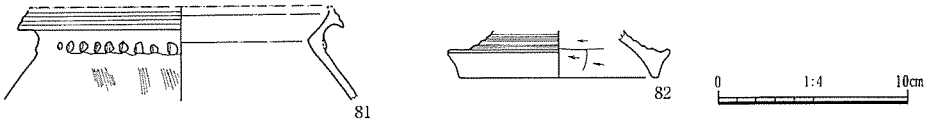


図45　掘立柱建物５出土遺物

掘立柱建物４（図42・43　図版11・58）

Ｊ８グリッドからＫ８グリッドにかけて検出した。平坦部の中心よりやや西寄りに位置する。規模は梁行１間（4.4）、桁行３間（６ｍ）である。床面積は26.4㎡である。棟の方位は28度西に傾く南北棟である。各柱穴の埋土は暗褐色を呈する。柱材は全て抜き取っている。

遺物はＰ２、Ｐ３、Ｐ４から土器が若干出土した。図化できたのは、Ｐ４から出土した弥生土器の底部80である。80は胴部に一部煤が付着する。遺物の時期から、おおまかに弥生時代中期の建物と考える。（日置）

掘立柱建物５（図44・45　図版11・58）

Ｉ８グリッドにおいて検出した。平坦部の中心よりやや西側に位置する。時期不明の土坑56～58、と重複する。掘立柱建物５はこれらの土坑を切るが、調査時に重複関係を誤認してしまい、Ｐ５の一部とＰ６の全体を検出できなかった。規模は梁行２間（2.7m）、桁行２間（3.6m）で、屋内棟持柱Ｐ９を有する９本柱の建物である。床面積は9.8㎡である。棟の方位は24度西に傾いた南北棟である。柱穴の埋土はいずれも暗褐色を呈する。遺物はＰ２から82が、Ｐ６から81が出土した。81は甕の口頸部片である。摩滅が激しくはっきりしないが、頸部には退化した指頭圧痕貼付突帯があり、口縁部には２条の凹線を施す。82は高坏の脚部で、シャープなつくりで外面には４条の凹線を、内面にはヘラケ

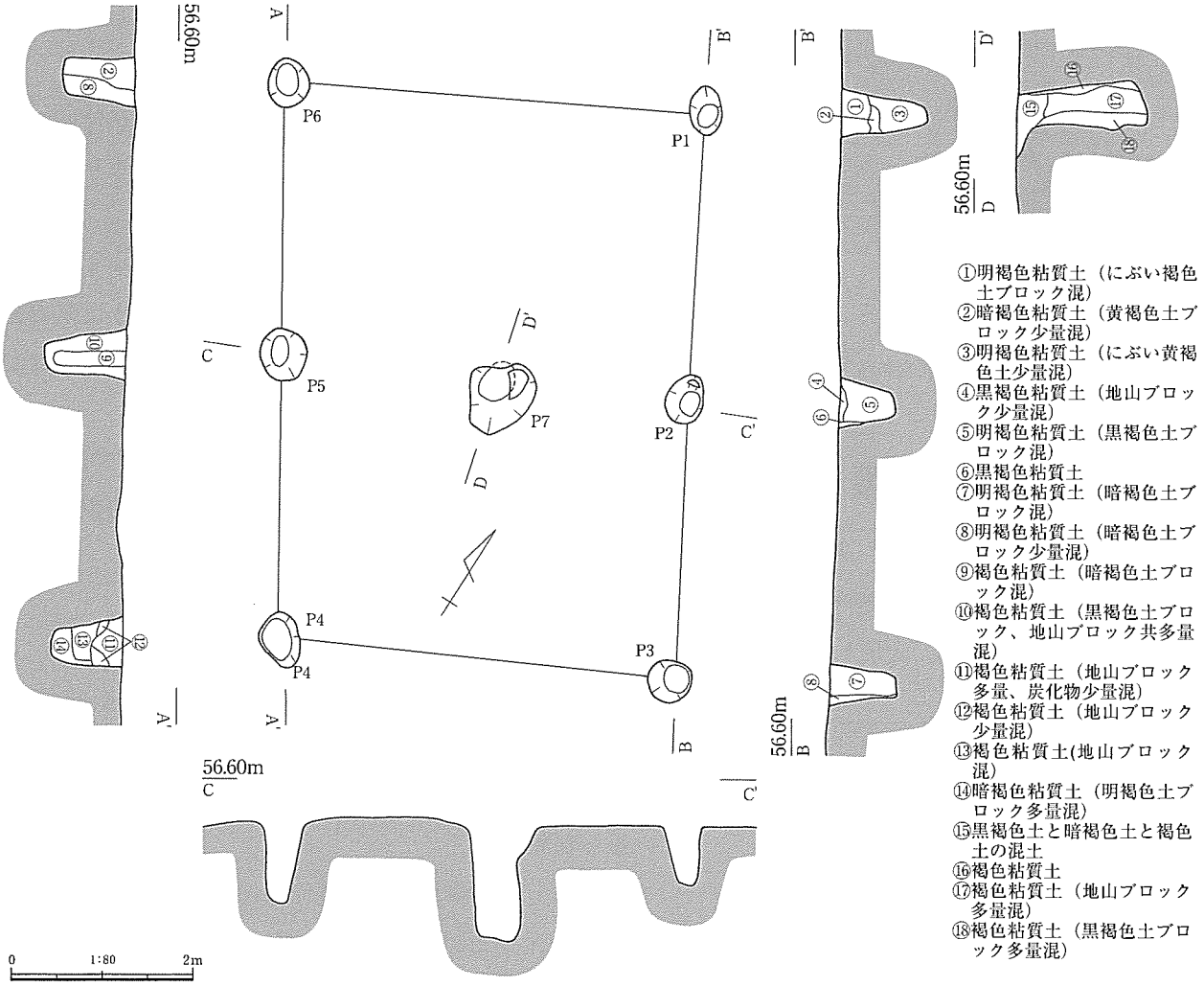


図46　掘立柱建物６

ズリを施す。遺物はいずれも弥生時代中期後葉の様相を示す。遺物の時期から当該期の建物と考える。本調査地内では、９本柱の掘立柱建物は他に検出していない。　（日置）

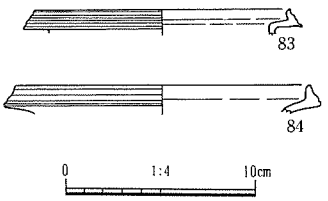


図47　掘立柱建物６出土遺物

掘立柱建物６（図46・47　図版11・58）

Ｆ５～Ｇ６グリッドにかけて検出した。平坦部の東側に位置する。なお、この付近から北東側は、調査地内で最も著しく削平されている部分である。規模は梁行１間（3.6m）、桁行２間（6.2m）である。床面積は22.4㎡である。棟の方位は西に29度傾いた南北棟である。屋内棟持柱（Ｐ７）を有する７本柱の建物跡である。Ｐ７は別のピットに切られる。各柱穴の埋土は地山土ブロックを多く含んだ褐色系の土からなり、Ｐ５・７以外の柱材は抜き取られていた。Ｐ７は他のピットとの重複があるため正確ではないが、平面形は径72～80cmの不整な円形で、深さは128cmである。Ｐ７は、側柱より一際大きい。遺物はＰ１、Ｐ３、Ｐ５から弥生土器の細片が少量出土したが、図化できたのは２点である。83はＰ１から出土した甕の口縁部片である。84はＰ３から出土した甕の口縁部片である。いずれも摩滅が激しいが、口縁部に凹線を施す。出土遺物の時期から当該期の遺構と考えたい。弥生時代中期後葉の様相を示す。遺物の時期から当該期の建物と考える。本調査地内では、このような平面形態の掘立柱建物は他に検出していない。　（日置）

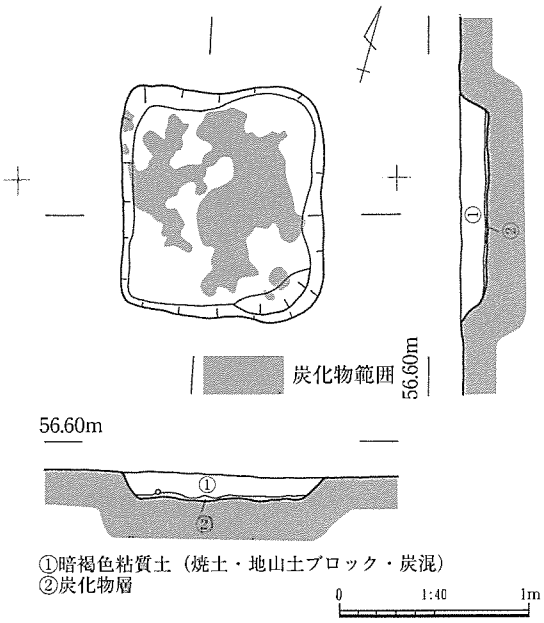


図48　土坑１

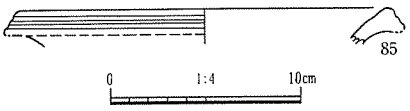


図49　土坑１出土遺物

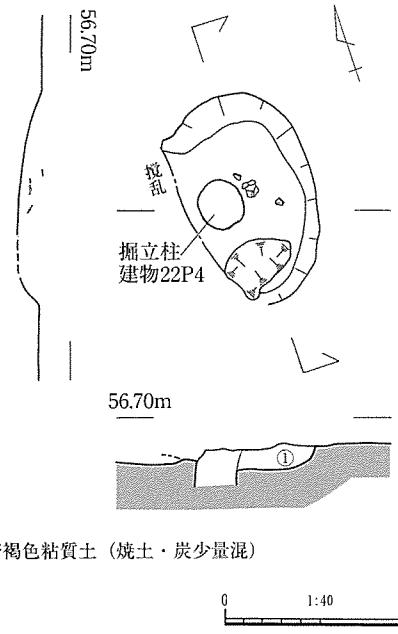


図50　土坑２

３．土坑

土坑１（図48・49　図版12・58）

土坑１は平坦部東端近くのＨ４グリッド中央部付近に位置する。標高は約56.5ｍである。掘立柱建物21のＰ５を切る。

土坑１は長軸118cm、短軸104cmの平面方形を呈する土坑である。現状では最大の深さは16cmを測る。埋土は暗褐色粘質土の１層のみであるが、底面には焼土を含む炭化物が存在していた。

埋土中から弥生土器の口縁部85が出土した。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

土坑２（図50・51　図版12・58）

土坑２は平坦部東端近くのＨ５グリッド東側に位置し、東方約５ｍには土坑１が存在する。標高は約56.6ｍである。掘立柱建物23のＰ６とは切り合う位置関係にあり、その前後関係は埋土の観察から掘立柱建物22Ｐ４が土坑２を切っていると判断した。

土坑２は土坑西側が後世の耕作に伴う削平のため失われているため全体形は不明であるが、現状では長軸114cm、短軸70cmの平面楕円形状を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは14cmを測る。確認できた埋土は暗褐色粘質土の１層のみである。

埋土の中位付近から土器胴部片がややまとまって出土した。また、出土地点不明ながら弥生土器の口縁部86・87、脚端部88が出土した。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

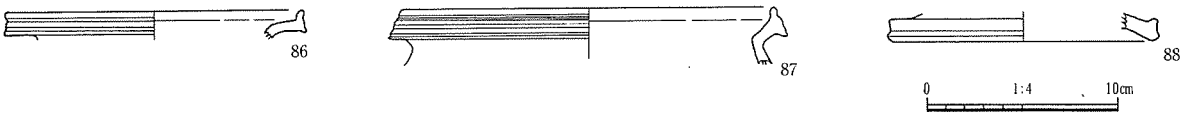


図51　土坑２出土遺物

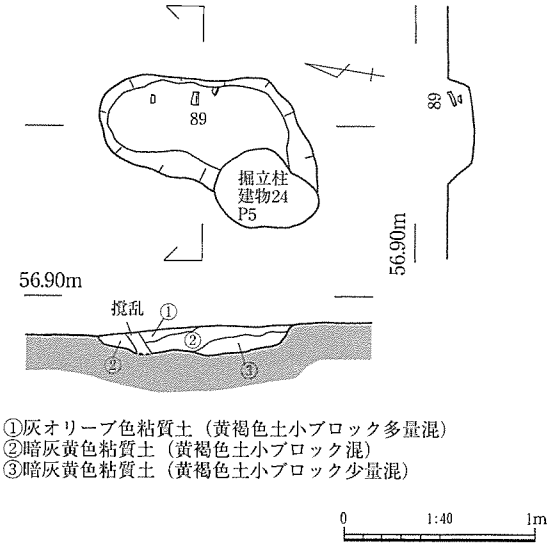


図52　土坑３

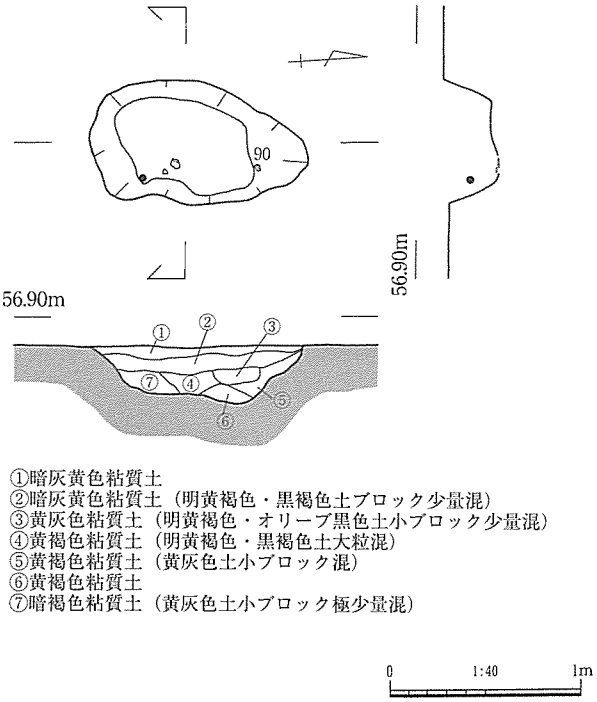


図54　土坑４

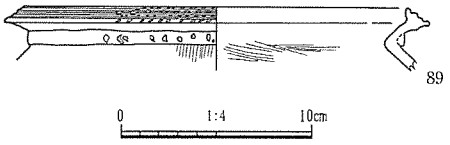


図53　土坑３出土遺物

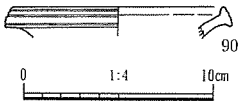


図55　土坑４出土遺物

土坑３（図52・53　図版12・58）

土坑３は平坦部中央部東寄りのＩ６グリッド東端に位置し、北東約13mには土坑２が存在する。標高は約56.8mである。掘立柱建物24のＰ５とは切り合う。その前後関係は埋土の観察から掘立柱建物24Ｐ５が土坑３を切っていると判断した。

土坑３は長軸125cm、短軸65cmの平面が不整な長楕円形を呈する土坑である。現状では最大の深さは16cmを測る。底面には低い凹凸が存在する。埋土は３層に分かれるが、いずれの層にも地山土Ⅵ層由来の黄褐色土小ブロックが混じっており、埋め戻しが行われた可能性が強い。

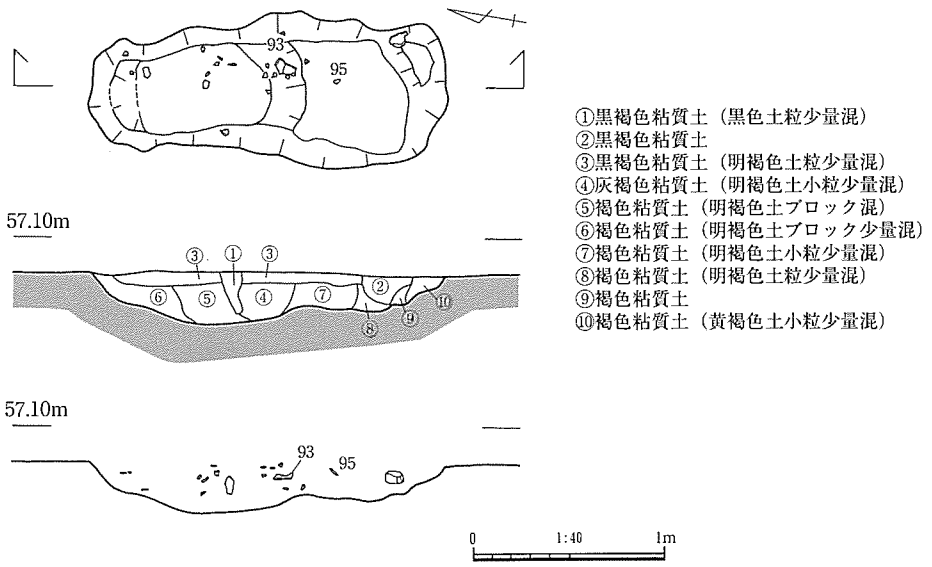
埋土の上部付近から弥生土器の口縁部89が出土した。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

土坑４（図54・55　図版12・58）

土坑４は平坦部中央部東寄りのＩ６グリッド東寄りに位置し、東約２mには土坑３が存在する。標高は約56.8mである。

土坑４は長軸116cm、短軸64cmの平面が不整な楕円形を呈する土坑である。現状では最大の深さは31cmを測る。埋土を７層に分けたがその違いはあまり無く、いずれの層にも地山土Ⅵ層由来の黄褐色系の土が含まれており、埋め戻しが行われた可能性が強い。

埋土の中位付近から弥生土器の口縁部90が出土した。土坑の用途は不明であるが、前述した土坑３と規模・形態が類似し、近接した位置に存在することから関連があると想定される。出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）



①黒褐色粘質土（黒色土粒少量混）
②黒褐色粘質土
③黒褐色粘質土（明褐色土粒少量混）
④灰褐色粘質土（明褐色土小粒少量混）
⑤褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
⑥褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混）
⑦褐色粘質土（明褐色土小粒少量混）
⑧褐色粘質土（明褐色土粒少量混）
⑨褐色粘質土
⑩褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）

図56　土坑５

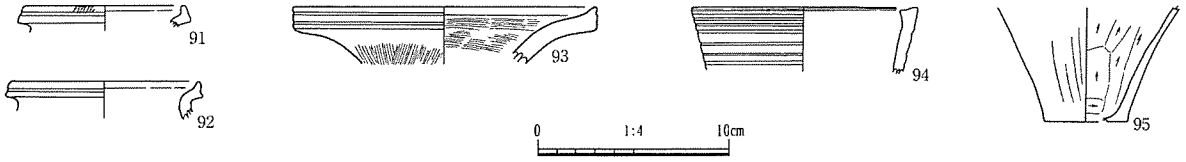
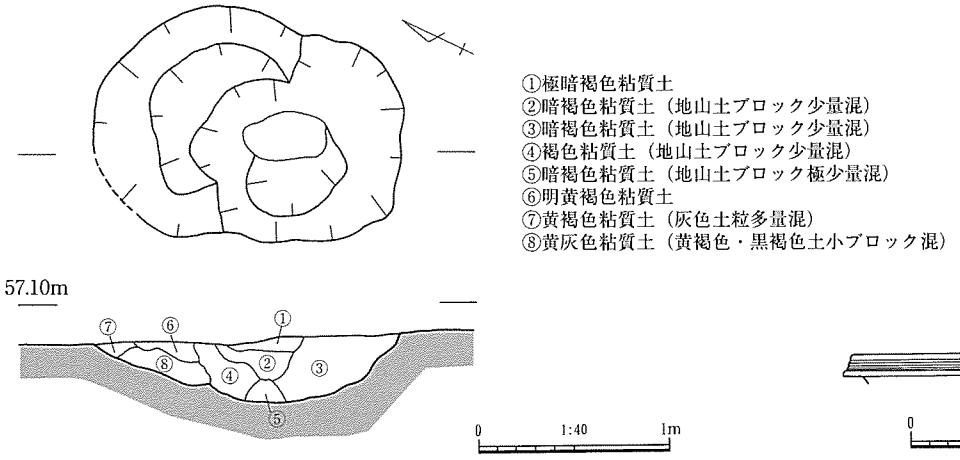


図57　土坑５出土遺物



①極暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
④褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑤暗褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑥明黄褐色粘質土
⑦黄褐色粘質土（灰色土粒多量混）
⑧黄灰色粘質土（黄褐色・黒褐色土小ブロック混）

図58　土坑６

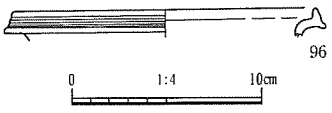


図59　土坑６出土遺物

土坑５（図56・57　図版12・58）

土坑５は平坦部南東際のＪ５グリッド南東寄りに位置し、東１ｍには竪穴住居10が存在する。標高は約56.9ｍである。

土坑５は長軸190㎝、短軸78㎝の平面長方形を呈する土坑である。底面は平坦であるが中央部で低い段をなし北側が一段低くなる。検出面からの最大の深さは28㎝を測る。埋土を10層に分けたが、褐色の埋土上に黒褐色の埋土が堆積する状況が認められた。

埋土の中位付近から弥生土器の口縁部91・92、壺93、無頸壺94、底部95が出土した。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

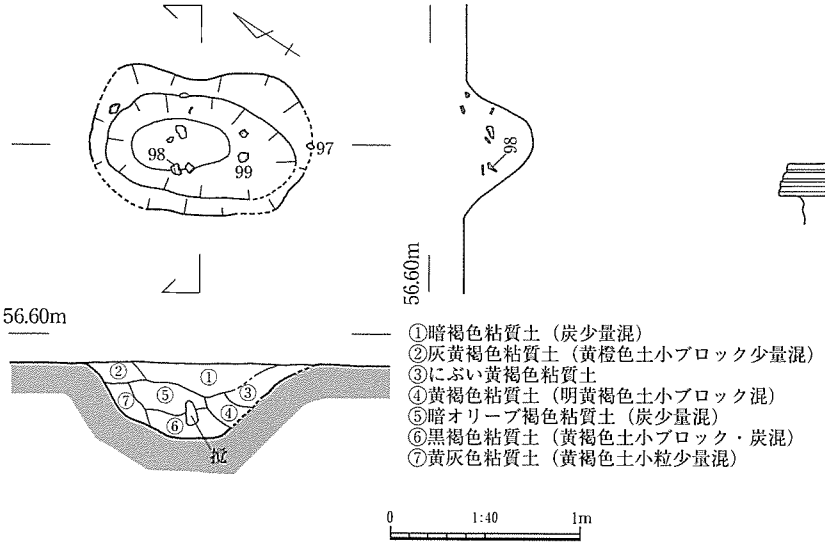


図60　土坑７

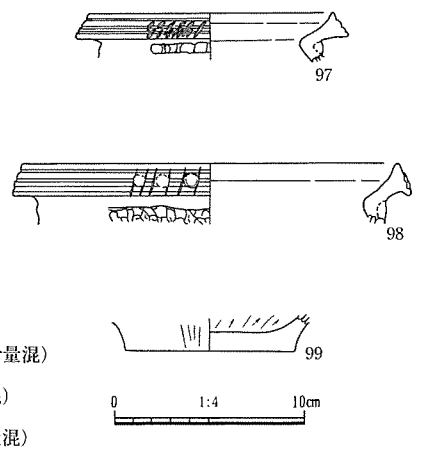


図61　土坑７出土遺物

土坑６（図58・59　図版12・58）

土坑６は平坦部南東際のＪ５グリッド南西寄りに位置し、東４ｍには土坑５が存在する。標高は約56.9ｍである。

土坑６は長軸165cm、短軸120cmの平面不整形を呈する土坑である。底面はややいびつで中央に向けて深くなるものの、途中で不明瞭な段を形成している。検出面からの最大の深さは36cmを測る。埋土を８層に分けた。

①層中から弥生土器の口縁部96が出土した。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

土坑７（図60・61　図版12・58）

土坑７は平坦部ほぼ中央部のＨ７グリッド南東寄りに位置し、南東約13ｍには土坑５が存在する。標高は約56.4ｍである。

土坑７は長軸118cm、短軸74cmの平面楕円形状を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは40cmを測る。埋土を７層に分けたが、褐色系の埋土に地山土が若干混じるものであり、自然堆積したものと考えられる。

埋土の中位から上部にかけて土器が出土した。このうち、弥生土器の口縁部97・98、底部99を図化した。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

土坑８（図62・63　図版13・59）

土坑８は平坦部南端近くのＫ７グリッド北東寄りに位置する。北東約６ｍには掘立柱建物１が存在する。Ⅲ層上面で検出した。

土坑８は長軸152cm、短軸132cmの平面不整な方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは32cmを測る。埋土を４層に分層したが、そのうち①層の暗褐色土と②層の黒褐色土の違いはごく僅かである。埋土を観察する限りにおいては人為的な埋め戻しの痕跡は認められず、自然堆積によるものと考える。

遺構内からは多くの遺物が底面から検出面近くまでの広い範囲から雑然とした状況で出土しており、このうち、弥生土器の甕100～111、壺112～115、頸部116、高坏117、底部118・119及び石鏃Ｓ13

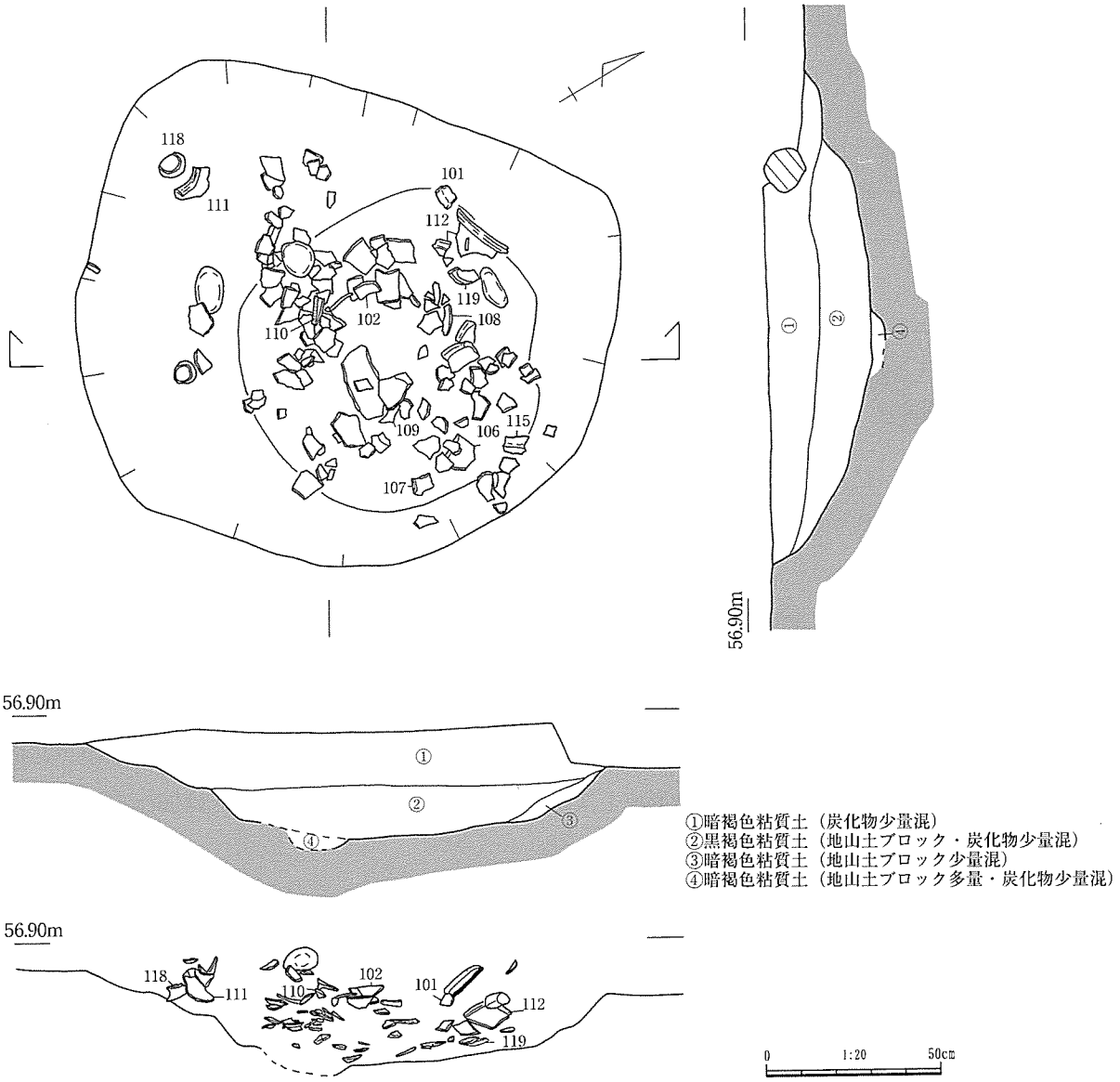


図62　土坑８

を図化した。100～103は口縁部下端が下垂しないものである。104～111は口縁部下端が下垂するもので、後出的な要素を持つ。109～111には頸部に突帯が貼り付けられる。112は広口壺で頸部上端に低い突帯が巡る。113・114は無頸壺で、口縁部下に焼成前穿孔が施されている。また、114の残存部には３個の棒状浮文が貼り付けられる。115は、器壁が厚く復元口径が45cmになる大型の甕と推測されるものである。口縁部には工具によって斜格子状の文様が描かれる。類似の遺物にテラス１出土の134が存在する。116は大型壺の頸部と推測されるものである。外面には縦方向に粘土紐を貼り付けて指押えを加える指頭圧痕貼付突帯の変形と推測される貼付文帯が存在する。117は高坏の坏部で、坏部がやや内傾する。Ｓ13は欠損部が存在するが、薄手で表裏ともに密な調整が施される石鏃である。

土坑内から多くの土器が出土したにもかかわらず、いずれも破片のみで全体形を復元できるようなものは存在していない。遺物の出土状況から考えて、人為的に廃棄された遺物の可能性が高いと推測する。

土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　　（西川）

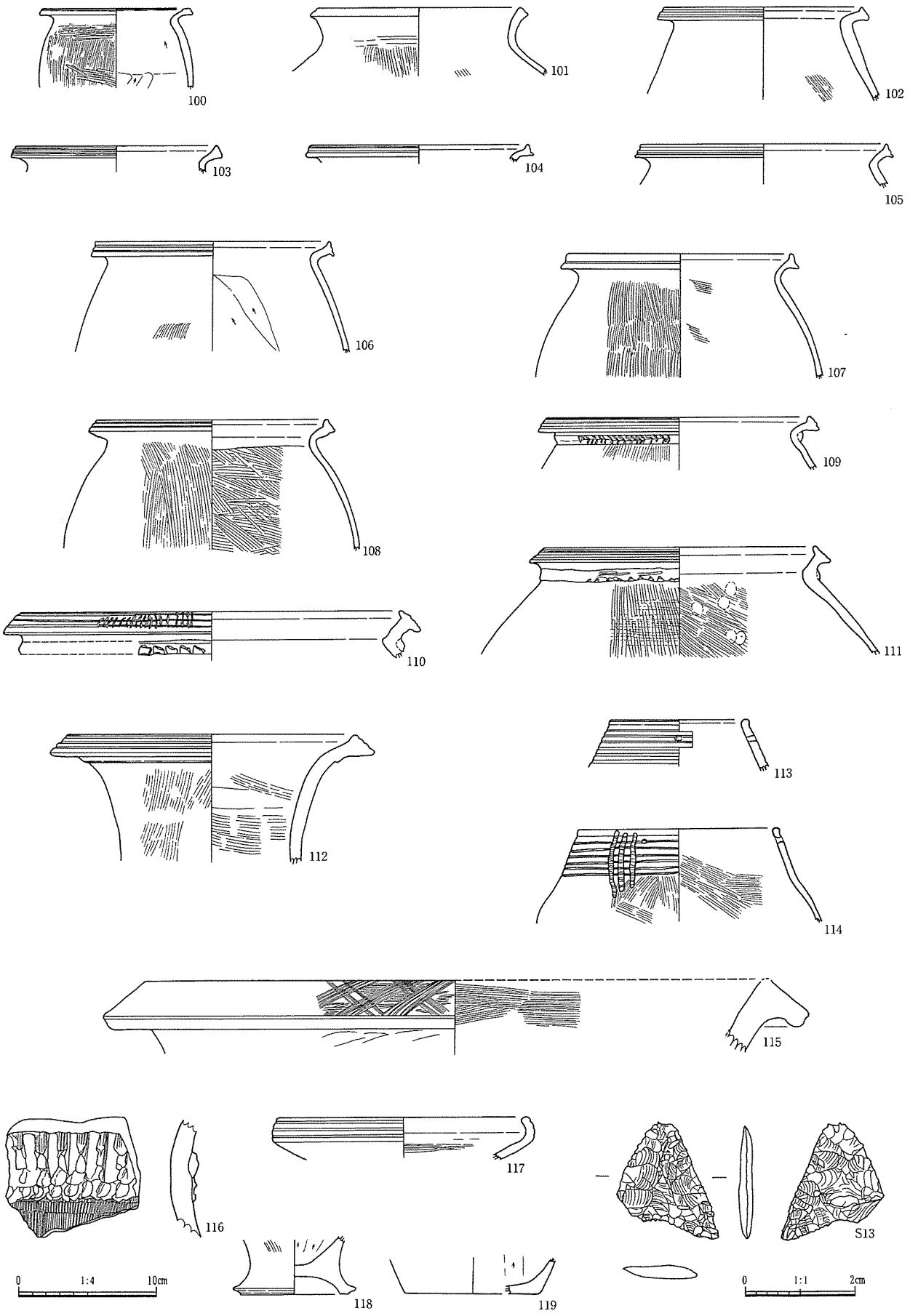

100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
S13
0
1:4
10cm
0
1:1
2cm

図63　土坑８出土遺物

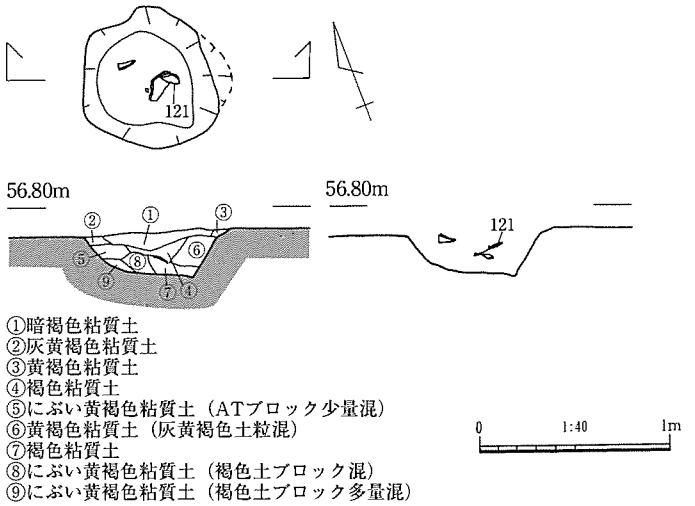


図64　土坑９

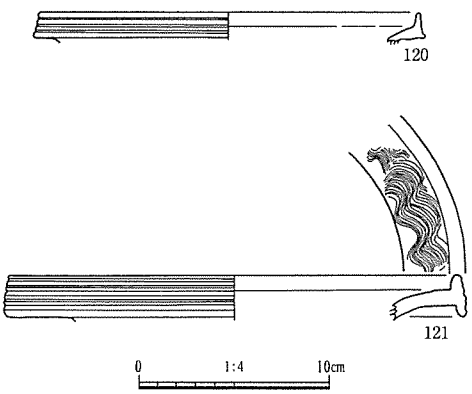


図65　土坑９出土遺物

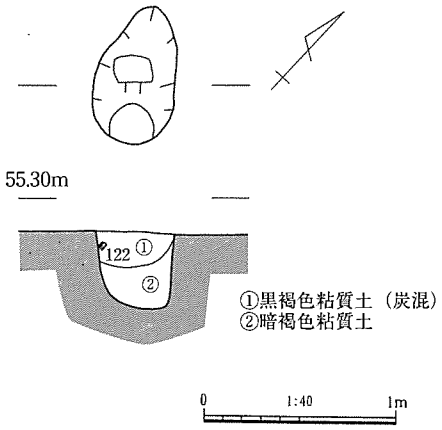


図66　土坑10

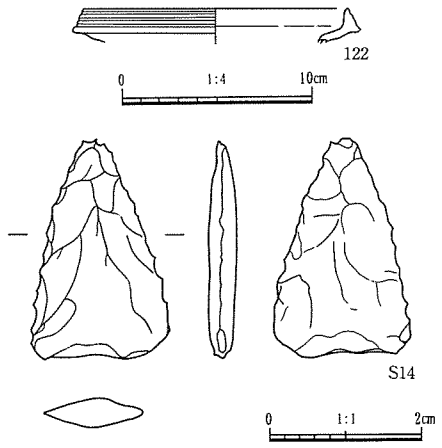


図67　土坑10出土遺物

土坑９（図64・65　図版12・58）

土坑９は平坦部南端近くのＫ７グリッド北西寄りに位置し、東約５ｍには土坑８が存在する。標高は約56.7ｍである。

土坑９は長軸80cm、短軸71cmの平面不整形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは26cmを測る。埋土を９層に分けたが、褐色系と黄褐色系の埋土が混在するものであり、自然堆積の可能性も否定はできないが、人為的な埋め戻しが行われている可能性が高い。

埋土の中位から上部にかけて土器が出土した。このうち、弥生土器の口縁部120、壺121を図化した。121は内面に波状文が施されている。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

土坑10（図66・67　図版58）

土坑10は調査地北東端近くのＥ４グリッド北東寄りに位置する。竪穴住居１と切り合う位置関係にあり、埋土の観察から土坑10が竪穴住居２に切られていると判断した。標高は約55.1ｍである。

土坑10は斜面にあるため一部が流失する。残存部の長軸74cm、短軸43cmの平面不整形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは41cmを測る。埋土を上下の２層に分けた。①層には炭片が含まれるが明確な形をなすようなものではないため流入によるものと考えられ、埋土は自然堆積したものと推測する。

埋土中から弥生土器の口縁部122、石鏃Ｓ14が出土した。土坑の用途は不明であるが、出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。　（西川）

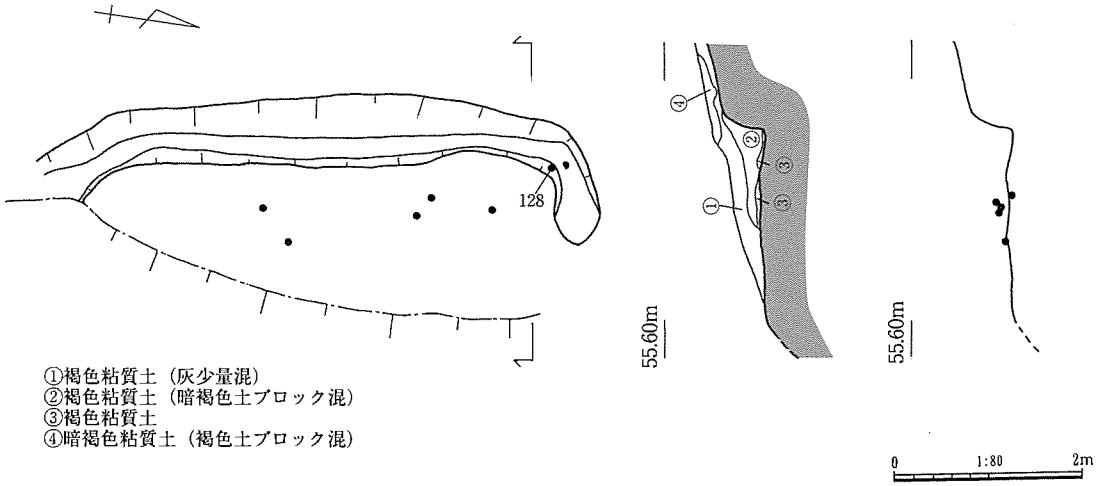


図68　テラス１

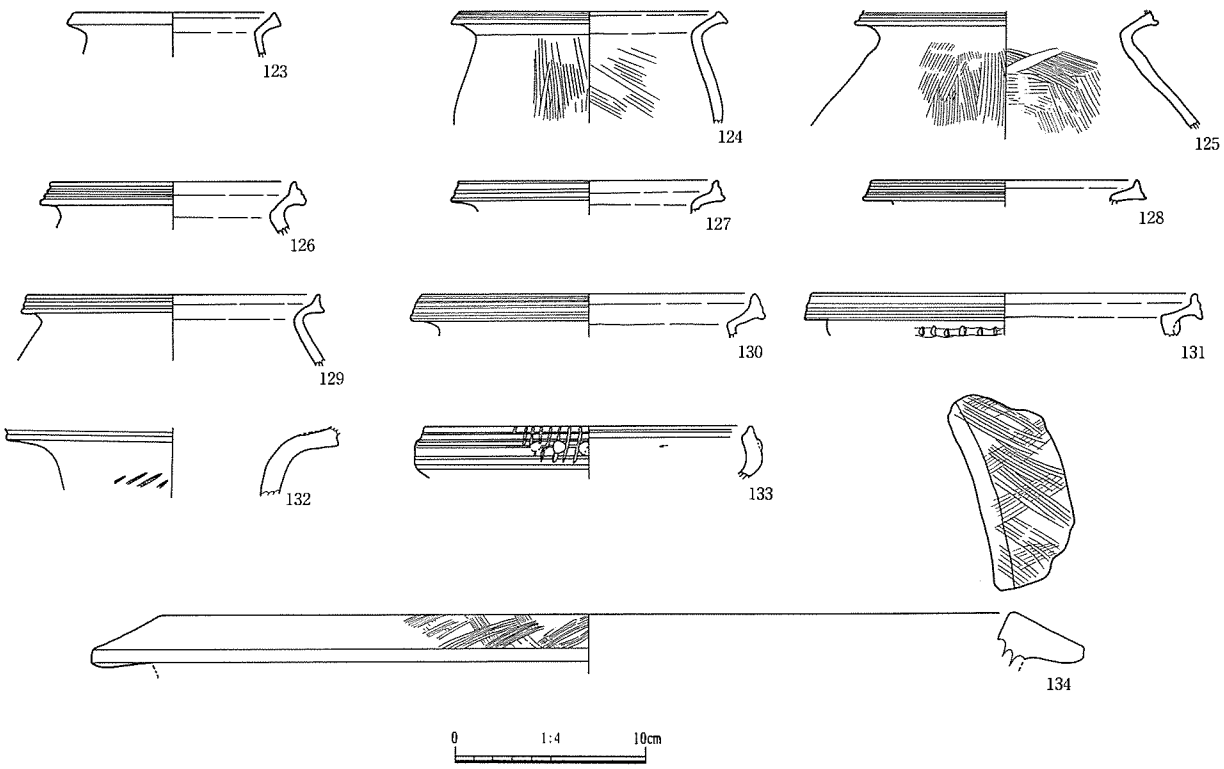


図69　テラス１出土遺物

４．テラス

テラス１（図68・69　図版58）

テラス１は調査地東端近くのＥ３からＥ４グリッドにかけて位置する。後述するテラス２・３と切り合う位置関係にあるが、土層断面により確認することは出来なかった。標高は約55.3mである。

遺構は斜面部に存在するため東側が流失している。残存部の長軸5.95m、短軸2.33mで、平面「コ」字状を呈する。検出面からの最大の深さは41cmを測る。

埋土中から弥生土器の甕123～131、壺132・134、高坏133が出土した。128を除き出土位置が不明であるが、いずれも流れ込みによるものと推測される。周壁溝が存在するため一部が流失した竪穴住居状の建物が存在した可能性もあるが、柱穴が存在していないため判断できない。出土した遺物から弥生時代中期後葉の遺構と考える。（西川）

第３節　弥生時代後期の調査

図70　弥生時代後期遺構位置図

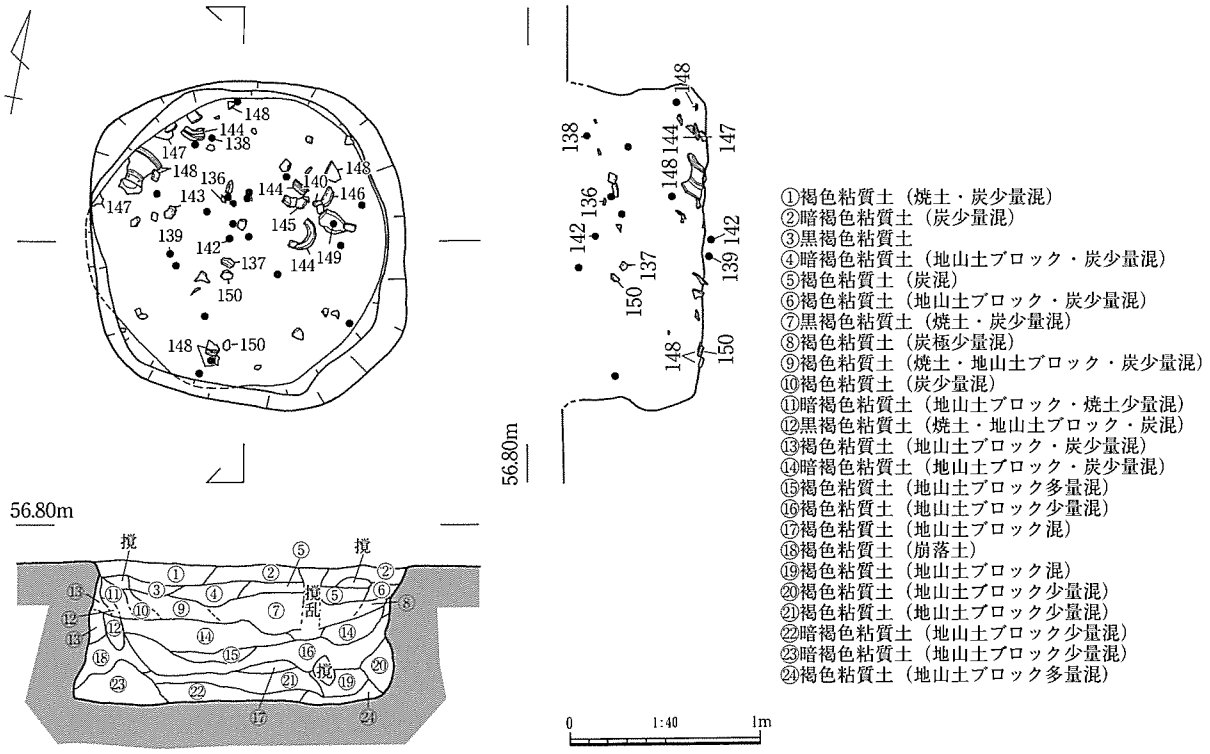


図71　土坑11

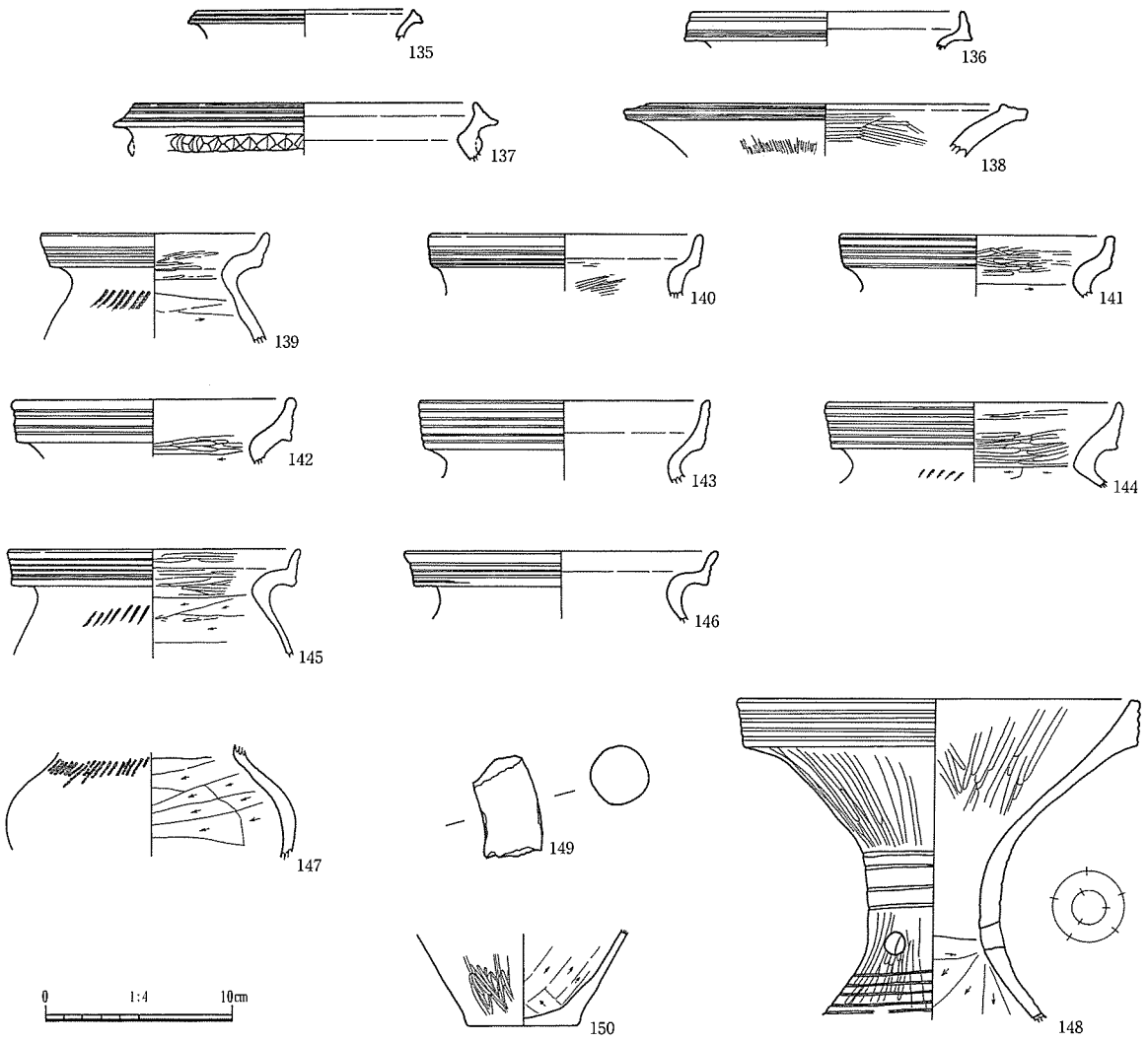


図72　土坑11出土遺物

土坑11（図71・72　図版14・60）

土坑11は平坦部東側のＨ５グリッド南寄りに位置する。

土坑11は長軸171cm、短軸163cmの平面円形を呈する土坑である。断面形は本来底面部が広がる袋状を呈していたと推測されるが、現状では袋状の痕跡は認められるものの、崩落のためほぼ垂直な壁面となっている。検出面からの最大の深さは77cmを測る。埋土を24層に分けたが、中層部分で埋土の観察が出来なかった部分があり、上下の繋がりが不明確になっている。⑦層から⑩層にかけての下面に炭化物が存在する。

埋土中から多くの土器が出土したが、そのうち135～148の16点を図化した。このうち、139・144・146～148は底面直上及び底面付近から出土したものであり、土坑が使用されなくなった時点で土器が廃棄されたことが想定される。器台148は比較的残存率が高いが、他はいずれも破片であり、土坑に伴って残されたものではない。形態的には口縁部がほぼ直立からやや外傾するものである。

土坑は貯蔵穴と推測される。底面付近から出土した遺物は、弥生時代後期中葉段階に位置づけることのできるものであるが、この時期の遺構は茶畑第１遺跡には他に存在しておらず、遺物も遺構外を含めても認められないものである。

（西川）

第４節　弥生時代終末期から古墳時代前期の調査

図73　弥生時代終末期から古墳時代前期遺構位置図

１．竪穴住居

竪穴住居13（図74・75、図版61）

竪穴住居13は平坦部東際のＧ・Ｈ４グリッドにまたがって位置する。平坦面から斜面部への地形変換点部分に近く北東約２ｍには前述した竪穴住居６が存在する。検出面からの最大の深さは0.43ｍを測る。

周壁下に沿うように１条の周壁溝を検出した。幅約10～15㎝、深さ４～９㎝を測る。遺構の北東隅部には長軸２ｍ、短軸１ｍの範囲が他の床面より高くなっており、周壁から緩い傾斜で床面へと続く斜面状となっていた。この西辺に沿って周壁溝が分岐して伸びている。南辺については確認することが出来なかった。その用途については、後述する竪穴住居14においてベッド状遺構の周囲に周壁溝が巡る例が存在することから、遺存状態が悪いもののベッド状遺構の痕跡を示すものと考える。

ベッド状遺構部分を除く周壁溝に囲まれる床面規模は長軸4.24ｍ、短軸3.18ｍである。床面標高はおよそ56.0ｍ、残存部の床面積は13.9㎡である。

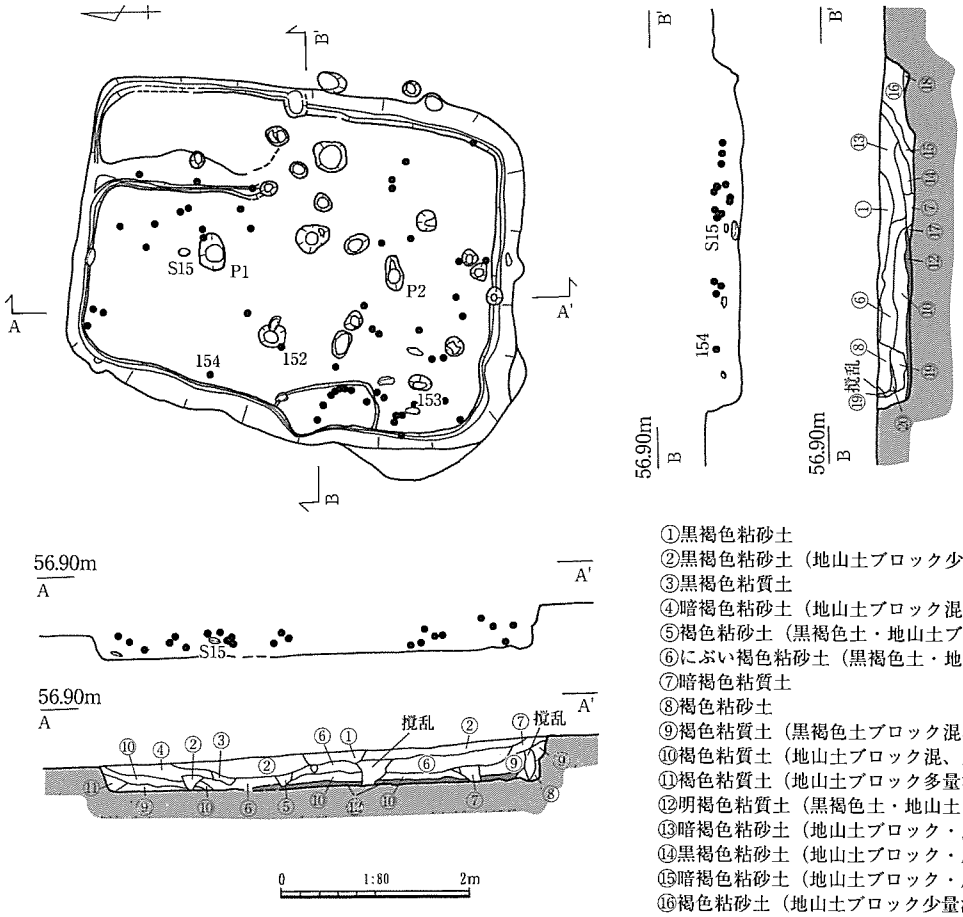
床面からは多くの小穴を検出したが、その中で主柱穴と判断したのは遺構東辺と平行するように位置するＰ１及びＰ２である。Ｐ１は長軸42㎝・深さ50㎝、Ｐ２は長軸25㎝・深さ54㎝を測る。Ｐ２は東側が小穴と切り合っている。他の小穴については木の根等の撹乱によると考えられる。

床面には薄い貼り床が存在するが、焼土面は認められない。

埋土には、地山土ブロックが含まれるものが多く、人為的に埋められたものと推測される。

埋土中からは土器の小片を中心とする遺物が出土したが、床面直上から出土したものは無く、いずれも流入した遺物と考えられる。出土した遺物の内、土器151～154、石器Ｓ15を図化した。このうち、甕153・154は口縁端部を欠損する遺存状態の悪い遺物であるが、外面から擬凹線が失われた時期の遺物である。

出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代前期前葉の時期幅に収まる遺構と考える。　（西川）



①黒褐色粘砂土
②黒褐色粘砂土（地山土ブロック少量混）
③黒褐色粘質土
④暗褐色粘砂土（地山土ブロック混）
⑤褐色粘砂土（黒褐色土・地山土ブロック混）
⑥にぶい褐色粘砂土（黒褐色土・地山土ブロック多量混）
⑦暗褐色粘質土
⑧褐色粘砂土
⑨褐色粘質土（黒褐色土ブロック混、地山土ブロック多量混）
⑩褐色粘質土（地山土ブロック混、炭少量混）
⑪褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑫明褐色粘質土（黒褐色土・地山土ブロック多量混）
⑬暗褐色粘砂土（地山土ブロック・炭多量混）
⑭黒褐色粘砂土（地山土ブロック・炭混）
⑮暗褐色粘砂土（地山土ブロック・炭少量混）
⑯褐色粘砂土（地山土ブロック少量混）
⑰明褐色粘質土（褐色土少量混）
⑱褐色粘質土
⑲灰褐色粘砂土
⑳灰褐色粘質土

図74　竪穴住居13

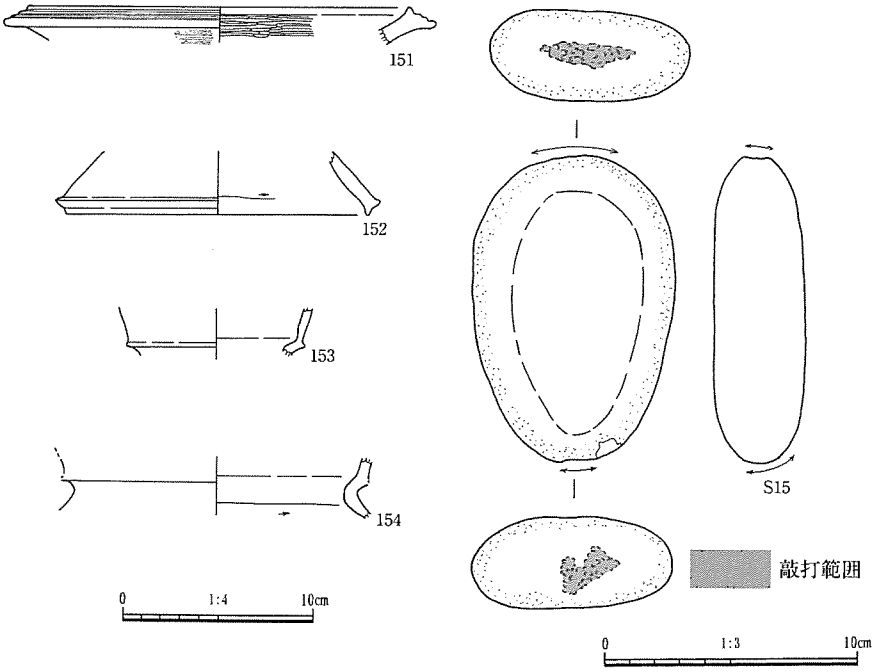


図75　竪穴住居13出土遺物

竪穴住居14（図76・77・78　図版15・16・61）

調査地平坦中央部北東よりのＧ・Ｈ７、Ｈ８グリッドで検出した。竪穴住居16の北側に隣接しており、掘立柱建物30と土坑101を切って構築されている。平面形態はやや歪んだ長方形を呈し、周囲には関連性の高いと考えられるピット列がめぐる。竪穴部の南・東壁に接し幅約１ｍ、高さ約30㎝の高床部、いわゆるベット状遺構を２箇所検出した。高床部を含めた竪穴部床面の規模は、長軸8.0ｍ、短軸は最大となる西辺で5.4ｍ、最小となる東辺で4.8ｍ、床面標高は56.0ｍを測る。床面積は40.8㎡、高床部を除いた床面積は27.6㎡を測る。

床面からは、ピット３基と周壁溝を検出した。Ｐ１・２は、径約25㎝の柱痕跡を有し、床面からの深さは約84㎝、両ピット間距離は約3.7ｍを測る。配置と規模から、主柱穴と判断した。Ｐ３は、竪穴部南辺中央に位置する。長方形の平面形態を呈し、断面形態は、深さ約５㎝の段を有し、逆凸字形を呈する。配置と形状から、有蓋の貯蔵穴と考えている。周壁溝は、壁面際と高床部際にめぐっていた。断面の観察から、壁際に厚さ３～４㎝の壁板痕跡（㉑・㉒層）、床面側に掘り方充填土（㉓・㉔・㉕層）を検出している。掘り方充填土、及び床面側周壁溝肩部を切る径約５～８㎝の小ピットを検出した。北辺や東辺は、調査工程上精査を行えず小ピットは検出できなかったが、他の部分の状況から考えて、同様の小ピットが存在した可能性がある。壁板痕跡にそって連続することから、これら小ピットは、壁板を支える杭列と想定される。

高床部は、竪穴部の南辺西側（以下、西高床部）と、東辺及び南辺東側（以下、東高床部）で検出した。平面形態は、西高床部が長方形を呈し、東高床部はＬ字状を呈する。東西の高床部は、約２ｍ離れており、その中間にＰ３が配されていた。東高床部の中央部に、厚さ２～３㎝程のややしまりの弱い部分があり、地山質の盛土で整形している可能性がある。この部分を除く両高床部は、地山を削り出して作られていた。床面側には前述した周壁溝が設けられており、壁板が存在した可能性が高い。床面の中央付近には、深さ約２㎝の落ち込みがあり、底面は部分的に焼土化していた。内部には、焼土粒と炭化物の堆積を確認している。この部分の北側にも、炭化物が広がっていた。焼土・炭化物の存在と、中央に位置することから、地床炉と推定している。

竪穴部には、暗褐色系を主体とする土が堆積していた。土色土質から①層を上層、②～⑫層を中層、⑬～⑭層を下層として大別する。上層は、黒褐色を呈しブロックなどを含まず、レンズ状に堆積する。住居がほとんど埋まった後に自然堆積した層と考えられる。中層は、地山質土をブロックもしくは粒状に多く含み、褐色～暗褐色を呈する。北側に向かい低くなっており、南側から人為的に入れられた堆積と考えられる。南側には、弥生時代終末期後葉と考えられる竪穴住居16が隣接し、その周囲には多量の掘削土を想定できる遺構はない。両住居間の距離は約30㎝で、並存していたとは考えにくい。下層は、南北の壁際でのみ検出された。東西壁際に対応する層がないこと、内側に向かい急な傾斜で落ち込む堆積状況とから、人為的な埋土あるいは、南北壁付近にあった施設の崩落土の可能性がある。

竪穴部の外側では、北・東・西辺に並行するピット列が検出されている。西辺から約1.8ｍ離れてＰ４・５・６（Ｆ－Ｆ′）、北辺から約1.4ｍ離れてＰ６～11（Ｇ－Ｇ′）、東辺から約1.4ｍ離れてＰ12～15（Ｈ－Ｈ′）の３列である。各ピット列ともに、直線的に並び、竪穴部と同じ暗褐色系の土が堆積の主体となっている。Ｐ４～10・14では、柱痕跡もしくは柱抜き取り痕跡を確認した。浅いＰ８・11・15を除き、ピットの底面は、標高約55.8～55.9ｍである。各ピット間の間隔にはばらつきがあり、

第４節　弥生時代終末期から古墳時代前期の調査

図73　弥生時代終末期から古墳時代前期遺構位置図

１．竪穴住居

竪穴住居13（図74・75、図版61）

竪穴住居13は平坦部東際のＧ・Ｈ４グリッドにまたがって位置する。平坦面から斜面部への地形変換点部分に近く北東約２ｍには前述した竪穴住居６が存在する。検出面からの最大の深さは0.43ｍを測る。

周壁下に沿うように１条の周壁溝を検出した。幅約10～15㎝、深さ４～９㎝を測る。遺構の北東隅部には長軸２ｍ、短軸１ｍの範囲が他の床面より高くなっており、周壁から緩い傾斜で床面へと続く斜面状となっていた。この西辺に沿って周壁溝が分岐して伸びている。南辺については確認することが出来なかった。その用途については、後述する竪穴住居14においてベッド状遺構の周囲に周壁溝が巡る例が存在することから、遺存状態が悪いもののベッド状遺構の痕跡を示すものと考える。

ベッド状遺構部分を除く周壁溝に囲まれる床面規模は長軸4.24ｍ、短軸3.18ｍである。床面標高はおよそ56.0ｍ、残存部の床面積は13.9㎡である。

床面からは多くの小穴を検出したが、その中で主柱穴と判断したのは遺構東辺と平行するように位置するＰ１及びＰ２である。Ｐ１は長軸42㎝・深さ50㎝、Ｐ２は長軸25㎝・深さ54㎝を測る。Ｐ２は東側が小穴と切り合っている。他の小穴については木の根等の撹乱によると考えられる。

床面には薄い貼り床が存在するが、焼土面は認められない。

埋土には、地山土ブロックが含まれるものが多く、人為的に埋められたものと推測される。

埋土中からは土器の小片を中心とする遺物が出土したが、床面直上から出土したものは無く、いずれも流入した遺物と考えられる。出土した遺物の内、土器151～154、石器Ｓ15を図化した。このうち、甕153・154は口縁端部を欠損する遺存状態の悪い遺物であるが、外面から擬凹線が失われた時期の遺物である。

出土した遺物から弥生時代終末期～古墳時代前期前葉の時期幅に収まる遺構と考える。　（西川）

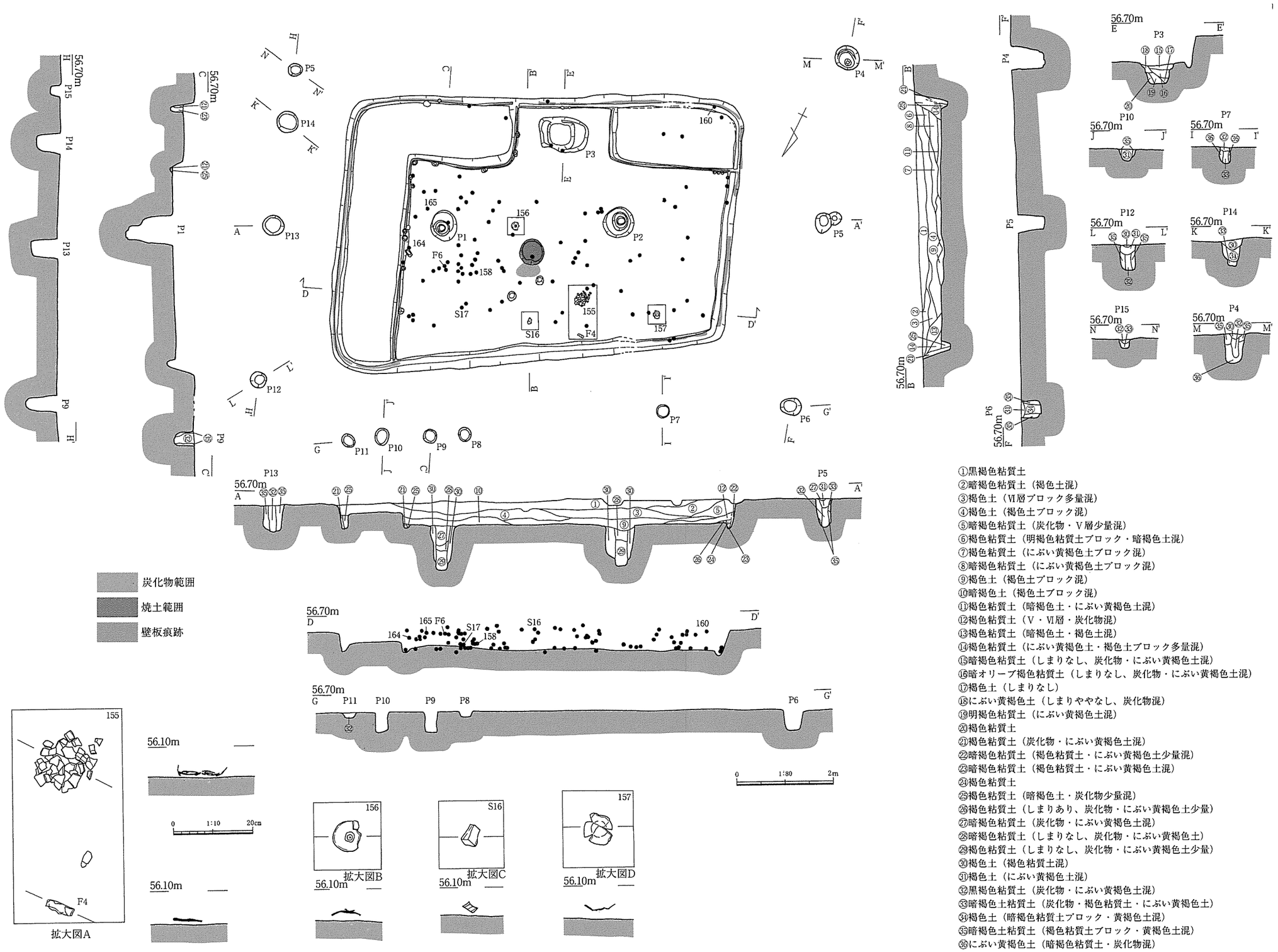


図76　竪穴住居14

①黒褐色粘質土
②暗褐色粘質土（褐色土混）
③褐色土（Ⅵ層ブロック多量混）
④褐色土（褐色土ブロック混）
⑤暗褐色粘質土（炭化物・Ⅴ層少量混）
⑥褐色粘質土（明褐色粘質土ブロック・暗褐色土混）
⑦褐色粘質土（にぶい黄褐色土ブロック混）
⑧暗褐色粘質土（にぶい黄褐色土ブロック混）
⑨褐色土（褐色土ブロック混）
⑩暗褐色土（褐色土ブロック混）
⑪褐色粘質土（暗褐色土・にぶい黄褐色土混）
⑫褐色粘質土（Ⅴ・Ⅵ層・炭化物混）
⑬褐色粘質土（暗褐色土・褐色土混）
⑭褐色粘質土（にぶい黄褐色土・褐色土ブロック多量混）
⑮暗褐色粘質土（しまりなし、炭化物・にぶい黄褐色土混）
⑯暗オリーブ褐色粘質土（しまりなし、炭化物・にぶい黄褐色土混）
⑰褐色土（しまりなし）
⑱にぶい黄褐色土（しまりややなし、炭化物混）
⑲明褐色粘質土（にぶい黄褐色土混）
⑳褐色粘質土
㉑褐色粘質土（炭化物・にぶい黄褐色土混）
㉒暗褐色粘質土（褐色粘質土・にぶい黄褐色土少量混）
㉓暗褐色粘質土（褐色粘質土・にぶい黄褐色土混）
㉔褐色粘質土
㉕褐色粘質土（暗褐色土・炭化物少量混）
㉖褐色粘質土（しまりあり、炭化物・にぶい黄褐色土少量）
㉗暗褐色粘質土（炭化物・にぶい黄褐色土混）
㉘暗褐色粘質土（しまりなし、炭化物・にぶい黄褐色土）
㉙褐色粘質土（しまりなし、炭化物・にぶい黄褐色土少量）
㉚褐色土（褐色粘質土混）
㉛褐色土（にぶい黄褐色土混）
㉜黒褐色粘質土（炭化物・にぶい黄褐色土混）
㉝暗褐色土粘質土（炭化物・褐色粘質土・にぶい黄褐色土）
㉞褐色土（暗褐色粘質土ブロック・黄褐色土混）
㉟暗褐色土粘質土（褐色粘質土ブロック・黄褐色土混）
㊱にぶい黄褐色土（暗褐色粘質土・炭化物混）

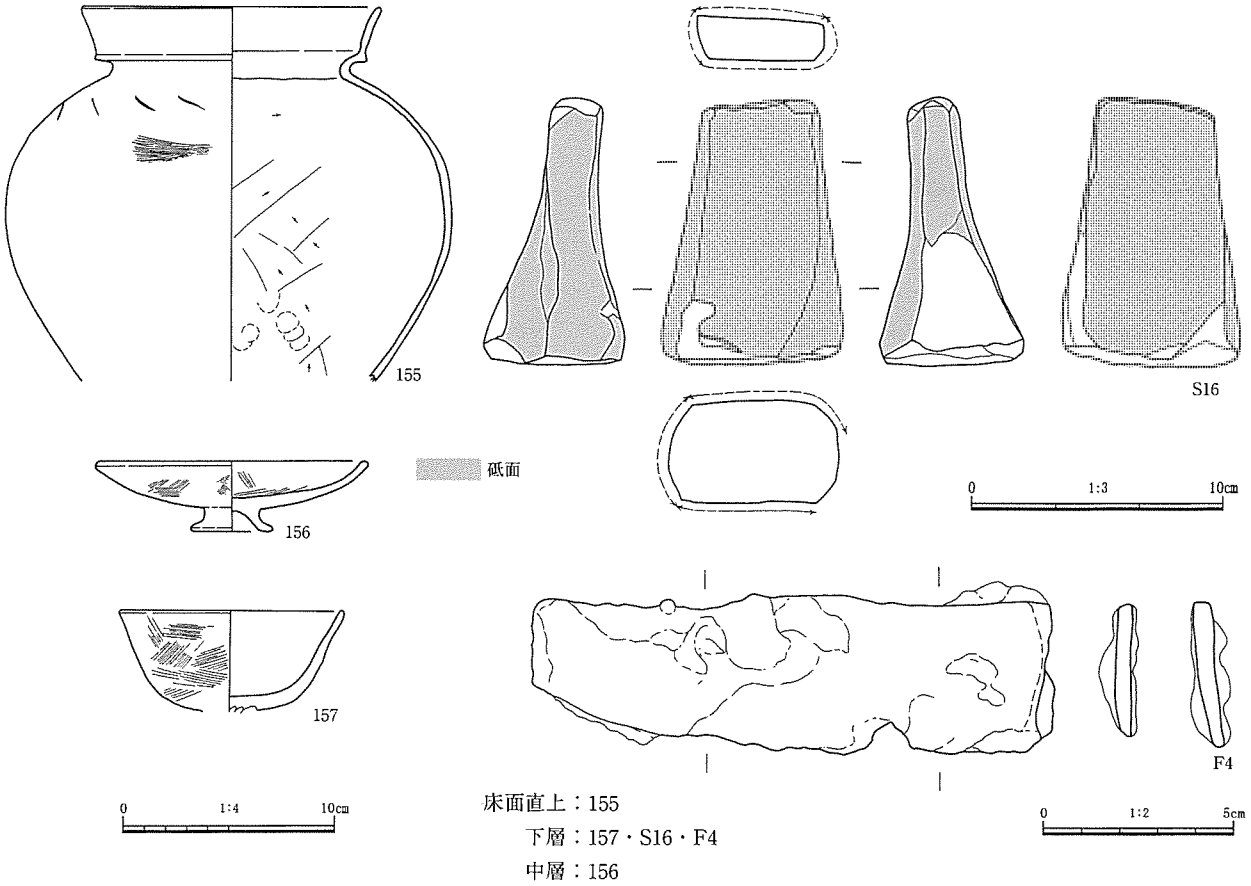


図77　竪穴住居14出土遺物（１）

平面規模についても、東西列が平均径39cm、北列が平均径28cmと差がある。しかし、各ピット列が竪穴部各辺と平行し、ピット５（西ピット列）・ピット13（東ピット列）が主柱穴であるＰ１・２とほぼ等間隔で直線的に並び、土色も竪穴部と共通することから、これらのピット列は、竪穴住居14に関連するものと判断した。柵や塀、壁支柱、周堤の土留めなどが想定できよう。南側にも同様のピット列を想定したが、検出できなかった。

本住居からは、多くの遺物が出土している。床面直上で出土した遺物で、時期の判別できる遺物は、155の土師器甕のみである。復元するとほぼ一個体となり、横位で出土した。古墳時代前期前葉のものと考えられる。157・Ｓ16・Ｆ４は下層からの出土で、床面から２～４cm上のレベルである。157は高杯、Ｓ16は砥石、Ｆ４は先端部を欠損する鉄鎌である。156は低脚杯で、中層から出土した。床面より２cm上のレベルで、ほぼ一個体が逆位で出土した。そのほか、上・中層から弥生時代中期後葉から古墳時代前期前葉の土器が出土している。鉄製品は、Ｆ５の鉈、鉄鏃の可能性がある板状鋳鉄のＦ６（第６章第３節参照）が、中層である④層から出土している。

本住居は、高床部・大型の柱痕跡・厚い壁板・周囲のピット列といった、特殊な施設をともなっている。竪穴部の規模の大きさからも、茶畑遺跡群内において、特異な位置を占めていた可能性がある。茶畑遺跡群内においては、東高田遺跡で両短辺に高床部を持つ長方形の竪穴住居（ＳＩ15）が検出されている。しかし、長軸4.7m、短軸4.0mと規模は小さい。

竪穴住居14は、床面直上出土遺物から、古墳時代前期前葉の遺構と判断した。　（湯川）

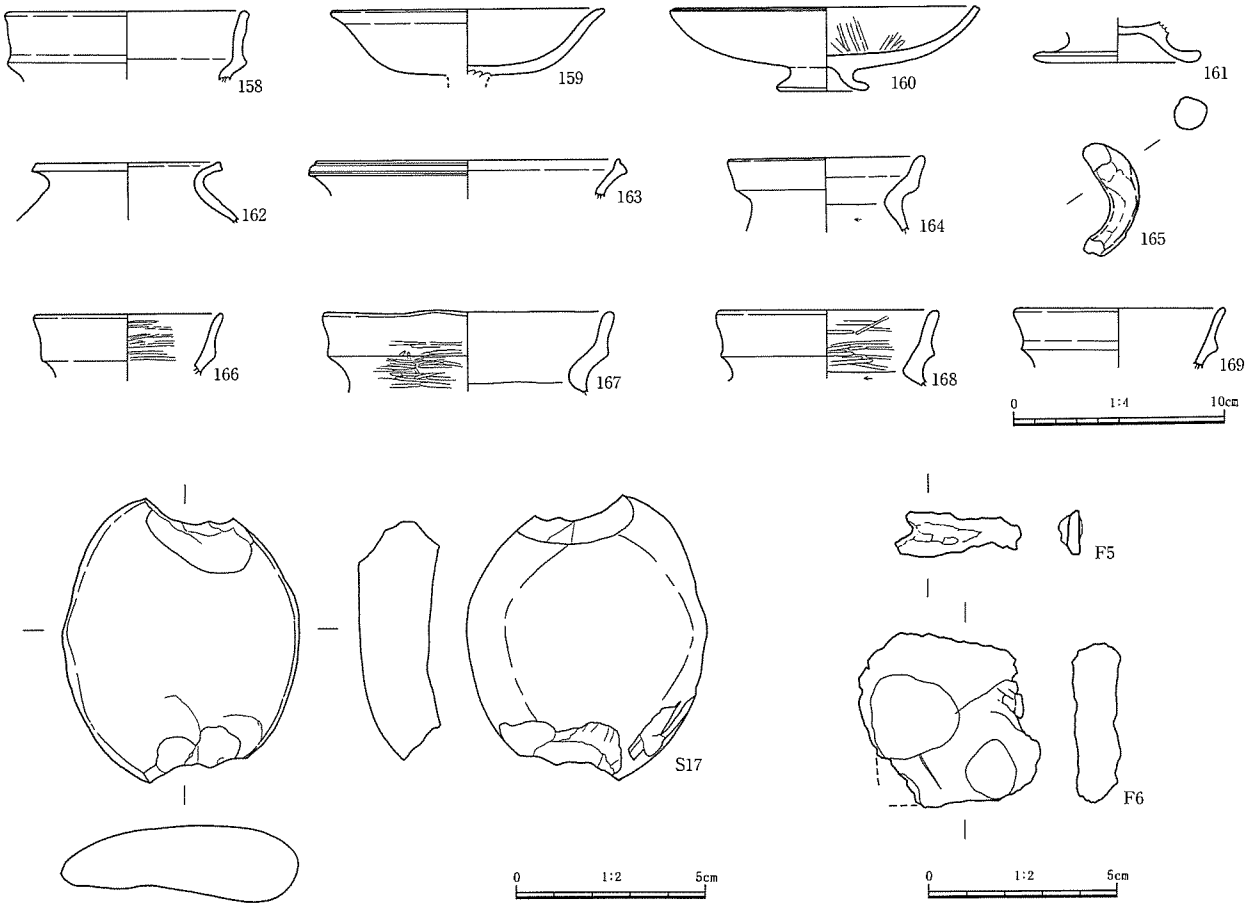


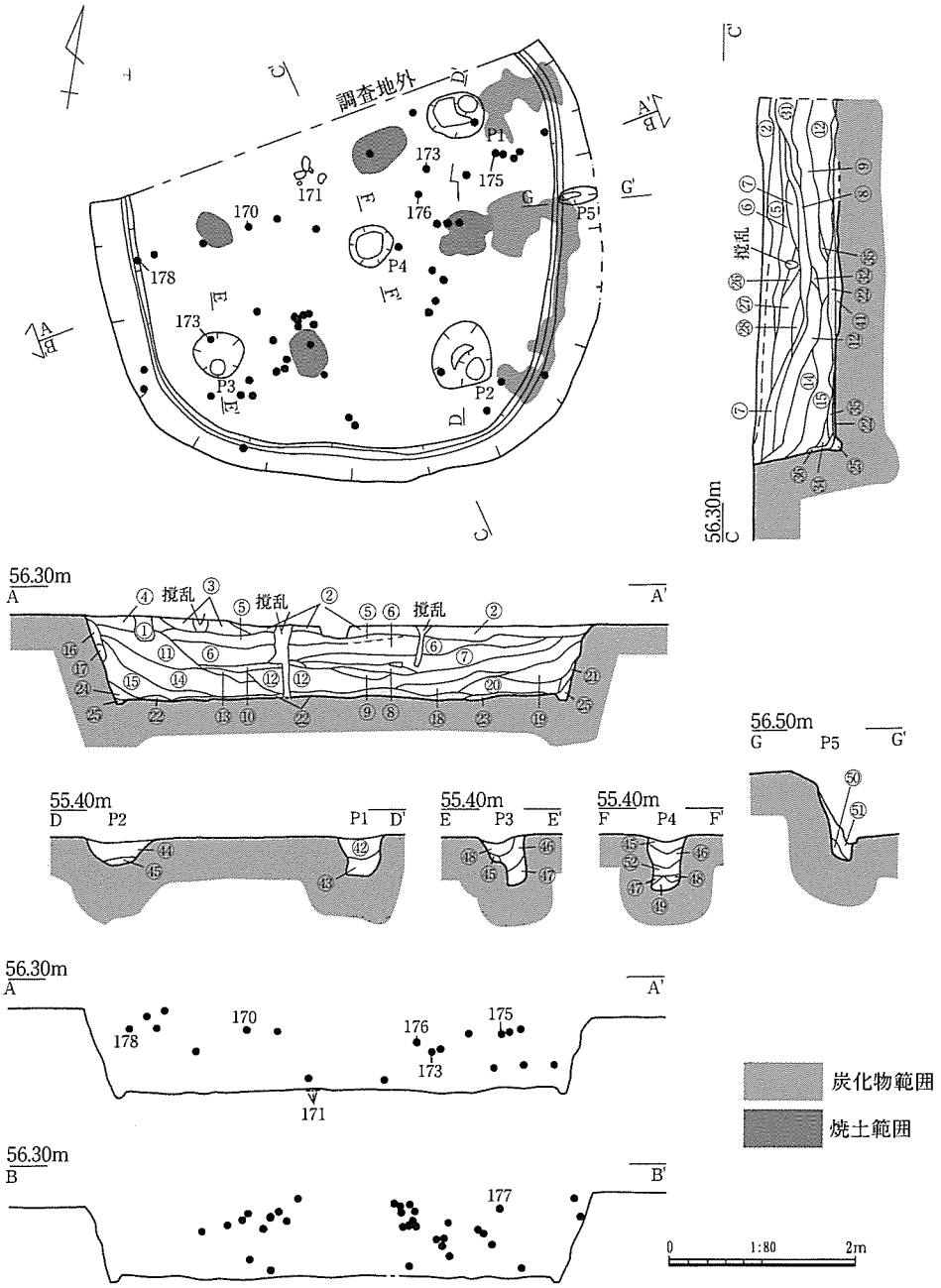
図78　竪穴住居14出土遺物（２）

竪穴住居15（図79・80　図版17・31）

Ｅ５・Ｆ５グリッドにかけて検出した。平坦部の東側縁辺部に位置する。ここより東側３ｍ前後で、地形の傾斜が変換し斜面となる。この付近は耕作に伴う削平と土壌化が激しい。厚さ20数cmの耕作土直下で検出した。遺存状況はわるいが、炭化材、炭化物が埋土中と床面直上から多く検出され、壁にも焼土化した部分があるため、焼失住居の可能性もある。

遺構全体のうち北西側約４分の１は調査地外に外れる。平面形は隅丸の方形、もしくは隅丸の５角形である。竪穴住居15は掘立柱建物10と重複し、これより新しい遺構である。検出面からの深さ88cm、床面積23.8㎡（調査地内部分）である。５基のピットと幅12cmの周壁溝を1条検出した。Ｐ１～３が主柱穴、Ｐ４が中央ピットである。主柱穴は径48～80cm、深さ28～52cmである。いずれの柱穴も柱痕は認められず、Ｐ１の㊷層やＰ２の㊹層などをみると、柱材を抜き取っている。Ｐ５は壁面から掘り込まれ周壁溝に切られていた。Ｐ５の下端は、長軸20cmの細長い楕円形を呈する。Ｐ５埋土の下層は、炭化物や焼土、地山土ブロックが混ざり合う。床面には、平面楕円形（径40～64cm）の地床炉と考えられる焼土面が４箇所ある。焼土面の厚さは３～４cmとしっかりしたものである。㉒・㉓層は貼り床である。床面下から大型柱穴（掘立柱建物10－Ｐ４）と柱穴抜き取り痕１基が検出された。

炭化材は床面縁辺部、壁際立ち上がり部分と壁面にかけて遺存していた。草本類の炭化物と認められる部分もあったが、木質の炭化材は認められず、全体的には遺存状況はわるい。埋土⑨層は炭化物を含み、その直上には炭化物が帯状に堆積する。下層埋土の⑭・⑮・⑱層などには、地山土や暗褐色土ブロックを多く含む。



①褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
②褐色粘質土（地山土ブロック・炭化物少量混）
③褐色粘質土（地山土ブロック少量混、やや暗い）
④褐色粘質土（灰褐色土ブロック多量混）
⑤褐色粘質土（地山土ブロック極少量・炭化物少量混）
⑥褐色粘質土（炭化物少量混）
⑦暗褐色粘質土（地山土ブロック混、炭化物少量混）
⑧褐色粘質土（地山土ブロック混、直下に炭化物帯状に堆積）
⑨暗褐色粘質土（炭化物少量混）
⑩暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑪褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑫褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑬褐色粘質土（地山土小粒少量混）
⑭にぶい褐色粘質土（暗褐色・地山土ブロック多量混）
⑮褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑯黒褐色粘質土
⑰焼土
⑱にぶい褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑲褐色粘質土（暗褐色土ブロック・地山土ブロック多量混）
⑳にぶい褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
㉑暗褐色粘質土（炭化物多量混）
㉒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㉓暗褐色粘質土（炭化物少量混）
㉔暗褐色粘質土
㉕暗褐色粘質土と明褐色粘質土の混土
㉖褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
㉗褐色粘質土（黒褐色土ブロック多量・地山土ブロック混）
㉘褐色粘質土（地山土ブロック混）
㉙暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック・地山土小粒多量混）
㉚褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
㉛暗褐色粘質土（黒褐色・地山土ブロック混）
㉜にぶい褐色粘質土（炭少量混）
㉝暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
㉞明褐色粘質土（地山土ブロック・焼土混）
㉟明褐色粘質土（褐色土ブロック混）
㊱暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
㊲明褐色粘質土（炭化物混）
㊳褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混）
㊴明褐色粘質土（褐色土粒極少量混、直下に炭帯状に存在）
㊵黒褐色・明褐色・暗褐色粘質土の混土（炭化物少量混）
㊶明褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
㊷暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
㊸明褐色粘質土（しまり悪い）
㊹暗褐色・にぶい黄褐色粘質土の混土（炭化物少量混）
㊺明褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
㊻黒褐色粘質土（明褐色土ブロック多量混）
㊼明褐色粘質土
㊽明褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
㊾暗褐色粘質土（明褐色土粒少量・炭化物混）
㊿暗褐色粘質土・炭・焼土・地山土ブロックの混土
51橙色粘性砂質土

図79　竪穴住居15

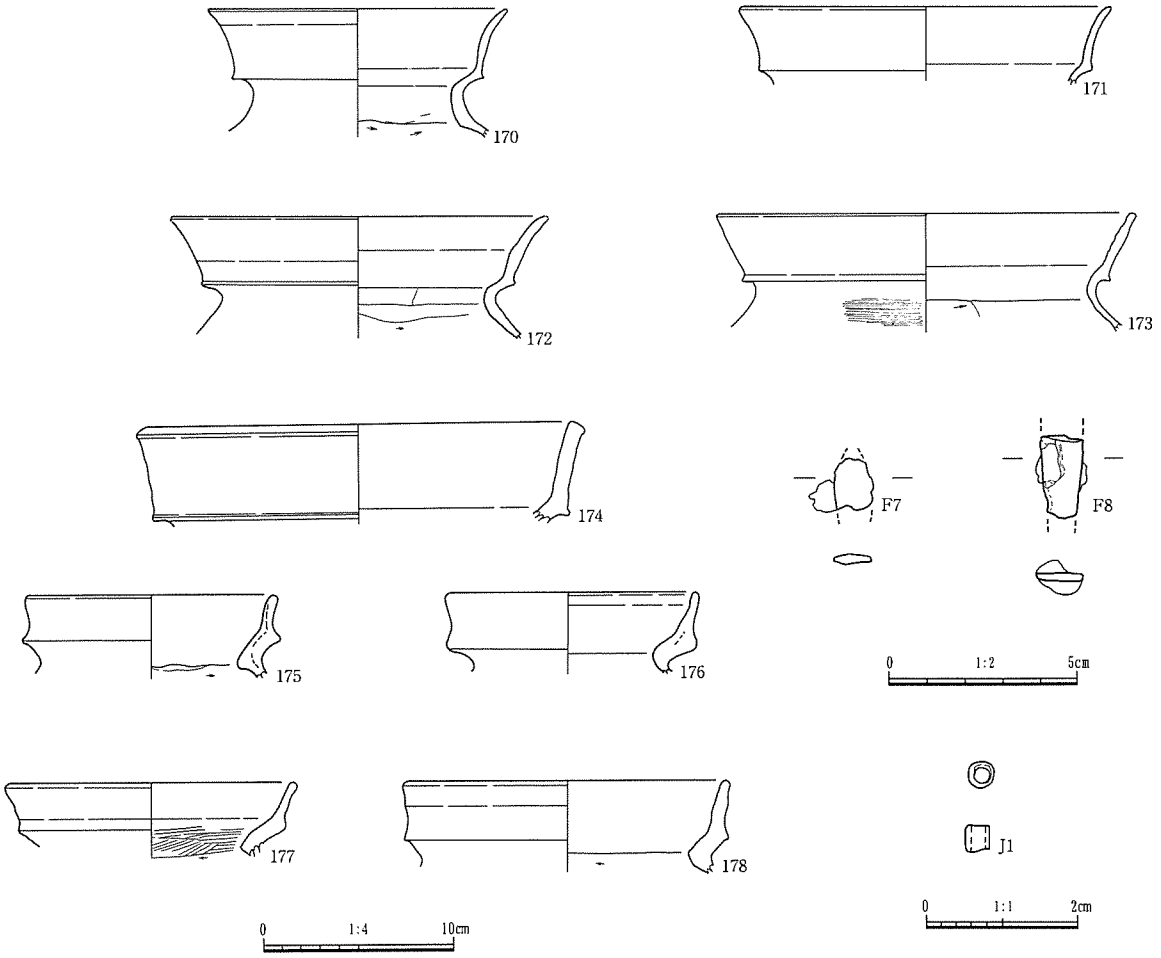


図80　竪穴住居15出土遺物

床面直上で出土した遺物量はごく少ない。図化できたのは171のみである。171は甕の口縁部で、調整は摩滅が激しく不明である。そのほか、古墳時代後期の甕である175・177・178が埋土の上・中層から出土した。土器の他には、埋土中から鉄製品と玉が出土した。Ｆ７は鉄鏃もしくは刀子の破片である。Ｆ８は鉈もしくは刀子の破片である。Ｊ１はガラス製の小玉である。

竪穴住居15は以下の３点からみれば、いわゆる焼失住居のようにみえる。（１）床面直上から壁際にかけての炭化材の出土状況。（２）壁面にも焼土面がある。（３）埋土⑨層直上に帯状に炭化物が堆積している。これを屋根構造の一部と考えると、⑨層以下の埋土は土屋根に相当する。

しかし、以下の３点を考えると、焼失住居ではない可能性が高い。（４）床面に遺存する炭化材には、草本類の炭化材は確認できたが、垂木や主柱など部材の炭化材は確認できなかった。（５）検出した柱穴はいずれも柱材を抜き取っている。（６）住居埋土の層は、暗褐色土や地山土ブロックを多く含んでおり、埋めたものと認められる。

ここでは、竪穴住居15はいわゆる焼失住居ではなく、廃絶のあり方からこのような埋土の堆積になったと捉えておく。また、床面下で検出した柱穴については、住居内には周壁溝は１条しかなく、床面での断ち割りトレンチの状況からも住居を建て替えた痕跡は認められなかった。よって、これらは竪穴住居15に伴う遺構ではないと考える。

竪穴住居15の時期は、床面直上から出土した甕171や埋土中から出土した170・172・173などの時期から、弥生時期終末期の遺構と考える。（日置）

竪穴住居16（図81～84　図版18・62・63）

竪穴住居16は調査地東寄りのＨ・Ｉ６グリッドにまたがって存在する。北側0.3ｍには前述した竪穴住居14が存在する。

竪穴住居16は、平面形が六角形状を呈する遺構である。検出面での規模は長軸8.98ｍ、短軸8.46ｍ、検出面から床面までの最大の深さは0.52ｍを測る。床面標高はおよそ56.2ｍである。

周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約15～20cm、深さは６～13cm程度である。床面規模は長軸8.30ｍ、短軸7.64ｍ、床面積は52.4㎡を測る。

主柱穴はＰ１～６である。これらの主柱穴は六角形住居の角から27～40cm離れた位置に存在する。Ｐ１は長径40cm、深さ69cmを測るもので、柱痕跡㊴層が認められる。柱は径20cm程度のものと推測される。Ｐ２は長径45cm、深さ70cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊶層が存在する。柱は径15cm程度のものと推測される。Ｐ３は長径45cm、深さ87cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊸層が存在する。柱は径23cm程度のものと推測される。Ｐ４は長径48cm、深さ58cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊺層が存在する。柱は径20cm程度のものと推測される。Ｐ５は長径45cm、深さ75cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊼・㊽層が存在する。柱は径24cm程度のものと推測される。Ｐ６は長径43cm、深さ62cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊿層が存在する。柱は径23cm程度のものと推測される。Ｐ11は中央ピットである。長径111cm、短径91cm、深さ85cmを測る。床面上にはＰ11を取り囲む周堤が存在する。土は地山土を盛ったもので、識別が困難なものであった。周堤は幅約20～50cm、高さ10～12cmを測るもので、南半部については埋土掘り下げ時に掘り過ぎてしまったが、本来は全周すると想定される。周堤を取り囲むように柱穴Ｐ７～10が存在する。それぞれの規模は、Ｐ７が長径51cm、深さ89cmを測るもので、柱痕跡と推測される(51)～(53)層が存在する。柱は径16cm程度のものと推測される。Ｐ８は長径56cm、深さ56cmを測るものである。埋土の識別は困難であったが、形態から柱穴の切り合いが想定されるものであり、規模はやや小さくなると考える。Ｐ９は長径65cm、深さ64cmを測るものである。形態及び埋土堆積状況から考えて、㊵・(58)層は住居に先行する時期のピットの可能性が高いと考える。Ｐ10が長径54cm、深さ81cmを測るもので、柱痕跡と推測される(59)層が存在する。柱は径20cm程度のものと推測される。Ｐ７～10の４本の柱穴は棟を支える補助柱と考えられるものである。

焼土面を２ヶ所検出した。東側のものはＰ２とＰ７のほぼ中間に位置し、約１ｍの距離をとる。西側にあるものはＰ10から0.4ｍ離れた位置に残されており、柱との距離が近い位置に存在している。

住居埋土は、中・下層に褐色～暗褐色系の土が堆積しており、最上層に黒褐色土が存在している。前述した隣接する竪穴住居14においても最上層に黒褐色土が存在しており、同様な堆積傾向が認められる。埋土の内、中・下層に存在する層には地山土ブロックが含まれるものが多く、人為的に埋められた可能性がある。上層の黒褐色土には地山土ブロックが含まれず、自然堆積したものと考える。

埋土中からは多量の遺物が出土した。そのうち、土器179～221、石器Ｓ18、鉄器Ｆ９・10を図化した。これらの遺物の内、鉄器のＦ９・10はともに床面直上から出土した。土器で確実に床面直上出土はないが、186・200は最下層からの出土である。中位付近から出土したのは181・184・194～196・199・205・212・213である。182・183・187・193・208は上層からの出土である。「拡大図２」の211は、周壁の中位部分に貼り付くような状態で存在したもので、遺構の埋没が始まった初期段階の遺物と考えられる。また、風化・欠損が激しく図化出来なかったが、床面直上から「拡大図１」の壺が出土している。他の遺物は埋土中からの出土である。埋土中に須恵器が存在することから、古墳時代後

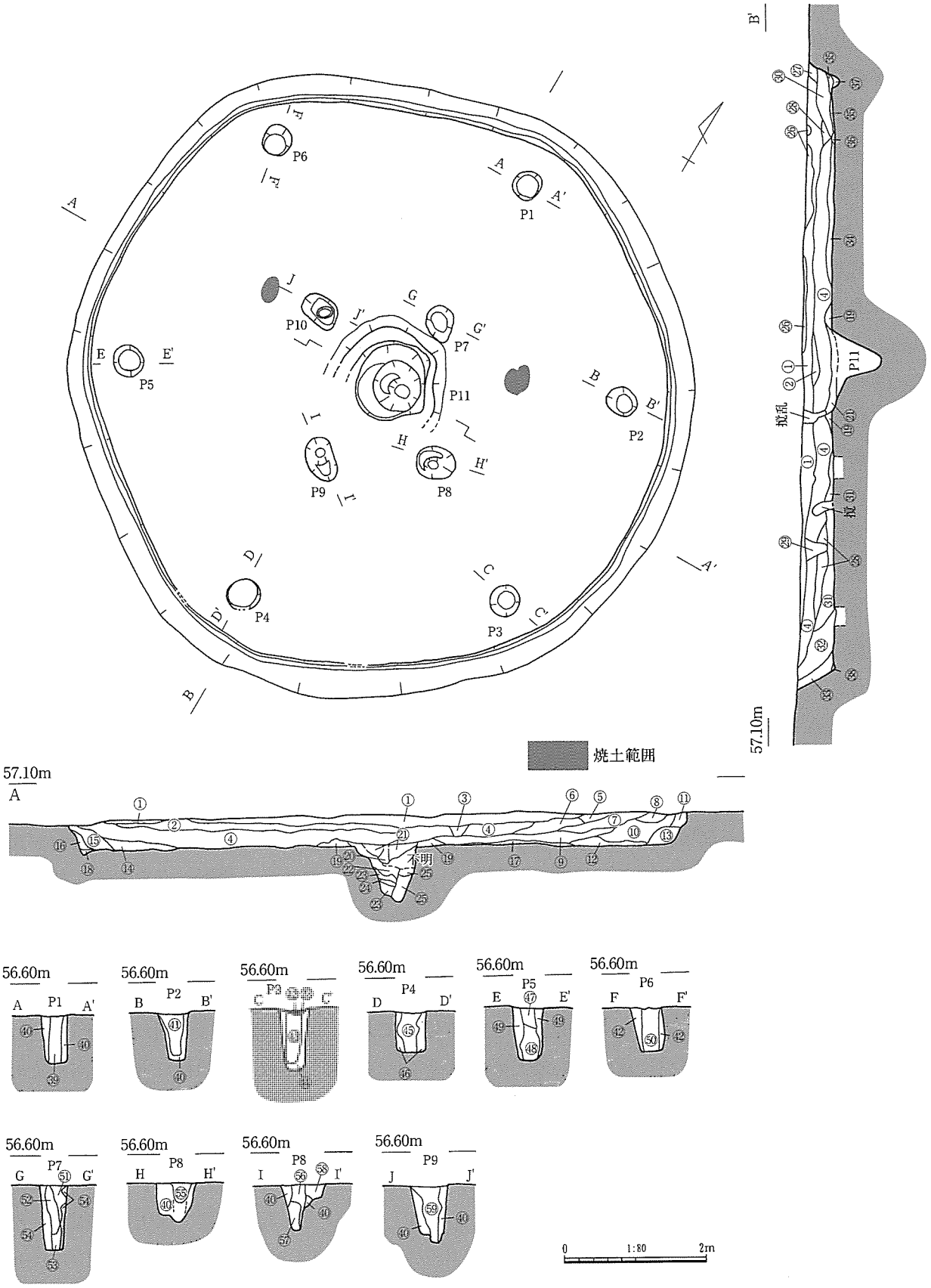
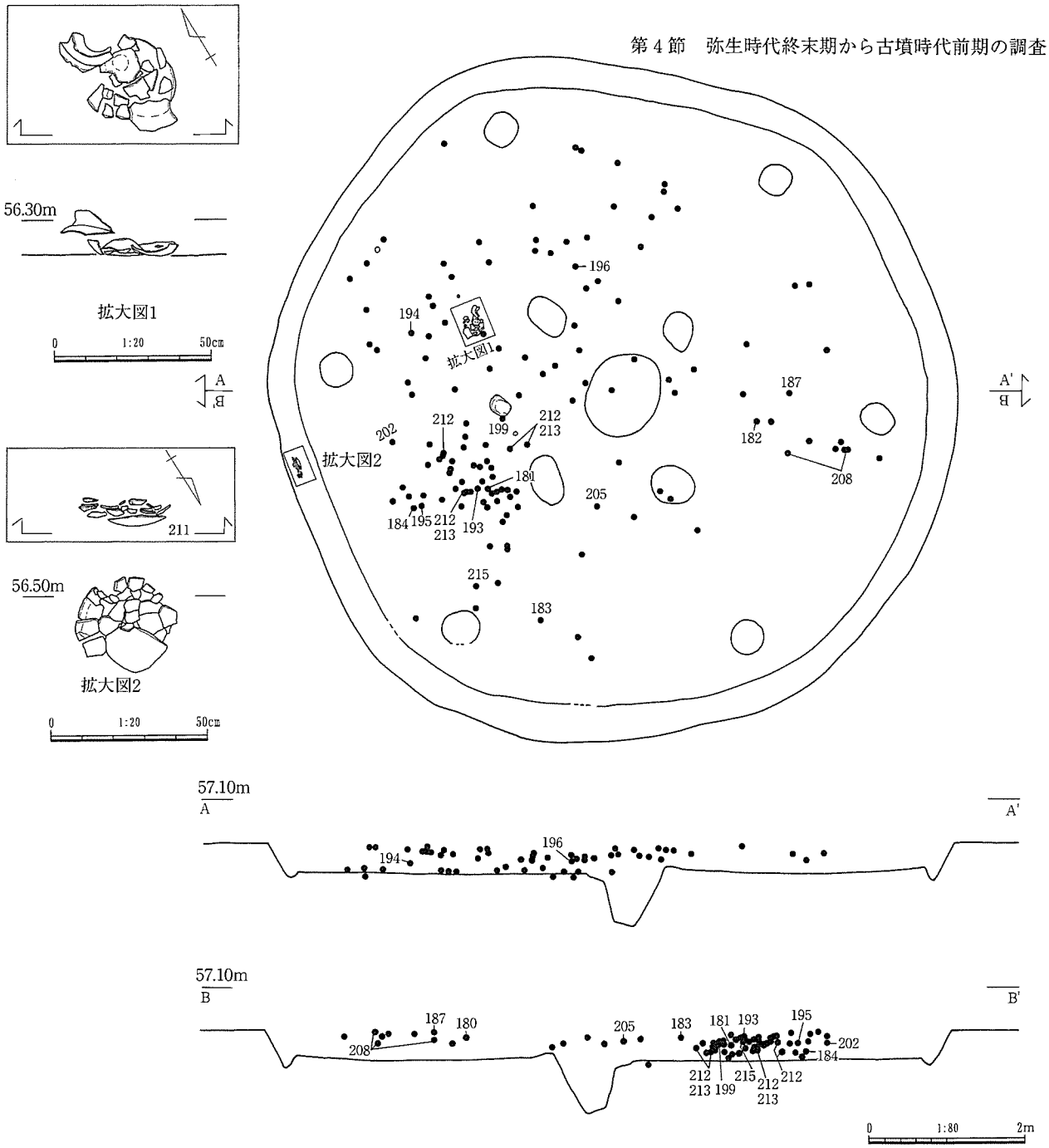

P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'
J
J'
撹乱
焼土範囲
57.10m
56.60m
不明
0
1:80
2m

図81　竪穴住居16（１）



①黒褐色粘砂土（褐色・地山土ブロック混）
②褐色粘砂土（黒褐色土ブロック少量・地山土ブロック多量混）
③暗褐色粘質土（褐色・地山土ブロック混）
④褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑤褐色粘質土
⑥褐色粘砂土（地山土ブロック少量・焼土・炭混）
⑦暗褐色粘質土（地山土ブロック・焼土・炭混）
⑧暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑨褐色粘質土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑩暗褐色粘砂土（黒褐色・地山土ブロック多量混）
⑪褐色粘砂土（黒褐色・地山土ブロック多量混）
⑫にぶい褐色粘質土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑬褐色粘砂土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑭褐色粘砂土（地山土ブロック・炭混）
⑮暗褐色粘砂土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑯褐色粘砂土（地山土ブロック混）
⑰明褐色粘質土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑱明褐色粘砂土
⑲明褐色粘質土（褐色土粒極少量混）
⑳褐色粘質土（黄褐色土小粒少量・暗褐色土小ブロック多量混）
㉑褐色粘質土（黄褐色土粒多量・暗褐色土土粒少量混）
㉒にぶい黄褐色粘質土（地山土ブロック極多量・炭少量混）
㉓褐色粘質土
㉔炭化物層（黄褐色土粒混）
㉕暗褐色粘質土（地山土粒・炭多量混）
㉖極暗褐色粘砂土（褐色土ブロック混）
㉗明褐色粘質土（地山土ブロック多量・炭少量混）
㉘褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㉙暗褐色粘砂土（黒褐色土ブロック混）
㉚褐色粘砂土（黒褐色・地山土ブロック多量混）
㉛明褐色粘質土（地山土ブロック・炭混）
㉜褐色粘砂土（地山土ブロック多量・炭少量混）
㉝明褐色粘砂土（地山土ブロック・炭少量混）
㉞褐色粘砂土（褐色・地山土ブロック多量混）
㉟明褐色粘質土（褐色土ブロック混）
㊱橙色粘質土
㊲褐色粘質土（黒褐色・地山土ブロック少量混）
㊳褐色粘質土（地山土混）
㊴褐色粘質土（黄褐色土大粒・炭少量混）
㊵明褐色粘質土（褐色土大粒少量混）
㊶褐色粘質土（黄褐色土粒多量・黒褐色土粒混）
㊷明褐色粘質土
㊸褐色粘質土（明褐色土小粒・炭少量混）
㊹明褐色粘質土（黒褐色土大粒・炭少量混）
㊺褐色粘質土（にぶい黄褐色土大粒多量・暗褐色土粒混）
㊻暗褐色粘質土
㊼褐色粘質土（明褐色土小粒少量混）
㊽褐色粘質土（明褐色土粒多量混）
㊾明褐色粘質土（暗褐色土小粒少量混）
㊿褐色粘質土（にぶい黄褐色土小粒多量・暗褐色土小粒・炭少量混）
51褐色粘質土（黄褐色土粒少量・炭多量混）
52褐色粘質土（黄褐色土粒混、炭少量混）
53橙色粘質土（褐色土大粒少量混）
54明褐色粘質土（暗褐色土大粒混）
55褐色粘質土（明褐色・黒褐色土小ブロック少量混）
56褐色粘質土（黒褐色土粒少量・明褐色土粒混）
57にぶい黄褐色粘質土（黒褐色土粒混）
58褐色粘質土（明褐色土大粒少量混）
59褐色粘質土（炭少量混）

図82　竪穴住居16（２）

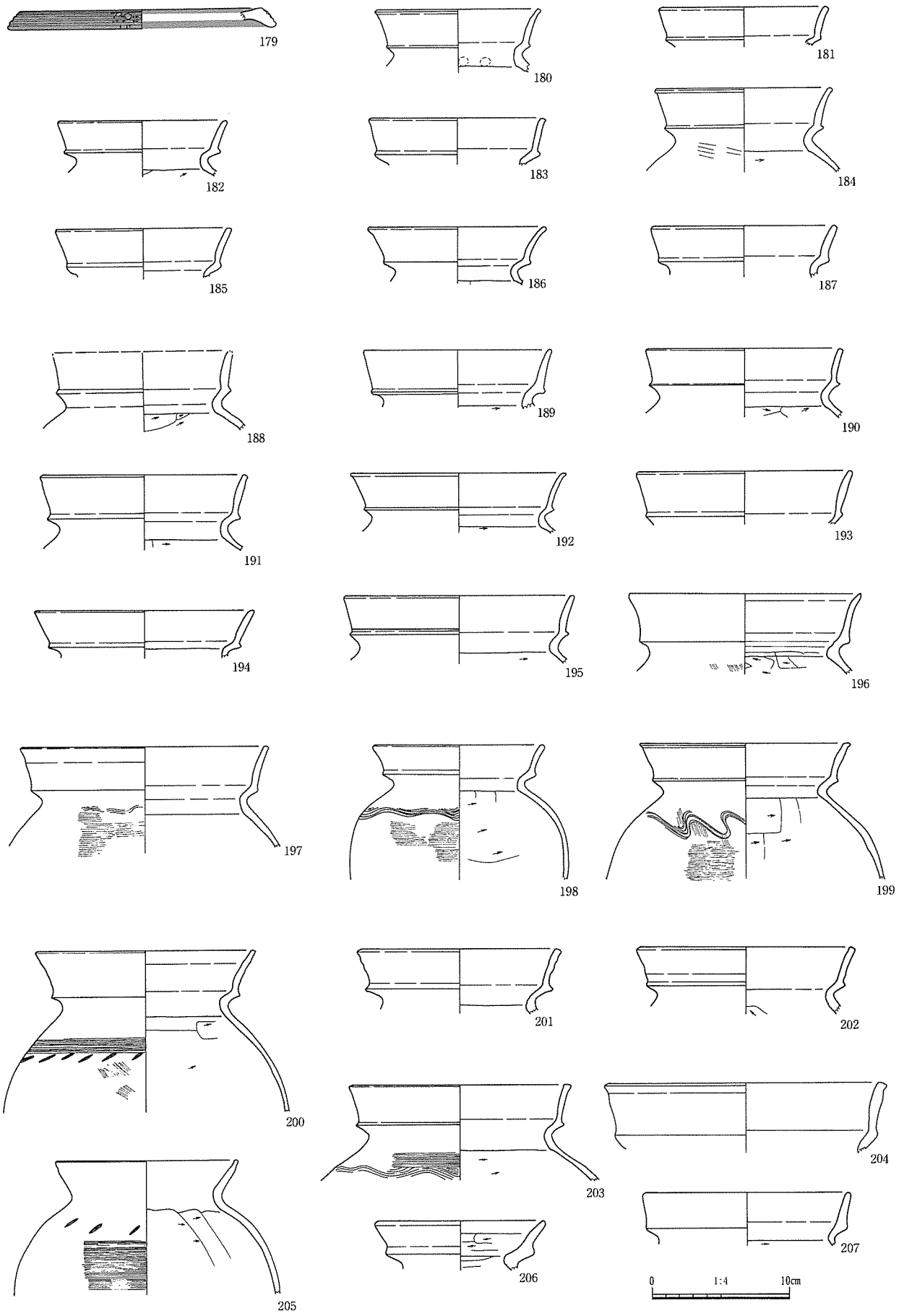
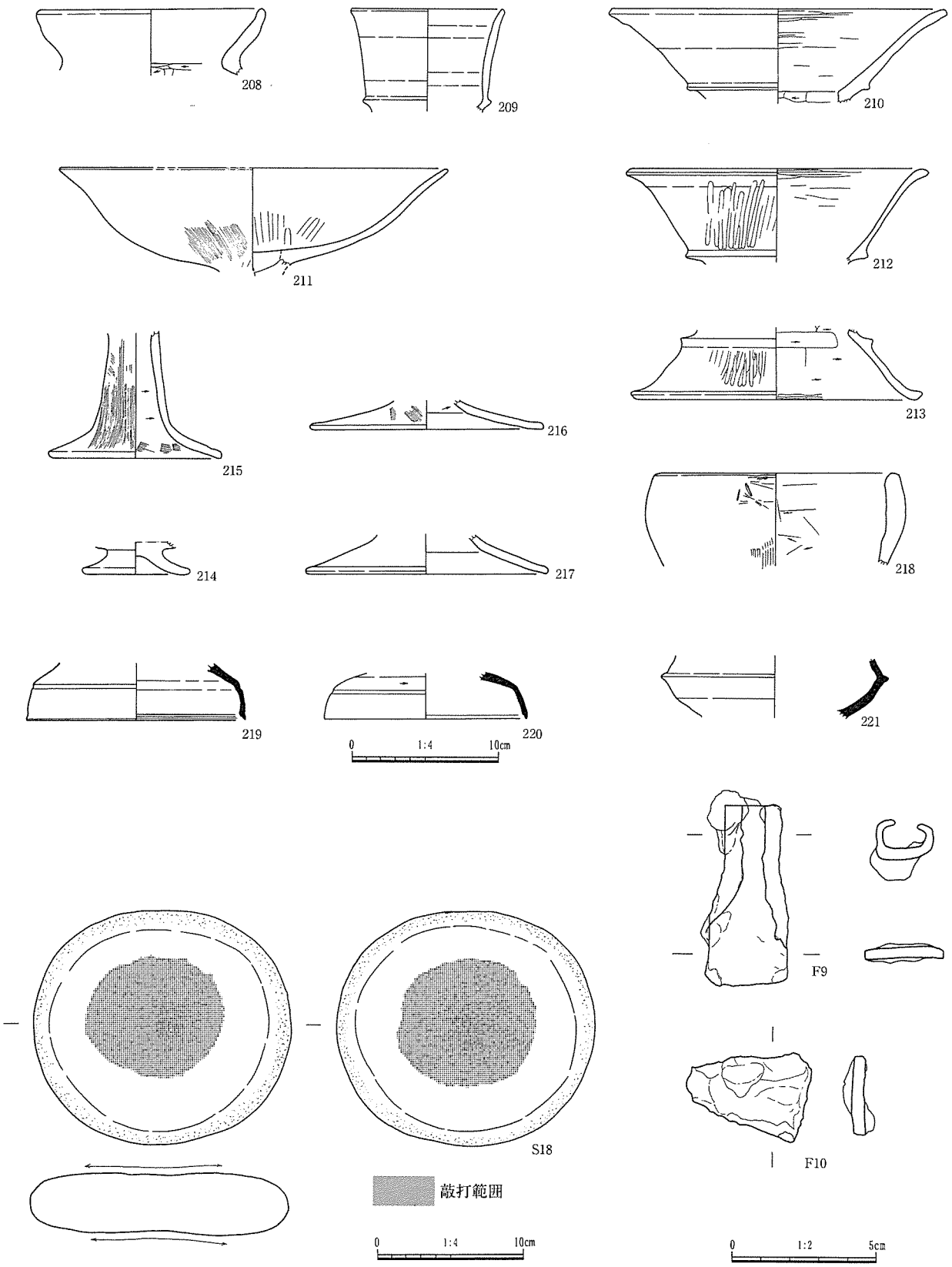


図83　竪穴住居16出土遺物（１）



179・S18は竪穴住居18出土遺物

図84　竪穴住居16出土遺物（２）

期段階までは完全に埋没しきることがなかったと想定される。

竪穴住居16は、周壁に貼り付くように存在する211が住居の埋没が始まった初期段階の遺物と考えられることや、最下層出土の186・200から弥生時代終末期後葉の遺構と考える。　（西川）

竪穴住居17（図85～88　図版19・63・64）

竪穴住居17は調査地北西寄りのＩ10・11グリッドにまたがって存在する。北東約４ｍには、片側のみに独立棟持柱を持つ大型の掘立柱建物12が存在する。

竪穴住居17は、平面形が隅丸方形を呈する遺構である。検出面での規模は長軸6.98m、短軸6.75m、検出面から床面までの最大の深さは0.72mを測る。

周壁下に２条の周壁溝が存在し、床面積の拡張を伴う建て替えが１度行われていることと判断した。外側の新しいものを竪穴住居17ｂ、内側の古いものを竪穴住居17ａとし、以下で記述する。

竪穴住居17ｂは、床面規模が長軸6.07m、短軸6.00mで、周壁溝内の床面積は33.4㎡を測る。床面は平坦であるが、南から北側に向けて緩やかに傾斜しており、約10cmの高低差が存在している。

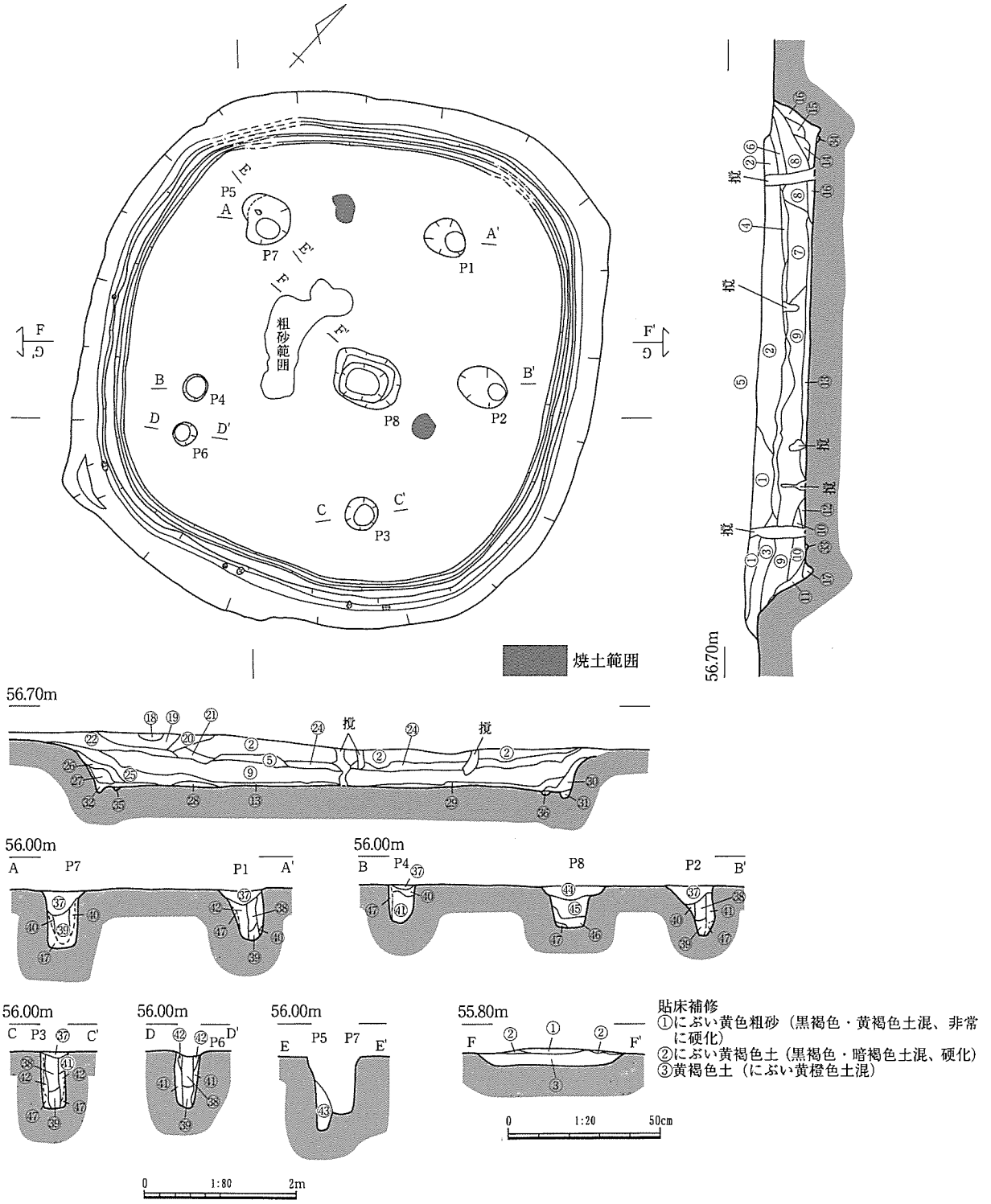
検出された周壁溝は、幅約14～20cm、深さ５～12cm程度を測る。周壁溝内から深さ３～４cm程度の小ピットを６個検出した。数は僅かであるが、板材などの固定用杭痕跡と推測する。

主柱穴は、周壁溝から約0.7～１ｍの距離にあるＰ１～３・６・７の５本と推測される。遺構平面形は五角形となっていないが、主柱穴の５本配置に対応するための工夫が平面形に認められ、Ｐ６－Ｐ７間に比べてＰ１－Ｐ３間を広くとり、Ｐ２を配置する空間を確保している。Ｐ８は主柱穴の中央部に位置し、中央ピットと考えられるものである。それぞれの主柱穴規模は、Ｐ１は長径58cm、深さ70cmを測るもので、柱痕跡㊳・㊴層が認められる。㊳層と㊴層はしまりの違いであり埋土はほぼ同じものである。柱は径10cm以上あると推測される。Ｐ２は長径65cm、深さ65cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊳・㊴層が存在する。柱は径15cm程度のものと推測される。Ｐ３は長径44cm、深さ74cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊳・㊴層が存在する。柱は径15cm程度のものと推測される。Ｐ６は長径31cm、深さ76cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊳・㊴層が存在する。柱は径16cm程度のものと推測される。Ｐ７はＰ５を切るが、掘り下げ時点では識別が出来なかったため、形態が不明確である。残存部の長径39cm以上、深さ75cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊴層が存在する。柱は径20cm程度のものと推測される。これらの柱穴の内、Ｐ１～３・７の４本には最上層に㊲層が共通して存在している。同じ堆積土は後述するＰ４にも存在しており、腐朽した柱の空間に上部の堆積土が落ち込んだものと推測される。

Ｐ８ｂの西側約50cmで、長さ174cm、幅58cmの範囲に床面の補修痕と推測される粗砂が堆積する部分を確認した。断面Ｆ－Ｆ´の①・②層は、埋土及び地山土にない粗砂を含む層で堅く締まり、③層は地山土が攪拌された状況を示す層である。同様な堆積土は竪穴住居19にも存在する。焼土面を２ヶ所で検出した。径30～40cm程度で、北側のものはＰ２とＰ７の間、東側のものはＰ３とＰ４の間に位置する。床面の補修堆積・焼土面については建て替え前の竪穴住居17ａに伴う可能性も否定できない。

埋土は、中・下層に褐色～暗褐色系の土が堆積し、最上層に黒褐色土が存在している。中・下層には、ブロック土が含まれることから、人為的に埋められた可能性がある。最上層の黒褐色土は、前述した竪穴住居16においても認められ、同様な堆積傾向である。

遺構中から出土した遺物のうち、土器222～247、石器Ｓ19、鉄器Ｆ11・12を図化した。これらの遺物の内、床面直上から出土したのは230・231・233・235・238・239・246、床面近くから出土したの



貼床補修
①にぶい黄色粗砂（黒褐色・黄褐色土混、非常に硬化）
②にぶい黄褐色土（黒褐色・暗褐色土混、硬化）
③黄褐色土（にぶい黄橙色土混）

①黒褐色粘質土
②黒色粘質土
③暗褐色粘質土（にぶい暗褐色土小ブロック少量混）
④暗褐色粘質土（黒褐色土小ブロック混）
⑤暗褐色粘質土（黄褐色土小ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土
⑦にぶい黄褐色粘質土（AT小ブロック混）
⑧褐色粘質土（AT粒多量混）
⑨褐色粘質土（黄褐色土小ブロック多量・AT粒少量混）
⑩褐色粘質土（AT大粒極少量混）
⑪にぶい黄褐色粘質土（AT粒極少量混）
⑫褐色粘質土（ATブロック混、炭少量混）
⑬褐色粘質土（AT小粒混）
⑭褐色粘質土（黄褐色土小ブロック多量・AT粒少量混）
⑮褐色粘質土（黄褐色土小ブロック少量・AT小粒混）
⑯褐色粘質土（黄褐色土小ブロック少量・AT大粒多量混）
⑰にぶい黄褐色粘質土（AT小粒多量混）
⑱にぶい黄褐色粘質土
⑲黒褐色粘質土
⑳暗褐色粘質土
㉑暗褐色粘質土（褐色土小粒少量混）
㉒暗褐色粘質土（褐色土小ブロック混）
㉓
㉔暗褐色粘質土（褐色土ブロック混、AT粒少量混）
㉕褐色粘質土（AT粒混）
㉖褐色粘質土（暗褐色土粒混）
㉗褐色粘質土
㉘にぶい黄褐色粘質土（AT小粒少量混）
㉙暗褐色粘質土（AT小粒少量混）
㉚褐色粘質土（黄褐色土大粒少量混）
㉛にぶい黄褐色粘質土
㉜褐色粘質土（AT小粒混）
㉝明褐色粘質土（褐色土ブロック混）
㉞褐色粘質土（暗褐色・明褐色土ブロック少量混）
㉟褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
㊱褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
㊲暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック・炭化物混）
㊳暗褐色粘質土（地山土粒混、炭化物少量混）
㊴暗褐色粘質土（地山土粒混、炭化物少量混、しまり無し）
㊵にぶい黄褐色粘質土
㊶にぶい褐色粘質土
㊷褐色粘質土（地山土粒・炭化物混）
㊸にぶい黄褐色粘質土（褐色土ブロック・炭化物多量混）
㊹にぶい黄褐色粘質土（地山土ブロック・炭化物混）
㊺暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭化物混）
㊻黒褐色粘質土（地山土粒・炭化物混）
㊼不明

図85　竪穴住居17（１）

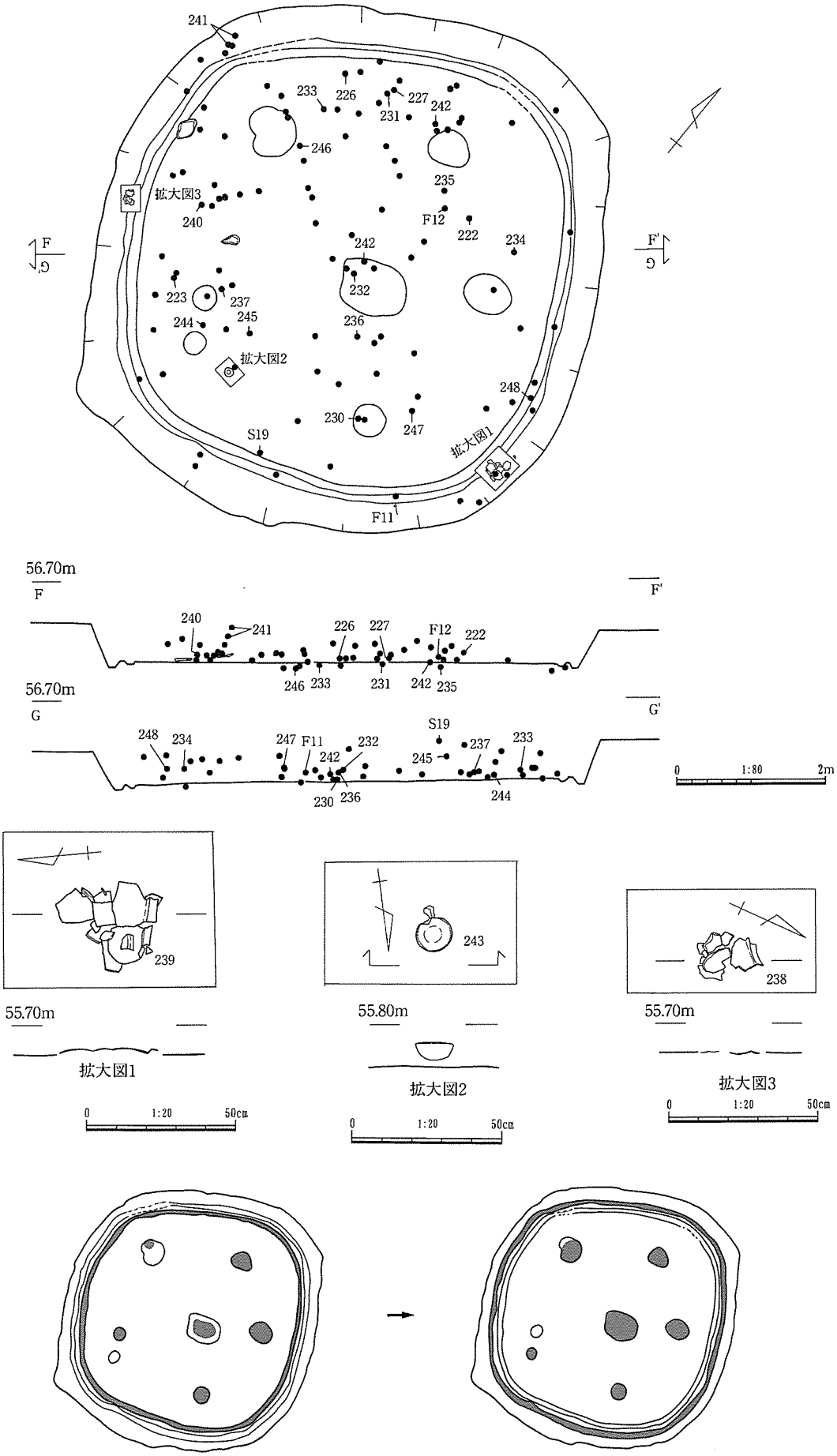

241
233
226
227
242
231
246
235
拡大図3
240
F12
222
234
F
G'
F'
G
242
232
223
237
245
244
236
拡大図2
248
230
247
S19
拡大図1
F11
56.70m
F
F'
240
241
226
227
F12
222
246
233
231
242
235
56.70m
G
G'
S19
248
234
247
F11
232
237
233
242
245
230
236
244
0
1:80
2m
239
243
238
55.70m
55.80m
55.70m
拡大図1
拡大図2
拡大図3
0
1:20
50cm
0
1:20
50cm
0
1:20
50cm

図86　竪穴住居17（２）

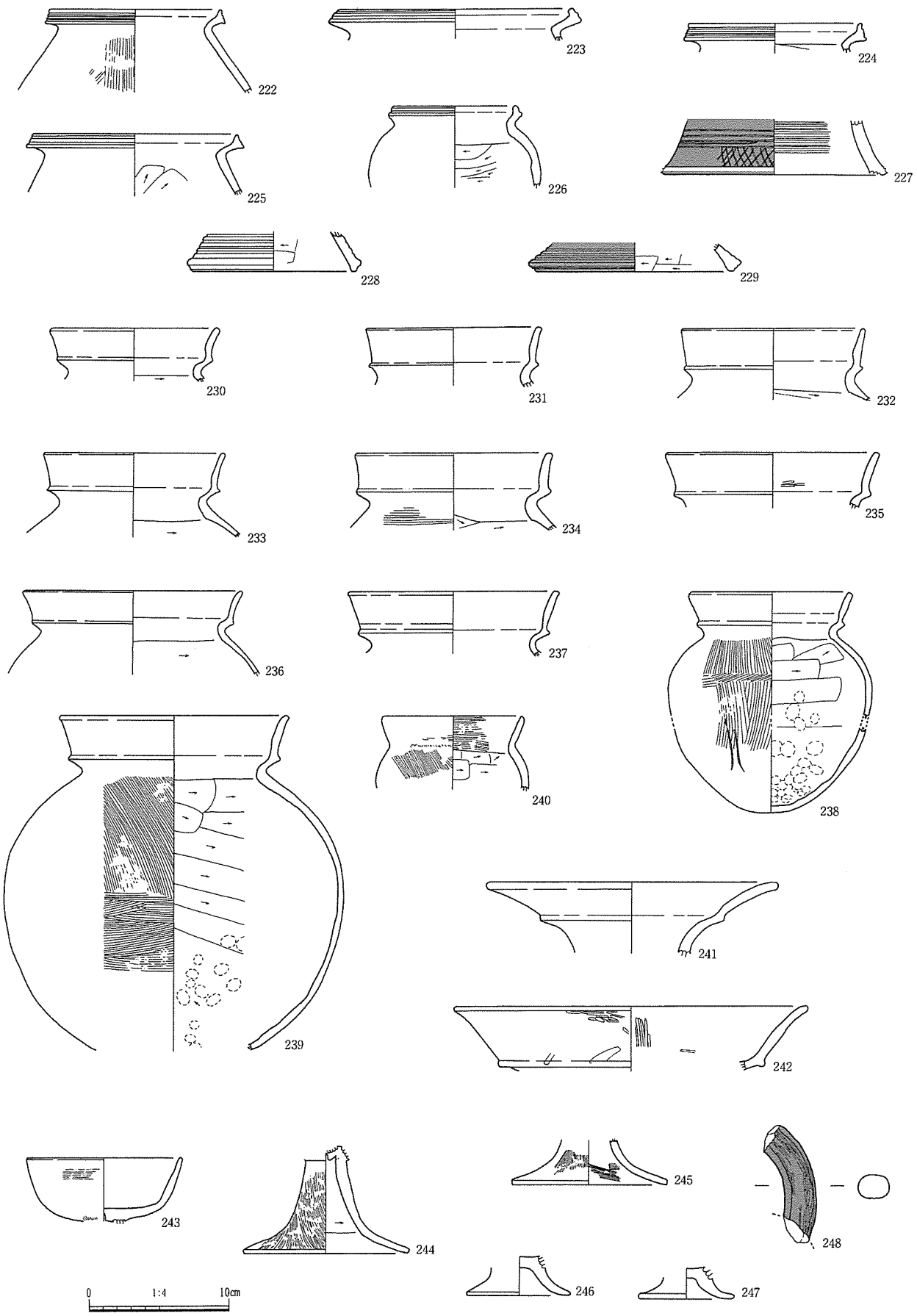


図87　竪穴住居17出土遺物（１）

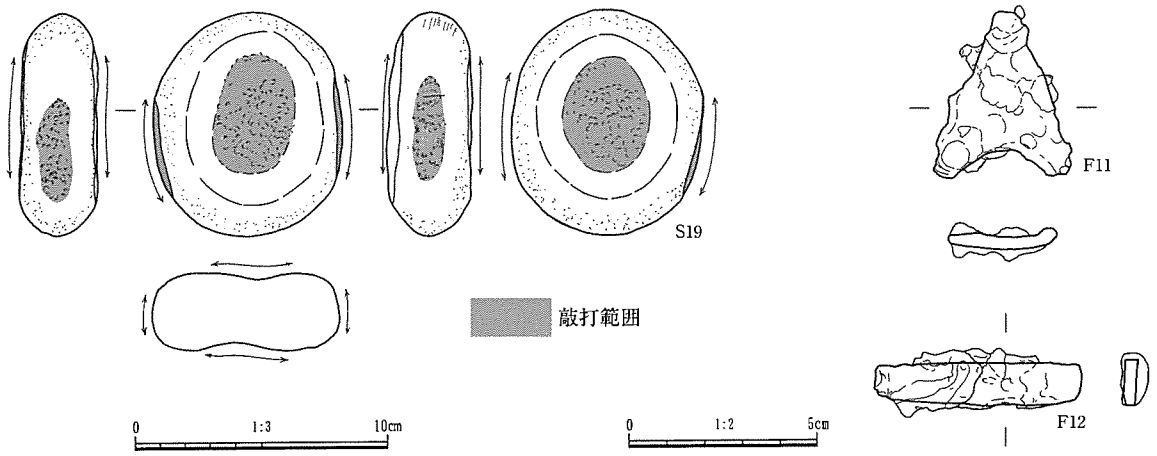


図88　竪穴住居17出土遺物（２）

は242～244、中位付近から出土したのは222・223・226・227・232・236・237・240・242・245・247・248・Ｆ11・Ｆ12、上層から出土したのは224・229・241・Ｓ19である。

竪穴住居17ｂは、床面直上から出土した238・239から古墳時代前期中葉の遺構と考える。

竪穴住居17ａは、床面規模が長軸5.74m、短軸5.57mで、周壁溝内の床面積は29.3㎡を測る。

検出された周壁溝は、幅約10～16cm、深さ５～7cm程度である。主柱穴は、周壁溝から約0.7～１mの距離にあるＰ１～５の５本と推測される。Ｐ２～４は前述した竪穴住居17ｂで再利用されたと推測するもので、掘り直しが行われているため17ａ段階の規模は不明である。Ｐ５は長径34cm、深さ49cmを測るもので、柱痕跡が想定できる層は存在しない。Ｐ１はＰ７によって上部を壊されているため規模が明確ではないが、長径42cm以上、深さ95cmを測るもので、㊸層は柱痕跡と推測される。径は15cm程度のものと推測される。

竪穴住居17ｂ拡張前の遺構のため、古墳時代前期中葉段階の遺構と考える。　（西川）

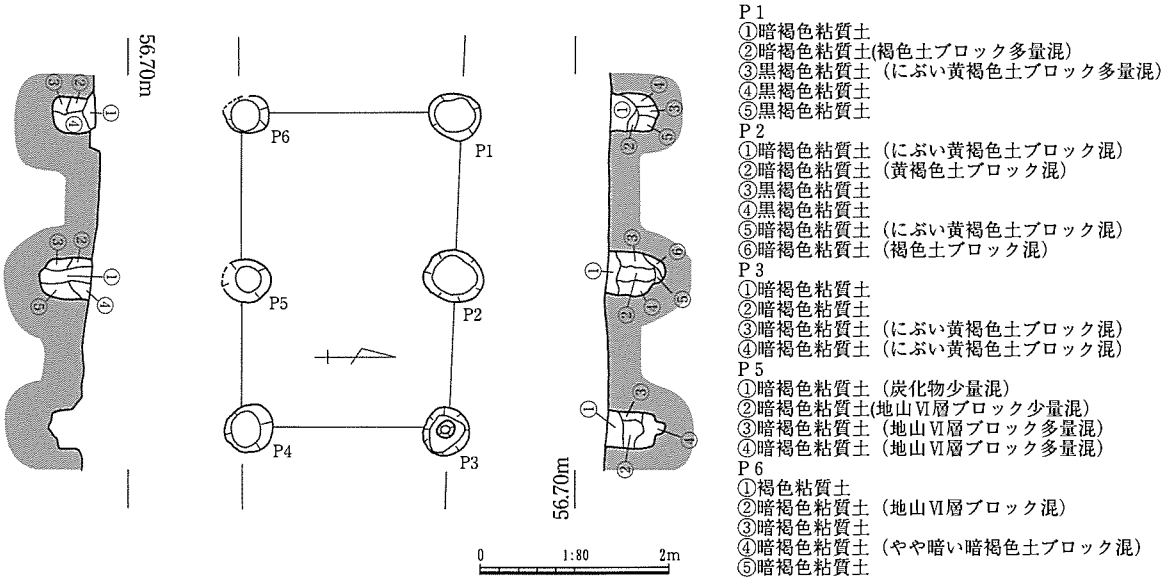


図89　掘立柱建物７

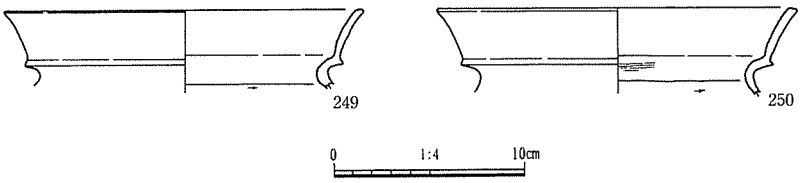


図90　掘立柱建物７出土遺物

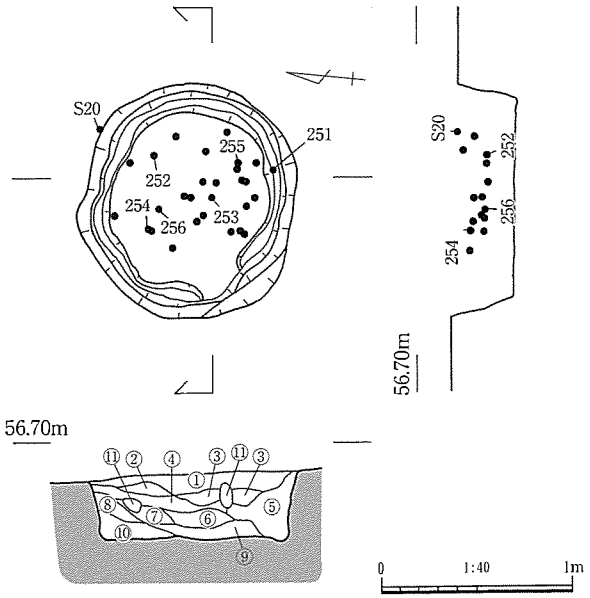


図91　土坑12

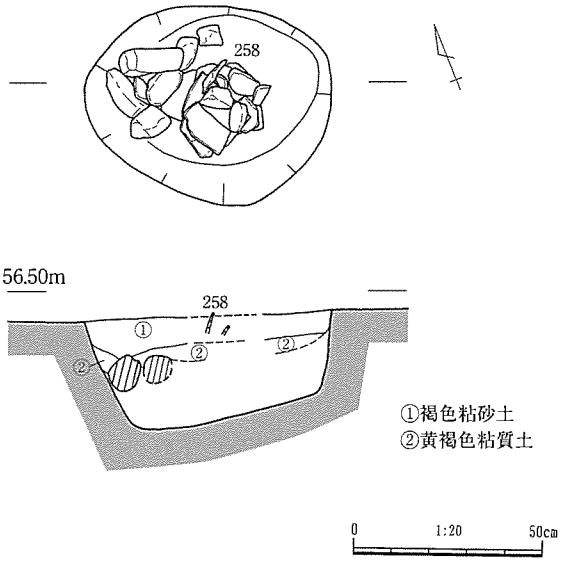


図92　土坑13

①褐色粘質土（細砂混、炭少量混）
②暗褐色粘質土（中砂混、炭少量混）
③黒褐色粘質土（炭少量混）
④暗褐色粘質土（極細砂混、炭・焼土少量混）
⑤褐色粘質土（炭・焼土少量混）
⑥褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑦褐色粘質土（炭・焼土少量混）
⑧暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑨暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑩黒褐色粘質土（焼土少量混）
⑪撹乱

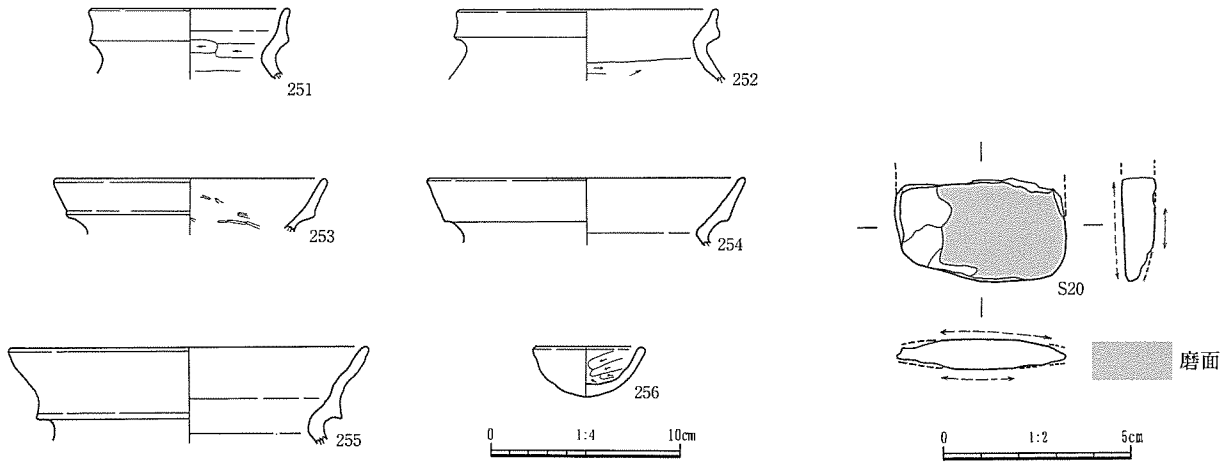


図93　土坑12出土遺物

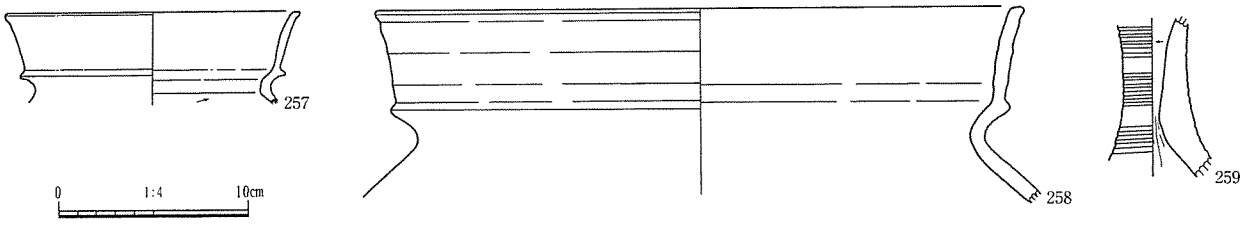


図94　土坑13出土遺物

２．掘立柱建物

当該期の建物と確実に比定できるものは、掘立柱建物７のみである。

掘立柱建物７（図89・90　図版20・64）

Ｈ７～Ｉ８グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。規模は梁行１間（2.6m）、桁行２間（3.4m）である。床面積は4.3㎡である。棟筋をほぼ東西にとる。柱間距離は梁行で2.6m、桁行では2.6～2.8mである。Ｐ５を除く各柱穴は柱材を抜き取っていた。Ｐ５の断面観察から柱材の径は16cm前後であろう。遺物はＰ２から二重口縁を有する甕の口頸部片249と 250が出土した。両者とも非常にシャープなつくりで、口縁部下半を強くナデており、下端部の稜もシャープである。両者とも古墳時代前期前葉のものである。出土遺物の時期、柱穴の埋土の色調からも当該期の遺構と考える。（日置）

３．土坑

土坑12（図91・93　図版20・64）

土坑12は調査地東側のＨ５グリッド中央部に位置する。

土坑12は長軸124cm、短軸110cmの平面円形を呈する。壁面は直線的に立ち上がり、やや外傾する。検出面からの最大の深さは37cmを測る。底面壁際に幅６～13cm、深さ１～２cmで溝状に巡るごく浅い窪みが存在する。埋土は10層に分かれ、埋土中には炭や焼土が含まれるがその量は多くはない。

埋土の中位から上部にかけて土器が出土した。このうち、甕251～255、手捏土器256、磨製石斧の２次加工品Ｓ20を図化した。いずれも弥生時代終末期から古墳時代前期前葉のものである。手捏土器256は碗状を呈するもので、内面にはケズリ痕跡が残るが、外面はナデによって平滑に仕上げられている。Ｓ20は磨製石斧の刃部破片を２次的に加工したものと考えられるが、何に使用したものかは不明である。

土坑は出土した遺物から古墳時代前期前葉の遺構と考える。（西川）

土坑13（図92・94　図版65）

土坑13は調査地西側のＪ11グリッド南端に位置する。

土坑13は長軸65cm、短軸52cmの平面不整形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは32cmを測る。埋土は２層以上に分かれるが、埋土中位に径10～16cm程度の礫が多数存在するため、その下部については十分な観察が出来なかった。この礫は土坑が半ば程度まで埋没した段階で入り込んでおり、人為的に入れられている可能性が強い。

礫上部の埋土上層から土器が出土した。このうち、甕257・258、高坏の脚筒部259を図化した。

土坑は出土した遺物から古墳時代前期の遺構と推測される。性格は不明である。（西川）

４．溝

溝１（図95・96　図版20・65）

溝１は調査地東際のＧ４からＩ４グリッドにまたがって存在する。竪穴住居６を切る。平坦部から斜面部への地形変換部にあり、南北方向に直線的に伸びる。途中に途切れる部分が存在し、２つに分かれるが、ほぼ一直線上に位置するため同一の遺構と判断した。用途は不明である。

埋土中から出土した遺物の内260～268を図化した。出土した遺物は流入したものではあるが、鼓形器台の脚部と考えられる268が存在することから古墳時代前期段階の遺構と考える。（西川）

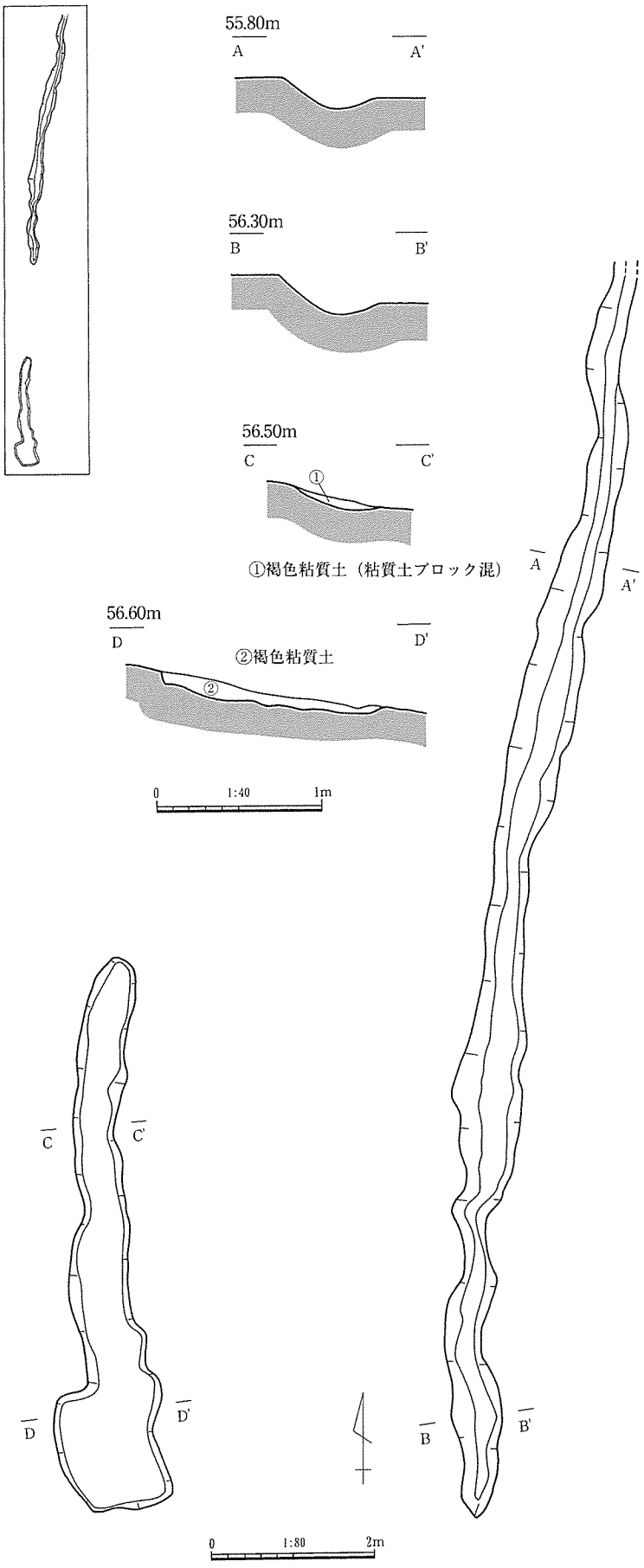


図95　溝１

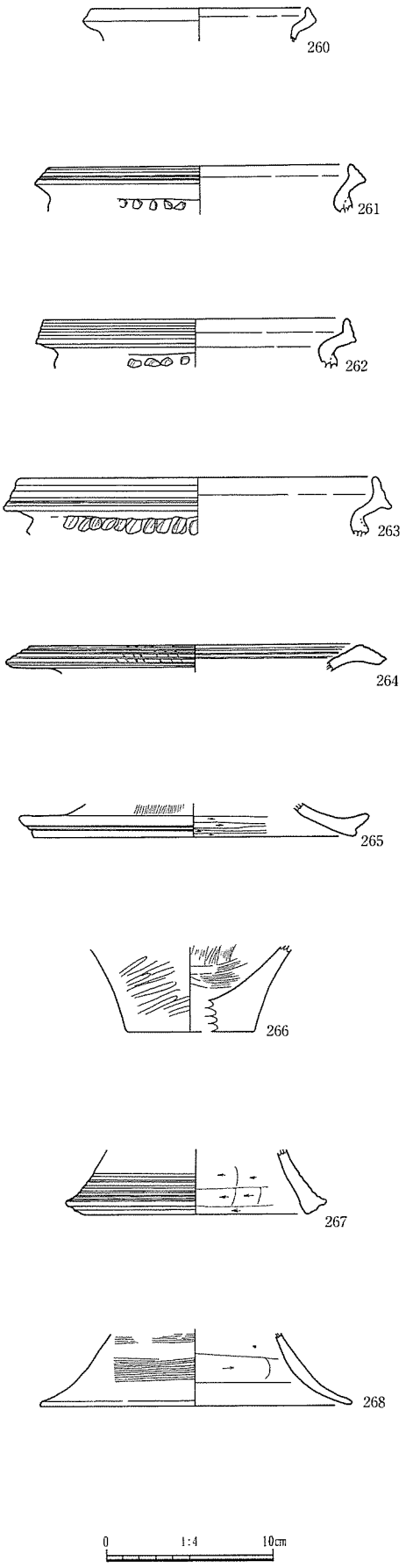


図96　溝１出土遺物

５．古墳

茶畑14・15・16号墳（図97・98　図版21・22・65）

調査地西端、斜面際に沿って３基の古墳を検出した。西から14・15・16号墳の順に、周溝の一部を共有しながら並んでいる。３基とも南側が流失している。15・16号墳の遺存状況は悪く、埋葬施設を確認し得たのは14号墳のみ。平面形態は、残存する周溝がコの字形にめぐることから、方形を呈していたと考えられる。

斜面側Ｃ－Ｃ′付近より南側では、㉝～㊱層（14号墳）、㉚～㉜層（15号墳）、㉙層（16号墳）の上に周溝に堆積する土が乗っていた。これらの層は、古墳造成時の盛土の可能性がある。Ｃ－Ｃ′以北にも盛土の存在が想定されたが、検出できなかった。周溝の検出面は内側と外側で同じ高さであり、後述する墓壙が浅いこととあわせ、上部は削平されていると考えている。

残存する周溝は、各古墳をコの字に囲む。東西周溝間の芯々距離は、14号墳9.4m、15号墳8.6m、16号墳4.9mを測る。検出面よりの深さは60～70cm、他の周溝より低い14号墳西周溝幅は1.8～2.5m、それ以外の周溝幅は１～1.3mを測る。

各古墳の周溝に堆積する土は、ほぼ同じ堆積状況にあり、上層と下層に大別できる。上層（⑨・⑩層）は暗褐～黒褐色を呈し、レンズ状に堆積することから、自然堆積と判断した。下層は、明るい褐色系の土色を呈し、切り合いがあることから再掘削されたと考えている。⑰～⑲層の古段階と、それを切る⑪～⑯層の新段階に分けた。古墳間で共有される部分は、新しい古墳を築造するに際し再掘削される可能性もあろう。しかし、各古墳単独のものである北周溝にも、再掘削を示す堆積が観察された。また、各古墳周溝の下層新段階の堆積は、出土遺物に大きな時期差はなく、土色土質も類似する。このことから各古墳の周溝は、ほぼ同じ時期に再掘削されたと推定している。追葬や祭祀などの要因が考えられる。

土層断面の観察からは、いずれの古墳も新旧関係を決定するにはいたらなかった。しかし、平面形態から、以下のような築造順が想定できる。14号墳北・西周溝の軸に対し、15号墳の北・西周溝の軸は約10°ずれる。また14号周溝は、15号墳北西隅にぶつかるような平面形態を呈している。これと同じく、15号墳の北・西周溝の軸に対し、16号墳の北・東・西周溝の軸は約20°ずれる。さらに、各周溝の底面標高は、接続部においてほとんど差がない。このことから、16号墳の周溝が先にあり、その一部を共有するように15号墳が築造され、15号墳の後に、その周溝の一部を共有するように14号墳が築造された可能性がある。したがって、16号→15号→14号墳の築造順を想定している。

溝からは、多くの遺物が出土しているが、その多くは上層に伴うものである。下層新段階の堆積土から出土した遺物は、269・270・277・280である。269は、古墳時代前期前葉の甕である。14・15号墳が共有する周溝内からの出土であり、どちらに属していたかは不明。270は16号墳北周溝から出土した古墳時代前期中葉の小型の甕で、胴部は球状を呈する。280は、弥生時代中期後葉の高杯。上層に伴う遺物は、272～276・278～279で、14号・15号墳間の周溝から出土した276以外は14号墳の北・西周溝から出土した。272～274は甕、275・276は高杯、277は有段の鉢、278は手焙形土器、279は低脚杯で、古墳時代前期前葉～中葉に属する。

３基の古墳中、埋葬施設を確認したのは14号墳のみである。墓壙は、14号墳の中央に構築されていた。平面形態は、南北方向に長軸を持つ長方形である。長軸4.2m、短軸2.6m、深さ41cmを測る。Ｃ－Ｃ′付近より南は墳丘盛土と思われる堆積を切り、その他の部分は地山を切って構築されている。

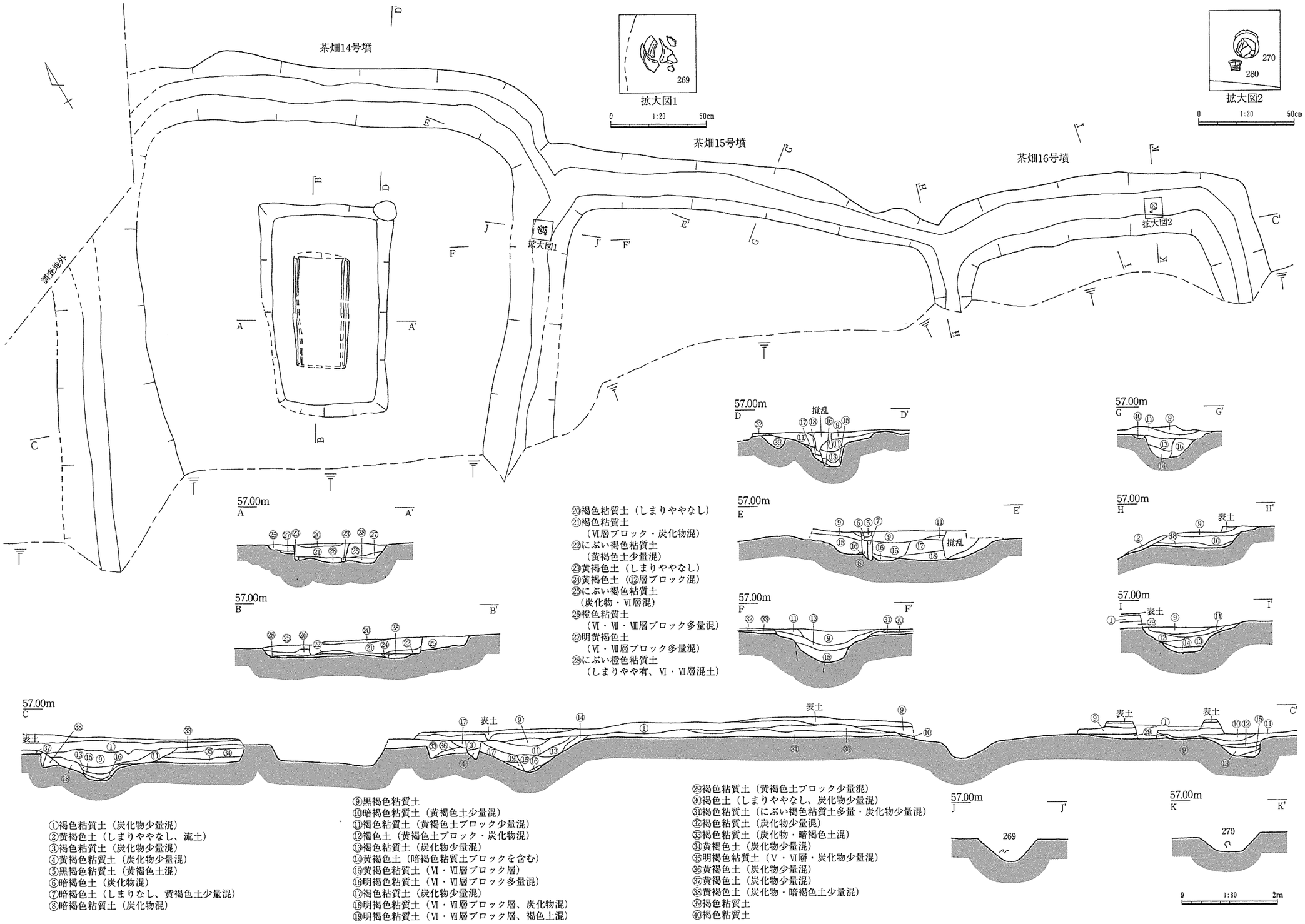


図97　茶畑14・15・16号墳

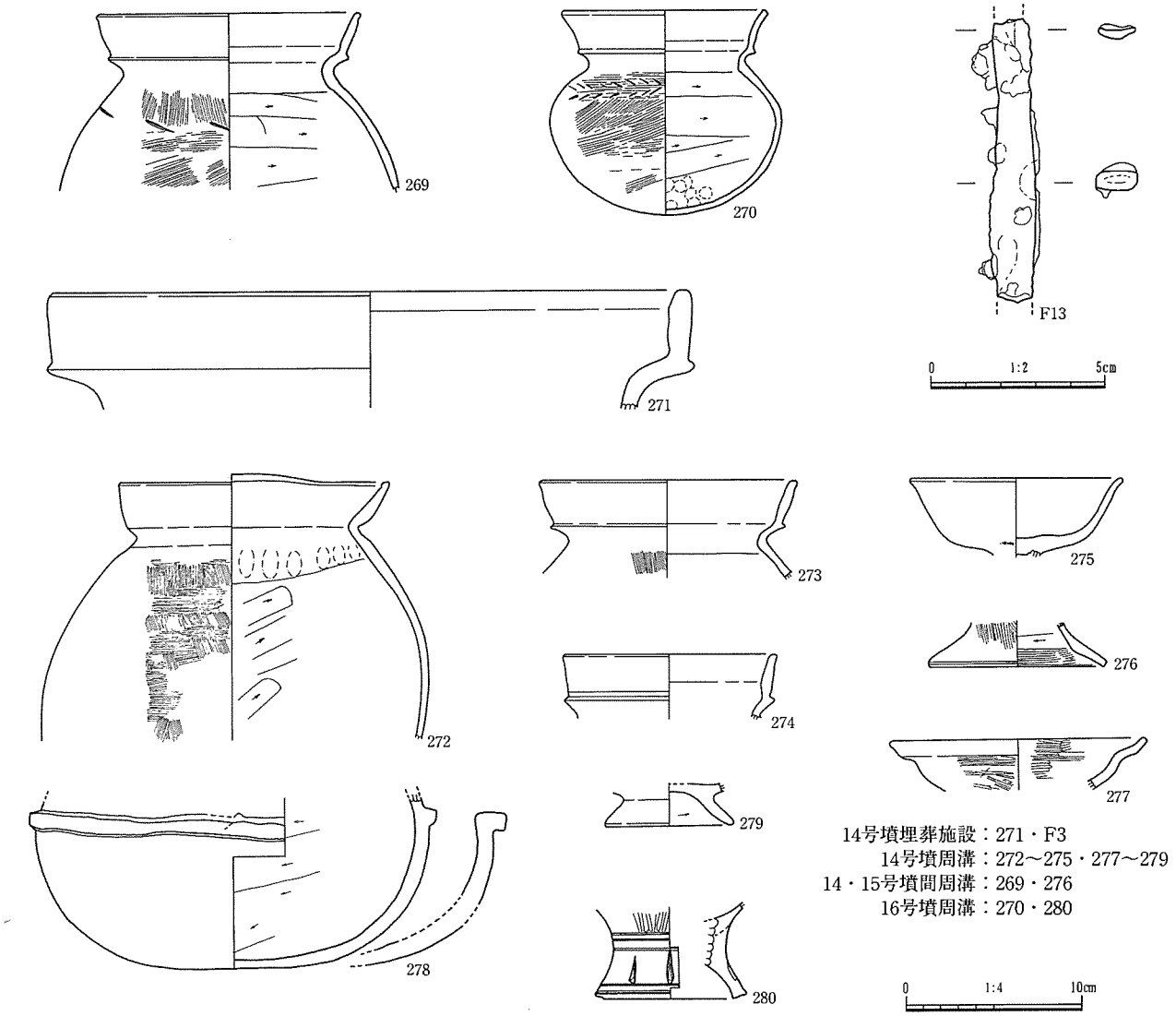


図98　茶畑14・15・16号墳出土遺物

堆積する土は⑳～㉘層で、⑳～㉓層は㉔～㉘層と地山を切る。平面形態は墓壙と主軸を同じくする長方形で、断面形態は箱形を呈する。位置と形態から棺痕跡と判断した。規模は、長軸2.3m、短軸1.1m、深さ30cmを測る。底面の南北長辺には長側板の痕跡と考えられる溝（㉓層）があり、深さ・幅とも約５cmを測る。このことから、組み合わせ式の木棺直葬であったと推定している。棺底下は、しまりのある地山質土の㉘層が堆積していた。この層は棺外にも広がっており、上面は平坦である。墓壙を掘削した後、棺を設置する目的で敷かれた可能性がある。㉕～㉗層は、棺裏込め土であろう。西側の裏込め土中から、鉇（Ｆ13）が出土している。また表土直下ではあるが、墓壙の南端付近で、大型の土師器壺（271）が約１／３個体分まとまって出土した。これらは、埋葬にかかわる遺物の可能性がある。

周溝を共有する方墳が集落と同じ台地の縁辺部に沿って連続する類例として、同時期の西伯耆地域おいては、米子市青木遺跡があげられる。

14・15・16号墳は、出土遺物から古墳時代前期前葉～中葉に築造されたと方墳と考えられる。

（湯川）

第５節　古墳時代中期から後期の調査

図99　古墳時代中期から後期の遺構位置図

１．竪穴住居

竪穴住居18（図100～103　図版23・66）

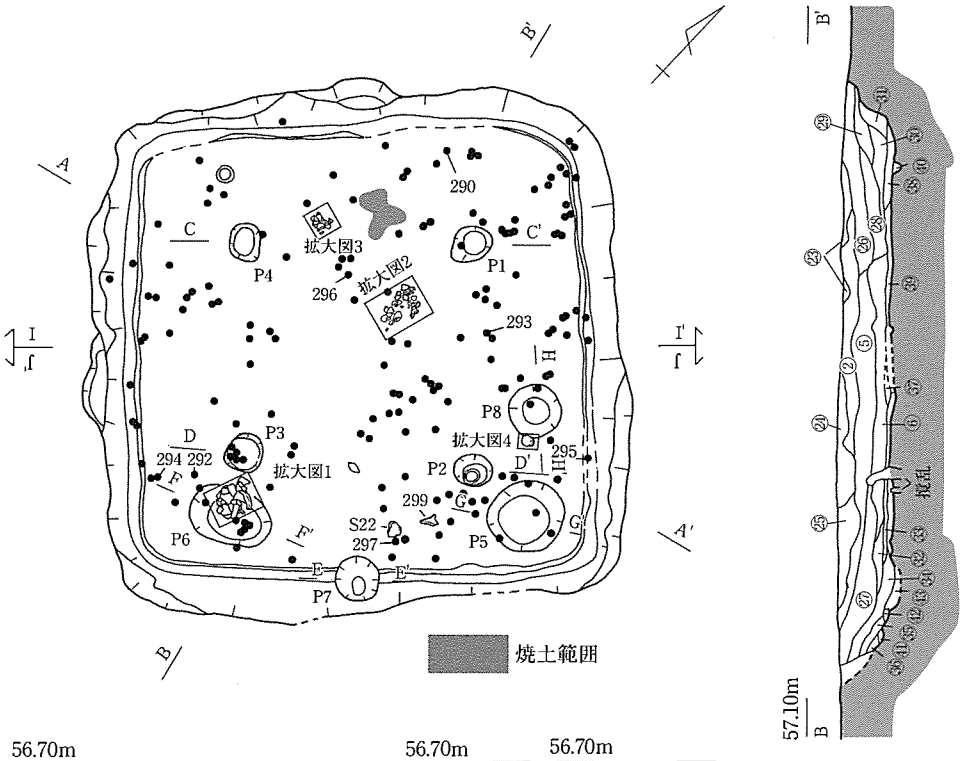
竪穴住居18は調査地中央部のＩ・Ｊ６グリッドにまたがる位置を中心として存在する。北東約４ｍには前述した竪穴住居16が存在する。

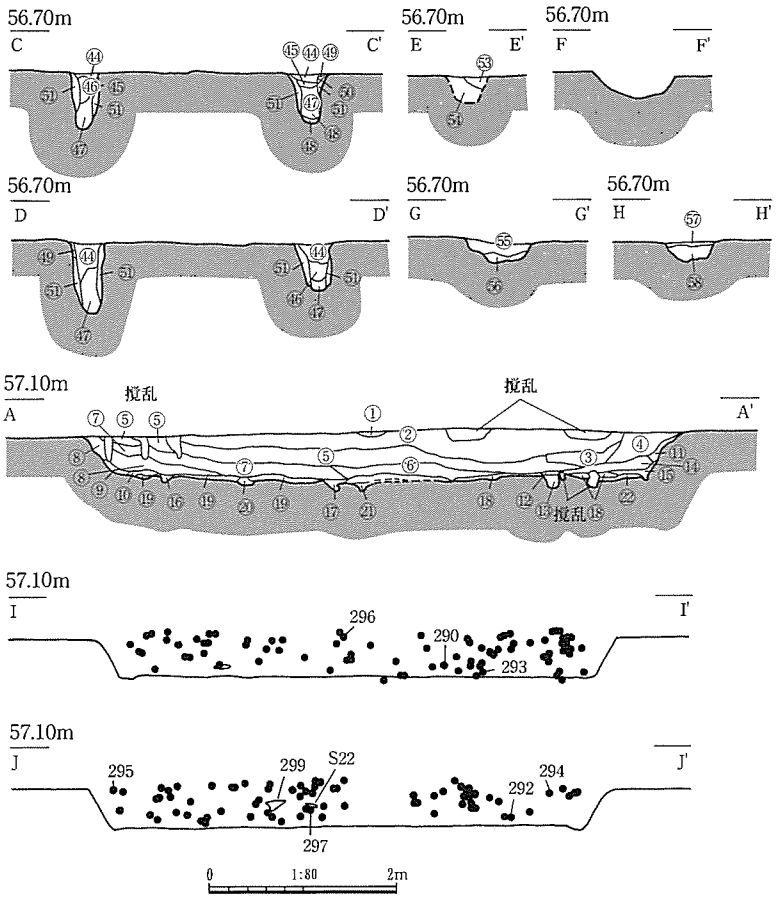
竪穴住居18は、平面形が方形を呈する遺構である。検出面での規模は長軸5.66ｍ、短軸5.53ｍ、検出面から床面までの最大の深さは0.46ｍを測る。床面標高はおよそ56.3ｍである。

周壁下から１条の周壁溝を検出した。幅約12～25cm、深さは５～７cm程度である。床面規模は長軸4.66ｍ、短軸4.55ｍ、床面積は21.2㎡を測る。

主柱穴はＰ１～４である。これらの主柱穴は住居の対角線上に位置しており、住居隅から1.1～1.2ｍ離れた位置に存在する。Ｐ１は長径48cm、深さ51cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊺・㊼層が認められる。最下層の㊽層は砂を含む締まりがある層で、柱裏込め土の㊿層が㊽層上面で終わることから、柱の沈下を防ぐ礎盤的な用途を持たせた埋め土と考える。柱は径18cm程度のものと推測される。Ｐ２は長径41cm、深さ51cmを測るもので、底部には柱の自重による沈下と想定されるくぼみが存在する。柱痕跡と推測される㊻・㊼層が存在する。柱は径19cm程度のものと推測される。Ｐ３は長径42cm、深さ76cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊼層が存在する。柱は径18cm程度のものと推測される。Ｐ４は長径43cm、深さ59cmを測るもので、柱痕跡と推測される㊻・㊼層が存在する。柱は径18cm程度のものと推測される。

主柱穴の他に用途不明の柱穴が存在する。Ｐ５はＰ２と住居東隅の間に位置し、規模は長軸81cm、短軸73cm、深さ13cmを測る。また、Ｐ６はＰ３と住居南隅の間に位置し、規模は長軸90cm、短軸60cm、深さ29cmを測る。Ｐ６については埋土上面の住居床面から完存する土器289が出土したことから住居廃絶時には埋まっていたことが判明した。Ｐ５とＰ６は主柱穴と住居隅の間に位置する点が共通し、規模も類似することから住居に伴う施設と推測される。住居南東壁面のほぼ中央部からＰ７を確認し





①黒褐色粘質土
②黒褐色粘砂土（褐色土ブロック混）
③極暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
④暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
⑤極暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
⑥黒褐色粘質土（褐色土ブロック少量・焼土混）
⑦黒色粘砂土（褐色・地山土ブロック少量混）
⑧暗褐色粘砂土（地山土ブロック極少量混）
⑨暗褐色粘砂土
⑩明褐色粘砂土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑪極暗褐色粘質土
⑫暗褐色粘砂土
⑬にぶい褐色粘質土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑭褐色粘質土
⑮極暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑯褐色粘砂土（黒褐色土ブロック混）
⑰褐色粘砂土（地山土ブロック混）
⑱暗褐色粘砂土（地山土ブロック多量混）
⑲褐色粘砂土（黒褐色・地山土ブロック混）
⑳にぶい褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
㉑褐色粘砂土（焼土混）
㉒褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
㉓黒褐色粘砂土（炭少量混）
㉔極暗褐色粘砂土
㉕黒褐色粘質土
㉖黒褐色粘砂土（褐色土ブロック多量混）
㉗黒褐色粘質土（褐色土ブロック混）
㉘黒褐色粘質土（褐色土ブロック多量混）
㉙暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
㉚暗褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
㉛褐色粘質土
㉜黒褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
㉝暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㉞褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㉟暗褐色粘砂土（炭少量混）
㊱褐色粘砂土（地山土ブロック混）
㊲黒褐色粘質土（焼土混）
㊳にぶい褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
㊴褐色粘質土（黒褐色・地山土ブロック多量混）
㊵明褐色粘質土（暗褐色土混）
㊶褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
㊷暗褐色粘砂土（しまり悪い）
㊸黒褐色粘砂土（地山土ブロック少量混）
㊹黒褐色粘質土（地山土粒・炭化物混）
㊺暗オリーブ褐色粘質土（にぶい黄褐色土粒混）
㊻黒褐色粘質土（にぶい黄褐色土混）
㊼暗褐色粘質土（にぶい黄褐色土粒混）
㊽明黄褐色粘質土（砂少量混）
㊾にぶい黄褐色粘質土（にぶい黄褐色土混）
㊿褐色粘質土
(51)黄褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
(52)にぶい黄褐色粘質土（地山土ブロック多量・炭化物少量混）
(53)暗褐色粘質土（ATブロック混）
(54)褐色粘質土（ATブロック混）
(55)暗褐色粘質土（ATブロック混）
(56)にぶい黄褐色粘質土（ATブロック混）
(57)暗褐色粘質土（ATブロック混）
(58)にぶい黄褐色粘質土（ATブロック混）

図100　竪穴住居18（１）

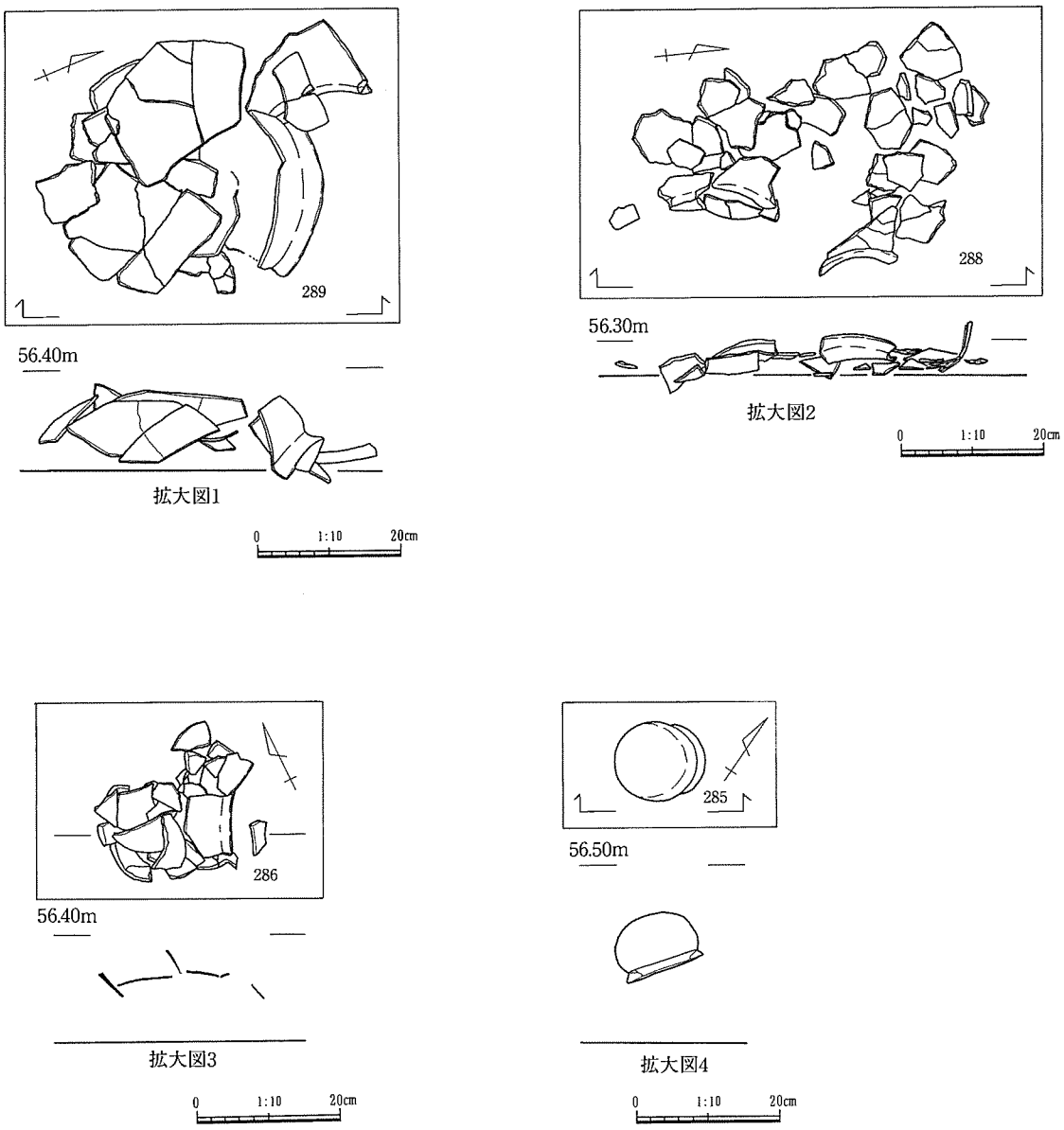


図101　竪穴住居18（２）

た。径約45cm、深さ28cm以上を測り、断面形は直立的な形状を呈するがやや住居の壁面を掘り込む。Ｐ７は住居内に於ける位置関係および形態から古御堂笹尾山遺跡における「斜坑状ピット」に当たると考える（第３分冊、第６章第６節参照）。Ｐ７から周壁溝が伸びるが、両者に切り合い関係があるのかについては確認できなかった。Ｐ８はＰ２の北側に位置し、径約55cm、深さ22cmを測る。

焼土面を１ヶ所検出した。Ｐ１とＰ４のほぼ中間に位置し、周壁溝から約0.6m離れる。主柱穴に囲まれた内側には焼土面は存在しない。

埋土は、周壁際に褐色～暗褐色系の土が堆積した後に、黒色系の土が覆っている。前述した近接する竪穴住居16においても堆積の最終段階に黒色系の土が存在しており、同様な堆積傾向である。

遺構中から出土した遺物のうち、土器・土製品281～299、石器Ｓ21・22を図化した。281～284は弥生時代の壺及び無頸壺。285～291は土師器の甕。292は高坏坏部。293は器種不明の底部。294・295は須恵器の坏蓋。296は糸切り痕を持つ須恵器の坏底部。297は欠損するが円筒状の土玉。298は刺突が

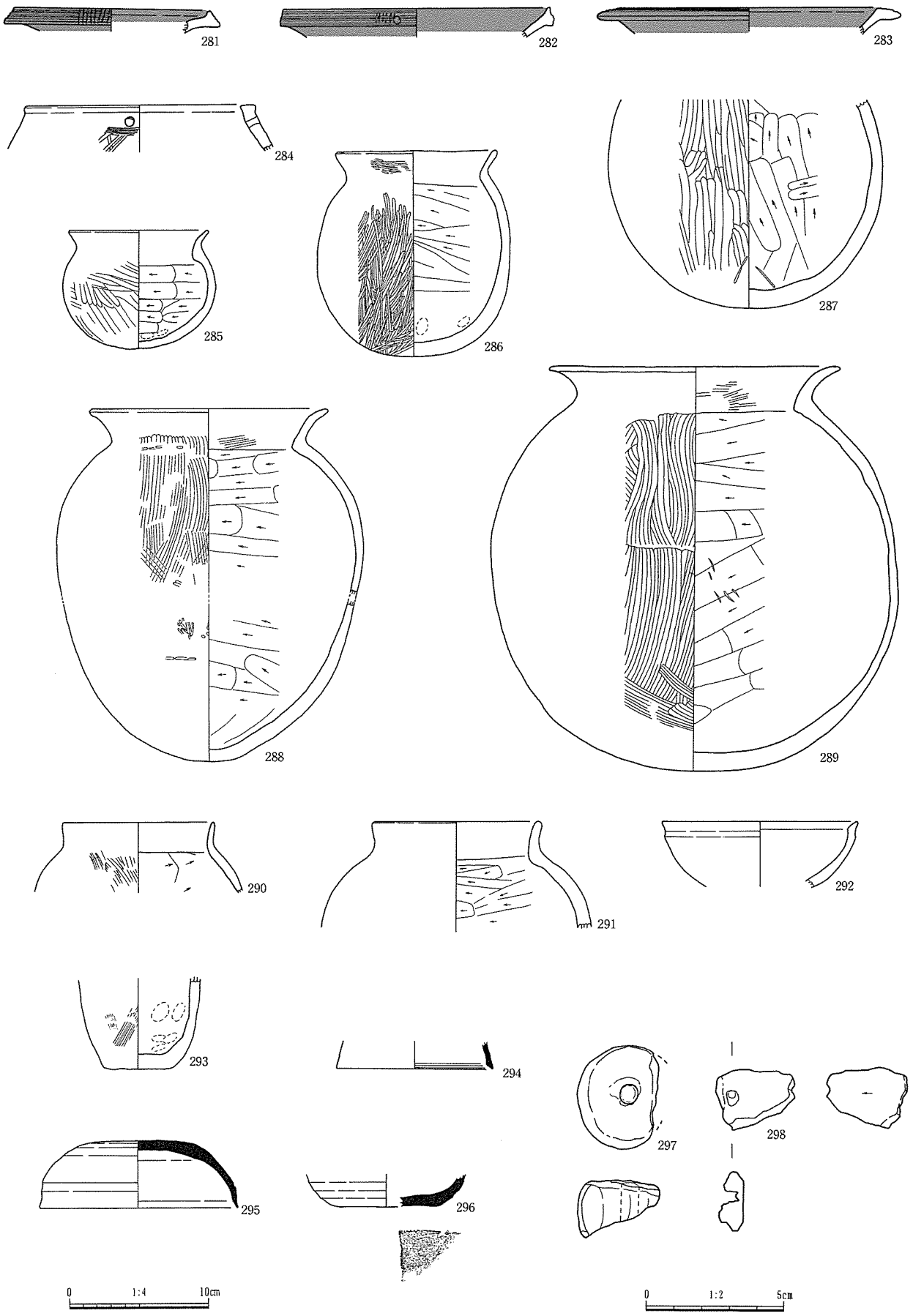


図102　竪穴住居18出土遺物（１）

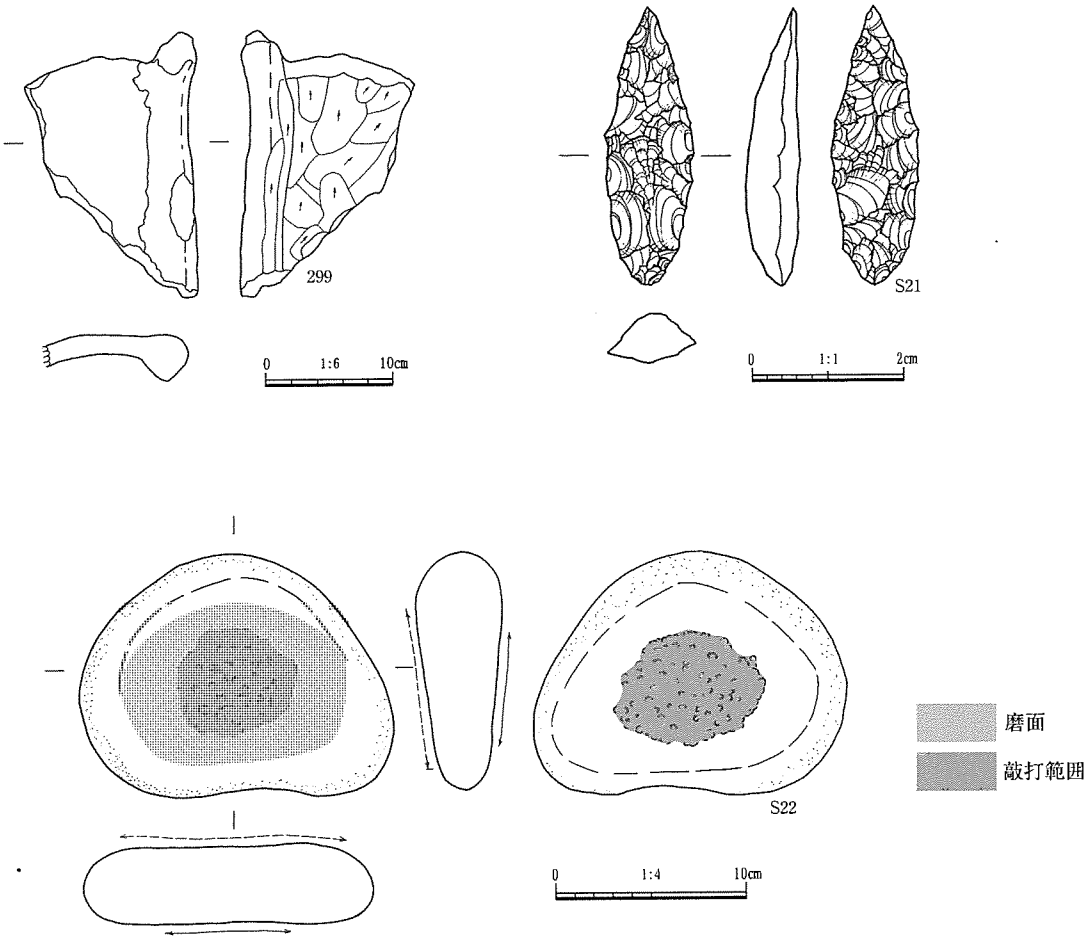


図103　竪穴住居18出土遺物（２）

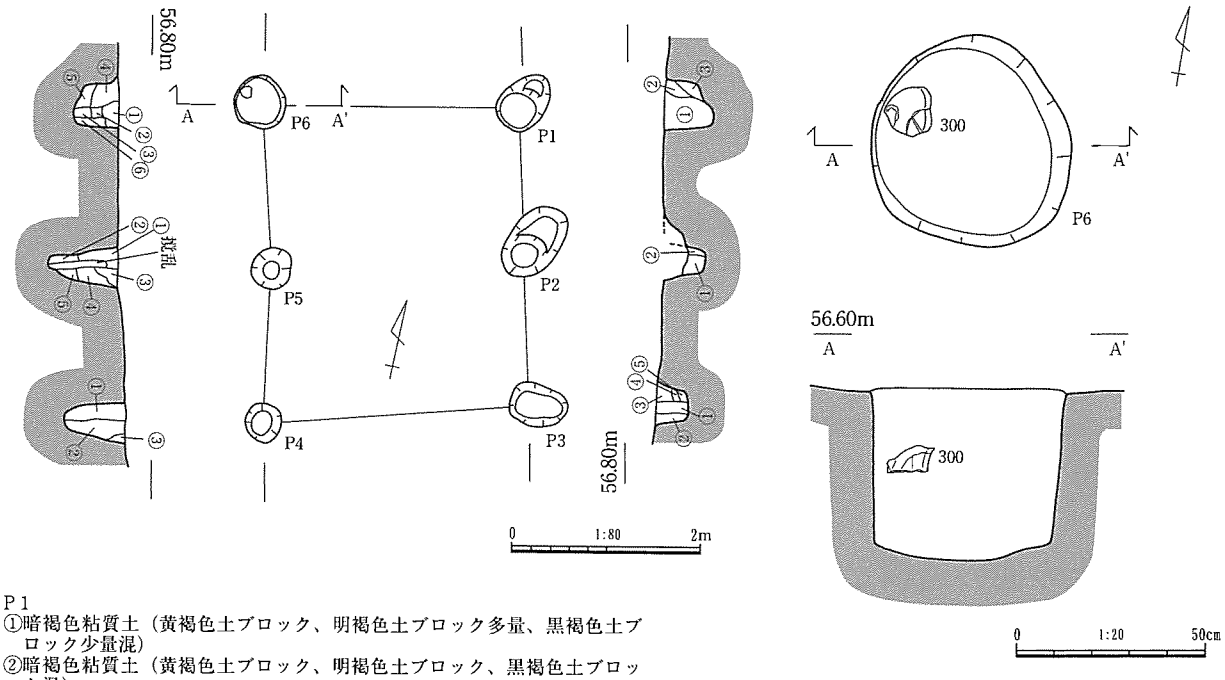
残る胴部片。299は竈片と推測される。石器は、Ｓ21が完形の尖頭器で、埋土中位の⑤層から出土した。旧石器時代末から縄文時代草創期にかけての遺物と考える。Ｓ22は表裏に敲打痕が残る石皿である。これらの内、床面直上出土は288・289。床面近くからの出土は286・293。埋土中位からの出土は285・290・292・297・299・Ｓ21・Ｓ22。埋土上層から出土したのは294～296である。

この住居は、ほぼ床面から出土した286・288・289より古墳時代後期中葉の遺構と考える。（西川）

２．掘立柱建物

掘立柱建物８（図104・105　図版24・66）

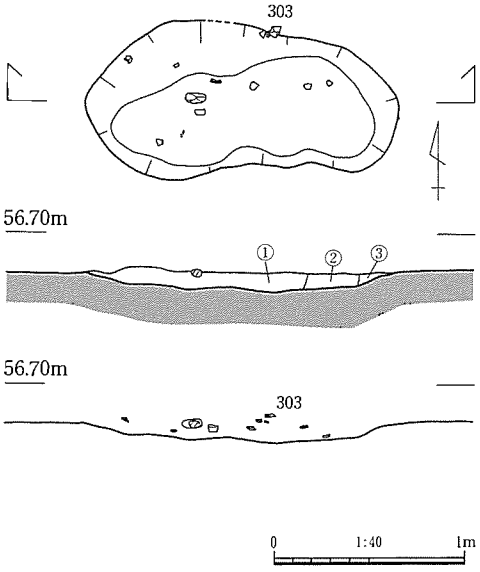
Ｈ５グリッドにおいて検出した。平坦部の東側に位置する。方位は約14度西に傾いた南北棟である。規模は梁行１間（2.8m）、桁行２間（6.8m）である。床面積は9.4㎡である。各柱穴の径は40cmから80cmで、埋土は大きく暗褐色の粘質土と地山質の黄褐色土ブロックからなる。柱材は全て抜き取られていた。各柱穴の底面の高さは均一ではない。遺物はＰ６から土師器の高坏300が１点出土した。300は坏部の約半分と脚部を欠損する。坏部は内湾する椀状で、口縁部は外方へ屈曲させて、端部をつまんでややシャープにして収める。焼成は軟質で、摩滅が激しく調整は判然としない。遺物の時期と柱穴埋土の色調から、古墳時代後期の遺構であると考える。（日置）



Ｐ１
①暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック、明褐色土ブロック多量、黒褐色土ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック、明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
③暗褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
Ｐ２
①暗褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
Ｐ３
①暗褐色粘質土（明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土（明褐色土ブロック多量、黒褐色土ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
④黒褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
⑤暗褐色粘質土（明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
Ｐ４
①褐色粘質土（明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック少量混）
②明褐色粘質土（褐色土ブロック混）
③暗褐色粘質土

Ｐ５
①にぶい黄褐色粘質土（明褐色土ブロック少量、黒褐色土ブロック少量混）
②にぶい黄褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混）
③褐色粘質土（黄褐色土ブロック少量、明褐色土ブロック多量混）
④黒褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混）
⑤明褐色粘質土（にぶい黄褐色土ブロック多量混）
Ｐ６
①暗褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混
②暗褐色粘質土（明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
③にぶい黄褐色粘質土（明褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
④にぶい黄褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
⑤明褐色粘質土（褐色土ブロック多量、黄褐色土ブロック混）
⑥にぶい黄褐色粘質土（炭化物片少量混）

図104　掘立柱建物８



①黄褐色粘質土
②暗オリーブ褐色粘質土
③暗灰黄色粘質土（明黄褐色土小粒混）

図106　土坑14

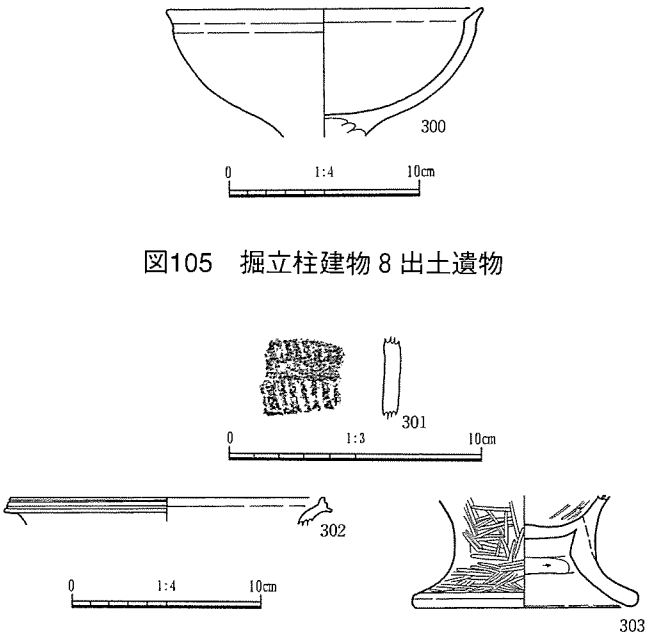


図105　掘立柱建物８出土遺物

図107　土坑14出土遺物

３．土坑

土坑14（図106・107　図版24・66）

土坑14は調査地ほぼ中央部のＩ７グリッド北寄りに位置し、土坑43を切る。南東約４ｍには竪穴住居18が存在する。

土坑14は長軸166cm、短軸83cmの平面不整形を呈する土坑である。遺存状況は悪く、検出面からの最大の深さは11cmである。埋土を３層に分けたが、地山土に由来する黄褐色土が多く、人為的に埋められた可能性が高い。

埋土の中位付近を中心として土器が出土したがほとんどは小片である。このうち、縄文土器301、弥生土器の口縁部302、土師器の底部と考えられる303を図化した。303は検出面からの出土である。出土した遺物から古墳時代後期の遺構と考える。（西川）

第６節　その他の遺構と遺物

図108　その他の時期の遺構位置図

１．その他の時期の調査

茶畑第１遺跡からは、弥生時代中期から古墳時代後期にかけての建物を中心とする遺構が数多く出土しているが、それ以外の時期の遺構も存在している。ここでは、遺物によって時期を判断できた縄文時代及び奈良時代の遺構について記述を行う。（西川）

縄文時代

茶畑第１遺跡からは、落し穴と考えられている特徴的な形態を呈する土坑内を中心に縄文土器が出土した。土器はいずれも小片で、出土総点数もわずかであり、出土状況も流入に伴うものであって本来の土器の使用状況を反映したものではない。しかしながら、主として縄文時代の遺構と考えられながら、落し穴であれば人の居住域から外れた周辺域に形成されるという土坑の性格上遺物の出土がきわめて稀であり、時期の判定が困難であった土坑内から縄文土器が出土した意義は大きいといえる。ここでは、それらの土坑について記述を行う。（西川）

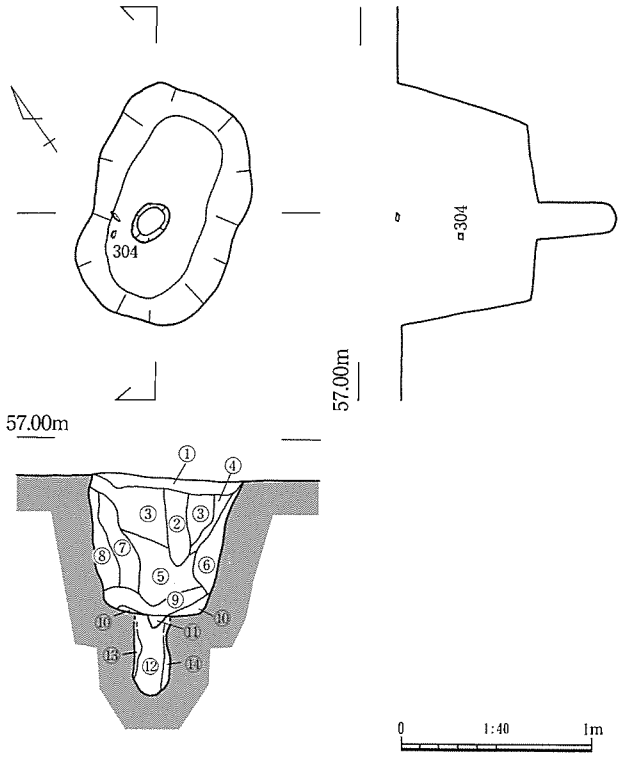


図109　土坑15

①黒褐色粘質土（粘質土ブロック混）
②黒色粘質土（地山土・粘質土ブロック混）
③黒色粘質土（粘質土ブロック混）
④黒褐色粘質土（粘質土ブロック混）
⑤黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥黒色粘質土（地山土ブロック混）
⑦黒色粘質土（粘質土ブロック混）
⑧黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑩黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑪黒色粘質土（地山土ブロック混）
⑫黄褐色粘質土（明黄褐色土粒多量混）
⑬オリーブ黒色粘質土（明黄褐色土小粒混）
⑭明黄褐色粘質土（灰色土粒混）

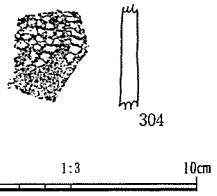


図110　土坑15出土遺物

土坑１５（図109・110　図版25・67）

土坑15は調査地南東寄りのＩ５グリッド中央部に位置し、掘立柱建物11Ｐ４に僅かに切られる。

土坑15は長軸123cm、短軸83cmの平面隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは74cmである。底面には径22cm、深さ43cmを測る底面ピットが存在する。埋土を14層に分けたが、①層は撹乱土で須恵器坏身片が含まれ、②・③層はピット埋土と考えられる。

埋土中位から羽島下層Ｉ式と考えられる304が出土した。遺物から縄文時代前期前葉の遺構と考える。　（西川）

土坑16（図111・112　図版27・67）

土坑16は調査地南西端のＬ７・８グリッドにまたがって位置する。

土坑16は長軸97cm、短軸94cmの平面方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは134cmである。底面には径19cm、深さ27cmを測る底面ピットが存在する。埋土を12層に分けたが、底面ピットの埋土は不明である。

埋土中から羽島下層Ｉ式の305が出土した。遺物から縄文時代前期前葉の遺構と考える。　（西川）

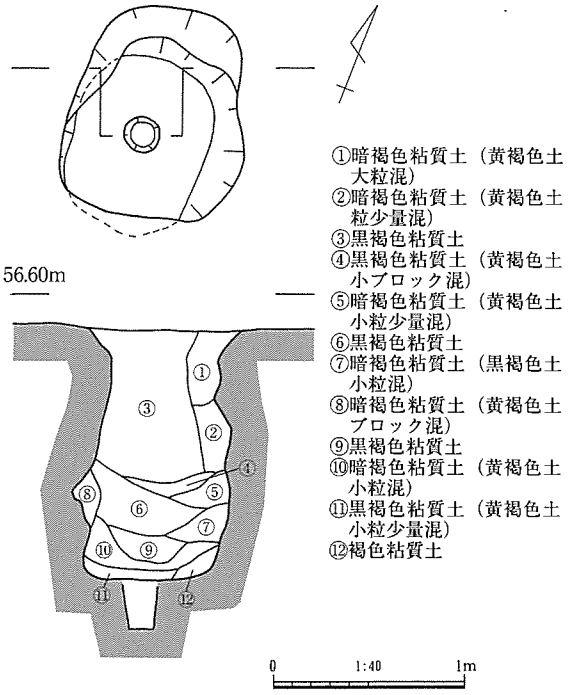


図111　土坑16

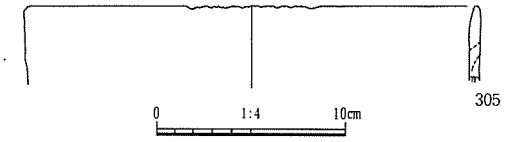
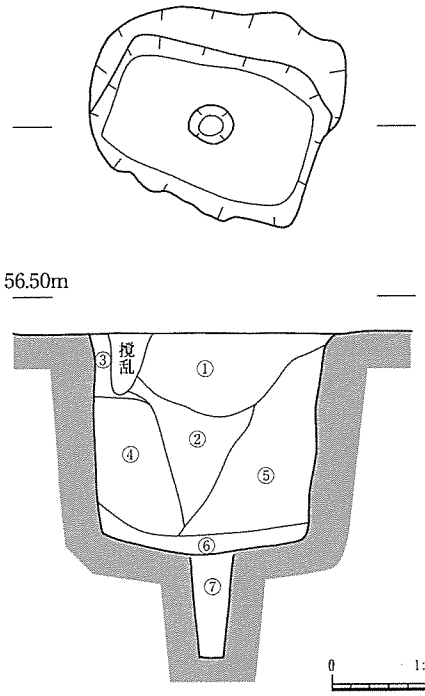
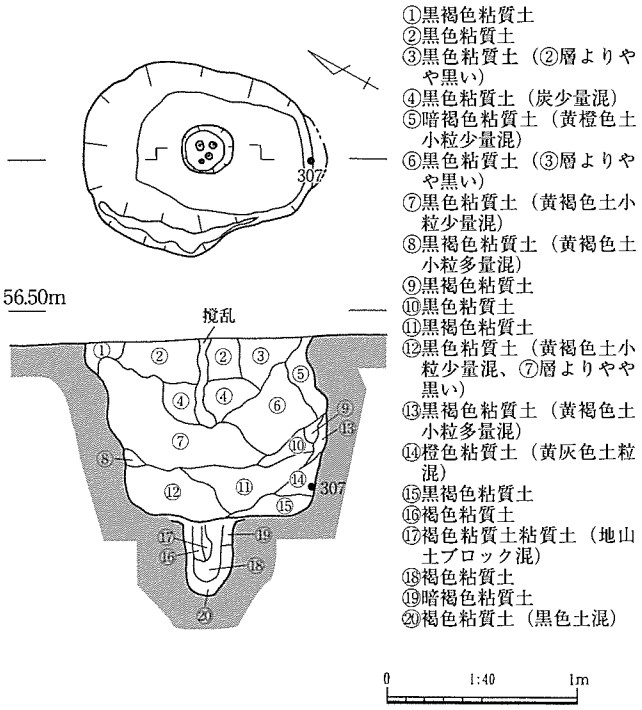


図112　土坑16出土遺物



①褐色粘質土（明褐色土粒混、炭少量混）
②黒褐色粘質土（暗褐色土ブロック・AT粒混）
③暗褐色粘質土（明褐色土小粒少量混）
④黒褐色粘質土（AT小粒混）
⑤黒褐色粘質土（AT粒多量混）
⑥暗褐色粘質土（AT粒多量混）
⑦褐色粘質土

図113　土坑17



①黒褐色粘質土
②黒色粘質土
③黒色粘質土（②層よりやや黒い）
④黒色粘質土（炭少量混）
⑤暗褐色粘質土（黄橙色土小粒少量混）
⑥黒色粘質土（③層よりやや黒い）
⑦黒色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
⑧黒褐色粘質土（黄褐色土小粒多量混）
⑨黒褐色粘質土
⑩黒色粘質土
⑪黒褐色粘質土
⑫黒色粘質土（黄褐色土小粒少量混、⑦層よりやや黒い）
⑬黒褐色粘質土（黄褐色土小粒多量混）
⑭橙色粘質土（黄灰色土粒混）
⑮黒褐色粘質土
⑯褐色粘質土
⑰褐色粘質土粘質土（地山土ブロック混）
⑱褐色粘質土
⑲暗褐色粘質土
⑳褐色粘質土（黒色土混）

図115　土坑18

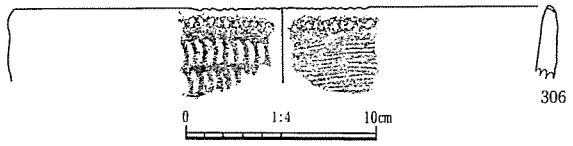


図114　土坑17出土遺物

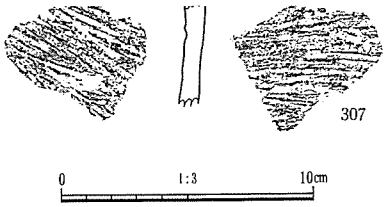


図116　土坑18出土遺物

土坑17（図113・114　図版27・67）

土坑17は調査地西寄りのＪ９グリッド北西側に位置する。

土坑17は長軸127cm、短軸109cmの平面長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは118cmである。底面の中央部に径22cm、深さ55cmを測る底面ピットが存在する。埋土を７層に分けた。

埋土中から羽島下層Ｉ式の306が出土した。突帯が存在しないものである。出土した遺物から縄文時代前期前葉の遺構と考える。（西川）

土坑18（図115・116　図版27・67）

土坑18は調査地中央のＨ７グリッド北寄りに位置する。

土坑18は長軸121cm、短軸101cmの平面が隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは98cmである。底面の中央部に径28cm、深さ39cmを測る底面ピットが存在するが、その底面には浅い小穴が４つ存在する。掘り下げ時の工具痕ないし底面ピット内に複数の小杭が設置された痕跡と推測されるものであるが、埋土には⑯・⑰層と縦方向に伸びる幅狭い層が存在することから小杭の痕跡と考える。類例が会見町の鶴田荒神ノ峯遺跡SK-02に存在する。

埋土下層から内外面に条痕を施す西川津Ｂ式の307が出土した。出土した遺物から縄文時代前期初頭の遺構と考える。（西川）

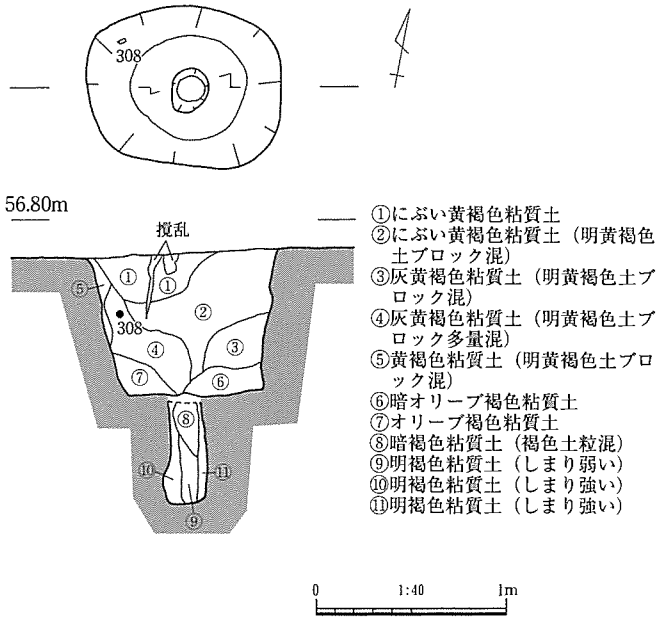


図117　土坑19

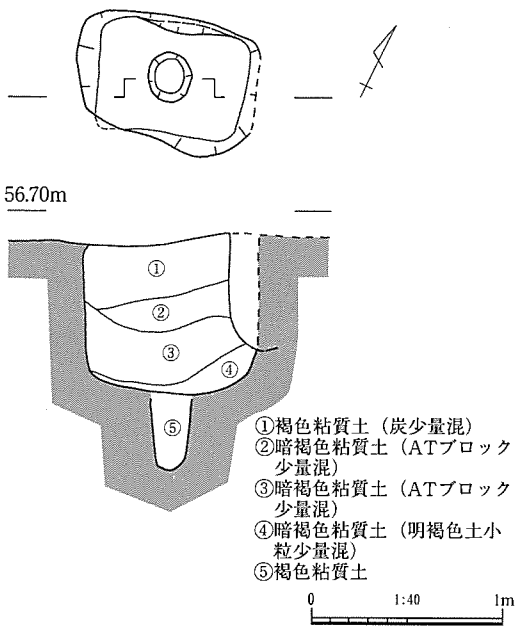


図119　土坑20

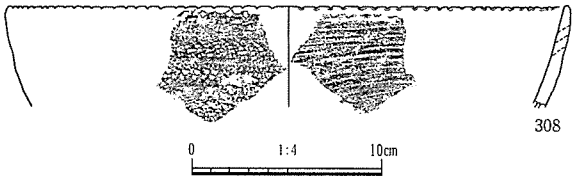


図118　土坑19出土遺物

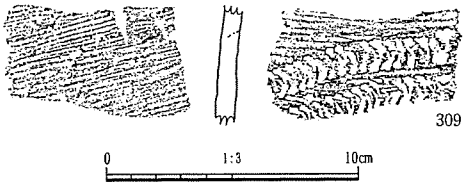


図120　土坑20出土遺物

土坑19（図117・118　図版25・67）

土坑19は調査地中央部やや南寄りのＪ７グリッド北寄りに位置する。

土坑19は長軸102cm、短軸84cmの平面が隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは78cmである。底面の中央部に径24cm、深さ57cmを測る底面ピットが存在する。埋土を11層に分層した。

埋土中位付近から308が出土した。口唇部に刻みを施し、内面条痕、外面にはナデ後に２枚貝の貝殻腹縁による刺突を施す。西川津Ａ式に相当すると思われるが、羽島下層Ⅰ式の影響を受けた亜種の可能性も存在する。出土した遺物から縄文時代前期初頭の遺構と考える。　（西川）

土坑20（図119・120　図版27・67）

土坑20は調査地西寄りのＫ９グリッド北側に位置する。土坑東側を掘立柱建物９Ｐ７によって切られている。

土坑20は長軸96cm、短軸66cmの平面長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは85cmである。底面の中央部に径27cm、深さ40cmを測る底面ピットが存在する。土坑埋土を４層、底面ピットの埋土を１層の計５層に分層した。

埋土中から309が出土した。内面条痕、外面には条痕後に「C」字状の小型の刺突文を施す。文様帯は残存部位に２条存在する。羽島下層Ⅱ式に相当するものである。土坑は出土した遺物から縄文時代前期前葉の遺構と考える。　（西川）

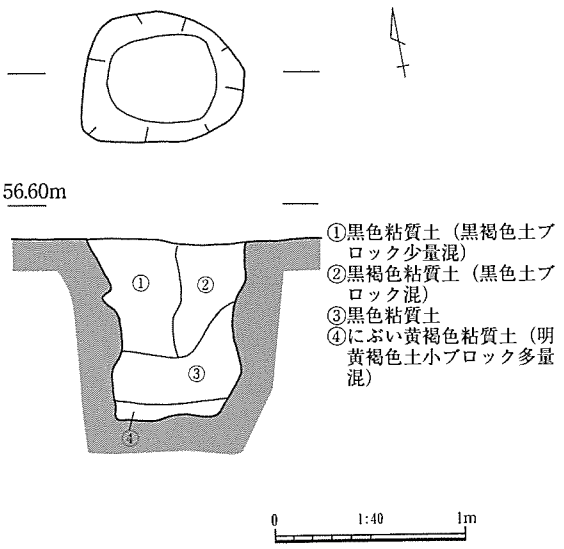


図121　土坑21

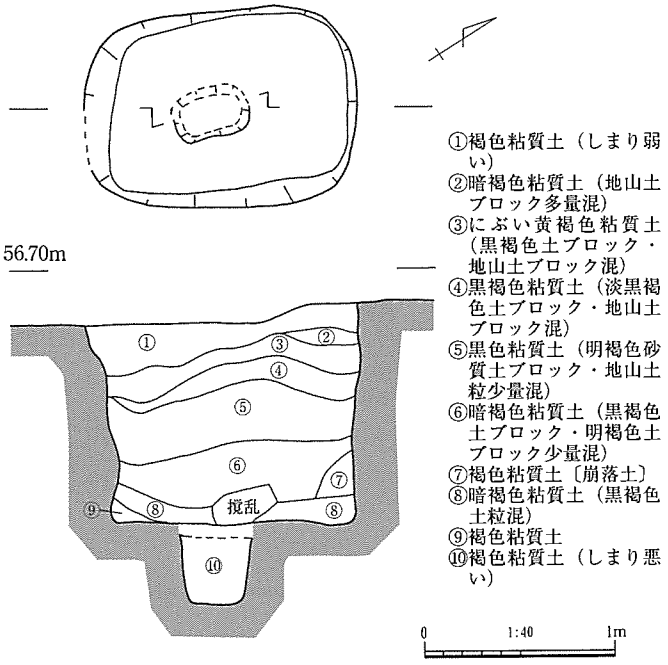


図123　土坑22

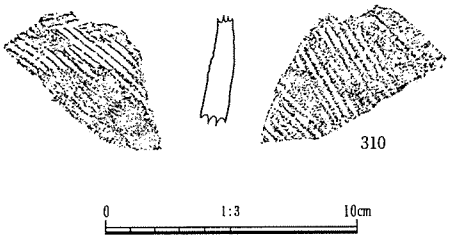


図122　土坑21出土遺物

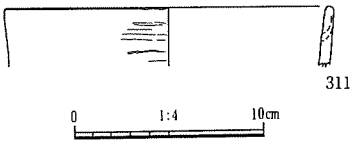


図124　土坑22出土遺物

土坑21（図121・122　図版27・67）

土坑21は調査地西端近くのＪ11グリッド南端に位置する。周辺は土坑が少ない範囲である。

土坑21は長軸84cm、短軸69cmの平面が隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは97cmである。底面ピットは存在しない。埋土を４層に分層した。

埋土中から内外面に条痕を施す西川津Ｂ式の310が出土した。出土した遺物から縄文時代前期初頭の遺構と考える。（西川）

土坑22（図123・124　図版27・67）

土坑22は調査地南西端近くのＫ・Ｌ８グリッドにまたがって位置する。北東約８ｍには土坑16が存在する。

土坑22は長軸145cm、短軸105cmの平面が隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは117cmを測る。底面の中央部に楕円形状を呈し、長径41cm、深さ42cmを測る底面ピットが存在する。土坑埋土を９層、底面ピット埋土を１層に分層した。

埋土中から外面に条痕を施す口縁部311が出土した。明確な土器の時期は不明であるが、外面に条痕を施すことから縄文時代前期の範疇に収まる遺物と推測される。出土した遺物から縄文時代前期の遺構と考える。（西川）

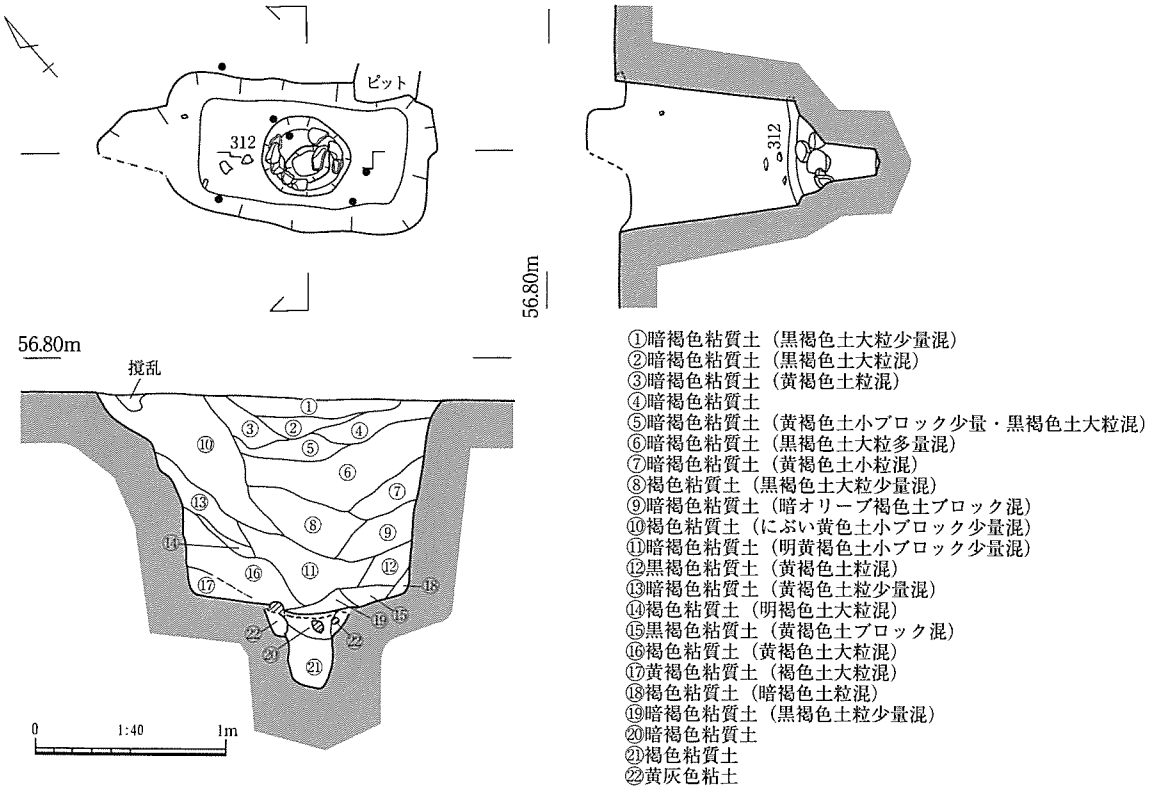


図125　土坑23

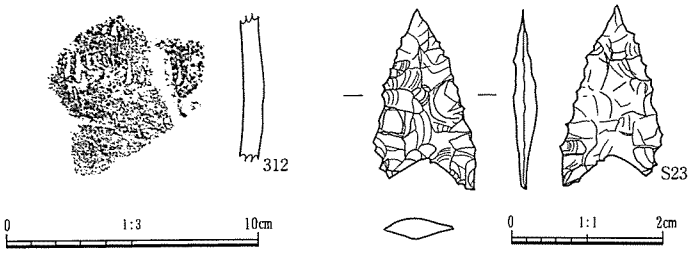


図126　土坑23出土遺物

土坑23（図125・126　図版26・67・74）

土坑23は調査地南西端近くのＫ８グリッド南西寄りに位置する。

土坑23は長軸144cm、短軸79cmの平面が長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは116cmである。底面の中央部には底面の約1/3を占める底面ピットが存在する。その規模は長径47cm、深さ40cmを測る。断面形は底面から約15cmで段となる逆凸状を呈する。段部には８～14cm程度の礫が置かれ、㉒層の黄灰色粘土によって被覆されていた。底面ピットに設置したと推測される杭を固定することを目的とした構造と考えられる。他に同様の構造を持つ例は存在しない。

底面よりやや浮いた位置から312が出土した。312は内面ナデ調整、外面はナデ調整後に爪形文を施すもので、文様帯は残存部位に２条存在する。爪形文を施文するものには土坑16の305や土坑17の306の例があるため同時期の羽島下層Ｉ式の可能性が強いが、内面がナデ調整で通常の条痕ではない。爪形文には中期の船元式の可能性もあるが、船元式ならば通常は縄文地であり直接該当はせず、他に当該期の遺物も出土していない。石鏃Ｓ23は出土層位が不明である。

土坑は、土器312が縄文時代前期の可能性が強いものの中期まで下る可能性もある遺物なので、縄文時代前期から中期の範疇に収まる時期の遺構と考える。（西川）

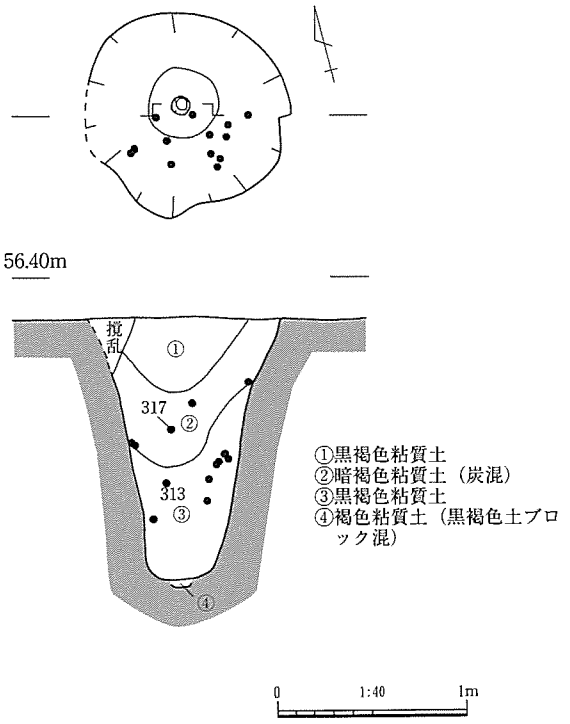


図127　土坑24

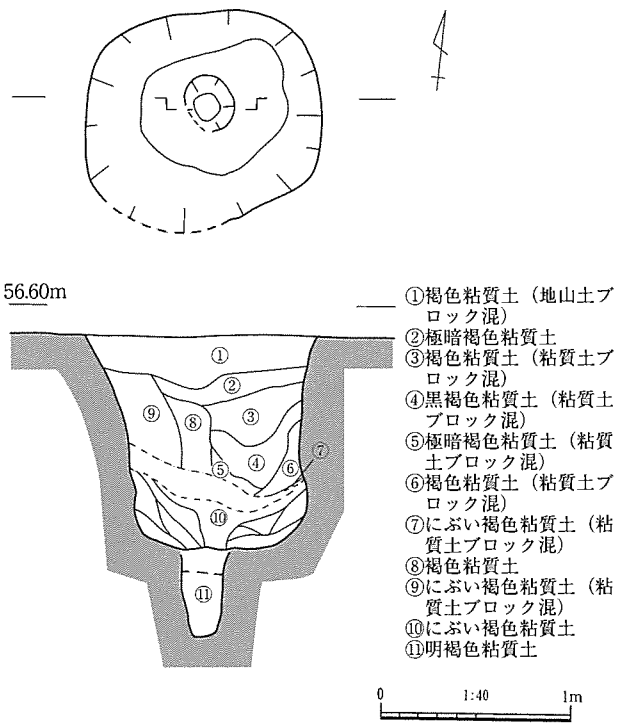


図129　土坑25

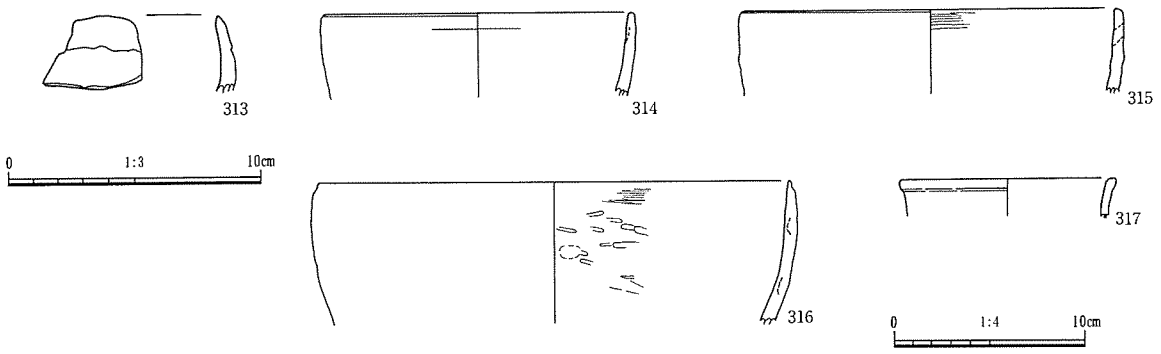


図128　土坑24出土遺物

土坑24（図127・128　図版25・67）

土坑24は調査地北寄りのＩ８グリッド北端に位置する。

土坑24は長軸109cm、短軸107cmの平面が隅丸長方形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは140cmを測る。底面中央部に、長径９cm、深さ４cmの浅いくぼみが存在するが、底面ピットとするには他例と比較して浅すぎるため撹乱の可能性を考慮する必要がある。埋土を４層に分層した。

埋土中からは10点以上の土器が出土したが、そのうち313～317の５点を図化した。313は③層から出土した。内外面ナデ調整を施すもので縄文時代晩期の遺物と考える。317は②層から出土した。内外面ナデ調整を施し、口唇部を肥厚させる。弥生時代前期に下る可能性もあるが、縄文時代晩期の遺物と考える。314～316は出土層位が不明である。縄文時代後期ないし晩期のものと考えるが、315は内面のナデ調整以前に条痕が施されているようであり、縄文時代前期まで遡る可能性もある。（西川）

土坑25（図129・130　図版27・67）

土坑25は調査地東寄りのＨ５グリッド北西隅に位置する。

土坑25は長軸136cm、短軸113cmの平面が楕円形を呈する土坑である。検出面からの最大の深さは114cmである。底面の中央部に、長径31cm、深さ46cmを測る底面ピットが存在する。埋土を19層以上に分層したが、底部付近の土色は確認できなかった。

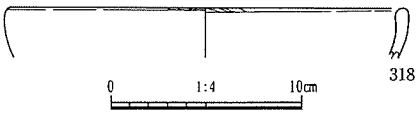


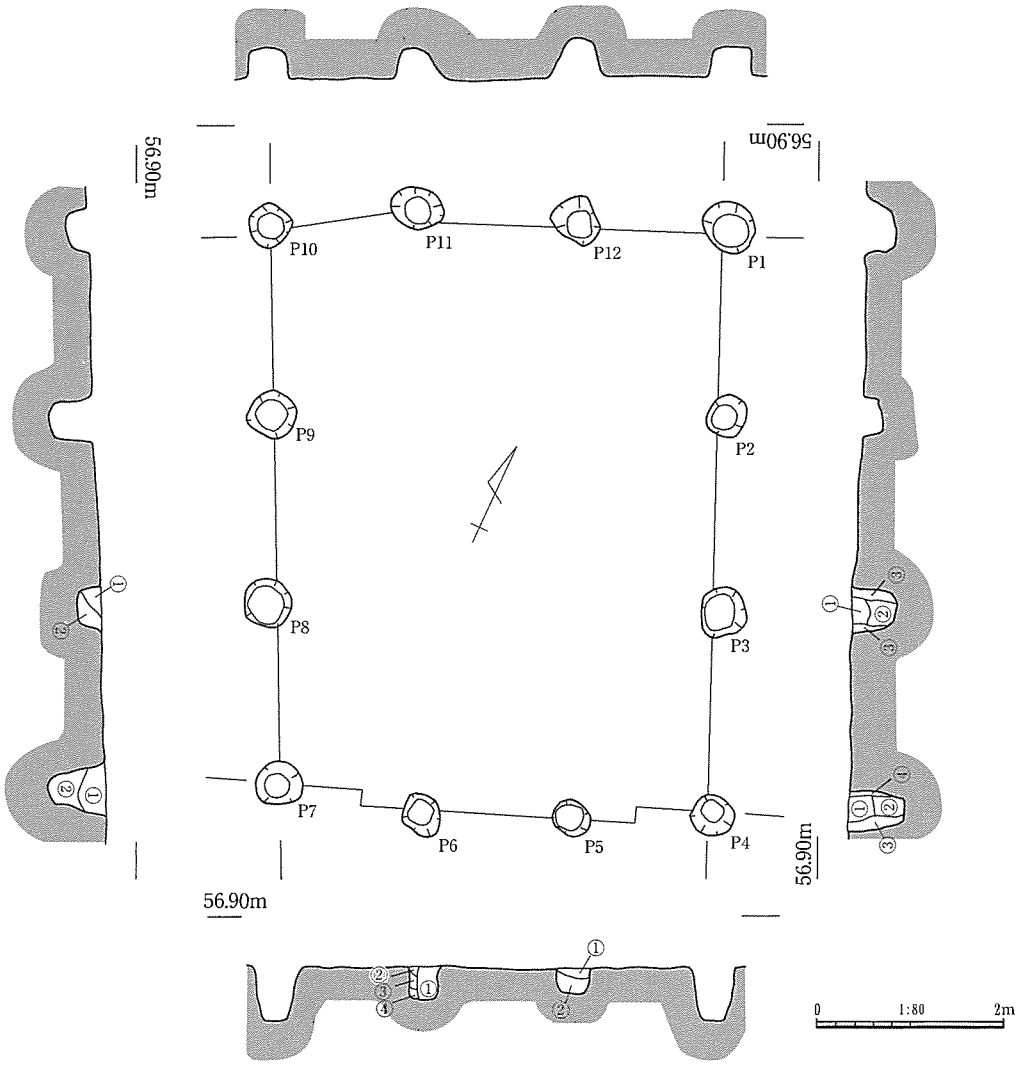
図130　土坑25出土遺物

埋土中から内外面ナデ調整で縄文時代晩期の無文粗製土器と考えられる318が出土した。出土した遺物から縄文時代晩期の遺構と考える。（西川）

奈良時代

掘立柱建物９（図131・132　図版28・67）

Ｊ９・Ｋ９グリッドにおいて検出した。平坦部の西側に位置する。規模は梁行３間（4.6m～4.8m）、桁行３間（5.8m～6.1m）で、床面積は28.1㎡である。棟の方位は23度西に傾いた南北棟である。各柱



P３
①暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
②にぶい黄褐色粘質土（炭化物少量混）
③褐色粘質土(地山Ⅵ層ブロック少量混）
P４
①黒褐色粘質土(褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック混）
③暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
④暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）

P５
①黒褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土(地山Ⅵ層ブロック混）
P６
①黒褐色粘質土（須恵器の甕片多数が重なる。炭化物多量混
②暗褐色粘質土
③にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
④暗褐色粘質土
P８
①黒褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土(地山Ⅵ層ブロック混）

図131　掘立柱建物９

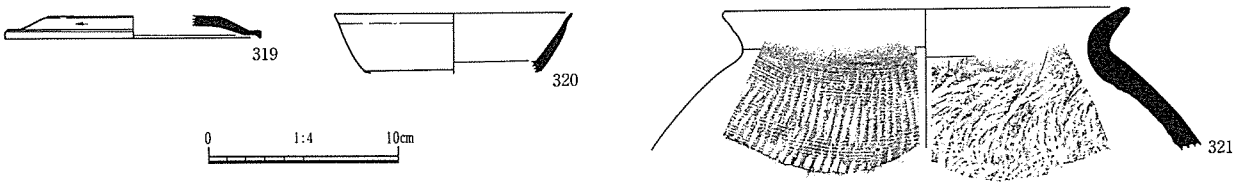


図132　掘立柱建物９出土遺物

穴の埋土は黒褐色から暗褐色を呈する。柱材は全て抜き取られていた。出土遺物は、Ｐ４から須恵器の坏の蓋片319、Ｐ11から須恵器の高坏片320、Ｐ４とＰ12から須恵器片の甕片321が出土した。これらの須恵器は建物廃絶時の祭祀に伴う遺物であろう。遺物はいずれも８世紀前葉のものである。遺物の時期と柱穴の埋土の色調から８世紀前葉の遺構と考える。（日置）

２．時期不明な遺構

検出した遺構には、遺物が無く時期の特定が困難な遺構が数多く存在する。それらの中には縄文時代の落し穴や古墳時代の竪穴住居と考えられるものを含むが、ここで一括して述べる。

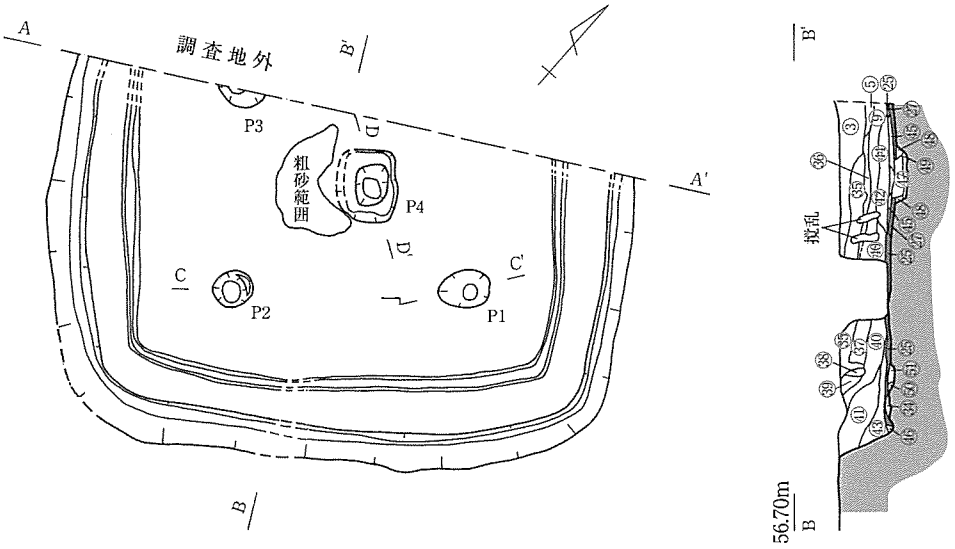
竪穴住居19（図134・135　図版29・67）

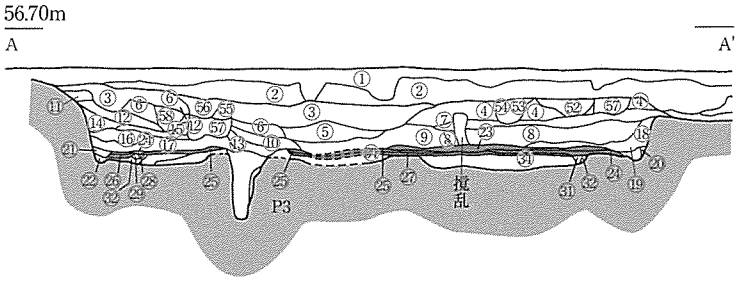
竪穴住居19は調査地北西際のＨ９・10グリッドにまたがって存在する。周壁の一部を後述する掘立柱建物12のＰ４に切られる。

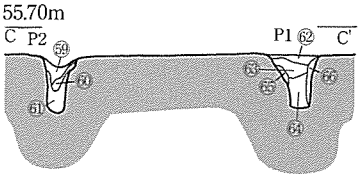
竪穴住居19は、平面形が方形と想定される遺構であるが、北側が調査地外となるため明確な規模・形態は不明である。検出面での規模は長軸6.26m、残存部短軸3.97m、検出面から床面までの最大の深さは0.78mを測る。床面標高はおよそ55.4mである。

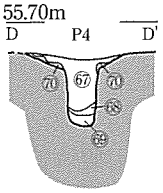
周壁下に２条の周壁溝が存在する。埋土の観察から、床面積の拡張を伴う建て替えが１度行われていると判断した。外側の新しいものを竪穴住居19ｂ、内側の古いものを竪穴住居19ａと呼称し、それぞれについて以下で記述する。

図133　時期不明な遺構位置図









0　1:80　2m

①耕作土
②暗褐色粘質土〔包含層〕
③黒褐色粘質土（明褐色土粒・炭化物極少量混）
④黒褐色粘質土（明褐色土粒極少量・炭化物少量混）
⑤暗褐色粘質土（明褐色土粒・炭化物極少量混）
⑥暗褐色粘質土（黄褐色土粒・炭化物少量混）
⑦黒褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒・炭化物混）
⑧暗褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒・炭化物混）
⑨暗褐色粘質土（黄褐色土粒・炭化物混）
⑩暗褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒・炭化物混）
⑪黒褐色粘質土（炭化物極少量混）
⑫暗褐色粘質土（黄褐色土粒・炭化物少量混）
⑬暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混、炭化物少量混）
⑭暗褐色粘質土（黄褐色土粒多量・炭化物少量混）
⑮黒褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒・炭化物混）
⑯暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混、炭化物少量混）
⑰褐色粘質土（黄褐色土ブロック混、炭化物極少量混）
⑱褐色粘質土（黄褐色土ブロック混、炭化物極少量混）
⑲にぶい黄褐色粘質土（⑰土少量混）
⑳にぶい黄褐色粘質土（⑰土少量混）
㉑暗褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒少量混、炭化物極少量混）
㉒にぶい黄褐色粘質土（粘性弱い）
㉓にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
㉔明黄褐色粘質土（暗褐色土混、炭化物極少量混）
㉕暗褐色粘質土（明黄褐色土ブロック・炭化物混）
㉖にぶい黄褐色粘質土（ややしまり無し）
㉗黄褐色粘質土（炭化物少量混）
㉘褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
㉙暗褐色粘質土（炭化物極少量混）
㉚褐色粘質土
㉛褐色粘質土（暗褐色土混）
㉜にぶい褐色粘質土
㉝暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
㉞にぶい褐色粘質土
㉟黒褐色粘質土（明褐色土粒極少量・炭化物少量混）
㊱
㊲暗褐色粘質土（黄褐色土粒・炭化物少量混）
㊳褐色粘質土（黄褐色土粒・炭化物極少量混）
㊴暗褐色粘質土（炭化物極少量混）
㊵黒褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒・炭化物混）
㊶暗褐色粘質土（黄褐色土粒多量・炭化物少量混）
㊷にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
㊸褐色粘質土（黄褐色土ブロック混、炭化物極少量混）
㊹暗褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒多量混）
㊺オリーブ黄色砂岩（炭化物極少量混）
㊻暗褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒少量混、炭化物極少量混）
㊼暗褐色粘質土（黄褐色・明褐色土ブロック多量混）
㊽黄褐色粘質土
㊾褐色粘質土
㊿褐色粘質土（暗褐色土混）

51褐色粘質土
52黒褐色粘質土（炭化物極少量混）
53暗褐色粘質土（黄褐色・明褐色土粒・炭化物極少量混）
54黒褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
55黒褐色粘質土
56暗褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
57褐色粘質土（黄褐色土粒・炭化物混）
58
59にぶい黄褐色粘質土（地山土粒・炭化物極少量混）
60暗褐色粘質土（地山土粒少量・炭化物多量混）
61明褐色粘質土（やや粘性弱い）
62暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭化物少量混）
63にぶい明褐色粘質土
64明褐色粘質土（しまり悪い）
65明褐色粘質土（しまり悪い）

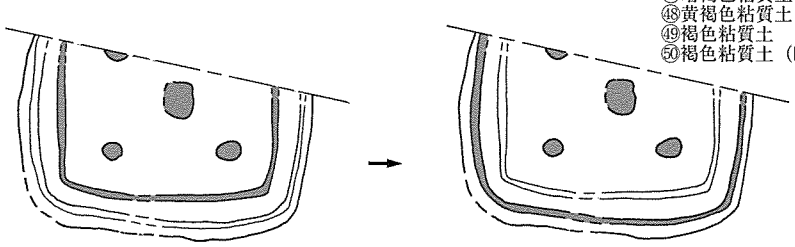


図134　竪穴住居19

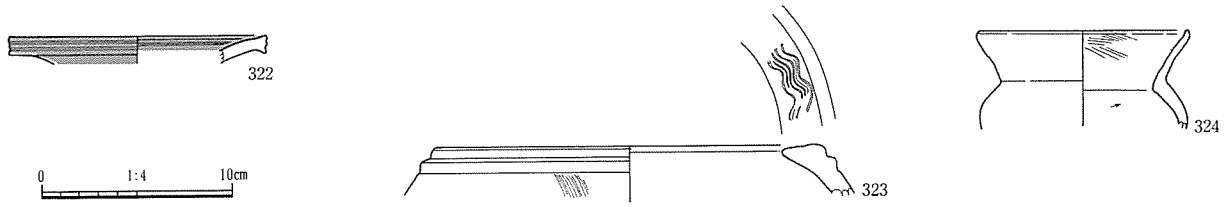


図135　竪穴住居19出土遺物

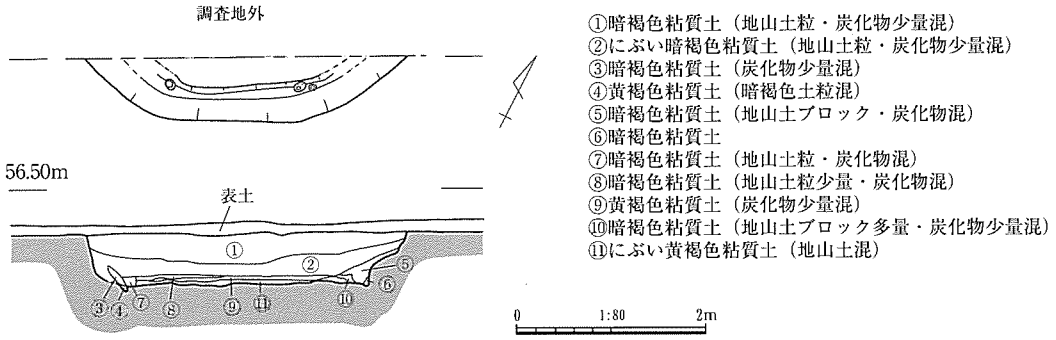


図136　竪穴住居20

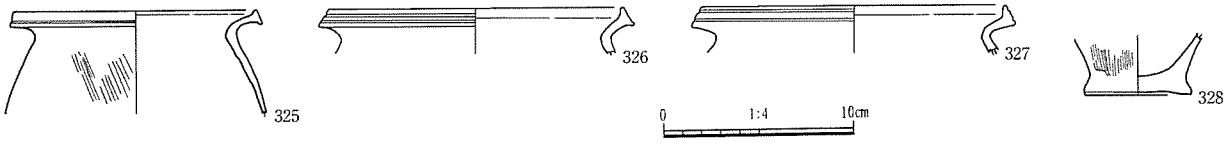


図137　竪穴住居20出土遺物

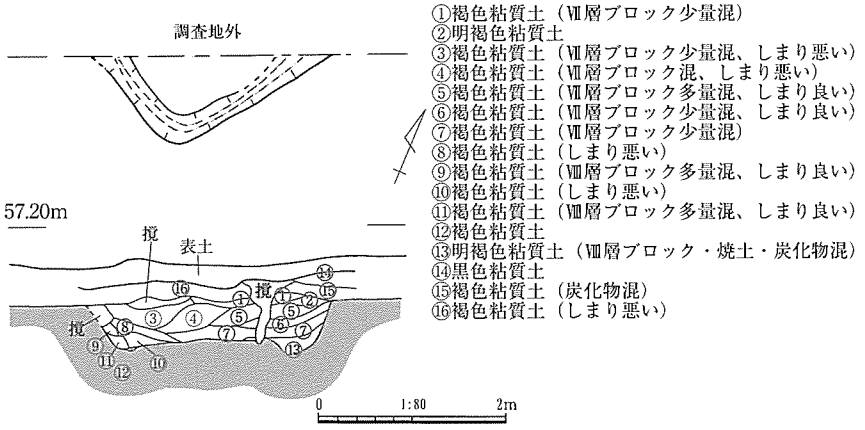


図138　竪穴住居21

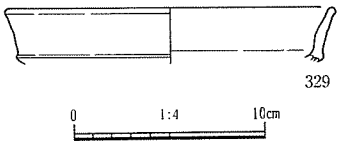


図139　竪穴住居21出土遺物

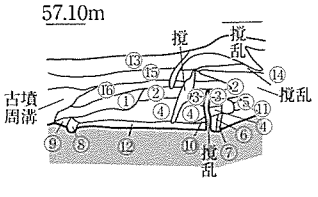


図140　竪穴住居22

竪穴住居19ｂは、床面規模が長軸5.53m、残存部短軸3.36m、周壁溝内床面積は18.3㎡を測る。

検出された周壁溝は、幅約12～20cm、深さ10cm程度を測る。

調査地内から検出できた主柱穴は、周壁溝の隅部から約1.4mの距離にあるＰ１・２および断面にかかるＰ３の３基である。Ｐ１とＰ３の中間に中央ピットＰ４が存在する。平面形は長方形を呈する。長軸77cm、短軸50cm以上、深さ約10cmの浅い掘り込みの中央に深さ約60cmの穴が存在する。また、Ｐ４の西側に竪穴住居17と同じく床面補修痕と想定される粗砂が堆積する部分が存在した。

埋土中には地山土由来の黄褐色土ブロックが多く含まれるため、人為的に埋め戻されたと考える。

埋土中から土器が若干出土し322～324を図化したが、床面から出土したものはなく、遺物から遺構の時期を判断することは出来ない。しかし、竪穴住居19ｂは基本層序のⅢ層を掘り込んでおり、床面付近の埋土もⅢ層土に由来すると推測される褐色～暗褐色の土であること、遺構上層にⅡ層土と想定される②・③層が存在することから、Ⅲ層上面が掘り込み面と想定できる。Ⅲ層上面は弥生時代中期から古墳時代前期にかけての遺構面と想定される面であり、他の遺構の状況から弥生時代中期後葉段階と弥生時代終末期～古墳時代前期段階の２時期に主に遺構が形成されたと考えられる。このうち、上層にⅡ層土と想定される黒色系の埋土層が存在するものには竪穴住居14・16・17が存在し、いずれも古墳時代前期の遺構と想定されるものである。そのため、竪穴住居19ｂは埋土の堆積から判断して弥生時代終末期～古墳時代前期の遺構である可能性が高い。また、住居形態も方形状を呈するものであり、時代が下ると住居形態が円形から方形中心へと変化していく流れにも矛盾しない。

竪穴住居19ａは、床面規模が長軸4.40m、残存部短軸3.00m、周壁溝内床面積は13.1㎡を測る。

検出された周壁溝は、幅約14～22cm、深さ６cm程度を測る。主柱穴は竪穴住居19ｂと同じと推測する。伴う遺物がなく遺構の時期は特定できないが、竪穴住居19ｂ建て替えの直前と推測する。（西川）

竪穴住居20（図136・137　図版30・67）

竪穴住居20は調査地北西際のＧ８グリッドに存在する。

竪穴住居20は、平面円形を呈すると想定される遺構であるが、北側が調査地外となるため明確な規模・形態は不明である。検出面での規模は長軸3.40m、残存部短軸0.66m、検出面から床面までの最大の深さは0.44mを測る。床面標高はおよそ55.6mである。

周壁下に１条の周壁溝が存在する。幅約14～19cm、深さは５～７cm程度である。

遺構残存部内に主柱穴と推測されるものは無く、埋土中から土器が出土したが床面から出土したものはなく、時期判定の資料とはならないと考える。そのため、遺構の時期は不明である。　（西川）

竪穴住居21（図138・139　図版30・67）

竪穴住居21は調査地北西際のＫ12グリッドに存在する。

竪穴住居21は、平面方形状を呈すると想定されるが、明確な規模・形態は不明である。検出面から底面までの最大の深さは0.44mを測る。床面標高はおよそ56.0mである。

周壁下に１条の周壁溝が存在する。幅約14～19cm、深さは５～７cm程度である。

残存部内に主柱穴と推測されるものは無く、埋土中から土器が出土したが、床面から出土したものはなく、時期判定の資料とはならないと考える。そのため、遺構の時期は不明である。　（西川）

竪穴住居22（図140　図版30・67）

竪穴住居22はＫ12グリッドの調査地壁に断面が残る。平面形は不明である。床面標高はおよそ56.0mである。周壁溝と推測される⑥・⑧層が存在する。遺構の時期は不明である。　（西川）

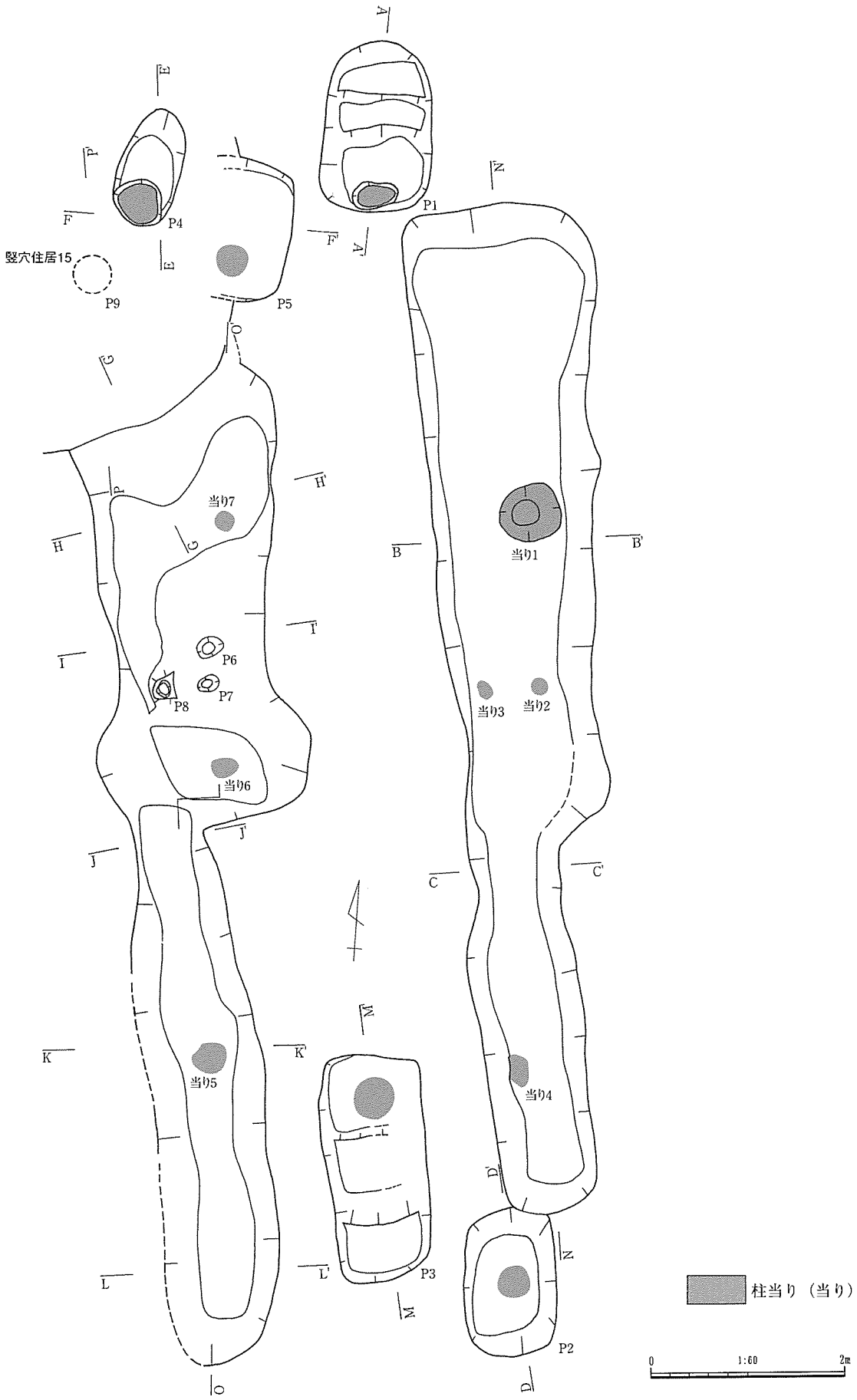
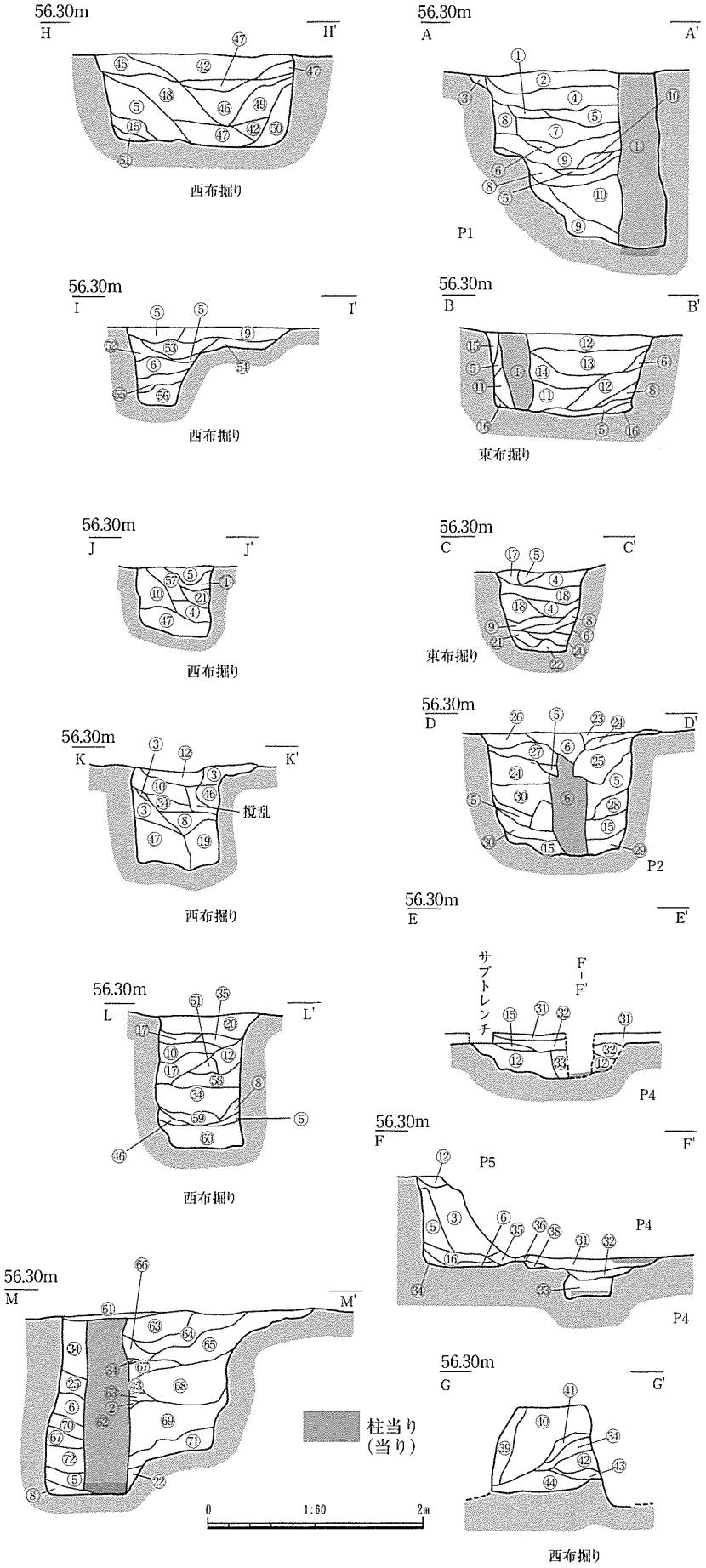


図141　掘立柱建物10（１）



①暗褐色粘質土
②暗褐色砂質土
③褐色砂質土
④褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック多量混）
⑤褐色粘質土
⑥褐色粘性砂質土
⑦暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック多量混）
⑧褐色粘質土（⑤層よりやや明るい）
⑨褐色粘質土（⑤層よりやや明るく、粘性強い）
⑩褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック混）
⑪暗褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック混）
⑫褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
⑬褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック、炭化物少量混）
⑭にぶい褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック混）
⑮明褐色粘質土
⑯明褐色粘質土（黒褐色土ブロック、暗褐色土ブロック混）
⑰褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック混）
⑱暗褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
⑲明褐色粘性砂質土（暗褐色土ブロック混）
⑳明褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
㉑明褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック多量混）
㉒明褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック多量混、粘性が強い）
㉓暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量混）
㉔褐色砂質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅷ層ブロック共少量混）
㉕褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
㉖褐色粘性砂質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅷ層ブロック混）
㉗明褐色粘性砂質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅷ層ブロック混）
㉘褐色粘質土（細礫混）
㉙橙色粘質土
㉚明褐色粘性砂質土
㉛褐色粘質土（焼土、炭化物塊、地山Ⅸ層ブロック混、竪穴住居15の床面）
㉜地山Ⅷ層土と地山Ⅸ層土の混土(竪穴住居15の掘り方埋め土)
㉝褐色粘質土（炭化物少量、地山Ⅷ層ブロック多量混）
㉞褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
㉟明褐色粘質土
㊱褐色粘質土と明褐色粘質土の混土（竪穴住居15の周壁溝埋土）
㊲褐色粘質土（焼土、地山Ⅷ層ブロック混）
㊳褐色粘質土（地山Ⅸ層ブロック混）
㊴暗褐色粘質土と褐色粘質土の混土
㊵褐色粘質土（暗褐色土ブロック多量混）
㊶明褐色粘質土（炭化物少量混）
㊷暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
㊸明褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
㊹暗褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
㊺暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混、42層より暗い）
㊻褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
㊼褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック多量混）
㊽褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック多量混、粘性強い）
㊾明褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック混）
㊿明褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック多量混）
51暗褐色粘性砂質土
52褐色粘質土（灰褐色土ブロック少量混）
53褐色粘質土（灰褐色土ブロック、地山Ⅷ層ブロック少量混）
54明褐色粘質土（灰褐色土ブロック少量混）
55褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
56明褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
57明褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
58褐色粘性砂質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅷ層ブロック少量混）
59にぶい褐色粘性砂質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅷ層ブロック混）
60にぶい褐色粘性砂質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
61褐色粘性砂質土（黒褐色土ブロック多量混）
62褐色粘性砂質土（しまりわるい）
63褐色粘質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅴ層ブロック混）
64褐色粘質土（暗褐色土ブロック、地山Ⅴ層ブロック、炭化物少量混）
65暗褐色粘質土（地山Ⅴ層ブロック多量混）
66にぶい褐色粘質土
67明褐色粘質土（褐色土ブロック混）
68褐色粘質土（地山Ⅴ層ブロック混）
69褐色粘質土（暗褐色土ブロック、炭化物少量混）
70褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック混）
71明褐色粘性砂質土（細礫混）
72褐色粘性砂質土（暗褐色土ブロック混）
73褐色粘質土（暗褐色土ブロック混、しまりわるい、柱抜き取り痕か）
Ⅷ赤褐色ローム
Ⅸ橙色砂質土
Ⅹにぶい褐色粘質土

図142　掘立柱建物10（２）

時期を判別できる遺物が出土しなかった掘立柱建物にも、埋土の色調、棟の方位を同じくするなど、大体の時期を推測できるものがある。弥生時代中期後葉に属する可能性が高いものには、掘立柱建物10・同13～同15・同21・同28がある。弥生時代終末期～古墳時代前期前葉に属する可能性が高いものは、掘立柱建物11・同12である。

掘立柱建物10（図141～145　図版31～37・68）

概要

Ｆ３グリッドからＧ５グリッドにかけて検出した。平坦部の東側縁辺部に位置する。ここより、東側２ｍ前後で傾斜が変換し斜面となる。表土直下が遺構検出面でＶ層上面に相当する。掘立柱建物10は数次の建て替えが行われた掘立柱建物と想定される。

形態

南北に長い布掘りが２条並行している。その平面形には凹凸があり、両布掘りともほぼ対応して幅に広狭がある（以下、幅が広い部分を幅広部、幅が狭い部分を幅狭部と呼称する）。壺掘りのＰ１・Ｐ３は両布掘りのほぼ中軸線上に位置し、Ｐ２は東布掘りと接する。壺掘り柱穴埋土の色調も両布掘りと近似し、時期の隔たりがある遺物も出土していない。よって、これらの大型柱穴と布掘りとは一連の遺構と考えた。また住居との重複で全容は不明であるがＰ４・Ｐ５・Ｐ９がある。布掘りは竪穴住居15（弥生時代終末期）に切られ、土坑32と同80（共に時期不明）を切る。

規模

布掘りの規模は、西側残存長12.5ｍ、東側全長10.4ｍである。幅は幅広部で2.2ｍ～1.4ｍ、幅狭部では0.8～1.2ｍである。東布掘りの底面は平坦で概ね水平であるが、西布掘り幅広部は底面に凹凸がある。この底面が浅い部分では、布掘り検出当初には認められなかったが、Ｉ－Ｉ´での㊸層と㊹層を掘削したところで小穴Ｐ６～Ｐ８を検出した。Ｐ６には柱痕があった。東布掘り底面でも、Ｐ７・Ｐ８と対応するような位置に、後述する柱当り２・同３が遺存していた。Ｐ２掘り方底面は東布掘りより低いが、西布掘りＬ－Ｌ´部の底面とはほぼ揃う。Ｐ１の長軸断面形は南壁が底面よりほぼ垂直に立ち上がるのに対し、北壁は底面よりやや緩やかに立ち上がり階段状を成す。Ｐ３の長軸断面形はＰ１と同様ではあるが、Ｐ１とは逆に南側が階段状を呈す。底面の高さはＰ１とほぼ揃う。この傾斜が緩い掘り方の壁面は、柱を落とし込む際の斜路と考えられる。Ｐ４とＰ９は布掘りの一部か、壺掘りであるかは不明である。Ｐ４底面の高さは西布掘りの底面より低い。Ｐ９底面の高さも布掘り底面より低い。Ｐ５とした部分は埋土の色調が布掘り埋土と同様で、底面の高さは西布掘りとほぼ揃うため、布掘り状であった可能性は高い。

布掘りと各壺掘りの柱穴底面には、明褐色を呈する地山が、白灰色～白橙色に変色した硬化面と数cm窪んだ部分が12箇所ある。これは、柱と建物上屋の重量などによって変質したいわゆる柱当り（当り）である。柱当りは、径24～60cmの円形か楕円形を呈し、その厚さは３cm程度である。

掘り方埋土の堆積

埋土は概して褐色から明褐色の粘質土に、地山土と極少量の黒褐色土がブロック状に含まれる。東布掘りＢ－Ｂ´では西壁側に傾いた柱痕があった。その径は27cm前後である。これ以外にはいずれの柱当りの直上にも柱痕あるいは柱抜き取り痕はなかった。柱を抜き取った後に埋め戻している。Ｐ１～

Ｐ４の断面では柱痕あるいは柱抜き取り痕が認められた。断面からＰ１・Ｐ３・Ｐ４の柱の径は36cm前後であろう。Ｐ２の柱の径は30cm前後であろう。

出土遺物（図144）

Ｐ１と布掘りから少量の遺物が出土した。図化できたのは７点である。330～332・334・335は東布掘り幅広部から出土した。333は西布掘り幅狭部から出土した。330～333は甕の口頸部片である。334・335は底部片である。336は器台である。336はＰ１から出土した。いずれの土器の時期も弥生時代中期後葉で収まる。

建物の変遷（図145）

前述のような遺構のあり方は１基の建物が構築され廃絶された結果とは考えがたい。ここでは３次の変遷があったと想定し、古い順に掘立柱建物10a、掘立柱建物10b、掘立柱建物10cとし復原案を示す。

掘立柱建物10a

○両布掘りの平面形と底面の形状と規模。

○両布掘りともに柱痕あるいは柱抜き取り痕が認められない箇所に遺存する柱当りの配置。

○断面J－J´の埋土堆積状況。

以上の点を重視する。断面J－J´での⑩層と㊼層が幅狭部の埋土であり、⑤層～④層が幅広部の埋土と推測できないだろうか。掘立柱建物10aはこの幅狭部部分に構築されたと考えたい。西布掘りに対し東布掘りは長軸が短いが、布掘りとＰ２に遺存する柱当りを通る柱筋を想定すると、両掘り方の長軸がほぼ同じ規模となる。同一の柱筋で布掘りと壺掘りの両工法が併用されるか疑問が残るが、このとき復原できる建物の規模は梁行１間（約1.8m）、桁行２間（約4.4m）、占有面積約7.9㎡程度と考えられる。

掘立柱建物10b

○B－B´の最下層⑤層・⑯層の下に遺存する柱当り１と、柱当り２と幅狭部の柱当り

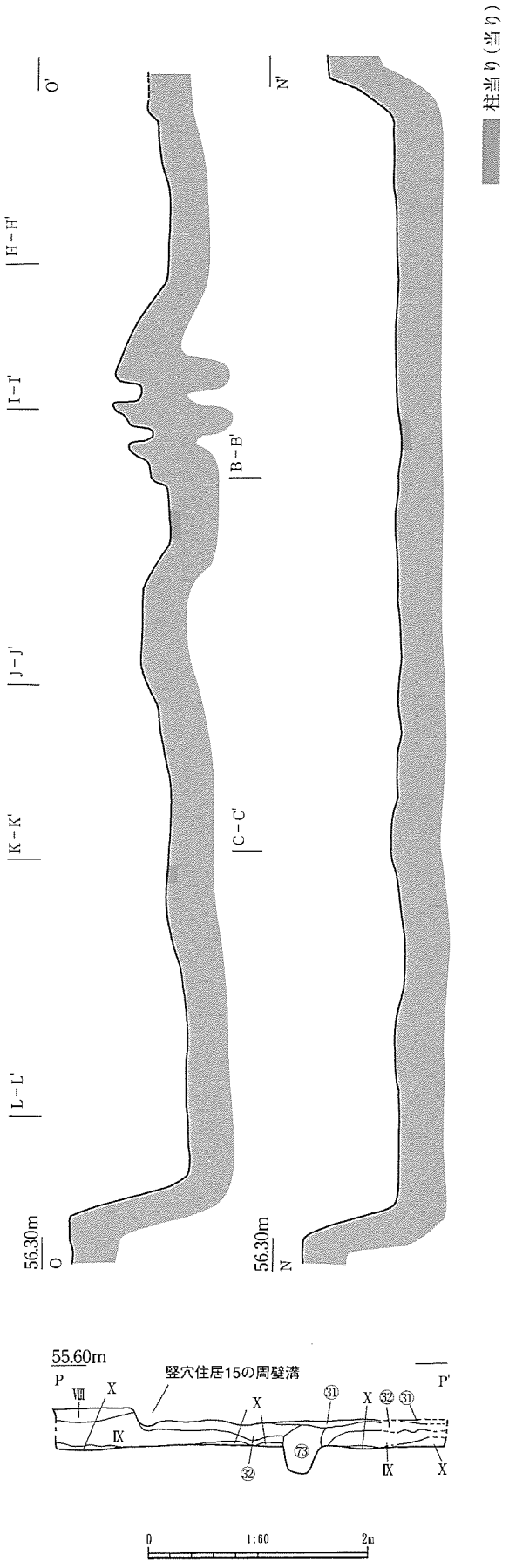


図143　掘立柱建物10（３）

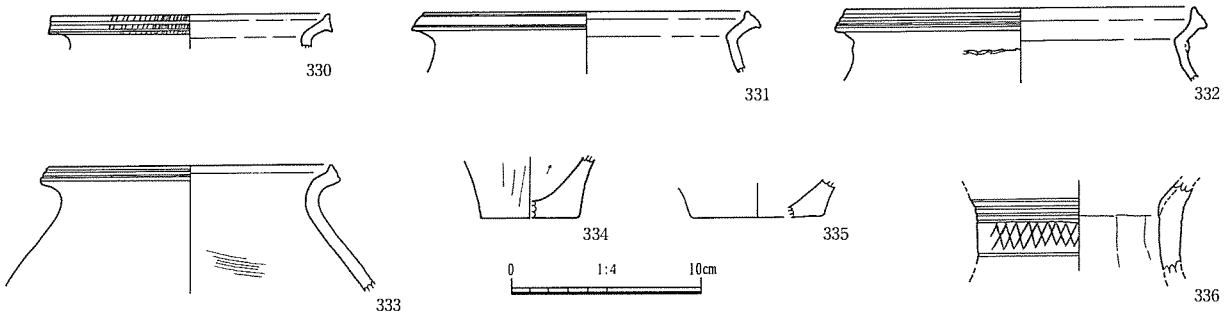
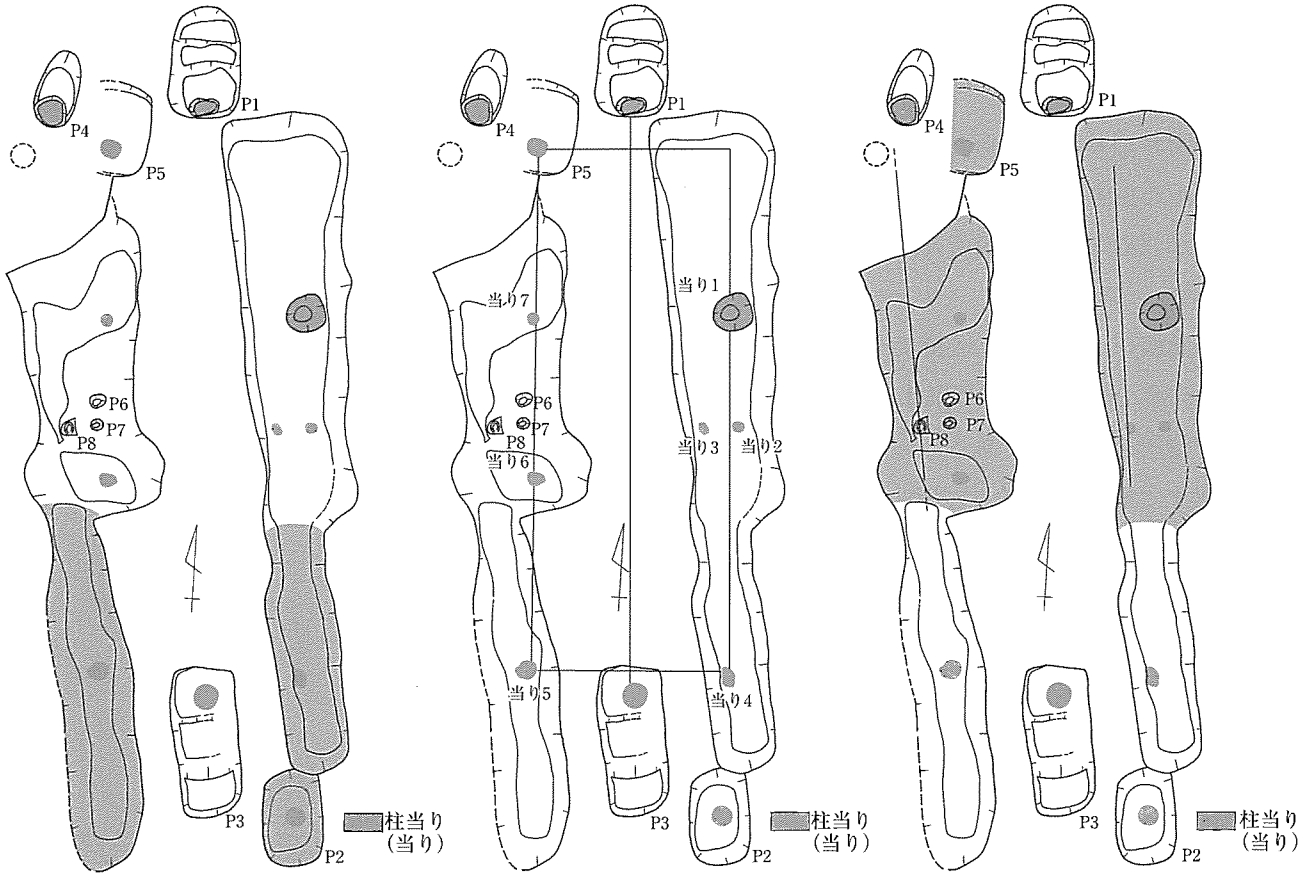


図144　掘立柱建物10出土遺物

表３　掘立柱建物10柱穴計測表

柱穴番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面の高さ (m)
Ｐ１	180	114	167	54.21
Ｐ２	156	90	114	54.97
Ｐ３	240	100	165	54.45
Ｐ４	126	63	40※	54.7

※残存値



掘立柱建物10a　　掘立柱建物10b　　掘立柱建物10c

図145　掘立柱建物10変遷図

４が柱筋として通る。

○Ｐ５の柱当りと当り５～当り７の３基の柱当りと、Ｐ７が柱筋として通る。このとき柱当りから想定できる柱間距離も2.5～3.0mでほぼ揃う。

○両布掘りで通した柱筋で構築できる建物の中軸とＰ１とＰ３の両柱痕を結ぶ軸がほぼ一致する。

以上のことから、掘立柱建物10bは梁行１間（約3.2m）、桁行３間（約8.2m）、占有面積約26.2㎡の規模で、独立棟持柱を伴う掘立柱建物と考えられる。柱痕間の距離から棟柱の長さは9.6m前後となる。独立棟持柱Ｐ１の梁間からの出は72cmである。独立棟持柱Ｐ３の梁間からの出は42cmと復原できる。西側柱筋の掘り方は、掘り方底面の深い部分に柱当りが遺存することを重視すると、壺掘り工法だった可能性もある。

掘立柱建物10c

○B－B´で残るやや内に転ぶ柱痕と、その南の柱当り３を通る柱筋がある。

○G－G´の㊶層～㊹層の堆積は、㊴層と㊵層に壊されているようにみえる。㊴層と㊵層を建物が廃絶された際の柱抜き取り穴の一部と推測し、㊶層～㊹層が掘立柱建物10c構築時の堆積と考えたい。

○G－G´の㊶層～㊹層の堆積と、西布掘りI－I´西側の深い部分とＰ８を通る柱筋を想定したい。以上のことから、両布掘りの西側壁に沿った柱筋の掘立柱建物10cを考えたい。規模は梁行１間（1.7m）、桁行２間（約５m）程度である。Ｐ４は残存する形態をみると壺掘りのようにも見え、東側掘り方との対応を考えると、隅柱はＰ９が相当する可能性もある。このときの占有面積は約8.5㎡である。

以上のような復元を試みたが、掘立柱建物10検出当初には布掘り建物であるとの想定ができなかった。そのため、布掘り長軸方向での土層観察を行っておらず、変遷案には証明できない部分もある。なお、本遺構周辺には、埋土の色調・規模が近似する一連の柱穴群（Ｐ631・Ｐ632・Ｐ641・Ｐ642・Ｐ788・Ｐ787・Ｐ782・Ｐ780・Ｐ778など）がある。これらが同じ構造物であったと考えれば、掘立柱建物10はこれらとも重複することとなる（図212）。

時期

掘立柱建物10からは少量の弥生時代中期後葉の土器片が出土した。前述のように、建て替えを行い廃絶時には埋め戻している可能性がある。この遺構周辺には同時期の遺構も散在するため、掘り方埋土から出土した少量の遺物の時期をもって、掘立柱建物10の時期と即断することは避けたい。本調査地での建物と住居群は、弥生時代中期後葉のものと、弥生時代終末期から古墳時代前期前葉のものが大部分を占める。さらに弥生時代終末期の竪穴住居15に切られることから、弥生時代中期後葉から弥生時代終末期の時期幅に収まる遺構と考える。

本遺構の性格・機能は不明である。数次建て替えられたものと考えたが、同じ性格・機能を有していた一連の建物であったか否かも不明である。本調査地内では、独立棟持柱を伴う壺掘りの大型掘立柱建物は他に２棟ある。布掘り建物は本遺構のみである。（日置）

掘立柱建物11（図146・147　図版38～41・68）

Ｉ４グリッドからＪ５グリッドにかけて検出した。平坦部の東側に位置し、ここより東側に２m前後で傾斜が変換し斜面となる。耕作土直下が検出面でⅥ層上面に相当する。大型柱穴で構成される掘立柱建物である。Ｐ２は時期不明の土坑94を切る。Ｐ４は縄文時代の土坑15を切る。

規模は梁行１間（4.9m）、桁行２間（6.１m）で桁行が短く、梁行が長い建物である。棟の方位は13度北に傾いた東西棟である。占有面積は29.5㎡であり、本調査地内では掘立柱建物10を除くと、掘立柱建物12（57.6㎡）、掘立柱建物１（30.5㎡）に次ぐ規模である。各柱穴の柱痕跡間の距離は以下の通りである。梁行Ｐ１－Ｐ６間は4.9m、Ｐ２－Ｐ５間は５m、Ｐ３－Ｐ４間は５mである。桁行Ｐ１－Ｐ２間は3.2m、Ｐ２－Ｐ３間は2.8m、Ｐ４－Ｐ５間は3.1m、Ｐ５－Ｐ６間は３mである。

各柱穴は、平面形が小判形を呈する。Ｐ１は撹乱によって一部を破壊される。残存する上端の規模は、長径1.38m、短径1.08m、検出面からの深さ1.02mである。Ｐ２の規模は長径1.56m、短径0.84m、深さ1.32mである。Ｐ３の規模は長径1.68m、短径0.72m、検出面からの深さ1.41mである。Ｐ４の規模は長径1.92m、短径1.08m、深さは1.32mである。Ｐ５の規模は長径1.74m、短径0.87m、深さ1.26mである。Ｐ６の規模は長径1.92m、短径1.26m、深さ1.2mである。

各柱穴の長軸での掘り方の断面形は、建物内側方向の壁が底面からほぼ直上に立ち上がる。もう一方の壁は底面立ち上がりから緩やかな傾斜である。これは柱材を落とし込む際の斜路と考えられる。Ｐ１ではこの傾斜は顕著でない。各柱穴の底面の高さは、最も低いのがＰ３で標高55.48mである。最も高いのはＰ１で標高55.67mである。各柱穴には柱痕があった。全ての柱痕はほぼ直立する。柱痕からみた柱の径は30～42cmと想定できる。Ｐ３の柱痕のみ掘り方底面に接していない。柱材の径はややばらつきがある。Ｐ３の柱痕底面の高さは標高55.76mであり、他の柱に比べやや高い。Ｐ３を除く各柱穴底面には、橙色を呈する地山が白灰色に変色した、厚さ3cm程の硬化面が遺存する。これは、柱と上屋の荷重などで変化した、いわゆる柱当りに相当する。掘り方埋土は概して褐色の粘質土が主体で、そこに暗褐色土ブロック、黒褐色土ブロックや地山土ブロックが混じり、その多寡で分けられる。これらの層が互層を成して堆積していた。

出土遺物は非常に少ない。図化できたのはＰ３から出土した弥生土器の甕口縁部337のみである。口縁部縁帯は上方へ拡張しており、上下に２条の擬凹線を施す。

出土した遺物の時期である弥生時代中期後葉を掘立柱建物11の時期の上限と捉えておく。本調査地では、弥生時代中期後葉の遺構の埋土は褐色土を主とする。弥生時代終末期～古墳時代前期前葉の遺構埋土は、褐色土から暗褐色土が主体であり、古墳時代中期以降の遺構埋土は黒褐色土が主体となる。掘立柱建物11の埋土には黒褐色土はほとんど認められない。加えて、本遺構は隣接する弥生時代中期後葉の竪穴住居８～10と同時並存とは考えにくい。これらの住居を切る溝５との位置関係も注意される。以上のことから、掘立柱建物11の時期は、弥生時代中期後葉以降で古墳時代前期の幅に収まると推測される。本遺構周辺は削平が激しいにも関わらず柱穴が非常に深いこと、長軸方向の一方に斜路を有する形態であること、柱材の径も大きく、柱当りが遺存することなどから、高く重量のある建物であったと考えられる。（日置）

掘立柱建物12（図148～150　図版42～44・68）

Ｈ９～Ｉ10グリッドにかけて検出した。平坦部の西側に位置する。これより西側では遺構の分布が徐々に希薄になり古墳となる。掘立柱建物12は東側の妻にのみ独立棟持柱を伴う大型掘立柱建物である。柱穴掘り方と基盤層との差は、平面では不明瞭であったが、断面でⅡ層上面から掘り込んでいると確認した。掘立柱建物12は、Ｐ４が竪穴住居19と、Ｐ６が掘立柱建物13のＰ４と、Ｐ21が掘立柱建物13のＰ３と、Ｐ15が掘立柱建物14のＰ４と重複する。平面精査では、掘立柱建物12の柱穴がこれらの諸遺構を切っていた。Ｐ19はトレンチと重複し、一部を破壊してしまった。

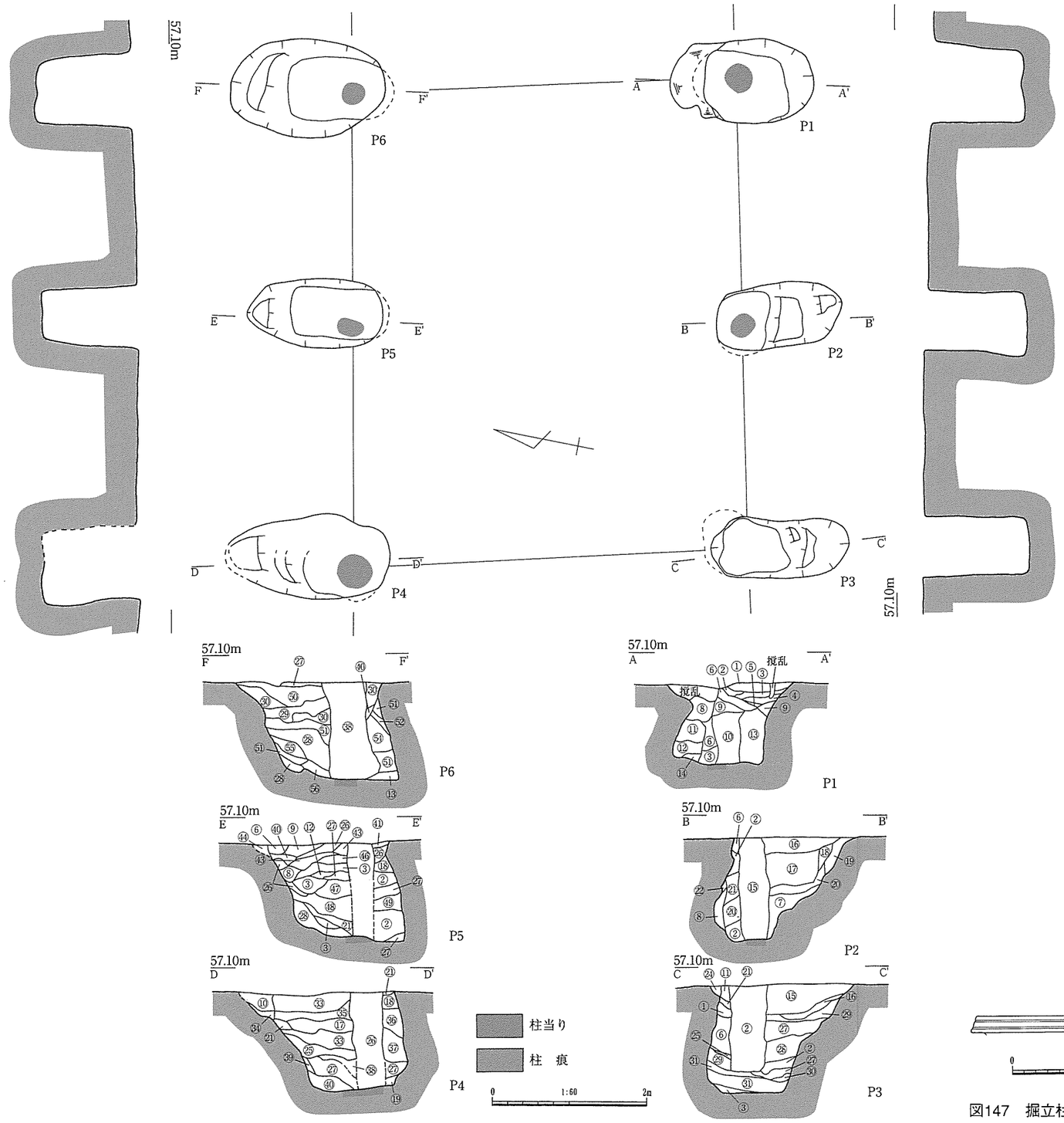


図146　掘立柱建物11

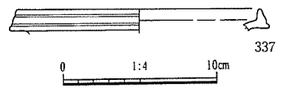


図147　掘立柱建物11出土遺物

①明褐色粘質土（褐色土ブロック痕）
②褐色粘性砂質土
③明褐色粘質土
④黒褐色粘性砂質土（地山ブロック少量混）
⑤暗褐色砂質土（地山ブロック混）
⑥褐色砂質土
⑦褐色粘質土（地山ブロック多く混）
⑧褐色粘性砂質土（黒褐色土ブロック混）
⑨褐色砂質土（地山ブロック混）
⑩黒褐色粘性砂質土
⑪褐色粘性砂質土（地山ブロック混）
⑫明褐色粘性砂質土（黒褐色土ブロック混）
⑬明褐色粘性砂質土
⑭暗褐色粘性砂質土
⑮褐色粘性砂質土（地山ブロック少量混）
⑯暗褐色粘質土（地山ブロック、黒褐色土ブロック混）
⑰暗褐色粘性砂質土（黒褐色土ブロック、地山ブロック混）
⑱褐色粘性砂質土（黒褐色土ブロック、地山ブロック混）
⑲褐色粘質土（地山ブロック多量混）
⑳暗褐色粘質土
㉑黒色粘性砂質土
㉒褐色粘質土（炭化物少量混）
㉓黒褐色砂質土
㉔褐色粘性砂質土（地山ブロック多く混）
㉕褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
㉖褐色粘質土
㉗明褐色粘質土（黒褐色土ブロック、地山ブロック混）
㉘褐色粘質土（地山ブロック混）
㉙褐色粘質土（灰褐色土ブロック、にぶい褐色土ブロック混）
㉚極暗褐色砂質土（地山ブロック混）
㉛褐色粘質土（地山ブロック少量混）
㉜暗褐色粘性砂質土（地山ブロック混）
㉝褐色粘質土（黒褐色土ブロック、地山ブロック混）
㉞黒褐色粘性砂質土（地山ブロック多く混）
㉟褐色粘質土（黒褐色土ブロック、地山ブロック、炭化物少量混）
㊱褐色粘質土（黒褐色土ブロック、地山ブロック混、㉜層より明るい）
㊲にぶい褐色粘性砂質土
㊳褐色粘質土（黒褐色土ブロック多く混）
㊴橙色粘性砂質土（黒褐色土ブロック少量混）
㊵褐色粘性砂質土（黒褐色土ブロック、地山ブロックとも少量混）
㊶褐色砂質土（黒褐色土ブロック、地山ブロックとも少量混）
㊷褐色粘性砂質土（黒褐色土ブロック少量混）
㊸灰黄褐色粘質土（地山ブロック少量混）
㊹灰褐色粘質土
㊺にぶい褐色粘性砂質土（地山ブロック混）
㊻褐色粘質土（㉖層より明るい）
㊼黒褐色粘質土
㊽黒褐色粘性砂質土（地山ブロック混）
㊾暗褐色粘性砂質土と明褐色粘質土の混土
㊿明褐色粘質土（褐色土ブロック多く混）
(51)褐色粘質土（地山ブロック、暗褐色土ブロック多く混）
(52)明褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
(53)明褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
(54)褐色粘性砂質土（暗褐色土ブロック混）
(55)明褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）

表４　掘立柱建物11柱穴計測表

柱穴番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面の高さ(m)
Ｐ１	138※	108	102	55.67
Ｐ２	156	84	132	55.62
Ｐ３	168	72	141	55.48
Ｐ４	192	108	132	55.52
Ｐ５	174	87	126	55.49
Ｐ６	198	126	120	55.47

※攪乱、ほかの遺構との重複によって破壊、残存値

柱穴下端の中心を基にすると、規模は梁行２間（4.8m）、桁行７間（11.9m）である。Ｐ１・Ｐ８・Ｐ９・Ｐ16で画される占有面積は57.6㎡である。棟の方位は４度南に傾いた東西棟である。

柱穴の配置が特異な建物である。西面梁間には柱穴Ｐ１－Ｐ18－Ｐ16の間に小柱穴Ｐ19・Ｐ17を配置する。東面梁間Ｐ８－Ｐ９間より１間内のＰ７－Ｐ21－Ｐ10の間には小柱穴Ｐ20・Ｐ22を配置する。これに加えて、Ｐ18－Ｐ21の延長線上にＰ23が位置する。各柱穴の配置から、Ｐ18・Ｐ21は棟持柱に相当し、Ｐ23は独立棟持柱である。この３基の柱間距離から棟柱の全長は12.6m程度と考えられる。Ｐ８－Ｐ９の柱筋から独立棟持柱Ｐ23の出は72cmである。Ｐ７－Ｐ10からＰ23の出は2.3mである。また、Ｐ17・Ｐ19・Ｐ20・Ｐ22は間仕切りに相当すると思われる。この柱筋で画される部分の占有面積は49.2㎡である。

柱間距離は、北面桁柱筋では1.5～1.8mである。南面桁柱筋では1.5～1.8mである。柱間距離の平均は共に約1.7mである。梁間では西側Ｐ１～Ｐ18の柱間距離が平均1.2mであるのに対し、Ｐ16－Ｐ17間では1.4mとやや広い。東側間仕切り柱筋の柱間距離でも、Ｐ７～Ｐ22の柱間距離が平均1.1mであるのに対し、Ｐ10－Ｐ22間の柱間距離は1.5mとやや広い。

Ｐ23を除いたＰ１など各柱穴の平面形態は、円形、楕円形、隅丸方形、長楕円形、小判形と多様である。各柱穴の規模は表５の通りである。側柱の底面の高さは均一ではない。Ｐ18・Ｐ21とその両側の小柱穴の底面は、両桁筋の柱に比べ高い。

Ｐ23は平面形が隅丸長方形で、長軸1.4m、短軸0.8mである。検出面からの深さは1.2mである。他の柱穴に比べ、底面標高は最大50cm低い。長軸の断面形では、柱穴の西壁（建物内側）が底面からほぼ垂直に立ち上がるのに対し、東壁は底面から緩やかに立ち上がり、中位にテラスを有する。この柱穴東壁の形状は、柱を掘り方に落とし込む際の斜路と考えられる。

この他の柱穴もＰ５やＰ９・Ｐ16などをみると、掘り方の一方にテラスがある。削平のため現存しないが、本来は柱を落とし込む斜路を有する柱穴が含まれていたと考えられる。各柱穴の埋土は、概して暗褐色を呈する。Ｐ23を除く各柱穴の埋土堆積状況を、長軸方向と短軸方向から観察したが、柱痕に相当する層は認められない。このことから柱は全て抜き取っていると考えられる。Ｐ７の㉖層とＰ21の⑪層を柱抜き取り痕と考えれば、柱の径は25cm前後と考えられる。Ｐ23断面の②層～⑥層は柱痕である。Ｐ23の柱は直立し、その径は40cm程度であったと考えられる。Ｐ23の底面には、明褐色を呈する地山が白橙色に変色硬化した、径30cmの円形を呈する柱当りが遺存する。他の柱穴底面には柱当りは遺存していなかった。

出土遺物は弥生土器が少量出土した。338はＰ11から出土した弥生土器の甕口縁部片である。339はＰ１から出土した弥生土器の甕口頸部片である。340はＰ14から出土した弥生土器である。おそらく高坏の坏部であろう。341はＰ５から出土した高坏もしくは器台の脚部片である。340・341は判然としないが、その他の遺物の時期は弥生時代中期後葉のものである。

掘立柱建物12は、竪穴住居19を切ることから、柱穴から出土した土器の時期が建物の存続時期とは考え難い。掘立柱建物12の時期は、柱穴埋土の色調や以上のことを重視し、弥生時代終末期から古墳時代前期の時期幅に収まると考えたい。本調査地ではこのような平面形態の大型掘立柱建物は他に存在せず、本遺構は他の建物を卓越する規模である。本遺構の上屋構造の想定については、鳥取環境大学環境デザイン学科の浅川滋男氏にご教示いただいた。（第３分冊第６章第１節を参照）　　（日置）

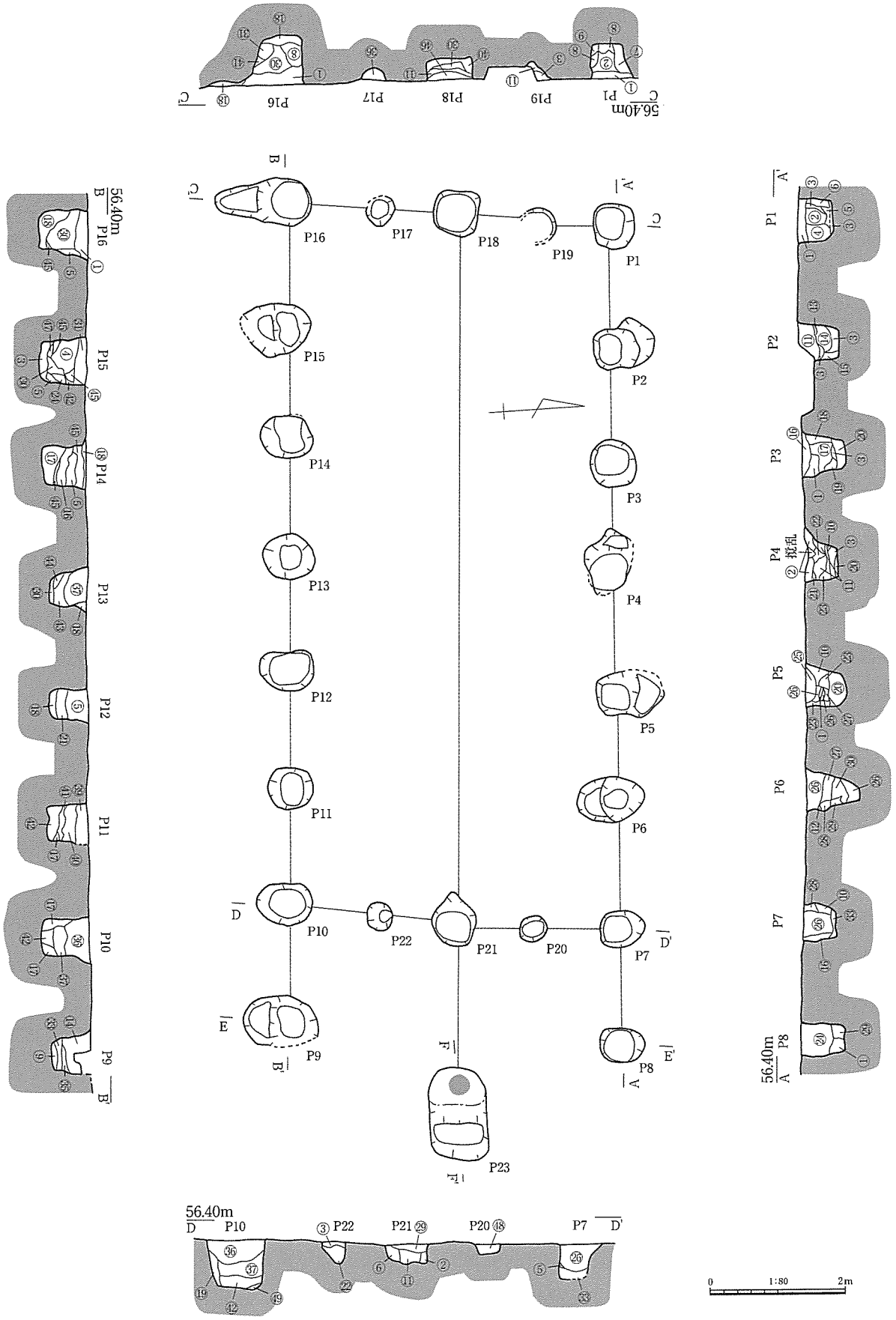
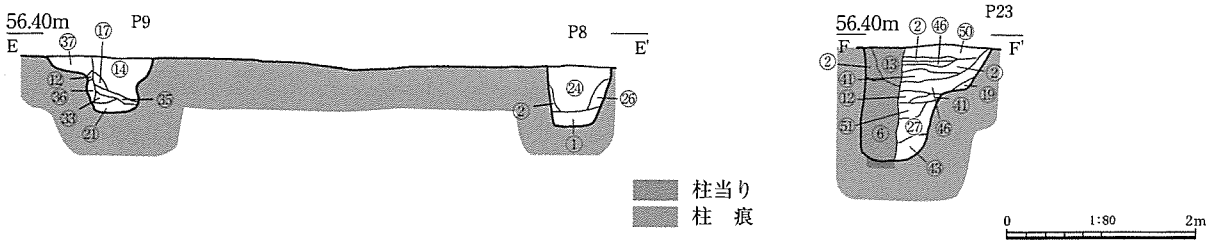


図148　掘立柱建物12（１）



①暗褐色粘質土（Ⅵ層ブロック混）
②暗褐色粘質土（Ⅵ層ブロック少量混）
③褐色粘質土
④褐色粘質土（暗褐色土ブロック、Ⅵ層ブロック混）
⑤にぶい黄褐色粘質土
⑥褐色粘質土（黒褐色土ブロック、Ⅵ層ブロック少量混）
⑦褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック、炭化物少量混）
⑧暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量、Ⅵ層ブロック混）
⑨明褐色粘質土
⑩暗褐色粘質土（Ⅴ層ブロック多量、黒褐色土ブロック少量混）
⑪褐色粘質土（Ⅵ層ブロック混）
⑫暗褐色粘質土（Ⅵ層ブロック、炭化物少量混）
⑬にぶい褐色粘質土（Ⅵ層ブロック混）
⑭暗褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
⑮明褐色粘質土（Ⅵ層ブロック、暗褐色土ブロック混）
⑯暗褐色粘質土（Ⅴ層ブロック少量混）
⑰暗褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック混）
⑱暗褐色粘質土
⑲暗褐色粘質土（Ⅴ層ブロック混）
⑳黄褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック、暗褐色土ブロック混）
㉑暗褐色粘質土（Ⅵ層ブロック混）
㉒灰黄褐色粘質土（Ⅴ層ブロック混）
㉓暗褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混）
㉔暗褐色粘質土（Ⅵ層ブロック多量混）
㉕黒褐色粘質土
㉖暗褐色粘質土（Ⅴ層ブロック、黒褐色土ブロック少量混）
㉗暗褐色粘質土（Ⅴ層ブロック、黒褐色土ブロック混）
㉘暗褐色粘質土（黒褐色ブロック少量混）
㉙暗褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック多量混）
㉚暗褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック少量混）
㉛褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック、炭化物少量混）
㉜暗褐色粘質土（褐色土ブロック多量混）
㉝にぶい褐色粘質土（褐色土ブロック混、黒褐色土ブロック少量混）
㉞暗褐色粘質土（褐色ブロック、黒褐色土ブロック混）
㉟暗褐色粘質土（褐色土ブロック多量、Ⅵ層ブロック混）
㊱暗褐色粘質土（褐色土ブロック、黒褐色土ブロック少量混）
㊲黒褐色粘質土（Ⅵ層ブロック少量混）
㊳暗褐色粘質土（褐色土ブロック少量、炭化物少量混）
㊴暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
㊵黄褐色粘質土
㊶黒褐色粘質土（Ⅴ層ブロック少量混）
㊷暗褐色粘質土（褐色土ブロック、Ⅵ層ブロック混）
㊸褐色粘質土（にぶい褐色土ブロック、暗褐色土ブロック混）
㊹にぶい褐色粘質土
㊺褐色粘質土（Ⅵ層ブロック少量混）
㊻褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
㊼暗褐色粘質土（Ⅴ層ブロック多量、褐色土ブロック、炭化物少量混）
㊽褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量混）
㊾褐色粘質土（Ⅵ層ブロック多量混）
㊿黄褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）

図149　掘立柱建物12（２）

表５　掘立柱建物12柱穴計測表

柱穴番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面の高さ(m)	柱穴番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面の高さ(m)
Ｐ１	60	60	48	55.52	Ｐ13	72	68	56	55.53
Ｐ２	88※	56	56	55.45	Ｐ14	76	60	68	55.42
Ｐ３	68	64	64	55.34	Ｐ15	104	80	72	55.38
Ｐ４	96	68	48	55.45	Ｐ16	144	72	72	55.48
Ｐ５	96	64	56	55.33	Ｐ17	44	36	28	55.85
Ｐ６	96	64	76	55.16	Ｐ18	64	64	32	55.72
Ｐ７	60	48	44	55.45	Ｐ19	52※	不明	32※	55.77
Ｐ８	52	48	64	55.38	Ｐ20	36	40	16	55.84
Ｐ９	108	80※	56	55.47	Ｐ21	80	64	28	55.73
Ｐ10	80	56	72	55.37	Ｐ22	44	36	32	55.73
Ｐ11	60	56	64	55.49	Ｐ23	136	84	122	55.83
Ｐ12	80	56	60	55.53	※トレンチと重複、残存値				

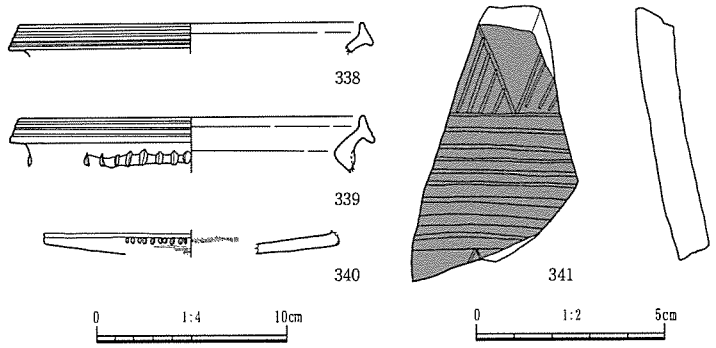


図150　掘立柱建物12出土遺物

掘立柱建物13（図151　図版45）

Ｈ９グリッドにおいて検出した。平坦部の西側に位置する。掘立柱建物12と重複関係にあり、掘立柱建物12より先行する。規模は梁行１間（2.4m）、桁行２間（1.68～1.74m）で、床面積8.1㎡である。方位は27度北に傾いた東西棟である。各柱穴は径40～48㎝、深さ20～32㎝である。柱材は全て抜き取られており、柱痕は遺存していない。

埋土は暗褐色を呈するものと、にぶい褐色を呈するものがあり、両者とも地山土ブロックが混じる。時期がわかる出土遺物はないが、建物廃絶時にＰ４を埋める途中で、亜角礫２個と河原石を投棄している。この建物の時期は不明である。（日置）

掘立柱建物14（図152・153　図版45・68）

Ｈ９～Ｉ10グリッドにかけて検出した。平坦部の東側に位置する。掘立柱建物12・同15・同16と重複関係がある。掘立柱建物12より先行するが、掘立柱建物15・同16との新旧関係は不明である。規模は梁行１間（３m）、桁行２間（2.6～３m）である。方位は22度北に傾いた東西棟である。床面積は17.8㎡である。柱穴は斜路を一方にもつものを含む。斜路をもつ柱穴の規模は長軸1.08～1.12m、深さ60～72㎝である。埋土は暗褐色から褐色を呈する。柱材は全て抜き取られている。また、建物廃絶時に、Ｐ２の底面に河原石を１個投棄している。

遺物はＰ２・Ｐ３・Ｐ５から出土した。図化できたのは、２点である。342はＰ２から出土した弥生土器甕の口縁部片である。口縁部縁帯は上方に小さく拡張するもので、縁帯には２条の擬凹線を巡らす。Ⅳ－３期のものである。343はＰ５から出土した弥生土器の口縁部片で、壺もしくは甕である。端部の拡張は小さく、ナデの後、上端に１条の擬凹線を施す。遺構掘り込み面は確認できなかった。弥生中期後葉の遺構である可能性が高い。（日置）

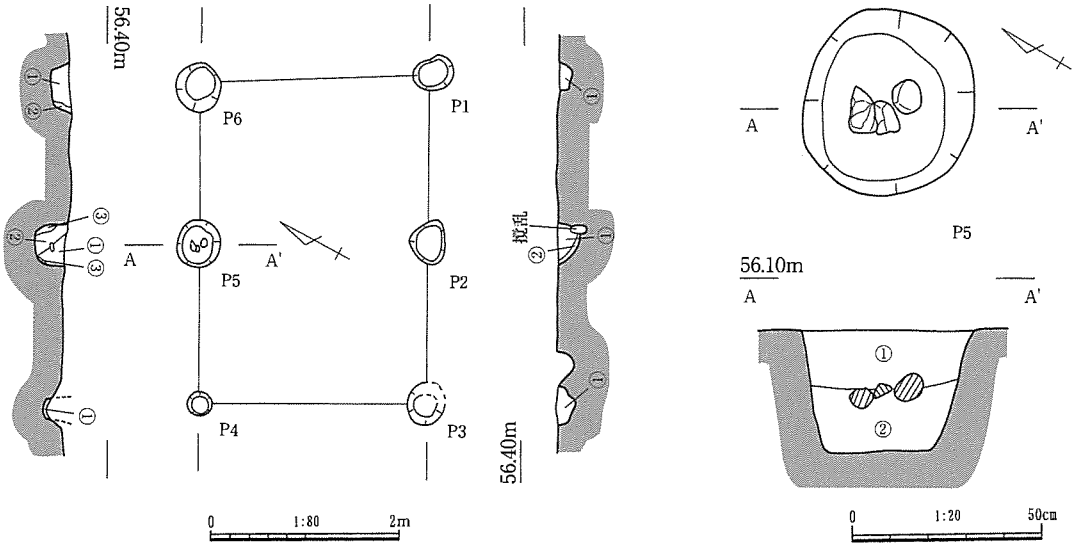
掘立柱建物15（図154　図版45）

Ｉ10グリッドにおいて検出した。平坦部の東側に位置する。掘立柱建物14・同16と重複関係にある。その新旧関係は不明である。規模は梁行１間（2.24m）、桁行１間（３m）、床面積6.6㎡である。方位は25度北に傾いた東西棟である。埋土は褐色を呈するものが多い。

遺物の出土はなく時期は不明である。（日置）

掘立柱建物16（図155・156　図版45・68）

Ｈ９～Ｉ10グリッドにかけて検出した。平坦部の東側に位置する。掘立柱建物14・同15・同17と重複関係にある。掘立柱建物17に後出するが、それ以外の新旧関係は不明である。規模は梁行１間（2.1m）、桁行２間（3.4m）、床面積7.2㎡である。方位は北に24度傾いた東西棟である。遺物は弥生土器が少量出土した。344はＰ４から出土した甕の口縁部片である。口縁上端を欠損する。縁帯部は上下に小さく拡張し、２条の擬凹線を施す。Ⅳ期のものである。345はＰ５から出土した壺の口縁部片である。掘立柱建物12のＰ５と東側斜面流土層から出土したものと接合した。頸部から大きく外反するもので、口縁部縁帯の拡張は小さい。縁帯部には２条の擬凹線が巡る。口縁部内面には、外側に櫛描



P１
①暗褐色粘質土
P２
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
P３
①にぶい黄褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
P４
①にぶい黄褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多く混）

P５
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多く混）
P６
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多く混）

図151　掘立柱建物13

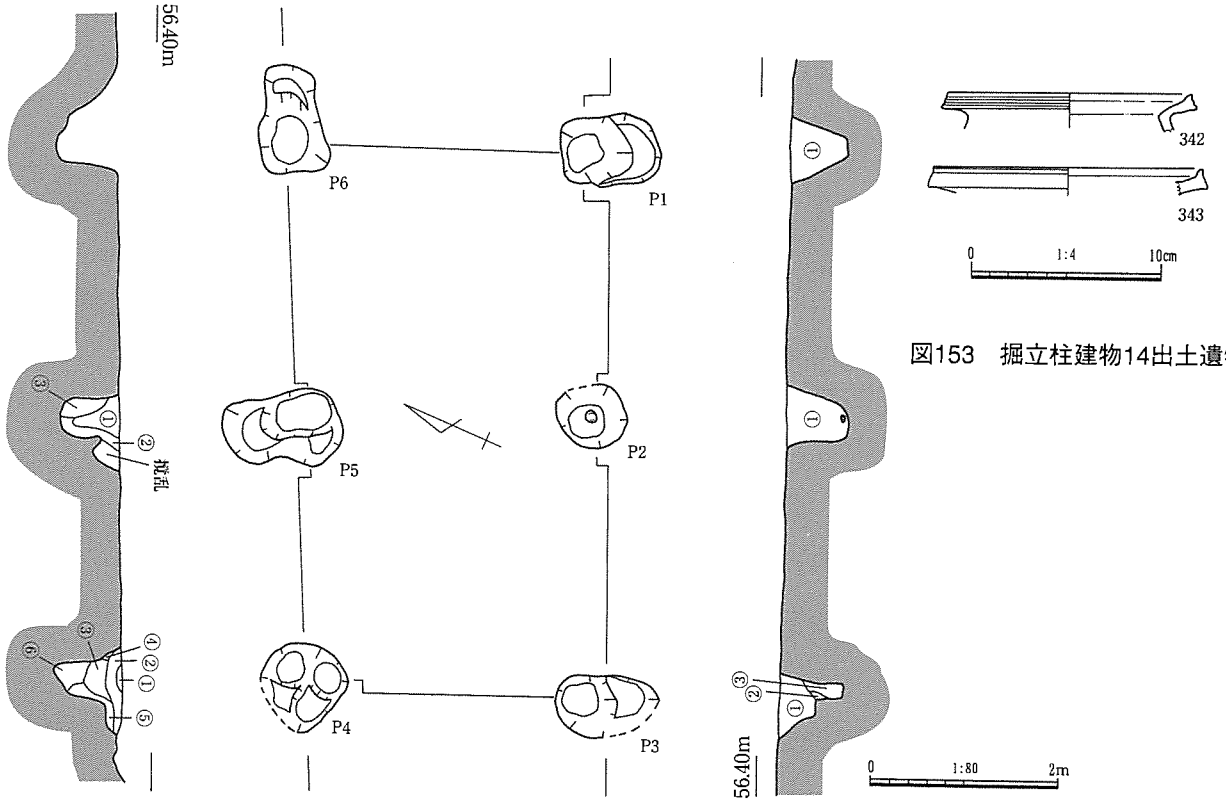
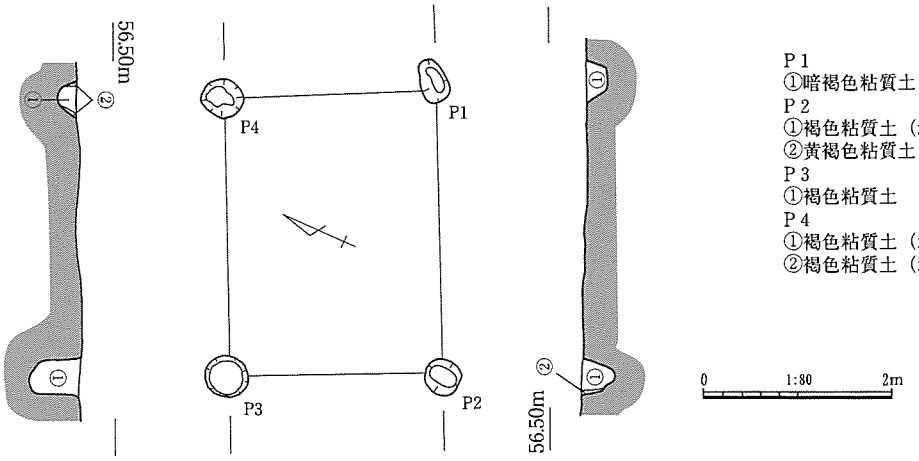


図153　掘立柱建物14出土遺物

P１
①褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
P２
①褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
P３
①褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
②暗褐色粘質土
③褐色粘質土

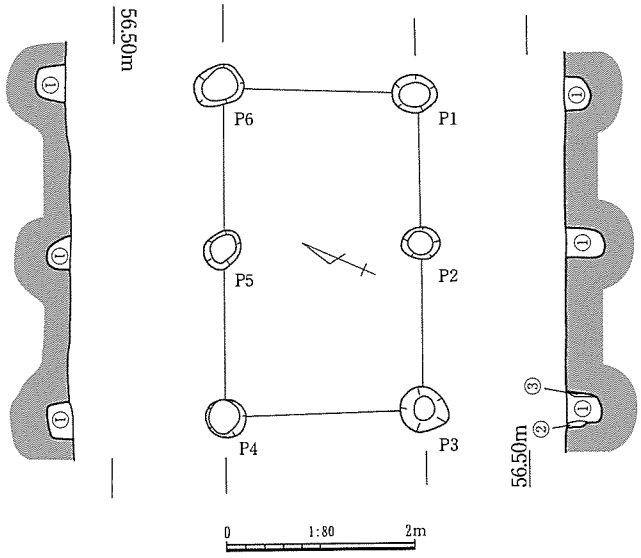
P４
①暗褐色粘質土（炭化物少量混）
②褐色粘質土（黄褐色土ブロック少量混）
③暗褐色粘質土
④褐色粘質土
⑤暗褐色粘質土
⑥褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
P５
①褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
②褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多量混）
③にぶい褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多量混）

図152　掘立柱建物14



P１
①暗褐色粘質土（地山Ⅵブロック少量混）
P２
①褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多量混）
②黄褐色粘質土
P３
①褐色粘質土
P４
①褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
②褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多量混）

図154　掘立柱建物15



P１
①暗褐色粘質土
P２
①暗褐色粘質土
P３
①褐色粘質土
②黄褐色粘質土
③暗褐色粘質土
P４
①褐色粘質土（にぶい黄褐色土ブロック混）
P５
①暗褐色粘質土
P６
①暗褐色粘質土

図155　掘立柱建物16

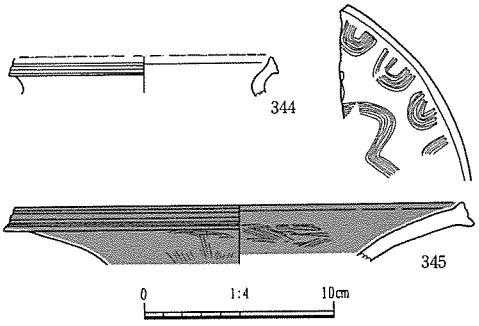
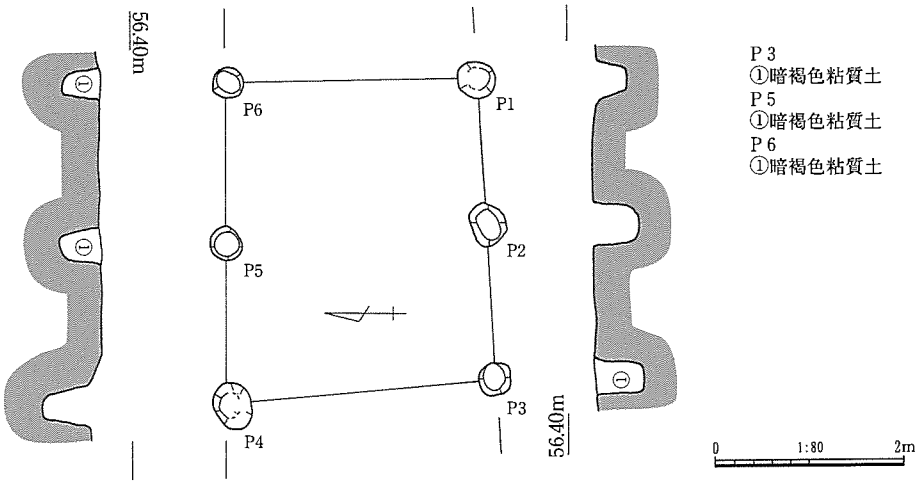


図156　掘立柱建物16出土遺物



P３
①暗褐色粘質土
P５
①暗褐色粘質土
P６
①暗褐色粘質土

図157　掘立柱建物17

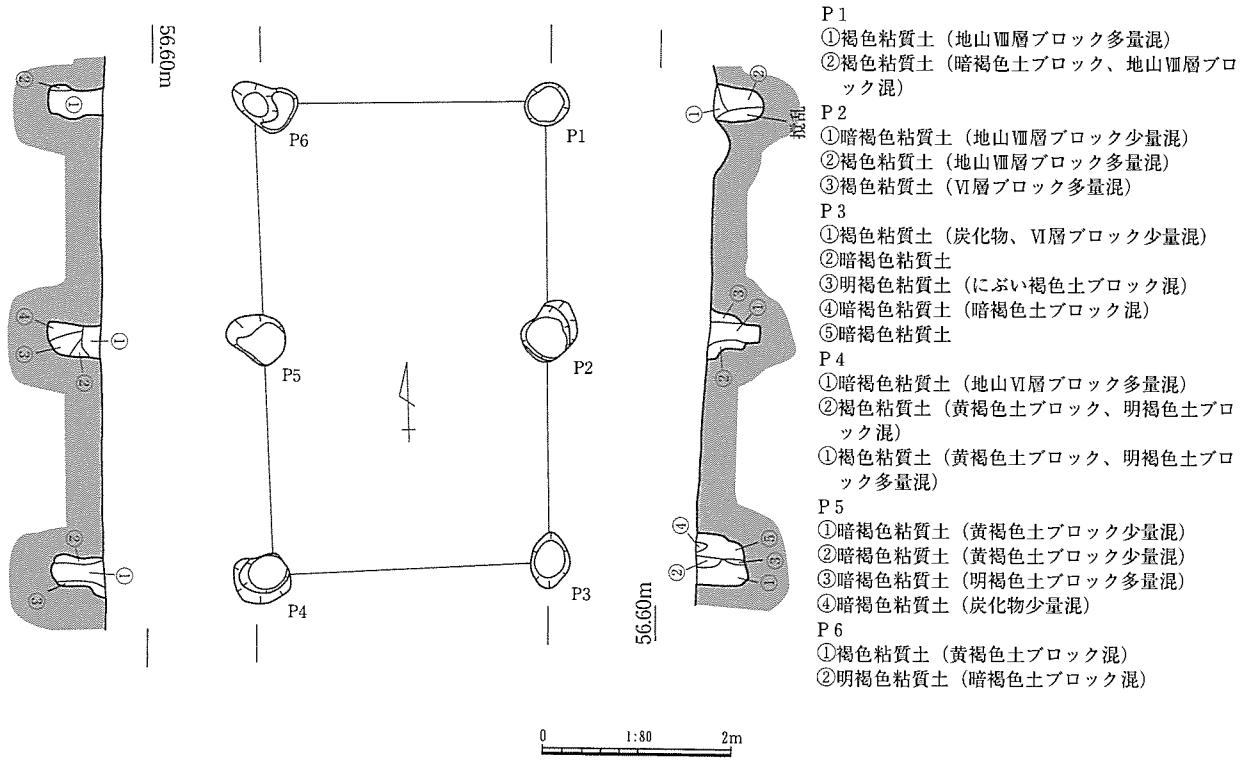


図158　掘立柱建物18

きの半円文を、内側に櫛描きの波状文を巡らす。内外面とも赤色顔料を塗彩している。遺構掘り込み面が不明である。これらの遺物の時期をもって、遺構の時期を決定しがたい。この建物の時期は不明である。　（日置）

掘立柱建物17（図157）

Ｉ10グリッドにおいて検出した。平坦部の東側に位置する。規模は梁行１間（2.8m）、桁行２間（3.4m）、床面積は9.１㎡である。棟の方位はほぼ正確な東西棟である。掘立柱建物16と重複関係にあり、掘立柱建物16に先行する建物である。柱穴埋土は暗褐色を呈し、柱材は全て抜き取っている。Ｐ３から土器片が出土したが、図化できない。時期不明の建物である。　（日置）

掘立柱建物18（図158　図版45）

Ｆ５・Ｇ５グリッドにおいて検出した。平坦部の東側に位置する。規模は梁行１間（３m）、桁行２間（2.8m）、床面積は15.1㎡である。棟の方位は８度東に傾いた南北棟である。掘立柱建物26と重複関係にあるが、その新旧関係は不明である。柱穴の埋土は暗褐色から褐色を呈する。柱材はＰ２・Ｐ４を除いて抜き取っている。柱材の径は20cm以下であろう。

図化できる遺物の出土はなく、時期は不明である。　（日置）

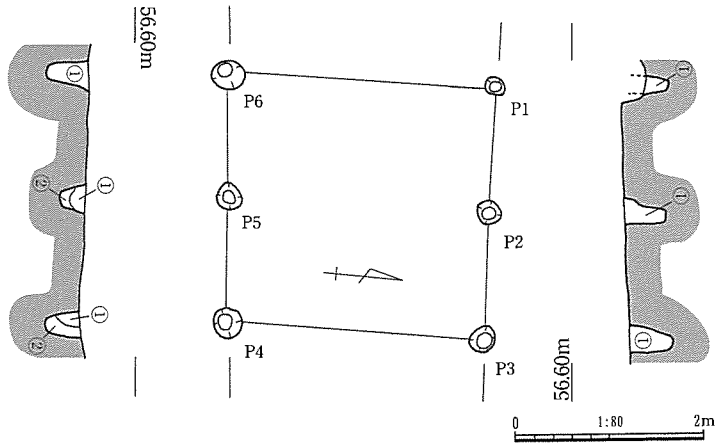
掘立柱建物19（図159）

Ｇ４グリッドにおいて検出した。平坦部の東側縁辺部に位置する。この建物の東側ではさほど距離をおかずに斜面となる。規模は梁行１間（2.8m）、桁行２間（2.6m）、床面積7.4㎡である。棟の方位はほぼ正確な東西棟である。桁行に対し梁行が広い。柱穴の埋土は黒褐色から褐色を呈する。

出土遺物はなく、時期不明の建物である。　（日置）

掘立柱建物20（図160・161）

Ｇ５グリッドにおいて検出した。平坦部の東側に位置する。規模は梁行１間（2.9m）、桁行１間



P１
①暗褐色粘質土
P２
①黒褐色粘質土（炭化物混）
P３
①黒褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック多量、炭化物少量混）
P４
①暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック多量混）
②暗褐色粘質土
P５
①褐色粘質土（暗褐色土ブロック多量混）
②褐色粘質土
P６
①黒褐色粘質土

図159　掘立柱建物19

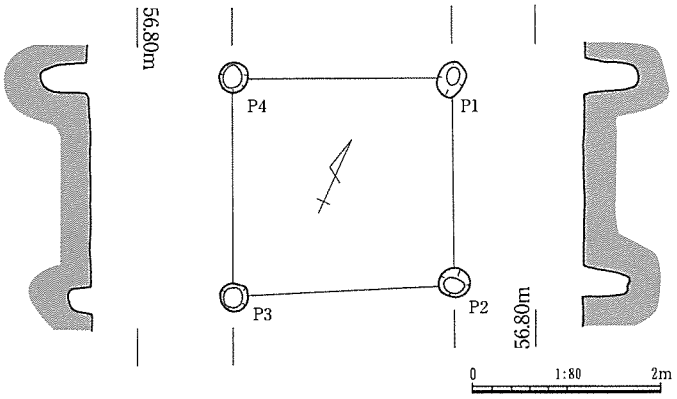


図160　掘立柱建物20

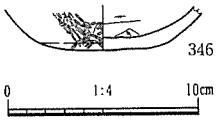
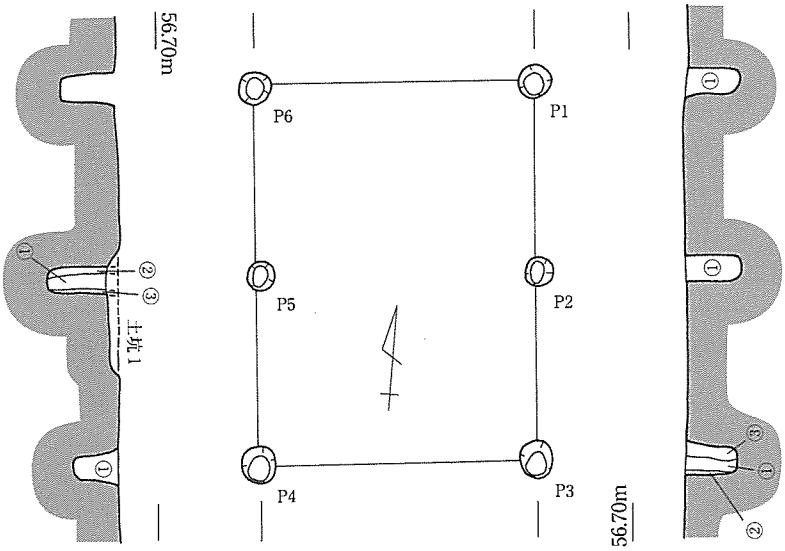


図161　掘立柱建物20出土遺物



P１
①暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック、炭化物少量混）
P２
①暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック、黒褐色土ブロック少量混）

P３
①暗褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
②暗褐色粘質土（明褐色土ブロック混）
③暗褐色粘質土（明褐色土ブロック多量混）
P４
①明褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
P５
①明褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（明褐色土ブロック少量混）

図162　掘立柱建物21

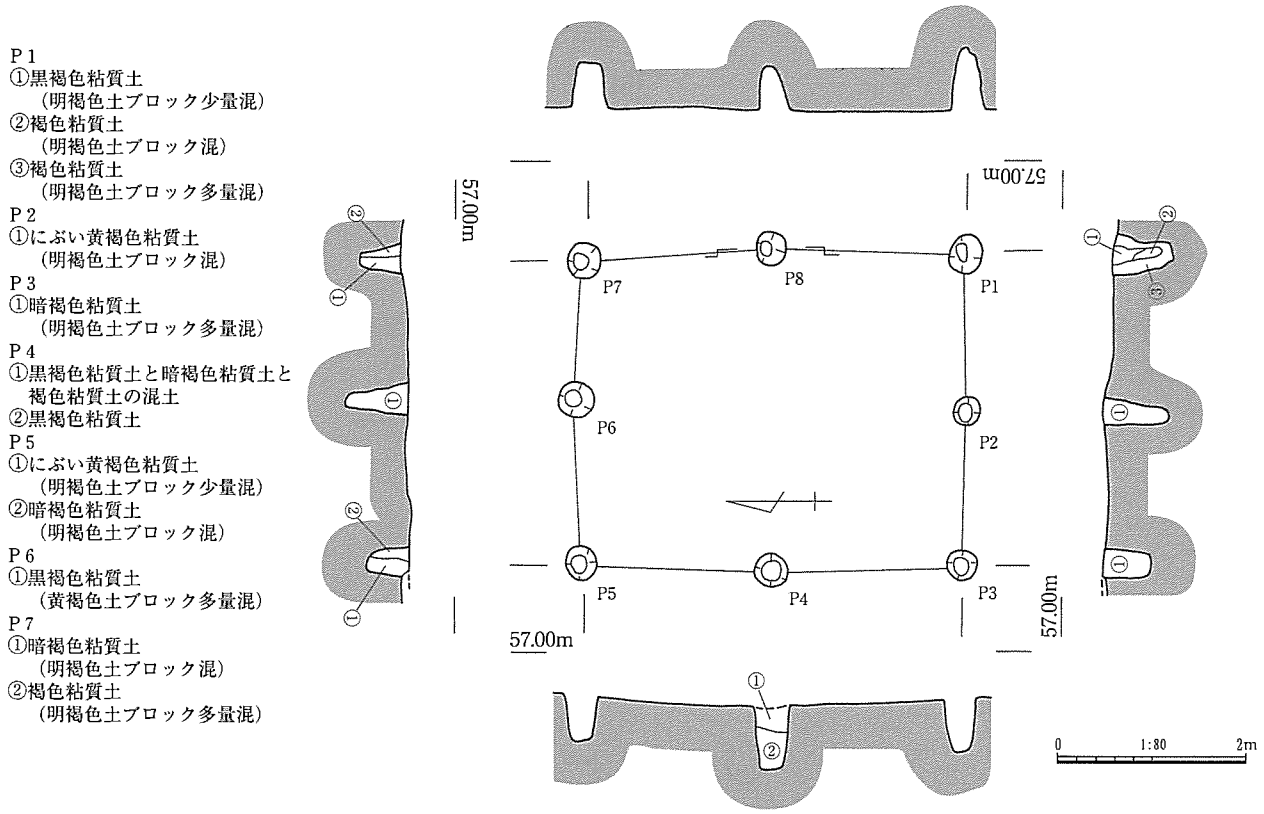


図163　掘立柱建物22

(2.9m)、床面積5.4㎡である。棟の方位は24度西に傾いた南北棟である。柱痕の確認はできなかったが、北側の柱穴が南側に対し深い。出土遺物には底部346がある。壺もしくは甕の底部で、ゆるやかで狭い平坦面をもつ。外面はヘラミガキ、内面はヘラケズリを施す。明確な時期の比定はできず、時期不明の建物である。（日置）

掘立柱建物21（図162）

Ｈ４グリッドにおいて検出した。平坦部の東側縁辺部に位置する。土砂の流出により、検出面での東側桁柱筋はゆるやかな斜面に位置し、西側桁柱筋より低くなっている。弥生時代中期後葉の土坑１と重複関係にあり、これに先行する。規模は梁行１間（2.9m)、桁行２間（4.2m)、床面積12.4㎡である。棟の方位は５度東に傾いた南北棟である。柱穴の埋土は暗褐色を呈し、Ｐ３とＰ５から柱材は16㎝前後である。遺物の出土はなく時期不明の建物であるが、弥生時代中期後葉を下限とする。(日置)

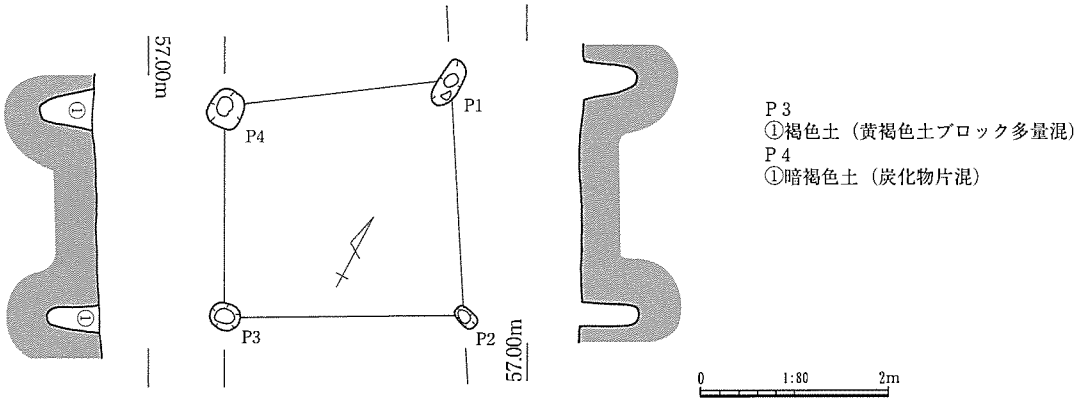
掘立柱建物22（図163）

Ｈ４・５グリッドにかけて検出した。平坦部の東側に位置する。弥生時代中期後葉の土坑２と重複しており、土坑が埋没後に建物を建てている。規模は梁行２間（3.4m)、桁行２間（４m)、床面積13.4㎡である。棟の方位は17度西に傾いた南北棟である。柱穴の埋土は概して黒褐色から褐色のものと黄褐色のものである。柱材は全て抜き取っている。

遺物の出土はなく時期不明の建物であるが、弥生時代中期後葉を上限とする。（日置）

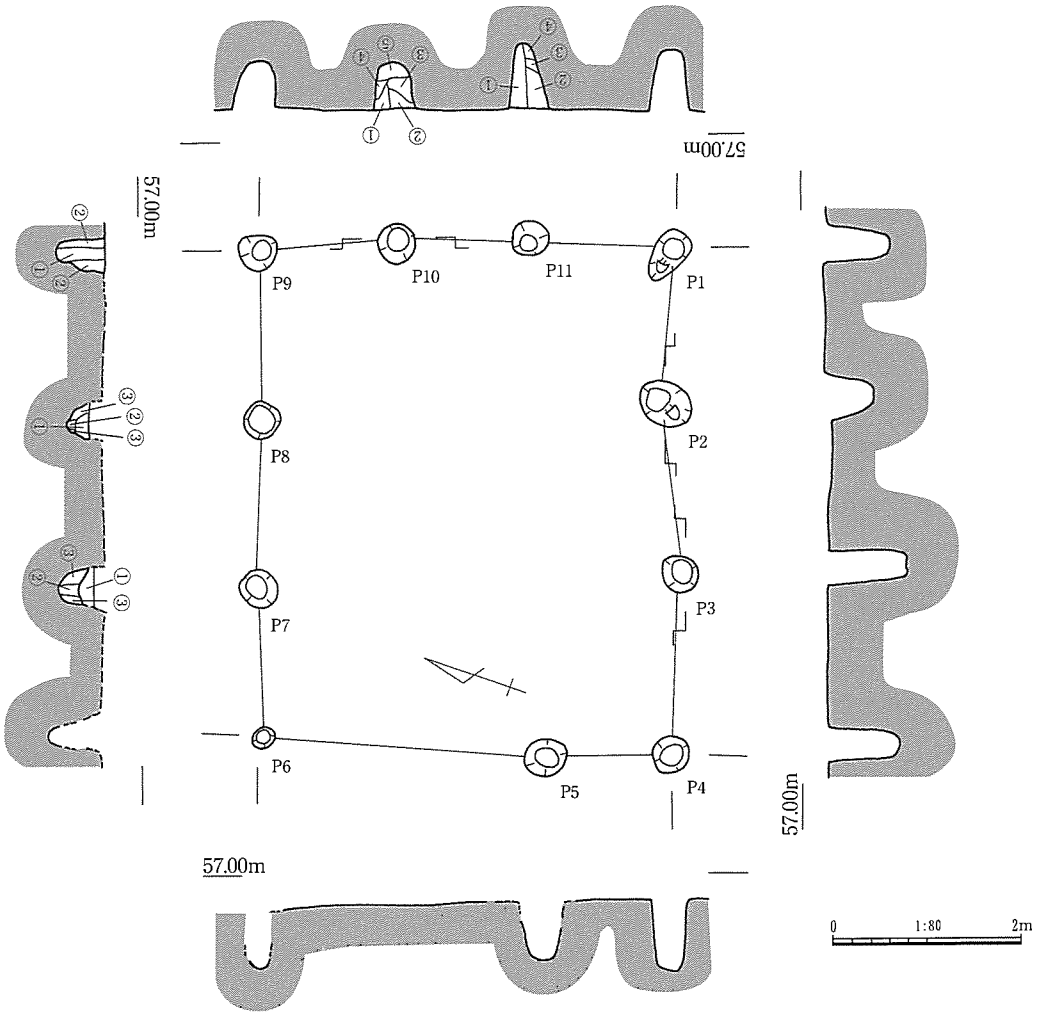
掘立柱建物23（図164）

Ｇ５グリッドにおいて検出した。平坦部の中心よりやや東側に位置する。時期不明の土坑93・103と重複するが、その新旧関係は不明である。規模は梁行１間（2.6m)、桁行１間（2.5m)、床面積6.3㎡である。棟の方位は27度西に傾いた南北棟である。東側の柱は西側に対し、柱穴の径が細長く、深



P３
①褐色土（黄褐色土ブロック多量混）
P４
①暗褐色土（炭化物片混）

図164　掘立柱建物23



P７
①極暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
②極暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
P８
①極暗褐色粘性砂質土（褐色土ブロック混）
②極暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土（地山ブロック混）
P９
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（地山ブロック多量混）

P10
①暗褐色粘質土（地山ブロック多量混）
②暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
④暗褐色粘質土
⑤褐色粘質土（地山ブロック少量混）
P11
①暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（地山ブロック多量混）
③地山粘土ブロック
④暗褐色粘質土

図165　掘立柱建物24

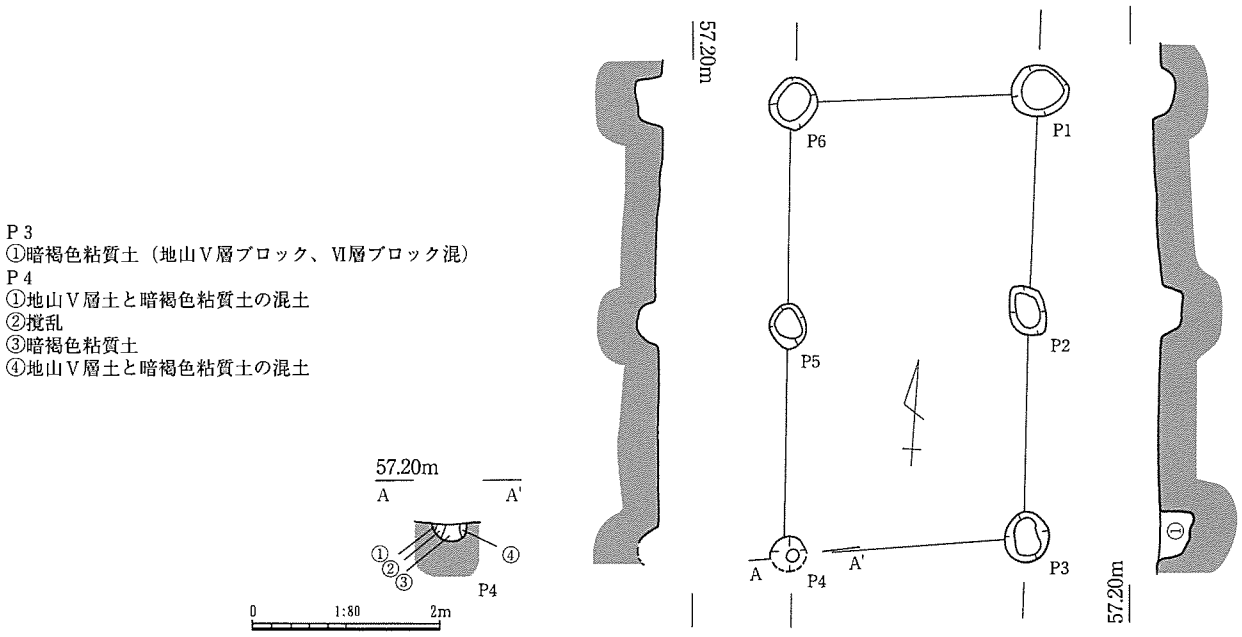


図166　掘立柱建物25

さも深い。柱材は全て抜き取られている。

遺物の出土はなく、時期不明の建物である。（日置）

掘立柱建物24（図165　図版46）

Ｉ５・６グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。弥生時代終末期の竪穴住居16と時期不明の土坑96・111と重複関係がある。竪穴住居16が埋没した後、本遺構が構築されている。この遺構の検出時には調査者が新旧関係を誤認したため、北側の桁柱筋の柱穴の上部の状況は記録できなかった。土坑２基との新旧関係は不明である。規模は梁行３間（4.3m）、桁行３間（5.4m）、床面積は23.2㎡である。棟の方位は19度北に傾いた東西棟である。Ｐ１・Ｐ３で土器片が出土したが、時期を比定できるものはなく時期不明の建物であるが、弥生時代終末期を上限とする。（日置）

掘立柱建物25（図166　図版46）

Ｊ５グリッドにおいて検出した。平坦部の東側に位置する。時期不明の掘立柱建物27と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。規模は梁行１間（2.6m）、桁行２間（4.4m）、床面積6.2㎡である。棟の方位は４度西に傾いた南北棟である。柱穴の埋土は黄褐色の地山土と暗褐色土との混土であった。

遺物の出土はなく、時期不明の建物である。（日置）

掘立柱建物26（図167　図版46）

Ｊ５・６グリッドにおいて検出した。平坦部の中心よりやや東側に位置する。掘立柱建物１・同27と重複関係があるが、新旧関係は不明である。遺構の大部分が調査地外に延びる。調査地内で確認した規模は、梁行３間（5.4m）、桁行４間（6.9m）である。桁柱筋の柱間距離は1.7～2.1mとややばらつきがある。柱穴の埋土は暗褐色土と明褐色土からなる。

遺物の出土はなく、建物の時期は不明である。（日置）

掘立柱建物27（図168　図版46）

Ｊ５・６グリッドにおいて検出した。平坦部の中心よりやや東側に位置する。掘立柱建物25・同26と重複関係があるが、前述のとおり、その新旧関係は不明である。遺構の大半は調査地外に延びてお

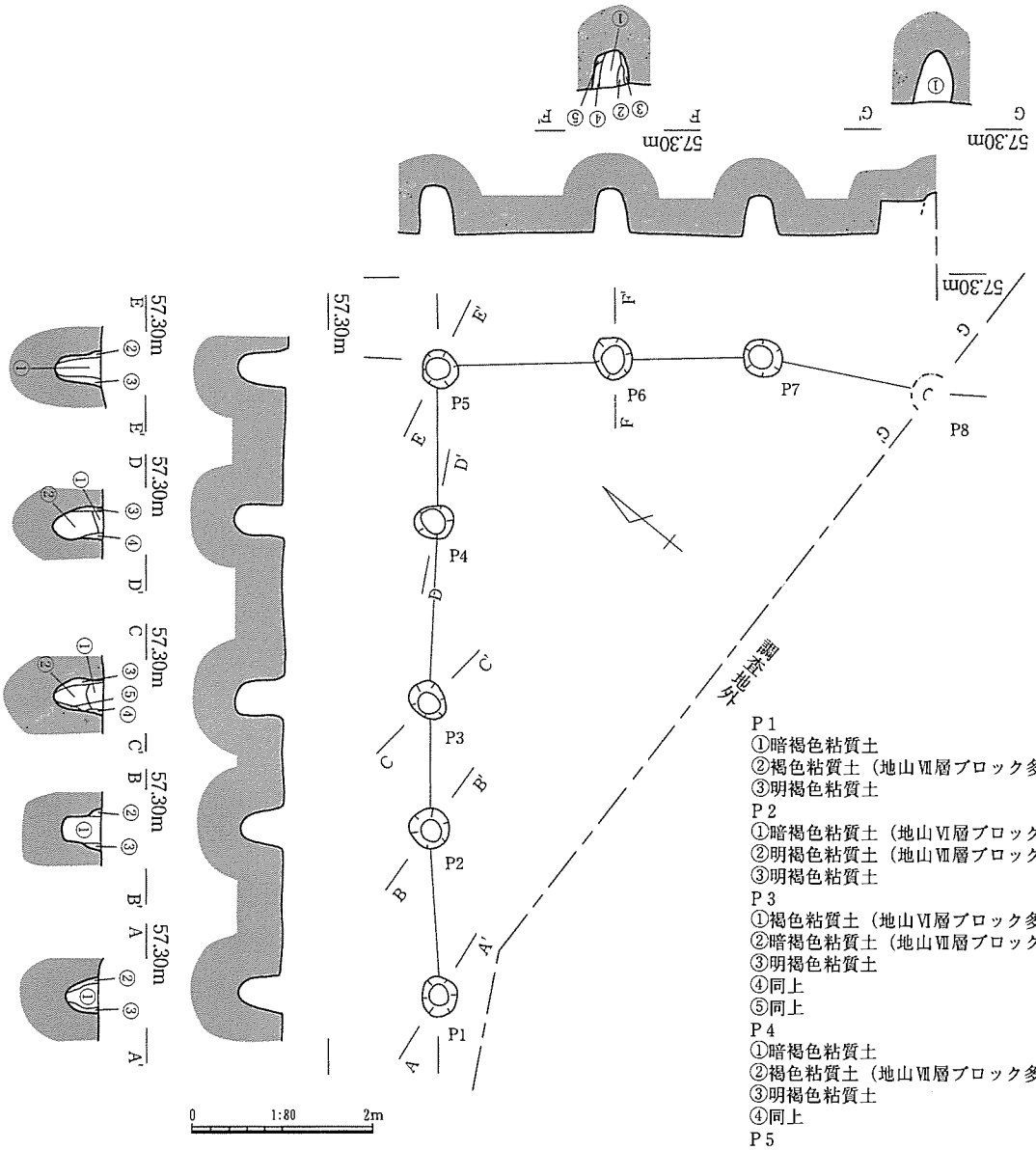


図167　掘立柱建物26

P１
①暗褐色粘質土
②褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック多量混）
③明褐色粘質土
P２
①暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック、Ⅶ層ブロック混）
②明褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック多量混）
③明褐色粘質土
P３
①褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多量混）
②暗褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック混）
③明褐色粘質土
④同上
⑤同上
P４
①暗褐色粘質土
②褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック多量混）
③明褐色粘質土
④同上
P５
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
③同上
P６
①黒褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック、Ⅶ層ブロック混）
②灰褐色粘質土
③褐色粘質土（地山Ⅶ層ブロック多量混）
④褐色粘質土
P８
①黒褐色粘質土（Ⅴ層ブロック少量混）

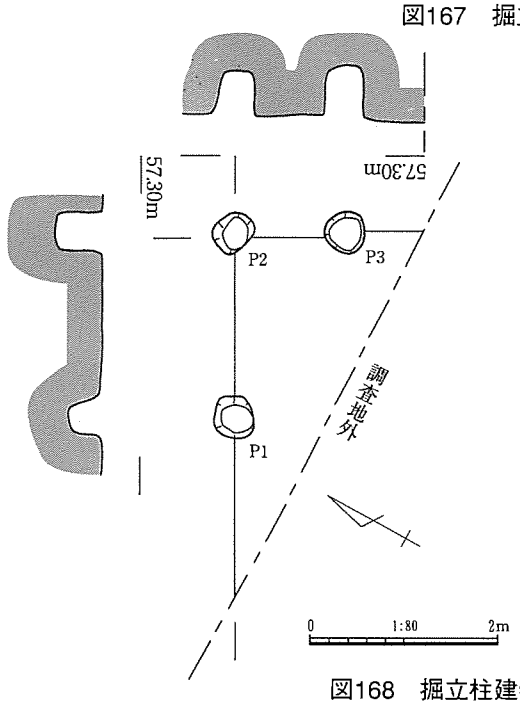


図168　掘立柱建物27

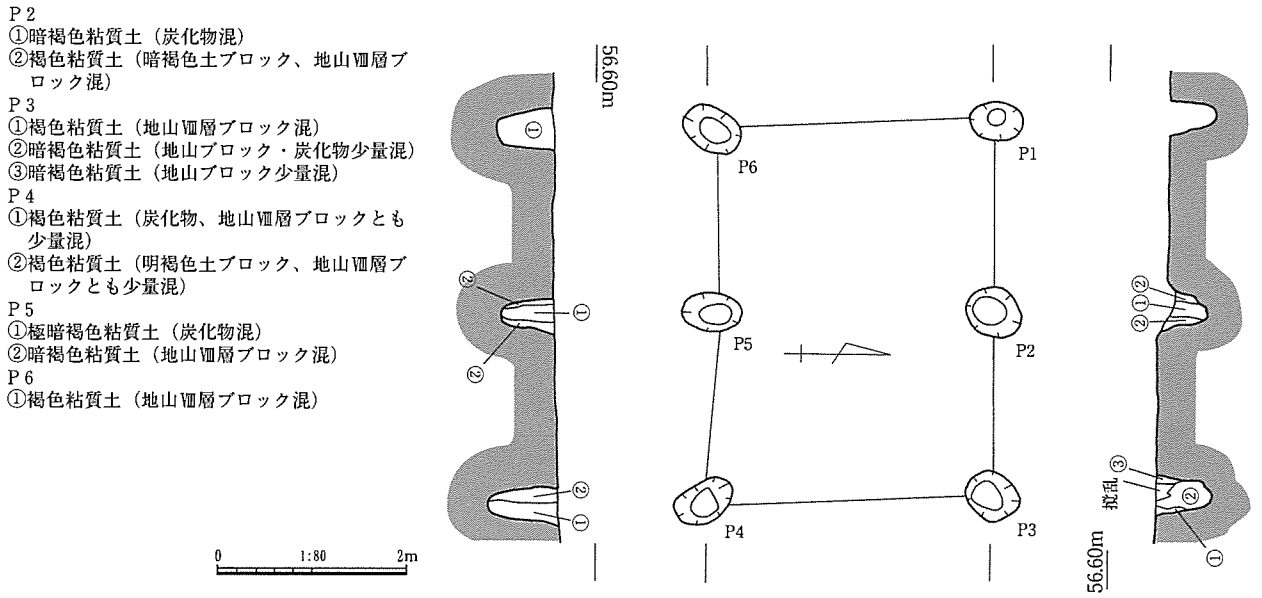


図169　掘立柱建物28

り、その規模は不明である。棟の方位は、掘立柱建物26とほぼ同じようである。

遺物の出土はなく、時期は不明である。（日置）

掘立柱建物28（図169　図版46）

Ｇ６・７グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。竪穴住居11と重複する。検出時には新旧関係を誤認したが、弥生時代中期後葉の竪穴住居11に後出する。規模は梁行１間（3.0m）、桁行２間（4.2m）、床面積７㎡である。棟の方位は30度北に傾いた東西棟である。柱穴の埋土は暗褐色から褐色を呈し、Ｐ５から柱材の径は20cm以下である。Ｐ４から土器片が出土したが、図化できなかった。時期不明の建物であるが、弥生時代中期後葉を上限とする。（日置）

掘立柱建物29（図170）

Ｇ６グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。規模は梁行１間（2.4m）、桁行２間（3.1m）、床面積7.5㎡である。棟の方位は23度西に傾いた南北棟である。東側の桁柱筋は柱間距離がやや不揃いである。隅柱の柱穴はいずれも側柱Ｐ２とＰ５と比べ格段に深い。その深さは検出面から88～144cmである。遺物の出土はない。時期不明の建物である。（日置）

掘立柱建物30（図171）

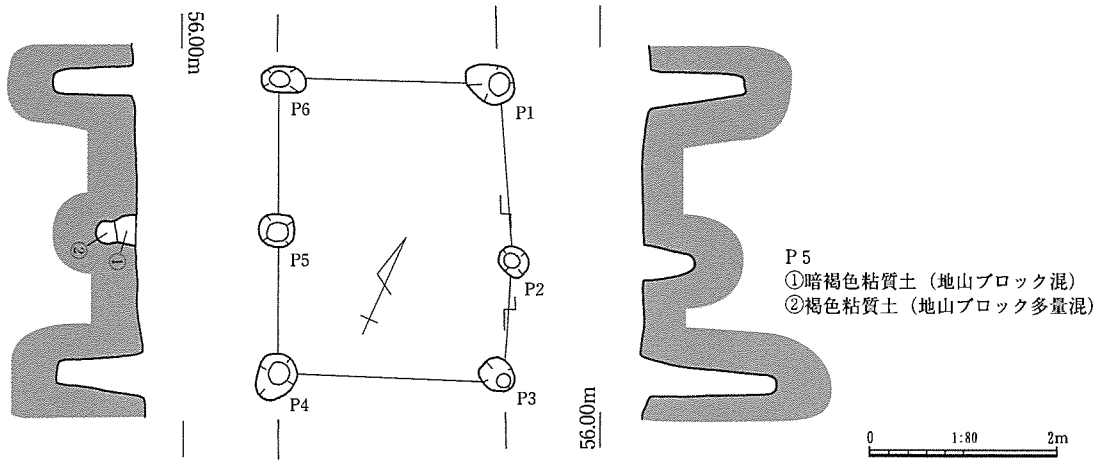
Ｈ７グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。竪穴住居14と時期不明の土坑103と重複関係がある。新旧関係は、古墳時代前期前葉の竪穴住居14より先行するが、土坑103との新旧関係は不明である。規模は梁行１間（2.2m）、桁行２間（3.8m）、床面積は10.9㎡である。棟の方位は26度北に傾いた東西棟である。柱穴の埋土は褐色か暗褐色を呈し、柱材は全て抜き取っている。

遺物は出土せず、時期不明の建物であるが、古墳時代前期前葉を下限とする。（日置）

掘立柱建物31（図172　図版47）

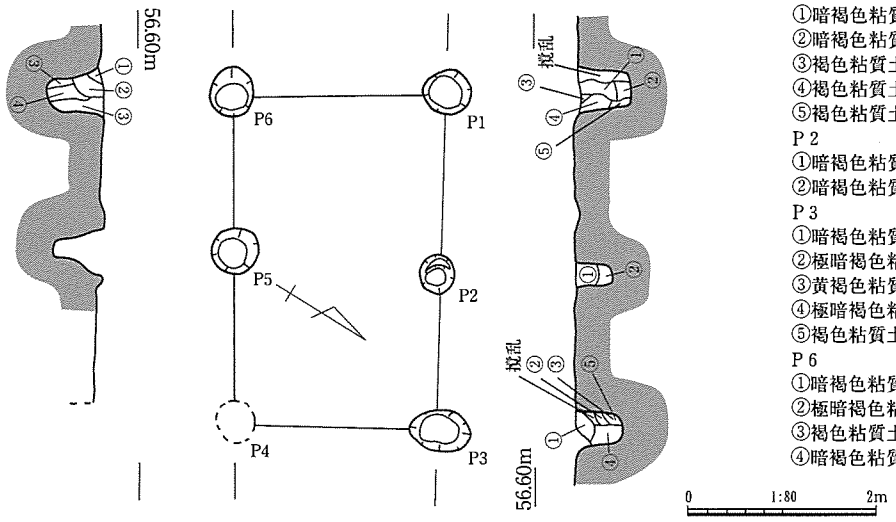
Ｉ６・７グリッドにかけて検出した。平坦部の中心に位置する。竪穴住居18と重複関係があり、西側柱筋は確認できなかった。古墳時代後期中葉の竪穴住居18に先行する。規模は梁行１間（2.6m）、桁行２間（4.1m）、床面積は7.7㎡（復原）である。棟の方位は27度西に傾いた南北棟である。

遺物は出土せず、時期不明の建物であるが、古墳時代後期中葉を下限とする。（日置）



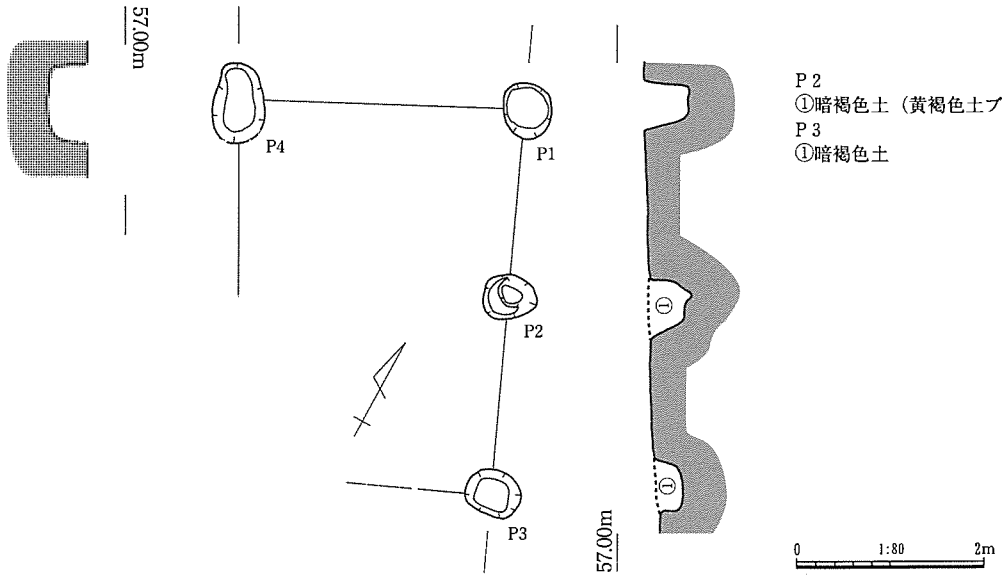
P５
①暗褐色粘質土（地山ブロック混）
②褐色粘質土（地山ブロック多量混）

図170　掘立柱建物29



P１
①暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック混）
②暗褐色粘質土
③褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック混）
④褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
⑤褐色粘質土
P２
①暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
P３
①暗褐色粘質土
②極暗褐色粘質土
③黄褐色粘質土
④極暗褐色粘質土
⑤褐色粘質土
P６
①暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック混）
②極暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）
③褐色粘質土
④暗褐色粘質土（地山Ⅷ層ブロック少量混）

図171　掘立柱建物30



P２
①暗褐色土（黄褐色土ブロック混）
P３
①暗褐色土

図172　掘立柱建物31

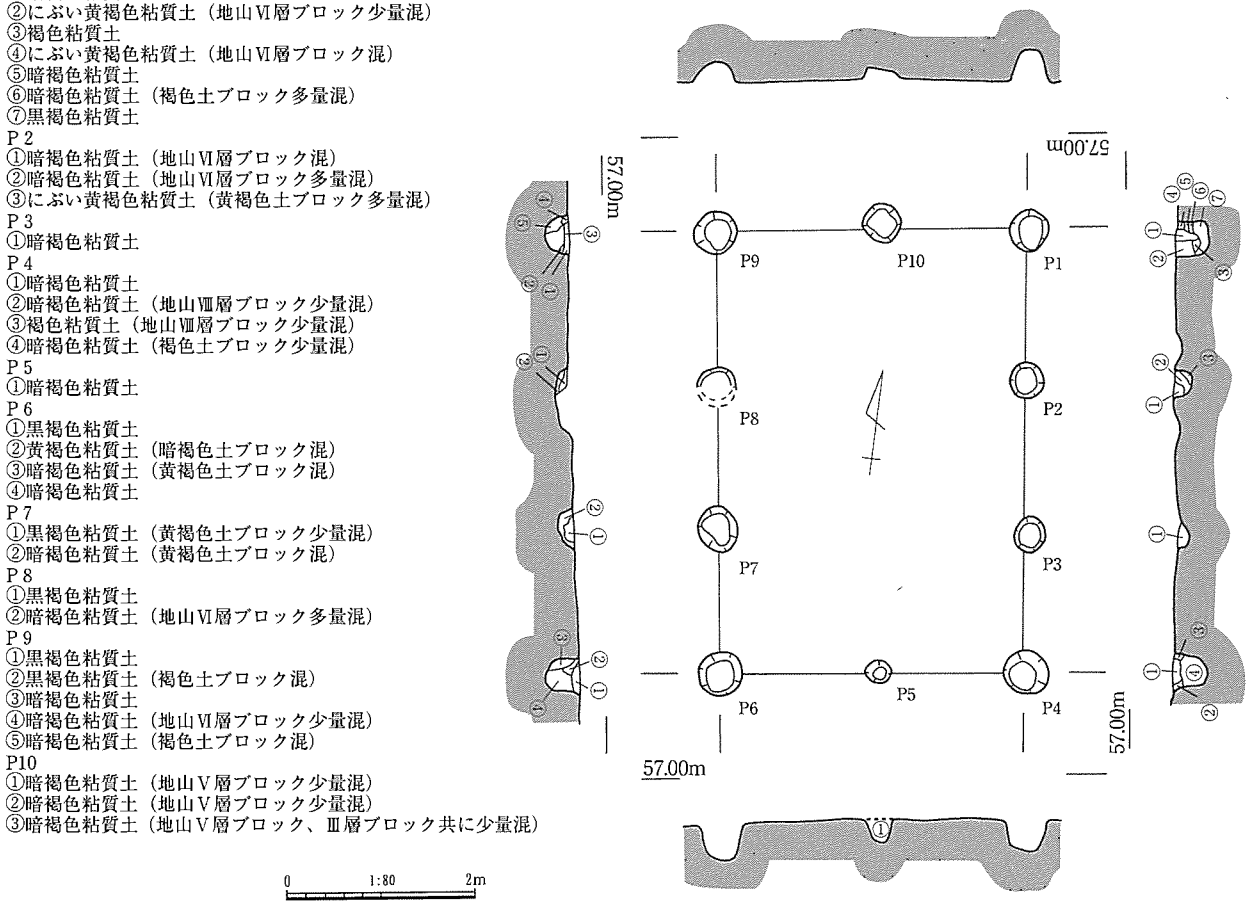


図173　掘立柱建物32

掘立柱建物32（図173　図版47）

Ｈ・Ｉ７グリッドにかけて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。弥生時代中期後葉の土坑43と柱穴群と重複するが、新旧関係は不明である。規模は梁行２間（3.3m）、桁行３間（4.7m）、床面積15.5㎡である。棟の方位は７度西に傾いた南北棟である。隅柱に比べ側柱は浅い。柱穴の埋土は黒褐色から暗褐色を呈し、地山土ブロックが多く混じる。柱材は全て抜き取っている。

遺物は出土せず、時期は不明である。（日置）

掘立柱建物33（図174　図版47）

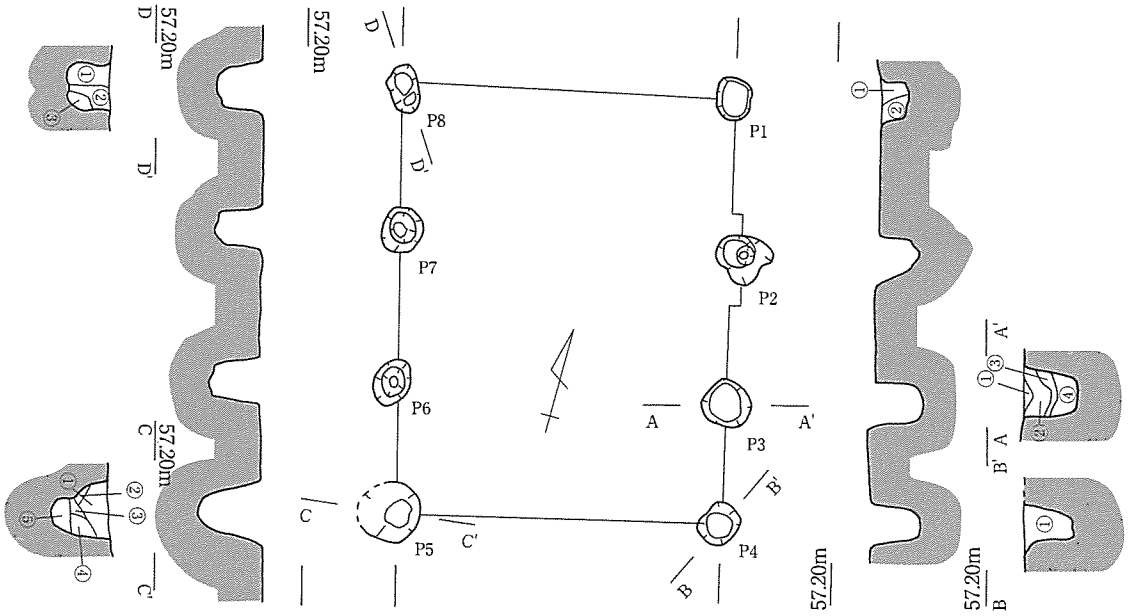
Ｊ６グリッドにおいて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。弥生時代中期後葉の掘立柱建物１と重複するが、新旧関係は不明である。規模は梁行１間（3.5m）、桁行３間（4.6m）、 床面積16.05㎡である。棟の方位は９度西に傾いた南北棟である。柱材は全て抜き取っている。

遺物は出土せず、時期は不明である。（日置）

掘立柱建物34（図175）

Ｇ・Ｈ８グリッドにかけて検出した。平坦部のほぼ中心に位置する。規模は梁行２間（３m）、桁行２間（4.1m）、床面積12.6㎡である。棟の方位は32度西に傾いた南北棟である。梁間のＰ８・Ｐ４は建物東側に偏っている。柱穴の埋土は暗褐色を呈する。

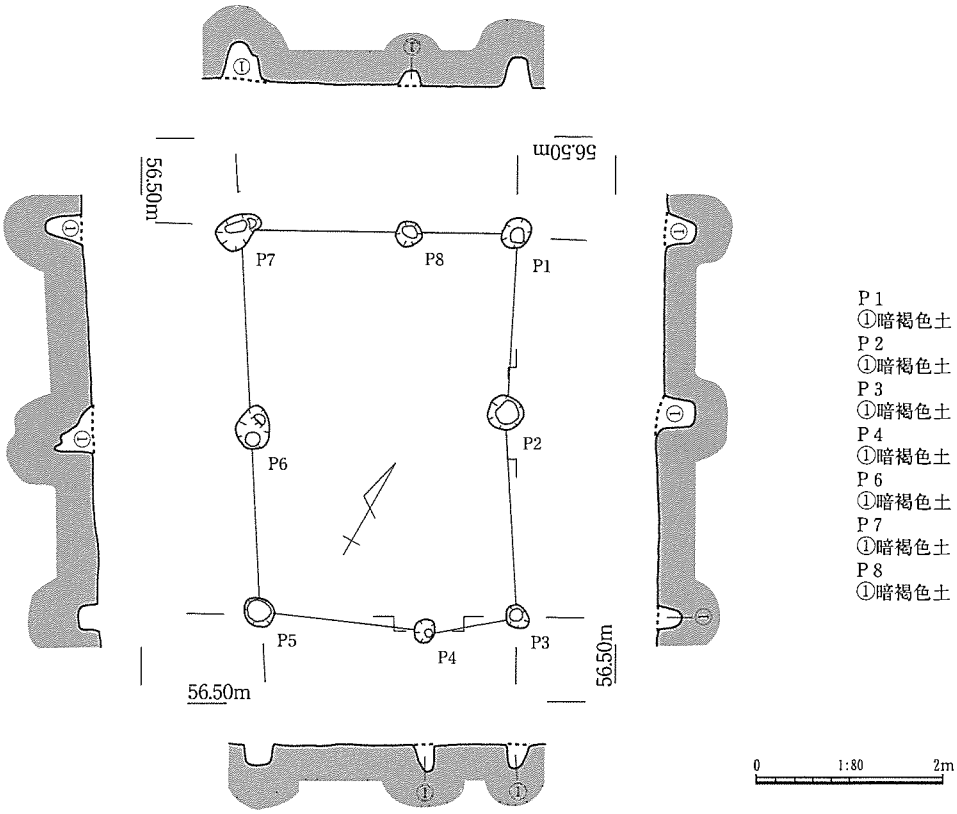
遺物は出土せず、時期は不明である。（日置）



P１
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
P３
①褐色粘質土（地山ブロック少量混）
②暗褐色粘質土
③壁面崩落土
④暗褐色粘質土
P４
①暗褐色粘質土（炭化物少量混）

P５
①暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック、地山ブロック少量混）
②褐色粘質土（炭化物少量、地山ブロック多量混）
③暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
④暗褐色粘質土（地山ブロック多量混）
⑤暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
P８
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（①層よりやや明るい）
③暗褐色粘質土

図174　掘立柱建物33



P１
①暗褐色土（黄褐色土ブロック混）
P２
①暗褐色土（黄褐色土ブロック混）
P３
①暗褐色土
P４
①暗褐色土
P６
①暗褐色土
P７
①暗褐色土
P８
①暗褐色土

図175　掘立柱建物34

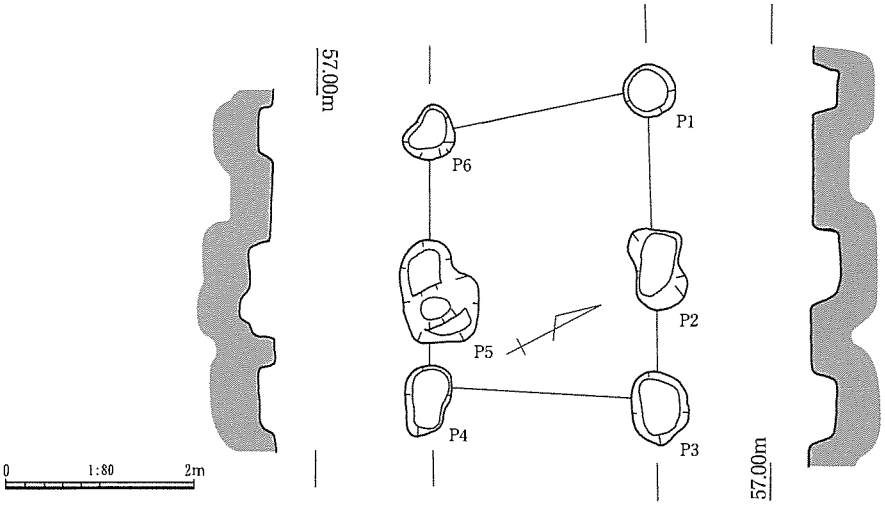


図176　掘立柱建物35

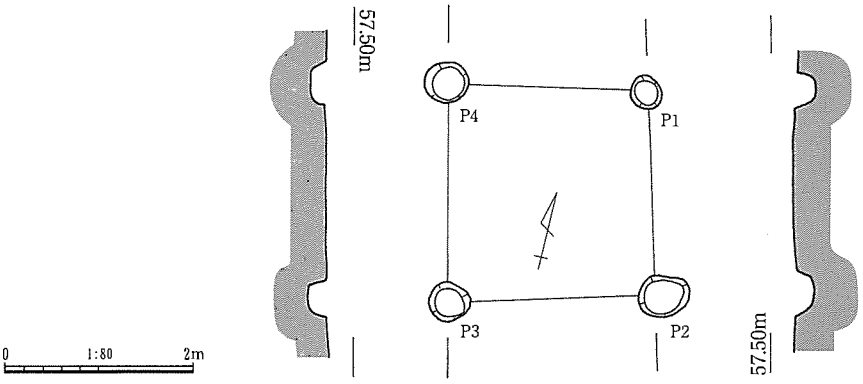


図177　掘立柱建物36

掘立柱建物35（図176）

Ｋ８・９グリッドにかけて検出した。平坦部の西側に位置する。規模は梁行１間（2.4m）、桁行２間（2.8～3.4m）である。床面積は7.9㎡である。棟の方位は南に25度傾いた東西棟である。平面形は不整な長方形で、柱間距離が均一でない。柱穴は柱材の抜き取りによって大きく変形している。

遺物は出土せず、時期は不明である。（日置）

掘立柱建物36（図177）

Ｋ９グリッドにおいて検出した。平坦部の西側に位置する。規模は梁行１間（2.2m）、桁行１間（2.2m）、床面積は4.8㎡である。棟の方位は西に15度傾いた南北棟である。

遺物は出土せず、時期は不明である。（日置）

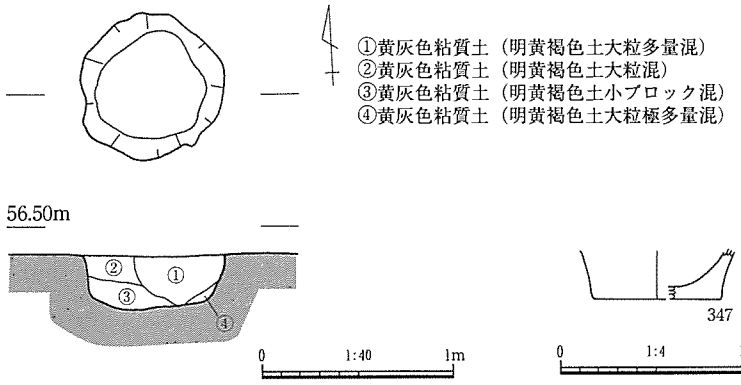


図178　土坑26

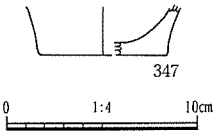


図179　土坑26出土遺物

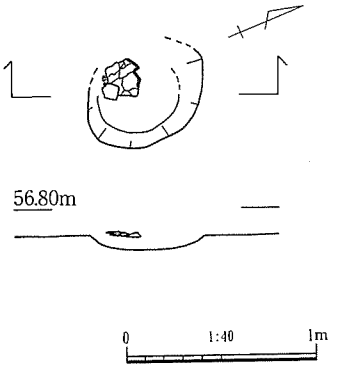


図180　土坑27

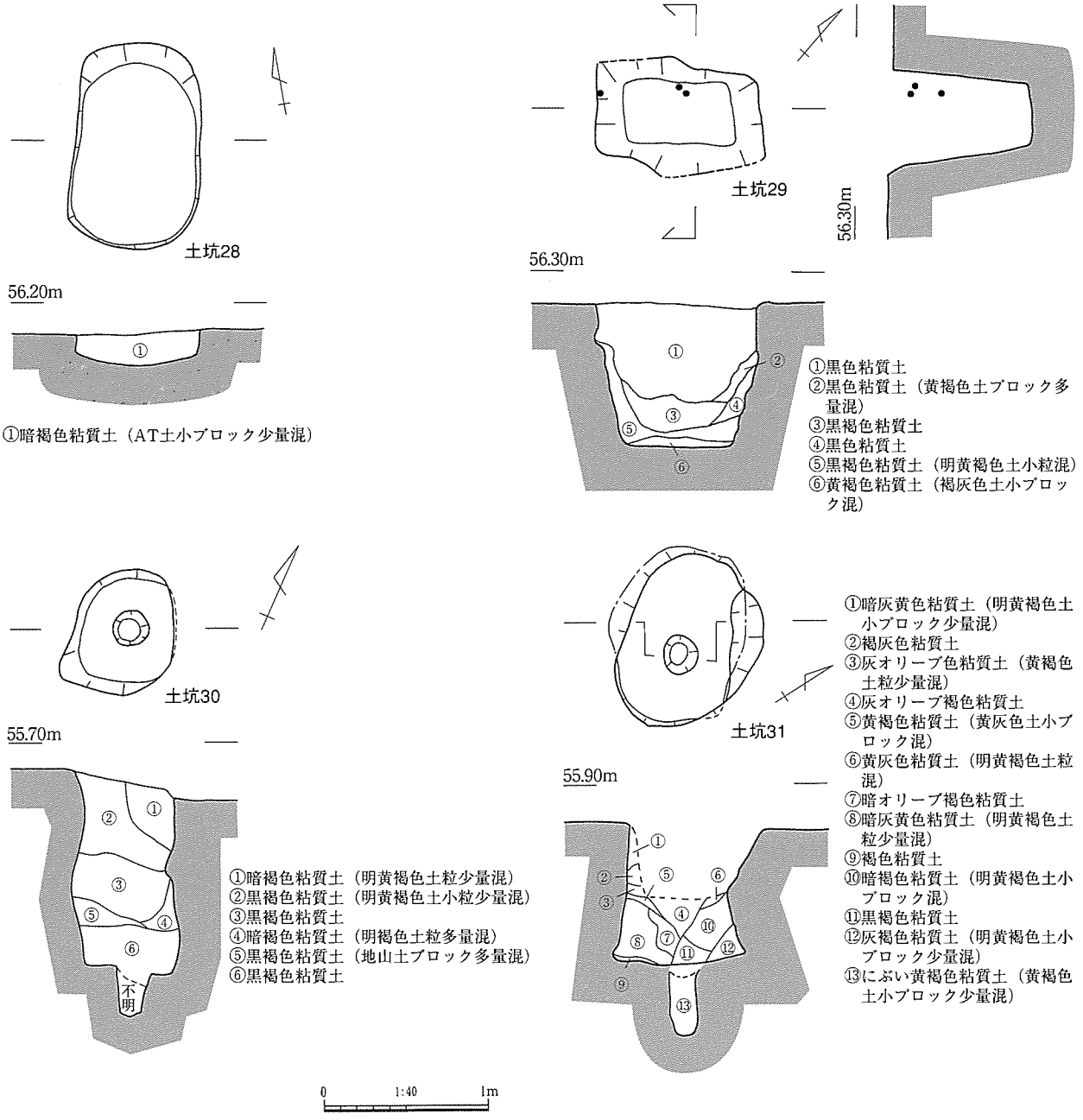
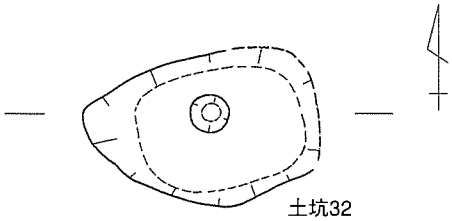
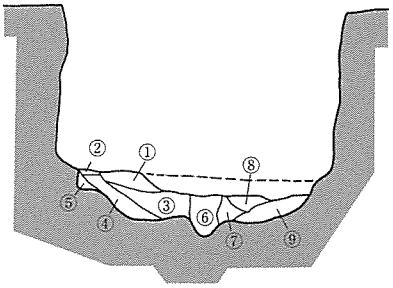


図181　土坑28～31

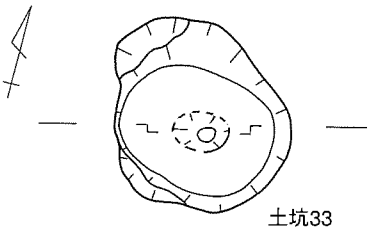


土坑32

56.20m

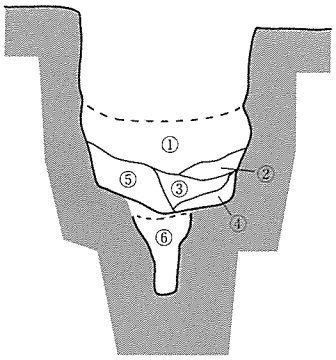


①にぶい褐色粘質土（細砂混）
②褐色粘質土（極細砂混）
③明褐色粘質土（極細砂混）
④褐色粘質土（細砂混）
⑤褐色粘質土（極細砂混）
⑥明褐色粘質土（細砂混）
⑦明褐色粘質土（極細砂混）
⑧にぶい褐色粘質土（細砂混）
⑨橙色粘質土（中砂混）

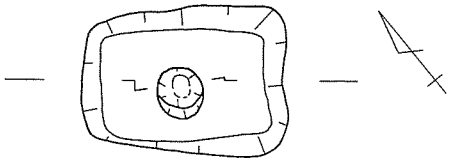


土坑33

56.70m

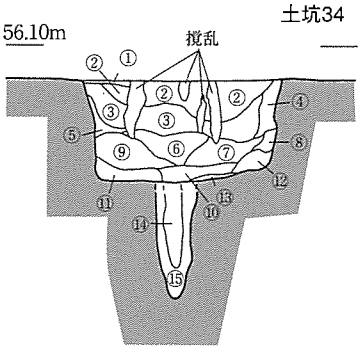


①にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土小ブロック多量混）
②明黄褐色粘質土（褐色土小ブロック少量混）
③オリーブ褐色粘質土（明黄褐色土小ブロック混）
④明黄褐色粘質土（褐色土粒少量混）
⑤明黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック混）
⑥暗橙褐色粘質土

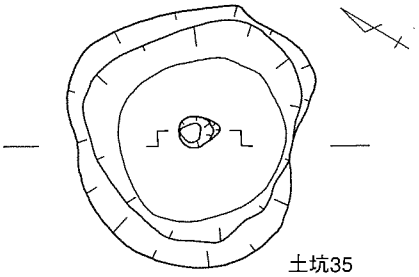


土坑34

56.10m

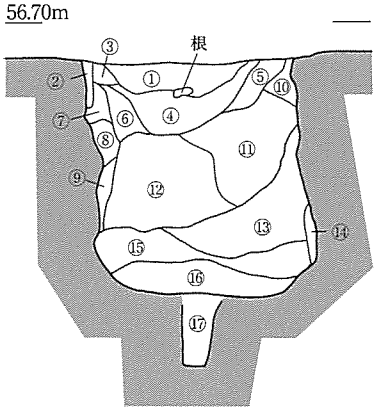


①灰色粘質土（橙色土大粒少量混）
②暗褐色粘質土（黒褐色土小ブロック少量混）
③褐色粘質土（橙色・黒褐色土小ブロック混）
④褐色粘質土（黄褐色土小粒多量混）
⑤にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土小粒多量混）
⑥褐色粘質土（橙色・黒褐色土小ブロック少量混）
⑦褐色粘質土（灰黄褐色土ブロック多量混）
⑧褐色粘質土
⑨褐色粘質土（灰黄褐色土ブロック多量混）
⑩褐色粘質土（灰黄褐色土小ブロック少量混）
⑪黄褐色粘質土（灰黄褐色土小ブロック少量混）
⑫褐色粘質土（灰黄褐色・黄褐色土小ブロック少量混）
⑬黄褐色粘質土
⑭黄褐色粘質土
⑮褐色粘質土



土坑35

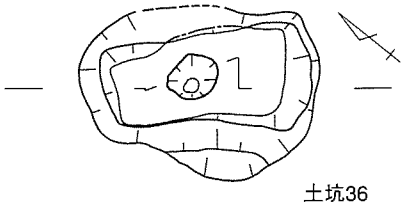
56.70m



①暗灰黄色粘質土（黄褐色土ブロック少量混）
②黄褐色粘質土
③黄褐色粘質土（明黄褐色土粒混）
④暗灰黄色粘質土（明黄褐色土小ブロック混）
⑤オリーブ褐色粘質土
⑥暗灰黄色粘質土（黄褐色土ブロック多量混）
⑦暗灰黄色粘質土（黄褐色土ブロック少量混）
⑧にぶい黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック多量混）
⑨暗灰黄色粘質土
⑩暗灰黄色粘質土
⑪黒褐色粘質土（にぶい黄色土小ブロック混）
⑫暗灰黄色粘質土（明黄褐色土小ブロック多量混）
⑬黒褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
⑭暗灰黄色粘質土（明黄褐色土小ブロック混）
⑮暗灰黄色粘質土
⑯黄褐色粘質土（灰オリーブ色土混）
⑰褐色粘質土

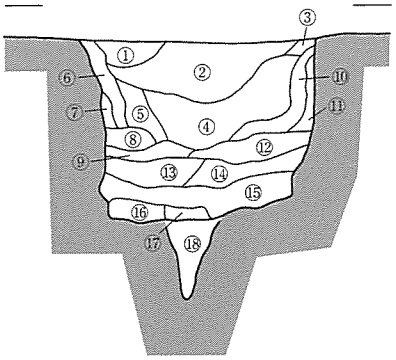
0　1:40　1m

図182　土坑32～35

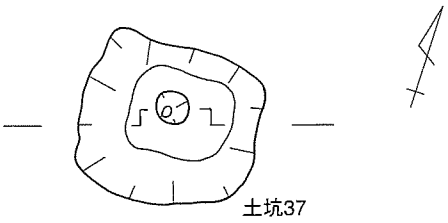


土坑36

56.90m

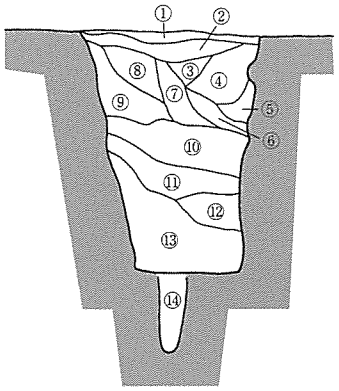


①黒色粘質土
②黒色粘質土（①層よりやや黒い）
③黒色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
④黒色粘質土（②層よりやや黒い）
⑤黒色粘質土（黄褐色土粒少量混、②層よりやや明るい）
⑥灰黄褐色粘質土（黄褐色土小粒多量混）
⑦黒褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑧黒色粘質土（黄褐色土粒少量混）
⑨オリーブ黒色粘質土（明黄褐色土粒混）
⑩黒色粘質土（明黄褐色土小粒少量混）
⑪暗オリーブ褐色粘質土（明黄褐色土小粒混）
⑫灰オリーブ色粘質土（黄褐色・暗褐色土小ブロック多量混）
⑬灰オリーブ色粘質土（黄褐色土小ブロック多量混）
⑭灰色粘質土（明黄褐色・オリーブ黒色土小ブロック多量混）
⑮明黄褐色粘質土（黄褐色土ブロック多量混）
⑯黄灰色粘質土
⑰黄灰色粘質土（黒褐色土小ブロック混）
⑱暗褐色粘質土（褐色・褐灰色土粒多量混）

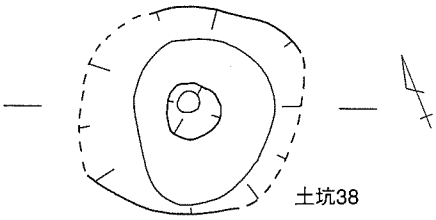


土坑37

57.10m

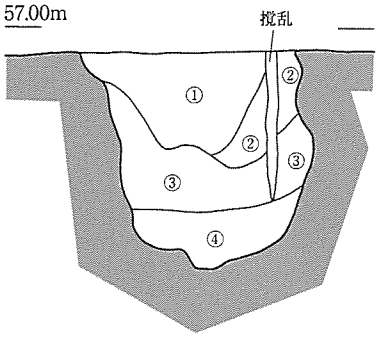


①暗褐色粘質土
②褐色粘質土
③暗褐色粘質土
④暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑤褐色粘質土（しまり悪い）
⑥褐色粘質土
⑦暗褐色粘質土（粘質土ブロック混）
⑧暗褐色粘質土
⑨褐色粘質土（粘質土ブロック混）
⑩褐色粘質土
⑪暗褐色粘質土
⑫暗褐色粘質土
⑬褐色粘質土（粘質土ブロック混）
⑭オリーブ褐色粘質土

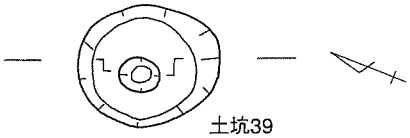


土坑38

57.00m

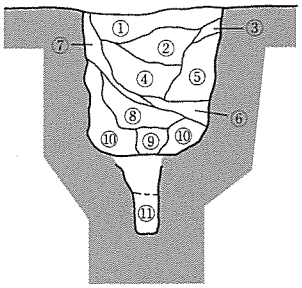


①暗褐色粘質土（黒褐色土粒極少量混）
②暗褐色粘質土（AT大粒少量混）
③褐色粘質土（AT小ブロック混）
④暗褐色粘質土（黄褐色土小ブロック少量混）



土坑39

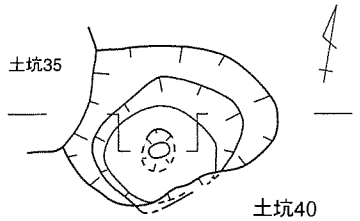
56.40m



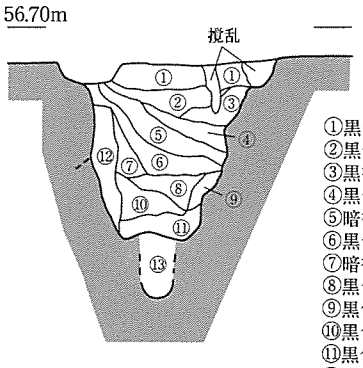
①黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
②黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
③黒色粘質土（地山土ブロック極少量混）
④黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑤黒色粘質土（地山土ブロック少量混、⑤層よりやや多い）
⑥黒色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑧黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑩黒色粘質土（地山土ブロック少量混、⑧層よりやや多い）
⑪黒褐色粘質土

0　1:40　1m

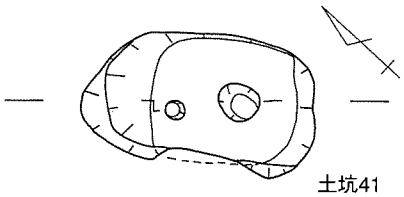
図183　土坑36～39



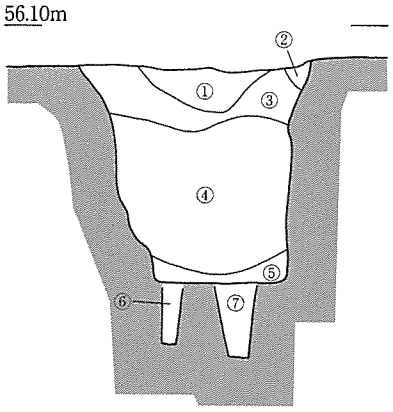
土坑40



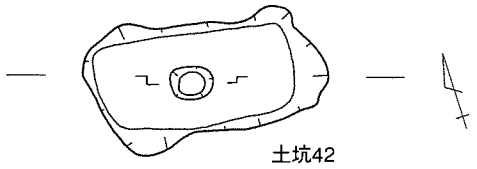
①黒色粘質土
②黒色粘質土
③黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
④黒色粘質土
⑤暗褐色粘質土
⑥黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑦暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑧黒色粘質土
⑨黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑩黒色粘質土（地山土ブロック混）
⑪黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑫壁体崩落土
⑬褐色粘質土



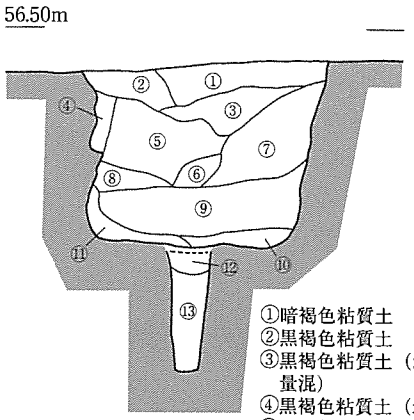
土坑41



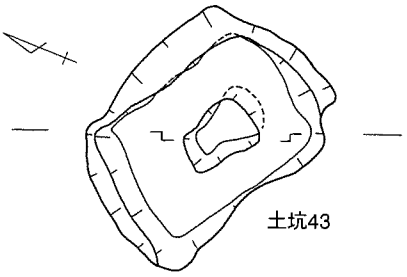
①極暗褐色粘質土
②極暗褐色粘質土
③黒褐色粘質土
④黒色粘質土（黄褐色土大粒少量混）
⑤極暗褐色粘質土
⑥暗褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑦黒褐色粘質土



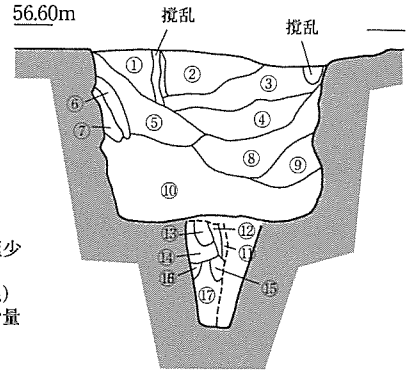
土坑42



①暗褐色粘質土
②黒褐色粘質土
③黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
④黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑤黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥黒褐色粘質土（粘性強い）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑧黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混、⑦層より粘性強い）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑩暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑪暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混、⑩層よりやや少ない）
⑫暗褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
⑬明褐色粘質土



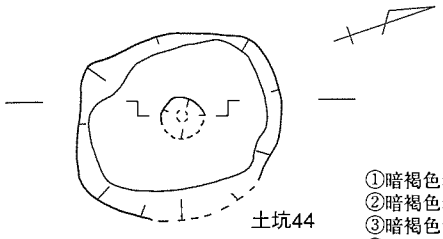
土坑43



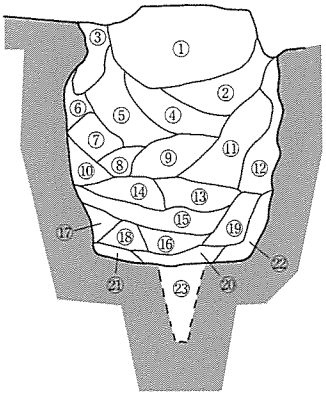
①黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
②黒褐色粘質土
③淡黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
④黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑤淡黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑦暗褐色粘質土（地山土ブロック混、６層よりやや暗い）
⑧黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑩黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑪褐色粘質土
⑫暗褐色粘質土
⑬褐色粘質土
⑭黒褐色粘質土
⑮暗褐色粘質土
⑯褐色粘質土
⑰にぶい褐色粘質土

0　1:40　1m

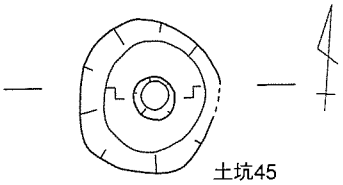
図184　土坑40～43



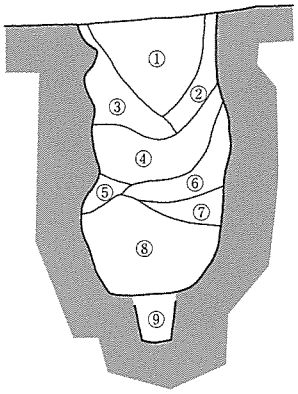
56.60m



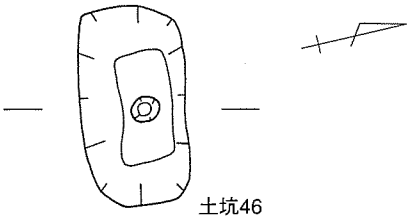
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（AT小粒少量混）
④黒褐色粘質土（褐色土ブロック少量混）
⑤暗褐色粘質土（褐色土小ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土（褐色土小粒混）
⑦褐色粘質土
⑧暗褐色粘質土（ATブロック混）
⑨暗褐色粘質土（AT小ブロック混）
⑩暗褐色粘質土（明褐色土小粒混）
⑪暗褐色粘質土（AT粒少量混）
⑫明褐色粘質土（暗褐色土小粒多量混）
⑬黒褐色粘質土（黒色土小粒少量混）
⑭暗褐色粘質土
⑮黒褐色粘質土
⑯暗褐色粘質土
⑰暗褐色粘質土（明褐色土小粒混）
⑱黒褐色粘質土
⑲暗褐色粘質土（にぶい黄褐色土小粒混）
⑳暗褐色粘質土
㉑褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
㉒暗褐色粘質土（褐色土小粒混）
㉓暗褐色粘質土



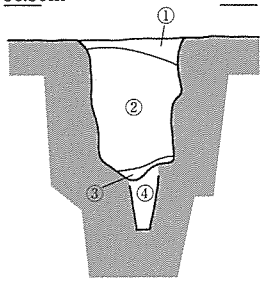
56.80m



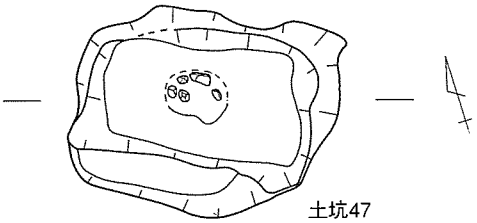
①黒色粘質土
②黒褐色粘質土
③黒褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
④黒色粘質土
⑤黒褐色粘質土
⑥暗褐色粘質土
⑦黒褐色粘質土
⑧褐色粘質土
⑨明褐色粘質土



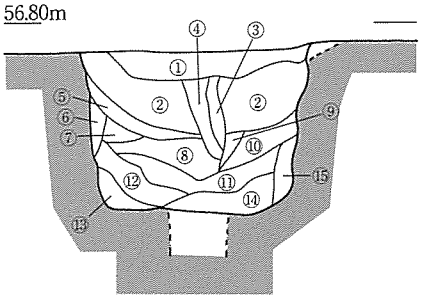
56.80m



①極暗褐色粘質土
②黒褐色粘質土
③極暗褐色粘質土
④暗褐色粘質土



56.80m



①黒褐色粘質土（暗褐色土粒混、地山土ブロック・炭極少量混）
②淡黒褐色粘質土（暗褐色土粒混、地山土ブロック・炭極少量混）
③暗褐色粘質土（黒褐色土粒少量混、地山土ブロック・炭極少量混）
④黒褐色粘質土（暗褐色土粒・地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑤暗褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑥黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑧黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑩黒褐色粘質土（地山土ブロック極多量混）
⑪黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑫黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑬淡黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑭淡黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑮淡黒褐色粘質土（地山土ブロック混）

0　1:40　1m

図185　土坑44～47

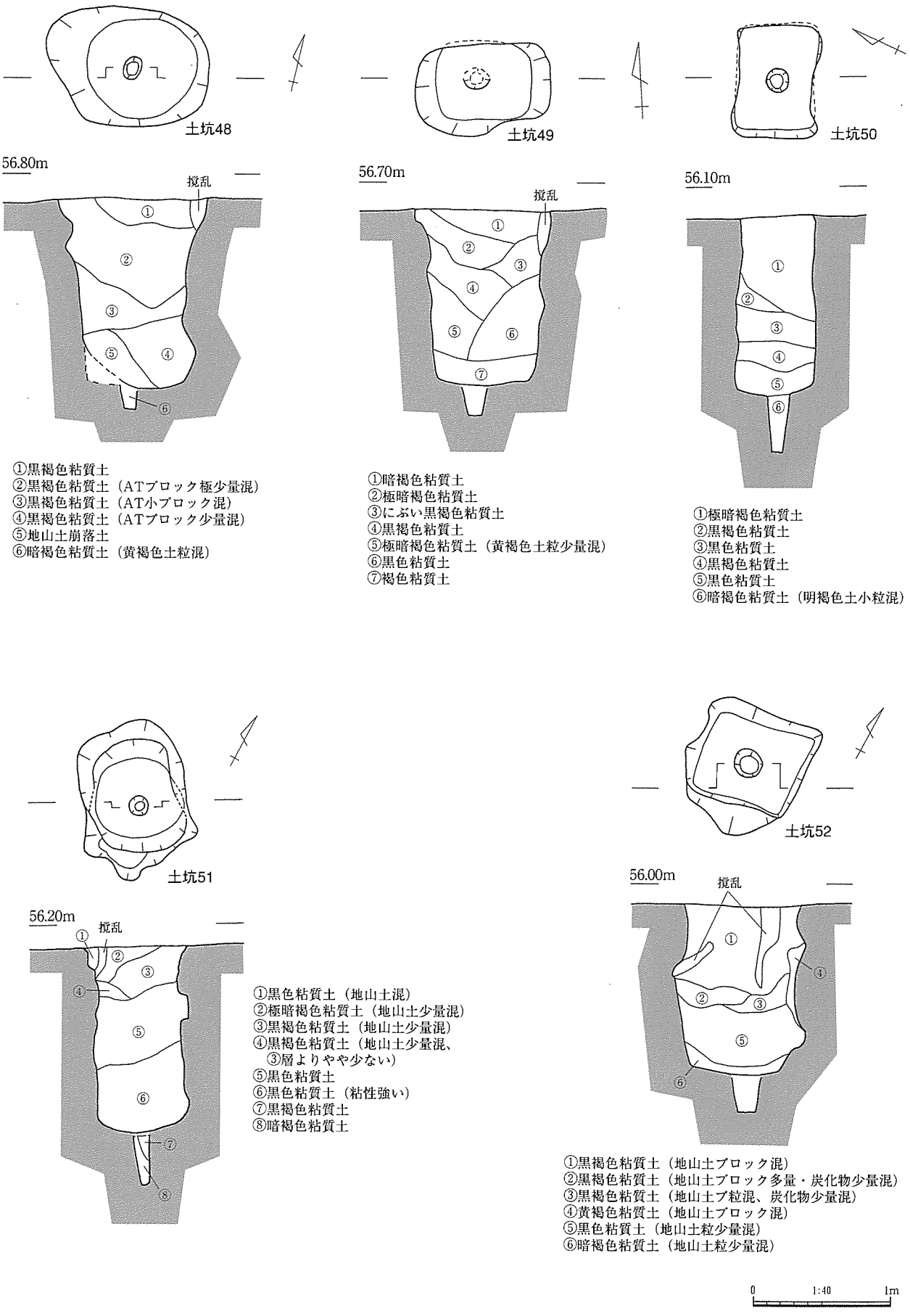
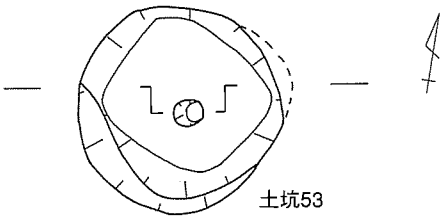
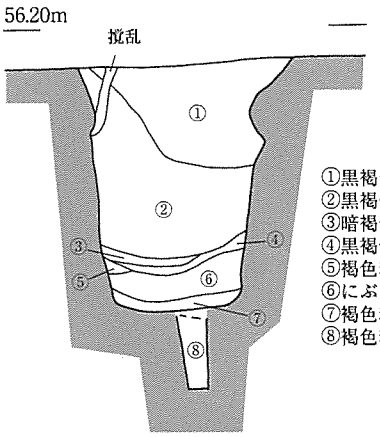
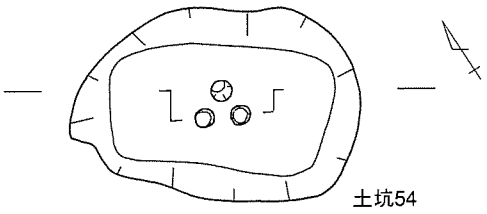

土坑48
56.80m
撹乱
①
②
③
④
⑤
⑥
①黒褐色粘質土
②黒褐色粘質土（ATブロック極少量混）
③黒褐色粘質土（AT小ブロック混）
④黒褐色粘質土（ATブロック少量混）
⑤地山土崩落土
⑥暗褐色粘質土（黄褐色土粒混）
土坑49
56.70m
撹乱
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
①暗褐色粘質土
②極暗褐色粘質土
③にぶい黒褐色粘質土
④黒褐色粘質土
⑤極暗褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
⑥黒色粘質土
⑦褐色粘質土
土坑50
56.10m
①
②
③
④
⑤
⑥
①極暗褐色粘質土
②黒褐色粘質土
③黒色粘質土
④黒褐色粘質土
⑤黒色粘質土
⑥暗褐色粘質土（明褐色土小粒混）
土坑51
56.20m
撹乱
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
①黒色粘質土（地山土混）
②極暗褐色粘質土（地山土少量混）
③黒褐色粘質土（地山土少量混）
④黒褐色粘質土（地山土少量混、
③層よりやや少ない）
⑤黒色粘質土
⑥黒色粘質土（粘性強い）
⑦黒褐色粘質土
⑧暗褐色粘質土
土坑52
56.00m
撹乱
①
②
③
④
⑤
⑥
①黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
②黒褐色粘質土（地山土ブロック多量・炭化物少量混）
③黒褐色粘質土（地山土ブ粒混、炭化物少量混）
④黄褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑤黒色粘質土（地山土粒少量混）
⑥暗褐色粘質土（地山土粒少量混）
0
1:40
1m

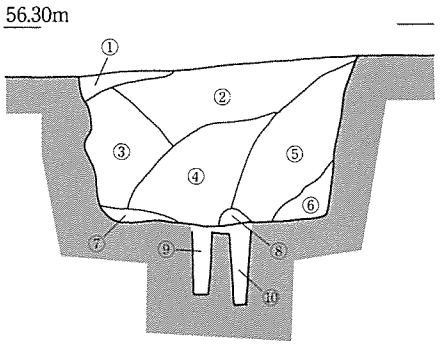
図186　土坑48～52



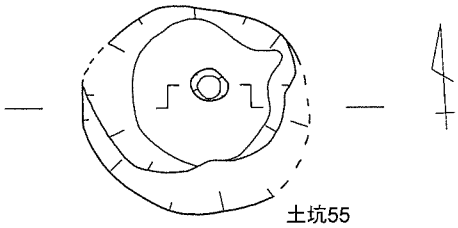


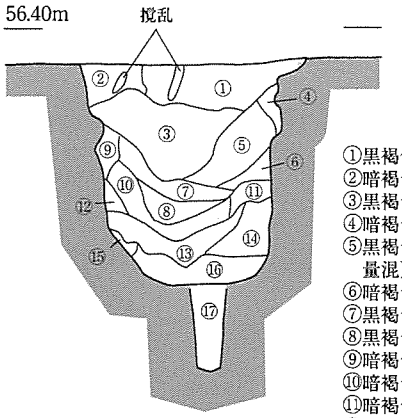
①黒褐色粘質土（地山土ブロック混、炭化物少量混）
②黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭化物少量混）
③暗褐色粘質土
④黒褐色粘質土
⑤褐色粘質土
⑥にぶい黄褐色粘質土
⑦褐色粘質土
⑧褐色粘質土（黄褐色土粒混）



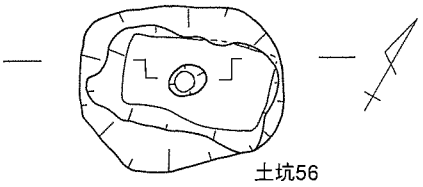


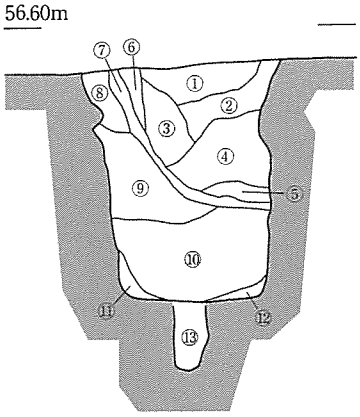
①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量混）
③黒褐色粘質土（淡黒褐色土ブロック混）
④暗褐色粘質土
⑤極暗褐色粘質土
⑥黒褐色粘質土
⑦暗褐色粘質土
⑧地山土〔崩落土〕
⑨暗褐色粘質土
⑩暗褐色粘質土





①黒褐色粘質土（AT小ブロック極少量混）
②暗褐色粘質土（褐色土ブロック混）
③黒褐色粘質土（黒色土小粒少量混）
④暗褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑤黒褐色粘質土（黒色土小粒・AT小ブロック極少量混）
⑥暗褐色粘質土（黄褐色土小ブロック極少量混）
⑦黒褐色粘質土
⑧黒褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
⑨暗褐色粘質土（黄褐色土小粒極少量混）
⑩暗褐色粘質土（黄褐色土ブロック多量混）
⑪暗褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑫暗褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
⑬黒褐色粘質土
⑭黒褐色粘質土（黄褐色土大粒多量混）
⑮褐色粘質土
⑯黒褐色粘質土
⑰暗褐色粘質土

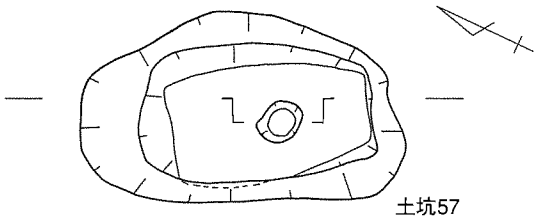


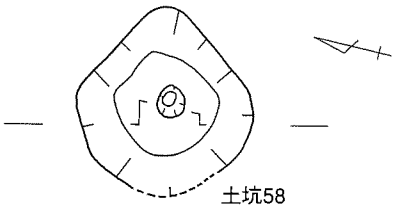


①黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
②黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
③黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混、粘性強い）
④黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑤黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥極暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑧極暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混、しまり悪い）
⑩黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混、しまり悪い）
⑪黒褐色粘質土（地山土ブロック多量混、しまり非常に悪い）
⑫黒褐色粘質土（地山土ブロック多量混、しまり非常に悪い）
⑬黒色粘質土

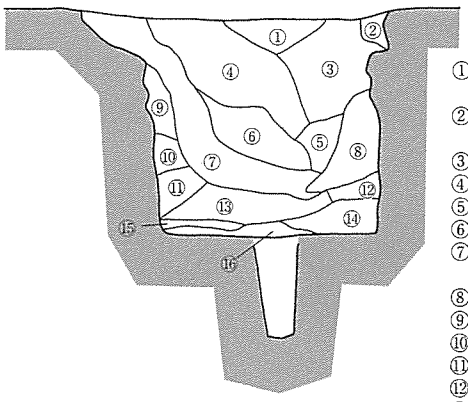
0　1:40　1m

図187　土坑53～56



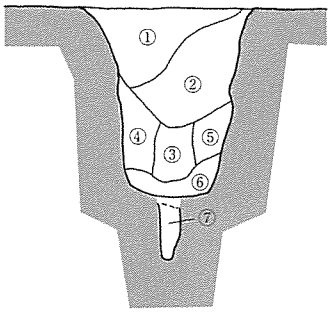


56.50m

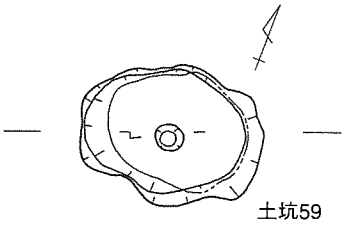


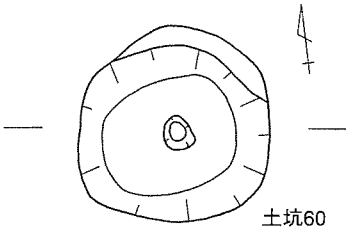
①黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量・炭少量混）
②暗褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
③黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
④黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑤黒褐色粘質土（地山土ブロック極多量混）
⑥黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混、⑥層よりやや多い）
⑧黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑩黒褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑪暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑫黒褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑬黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑭極暗褐色粘質土（地山土ブロック・礫混）
⑮褐色粘質土
⑯暗褐色粘質土（地山土ブロック混）

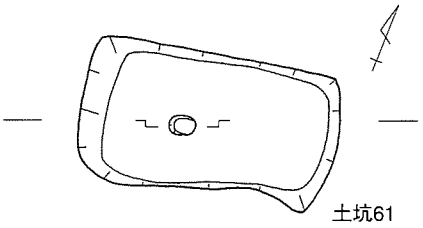
56.60m



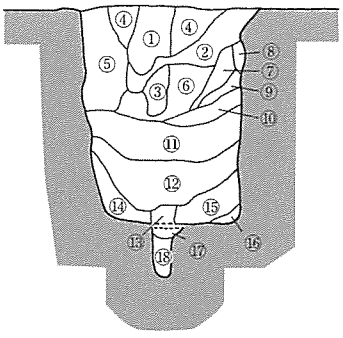
①暗褐色粘質土（炭混）
②暗オリーブ褐色粘質土（炭極少量混）
③暗褐色粘質土
④暗褐色粘質土（③層より黒い）
⑤暗褐色粘質土（③層より黒い）
⑥褐色粘質土
⑦暗褐色粘質土（明褐色土小粒多量混）





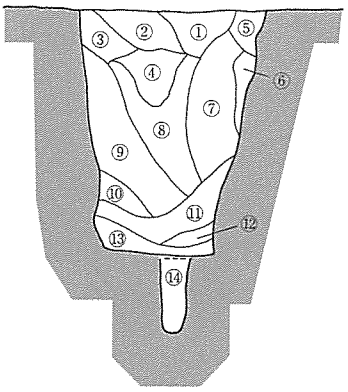


56.60m



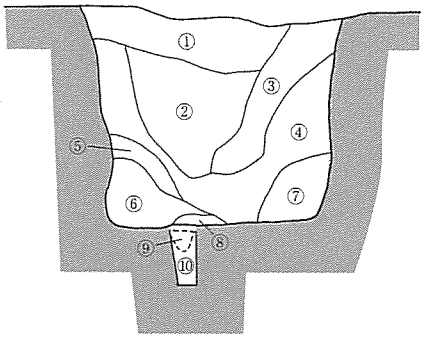
①暗褐色粘質土
②黒褐色粘質土（黒色土ブロック混）
③暗褐色粘質土
④黒褐色粘質土
⑤黒色粘質土
⑥黒褐色粘質土（黄褐色土小ブロック少量混）
⑦黒褐色粘質土
⑧暗オリーブ褐色粘質土（明黄褐色土小粒混）
⑨黒褐色粘質土
⑩黒褐色粘質土（黄褐色土粒混）
⑪黒色粘質土
⑫黒色粘質土
⑬黒褐色粘質土
⑭黒褐色粘質土（黄褐色土粒多量混）
⑮黒褐色粘質土
⑯暗褐色粘質土（にぶい褐色土小粒多量混）
⑰黒色粘質土
⑱暗褐色粘質土（褐色土小粒混）

56.60m



①黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭極少量混）
②暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭極少量混）
③黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
④黒褐色粘質土（地山土ブロック混、炭極少量混）
⑤黒褐色粘質土（地山土ブロック多量混、炭極少量混）
⑥黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭極少量混）
⑦淡黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑧黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑩黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑪黒褐色粘質土（地山土ブロック・細礫少量混）
⑫黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑬黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑭黒褐色粘質土（褐色土小粒混）

56.70m



①黒褐色粘質土
②黒褐色粘質土（黄褐色土小ブロック極少量混）
③黒褐色粘質土（黄褐色土小ブロック極少量混、②層よりやや黒い）
④黒褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
⑤黒褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑥暗褐色粘質土
⑦黒褐色粘質土
⑧暗褐色粘質土
⑨暗褐色粘質土
⑩明褐色粘質土

0　1:40　1m

図188　土坑57～61

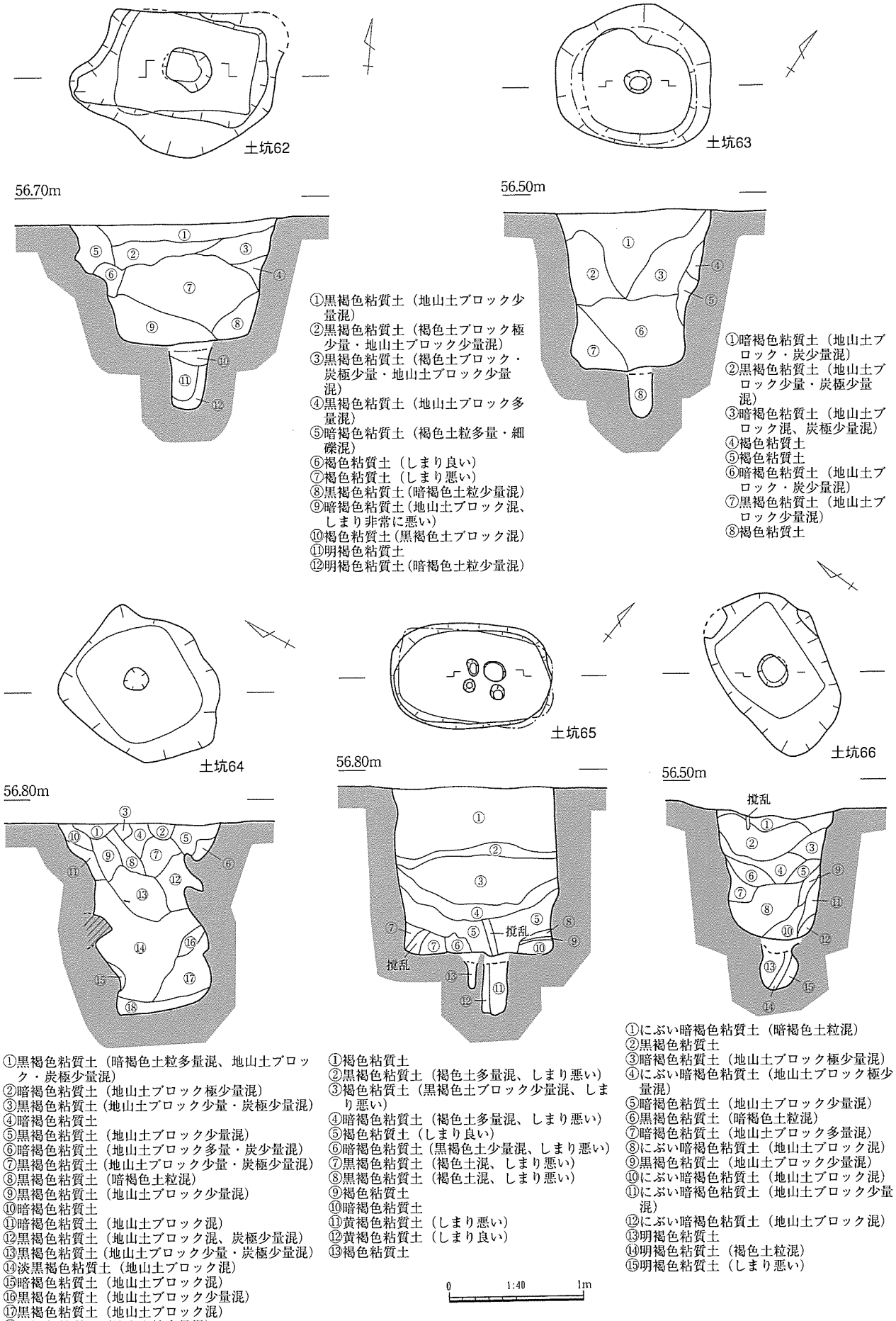
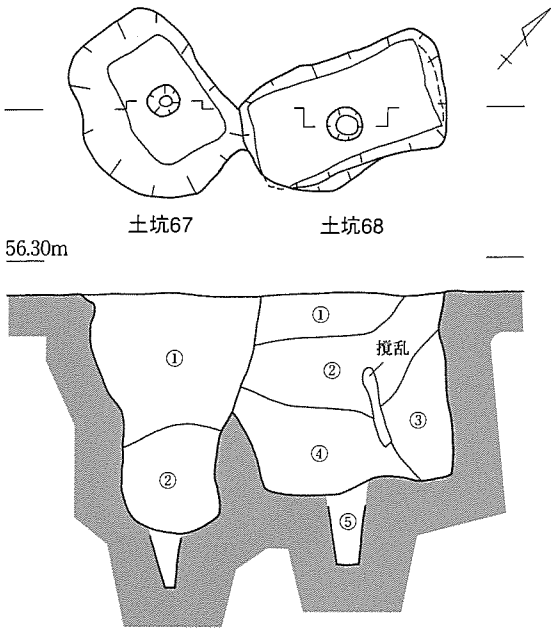
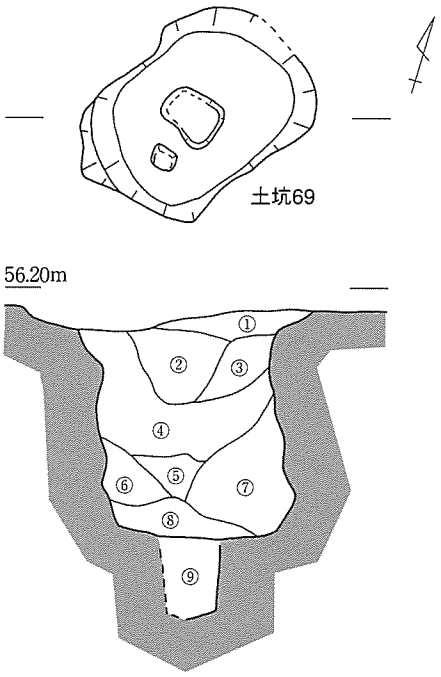

土坑62
56.70m
①黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
②黒褐色粘質土（褐色土ブロック極少量・地山土ブロック少量混）
③黒褐色粘質土（褐色土ブロック・炭極少量・地山土ブロック少量混）
④黒褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑤暗褐色粘質土（褐色土粒多量・細礫混）
⑥褐色粘質土（しまり良い）
⑦褐色粘質土（しまり悪い）
⑧黒褐色粘質土（暗褐色土粒少量混）
⑨暗褐色粘質土（地山土ブロック混、しまり非常に悪い）
⑩褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
⑪明褐色粘質土
⑫明褐色粘質土（暗褐色土粒少量混）
土坑63
56.50m
①暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
②黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
③暗褐色粘質土（地山土ブロック混、炭極少量混）
④褐色粘質土
⑤褐色粘質土
⑥暗褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑧褐色粘質土
土坑64
56.80m
①黒褐色粘質土（暗褐色土粒多量混、地山土ブロック・炭極少量混）
②暗褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
③黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
④暗褐色粘質土
⑤黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土（地山土ブロック多量・炭少量混）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑧黒褐色粘質土（暗褐色土粒混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑩暗褐色粘質土
⑪暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑫黒褐色粘質土（地山土ブロック混、炭極少量混）
⑬黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑭淡黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑮暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑯黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑰黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑱黒褐色粘質土（地山土粒少量混）
土坑65
56.80m
撹乱
①褐色粘質土
②黒褐色粘質土（褐色土多量混、しまり悪い）
③褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量混、しまり悪い）
④暗褐色粘質土（褐色土多量混、しまり悪い）
⑤褐色粘質土（しまり良い）
⑥暗褐色粘質土（黒褐色土少量混、しまり悪い）
⑦黒褐色粘質土（褐色土混、しまり悪い）
⑧黒褐色粘質土（褐色土混、しまり悪い）
⑨褐色粘質土
⑩暗褐色粘質土
⑪黄褐色粘質土（しまり悪い）
⑫黄褐色粘質土（しまり良い）
⑬褐色粘質土
土坑66
56.50m
撹乱
①にぶい暗褐色粘質土（暗褐色土粒混）
②黒褐色粘質土
③暗褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
④にぶい暗褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑤暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥黒褐色粘質土（暗褐色土粒混）
⑦暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑧にぶい暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑨黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑩にぶい暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑪にぶい暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑫にぶい暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑬明褐色粘質土
⑭明褐色粘質土（褐色土粒混）
⑮明褐色粘質土（しまり悪い）
0
1:40
1m

図189　土坑62～66

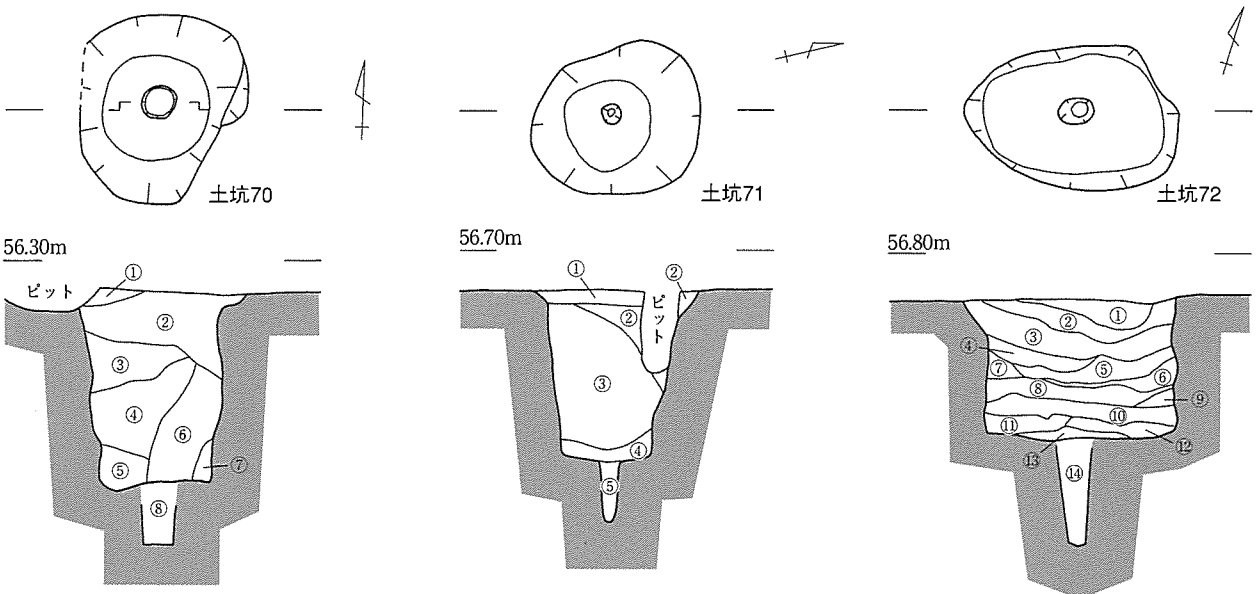


①黒褐色粘質土
②黒色粘質土

①暗褐色粘質土
②極暗褐色粘質土
③黒褐色粘質土
④極暗褐色粘質土
⑤黄褐色粘質土



①暗褐色粘質土（褐色土小ブロック混）
②褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
③暗褐色粘質土
④暗褐色粘質土（褐色土小ブロック多量混）
⑤暗褐色粘質土（褐色土ブロック多量混）
⑥にぶい黄褐色粘質土
⑦黒褐色粘質土
⑧明褐色粘質土
⑨明褐色粘質土（褐色土小粒混）



①褐色粘質土
②褐色粘質土（にぶい黄褐色土大粒混）
③暗褐色粘質土
④暗褐色粘質土（黄褐色土大粒少量混）
⑤褐色粘質土
⑥暗褐色粘質土
⑦褐色粘質土
⑧褐色粘質土

①暗褐色粘質土（明褐色土小粒混）
②暗褐色粘質土（褐色土小粒混）
③暗褐色粘質土（AT小粒混）
④褐色粘質土（明褐色土小粒多量混）
⑤暗褐色粘質土

①黄褐色粘質土（褐色土粒・炭少量混）
②黄褐色粘質土（褐色土大粒・炭混）
③黒褐色粘質土（AT粒多量・炭少量混）
④黒褐色粘質土（AT粒少量混）
⑤褐色粘質土（黄褐色土ブロック・AT小ブロック混）
⑥黒褐色粘質土（炭少量混）
⑦褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑧黄褐色粘質土（黒褐色土ブロック多量混）
⑨黒褐色粘質土（黄褐色土大粒多量混）
⑩黒褐色粘質土（AT小ブロック多量混）
⑪暗褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
⑫黒褐色粘質土（AT大粒多量混）
⑬明褐色粘質土（AT粒少量混）
⑭明褐色粘質土（褐色土小粒混）

0　1:40　1m

図190　土坑67～72

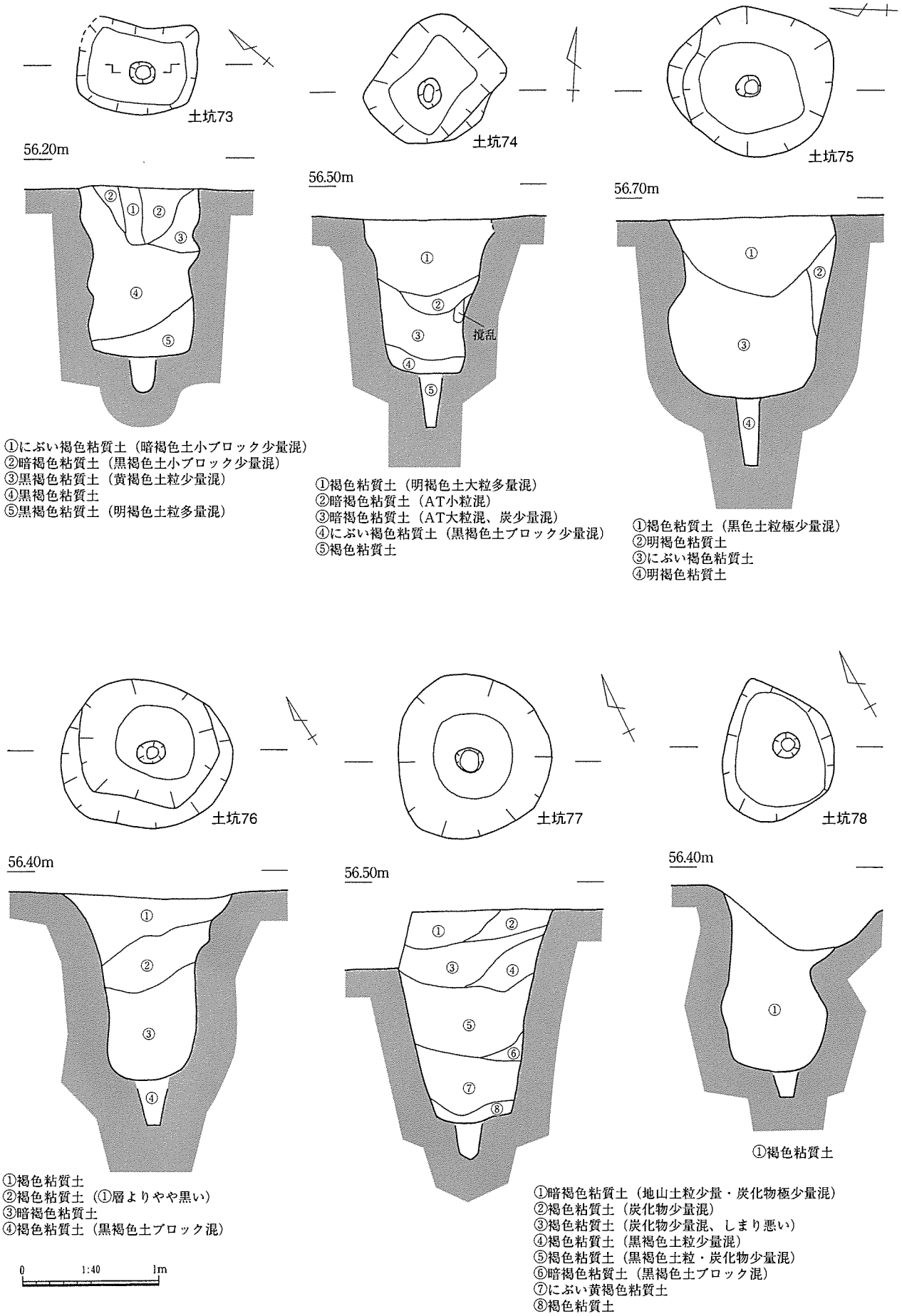

土坑73
56.20m
①にぶい褐色粘質土（暗褐色土小ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（黒褐色土小ブロック少量混）
③黒褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
④黒褐色粘質土
⑤黒褐色粘質土（明褐色土粒多量混）
土坑74
56.50m
撹乱
①褐色粘質土（明褐色土大粒多量混）
②暗褐色粘質土（AT小粒混）
③暗褐色粘質土（AT大粒混、炭少量混）
④にぶい褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量混）
⑤褐色粘質土
土坑75
56.70m
①褐色粘質土（黒色土粒極少量混）
②明褐色粘質土
③にぶい褐色粘質土
④明褐色粘質土
土坑76
56.40m
①褐色粘質土
②褐色粘質土（①層よりやや黒い）
③暗褐色粘質土
④褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
土坑77
56.50m
①暗褐色粘質土（地山土粒少量・炭化物極少量混）
②褐色粘質土（炭化物少量混）
③褐色粘質土（炭化物少量混、しまり悪い）
④褐色粘質土（黒褐色土粒少量混）
⑤褐色粘質土（黒褐色土粒・炭化物少量混）
⑥暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
⑦にぶい黄褐色粘質土
⑧褐色粘質土
土坑78
56.40m
①褐色粘質土
0　1:40　1m

図191　土坑73～78

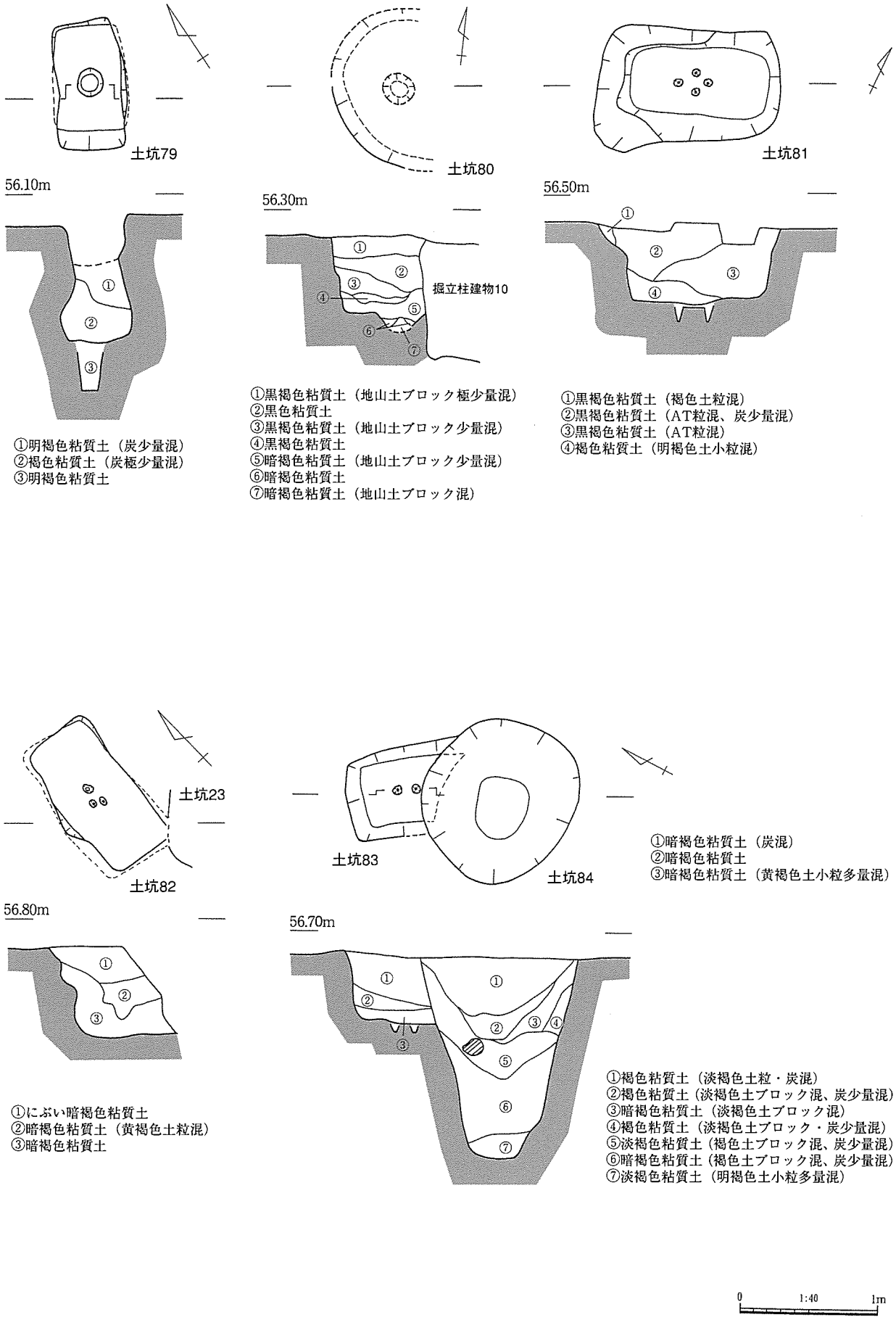
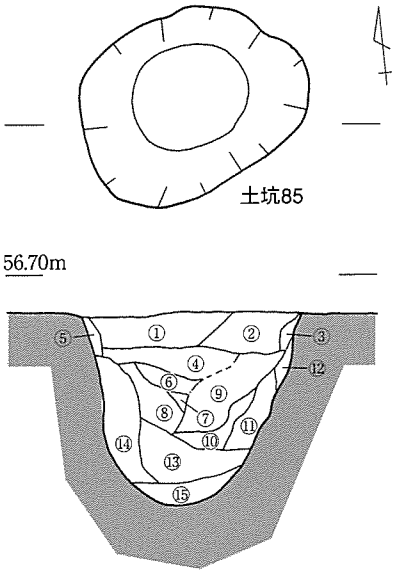
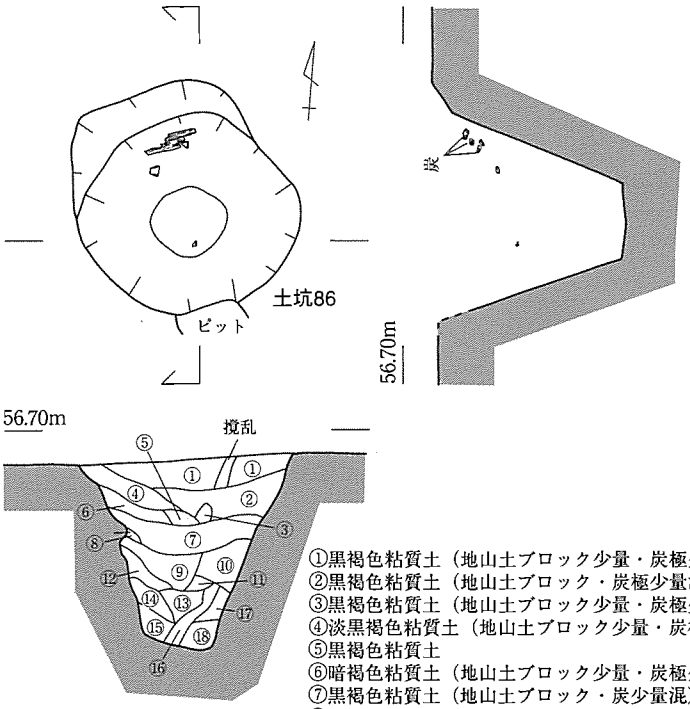

土坑79
56.10m
①明褐色粘質土（炭少量混）
②褐色粘質土（炭極少量混）
③明褐色粘質土
土坑80
56.30m
掘立柱建物10
①黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
②黒色粘質土
③黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
④黒褐色粘質土
⑤暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土
⑦暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
土坑81
56.50m
①黒褐色粘質土（褐色土粒混）
②黒褐色粘質土（AT粒混、炭少量混）
③黒褐色粘質土（AT粒混）
④褐色粘質土（明褐色土小粒混）
土坑23
土坑82
56.80m
①にぶい暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（黄褐色土粒混）
③暗褐色粘質土
土坑83
土坑84
①暗褐色粘質土（炭混）
②暗褐色粘質土
③暗褐色粘質土（黄褐色土小粒多量混）
56.70m
①褐色粘質土（淡褐色土粒・炭混）
②褐色粘質土（淡褐色土ブロック混、炭少量混）
③暗褐色粘質土（淡褐色土ブロック混）
④褐色粘質土（淡褐色土ブロック・炭少量混）
⑤淡褐色粘質土（褐色土ブロック混、炭少量混）
⑥暗褐色粘質土（褐色土ブロック混、炭少量混）
⑦淡褐色粘質土（明褐色土小粒多量混）
0
1:40
1m

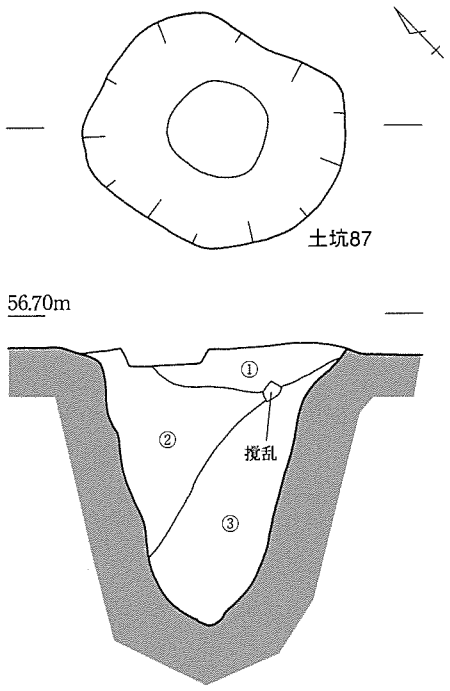
図192　土坑79～84



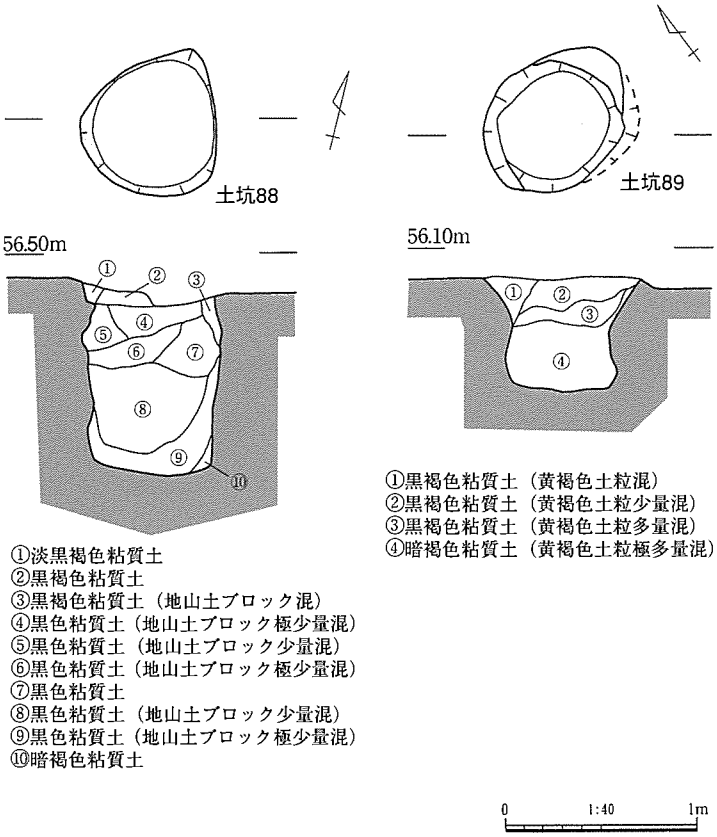
①褐色粘質土
②暗褐色粘質土
③褐色粘質土
④褐色粘質土
⑤明褐色粘質土
⑥暗褐色粘質土
⑦暗褐色粘質土
⑧褐色粘質土
⑨暗褐色粘質土
⑩暗褐色粘質土
⑪褐色粘質土
⑫明褐色粘質土
⑬暗褐色粘質土
⑭褐色粘質土
⑮褐色粘質土（灰色・地山土ブロック混）



①黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
②黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭極少量混）
③黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
④淡黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑤黒褐色粘質土
⑥暗褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑦黒褐色粘質土（地山土ブロック・炭少量混）
⑧暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑨淡黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑩黒褐色粘質土（地山土ブロック少量・炭極少量混）
⑪黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑫黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑬黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑭黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑮黒褐色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑯暗褐色粘質土（褐色土粒混）
⑰黒褐色粘質土（褐色土粒混、粘性強い）
⑱黒褐色粘質土



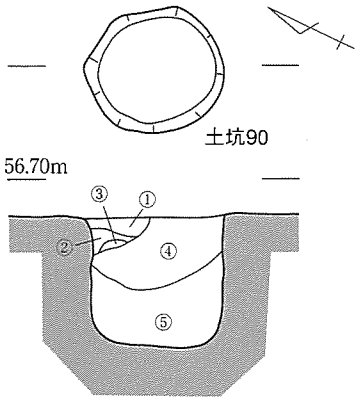
①褐色粘質土
②褐色粘質土（①層よりやや暗い）
③淡褐色粘質土



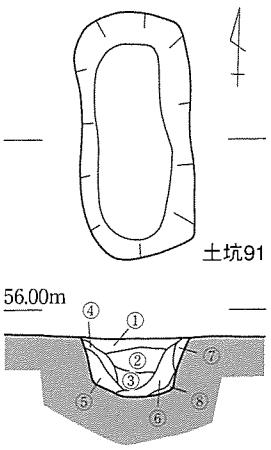
①淡黒褐色粘質土
②黒褐色粘質土
③黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
④黒色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑤黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑥黒色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑦黒色粘質土
⑧黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑨黒色粘質土（地山土ブロック極少量混）
⑩暗褐色粘質土

①黒褐色粘質土（黄褐色土粒混）
②黒褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
③黒褐色粘質土（黄褐色土粒多量混）
④暗褐色粘質土（黄褐色土粒極多量混）

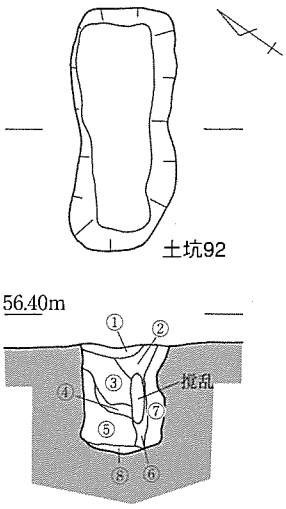
図193　土坑85～89



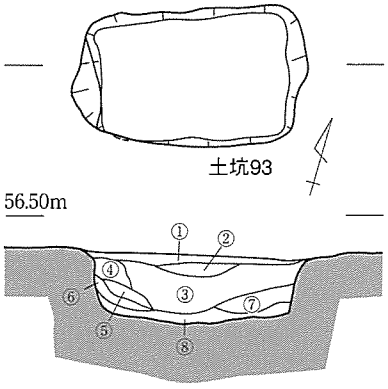
①黒褐色粘質土
②黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
④黒色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑤黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）



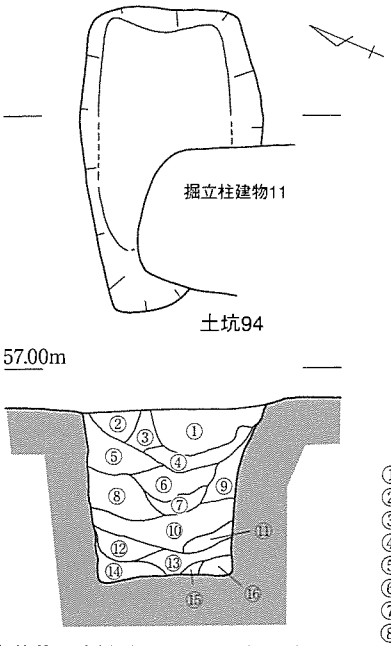
①暗褐色粘質土
②にぶい暗褐色粘質土
③黒褐色粘質土
④褐色粘質土
⑤褐色粘質土
⑥黒褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑦黒褐色粘質土
⑧褐色粘質土



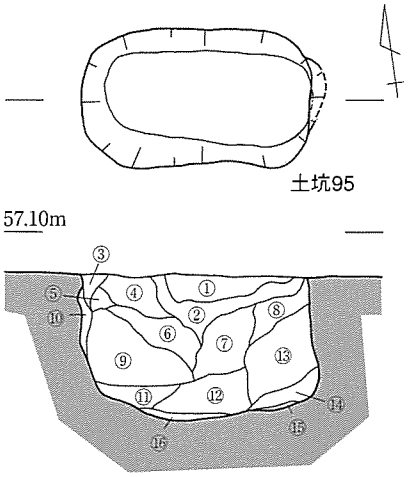
①黒褐色粘質土
②オリーブ褐色粘質土（黒褐色・黄褐色土粒少量混）
③黒褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
④暗褐色粘質土（黄褐色土小ブロック混）
⑤黒褐色粘質土
⑥黒褐色粘質土（⑤層よりやや淡い）
⑦褐色粘質土（暗褐色土小ブロック混）
⑧褐色粘質土（褐灰色土粒多量混）



①黒褐色砂質土（粘質土ブロック混）
②黒色砂質土（粘質土ブロック・炭少量混）
③黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
④黒褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑤黒褐色砂質土（粘質土ブロック混）
⑥暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑦黒色粘質土（粘質土ブロック極少量混）
⑧暗褐色粘質土



①褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
②褐色粘質土（暗褐色土小ブロック混）
③褐色粘質土（暗褐色土小ブロック少量混）
④暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック多量混）
⑤黒褐色粘質土（暗褐色土小ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑦暗褐色粘質土（地山土ブロック混）
⑧黒褐色粘質土（暗褐色土小ブロック極少量混）
⑨暗褐色粘質土（黒褐色土小ブロック少量混）
⑩暗褐色粘質土（地山土ブロック多量混）
⑪黒褐色粘質土（暗褐色土小ブロック少量混）
⑫黒褐色粘質土（暗褐色土小ブロック少量混）
⑬暗褐色粘質土（黒褐色土小ブロック混）
⑭褐色粘質土（地山土大粒多量混）
⑮褐色粘質土（地山土大粒多量混）
⑯褐色粘質土（地山土小ブロック多量混）



①暗褐色粘質土
②暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック少量混）
③灰黄褐色粘質土（黄褐色土小粒混）
④黒褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
⑤淡黒褐色粘質土（黄褐色土小粒少量混）
⑥黒褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
⑦黒褐色粘質土（暗褐色土ブロック多量混）
⑧黒褐色粘質土（黄褐色土粒少量混）
⑨黒色粘質土（黄褐色土小ブロック少量混）
⑩暗灰黄色粘質土（黄褐色土小ブロック多量混）
⑪黒褐色粘質土
⑫黒褐色粘質土（黄褐色土小ブロック混）
⑬淡黒色粘質土
⑭黒色粘質土
⑮黄褐色粘質土（黄灰色土粒混）
⑯黄灰色粘質土（黄褐色土粒多量混）

0　1:40　1m

図194　土坑90～95

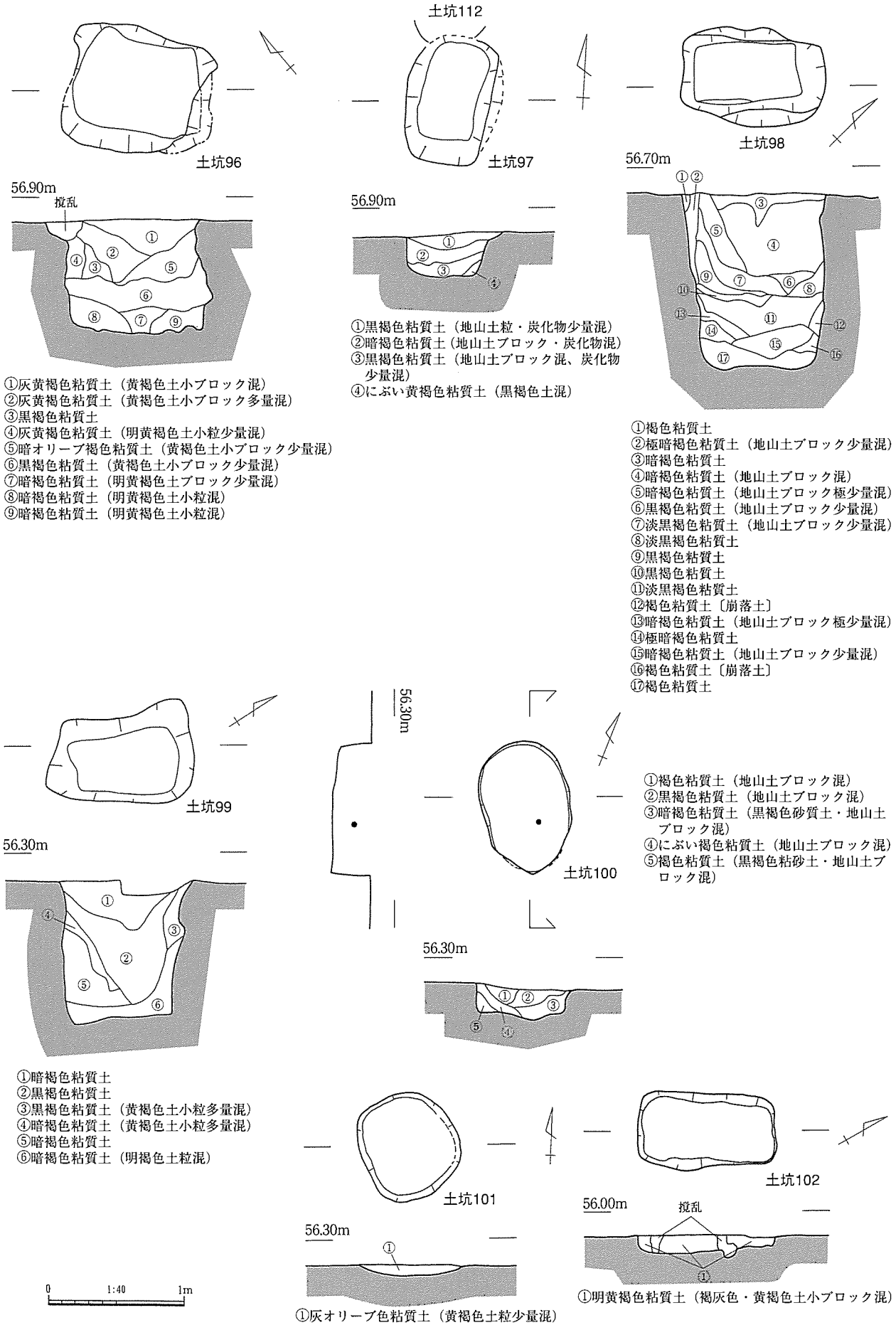


図195　土坑96～102

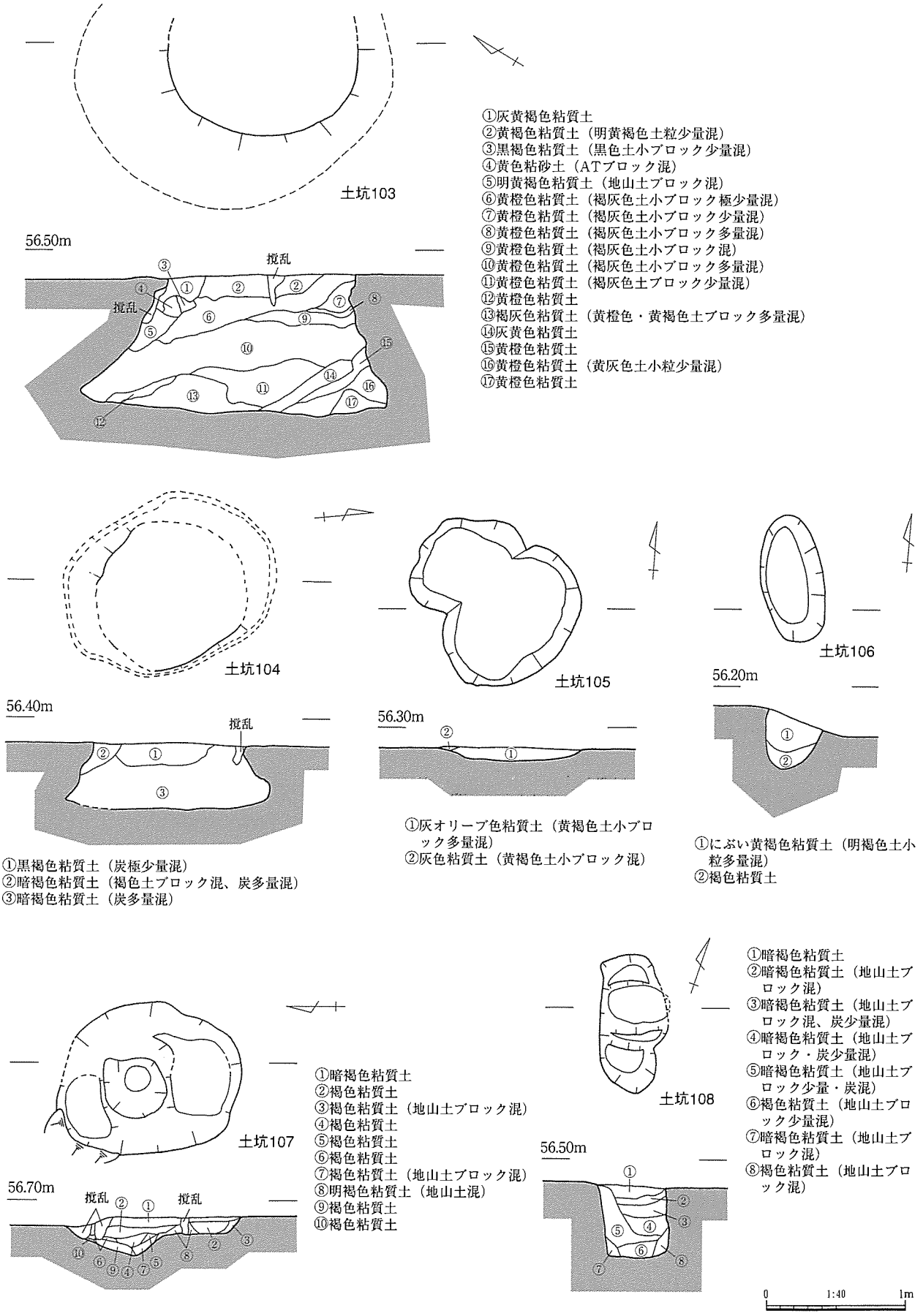
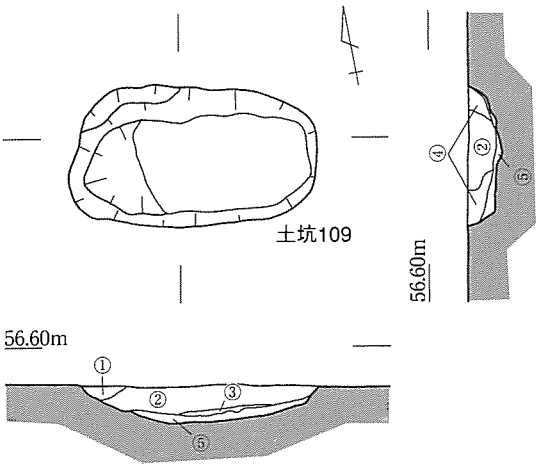
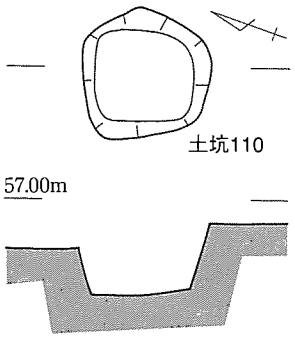
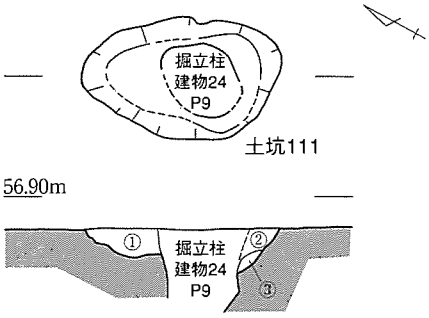


図196　土坑103～108

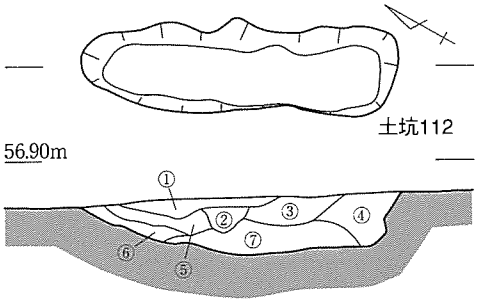


①褐色粘質土（地山土ブロック混）
②黒色粘質土（地山土ブロック混）
③黒色粘質土
④暗褐色粘質土（地山土ブロック少量混）
⑤黒褐色粘質土（地山土ブロック多量混）

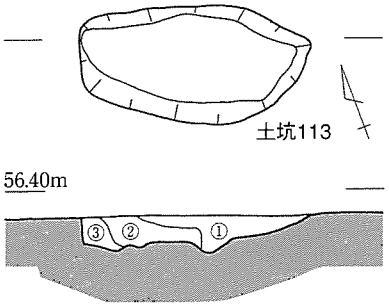




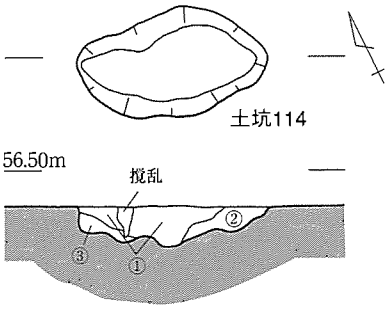
①褐灰色粘質土（黄橙色土小粒混）
②灰黄褐色粘質土（黄橙色土小粒混）
③褐灰色粘質土（黄橙色土小粒混）



①暗褐色粘質土（明黄褐色土粒少量混）
②暗褐色粘質土（明黄褐色土粒混）
③暗褐色粘質土（明黄褐色土粒混、②層よりやや淡い）
④黒褐色粘質土
⑤褐色粘質土（明黄褐色土小ブロック多量混）
⑥黒褐色粘質土（明黄褐色土小ブロック少量混）
⑦暗褐色粘質土（明黄褐色土小ブロック多量混）



①暗オリーブ褐色粘質土（明黄褐色土ブロック少量混）
②オリーブ褐色粘質土（黄褐色土ブロック多量混）
③オリーブ褐色粘質土



①黒色粘質土
②暗灰黄色粘質土（浅黄色土大粒少量混）
③暗灰黄色粘質土（浅黄色土小粒少量混）

0　1:40　1m

図197　土坑109～114

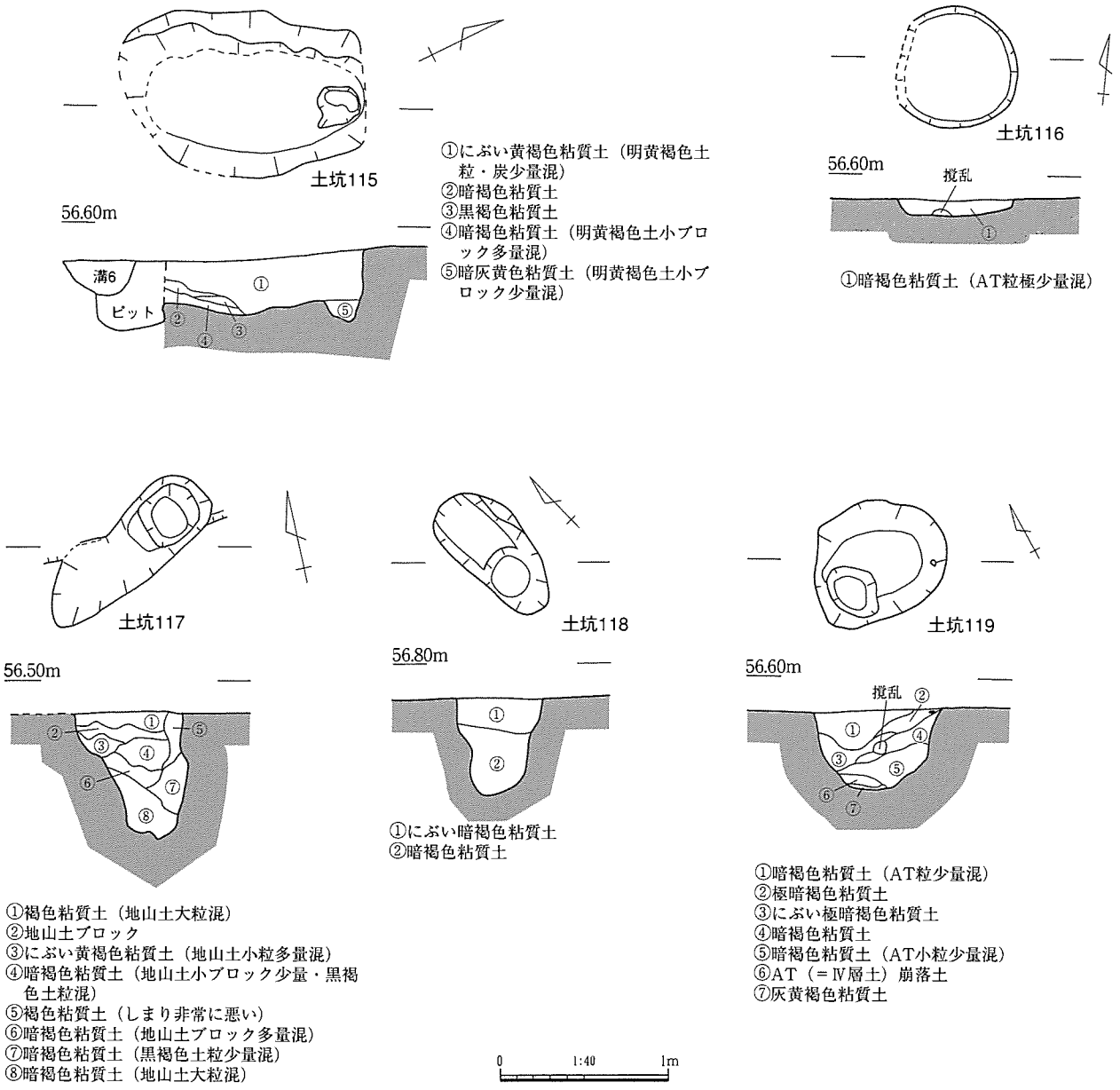


図198　土坑115～119

土坑26～119（図178～198　図版48）

調査地内からは遺物によって時期を明確にすることの出来ない土坑が数多く検出された。その総数は94基になるが、その中の多くは底面ピットが存在することから落し穴としての用途が推測されるものである。時期についても、前述したように出土した遺物は不明確なものは存在するが基本的に縄文時代の遺物と考えられるものであり、上部に遺構面が形成された弥生時代の遺物が認められないことから、集落が形成される弥生時代中期後葉以前には土坑の埋没が終了していたことが推測される。

土坑の分布には偏りがあり、座標の南北方向の８ライン内に集中する傾向が認められる。検出された土坑分布は累積の結果であって、同時期に何基の土坑が使用されていたのかは明確に出来ないが、尾根筋の中央部に当たる８ライン部分が土坑掘削に際して選択されていることが認められる。

底面ピットが存在する土坑には時期が判明するもの10基（１基は撹乱の可能性がある）、時期不明のものが54基存在する。これらの土坑は平面形および底面ピットの在り方で形態分類が可能である。平面形では方形（隅丸方形）・長方形（隅丸長方形）・円形・楕円形に分かれ、底面ピットは１つ存

在するもの・複数存在するものに分かれる。

方形ないし隅丸方形・・・・・・土坑〔16〕・30・35・37・44・52・53・58・60・64

長方形ないし隅丸長方形・・土坑〔15・17～20・21～23〕・34・36・40～43・46・47・49～51・54・56・57・61・62・66～69・73・74・79・81～83

円形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・土坑〔24〕・38・39・45・55・70・71・75～77・(80)

楕円形・・・・・・・・・・・・・・・・・・土坑〔25〕・31・(32)・33・59・65・(72)

底面ピットの数で分けるならば

底面ピット複数（径大きく深い）・・・・土坑41・54・65

底面ピット複数（径小さく浅い）・・・・土坑81～83

上記以外は底面ピットが１つのものであるが、そのなかには径が30cmを超える土坑43・(47)・62・69などがある。これらはピット内に複数の小杭を設置したことが推測されるものであり、分けて考えた方がよいものである。

出土遺物によって時期を判定した土坑のうち、底面ピットを持つ土坑は10基あるが、方形状・円形・楕円形各１基、残る７基は長方形状である（〔　〕内土坑は時期判明）。長方形状の土坑は64基中36基で、56％を占める。

土坑埋土は、黒色系・暗褐色系・褐色系の３つに大別される。黒色系が最も多く、暗褐色系、褐色

表６　土坑計測表

土坑番号	平面形	規模（長軸×短軸－深さ）	底面ピット規模（径－深さ）
土坑１	方形	118×104－16	－
土坑２	楕円形状	114×(70)以上－14	－
土坑３	不整な長楕円形	125×65－16	－
土坑４	不整な楕円形	116×64－31	－
土坑５	長方形	190×78－28	－
土坑６	不整形	165×120－36	－
土坑７	楕円形状	118×74－40	－
土坑８	不整方形	152×132－32	－
土坑９	不整形	80×71－26	－
土坑10	不整形	74×43－41	－
土坑11	円形	171×113－77	－
土坑12	円形	124×110－37	－
土坑13	不整形	65×52－32	－
土坑14	不整形	166×83－11	－
土坑15	隅丸長方形	123×83－74	22－43
土坑16	方形	97×94－134	19－27
土坑17	長方形	127×109－118	22－55
土坑18	隅丸長方形	121×101－98	28－39
土坑19	隅丸長方形	102×84－78	24－57
土坑20	長方形	96×66－85	27－40
土坑21	隅丸長方形	84×69－97	－
土坑22	隅丸長方形	145×105－117	41－42
土坑23	長方形	144×79－116	47－40
土坑24	円形	109×107－140	9－4
土坑25	楕円形	136×113－114	31－46
土坑26	円形	80×74－28	－
土坑27	楕円形状	70×48以上－8	－
土坑28	隅丸長方形	126×75－22	－
土坑29	長方形	103×73－88	－
土坑30	隅丸方形	78×61－127	22－27
土坑31	楕円形	110×78－88	24－43
土坑32	不整楕円形状	(126)×(82)－114	21－11
土坑33	楕円形	97×93－106	(30)　－42
土坑34	長方形	106×79－47	24－61
土坑35	隅丸方形	137×115－125	16－38
土坑36	長方形	125×80－97	28－42
土坑37	方形	93×84－128	18－42
土坑38	円形	131×113－110	30－5
土坑39	円形	74×64－78	21－42
土坑40	隅丸長方形	111×82－96	(16)　－31
土坑41	隅丸長方形	122×64－118	22－39
土坑42	長方形	120×57－99	23－66
土坑43	長方形	133×92－91	39－59
土坑44	隅丸方形	107×(98)－138	23－
土坑45	円形	83×75－149	23－25
土坑46	長方形	106×55－76	15－26
土坑47	長方形	136×105－92	(31)　－
土坑48	不整円形	106×86－139	17－15
土坑49	長方形	98×67－130	19－22
土坑50	長方形	83×53－132	18－42
土坑51	長方形	103×78－137	14－38
土坑52	方形	87×83－125	22－27
土坑53	隅丸方形	108×104－134	16－41
土坑54	隅丸長方形	152×100－90	11－43
土坑55	円形	120×110－121	20－46
土坑56	長方形	108×81－128	21－37
土坑57	長方形	133×100－120	25－53
土坑58	方形	86×85－100	17－34
土坑59	楕円形状	96×74－114	16－28
土坑60	隅丸方形	103×94－131	19－41
土坑61	長方形	136×75－118	14－32
土坑62	長方形	133×90－94	34－50
土坑63	隅丸方形	116×106－122	20－35
土坑64	方形	121×102－144	18－
土坑65	楕円形	118×78－126	17－43
土坑66	長方形	123×80－100	24－37
土坑67	長方形	99×73－127	17－28
土坑68	長方形	110×58－107	20－37
土坑69	隅丸長方形	116×81－120	31－44
土坑70	円形	102×81－112	19－25
土坑71	円形	94×77－91	11－33
土坑72	不整楕円形	113×77－76	19－55
土坑73	長方形	89×65－127	19－26
土坑74	長方形	97×77－116	23－40
土坑75	円形	113×110－136	19－51
土坑76	円形	128×109－140	21－34
土坑77	円形	121×114－159	20－28
土坑78	不整形	107×84－133	20－20
土坑79	長方形	96×49－94	20－35
土坑80	円形状	(70)－(55)	(22)－(13)
土坑81	長方形	132×83－60	7－14
土坑82	長方形	111×52－67	8－5
土坑83	長方形	(89)×65－53	7－7
土坑84	円形	119×108－147	－
土坑85	楕円形	122×94－103	－
土坑86	円形	118×105－104	－
土坑87	不整円形	133×110－150	－
土坑88	隅丸三角形	81×75－103	－
土坑89	円形	74×70－61	－
土坑90	円形	72×64－70	－
土坑91	隅丸長方形	131×60－32	－
土坑92	長方形	128×56－58	－
土坑93	長方形	123×74－40	－
土坑94	長方形	162×96－94	－
土坑95	隅丸長方形	122×74－78	－
土坑96	方形	95×90－85	－
土坑97	長方形	95×53－33	－
土坑98	長方形	108×73－132	－
土坑99	不整長方形	111×63－107	－
土坑100	楕円形	99×68－28	－
土坑101	隅丸方形	81×75－9	－
土坑102	長方形	102×58－14	－
土坑103	円形状	(137)×(67)以上－104	－
土坑104	円形	107×104－48	－
土坑105	不整形	127×110－10	－
土坑106	長楕円形	93×45－44	－
土坑107	楕円形	138×110－29	－
土坑108	不整形	101×49－54	－
土坑109	楕円形	130×74－20	－
土坑110	隅丸方形	69×65－38	－
土坑111	不整な楕円形	106×65－24	－
土坑112	長方形	169×47－33	－
土坑113	不整形	123×63－20	－
土坑114	不整形	101×58－21	－
土坑115	不整形	154×100－40	－
土坑116	円形	76×72－10	－
土坑117	不整形	118×41－88	－
土坑118	長楕円形	86×44－60	－
土坑119	楕円形状	87×71－47	－

規模単位：cm

系の順である。その分布には、黒色系埋土土坑は５ラインから８ラインの間の平坦中央部に集中、暗褐色系埋土土坑は８・９ラインの黒色系埋土土坑の西側部分、褐色系埋土土坑は平坦部の東西両端部付近という分布の特色が存在する。

底面ピットの存在しないものにも、土坑21のように縄文時代の遺構が存在している。同様の遺構には土坑84～99の16基がある。形態的には円形状の土坑84～90（土坑88は隅丸三角形）、長方形状の土坑91～99（土坑96は方形）となり、方形・楕円形の土坑が少ない傾向にある。この内、平面円形の土坑84～87は底部が窄まる断面形がロート状を呈するもので、縄文時代後・晩期と推測される土坑24と類似する。土坑91・93・97は深さが40cm以下で、他と比較して浅いため同列に扱って良いか検討が必要があるが、いずれにも自然堆積と推測される黒色系の堆積層が存在する。

土坑103・104は貯蔵穴と推測される袋状土坑である。土坑103は遺存状況が良く、検出面で径137cm、底面が径205cmを測るものである。土坑104は崩落のため形態を明確にし得ないがやはり袋状を呈する。どちらからも時期を判断できる遺物は出土していないが、土坑103は竪穴住居14に一部を切られるため古墳時代前期前葉を下限とする遺構である。他に袋状土坑と考えられるものには弥生時代後期中葉の土坑11が存在する。

（西川）

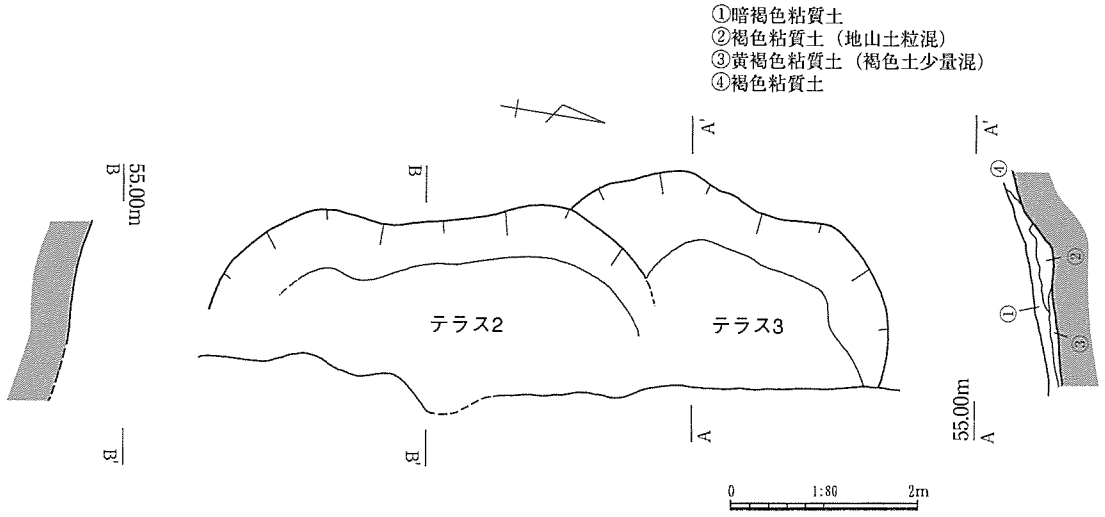


図199　テラス2・3

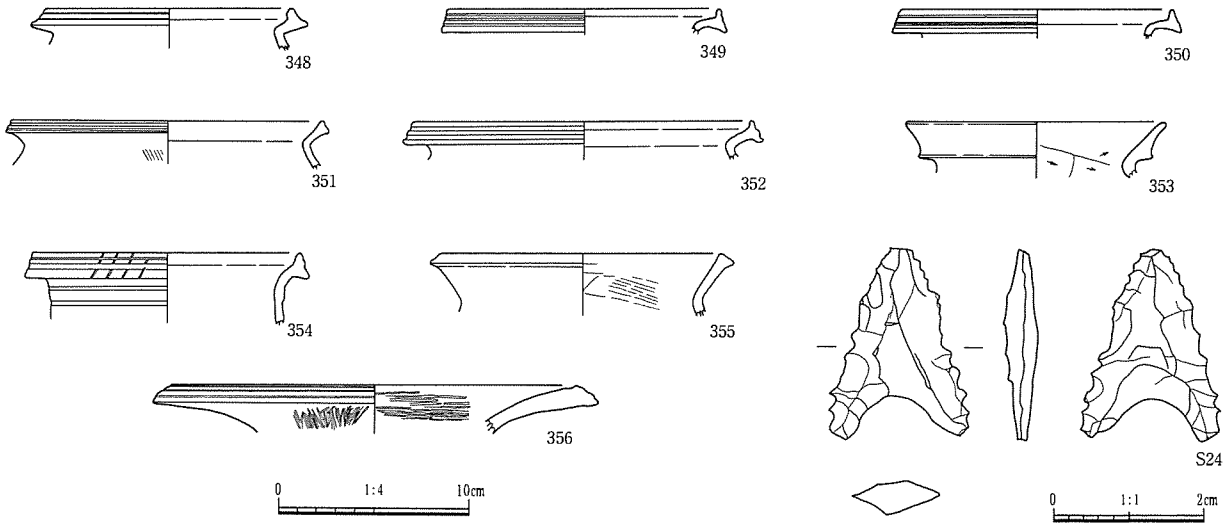


図200　テラス2・3出土遺物

テラス２・３（図199・200　図版49・68）

テラス２及びテラス３は調査地東端のＥ・Ｆ３グリッドにまたがって存在する。切り合いが存在するが、調査時点では１つの遺構として掘り下げを行ったため、切り合い関係の確認及び遺物の識別は出来なかった。

埋土中から出土した遺物の内、土器348～356、石器Ｓ24を図化した。348～352は弥生時代の甕。353は弥生時代から古墳時代にかけての時期の甕。354～356は弥生時代の壺である。Ｓ24は安山岩製の石鏃である。

出土した遺物は流入によると推測されるもので、１点のみ新しい時期を示す353の出土状況が不明であるため、遺構の時期は時期不明とする。（西川）

溝２（図201・202　図版49）

溝２は調査地東際の平坦部から斜面部への地形変換部であるＨ・Ｉ４グリッドにまたがって存在する。南北方向に伸びるもので、２本の溝が並行するような形態を呈する。用途は不明である。

埋土中から出土した遺物の内357・358を図化したが、遺構の時期を判断する資料とは出来ず、遺構の時期は不明である。（西川）

溝３（図203　図版49）

溝３は調査地東際の平坦部から斜面部への地形変換部であるＥ４グリッドに存在する。東西方向に伸びるもので、残存長約４ｍ、最大幅1.12ｍ、検出面からの深さ約0.2ｍを測る。

埋土中から土器小片が出土したが、いずれの遺物も流れ込みと考えられるものであり、図化出来るものもなかった。そのため、遺構の時期を判断することは出来なかった。（西川）

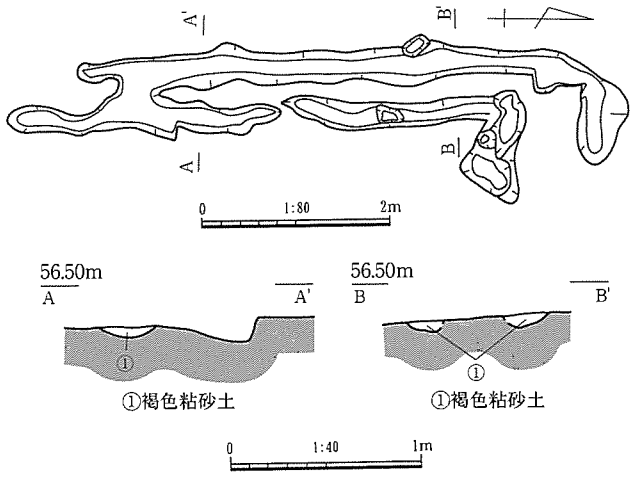


図201　溝2

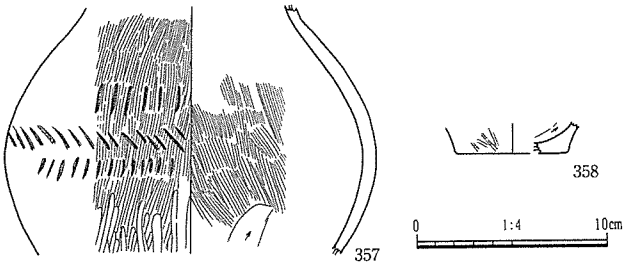


図202　溝2出土遺物

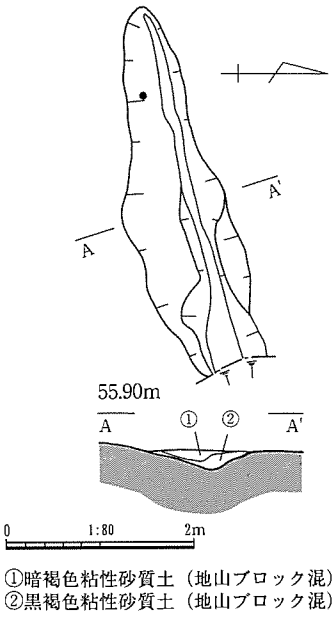


図203　溝3

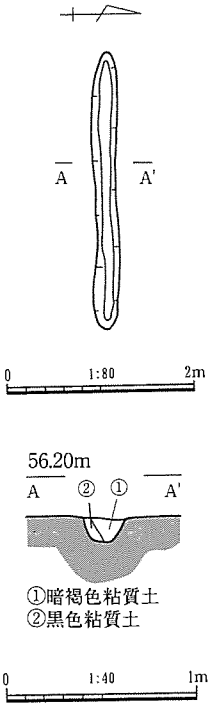
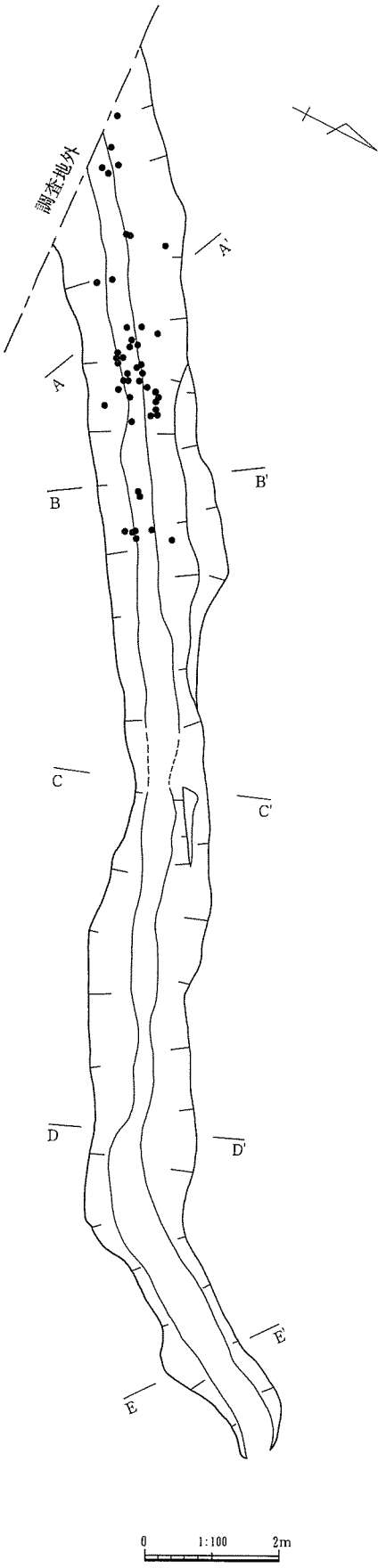
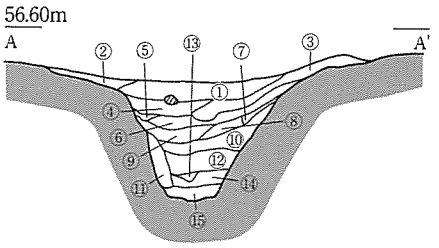
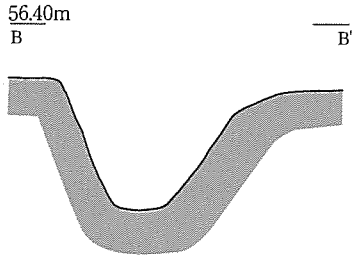


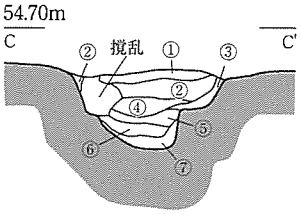
図204　溝4



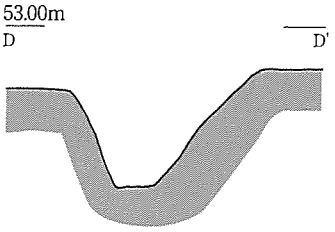


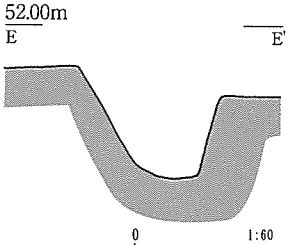
A－A'
①黒褐色粘質土
②黒褐色粘性砂質土（地山ブロック混）
③暗褐色粘質土（地山ブロック混）
④黒褐色粘質土（地山ブロック少量混）
⑤褐色粘質土（地山ブロック多く混）
⑥暗褐色粘質土（地山ブロック混）
⑦暗褐色粘質土
⑧褐色粘性砂質土（地山ブロック混）
⑨暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
⑩黒褐色粘質土（地山ブロック混）
⑪褐色粘質土（地山ブロック多く混）
⑫暗褐色粘質土（地山ブロック少量混）
⑬褐色粘質土（地山ブロック多く混）
⑭黒褐色粘質土（地山ブロック少量混）
⑮暗褐色粘質土（地山ブロック混）





C－C'
①暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
②暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
③暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック多く混）
④暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
⑤暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）
⑥暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック混）
⑦暗褐色粘質土（地山Ⅵ層ブロック少量混）





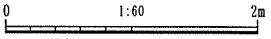


図205　溝5

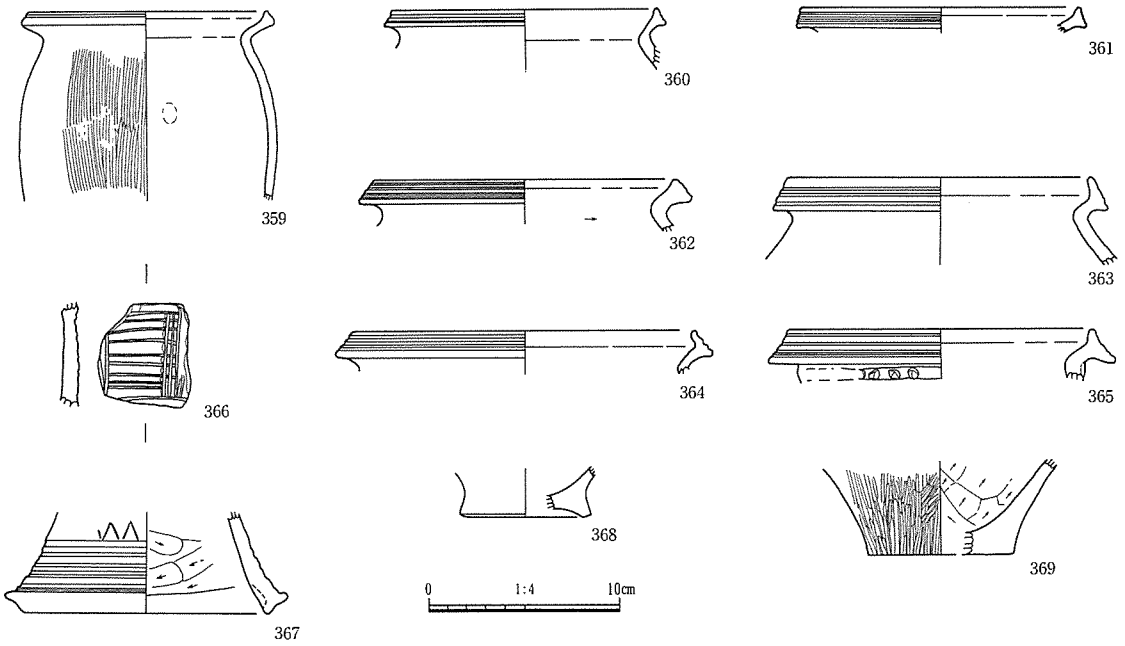


図206　溝5出土遺物

溝４（図204　図版49）

溝４はＨ８グリッドに存在する。東西方向に直線的に伸びるもので、全長2.89m、最大幅0.28m、検出面からの深さは0.15mを測る。

遺物の出土はなく、遺構の時期を判断することは出来ない。（西川）

溝５（図205・206　図版50・51・68）

溝５は調査地南東端斜面部の主にＪ２～４グリッドにかけて検出した。平坦部から斜面下部までほぼ直線状に伸びる。南西側は調査地外になるため全体形は不明である。残存長約21m、最大幅1.8m、検出面からの深さは最大約１mを測る。埋土は流れ込みによる自然堆積と推測されるものである。

埋土中から出土した土器の内359～369を図化したが、いずれの遺物も流れ込みと考えられるもので、遺構の時期を直接表すものではなく、遺構の時期を判断することは出来なかった。

溝５は区画溝と考えられる。（西川）

溝６（図207・208　図版52・68）

溝６は「Ｌ」字状に屈曲する遺構で、Ｉ６～Ｈ９グリッドにかけて存在する。全長約37m、幅約0.2～0.6m、検出面からの深さ約0.1～0.3mである。

埋土中から出土した土器のうち370～373を図化した。いずれの遺物も流れ込みと考えられるものであり、遺構の時期を判断することは出来ない。しかし、出土遺物に須恵器が含まれることから、古墳時代後期を上限とする遺構と考える。（西川）

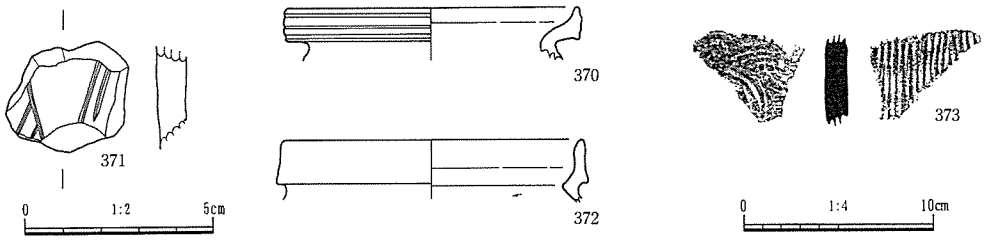
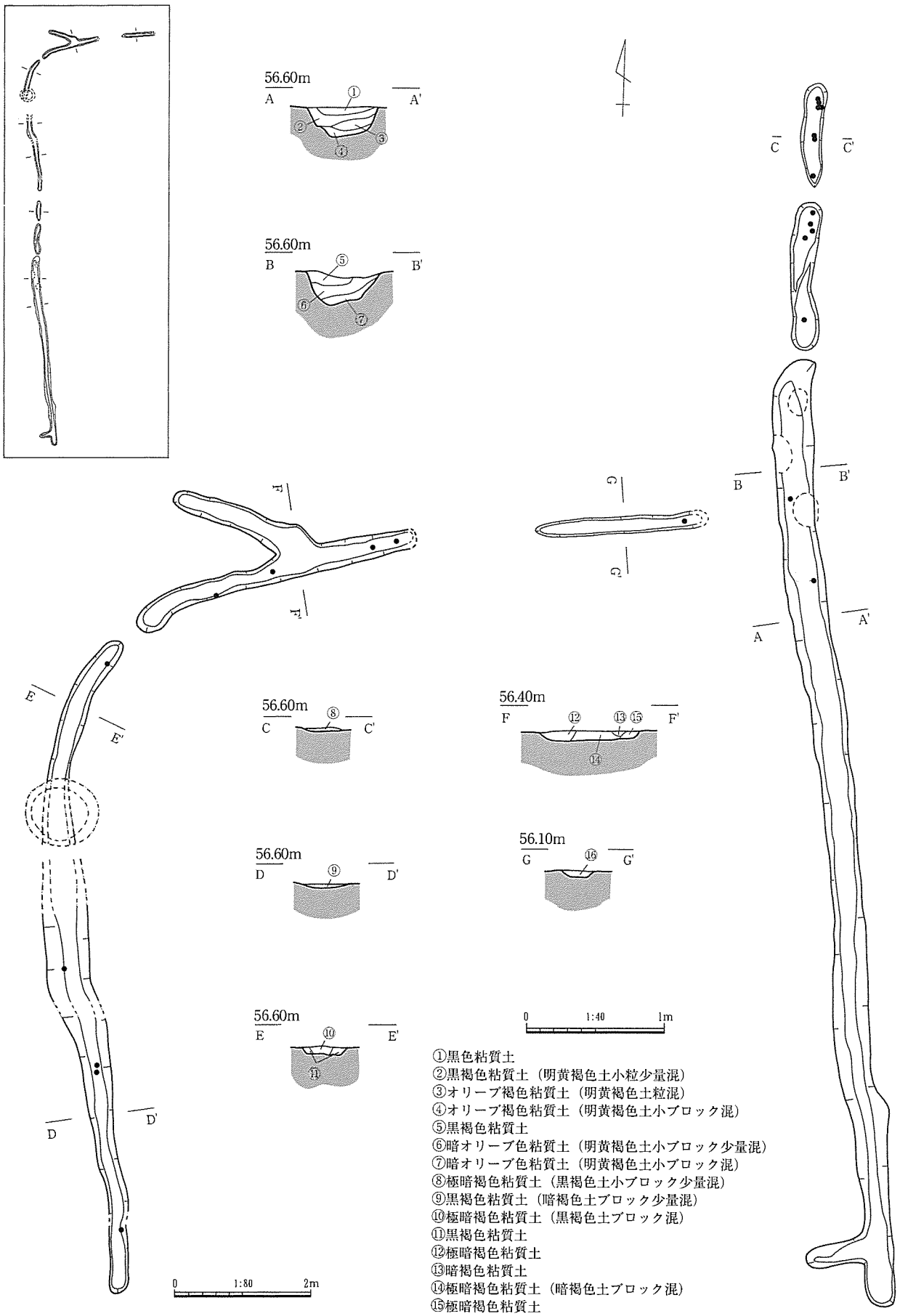


図207　溝6出土遺物



①黒色粘質土
②黒褐色粘質土（明黄褐色土小粒少量混）
③オリーブ褐色粘質土（明黄褐色土粒混）
④オリーブ褐色粘質土（明黄褐色土小ブロック混）
⑤黒褐色粘質土
⑥暗オリーブ色粘質土（明黄褐色土小ブロック少量混）
⑦暗オリーブ色粘質土（明黄褐色土小ブロック混）
⑧極暗褐色粘質土（黒褐色土小ブロック少量混）
⑨黒褐色粘質土（暗褐色土ブロック少量混）
⑩極暗褐色粘質土（黒褐色土ブロック混）
⑪黒褐色粘質土
⑫極暗褐色粘質土
⑬暗褐色粘質土
⑭極暗褐色粘質土（暗褐色土ブロック混）
⑮極暗褐色粘質土
⑯黒褐色粘質土

図208　溝6

３．ピット（図209～212　図版69・70）

調査地内からは、900基以上のピットを検出した。その中には、掘立柱建物に復元できた柱穴も存在したが、多くはピットの並びや形態などが対応せず、用途を明確に出来ないものである。多くは形態的にも明確な規格性が存在しないもので、いびつな断面形を呈するものである。逆に数は少ないが

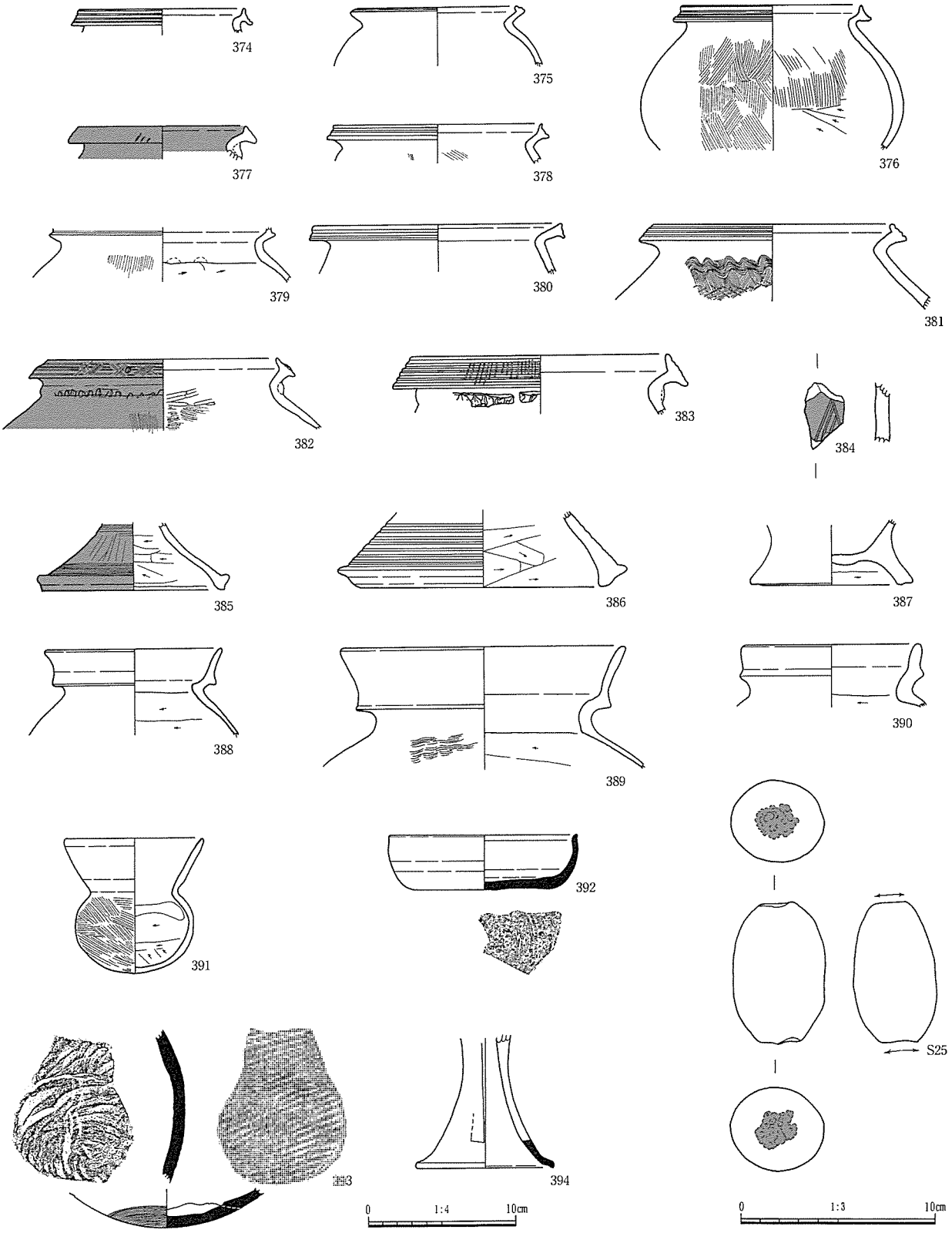


図209　ピット内出土遺物

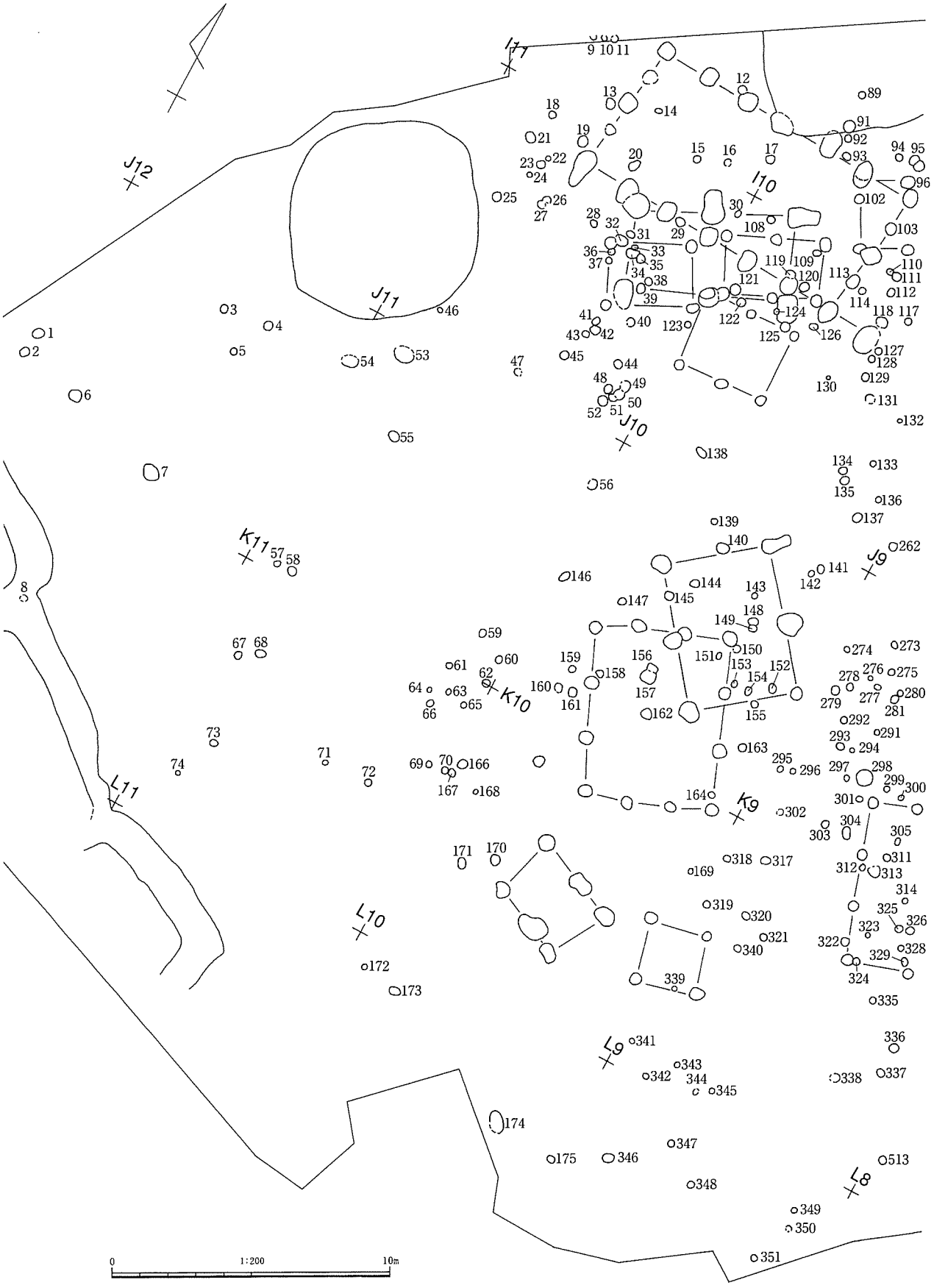


図210　ピット位置図（１）

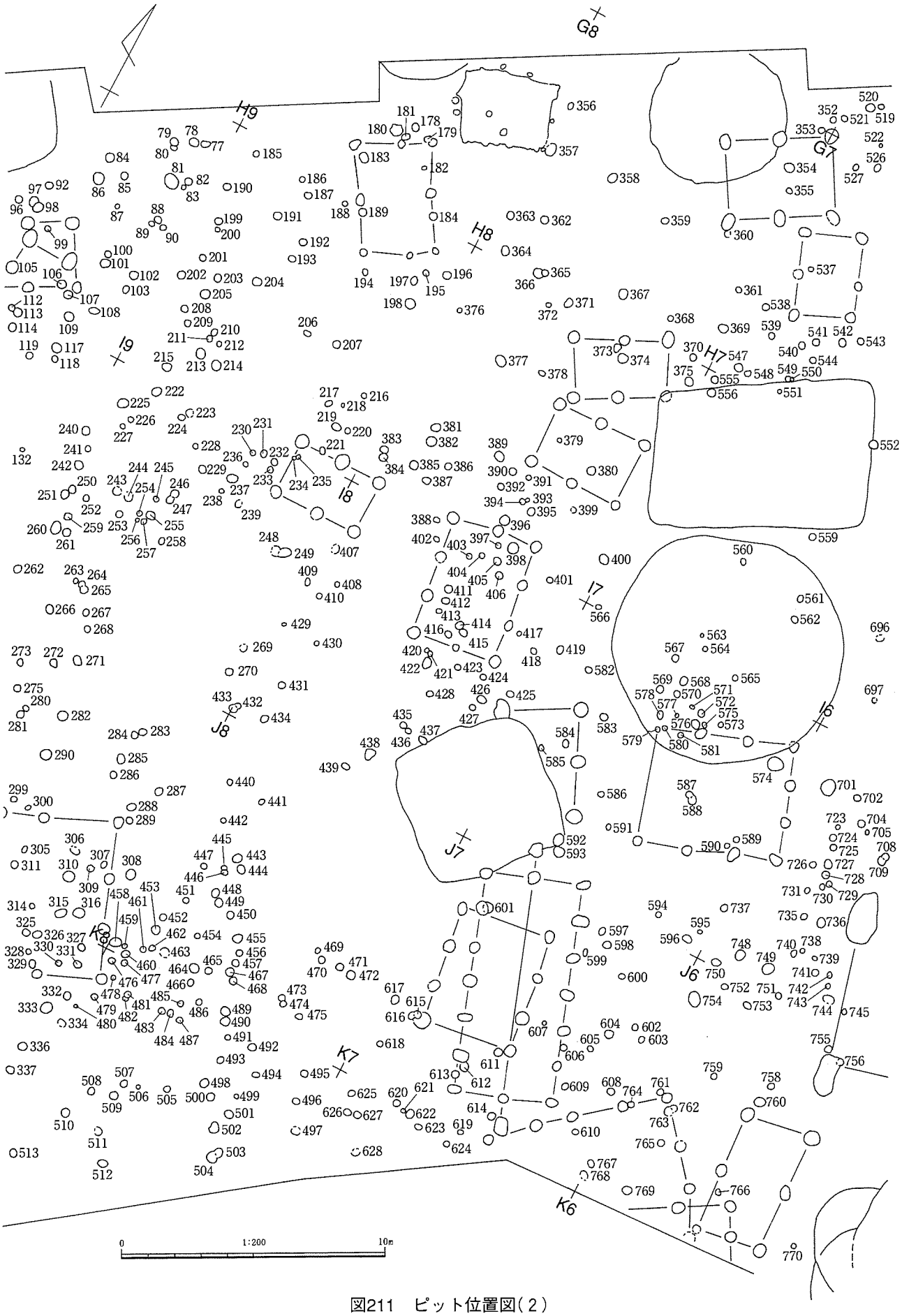


図211　ピット位置図（２）

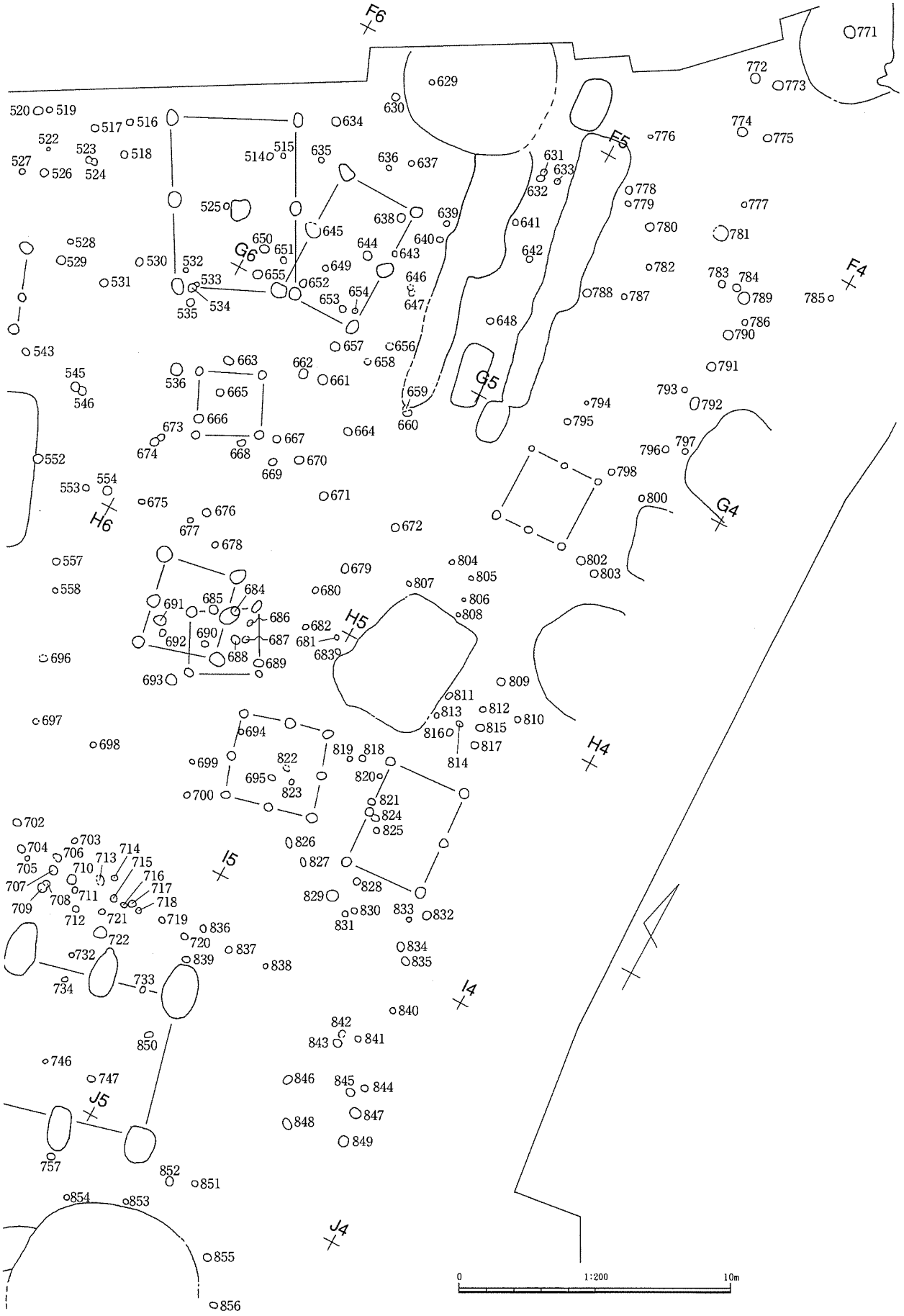


図212　ピット位置図（３）

表７　ピット計測表

P No.	長径×短径－深さ (cm)	底面標高 (cm)	層	備考
P 1	36×35－21	56.06	1層	C、Bの混土
P 2	31×31－22	56.08	3層	柱痕：A、掘方：B、Aブロック含む
P 3	32×30－22	56.07		
P 4	32×28－22	55.89	1層	B、C
P 5	26×26－12	56.16	1層	A
P 6	48×46－27	56.11		
P 7	69×53－29	56.11		
P 8	49×40			
P 9	25×　－4	55.9		
P10	23×　－9	55.9		
P11	40×　－30	55.6		
P12	30×30－46	55.46	1層	A、SB３に切られる
P13	(28)×28－22	55.87		SK113を切る
P14	22×20－45	55.52	2層	上層：B、下層：D
P15	26×24－25	55.74	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P16	28×28－32	55.72	1層	A、SK113を切る
P17	40×36－26	55.73	1層	AとBの混土
P18	21×20－25	55.75	1層	Cと地山Ⅴ層ブロックの混土
P19	41×32－34	55.73		
P20	28×28－20	55.84	3層	D、Bブロック含む
P21	22×22－13	55.86	1層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P22	18×17－18	55.87	1層	B
P23	33×32－11	55.94		
P24	28×８－18	55.88	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P25	19×４－20	55.78	1層	A
P26	26×23－６	56.02	1層	C
P27	29×26－10	55.96	1層	B、地山Ⅴ層ブロック、炭化物
P28	24×23－23	55.9		
P29	39×30－13	55.92		
P30	36×20－23	55.77		
P31	33×20－12	56.0		
P32	43×(40)－27	55.84		
P33	23×16－16	55.56		
P34	44×40－38	55.74	1層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P35	25×25－11	55.97	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P36	25×25－25	55.84	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P37	18×17－15	55.87	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P38	29×28－23	55.86	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P39	38×32－42	55.82	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P40	24×24－30	55.82	3層	柱痕：C、掘方：A、地山Ⅴ層ブロックを含む
P41	28×25－12	56.01	1層	A、Bブロック、地山Ⅴ層ブロック含む
P42	41×33－４	55.9		
P43	20×20－32	55.82	1層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P44	36×30－32	55.8		
P45	22×22－24	55.94	1層	B、地山Ⅴ層ブロックを含む
P46	10×10－７	56.05		
P47	32×28－14	55.98	1層	C
P48	37×36－21	55.83	1層	D
P49	32×28－35	56.02	1層	D
P50	41×40－16	56.05		
P51	32×(26)－14	56.05		
P52	40×36－45	55.77		
P53	(75)×72－45	55.77		
P54	56×(53)－15	56.12		
P55	52×23－25	55.87		
P56	52×(36)－28	55.98		
P57	26×24－28	56.28		
P58	40×32－24	56.24	1層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P59	32×26－12	56.15		
P60	30×30－29	56.15	1層	B
P61	28×24－24	56.29	1層	B
P62	30×30－29	56.19	1層	B
P63	24×22－11	56.32	2層	D、Bブロック含む
P64	23×16－24	56.29		
P65	24×22－22	56.32	1層	B
P66	32×16－24	56.37	1層	B
P67	30×30－17	56.45	1層	A
P68	42×30－15	56.46	1層	B
P69	25×25－12	56.44		
P70	30×23－20	56.32		
P71	22×19－33	56.77		
P72	29×26－17	56.83		
P73	26×６－41	56.69		
P74	18×18－27	56.81		
P75	32×28－22	56.42	3層	掘方：D、柱痕：C
P76	30×７－17	56.48	1層	C
P77	30×30－18	56.26	1層	C
P78	23×２－13	56.41	1層	C
P79	60×21－41	56.23	1層	D、Cブロック含む
P80	32×32－28	56.42	1層	C
P81	24×２－18	56.44	1層	D、Cブロック含む
P82	37×35－11	56.56	1層	C、地山Ⅴブロック含む
P83	25×24－21	56.38	1層	C
P84	47×43－16	56.57	1層	C、地山Ⅴブロック含む
P85	19×19－13	56.6	1層	B
P86	24×24－18	56.56	1層	A
P87	23×22－23	56.55	1層	C
P88	24×22－20	56.55	1層	A
P89	31×30－15	55.24		
P90	23×23－17	56.5	1層	D
P91	40×38－52	55.34	1層	C
P92	26×25－14	56.59		
P93	31×26－24	56.49	1層	B
P94	30×25－25	56.4	1層	D
P95	25×24－29	56.44	1層	D、Cブロック含む　H９－P17を切る
P96	32×30－20	56.52	1層	D、Cブロック含む
P97	23×18－５	56.75		
P98	26×24－16	56.59	1層	B
P99	40×30－32	56.46	1層	A
P100	34×30－36	56.42		
P101	30×22－30	55.7	1層	C
P102	37×36－32	55.61		
P103	47×43－22	55.78		
P104	35×31－27	55.76		
P105	34×32－30	55.72		
P106	40×28－20	55.79		
P107	40×30－13	55.91		
P108	30×27－38	55.6	1層	B、Dの混土
P109	30×23－35	55.65	1層	C、地山Ⅴ層ブロック含む
P110	30×27－14	55.87	1層	A
P111	36×34－28	55.82		
P112	46×28－４	55.9	1層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P113	54×43－30	55.75		
P114	26×25－６	56.02	1層	D
P115	37×34－18	55.89	1層	A
P116	35×33－36	55.71	1層	A
P117	28×28－９	55.98		
P118	43×(38)－３	55.92		
P119	37×(18)			
P120	40×33－11	55.65		
P121	43×40－18	55.8	3層	柱痕：C、掘方：C、Bブロック、D土ブロック含む
P122	32×31－12	56	3層	柱痕：B　掘方：D
P123	34×33－23	56.01	1層	C、地山Ⅴ層ブロック含む
P124	18×14－27	55.87	1層	C
P125	37×36－20	55.97	1層	A
P126	36×24－11	55.95		
P127	30×29－10	56		
P128	26×26－12	55.95	1層	A
P129	32×32－42	55.65	1層	A
P130	16×15－18	55.9	1層	B
P131	35×(18)－12	56.11		
P132	18×17－17	55.94	1層	C
P133	26×22－12	56.07	1層	A
P134	33×29－23	55.99		
P135	38×28－17	55.95	1層	A
P136	22×22－19	56.07	1層	A
P137	40×30－35	55.94	1層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P138	48×22－23	56.03	1層	A
P139	24×22－26	56.03		
P140	50×40－17	56.17	2層	上層：A、下層：A、地山Ⅴ層ブロック含む　遺物2035
P141	32×26－27	56.07	1層	A　遺物2037
P142	26×22－26	56.07	1層	A
P143	24×24－10	56.15	1層	B　遺物2034
P144	38×30－29	56.09	1層	A
P145	37×35－22	56.11		
P146	44×24－20	56.17		
P147	38×38－30	56.08		遺物2036
P148	36×27－32	56.1		
P149	32×26－38	56.04	1層	A
P150	29×(24)			
P151	29×19－23	56.18		
P152	30×30－30	56.19		
P153	30×21－11	56.33		
P154	34×25－18	56.25		
P155	29×28－31	56.75		
P156	39×(24)－12	56.91		
P157	56×(8)－39	56.97		
P158	32×30－21	56.86		
P159	30×29－14	56.88		
P160	46×27－26	56.8		
P161	37×32－36	56.7		
P162	26×24－26	56.75	1層	A
P163	33×29－31	56.81		
P164	27×23－17	56.98		
P165	46×40－21	56.88		
P166	44×35－16	56.94		
P167	31×27－26	56.83		
P168	20×17－20	56.95		
P169	24×20－26	56.92		
P170	40×40－31	56.86		
P171	44×30－23	56.93		
P172	22×20－22	56.95		
P173	46×30－14	56.81		
P174	80×49－27	56.71		
P175	30×26－22	56.78	2層	B、D
P176	35×25－30	56.32		
P177	22×(17)			
P178	49×49－18	55.75	1層	A　遺物3028
P179	32×25－36	55.6	1層	A
P180	17×16－17	55.82	1層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P181	44×38－48	55.46	1層	A
P182	33×30－30	55.83		
P183	24×23－31	55.58	1層	C
P184	24×22－37	55.59	2層	上層：A、Bブロック含む。下層：A、Cブロック含む
P185	27×27－40	55.57	1層	A
P186	22×19－13	55.89	1層	A
P187	34×28－20	55.82	1層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P188	32×23－34	56.39	1層	A
P189	33×29－32	55.66	1層	A
P190	29×26－38	55.67	1層	A
P191	29×23－28	55.78	3層	上層：A、中層：C、地山Ⅵ層ブロック含む、下層：B、地山Ⅵ層ブロック含む
P192	27×23－17	55.93	1層	A
P193	24×22－21	56.01	1層	C
P194	34×27－27	55.84	1層	C
P195	32×26－24	55.92	1層	A
P196	44×37－23	55.93	1層	A、Cブロック含む
P197	33×24－29	55.68	1層	A
P198	21×17－29	55.68	1層	A
P199	25×21－24	55.75	1層	A、Cブロック含む
P200	32×30－32	55.75		
P201	31×28－35	55.66	1層	A
P202	37×29－35	55.68	2層	A、C
P203	36×34－42	55.6	1層	A
P204	30×18－30	55.83		
P205	32×26－32	55.9	1層	A、C
P206	30×27－13	55.9	1層	A
P207	26×25－22	55.85	1層	A
P208	28×26－28	55.82	1層	A
P209	28×21－19	55.91	1層	A
P210	21×19－23	55.91	1層	A
P211	47×39－35	55.78	1層	A
P212	39×38－33	55.81	1層	C
P213	35×32－17	55.96	1層	A

P214	23×21－26	55.98	1 層	C
P215	30×18－27	55.97	1 層	A
P216	19×14－27	55.96	1 層	C
P217	38×28－40	55.86	2 層	上層：C、下層：A、地山Ⅵ層ブロック含む
P218	23×22－16	56.1	1 層	A
P219	29×25－48	55.82	1 層	A
P220	36×29－36	55.79	1 層	A
P221	42×27－36	55.96	1 層	A、遺物2868
P222	28×23－62	55.56	1 層	A
P223	(34)×			C、Aブロック含む
P224	24×21－9	56.06	1 層	A
P225	20×20－10	56.05	1 層	A
P226	24×22－24	55.97	1 層	C
P227	35×29－26	56.0		A
P228	24×22－24	56.05	1 層	C
P229	29×25－15	56.14	1 層	A
P230	26×26－22	56.08	1 層	A
P231	42×27－35	55.96		
P232	18×13－24	56.07	1 層	A
P233	20×18－13	56.16	1 層	A
P234	20×19－10	56.2	1 層	A、Bブロック含む
P235	43×30－37	55.92	1 層	A
P236	20×198－10	55.94	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P237	32×(26)			
P238	34×33－19	55.99	1 層	A
P239	27×24－20	55.98	1 層	A
P240	38×32－21	55.99	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P241	35×(33)－35	55.87		
P242	(42)×38－31	55.9		
P243	23×20－20	56.05	1 層	C
P244	33×26－22	56.05		
P245	34×27－29	56.01		
P246	(46)×38			
P247	39×(27)			
P248	(54)×31－44	55.96		
P249	33×28－20	56.08	1 層	A
P250	35×30－19	56.07	1 層	A、Cブロック含む
P251	30×25－31	55.04		
P252	30×27－32	55.94	1 層	A
P253	23×20－13	56.14	1 層	C　遺物2866
P254	35×30－14	56.15	1 層	A
P255	14×14－9	56.19	1 層	A
P256	25×22－17	56.12	1 層	A
P257	28×21－25	56.08	1 層	C
P258	30×27－22	56.02	1 層	A
P259	48×36－38	56.77	1 層	A　遺物3078
P260	32×28－28	55.97	1 層	A　遺物2853
P261	35×31－19	56.09	1 層	A　遺物1735・1736
P262	20×19－26	56.02	1 層	C
P263	30×(25)－20	56.09	1 層	A
P264	35×(30)－32	56.01	1 層	A
P265	37×27－38	55.97	1 層	A
P266	30×27－40	55.96	1 層	A、Cブロック含む
P267	24×23－30	56.1	1 層	A
P268	29×28			
P269	29×28－35	56.13	1 層	A　遺物2887
P270	40×24－44	55.97	1 層	C
P271	34×24－24	56.17	1 層	A、Cブロック含む
P272	30×25－25	56.15	1 層	A
P273	24×22－25	56.15		
P274	27×26－28	56.16		
P275	20×18－16	56.25	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P276	30×22－25	56.19	1 層	A
P277	30×28－28	56.15	1 層	A
P278	33×28－19	56.28	1層A	
P279	22×27－35	56.12		
P280	33×25－33	56.15	1 層	A
P281	38×37－12	56.33	2 層	A、D
P282	32×26－22	56.25	1 層	A
P283	30×30－16	56.28	1 層	A
P284	39×33－37	56.14		
P285	25×23－25	56.26		
P286	34×32－23	56.29		
P287	40×32－23	56.23	1 層	A、Cブロック含む
P288	30×26－37	56.16	1 層	A
P289	43×38－25	56.24	1 層	A
P290	22×20－25	56.22	1 層	A　遺物2851
P291	29×26－36	56.13	1 層	C　遺物2888
P292	40×31－33	56.17	2 層	上層：B　下層：A
P293	15×15－23	56.28	1 層	C
P294	28×22－28	56.24		
P295	24×20－25	56.27	1 層	A
P296	28×24－37	56.13	1 層	A
P297	24×24－19	56.31	1 層	A　遺物2653～56
P298	28×22－24	56.26	1 層	C　遺物2889
P299	23×16－34	56.14		
P300	30×26－35	56.22	3 層	掘方：A、抜き取り痕A、地山Ⅵ層ブロック含む　掘方：B
P301	28×22－26	56.28		
P302	36×28－22	56.34	2 層	上層：A　下層：D、C
P303	45×26－50	56.08		
P304	30×20－31	56.17	3 層	掘方：C、抜き取り痕B、地山Ⅵ層ブロック含む　掘方：A
P305	40×30－21	56.33		
P306	30×22－23	56.34	1 層	A、Cブロック含む
P307	40×35－37	56.22		
P308	30×22－21	56.37	1 層	A
P309	42×42－83	55.82	3 層	掘方：C　柱痕B　掘方：A　遺物3031
P310	30×30－20	56.36	1 層	A
P311	28×22－18	56.41	1 層	A
P312	50×44－12	56.27	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P313	22×20－19	56.41	1 層	A
P314	48×27－25	56.34		
P315	49×40－12	56.49		
P316	36×36－10	56.44	1 層	A
P317	29×24－22	56.38		
P318	29×28－39	56.21	1 層	B
P319	33×26－23	56.43	2 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P320	30×24－17	56.44	1 層	C
P321	35×35－34	56028	1 層	C
P322	20×20－17	56.47	1 層	A
P323	30×30－25	56.33	1 層	B
P324	32×28－23	56.39	2 層	A
P325	34×34－18	56.39	3 層	掘方：B　柱痕：A　遺物3047
P326	24×22－7	56.44	1 層	B
P327	22×21－12	56.5	2 層	A、B
P328	32×28－10	56.46	3 層	掘方：B　柱痕：A　遺物2450
P329	22×22－18	56.43	2 層	B、A
P330	34×27－22	56.41		
P331	32×30－17	56.41	1 層	B
P332	40×48－28	56.28	3 層	掘方：A　抜き取り痕：B　遺物2447・2449
P333	30×26－30	56.29	1 層	A、黒褐色土ブロック含む、地山Ⅵ層ブロック少量含む
P334	28×28－32	56.28	1 層	A
P335	40×32－11	56.54	2 層	A　遺物2454
P336	36×26－6	56.62	1 層	A
P337	33×21			
P338	28×22			
P339	23×19－20	56.45		
P340	23×19－21	56.37		
P341	28×26－26	56.21	2 層	C、A
P342	28×26－15	56.52	1 層	C
P343	28×20－40	56.24	3 層	掘方：A　柱痕：B
P344	24×20－16	56.51	1 層	A
P345	29×26－18	56.42	1 層	B
P346	45×33－16	56.24		
P347	28×25－18	56.24		
P348	28×26－15	56.21	1 層	B
P349	22×20－38	56.12	1 層	B
P350	30×27－18	56.21		
P351	30×28－32	58.93		
P352	37×35－19	55.89	3 層	柱跡：A　掘方：D　Aブロック含む
P353	37×23－20	55.89	3 層	柱跡：A　掘方：D　Aブロック含む
P354	41×34－19	56.08	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物3027
P355	27×22－38	55.9	1 層	A
P356	28×21－29	55.7	1 層	C
P357	51×37－28	55.76	1 層	C
P358	41×34－26	55.8	2 層	上層：B、地山Ⅵ層ブロック含む　下層：A　遺物3030
P359	30×25－15	355.98	1 層	A
P360	40×27－44	455.71		
P361	26×23－18	256.03	1層A	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P362	30×30－19	355.87	1 層	B、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2931
P363	35×28－24	55.82	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P364	39×30－22	55.93	1 層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P365	25×25－13	56	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P366	36×35－11	56.07		
P367	38×38－22	55.96	1 層	A
P368	54×50－45	55.8	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P369	41×33－17	56.14	2 層	上層：A、下層：B、地山Ⅵ層ブロック含む
P370	27×26			
P371	40×26－23	55.95	1 層	A
P372	23×18－24	55.92	1 層	A
P373	34×27－40	55.86	1 層	A
P374	40×35－40	55.9		
P375	38×32－12	56.06	1 層	A
P376	20×19		1 層	A
P377	45×37－66	55.57		
P378	29×20－18	56.05	2 層	抜き取り痕：A、地山Ⅵ層ブロック含む、掘方：C
P379	18×16－42	55.91		
P380	45×35－38	56.1		
P381	37×30－32	56.03	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P382	42×38－16	56.17	1 層	A　遺物2862
P383	33×26－14	56.18	1 層	A
P384	35×32－14	56.19	1 層	A
P385	35×32－38	55.98	1 層	A
P386	29×29－28	56.15	1 層	A
P387	34×30－23	56.15	1 層	A　遺物2878
P388	27×19－19	56.22		
P389	42×34－39	55.97	1 層	A
P390	25×22－55	55.81		
P391	25×23－15	56.29	1 層	A
P392	28×25－19	56.22		
P393	20×18－10	56.35	1 層	A
P394	25×19－11	56.36		
P395	35×32－35	56.08	2 層	上層：A　下層：B
P396	43×37－26	56.17	1 層	A
P397	24×21－38	56.08		
P398	45×39－62	55.86	1 層	C
P399	26×(20)－33	56.1		
P400	45×35－38	56.1		
P401	27×24－22	57.04	1 層	A
P402	24×17－34	56.04		
P403	24×22－23	56.17	1 層	A
P404	23×21－30	56.12		
P405	39×36－43	56.03		
P406	28×27－32	56.13	1 層	A
P407	22×11			
P408	23×19－15	55.61	1 層	A
P409	31×19－18	55.53	1 層	A
P410	26×20		1 層	C、Aブロック含む
P411	35×30－25	56.19	1 層	A、遺物２８７５
P412	31×24－19	56.27	1 層	A
P413	23×18－23	56.47	1 層	B
P414	36×29－17	56.29	1 層	A
P415	37×26－25	56.25	1 層	A
P416	30×26－40	56.1	1 層	A
P417	18×18－17	56.36	1 層	A
P418	28×21－21	56.38	1 層	A
P419	33×24－40	56.15	1 層	A、遺物２８７７
P420	19×(15)－16	56.33	1 層	A
P421	21×(18)－20	56.33	1 層	A
P422	46×35－13	56.39	1 層	A
P423	26×23－21	56.32	1 層	A
P424	25×22－16	56.38	1 層	A
P425	29×23－19	56.31	1 層	A
P426	37×30－21	56.36	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む、遺物２８５２
P427	26×23－25	56.34	1 層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P428	26×23－25	56.31	3 層	抜き取り痕：A、地山Ⅵ層ブロック含む、掘方：A
P429	21×15			
P430	21×18－21	56.28		
P431	28×27－22	56.26		
P432	25×(19)－21	56.29		
P433	34×30－26	56.26		
P434	34×25－24	56.25	1 層	A
P435	26×25－24	56.36	1 層	A

P436	24×22－28	56.31		
P437	38×26－24	56.38	１層	A
P438	50×35－17	56.43	１層A	A
P439	33×23－25	56.26	１層	C
P440	24×21－21	56.38	１層	A
P441	28×21－26	56.35		
P442	21×20－10	56.5	１層	A、炭化物片含む
P443	41×30－29	56.36	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P444	31×30－25	56.41	１層	A、
P445	25×19－30	56.36	１層	A
P446	30×19－22	56.44		
P447	28×24－28	56.17	１層	A
P448	26×22－29	56.33	１層	C
P449	32×30－26	56.37	１層	A
P450	32×27－25	56.39	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2863
P451	28×24－18	56.54		
P452	26×26－26	56.49		遺物3055
P453	38×36－16	56.57	１層	A　遺物2892
P454	40×35－14	56.48		
P455	42×37－26	56.42	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2860
P456	28×24－36	56.36	１層	A　遺物2858
P457	28×25－42	56.31		
P458	42×30－21	56.57	１層	A　遺物2452
P459	24×20－16	56.6	１層	A
P460	26×26－21	56.45	１層	A
P461	38×32－18	56.58	１層	B
P462	28×26－20	56.53	１層	A
P463	40×36－14	56.48		
P464	42×38－28	56.42	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P465	35×29－19	56.52		遺物台帳ではあることになってる　遺物3079
P466	27×26－21	56.5	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2879
P467	37×31－41	56.3	１層	A
P468	32×27－26	56.44	１層	A、褐色土ブロック含む
P469	22×21－16	56.53	１層	A
P470	30×28－22	56.46	１層	上層：B　下層：B、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2869
P471	31×28－49	56.21	１層	
P472	40×35－28	56.4	１層	A
P473	29×23－36	56.34	１層	A、炭化物片含む
P474	25×21－55	56.15		
P475	31×22－30	56.39	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P476	28×22－28	56.47	１層	A
P477	24×24－14	56.61	１層	A
P478	24×20－13	56.62	２層	上層：B、地山Ⅵ層ブロック含む　下層：D、Bブロック含む
P479	26×24－22	56.5	１層	A、炭化物含む
P480	16×16－15	56.55	１層	C
P481	40×26－25	56.48	３層	上層：D、それらを切ってB　下層：A
P482	24×12－9	56.63		
P483	33×25－16	56.51		
P484	29×23－19	56.51	１層	A
P485	31×30－22	56.51	１層	A
P486	26×24－35	56.38	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2828
P487	27×22－24	56.44	１層	B
P488	40×35－19	56.52		
P489	35×34－20	56.53	１層	A　遺物2872
P490	22×21－17	56.57	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P491	31×30－22	56.51	１層	A
P492	30×26－27	56.46	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2827
P493	30×21－24	56.48		
P494	33×30－18	56.53	１層	A、地山ブロック含む　遺物2895
P495	28×28－18	56.56		
P496	35×33－29	56.46		
P497	37×30－25	56.45	１層	A
P498	19×17－24	56.46		
P499	30×28－34	56.35	２層	B、地山Ⅵ層ブロック含むA
P500	34×32－24	56.46	１層	A
P501	42×38－47	56.22	１層	A
P502	37×31－22	56.51		
P503	47×39－38	56.33	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P504	26×21－17	56.51	１層	A
P505	20×20－20	56.46	１層	A
P506	30×28－22	56.45	１層	A
P507	32×30－23	56.44		
P508	32×31－33	56.34	１層	A
P509	38×31－22	56.48	１層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P510	37×31－23	56.46	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P511	35×29－32	56.33	２層	A、地山Ⅵ層ブロック含む　遺物2829
P512	100×65－161	55.1		
P513	28×20－20	55.89		
P514	20×17－18	55.92		
P515	28×26－32	55.76	１層	B、地山Ⅷ層ブロック含む
P516	30× 8 －31	55.99	３層	柱跡：B　掘方：D、褐色土ブロック含む
P517	30×26－30	55.82	１層	A
P518	26×21－57	55.30	１層	A　地山Ⅷ層ブロック含む
P519	40×30－40	55.47	２層	上層：A、地山Ⅷ層ブロック含む　下層：A
P520	25×24－13	55.77	１層	A
P521	17×16			
P522	27×(24)－19	55.93		ＳＢ18　ｐ４に改称
P523	27×(23)－14	55.97		
P524	23×20－24			
P525	35×27－20	56.11	１層	C
P526	23× 9 －19	56.21	１層	B
P527	35×32－24	56.17	１層	B
P528	32×25－30	56.12	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P529	33×31－26	55.97	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P530	17×16－32	55.89	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P531	21×(16)－15	56.05	１層	
P532	35×30－31	56.25		
P533	30×28－28	56.20	１層	A、炭化物含む
P534	48×40－67	55.63		
P535	23×18－17	56.05	１層	A
P536	32×28－38	56.03	１層	A、地山Ⅷ層ブロック含む
P537	28×23－46	55.84	１層	C、地山Ⅵ層ブロック少量含む
P538	30×25－11	56.18		
P539	28×27－44	55.87		
P540	35×28－38	55.93		
P541	28×23－ 7	56.25		
P542	(32)×30－31	56.03		
P543	34×33－85	55.93		
P544	34×30－31	55.97		
P545	33×28－26	56.04	１層	A、地山Ⅵ層ブロック少量含む　撹乱に切られる
P546	28×21－37	55.97	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む

P547	21×20			
P548	15×14			
P549	19×18			
P550	43×42－57	55.83		
P551	25×23－17	56.25	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P552	34×32－20	56.21		
P553	35×28－21	56.12		
P554	35×34			
P555	29×25			
P556	21×20－41	56.03		
P557	28×26			
P558	27×26－ 8	56.05	１層	B
P559	28×24－ 5	56.11		
P560	30×24－41	55.75		
P561	13×13－ 6	56.09		
P562	21×19－ 7	56.08		
P563	24×22－ 4	56.11		
P564	22×20－30	56.22		
P565	33×31－ 9	56.05	１層	A
P566	38×30－11	56.01	１層	A
P567	35×28－33	55.78		
P568	29×27－16	55.96		
P569	21×20－21	55.92	１層	A
P570	40×35－10	56.06	１層	B
P571	20×19－41	55.74	１層	
P572	66×53－17	56.5		
P573	25×16－ 7	56.08		
P574	42×32－19	55.96		
P575	18×15－106	55.07		
P576	35×22－16	55.97	１層	A
P577	23×22－10	56.04		
P578	21×19			
P579	20×20－36	55.74		
P580	30×25－17	56.39	１層	A
P581	35×32－20	56.44	１層	A
P582	31×23－13	56.53		
P583	25×18－12	56.53		
P584	29×24－25	56.48		
P585	(26)×25－22	56.52		
P586	(30)×25－22	56.5		
P587	25×23			
P588	25×18			
P589	23×16－23	56.51		
P590	50×39－34	56.41		
P591	46×40－22	56.51		
P592	25×22－23	56.57	１層	A
P593	22×18－12	56.68	１層	B
P594	38×29－73	56.08	１層	A
P595	32×24－43	56.33	１層	A
P596	34×29－16	56.61	１層	C、地山Ⅵ層ブロック含む
P597	31×17－16	56.6	１層	A、Cブロック含む
P598	27×23－12	56.69	１層	B
P599	44×25－19	55.51		
P600	25×22－15	56.75	１層	A
P601	25×20－11	56.72	１層	B
P602	40×35－18	56.69	１層	A　地山Ⅵ層ブロック含む
P603	22×21－19	56.68	１層	A
P604	26×24－25	56.62	１層	A、Cブロック含む
P605	19×19－11	56.73	１層	C
P606	30×26－17	56.67	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P607	25×24－23	56.61	１層	A
P608	27×14－19	56.62	１層	A
P609	35×30－20	56.58		
P610	39×36－27	56.51		
P611	32×32－16	56.59		
P612	34×28－25	56.57	１層	A
P613	31×27－26	56.5		
P614	32×22－28	56.42		
P615	38×30－26	56.43		
P616	25×25－23	56.46	１層	C
P617	23×20－25	56.55		
P618	29×27－71	56.01	１層	A
P619	21×16－21	56.49		
P620	36×31－31	56.43	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む　異物2871
P621	29×19－14	56.6		
P622	29×24－31	56.49		
P623	32×26－ 8	56.52	１層	C
P624	31×25－28	56.45		
P625	30×28－39	56.37	１層	A
P626	(30)×(29)－25	56.53		
P627	21×20－ 9	55.01		
P628	29×29－21	55.79		
P629	25×25－26	55.68	１層	C
P630	27×24－14	55.8	１層	C、炭片含む
P631	26×25－44	55.5		
P632	33×30－20	55.86		
P633	25×24－48	55.6		
P634	20×20－49	55.54		
P635	20×17			
P636	30×30－16	55.84		
P637	25×23－19	55.84		
P638	28×20－13	55.89		
P639	23×22－13	55.85		
P640	25×24－15	55.85		
P641	24×22－26	55.77		
P642	35×34－34	55.71	２層	柱痕：B、地山Ⅷブロック含む　掘方：D
P643	61×(47)－77	55.94		
P644	(25)×(23)－19	55.87		
P645	(23)×(17)－12	55.95		
P646	26×21－56	55.47		
P647	22×20－27	55.81		
P648	38×33－49	55.63		
P649	27×26－27	55.84	１層	C
P650	32×25－14	55.99		
P651	28×23－15	55.89		
P652	25×23－22	55.92		
P653	35×31－32	56.5		
P654	30×28－36	55.79		
P655	37×32－26	55.94	１層	A　遺物2929
P656	24×21－35	55.86	１層	B、地山Ⅷ層ブロック含む
P657	35×(27)－26	55.93	２層	AとB

P658	32×(20)－25	55.95		
P659	39×33－61	55.63	１層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P660	35×29－91	55.33	１層	A、地山Ⅴ層ブロック含む
P661	38×30－23	56.00		
P662	33×30－31	55.92	１層	A、地山Ⅶ層ブロック含む
P663	27×27－33	-464.50	１層	B、地山Ⅶ層ブロック含む
P664	34×34－36	55.96	１層	柱跡：A　掘方：B
P665	29×25－33	55.99	１層	A
P666	31×21－38	55.95	１層	A
P667	31×27－32	55.98	１層	B、地山Ⅶ層ブロック含む
P668	35×28－17	56.12	１層	A
P669	35×27－19	56.12	１層	A
P670	33×30－23	56.08		
P671	(28)×26－22	56.18	１層	D
P672	37×30－51	55.86	１層	A
P673	26×22－18	56.24		
P674	33×32－61	55.81	１層	A
P675	21×21－30	56.12		
P676	22×20－25	56.15		
P677	40×38－24	56.12		
P678	27×19－23	56.15	１層	A、炭片含む
P679	20×15－14	56.26	１層	A
P680	28×17－36	56.01	１層	A
P681	27×23－27	56.16	１層	A
P682	80×53－47	55.98		
P683	38×33－55	55.90	１層	A
P684	25×17－33	56.11	１層	C
P685	25×25－48	55.98	２層	Bと、加えて地山Ⅵ層ブロック含む
P686	60×35－39	56.05	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P687	37×28－30	56.16	１層	B
P688	28×24－34	56.13	１層	A
P689	52×35－20	56.30		
P690	28× 5 －17	56.30		
P691	44×40－49	56.10	１層	A
P692	25×18－40	56.14	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P693	26×20－23	56.30	１層	A
P694	34×23－10	56.42		
P695	20×20－15	56.42		
P696	23×22－26	56.33		
P697	20×16－29	56.28	１層	A
P698	24×23－21	56.36	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P699	61×57－31	56.41		
P700	33×24－11	56.45		
P701	25×20－36	56.37		
P702	33×28－36	56.4		
P703	(20)×17－19	56.59	１層	A
P704	35×(26)－29	56.59		
P705	35×33－40	56.37		
P706	29×20－31	5.46	１層	A
P707	38×30－28	56.48	１層	A
P708	38×35－38	56.37	１層	A
P709	25×22－42	56.34	１層	A
P710	28×24－31	56.47		
P711	27×24			
P712	25×21－33	56.41	１層	B
P713	26×22－18	56.58		
P714	22×14－25	56.51		
P715	30×26－36	56.37		
P716	24×22－29	56.47	１層	B
P717	25×21－21	56.51	１層	A
P718	30×24－ 9	56.62	１層	A
P719	23×21－30	56.62		
P720	50×41－36	56.41	１層	B、地山Ⅵ層ブロック含む
P721	21×18－17	56.57	１層	B
P722	30× 9 －23	56.53	１層	B
P723	31×25－56	56.51	１層	B
P724	30×25－45	56.32	１層	B
P725	47×43－17	56.60		
P726	30×29－37	56.41	１層	B
P727	26×22－27	56.51	１層	B
P728	23×23－35	56.41	１層	A
P729	24×18－41	56.36	１層	A
P730	21×18－20	56.57	１層	A
P731	26×18－27	56.47	１層	A
P732	24×117－25	56.54	１層	A
P733	26×25－35	56.43		
P734	39×34－27	56.53	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P735	26×25－10	56.67	１層	B
P736	18×18－27	56.57	１層	A
P737	25×17－29	56.50	１層	A
P738	28× 4 －38	56.42	１層	A
P739	26×26－12	56.86	１層	A
P740	25×18－16	56.81	１層	A
P741	25×22－35	56.64	１層	A
P742	47×30－16	56.82	１層	A
P743	25×22－17	56.79	１層	A
P744	25×22－17	56.89		
P745	30×24－31	56.56		
P746	42×36－12	56.66	１層	A26
P747	50×46－22	56.58	１層	A
P748	40×30－26	56.54		
P749	24×22－29	56.55	１層	A
P750	59×43－15	56.71		
P751	36×23－21	56.60	１層	A
P752	25×22－51	56.32	１層	A
P753	29×26－34	56.69		
P754	28×26－27	56.77		
P755	30×24－21	56.78		

P756	30×23－15	56.93	１層	A、地山Ⅶ層ブロック含む
P757	30×25－19	56.70	１層	B
P758	43×34－16	56.94		
P759	26×26－44	56.40	１層	A
P760	(28)×22－17	56.70	１層	A
P761	35×32－27	56.60		
P762	24×23－16	56.68	１層	B
P763	30×28－50	56.34	１層	A
P764	34×21－20	56.86	１層	A
P765	42×21－25	56.70	１層	A
P766	(35)×(30)－15	56.73		
P767	40×33－24	56.64	１層	A
P768	31×28		１層	A　遺物2955
P769	49×45－69	54.41		
P770	37×36－32	55.20		
P771	42×(35)－33	55.25		
P772	41×35－39	55.27		
P773	28×24－16	55.47		
P774	21×15－ 9	55.68		
P775	20×17－27	55.44		
P776	32×29－34	55.52		
P777	27×20－18	55.71	１層	B
P778	34×30－23	55.60	１層	B
P779	61×46－16	55.65		
P780	25×23－23	55.66	１層	B
P781	30×25－13	55.63		
P782	30×30－24	55.43		
P783	24×21			
P784	24×17－24	55.45		
P785	25×20－21	55.71	１層	A
P786	33×30－12	55.82	１層	B
P787	45×41－45	55.68		
P788	35×34－44	55.68		
P789	33×30－19	55.89		
P790	50×29－34	55.40		
P791	23×20－13	55.62		
P792	18×16－18	55.80	１層	A　遺物2965　土器写真有り
P793	25×21－24	55.68	１層	B
P794	29×23－18	55.64		
P795	29×23－20	55.64		
P796	28×26－12	55.84		
P797	29×25			
P798	20×18－12	55.78		
P800	30×30－22	55.85		
P802	23×17－15	56.07		
P803	16×15－12	56.07		
P804	14×13－15	56.10		
P805	22×15－11	56.19		
P806	18×17－50	55.73		
P807	30×28－20	55.97		
P808	25×23－60	55.94		
P809	30×19－29	55.89		
P810	26×20－16	56.01	１層	B
P811	21×17－59	55.95		
P812	26×18－ 9	56.09		
P813	35×27－12	56.04		
P814	32×23－36	55.90		
P815	30×27－20	56.00		
P816	18×16－24	56.18	１層	B、Cブロック含む
P817	22×20－13	56.26	１層	A
P818	30×25－17	56.17	１層	A
P819	30×25－17	56.20	１層	B、Dブロック含む
P820	30×(20)－42	56.08		
P821	21×17－17	56.33	１層	A
P822	30×25－30	55.98		
P823	24×23－36	56.01		
P824	40×23－21	56.31	１層	B
P825	33×20－13	56.36	１層	B
P826	30×26－54	55.85	１層	D、Aブロック含む
P827	48×42－49	56.03		
P828	23×23－31	56.05	１層	A
P829	24×19－42	55.96	３層	柱跡：A　掘方：D
P830	32×27－30	55.86	１層	B
P831	22×18－26	55.99	１層	B
P832	31×24－16	56.02	１層	D、Aブロック含む
P833	35×30－23	55.92	１層	B
P834	25×23－14	56.53	１層	B
P835	29×25－28	56.36	１層	A
P836	20×19－18	56.53	１層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P837	32×25－13	56.57	１層	A
P838	24×23－21	55.79	１層	B
P839	25×22－60	55.48	１層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P840	29×(24)－38	55.90	１層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P841	34×31－40	55.88	１層	A
P842	27×24－17	55.78		
P843	34×31－40	55.77	１層	A、地山Ⅵ層ブロック含む
P844	38×28－60	55.76	１層	B、地山Ⅴ層ブロック含む
P845	47×37－27	55.69		
P846	42×27－34	55.99		
P847	42×40－31	55.65		
P848	30×22－42	57.00	４層	抜き取り痕：A　B　掘方：B
P849	20×20－25	56.27		
P850	34×27－23	56.52		
P851	21×20－7	56.61		
P852	19×17－25	56.74		
P853	30×29－19	56.38		
P854	30×22－31	56.23		

A：　暗褐色粘質土
B：　褐色粘質土
C：　黒褐色粘質土
D：　黄褐色粘質土

住居の主柱穴と変わらない断面長方形で深さ50cm以上残るようなものなども存在するが、対応するものを検出できない場合が存在した。これなどは本来は何らかの遺構の一部を構成する柱穴であったと推測される。

ほとんどのピットからは遺物が出土しなかったが、少数ではあるが遺物が出土したものも存在する。図化できたのは土器374～394、石器Ｓ25である。

374～383は弥生土器の甕。384は鋸歯文が描かれた胴部。385・386は脚部。387は高台を持つ底部。388～390は弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての甕。391は小型丸底壺。392は須恵器の坏身。393は円形のカキ目が残る須恵器片。394は須恵器の高坏脚部。Ｓ25は敲石である。

374～383は弥生時代中期後葉段階。383～390は弥生時代終末期から古墳時代前期段階。392～394は須恵器で古墳時代後期以降の段階である。（西川）

４．遺構外出土遺物（図213～218　図版70～73）

遺構内出土遺物以外のものについては、遺構外出土遺物として一括してここで述べる。

395は縄文時代の深鉢。396は外面に円弧状の沈線を描く胴部。397は外面に縦方向の沈線を数多く施すもので、管見の限り類例の無い特異な鉢である。時期不明ながら縄文土器と推測する。398は突帯に刻みを施す突帯文土器。399～417は弥生時代中期から後期にかけての甕である。内面調整が確認できないものも存在するが、基本的には頸部にハケ目調整が施されている。そのなかで、399・405はケズリ調整となっており、後期前葉に下る可能性がある。399は口縁部形態が他と異なるものであり、搬入品の可能性が考えられる。401～403には円形浮文が貼り付けられる。418～434は弥生時代の壺である。418～423は複合口縁を呈する壺である。それに対し424～433は広口壺である。434は広口壺ないし器台と推測するもので、類似する形態の遺物が竪穴住居２に存在する。竪穴住居２の土器15は透しが存在するため下半部と判断したが、434は風化が激しく内面調整が不明であるが透しが存在しないため上半部と判断した。435は頸部に帯状の突帯を貼り付けて刻みを施すもの。436は無頸壺と考えるものである。437～441は高坏である。437～439はわずかに内傾する坏部。440・441は多条沈線が施される筒部である。442～454は高坏の脚部と考えるものであるが、器台の脚部が含まれる可能性も否定できない。このうち、454は５条の沈線間に綾杉文が描かれ、残存で２条の鋸歯文が認められるものである。455～459は底部であり、平底と高台付きのものがある。460は器高約８cmの小型品であるが、残存部に１つの穿孔が認められ、イイダコ壺と考えられるものである。461は４条の沈線で半円が描かれるものであるが器種は不明である。465は鋸歯文の描かれた胴部。466は分銅形土製品で、遺存状態は良くないが表面縁辺部には櫛列点文、その内側に竹管文が認められる。468・469は土師器甕。470～474は須恵器で、470は竹管文と複線波状文が施される甕ないし壺。471～473は糸切り痕を持つ平底の坏。474は高台を持つ坏である。石器では、Ｓ26～30は石鏃。Ｓ31～33は石斧で、Ｓ32は太形蛤刃石斧の刃部、Ｓ33は完形の扁平片刃石斧である。Ｓ34は砥石で、使用痕である断面Ｖ字状の溝が複数認められる。Ｓ35は平滑面とほぼ並行する擦痕が残るもので、砥石の可能性が考えられる。Ｓ36・40は打ち欠け石錘。Ｓ37は石匙、Ｓ38・39・41は石器素材と推測するもの。Ｓ42～45は敲石、Ｓ46は石皿である。（西川）

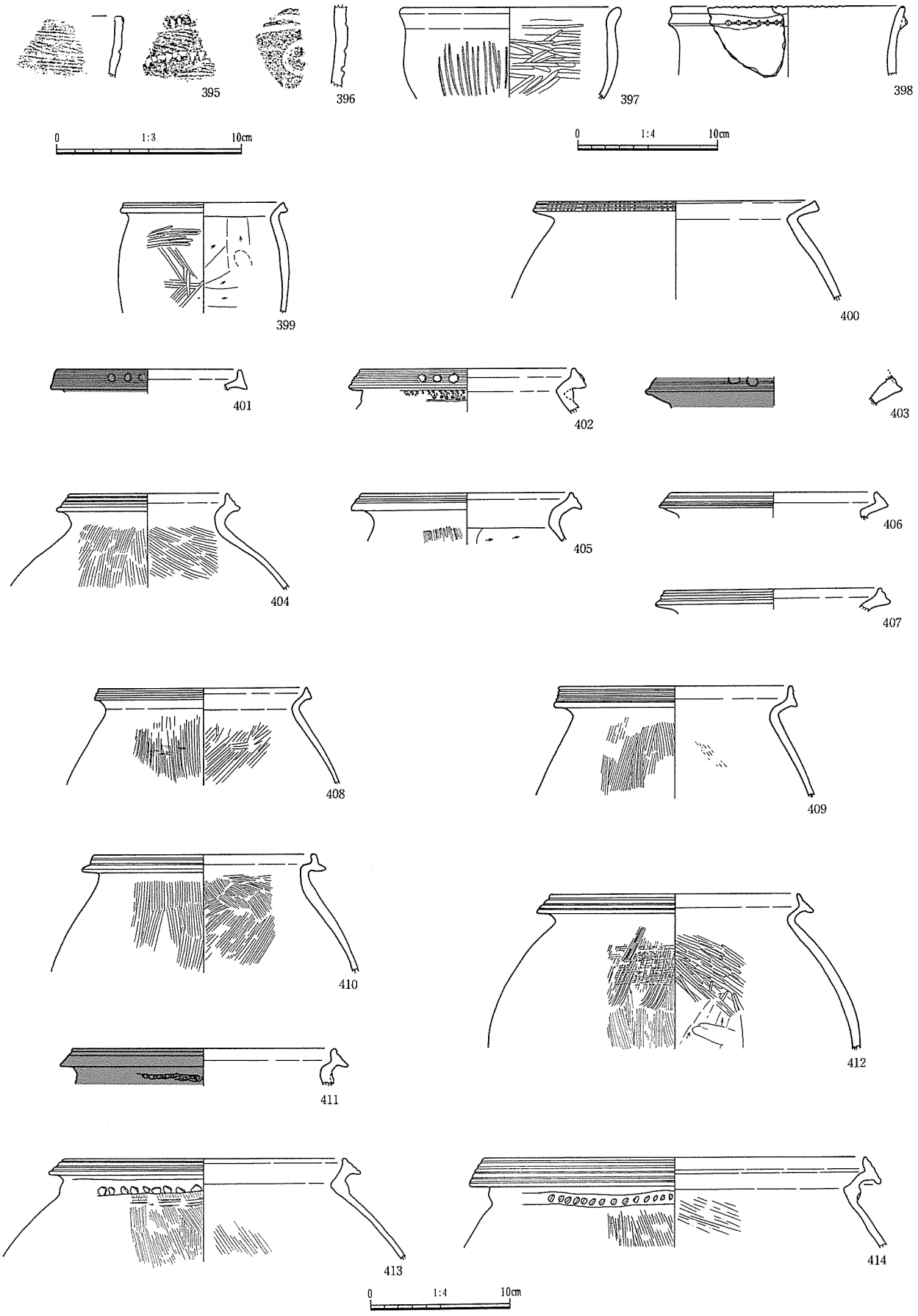


図213　遺構外出土遺物（１）

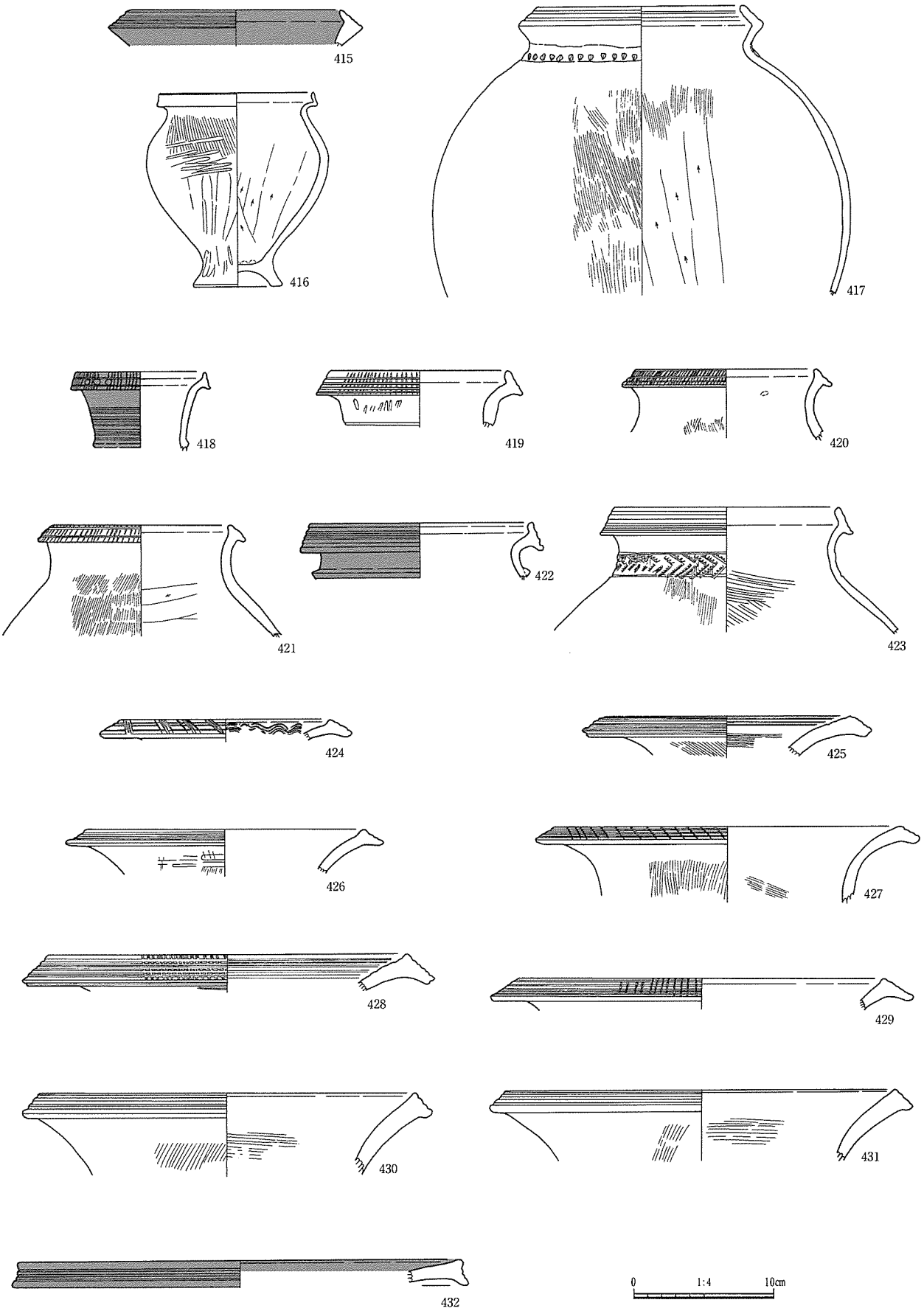


図214　遺構外出土遺物（２）

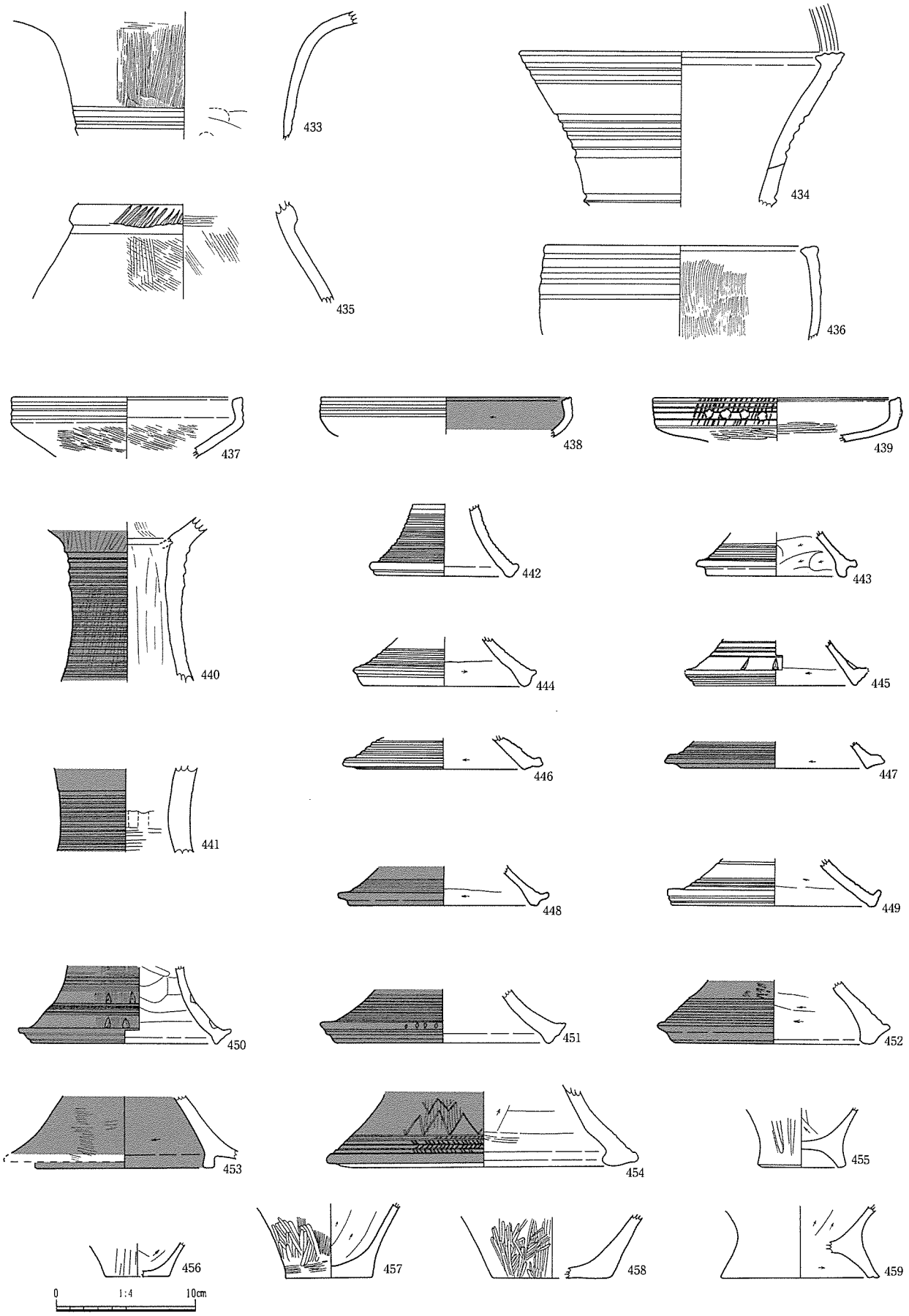


図215　遺構外出土遺物（３）

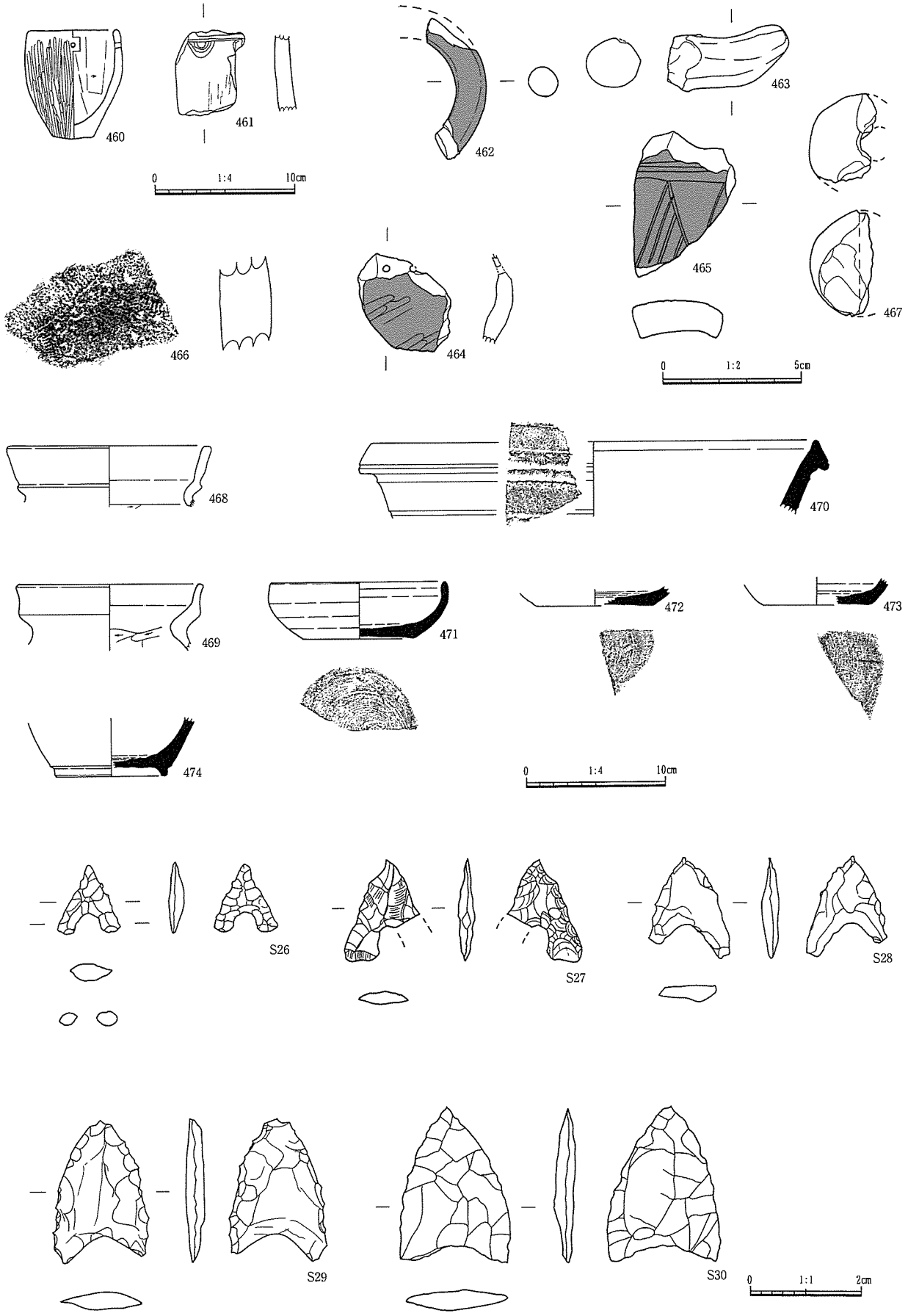


図216　遺構外出土遺物（４）

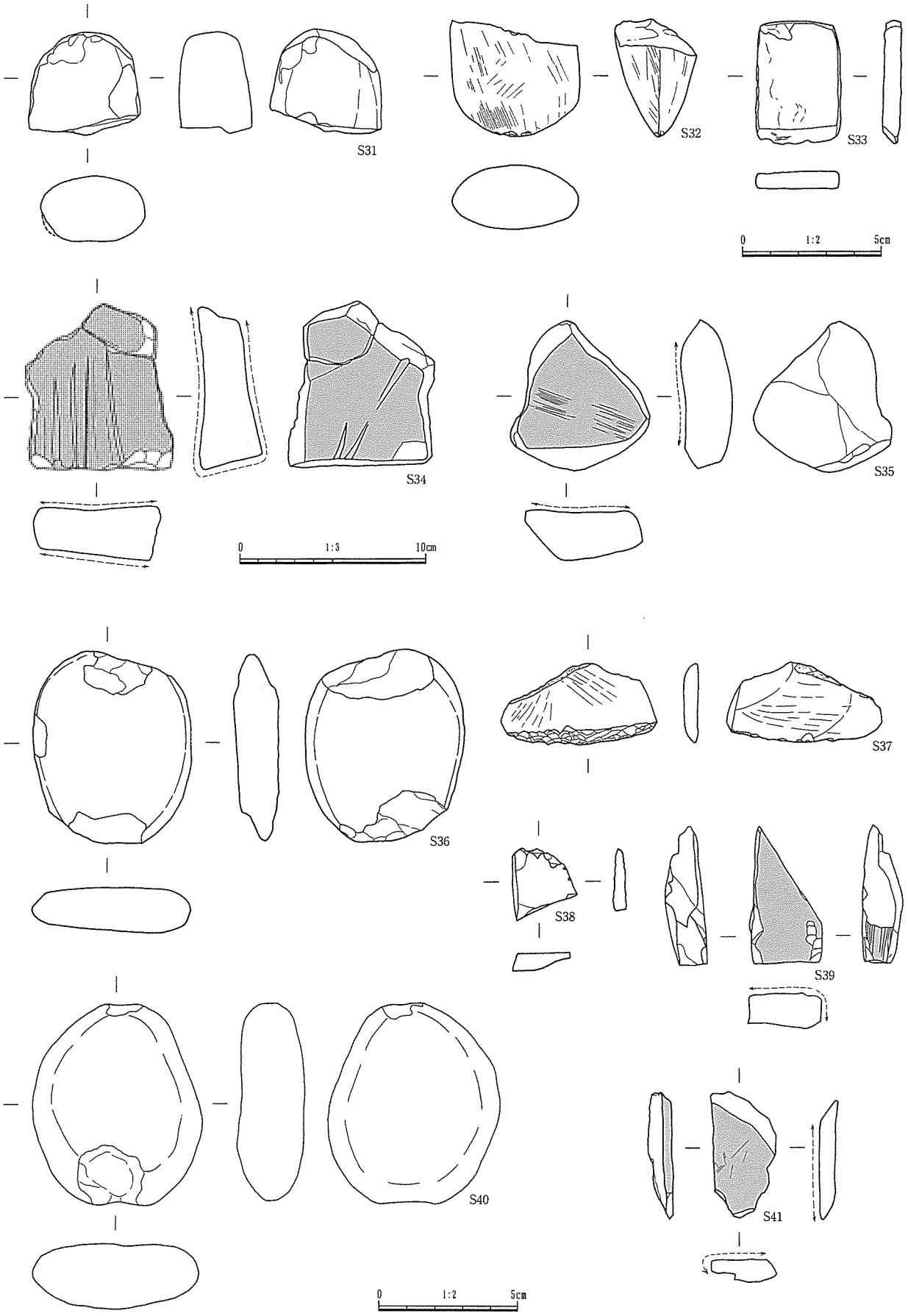


図217　遺構外出土遺物（５）

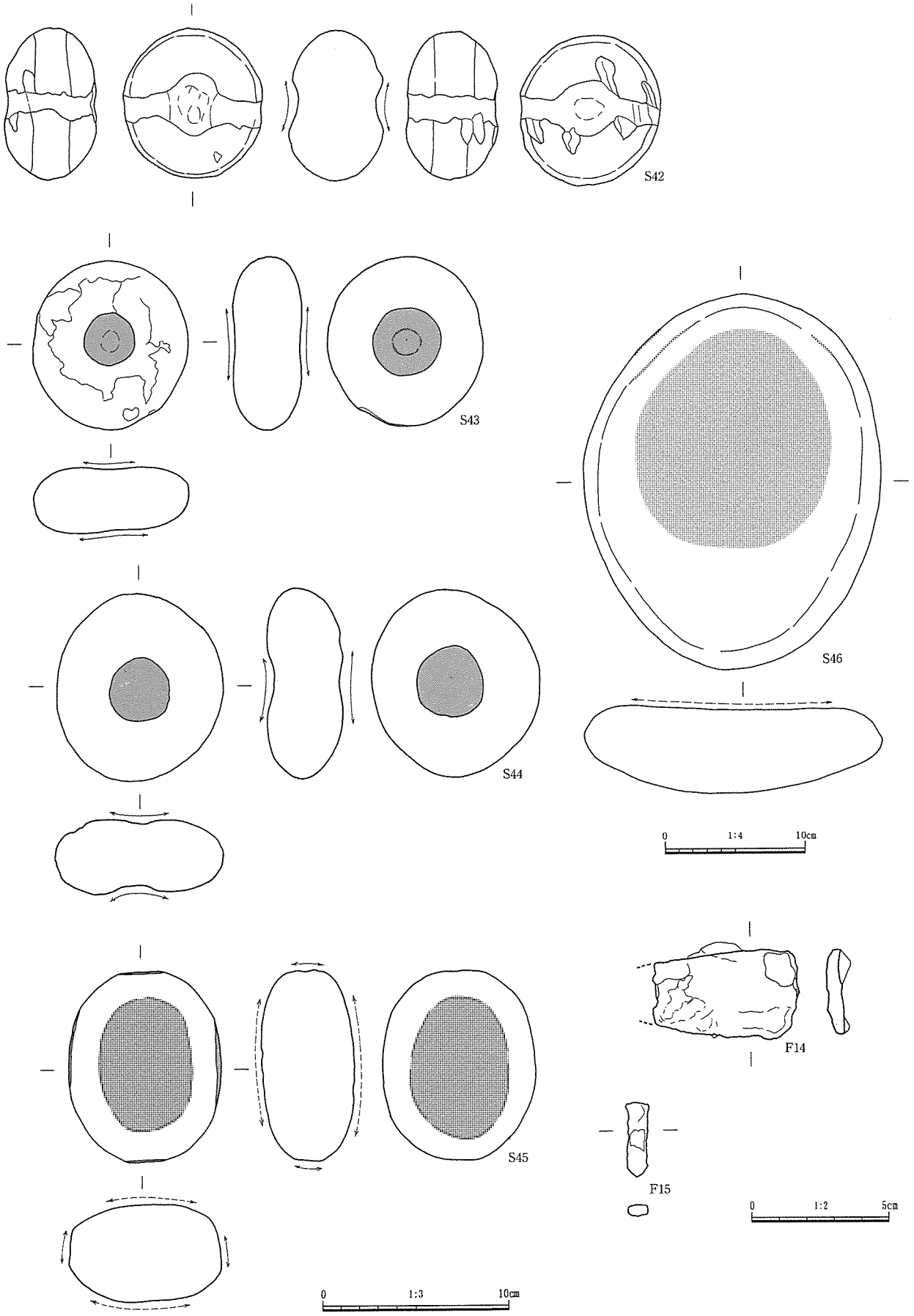


図218　遺構外出土遺物（６）

表８　竪穴住居計測表

遺構名	平面形	主柱穴数	規模（）は残存値 規模 m	床面積 ㎡	深さ cm	床面標高 m	時期	主柱穴長径－深さ(cm) P１	P２	P３	P４	P５	P６	備考
竪穴住居１	円形	4	(4.0)×(3.5)	(9.9)	47	55.1	弥生時代中期後葉	43－33	43－20	50－78	55－70	36－19	28－37	主柱穴４、中央P周りに柱穴P５・６
竪穴住居２	方形状	1	(4.9)×(2.8)	(8.5)	80	54.5	弥生時代中期後葉	52－147	－	－	－	－	－	
竪穴住居４	円形	6	3.8×3.4	(6.2)	42	46.0	弥生時代中期後葉	中央P	25－13	23－15	28－13	28－13	24－17	床面半分程度流失
竪穴住居５	方形状	－	2.7×(1.4)	(1.9)	35	55.6	弥生時代中期後葉	－	－	－	－	－	－	
竪穴住居６b	円形	4	3.8×(2.2)	(7.4)	62	55.2	弥生時代中期後葉	29－19	33－44	32－20	40－86	－	－	
竪穴住居６a	円形	－	－	－	－	－	弥生時代中期後葉(?)	－	－	－	－	－	－	
竪穴住居７	方形状	1	3.1－1.3	(3.1)	42	54.2	弥生時代中期後葉	30－36	－	－	－	－	－	
竪穴住居８b	隅丸六角形	6	7.2×7.0	(38.8)	24	56.5	弥生時代中期後葉	P6 50－43	P7 26－40	P8 40－35	P9 46－50	P10 55－88	P11 24－68	主柱穴６ 中央P周りに柱穴２
竪穴住居８a	円形	5	6.0×5.5	25.7	24	56.5	弥生時代中期後葉	40－65	57－24	45－72	42－27	55－80	－	
竪穴住居９	楕円形状	4	(4.5)×(1.5)	(5.4)	4	56.8	弥生時代中期後葉	25－71	31－74	33－66	33－75	－	－	竪穴住居８に切られる
竪穴住居10	楕円形状	6	(5.6)×(1.7)	(5.1)	7	56.8	弥生時代中期後葉	26－15	28－30	31－21	55－48	26－70	－	竪穴住居９に切られる
竪穴住居11b	円形	4	5.2×4.9	(16.2)	10	56.0	弥生時代中期後葉	P1 43－46	42－48	38－66	P4 45－48	P8 37－43	P9 47－53	主柱穴４， 中央P周りに柱穴P８，９
竪穴住居11a	円形	4	4.6×(4.5)	(19.0)	10	56.0	弥生時代中期後葉	P5 45－48	42－48	38－66	－	P8 37－43	P9 47－53	主柱穴４， 中央P周りに柱穴P８，９
竪穴住居12	長方形	3	3.4×(2.7)	7.3	23	55.7	弥生時代中期	43－18	29－12	22－15	－	－	－	周溝外に連なる小ピット多数あり
竪穴住居13	長方形	2	4.7×3.7	(13.9)	43	56.0	弥生時代終末期－古墳時代前期	42－50	25－53	－	－	－	－	住居に伴うP無し
竪穴住居14	長方形	2	8.0×5.1	イ：40.8 ロ：27.6 ハ：8.8 ニ：3.1	48	56.0	古墳時代前期前葉	62－96	64－80	－	－	－	－	イ：総床面積 ロ：床だけの面積 ハ：東側ベッド状遺構の面積 ニ：西側ベッド状遺構の面積
竪穴住居15	隅丸五角形状	3(4)	4.7	(23.8)	88	55.1	弥生時代終末期	58－41	76－28	54－56	－	－	－	主柱穴の１つは調査地外
竪穴住居16	六角形状	6	8.9×8.4	(52.4)	52	55.6	弥生時代終末期後葉	40－69	45－70	45－87	48－58	43－75	43－62	主柱穴６，その他中央P周りに柱穴４
竪穴住居17b	隅丸方形	5	6.9×6.7	33.4	72	55.1	古墳時代前期中葉	58－70	65－65	44－74	33－74	65－50	－	
竪穴住居17a	隅丸方形	5	6.0×5.7	29.3	72	55.1	古墳時代前期中葉?	58－70	65－65	44－74	33－74	65－50	－	
竪穴住居18	方形	4	5.6×5.5	21.2	46	56.2	古墳時代後期中葉	48－51	41－51	42－76	43－59	－	－	
竪穴住居19b	方形状	3(4)	6.2×(3.9)	(18.3)	78	55.4	弥生時代終末期－古墳時代前期?	53－55	42－60	52－73	－	－	－	主柱穴の１つは調査地外
竪穴住居19a	方形状	3(4)	4.7	(13.1)	78	55.4	弥生時代終末期－古墳時代前期?	－	－	－	－	－	－	主柱穴の１つは調査地外
竪穴住居20	円形	－	(3.4)×(0.6)	(6.9)	44	55.6	時期不明	－	－	－	－	－	－	
竪穴住居21	方形状	－	－	(1.3)	44	56.0	時期不明	－	－	－	－	－	－	
竪穴住居22	－	－	－	－	76	56.0	時期不明	－	－	－	－	－	－	

表９　掘立柱建物計測表

遺構名	梁行（間）	桁行（間）	主軸	面積（㎡）	備考
掘立柱建物１	2	6	N－19°－W	30.5	※１
掘立柱建物２	1	2	N－38°－W	20.6	
掘立柱建物３	1	2	E－１°－N	8.9	
掘立柱建物４	1	3	N－28°－W	26.4	
掘立柱建物５	2	2	N－24°－W	9.8	
掘立柱建物６	1	2	N－29°－W	22.4	屋内棟持柱あり
掘立柱建物７	1	2	E－１°－S	4.3	
掘立柱建物８	1	2	N－14°－W	9.4	
掘立柱建物９	3	3	N－23°－W	28.1	
掘立柱建物11	1	2	E－13°－N	29.5	柱当りを基に計測
掘立柱建物12	2	6	E－４°－S	57.6（49.2）	（）は間仕切り内の面積
掘立柱建物13	1	2	E－27°－N	8.1	掘立柱建物12と重複
掘立柱建物14	1	2	E－22°－N	17.8	
掘立柱建物15	1	1	E－25°－N	6.6	
掘立柱建物16	1	2	E－24°－N	7.2	
掘立柱建物17	1	2	E－２°－N	9.1	掘立柱建物12と重複
掘立柱建物18	1	2	N－８°－E	15.1	
掘立柱建物19	1	2	E－２°－N	7.4	
掘立柱建物20	1	1	N－24°－W	5.4	
掘立柱建物21	1	2	N－５°－W	12.2	
掘立柱建物22	2	2	N－17°－W	13.4	
掘立柱建物23	1	1	N－27°－W	6.3	
掘立柱建物24	3	3	E－19°－N	23.2	
掘立柱建物25	1	2	N－４°－W	6.2	
掘立柱建物26	3※２	4※２	E－41°－N		調査地外に外れる
掘立柱建物27	1※２	1※２	E－30°－N		調査地外に外れる
掘立柱建物28	1	2	E－30°－N	7	
掘立柱建物29	1	2	N－23°－W	7.5	
掘立柱建物30	1	2	E－26°－N	7.7	
掘立柱建物31	1	2※３	N－27°－W	10.9	
掘立柱建物32	2	3	N－７°－W	15.5	
掘立柱建物33	1	3	N－９°－W	16.05	
掘立柱建物34	2	2	N－32°－W	12.6	
掘立柱建物35	1	2	E－25°－S	7.9	
掘立柱建物36	1	1	N－15°－W	4.8	

※１身舎の規模を表す。※２調査地内での規模。※３復原

表10　遺物観察表　土器

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
1	竪穴住居１	10	54	甕	(12.5)	－	(2.9)	橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外２条の擬凹線
2	竪穴住居１	10	54	甕	(13.3)	－	(2.0)	褐灰色	ナデ	ナデ	1/5	口縁外擬凹線、外面煤付着 内黒斑
3	竪穴住居１	10	54	甕	(11.7)	－	(16.2)	浅黄橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ミガキ	1/2	外口縁に擬凹線、胴部ミガキ。内胴下部に指頭圧痕
4	竪穴住居１	10	54	甕	(17.8)	－	(11.8)	にぶい黄橙－橙色 にぶい黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ ミガキ	1/2	口縁３条の擬凹線、頸部より下ハケ後ナデ、最大径部ミガキ。外面煤付着
5	竪穴住居１	10	54	甕	(20.9)	－	(22.4)	にぶい褐色 にぶい黄橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ナデ、ハケ ミガキ	1/4	外口縁３条擬凹線、頸部以下ハケの上から波状文、平行凹線、波状文の３つの施文、最大径部に６条凹線それ以下に煤付着 内底1/3はケズリ
6	竪穴住居１	10	54	甕	(22.9)	－	(5.9)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	1/4	口縁外３条の擬凹線
7	竪穴住居１	10	－	甕	(15.3)	－	(5.6)	浅黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/2	口縁外工具によるナデ、ハケ内頸部指押さえ、ナデ
8	竪穴住居１	10	54	壺	(31.2)	－	(3.0)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外 円形浮文、斜格子文、２条擬凹線、指押さえ後ナデ
9	竪穴住居２	12	54	甕	(13.7)	－	(4.5)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ		
10	竪穴住居２	12	54	甕	(16.7)	－	(6.0)	灰黄褐色 にぶい橙色	ナデ	ハケ、ナデ		外煤付着
11	竪穴住居２	12	54	壺	(21.4)	－	(2.5)	橙色	ナデ	ナデ		口縁外３条の擬凹線
12	竪穴住居２	12	54	壺	(23.6)	－	(4.0)	灰黄褐色 黒灰色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/8	外口縁３条の擬凹線、 内黒斑
13	竪穴住居２	12	54	壺	(21.0)	－	(3.7)	橙色	ナデ	ナデ、ハケ		
14	竪穴住居２	12	54	脚	－	(15.3)	(2.9)	灰-橙色 灰褐色	不明	ナデ		外３条の擬凹線、刻み目。赤彩
15	竪穴住居２	12	54	器台 脚部	－	(16.0)	(5.2)	橙色 にぶい橙色	ハケ、ナデ	ナデ？	1/8	外面下端部に３条の擬凹線、透し
16	竪穴住居３	13	54	甕	(14.7)	－	(5.0)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/10	
17	竪穴住居３	13	54	甕	(18.1)	－	(4.1)	橙色	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	1/8	口縁外２条の擬凹線
18	竪穴住居４	15	54	甕	(16.8)	－	(9.2)	橙色	不明	ハケ	1/3	外口縁に円形浮文、斜格子文胴12条沈線・斜格子文
19	竪穴住居４	15	54	壺	(15.2)	－	(11.3)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ	1/3	外口縁擬凹線、刻み目、頸部ハケ・擬凹線、肩部ハケ内頸部指押さえ後ナデ
20	竪穴住居５	17	－	甕	(13.3)	－	(3.0)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外１条の擬凹線
21	竪穴住居５	17	55	甕	(17.8)	－	(3.0)	橙色	ナデ	ハケ、ナデ		口縁外２条の擬凹線
22	竪穴住居５	17	55	甕	(19.8)	－	(2.2)	橙色	ナデ	ナデ		外口縁２条擬凹線 頸部貼付突帯
23	竪穴住居５	17	55	甕	(19.0)	－	(2.5)	橙色	ナデ	ハケ	1/12	外口縁４条擬凹線。内煤付着
24	竪穴住居５	17	55	壺	(9.5)	－	(6.0)	灰赤褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ		口縁穿孔（外→内）、外口縁上端１条沈線、口縁２条擬凹線、肩突帯部、刻み目
25	竪穴住居６	19	55	甕	(12.2)	－	(4.5)	黄褐色	ナデ	ナデ	1/4	
26	竪穴住居６	19	55	甕	(13.2)	－	(5.5)	橙色-灰褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ		
27	竪穴住居６	19	55	底部	－	(6.0)	(4.3)	にぶい橙色 にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ、ミガキ		外底部ケズリ
28	竪穴住居６	19	55	土製品	孔径 －	長さ 3.5	幅 3.0	灰褐色				分銅形土製品
29	竪穴住居６	19	55	土製品	0.55	3.8	3.5	灰黄褐色				土玉
30	竪穴住居６	19	55	土製品	0.55	3.2	3.0					土玉、欠損あり
31	竪穴住居７	21	55	甕	(16.8)	－	(2.3)	にぶい褐色	ナデ	ナデ		口縁外２条の擬凹線
32	竪穴住居７	21	55	甕	(17.4)	－	(1.6)	橙色	ナデ	ナデ		口縁外２条擬凹線、煤付着
33	竪穴住居７	21	55	碗	(15.7)	－	(5.7)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ		外口縁上端２条擬凹線、口縁上部３条擬凹線、胴部４条擬凹線。内工具ナデ
34	竪穴住居７	21	55	脚	－	(23.5)	(3.7)		ケズリ	ナデ		外下端側面各々２条擬凹線 外面赤彩

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
35	竪穴住居7	21	69	不明	－	－	(2.4)	黒褐色	不明	不明		
36	竪穴住居8	24	55	甕	(11.9)	－	(2.2)	浅橙色	ナデ	ナデ	1/9	口縁外3条の擬凹線、煤
37	竪穴住居8	24	55	甕	(13.5)	－	(3.7)	橙色	不明	ナデ	1/7	口縁外2条沈線
38	竪穴住居8	24	55	甕	(14.2)	－	(3.0)	橙色	ハケ、ナデ	ナデ	1/8	外口縁3条擬凹線、頸部煤
39	竪穴住居8	24	55	甕	(16.7)	－	(1.8)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/12	外口縁3条擬凹線
40	竪穴住居8	24	55	甕	(12.4)	－	(7.9)	浅黄色	ナデ	ハケ、ナデ	1/5	外口縁3条沈線
41	竪穴住居8	24	55	甕	(14.0)	－	(7.7)	淡黄色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/5	外口縁3条沈線、胴部煤
42	竪穴住居8	24	55	甕	(12.8)	－	(15.2)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/2	外口縁2条擬凹線、胴下部煤付着
43	竪穴住居8	24	56	甕	(20.7)	－	(24.8)	黄灰色	不明	ハケ、ミガキ	1/4	外口縁4条沈線胴下部煤
44	竪穴住居8	24	55	壺	(20.0)	－	(2.8)	にぶい黄褐色	ナデ	ナデ	1/16	口縁外3条擬凹線、斜格子文
45	竪穴住居8	24	55	壺	(24.6)	－	(2.1)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外3条擬凹線 内口縁上端波状文
46	竪穴住居8	24	－	不明	(14.8)	－	(2.0)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/16	高坏?内外各々2条沈線あり
47	竪穴住居8	24	55	坏身	(15.4)	－	(3.0)	赤褐色 浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/16	外6条擬凹線 内上端部2条擬凹線
48	竪穴住居8	24	55	脚部	－	(14.5)	(3.0)	橙色	ナデ	不明	1/6	外下端かすかに沈線残る
49	竪穴住居8	24	55	底部	－	(8.0)	(1.5)	淡橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/3	内底部粘土つなぎ痕あり
50	竪穴住居8	24	55	底部	－	(5.3)	(4.3)	黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/2	内工具による押さえナデ
51	竪穴住居8	24	55	底部	－	(5.9)	(8.0)	にぶい黄色	ケズリ	ミガキ	－	内底部に指押さえ
52	竪穴住居9	27	56	甕	12.0	－	22.5	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/2	外口縁3条擬凹線、胴部煤
53	竪穴住居10	29	55	甕	(16.3)	－	(2.0)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外3条の擬凹線
54	竪穴住居10	29	55	不明	(16.8)	－	(2.0)	淡黄橙色	ナデ	ナデ	－	皿か? 外3条の擬凹線
55	竪穴住居11	32	56	甕	(14.0)	－	(2.4)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外3条の擬凹線
56	竪穴住居11	32	56	甕	(15.6)	－	(3.9)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	口縁外2条の沈線
57	竪穴住居11	32	56	甕	(20.0)	－	(9.8)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外3条の沈線
58	竪穴住居11	32	56	甕	(12.0)	－	(10.0)	明黄褐色 にぶい黄橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁3条擬凹線後刻み目、胴ハケ、ヘラ状工具による刻み目
59	竪穴住居11	32	56	底部	－	(6.7)	(5.4)	黒褐色 にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ミガキ	－	
60	竪穴住居11	32	56	底部	－	(8.2)	(3.9)	にぶい黄橙色 明黄褐色	ケズリ	ナデ、ミガキ	－	外側面ミガキ、底ナデ 内不定方向のケズリ
61	竪穴住居12	35	57	甕	(8.8)	－	(3.0)	橙色	ハケ、ナデ	ナデ	－	外口縁2条の擬凹線
62	竪穴住居12	35	57	壺	(7.4)	－	(4.8)	明黄褐色 浅黄橙色	ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外3条の擬凹線
63	竪穴住居12	35	57	甕	(14.0)	－	(4.2)	明黄褐色	ナデ	ナデ	－	口縁外3条の平行沈線
64	竪穴住居12	35	57	甕	10.8	4.8	18.6	明黄褐色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ナデ、ミガキ	－	外口縁3条擬凹線、厚く煤付着。内頸部ハケ、下部ケズリ
65	竪穴住居12	35	57	甕	(14.3)	－	(24.6)	明黄褐色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ナデ、ミガキ	－	外煤、口縁3条平行沈線内口縁ナデ胴ハケ、ハケナデ消し。胴下部ケズリ
66	竪穴住居12	35	57	甕	(16.4)	－	(19.7)	にぶい黄橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁3条平行沈線、胴部以上煤付着。内口縁・頸部ナデ頸部以下ハケ・ケズリ
67	竪穴住居12	35	57	壺頸部	－	－	(6.6)	にぶい黄橙色 明黄褐色	ハケ	ハケ、ナデ	－	
68	竪穴住居12	35	57	高坏脚部	－	(13.8)	(5.0)	明赤褐色 にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	－	外5条沈線、下端1条擬凹線、赤彩
69	竪穴住居12	35	57	底部	－	(8.0)	(7.6)	黄橙色 にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
70	竪穴住居12	35	57	底部	－	(5.2)	(4.1)	にぶい黄橙色 橙色	ケズリ、ナデ	ミガキ	－	内側面は上方へのケズリ、底ナデ
71	掘立柱建物1	37	57	鉢	－	－	(3.7)	にぶい黄橙色 灰黄褐色	刻み目	条痕	－	縄文土器
72	掘立柱建物1	37	57	甕	(16.0)	－	(2.9)	橙色	ナデ	ナデ	1/12	外口縁3条擬凹線、頸部貼付突帯
73	掘立柱建物1	37	57	甕	(17.3)	－	(3.1)	橙色	ナデ	ナデ	1/6	外口縁4条擬凹線、頸部貼付突帯

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
74	掘立柱建物１	37	57	甕	(15.8)	－	(3.8)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/4	外口縁沈線上に刻み目、頸部貼付突帯
75	掘立柱建物１	37	57	壺	(16.8)	－	(1.3)	橙色	ナデ	ナデ	－	外口縁上部と下部各々１条擬凹線。内口縁３条擬凹線
76	掘立柱建物１	37	57	壺	(16.2)	－	(3.0)	橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/8	口縁外２条擬凹線。口縁内上端に７条の擬凹線
77	掘立柱建物２	39	58	高坏	－	－	(3.8)	浅黄－赤色 黄灰色	シボリ目	ナデ	1/4	筒部、外５条擬凹線、赤彩
78	掘立柱建物２	39	58	底部	－	(7.0)	(3.5)	淡黄橙色 にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	1/2	外は胴部・底部ともにナデ内上方向へのケズリ
79	掘立柱建物３	41	58	脚部	－	(16.0)	(7.5)	淡橙色 橙色	ケズリ	ナデ	－	外２組の４条沈線、その間に斜格子文、かすかに赤彩痕
80	掘立柱建物４	45	58	底部	－	(5.5)	(5.9)	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ、ミガキ	1/4	
81	掘立柱建物５	45	－	甕	(16.2)	－	(4.7)	浅黄橙色	ナデ	ハケ、ナデ	1/4	外口縁擬凹線、頸部突帯貼付
82	掘立柱建物５	45	58	底部	－	(10.5)	(2.9)	明黄褐色	ケズリ	ナデ	1/5	外４条の擬凹線、下端部煤付着
83	掘立柱建物６	47	58	甕	(13.5)	－	(1.4)	褐灰－にぶい黄橙－灰黄褐色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外３条の擬凹線、煤付着
84	掘立柱建物６	47	58	甕	(15.5)	－	(1.4)	橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外擬凹線、煤付着
85	土坑１	49	58	壺	(19.7)	－	(1.8)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
86	土坑２	50	－	甕	(15.7)	－	(1.5)	橙色	ナデ	ナデ	1/15	口縁外２条の擬凹線
87	土坑２	50	58	甕	(19.6)	－	(2.9)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外４条の擬凹線
88	土坑２	50	58	不明	(14.0)	－	(1.5)	灰黄褐色 にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	脚部か?
89	土坑３	53	58	甕	(20.6)	－	(3.0)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/8	外口縁３条沈線施文後工具による刻み目、頸部突帯貼付後ナデ
90	土坑４	55	58	甕	(11.3)	－	(1.6)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
91	土坑５	57	58	甕	(8.5)	－	(1.1)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外１条の擬凹線、刻み目
92	土坑５	57	58	甕	(9.7)	－	(2.0)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外１条の擬凹線
93	土坑５	57	58	壺	(16.0)	－	(2.9)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
94	土坑５	57	58	無頸壺	(11.9)	－	(3.4)	淡黄色	ナデ	ナデ	－	外７条の擬凹線
95	土坑５	57	58	底部	－	(4.4)	(6.0)	黒褐色 灰黄褐色	ケズリ	ミガキ	－	
96	土坑６	59	58	甕	(16.4)	－	(1.5)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の沈線
97	土坑７	61	58	甕	(13.0)	－	(2.3)	赤褐色 淡黄色	ナデ	ナデ	－	外口縁３条擬凹線上刻み目、頸部貼付突帯（つぶした様な形）、赤彩
98	土坑７	61	58	甕	(19.8)	－	(3.2)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	外口縁３条擬凹線上円形浮文・ヘラ状工具の刻み目、頸部貼付突帯（つぶした様な形）
99	土坑７	61	－	底部	－	(9.0)	(1.5)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	－	
100	土坑８	63	59	甕	(10.2)	－	(5.9)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ、ミガキ	－	口縁外１条擬凹線、内上端つぶれ・１条擬凹線、外胴部黒斑
101	土坑８	63	59	甕	(14.7)	－	(5.0)	にぶい橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	
102	土坑８	63	59	甕	(14.0)	－	(6.4)	にぶい黄橙色	ハケ、ナデ	ナデ	－	外頸部以下工具によるナデ
103	土坑８	63	59	甕	(14.7)	－	(1.9)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外３条の擬凹線
104	土坑８	63	－	甕	(15.7)	－	(1.2)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	1/14	外口縁２条の擬凹線、頸部煤付着
105	土坑８	63	59	甕	(18.0)	－	(2.9)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	内外煤、口縁外２条擬凹線
106	土坑８	63	59	甕	(16.7)	－	(8.0)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁２条擬凹線、胴煤付着内一部ケズリが上部に及ぶ
107	土坑８	63	59	甕	(16.2)	－	(9.0)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外１条の擬凹線
108	土坑８	63	59	甕	(16.7)	－	(9.5)	赤橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁２条擬凹線。内頸部以下極めて雑なハケ
109	土坑８	63	59	甕	(19.1)	－	(3.5)	灰黄褐色	ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁３条擬凹線、頸部貼付突帯に刻み目
110	土坑８	63	59	甕	(27.7)	－	(3.0)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	外口縁３条擬凹線施文後ミガキと刻み目、頸部貼付突帯
111	土坑８	63	－	甕	(19.8)	－	(7.8)	橙色	ハケ、ナデ	ナデ、ミガキ、ハケ	－	外口縁３条の擬凹線、頸部貼付突帯をミガキ

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
112	土坑８	63	59	壺	(20.9)	－	(9.3)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外面３条の擬凹線
113	土坑８	63	59	無頸壺	(10.0)	－	(3.4)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	焼成前両面穿孔 外６条擬凹線
114	土坑８	63	59	無頸壺	(14.1)	－	(7.0)	にぶい黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	4/10	穿孔、外６条の擬凹線、棒状浮文が縦に３条
115	土坑８	63	59	甕	(45.0)	－	(5.4)	灰褐色	ハケ	ナデ、ミガキ	－	外口縁ミガキ後斜格子文、頸部指頭圧痕
116	土坑８	63	59	壺	－	－	(8.6)	にぶい黄褐色 明黄褐色	ハケ	ハケ	1/12	外縦に貼付後指つまみ
117	土坑８	63	59	高坏	(17.7)	－	(3.0)	灰黄褐色	ナデ、ミガキ	ナデ	－	外煤付着、口縁３条擬凹線
118	土坑８	63	59	底部	－	(6.8)	(4.0)	灰黄褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ミガキ、ナデ	－	外底部ケズリ後粗いナデ
119	土坑８	63	59	底部	－	(9.5)	(2.5)	橙色	ケズリ、ナデ	不明	－	外風化のため調整不明
120	土坑９	65	58	甕	(20.3)	－	(1.6)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
121	土坑９	65	58	壺	(23.7)	－	(2.4)	橙色	ナデ	ナデ	1/8	外口縁５条沈線 内上端波状文
122	土坑10	67	58	甕	(14.2)	－	(1.8)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/12	口縁外３条の擬凹線、外面煤
123	テラス１	69	58	甕	(10.6)	－	(2.3)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/6	
124	テラス１	69	58	甕	(13.4)	－	(5.9)	にぶい黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/4	口縁外２条の擬凹線
125	テラス１	69	58	甕	(15.2)	－	(6.3)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/6	口縁外２条の擬凹線
126	テラス１	69	58	甕	(13.0)	－	(2.5)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外３条の擬凹線
127	テラス１	69	58	甕	(13.8)	－	(1.8)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	外口縁２条擬凹線 外面頸部煤付着
128	テラス１	69	－	甕	(13.8)	－	(1.3)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
129	テラス１	69	58	甕	(15.3)	－	(3.5)	茶褐－黒色	ナデ	ナデ	1/12	口縁外２条の擬凹線
130	テラス１	69	58	甕	(17.7)	－	(2.2)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/6	外全体に煤、口縁４条擬凹線
131	テラス１	69	58	甕	(20.4)	－	(2.2)	橙色	ナデ	ナデ	1/9	外口縁３条擬凹線、頸部貼付突帯
132	テラス１	69	－	甕	－	－	(3.7)	明黄褐色	ナデ	ナデ	－	外口縁に沈線、頸部に刻み目
133	テラス１	69	58	不明	(17.3)	－	(2.8)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/9	外口縁５条凹線上円形浮文と刻み目。内上端部に凹線？
134	テラス１	69	58	壺	(44.6)	－	(1.5)	灰褐色	ナデ	ナデ	1/12	口縁外斜行するハケ
135	土坑11	72	－	甕	(11.6)	－	(1.5)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の沈線
136	土坑11	72	60	甕	(14.5)	－	(2.0)	淡橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
137	土坑11	72	60	甕	(18.4)	－	(3.0)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	外口縁４条沈線、頸部貼付突帯
138	土坑11	72	60	甕	(19.0)	－	(2.8)	にぶい橙色	ハケ	ハケ、ナデ	－	口縁外および上端部に各々２条擬凹線
139	土坑11	72	60	甕	(12.0)	－	(5.5)	灰黄褐色	ケズリ、ミガキ	ナデ	－	外口縁３条擬凹線、頸部刻み目
140	土坑11	72	60	甕	(14.7)	－	(3.3)	灰褐色	ナデ、ハケ	ナデ	－	口縁外４条沈線
141	土坑11	72	60	甕	(14.6)	－	(3.4)	褐色	ケズリ、ミガキ	ナデ	－	口縁外５条沈線
142	土坑11	72	60	甕	(14.7)	－	(3.5)	褐色 黄褐色	ケズリ、ナデ、ミガキ	ナデ	－	口縁外４条擬凹線 外面煤付着
143	土坑11	72	60	甕	(15.4)	－	(4.1)	橙色	不明	ナデ	－	口縁外５条の沈線
144	土坑11	72	－	甕	(17.2)	－	(4.3)	灰－橙色 赤褐－橙色	ケズリ、ミガキ	ナデ	－	外口縁６条平行沈線、頸部刻み目
145	土坑11	72	60	甕	(15.7)	－	(5.7)	淡黄色	ケズリ、ナデ、ミガキ	ナデ	－	外口縁５条沈線、頸部刻み目
146	土坑11	72	60	甕	(16.7)	－	(3.7)	淡橙色	不明	ナデ	－	外口縁４条以上擬凹線、煤付着
147	土坑11	72	－	壺	－	－	(5.4)	橙色	ケズリ	ナデ	－	外頸部刻み目
148	土坑11	72	60	器台	(21.6)	－	(17.1)	灰－橙色 橙色	ケズリ、ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	－	外口縁４条擬凹線、筒部ミガキ、３方向穿孔 内上端１条凹線
149	土坑11	72	－	把手	－	－	(6.3)	橙色	－	－	－	
150	土坑11	72	60	底部	－	(6.0)	(5.0)	灰赤－にぶい橙色 灰－にぶい橙色	ケズリ	ケズリ、ミガキ	－	
151	竪穴住居13	75	61	壺	(20.2)	－	(1.9)	にぶい橙色	ミガキ	ハケ、ナデ	－	口縁外３条の擬凹線

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
152	竪穴住居13	75	61	脚部	－	(16.0)	(3.4)	灰褐色 にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
153	竪穴住居13	75	61	甕	－	－	(2.6)	淡橙色	ナデ	ナデ	－	
154	竪穴住居13	75	61	甕	－	－	(3.2)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
155	竪穴住居14	77	61	甕	(15.7)	－	(15.2)	橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外肩部刻み目・ハケ、煤付着。内胴下部指頭圧痕
156	竪穴住居14	77	61	低脚坏	(16.1)	(4.9)	(4.6)	橙色 明黄褐－橙色	ミガキ	ナデ	－	口縁上端を平坦化している
157	竪穴住居14	77	61	高坏	(11.8)	－	(5.2)	橙色	ナデ	ハケ	－	外不定方向のハケ
158	竪穴住居14	78	61	甕	(12.8)	－	(3.8)	灰褐色	ナデ	ナデ	－	
159	竪穴住居14	78	61	高坏	(14.4)	－	(3.5)	橙色	ナデ	ナデ	－	高坏受部
160	竪穴住居14	78	61	低脚坏	(14.4)	(3.9)	(3.6)	橙色 赤橙色	ミガキ、ナデ	ハケ、ナデ	－	内上部ミガキ後ナデ消し 内面赤彩
161	竪穴住居14	78	61	低脚坏	－	(8.6)	(2.2)	橙色	ナデ	ナデ	－	低脚坏の脚部
162	竪穴住居14	78	61	甕	(9.7)	－	(3.0)	黄褐色	ナデ	不明	－	
163	竪穴住居14	78	61	甕	(16.0)	－	(1.9)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条擬凹線
164	竪穴住居14	78	61	甕	(10.4)	－	(4.0)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
165	竪穴住居14	78	61	把手	最長 5.8	幅 1.7	厚 －	橙色	ナデ	ナデ	－	両端取り付け部は欠損
166	竪穴住居14	78	61	甕	(10.0)	－	(3.2)	にぶい黄橙色	ハケ、ナデ	ナデ	－	内ハケ後粗いナデ消し
167	竪穴住居14	78	61	甕	(15.3)	－	(4.3)	灰黄褐色 橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	－	外口縁下部、頸部にミガキ
168	竪穴住居14	78	61	甕	(11.4)	－	(4.1)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
169	竪穴住居14	78	61	甕	(11.2)	－	(3.1)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	
170	竪穴住居15	80	62	甕	(15.7)	－	(6.5)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外煤付着
171	竪穴住居15	80	62	甕	(19.5)	－	(4.0)	にぶい黄橙色	ナデ?	ナデ？	－	風化のため調整不明瞭
172	竪穴住居15	80	62	甕	(20.0)	－	(6.3)	にぶい黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/3	外煤付着。内頸部工具ナデ
173	竪穴住居15	80	62	甕	(22.3)	－	(6.2)	浅黄橙色	ケズリ、不明	ハケ、ナデ	1/4	
174	竪穴住居15	80	62	甕	(22.5)	－	(5.3)	灰黄褐色	ナデ	ナデ	1/15	
175	竪穴住居15	80	62	甕	(13.5)	－	(4.1)	にぶい黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/5	外煤付着、粘土つなぎ痕
176	竪穴住居15	80	62	甕	(13.1)	－	(4.2)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	外面煤付着
177	竪穴住居15	80	62	甕	(15.4)	－	(3.9)	灰黄褐色	ケズリ、ハケ、ナデ	ナデ	－	
178	竪穴住居15	80	62	甕	(16.9)	－	(4.9)	褐灰色 にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/12	
179	竪穴住居16	83	62	壺	(17.8)	－	(1.8)	明赤褐色	ナデ	ナデ	1/20	口縁外４条擬凹線上に円形浮文と刻み目、外面赤彩
180	竪穴住居16	83	－	甕	(13.7)	－	(4.7)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/10	外煤付着。内頸部指押さえ
181	竪穴住居16	83	62	甕	(12.5)	－	(2.9)	橙色	ナデ	ナデ	1/6	
182	竪穴住居16	83	62	甕	(11.9)	－	(4.1)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/4	内頸部以下ケズリ
183	竪穴住居16	83	62	甕	(12.4)	－	(3.4)	橙色 黄橙色	不明	ナデ	1/8	外煤付着 内風化のため調整不明
184	竪穴住居16	83	62	甕	(12.6)	－	(6.0)	にぶい黄橙色	ナデ、ケズリ	ナデ、ミガキ	1/4	外煤付着、口縁下端沈線?
185	竪穴住居16	83	62	甕	(12.7)	－	(3.7)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	
186	竪穴住居16	83	62	甕	(12.8)	－	(4.3)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	不明	1/4	外風化・剥離調整不明
187	竪穴住居16	83	62	甕	(13.3)	－	(3.6)	橙色	ナデ	ナデ	1/4	口縁外一部剥離
188	竪穴住居16	83	－	甕	－	－	(5.8)	橙色	ケズリ、ナデ	不明	1/2	口縁上端は摩滅している
189	竪穴住居16	83	62	甕	(13.7)	－	(4.2)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/10	
190	竪穴住居16	83	62	甕	(14.2)	－	(5.0)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/9	
191	竪穴住居16	83	62	甕	(14.9)	－	(5.6)	にぶい黄橙色 にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/12	口縁上端部下わずか凹む
192	竪穴住居16	83	62	甕	(14.5)	－	(4.2)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/6	外面煤付着
193	竪穴住居16	83	62	甕	(15.5)	－	(3.9)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/12	
194	竪穴住居16	83	62	甕	(15.8)	－	(3.2)	淡橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/8	
195	竪穴住居16	83	62	甕	(16.5)	－	(4.7)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/8	外煤付着
196	竪穴住居16	83	－	甕	(17.0)	－	(5.7)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/10	外肩部かすかにハケメ
197	竪穴住居16	83	62	甕	(17.8)	－	(7.3)	橙色	不明	ナデ、ハケ	1/5	外煤付着
198	竪穴住居16	83	63	甕	(12.1)	－	(9.9)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/4	外胴上部波状文、一部黒斑
199	竪穴住居16	83	63	甕	(15.4)	－	(10.0)	淡黄色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/4	外肩部縦ハケ後波状施文
200	竪穴住居16	83	63	甕	(16.0)	－	(11.8)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/3	外全体煤、肩部横ハケ・刻み目

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
201	竪穴住居16	83	62	甕	(14.1)	－	(4.7)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/6	
202	竪穴住居16	83	62	甕	(15.5)	－	(4.9)	橙色 にぶい褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/8	外煤付着
203	竪穴住居16	83	63	甕	(16.2)	－	(7.2)	橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/3	外胴上部横ハケ、波状文
204	竪穴住居16	83	－	甕	(19.5)	－	(5.2)	浅黄橙色	不明	不明	1/8	口縁上端平坦、上部内に凹み
205	竪穴住居16	83	63	甕	(13.4)	－	(9.8)	橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外肩部に刻み目、胴部細かいハケ
206	竪穴住居16	83	63	甕	(12.2)	－	(3.5)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/7	外口縁粗いナデ
207	竪穴住居16	83	－	甕	(14.8)	－	(4.0)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/20	外面煤付着
208	竪穴住居16	84	63	甕	(15.4)	－	(4.1)	褐灰色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/4	内外工具によるナデ
209	竪穴住居16	84	63	長頸壺	(10.2)	－	(7.1)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/4	頸部上端内側に屈曲
210	竪穴住居16	84	63	器台	(22.8)	－	(6.5)	にぶい橙色	ケズリ、ミガキ	ナデ	1/6	器台受部
211	竪穴住居16	84	63	高坏	26.6	－	(6.6)	にぶい黄橙色	ミガキ	ハケ、ナデ	1/1	上部ナデ下部ハケメ
212	竪穴住居16	84	63	鼓形器台	(20.0)	－	(6.6)	橙色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	1/2	
213	竪穴住居16	84	63	鼓形器台	(19.0)	－	(4.8)	橙色	ケズリ、ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	1/2	内右斜め横ケズリ後工具によるナデ
214	竪穴住居16	84	63	高坏	－	11.7	(8.9)	橙色	ケズリ、ナデ、ハケ	ハケ	1/1	内下端工具によるハケ
215	竪穴住居16	84	－	脚部	－	6.9	(1.9)	淡黄色	不明	ナデ	3/4	低脚坏の脚部
216	竪穴住居16	84	－	高坏	－	(15.9)	(2.0)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/5	脚部、内工具によるナデ
217	竪穴住居16	84	－	脚部	－	(16.5)	(2.7)	にぶい黄褐色	ケズリ、ナデ	不明	1/5	外調整不明瞭
218	竪穴住居16	84	－	碗	(16.0)	－	(6.4)	にぶい黄褐色	ケズリ	ハケ、ナデ	1/7	外面煤付着
219	竪穴住居16	84	63	坏蓋	(14.7)	－	(2.3)	青灰色	ナデ	ナデ	1/11	須恵器
220	竪穴住居16	84	－	坏蓋	(14.0)	－	(3.2)	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/7	外回転ヘラケズリ、須恵器
221	竪穴住居16	84	63	坏身	－	－	(4.2)	浅黄橙色 灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	1/6	須恵器
222	竪穴住居17	87	63	甕	(12.5)	－	(5.8)	浅黄色 浅黄橙色	ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁３条の擬凹線 外面煤付着
223	竪穴住居17	87	63	甕	(16.5)	－	(2.3)	明黄褐色 浅黄橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
224	竪穴住居17	87	63	甕	(12.5)	－	(2.0)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	口縁外４条の擬凹線
225	竪穴住居17	87	63	甕	(14.6)	－	(4.2)	にぶい黄色 明黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外煤付着、口縁２条の沈線
226	竪穴住居17	87	63	甕	(8.9)	－	(5.8)	明黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外煤付着、口縁１条擬凹線
227	竪穴住居17	87	64	高坏	－	－	(3.9)	黄橙色 黒色	ハケ、ナデ	ナデ	1/6	高坏脚部外５条の擬凹線・斜格子文・赤彩
228	竪穴住居17	87	64	高坏	－	(11.7)	(2.8)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	高坏脚部、外４条の擬凹線
229	竪穴住居17	87	64	高坏	－	(14.1)	(2.0)	明黄褐色	ケズリ	ナデ	－	脚部外３・２条擬凹線、赤彩
230	竪穴住居17	87	63	甕	(12.2)	－	(3.7)	浅黄－橙色 橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	内赤彩か?
231	竪穴住居17	87	63	甕	(12.5)	－	(4.3)	明黄褐色	ナデ、不明	ナデ	－	外面煤付着
232	竪穴住居17	87	63	甕	(13.0)	－	(5.1)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	内外煤付着
233	竪穴住居17	87	63	甕	(13.0)	－	(6.0)	淡黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外煤付着
234	竪穴住居17	87	63	甕	(14.0)	－	(5.4)	浅黄色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	－	
235	竪穴住居17	87	63	甕	(15.0)	－	(3.9)	にぶい黄橙色	ナデ、ミガキ	ナデ	－	内外煤付着
236	竪穴住居17	87	－	甕	(15.5)	－	(6.0)	淡橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、不明	－	
237	竪穴住居17	87	63	甕	(14.6)	－	(4.7)	淡黄褐－黒色 橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外煤付着、頸部に工具痕
238	竪穴住居17	87	64	甕	(11.5)	－	(16.2)	橙－明黄褐色 明黄褐色	ケズリ、ナデ指頭圧痕	ハケ、ナデ	－	
239	竪穴住居17	87	64	甕	(16.2)	－	(24.4)	明黄褐色	ケズリ、ナデ指頭圧痕	ハケ、ナデ	－	
240	竪穴住居17	87	63	甕	(10.3)	－	(5.3)	橙色	ケズリ、ハケ	ハケ、ナデ、ミガキ	－	
241	竪穴住居17	87	64	壺	(20.8)	－	(5.2)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	
242	竪穴住居17	87	64	甕	(25.3)	－	(5.2)	にぶい黄橙色	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	－	内外煤、口縁外下部工具痕
243	竪穴住居17	87	64	高坏	(11.1)	－	(4.6)	橙－にぶい黄橙色 褐灰色	ナデ	ナデ	－	

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
244	竪穴住居17	87	64	高坏	－	(11.1)	(7.2)	淡橙色	ケズリ	ハケ	1/4	外細かいハケ、筒部完存
245	竪穴住居17	87	－	高坏	－	(11.3)	(3.2)	にぶい黄橙色	ハケ	ハケ	1/3	脚部、外脚下端部調整不明
246	竪穴住居17	87	－	低脚坏	－	(7.5)	(2.8)	黄橙色	ナデ	ナデ	－	低脚坏脚部
247	竪穴住居17	87	－	低脚坏	－	(6.6)	(2.3)	黄橙色	ナデ	ナデ	－	受部底はミガキ
248	竪穴住居17	87	64	把手	－	－	－	赤色	－	ミガキ	－	把手径は2.3cm
249	掘立柱建物７	90	64	甕	(19.8)	－	(4.3)	灰黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	－	外煤付着、口縁上端平坦面
250	掘立柱建物７	90	64	甕	(18.9)	－	(4.7)	灰褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	－	口縁上端１条の沈線、外煤付着
251	土坑12	93	64	甕	(10.8)	－	(3.7)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	不明	－	外剥離
252	土坑12	93	64	甕	(14.0)	－	(3.7)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
253	土坑12	93	64	甕	(14.4)	－	(2.9)	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色	ミガキ	ナデ	－	外煤付着
254	土坑12	93	64	甕	(16.7)	－	(3.6)	黒褐色 灰黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外煤付着、内工具ナデ
255	土坑12	93	64	甕	(16.0)	－	(5.0)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外厚い煤付着
256	土坑12	93	－	手捏土器	(5.8)	－	(2.7)	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	－	外黒斑あり、下部は工具によるナデ
257	土坑13	94	65	甕	(15.9)	－	(4.7)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/12	
258	土坑13	94	65	甕	(34.1)	－	(10.0)	にぶい黄橙色	不明	ナデ	1/3	内風化により調整不明
259	土坑13	94	65	高坏	－	－	(8.4)	浅黄橙色 浅黄色	ケズリ、 シボリ目	ナデ	－	筒部完存、外上から４・５・４条の擬凹線あり
260	溝１	96	65	甕	(13.0)	－	(2.0)	淡橙色	ナデ	ナデ	－	
261	溝１	96	65	甕	(18.2)	－	(2.8)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	口縁３条擬凹線、頸貼付突帯
262	溝１	96	65	甕	(18.5)	－	(3.0)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁３条擬凹線、頸貼付突帯
263	溝１	96	65	甕	(21.5)	－	(3.4)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	口縁３条擬凹線、頸貼付突帯
264	溝１	96	65	壺	(20.0)	－	(1.7)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	口縁３条擬凹線、刻み目 口縁下端に１条の擬凹線
265	溝１	96	65	壺	(19.6)	－	(2.0)	にぶい黄橙色	ケズリ	ハケ、ナデ	－	口縁３条擬凹線
266	溝１	96	65	底部	－	(7.7)	(5.0)	にぶい橙色	ハケ	ナデ、ミガキ	－	
267	溝１	96	65	脚部	－	(13.2)	(3.9)	灰黄褐色	ケズリ	ナデ	－	外６条の沈線
268	溝１	96	73	器台	－	(18.8)	(4.3)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	－	器台脚部
269	古墳周溝	98	65	甕	(15.0)	－	(13.0)	橙色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケ	－	外胴部に刻み目
270	茶畑16号墳周溝	98	65	甕	(11.7)	－	(11.9)	黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケ	－	外一部煤付着、胴上部刻み目 内胴下部ナデ、指頭圧痕
271	茶畑14号墳	98	65	甕	(36.2)	－	(6.6)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/5	外口縁調整不明、頸部ナデ
272	古墳周溝	98	65	甕	(15.6)	－	(14.7)	浅黄橙色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケ	－	内胴上部指押さえ後ナデ
273	古墳周溝	98	65	甕	(14.3)	－	(5.3)	浅黄橙色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケ	1/6	外頸部下にハケ残る
274	古墳周溝	98	65	甕	(12.0)	－	(3.7)	にぶい黄褐色	不明	ナデ	1/5	外全体に煤付着
275	茶畑14号墳	98	－	高坏	(11.6)	－	(4.3)	にぶい黄橙色	不明	ナデ	－	外体部下部ハケ後ナデ
276	古墳周溝	98	－	脚部	－	(10.2)	(2.5)	橙色	ケズリ、ハケ	ハケ、ナデ	－	外筒部縦ハケ。内脚横ハケ
277	古墳周溝	98	－	皿	(14.7)	－	(2.9)	橙色	ミガキ	ナデ、ミガキ	－	外上端部ナデ
278	古墳周溝	98	－	手焙形土器	－	－	(9.8)	明黄褐色	ケズリ	不明	1/2	外ナデ?風化のため不明確
279	古墳周溝	98	65	脚部	－	(7.1)	(2.0)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	1/3	低脚坏脚部
280	古墳周溝	98	65	底部	－	(7.7)	(5.5)	黒褐色	ケズリ	ミガキ、ナデ	－	外中位と下部に３・２条凹線その間に未貫通透し
281	竪穴住居18	102	66	壺	(14.2)	－	(1.7)	明赤褐色	ナデ	ナデ	－	内外赤彩、口縁外４条擬凹線上にヘラ状工具による刻み目
282	竪穴住居18	102	66	壺	(19.4)	－	(2.1)	明褐色	ナデ	ナデ	－	外赤彩、口縁４条擬凹線上刻み目。円形浮文あり
283	竪穴住居18	102	66	壺	(22.1)	－	(1.9)	橙色	ナデ	ナデ	－	内外赤彩、口縁外４条擬凹線上に刻み目
284	竪穴住居18	102	66	無頸壺	(16.6)	－	(3.2)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	体上部穿孔、斜格子状沈線
285	竪穴住居18	102	66	甕	(10.1)	－	8.6	明黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	－	内底部指押さえ痕あり
286	竪穴住居18	102	66	甕	11.4	－	14.9	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	－	外煤付着。内底指頭圧痕
287	竪穴住居18	102	－	甕	－	－	(15.1)	浅黄色 にぶい黄色	ケズリ、ナデ	ミガキ	－	外全体に煤付着
288	竪穴住居18	102	66	甕	(17.0)	－	(13.4)	にぶい黄橙色	ケズリ、 ハケ、ナデ	ハケ、ナデ、 ミガキ	－	外上部煤付着
289	竪穴住居18	102	66	甕	20.9	－	29.5	橙色	ケズリ、 ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外煤付着 内底部に黒斑

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
290	竪穴住居18	102	－	甕	(10.9)	－	(5.0)	にぶい橙色 にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/4	
291	竪穴住居18	102	66	甕	(12.4)	－	(7.6)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外口縁工具ナデ、傷多い
292	竪穴住居18	102	－	高坏	(14.2)	－	(4.8)	黄橙色	ナデ	不明	1/8	調整不明瞭、内ナデか?
293	竪穴住居18	102	66	手捏土器	(8.8)	(4.1)	(6.5)	黒褐色	ナデ	ナデ	－	外工具の粗いナデ、ハケ底部未調整。内指頭圧痕
294	竪穴住居18	102	－	坏蓋	(11.3)	－	(2.0)	青灰色	ナデ	ナデ	1/9	須恵器、下端内１条沈線
295	竪穴住居18	102	66	坏蓋	14.4	－	5.0	灰色	回転ナデ、ナデ	回転ヘラケズリ、回転ナデ	－	須恵器
296	竪穴住居18	102	－	底部	－	(7.7)	(2.3)	暗灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	1/4	須恵器、外底部回転糸切り
297	竪穴住居18	102	66	土製品	孔径 0.7	長さ 2.0	径 3.7					器種不明
298	竪穴住居18	102	－	口縁	最長 2.7	幅 2.1	－	にぶい黄橙色	ケズリ	ナデ	－	未貫通の孔あり
299	竪穴住居18	103	66	竈	最長 21.5	幅 13.2	厚 3.8	橙色 明黄褐色	ケズリ	工具による ナデ	－	
300	掘立柱建物８	105	66	高坏	(16.8)	－	(6.4)	橙色	不明	不明	－	外ナデ?、わずかに赤彩痕
301	土坑14	107	66	不明	－	－	(2.9)	褐灰色	不明	爪形文	－	縄文土器
302	土坑14	107	66	甕	(16.5)	－	(1.2)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
303	土坑14	107	66	底部	－	(12.7)	(5.7)	黒褐色	ケズリ、ナデ	ミガキ	－	低脚坏
304	土坑15	110	67	不明	－	－	(3.0)	にぶい褐色	不明	刺突文	－	縄文土器、外貝殻腹縁刺突
305	土坑16	112	67	鉢	(23.6)	－	(4.1)	暗褐色	条痕	ナデ、刻み目	－	縄文土器、内外煤付着
306	土坑17	114	67	鉢	(28.2)	－	(3.9)	にぶい橙色	条痕	ナデ、刻み目	－	縄文土器、外面煤付着
307	土坑18	116	67	不明	－	－	(4.1)	灰褐色 褐色	条痕	条痕	－	縄文土器、鉢か?
308	土坑19	118	67	鉢	(29.5)	－	(5.4)	灰黄褐色	条痕	ナデ	1/16	外ナデ後貝殻腹縁による刺突、上端部に刻み目あり
309	土坑20	120	67	不明	－	－	(4.4)	にぶい黄褐色	条痕	条痕	－	縄文土器、鉢?、外刻み目、内外煤付着
310	土坑21	122	67	不明	－	－	(4.2)	橙色 にぶい黄橙色	条痕	条痕	－	縄文土器　鉢?、内一部に指頭圧痕
311	土坑22	124	67	鉢	(17.0)	－	(3.1)	黄褐色	ナデ	条痕	1/12	縄文土器、内粘土繋ぎ、黒斑
312	土坑23	126	67	鉢	－	－	(5.6)	にぶい橙色 灰褐色	ナデ	ナデ	－	縄文土器、外ナデ後爪形文
313	土坑24	128	67	不明	－	－	(2.8)	灰褐色	ナデ	ナデ	－	縄文土器
314	土坑24	128	67	鉢	(16.0)	－	(4.5)	橙色	ナデ	粗いナデ	1/9	縄文土器、粘土つなぎ痕
315	土坑24	128	67	鉢	(19.5)	－	(4.5)	にぶい橙色	ナデ	条痕、粗いナデ	1/8	縄文土器、内粘土繋ぎ痕
316	土坑24	128	67	浅鉢	(24.7)	－	(8.5)	にぶい黄橙色	ハケ、ミガキ	条痕、指頭圧痕、ミガキ	1/12	縄文土器
317	土坑24	128	67	不明	(11.4)	－	(2.0)	橙色	ナデ	ナデ	－	縄文土器か?
318	土坑25	130	67	鉢	(20.8)	－	(2.6)	橙色	ナデ	ナデ	1/20	縄文土器、口縁上端刻み目
319	掘立柱建物９	132	67	坏蓋	－	(13.4)	(1.2)	暗青灰－青灰色 青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/6	須恵器
320	掘立柱建物９	132	67	不明	(12.4)	－	(3.2)	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/4	高坏か?、須恵器
321	掘立柱建物９	132	67	甕	(21.1)	－	(7.4)	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/3	外頸部以下平行敲き後カキ目。内頸部以下円文敲き
322	竪穴住居19	135	67	壺	(13.5)	－	(1.5)	赤褐色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外２条、内４条擬凹線内外赤彩
323	竪穴住居19	135	67	無頸壺	(16.0)	－	(2.5)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/6	口縁外２条の擬凹線、口縁上端波状文
324	竪穴住居19	135	67	坩	(10.9)	－	(5.2)	黄橙色	ケズリ、ハケ	ナデ	1/5	
325	竪穴住居20	137	67	甕	(12.6)	－	(5.6)	明橙色	ナデ	ハケ	1/8	外煤付着、口縁１条擬凹線
326	竪穴住居20	137	67	甕	(15.5)	－	(2.5)	橙色	ナデ	ナデ	1/20	口縁外２条の擬凹線
327	竪穴住居20	137	67	甕	(16.0)	－	(2.4)	橙色	ナデ	ナデ	1/8	外煤付着、口縁３条擬凹線
328	竪穴住居20	137	67	底部	－	(5.5)	(3.0)	にぶい橙色	ナデ	ハケ、ナデ	1/2	
329	竪穴住居21	139	67	甕	(17.0)	－	(3.0)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	1/16	

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
330	掘立柱建物10	144	68	甕	(14.8)	－	(1.8)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外刻み目後２条擬凹線
331	掘立柱建物10	144	68	壺	(17.1)	－	(3.2)	浅黄橙色	不明	ナデ	1/8	口縁外２条の沈線?
332	掘立柱建物10	144	68	甕	(18.6)	－	(4.0)	黒色 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/10	外口縁３条沈線、頸部に貼付突帯
333	掘立柱建物10	144	68	甕	(15.0)	－	(6.3)	橙色	ハケ、ナデ	ナデ	－	外口縁２条沈線?
334	掘立柱建物10	144	68	底部	－	(5.2)	(3.3)	灰褐色 灰黄褐色	ケズリ	ナデ、ミガキ	1/4	
335	掘立柱建物10	144	68	底部	－	(7.1)	(1.6)	にぶい橙色	不明	ミガキ	1/5	風化激しい
336	掘立柱建物10	144	68	高坏	－	－	(4.2)	橙色	シボリ目	ナデ	－	４及び１条沈線、その間に斜格子文
337	掘立柱建物11	146	68	甕	(16.0)	－	(1.5)	赤褐色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の沈線
338	掘立柱建物12	150	68	甕	(18.2)	－	(1.6)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外４条の擬凹線
339	掘立柱建物12	150	68	甕	(18.2)	－	(3.0)	橙色	ナデ	ナデ	－	外煤付着、口縁３条擬凹線、頸部貼付突帯
340	掘立柱建物12	150	－	不明	－	－	(1.1)	灰白色	ハケ	ミガキ	1/7	高坏坏部?口縁外突帯文、外面煤付着
341	掘立柱建物12	150	68	不明	最長 7.5	幅 3.8	厚 1.0	明赤褐色 橙色	ナデ	ナデ	－	器台・高坏の脚か？　外鋸歯文と９条の擬凹線、赤彩
342	掘立柱建物14	153	68	甕	(13.0)	－	(2.1)	浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/5	外面煤付着、口縁１条擬凹線
343	掘立柱建物14	153	68	甕	(14.2)	－	(1.4)	明黄褐色 橙色	ナデ	ナデ	1/16	外煤付着 口縁１条の擬凹線?
344	掘立柱建物16	156	68	甕	－	－	(2.1)	橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外擬凹線
345	掘立柱建物16	156	68	壺	(26.7)	－	(2.2)	赤色	ミガキ	ナデ、ミガキ ハケ	－	内上端部波状文および半円形の沈線、内外赤彩
346	掘立柱建物20	161	－	底部	－	(2.2)	(2.4)	にぶい黄橙色 灰黄褐色	ケズリ	ミガキ	1/4	底部にやや平坦面残る、外底部黒斑あり
347	土坑26	178	58	甕	－	(7.2)	(2.5)	橙色	不明	不明	－	風化激しく調整不明
348	テラス２・３	200	68	甕	(13.0)	－	(2.2)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
349	テラス２・３	200	68	甕	(14.2)	－	(1.3)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
350	テラス２・３	200	68	甕	(14.3)	－	(1.4)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
351	テラス２・３	200	68	甕	(16.4)	－	(2.6)	にぶい橙色	ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
352	テラス２・３	200	68	甕	(17.8)	－	(2.1)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
353	テラス２・３	200	68	甕	(14.0)	－	(2.2)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
354	テラス２・３	200	68	甕	(14.1)	－	(3.9)	橙色	ナデ	ナデ	－	外口縁２条擬凹線後刻み目、頸部２条の擬凹線
355	テラス２・３	200	68	壺	(14.7)	－	(3.4)	橙色	ハケ	ナデ	－	
356	テラス２・３	200	68	壺	(21.4)	－	(2.5)	淡黄橙色	雑なミガキ	雑なミガキ	－	口縁外３条の擬凹線
357	溝２	202	－	甕	－	－	(13.2)	淡橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ミガキ	－	外体部中央に３列刻み目、下部黒斑あり
358	溝２	202	－	底部	－	(6.0)	(1.4)	にぶい橙色	ケズリ	ナデ、ミガキ	－	
359	溝５	206	68	甕	(12.6)	－	(9.9)	橙色	ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁１条擬凹線。内指頭圧痕
360	溝５	206	68	甕	(14.1)	－	(3.2)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
361	溝５	206	－	甕	(14.7)	－	(1.3)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外３条の擬凹線
362	溝５	206	68	甕	(16.1)	－	(2.3)	赤褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/8	口縁外４条の擬凹線
363	溝５	206	68	甕	(16.0)	－	(4.6)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
364	溝５	206	－	甕	(17.8)	－	(2.0)	橙色	ナデ	ナデ	－	外面煤付着、口縁３条擬凹線
365	溝５	206	68	甕	(16.0)	－	(2.7)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	外口縁４条擬凹線、頸部に貼付突帯
366	溝５	206	68	不明	－	－	(5.4)	橙色	不明	不明	－	外沈線による文様あり
367	溝５	206	68	脚部	(13.1)	－	(5.4)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外鋸歯文、６条の擬凹線
368	溝５	206	68	底部	－	(7.0)	(2.3)	赤褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
369	溝５	206	68	底部	－	(7.6)	(4.5)	黒色 橙色	ケズリ	ミガキ	－	外体部ミガキ、底部ナデ
370	溝６	207	68	甕	(15.5)	－	(3.0)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
371	溝６	207	68	不明	－	－	(3.0)	橙色	不明	不明	－	外沈線による文様あり
372	溝６	207	68	甕	(15.6)	－	(3.4)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
373	溝６	207	68	不明	－	－	(4.6)	灰色	－	－	－	須恵器
374	ピット内出土	209	69	甕	(11.2)	－	(1.5)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/8	
375	ピット内出土	209	69	甕	(11.0)	－	(4.0)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	口縁外２条の擬凹線

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
376	ピット内出土	209	69	壺	(12.2)	－	(10.0)	橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/4	外煤付着、口縁２条擬凹線
377	ピット内出土	209	69	甕	(11.6)	－	(2.1)	褐色	ナデ	不明	－	内外赤彩、外口縁部斜行する刻み目あり、頸部に突帯？
378	ピット内出土	209	69	甕	(14.2)	－	(2.4)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/8	外煤付着、口縁に２条の擬凹線
379	ピット内出土	209	69	甕	－	－	(3.4)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/8	
380	ピット内出土	209	69	甕	(16.8)	－	(3.3)	にぶい橙－灰褐色 にぶい橙色	ナデ	ナデ	1/10	外煤付着 口縁に２条擬凹線
381	ピット内出土	209	69	甕	(16.4)	－	(5.1)	にぶい黄橙色	ナデ	ハケ、ナデ	1/4	外口縁３条擬凹線、頸部ナデ、頸部以下ハケ後波状文とその上からヘラ状工具による斜格子文
382	ピット内出土	209	69	甕	(15.9)	－	(4.8)	赤褐色 にぶい黄橙色	ハケ、ナデ、ミガキ	ハケ、ナデ	1/4	内外面赤彩、外口縁４条擬凹線上に斜格子文、円形浮文の剥離痕、頸部に貼付突帯
383	ピット内出土	209	69	甕	(17.7)	－	(3.8)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	外口縁５条擬凹線上刻み目、頸部に刻み目突帯
384	ピット内出土	209	69	不明	－	－	(4.1)	褐色 にぶい黄橙色	シボリ目	ナデ	－	外鋸歯文、高坏の脚?
385	ピット内出土	209	69	高坏	－	(12.5)	(4.7)	橙－赤褐色 橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	1/3	外全体に赤彩、凹線・沈線多条あり
386	ピット内出土	209	69	器台	－	(17.0)	(4.2)	橙－浅黄橙色 橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/8	脚部、外８条の擬凹線内ケズリ後ナデ
387	ピット内出土	209	69	底部	－	11.0	(4.3)	橙色	ケズリ、ナデ	ケズリ、ナデ	1/1	
388	ピット内出土	209	70	甕	(12.0)	－	(6.0)	にぶい橙色 〃－赤褐色	ケズリ、ハケ、ナデ	ナデ	3/4	内ハケ状工具によるナデ
389	ピット内出土	209	70	甕	(19.1)	－	(8.2)	浅黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/2	外頸部下波状文
390	ピット内出土	209	69	甕	(12.0)	－	(4.2)	にぶい黄色 〃－黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/4	外煤付着
391	ピット内出土	209	70	小型 丸底壺	(9.4)	－	(9.4)	赤橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、ハケ	1/2	
392	ピット内出土	209	69	坏身	(13.0)	(9.5)	(3.8)	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	－	底部外回転糸切り、内不整方向のナデ
393	ピット内出土	209	69	胴部	－	(1.5)	(2.4)	青灰色	叩き目	叩き目 カキ目	－	須恵器
394	ピット内出土	209	69	脚筒部	－	(9.3)	(9.1)	灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	1/4	須恵器、筒部透しあり
395	遺構外出土	213	71	不明	－	－	(4.4)	明褐色	条痕	条痕	－	縄文土器
396	遺構外出土	213	－	不明	－	－	(5.8)	黄橙色 にぶい黄橙色	ナデ	円孤状 沈線	－	縄文土器か?
397	遺構外出土	213	71	浅鉢	(15.4)	－	(6.6)	にぶい褐色	ナデ、ミガキ	ナデ、ハケ	－	縄文土器か?
398	遺構外出土	213	71	甕	(16.6)	－	(4.9)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/6	外口縁上端ヘラ刻み 口縁刻みを持つ貼付突帯
399	遺構外出土	213	71	甕	(11.4)	－	(8.0)	黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	－	
400	遺構外出土	213	71	甕	(20.0)	－	(6.8)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条擬凹線上刻み目
401	遺構外出土	213	71	甕	(13.4)	－	(1.6)	褐色 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	外赤彩、５条の擬凹線上に円形浮文
402	遺構外出土	213	71	甕	(15.4)	－	(2.9)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	外煤、口縁４条擬凹線上４カ所円形浮文、頸部貼付突帯刻み後粗いナデ消し
403	遺構外出土	213	71	甕	(17.0)	－	(2.0)	赤褐色 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	外赤彩、口縁３条擬凹線上に円形浮文
404	遺構外出土	213	71	甕	(11.9)	－	(6.9)	淡橙褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
405	遺構外出土	213	71	甕	(15.0)	－	(3.4)	淡黄色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/8	外煤付着、口縁２条擬凹線
406	遺構外出土	213	－	甕	(15.0)	－	(1.4)	にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
407	遺構外出土	213	－	甕	(15.8)	－	(1.8)	橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外２条の擬凹線
408	遺構外出土	213	71	甕	(14.9)	－	(6.8)	浅黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	1/6	口縁外２条の擬凹線
409	遺構外出土	213	71	甕	(16.6)	－	(7.8)	浅黄橙色 にぶい黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁４条擬凹線
410	遺構外出土	213	71	甕	(15.7)	－	(8.5)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外２条の擬凹線

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
411	遺構外出土	213	71	甕	(19.1)	－	(2.5)	明褐色 橙色	ナデ	ナデ	－	外赤彩、口縁１条の擬凹線、頸部貼付突帯
412	遺構外出土	213	71	甕	(18.0)	－	(11.0)	橙色	ケズリ、ナデ、ミガキ	ハケ、ナデ	－	頸部以下外横ハケ後縦のハケメ、内ミガキ、体部最大径部ケズリ後一部ミガキ
413	遺構外出土	213	71	甕	(20.2)	－	(7.3)	橙色	ハケ、ナデ	ナデ、ハケ	－	外口縁３条擬凹線、頸部貼付突帯その下部ハケ後刺突文
414	遺構外出土	213	71	甕	(27.4)	－	(6.4)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外５条の擬凹線、頸部貼付突帯後刻み目
415	遺構外出土	214	71	甕	(15.1)	－	(2.6)	赤褐色 浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/8	外赤彩 口縁４条擬凹線
416	遺構外出土	214	73	台付甕	(10.9)	(6.3)	(14.1)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ、ハケ、ミガキ	－	
417	遺構外出土	214	73	甕	(14.7)	－	(20.8)	橙色	ケズリ、ハケ、ナデ	ナデ、ハケ、ミガキ	－	外口縁２条擬凹線、頸部貼付突帯体部ハケ最大径部以下ミガキ、内口縁２条の擬凹線口縁頸部ナデ体部上部ハケ後ナデ、中・下部はケズリ
418	遺構外出土	214	71	長頸壺	(9.3)	－	(5.7)	橙色	ナデ	ナデ	1/4	外赤彩、口縁２条擬凹線上に刻み目と貼付突帯、頸部８条の擬凹線、突帯の跡
419	遺構外出土	214	71	甕	(12.8)	－	(3.9)	橙色	ナデ	ナデ、ミガキ	－	外口縁４条の擬凹線上にヘラ状工具による刻み目、頸部ミガキ１条の擬凹線
420	遺構外出土	214	71	甕	(12.1)	－	(5.1)	橙色	ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁２条の擬凹線上に刻み目。内籾圧痕あり
421	遺構外出土	214	71	甕	(12.5)	－	(7.9)	橙色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外２条擬凹線上刻み目
422	遺構外出土	214	71	甕	(15.8)	－	(4.0)	にぶい橙－赤色 にぶい橙色	ナデ	ナデ	－	外口縁赤彩、４条の擬凹線頸部貼付突帯
423	遺構外出土	214	73	甕	(16.2)	－	(8.8)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	3/4	外口縁４条の擬凹線、頸部２条沈線、沈線間に逆「く」字状の刻み目
424	遺構外出土	214	72	壺	(15.0)	－	(1.5)	淡橙色	ナデ	ナデ	－	口縁外３条の擬凹線後刻み目。口縁内波状文
425	遺構外出土	214	72	壺	(18.0)	－	(2.9)	浅黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外上部に４条、下部に１条擬凹線、口縁面３条擬凹線
426	遺構外出土	214	72	壺	(20.0)	－	(3.2)	橙色 浅黄橙色	ナデ	ハケ、ナデ、ミガキ	1/5	外口縁３条の擬凹線
427	遺構外出土	214	73	甕	(25.0)	－	(5.4)	橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	外口縁３条擬凹線後刻み目、頸部ハケ、内頸部ハケ？
428	遺構外出土	214	72	壺	(26.0)	－	(2.6)	灰黄褐色 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	外煤付着、口縁上部５条擬凹線上にヘラ状工具による刻み目 口縁下部１条の擬凹線、口縁内５条擬凹線
429	遺構外出土	214	72	壺	(26.4)	－	(2.2)	明褐色	ナデ	ナデ	－	口縁外５条の擬凹線上ヘラ状工具による刻み目
430	遺構外出土	214	72	甕	(27.2)	－	(5.2)	淡黄色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
431	遺構外出土	214	－	甕	(28.0)	－	(5.0)	にぶい黄橙色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	口縁外３条の擬凹線
432	遺構外出土	214	72	壺	(33.0)	－	(1.8)	明赤褐色	ナデ	ナデ	－	内外赤彩、口縁外３条擬凹線
433	遺構外出土	215	72	壺	－	－	(9.2)	淡橙色	ナデ	ハケ、ナデ	－	外煤付着、頸部ハケ・３条の擬凹線。内指頭圧痕
434	遺構外出土	215	72	壺か 器台	(23.3)	－	(11.1)	にぶい黄橙色	不明	ナデ	1/4	外口縁上から４・５・１条擬凹線のセット、口縁上端３条擬凹線、口縁下部透しあり
435	遺構外出土	215	72	甕	－	－	(7.0)	橙色	ハケ	ハケ、ナデ	－	外貼付突帯後刻み目
436	遺構外出土	215	72	無頸壺	(17.7)	－	(6.5)	灰黄褐色	ハケ、ナデ	ナデ	－	外４条の擬凹線
437	遺構外出土	215	72	不明	(16.6)	－	(4.5)	黒灰色 灰黄褐色	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	－	高坏受部か? 口縁外３条の擬凹線
438	遺構外出土	215	72	高坏	(18.0)	－	(2.3)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	口縁外３条擬凹線、口縁上端２条擬凹線。内赤彩

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	器種	法量（cm）			色調　外 内	調整		残存率	備考
					口径	底径	器高		内	外		
439	遺構外出土	215	72	高坏	(16.0)	－	(3.1)	にぶい橙色	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	－	口縁外５条擬凹線後上下２段に刻み目、円形浮文あり
440	遺構外出土	215	72	高坏	－	－	(11.1)	橙色 灰色	ハケ、ナデ、シボリ目	ナデ、ミガキ	1/2	高坏筒部? 外赤彩、多条凹線
441	遺構外出土	215	－	高坏	－	－	(6.0)	褐灰－明褐色 灰黄色	ハケ、ナデ、シボリ目	ナデ	－	器台か? 外赤彩、12条の擬凹線
442	遺構外出土	215	72	高坏	－	(9.9)	(5.3)	にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	－	外12条擬凹線、下部１条擬凹線
443	遺構外出土	215	72	脚部	－	(9.3)	(3.3)	橙色 黒灰色	ケズリ	ナデ	1/4	外５条の擬凹線
444	遺構外出土	215	72	脚部	－	(12.0)	(3.4)	にぶい橙色	ケズリ	ナデ	－	外６条の擬凹線
445	遺構外出土	215	72	脚部	－	(11.8)	(3.3)	にぶい橙色	ケズリ	ナデ	－	外４条擬凹線、下端３条擬凹線
446	遺構外出土	215	72	脚部	－	(11.7)	(2.3)	明褐色 黒褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外５条擬凹線、下端２条凹線 内黒斑あり
447	遺構外出土	215	72	脚部	－	(13.0)	(2.0)	赤色 灰褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外赤彩、４条の擬凹線
448	遺構外出土	215	72	脚部	－	(14.0)	(2.9)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/4	外赤彩、４条の擬凹線
449	遺構外出土	215	72	脚部	－	(14.7)	(3.4)	にぶい橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	外４条擬凹線、下端２条擬凹線
450	遺構外出土	215	72	脚部	－	(13.3)	(6.0)	淡橙色 黒色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	1/8	外上より５・６、下端２条の擬凹線 凹線の間に穿孔（貫通せず）
451	遺構外出土	215	72	脚部	－	(15.5)	(3.8)	褐灰色 赤褐－浅黄橙色	ナデ	ナデ	1/5	外全体に赤彩、多条沈線下端に刻み目、凹線あり
452	遺構外出土	215	72	脚部	－	(14.0)	(4.5)	灰黄褐－赤褐色 灰黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ、ミガキ	1/8	外全体に赤彩、５条の擬凹線
453	遺構外出土	215	－	不明	－	(14.8)	(5.7)	にぶい橙色	ナデ	ハケ	－	脚部？内赤彩
454	遺構外出土	215	70	脚部	－	(20.6)	(5.5)	灰褐色	ケズリ、ナデ	ハケ、ナデ	1/8	外赤彩、筒部鋸歯文、筒部下部５条の沈線、沈線間に綾杉文
455	遺構外出土	215	73	底部	－	(5.4)	(4.3)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ケズリ、ナデ、ミガキ	1/2	
456	遺構外出土	215	－	底部	－	(4.6)	(2.3)	灰－にぶい赤褐色 灰色	ケズリ、ナデ	ミガキ	1/4	外底部に圧痕
457	遺構外出土	215	73	底部	－	(6.3)	(5.1)	明黄褐色 褐灰色	ケズリ	ハケ、ミガキ	－	外黒斑あり
458	遺構外出土	215	－	底部	－	(8.6)	(4.5)	にぶい橙色	ケズリ	ミガキ	－	
459	遺構外出土	215	73	底部	－	(11.5)	(4.9)	灰褐色 橙色	ケズリ	ナデ	－	内下端１条の沈線
460	遺構外出土	216	70	壺	(6.3)	(2.9)	(7.9)	灰色	ケズリ、ナデ	ミガキ	－	イイダコ壺、上部に穿孔
461	遺構外出土	216	70	高坏	－	－	(6.2)	灰黄褐色	不明	ハケ？	－	脚外透し 凹線の文様?
462	遺構外出土	216	73	把手	長 9.5	幅 2.2	厚 2.2	にぶい黄橙および赤色	－	－	－	赤彩
463	遺構外出土	216	－	把手	長 9.3	幅 4.1	厚 3.9	浅黄橙色	－	－	－	
464	遺構外出土	216	－	不明	長 3.0	幅 3.2	厚 0.7	にぶい黄橙色	ナデ	ミガキ	－	２方の穿孔、外赤彩
465	遺構外出土	216	73	不明	－	－	(5.3)	橙色	不明	不明	－	外沈線による文様
466	遺構外出土	216	70	土製品	孔径 －	長さ 8.0	径 3.0		－	－		分銅形土製品
467	遺構外出土	216	73	土製品	－	7.5	4.7	にぶい橙－赤褐色	ケズリ	－		土玉
468	遺構外出土	216	73	甕	(14.1)	－	(4.1)	橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	－	
469	遺構外出土	216	73	甕	(13.1)	－	(4.3)	にぶい黄橙色	ケズリ、ナデ	ナデ	1/4	内頸部以下ケズリ
470	遺構外出土	216	73	甕	(32.2)	－	(5.3)	青灰色 灰色	ナデ	ナデ	1/12	須恵器口縁外上部自然釉 下部凹線?頸部に竹管文、波状文、凹線
471	遺構外出土	216	73	坏身	(12.5)	(8.0)	(4.1)	暗灰黄色 －にぶい赤褐色 暗灰黄色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	1/2	須恵器 外底部回転糸切り
472	遺構外出土	216	73	底部	－	(8.5)	(1.0)	灰色	回転ナデ	ナデ	1/4	須恵器底部外回転糸切り 内不整方向ナデ
473	遺構外出土	216	73	底部	－	(7.7)	(1.5)	にぶい黄色	回転ナデ	ナデ	1/3	須恵器底部外回転糸切り 内不整方向ナデ
474	遺構外出土	216	73	底部	－	(8.0)	(3.9)	青灰色	回転ナデ	回転ナデ	1/4	須恵器

表11　遺物観察表　石器

No.	遺構・層位	図No.	図版No.	種別	法量(cm)				材質	備考
					最大長	最大幅	最大厚	重さ(g)		
Ｓ１	竪穴住居２	12	74	石鏃	2.2	1.3	0.2	0.5	黒曜石	
Ｓ２	竪穴住居４	15	74	石鏃	3.4	2.3	0.4	3.0	無斑晶安山岩	
Ｓ３	竪穴住居６	19	74	石錘	7.5	4.6	3.9	140.0	安山岩	
Ｓ４	竪穴住居８	25	74	石鏃	2.2	1.7	0.4	1.16	安山岩	
Ｓ５	竪穴住居８	25	－	砥石	2.0	1.8	1.3	5.8	粘板岩	
Ｓ６	竪穴住居８	25	74	砥石	15.3	5.2	3.4	475.0	細粒花崗岩	
Ｓ７	竪穴住居８	25	74	砥石	8.5	4.4	3.7	126.5	細粒花崗岩	
Ｓ８	竪穴住居８	25	74	敲石	13.6	5.4	4.9	540.0	安山岩	
Ｓ９	竪穴住居８	25	74	石皿	14.0	16.0	4.9	1325.0	安山岩	
Ｓ10	竪穴住居９	25	74	砥石	6.7	2.9	1.3	45.0	粘板岩	
Ｓ11	竪穴住居12	35	74	石鏃	2.8	2.1	0.3	1.6	黒曜石	
Ｓ12	竪穴住居12	35	74	石鏃	1.7	1.4	0.3	0.71	安山岩	
Ｓ13	土坑８	63	74	石鏃	2.0	1.7	0.3	0.9	黒曜石	
Ｓ14	土坑10	67	74	石鏃	3.9	1.8	0.4	0.7	安山岩	
Ｓ15	竪穴住居13	75	74	敲石	12.2	8.0	3.6	520.0	安山岩	
Ｓ16	竪穴住居14	77	74	砥石	10.5	7.1	5.5	430.0	細粒花崗岩	
Ｓ17	竪穴住居14	77	74	石錘	8.0	6.3	2.0	118.1	安山岩	
Ｓ18	竪穴住居16	84	74	石皿	16.3	17.7	4.3	1980.0	安山岩	表裏中央部に敲打痕
Ｓ19	竪穴住居17	88	74	敲石	8.8	7.4	3.2	332.0	安山岩	表裏中央部に敲打痕
Ｓ20	土坑12	93	－	２次加工品	2.8	4.5	0.9	13.49		石斧の２次加工
Ｓ21	竪穴住居18	103	74	尖頭器	3.7	1.2	0.7	3.0	黒曜石	
Ｓ22	竪穴住居18	103	74	石皿	12.6	16.3	4.6	1420.0	安山岩	表裏中央部に敲打痕
Ｓ23	土坑23	126	74	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.6	黒曜石	
Ｓ24	テラス２・３	200	74	石鏃	2.5	1.8	0.4	1.16	無斑晶安山岩	
Ｓ25	ピット内出土	209	74	敲石	7.1	4.6	4.2	195.0	安山岩	
Ｓ26	遺構外出土	216	74	石鏃	1.3	1.2	1.3	0.24	黒曜石	
Ｓ27	遺構外出土	216	74	石鏃	1.9	1.2	0.2	0.44	黒曜石	
Ｓ28	遺構外出土	216	74	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.61	無斑晶安山岩	
Ｓ29	遺構外出土	216	74	石鏃	2.1	1.7	0.3	1.6	無斑晶安山岩	
Ｓ30	遺構外出土	216	74	石鏃	2.8	1.9	0.3	1.91	無斑晶安山岩	
Ｓ31	遺構外出土	217	－	磨製石斧	5.5	5.9	3.5	204.8	安山岩	
Ｓ32	遺構外出土	217	－	磨製石斧	5.6	6.8	3.5	180.0	頁岩	擦痕あり
Ｓ33	遺構外出土	217	－	扁平片刃石斧	4.4	3.1	0.6	19.0		
Ｓ34	遺構外出土	217	74	砥石	8.9	7.7	3.4	293.6	細粒花崗岩	刃の痕?あり
Ｓ35	遺構外出土	217	74	砥石	8.1	7.5	2.6	186.5	細粒花崗岩	擦痕あり
Ｓ36	遺構外出土	217	74	石錘	6.9	5.7	1.6	75.91	安山岩	打ち欠き痕残る
Ｓ37	遺構外出土	217	－	スクレーパー	5.6	2.9	0.5	9.0		使用による磨滅が激しい
Ｓ38	遺構外出土	217	－	不明石製品	2.7	2.6	0.9	4.47	粘板岩	
Ｓ39	遺構外出土	217	－	不明石製品	5.0	2.6	1.3	18.68	珪質岩	
Ｓ40	遺構外出土	217	74	石錘	7.2	6.1	2.6	152.0	安山岩	
Ｓ41	遺構外出土	217	－	不明石製品	4.5	2.3	1.8	8.58	粘板岩	
Ｓ42	遺構外出土	218	74	石錘	8.2	7.4	4.9	403.0	安山岩	敲打痕あり
Ｓ43	遺構外出土	218	74	敲石	9.1	8.4	3.6	425.0	安山岩	敲打痕あり
Ｓ44	遺構外出土	218	74	敲石	10.1	9.1	4.0	525.0	安山岩	敲打痕あり
Ｓ45	遺構外出土	218	74	敲石	10.4	8.3	5.0	716.0	安山岩	敲打痕、擦り面あり
Ｓ46	遺構外出土	218	－	石皿	27.3	21.4	7.1	5560.0	安山岩	擦り面あり

表12　遺物観察表　鉄器

遺物No.	遺物種類・名称	層位・遺構	挿図No.	図版	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
Ｆ１	鉄製品（鍛造品）・不明	竪穴住居１	10	75	1.5	2.4	0.6	3.5	
Ｆ２	鉄製品（鍛造品）・不明	竪穴住居１	10	75	0.6	2.1	0.5	2.2	釘か?
Ｆ３	鉄製品（鍛造品）・鏃	竪穴住居８	25	75	2.1	3.4	0.4	0.6	
Ｆ４	鉄製品（鍛造品）・鎌	竪穴住居14	77	61・75	13.9	4.6	0.6	3.0	
Ｆ５	鉄製品（鍛造品）・不明	竪穴住居14	78	75	3.3	1.2	0.3	－	刀子か?
Ｆ６	鉄製品・板状鋳鉄	竪穴住居14	78	75	4.6	4.2	1.2	97.5	板状鋳鉄
Ｆ７	鉄製品（鍛造品）・不明	竪穴住居15	80	75	1.7	1.4	0.3	1.0	鏃または刀子
Ｆ８	鉄製品（鍛造品）・不明	竪穴住居15	80	75	0.9	2.2	1.1	2.0	鉈または刀子
Ｆ９	鉄製品（鍛造品）・袋状鉄斧	竪穴住居16	84	75	3.1	6.7	2.1	11.0	小型
Ｆ10	鉄製品（鍛造品）・鎌	竪穴住居16	84	75	4.4	3.1	1.1	25.8	
Ｆ11	鉄製品（鍛造品）・不明	竪穴住居17	88	75	3.7	4.5	1.0	11.8	鏃か?
Ｆ12	鉄製品（鍛造品）・不明	竪穴住居17	88	75	5.5	1.8	0.4	10.6	棒状不明
Ｆ13	鉄製品（鍛造品）・鉈	茶畑14号墳主体部	98	65・75	1.9	8.2	0.9	15.8	
Ｆ14	鉄製品（鍛造品）・不明	遺構外出土	218	75	3.6	5.3	0.7	1.8	鎌か?
Ｆ15	鉄製品（鍛造品）・不明	遺構外出土	213	75	0.8	3.7	0.4	24.2	刀子?茎

表13　遺物観察表　木製品

No.	遺稿・層位	図No.	図版No.	器種	法量(cm)			備考
					最大長	最大幅	最大厚	
Ｗ１	竪穴住居９	27	56	蓋又は高坏?	－	－	2.2	炭化している

表14　遺物観察表　玉

No.	遺稿・層位	図No.	図版No.	器種	法量(cm)			備考
					最大長	最大幅	最大厚	
Ｊ１	竪穴住居15	27	62	ガラス小玉	0.4	0.3	0.4	

1　調査前風景（北西から）

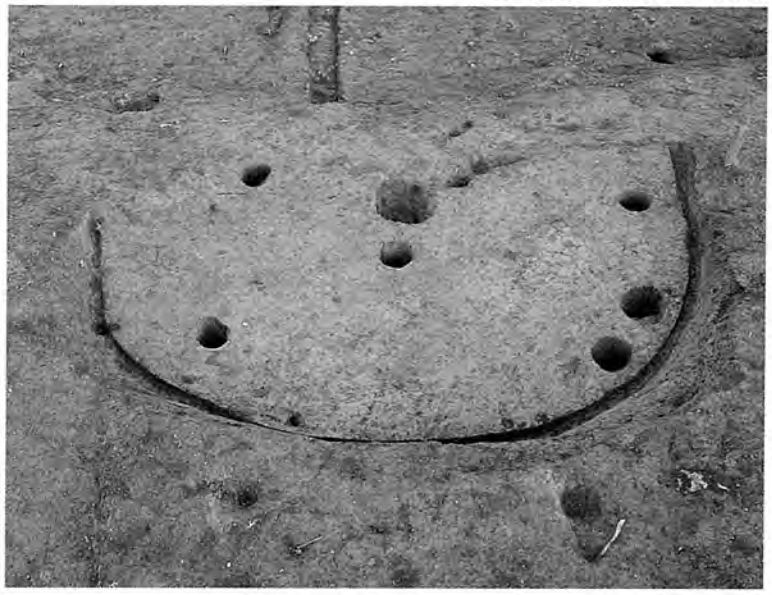
2　調査地完掘状況（北西から）

図版2　茶畑第１遺跡

1　竪穴住居２土層断面（東から）

2　竪穴住居１・２・３完掘状況（南西から）

1　竪穴住居４遺物出土状況（北東から）



2　竪穴住居４完掘状況（西から）

3　竪穴住居５完掘状況（南から）

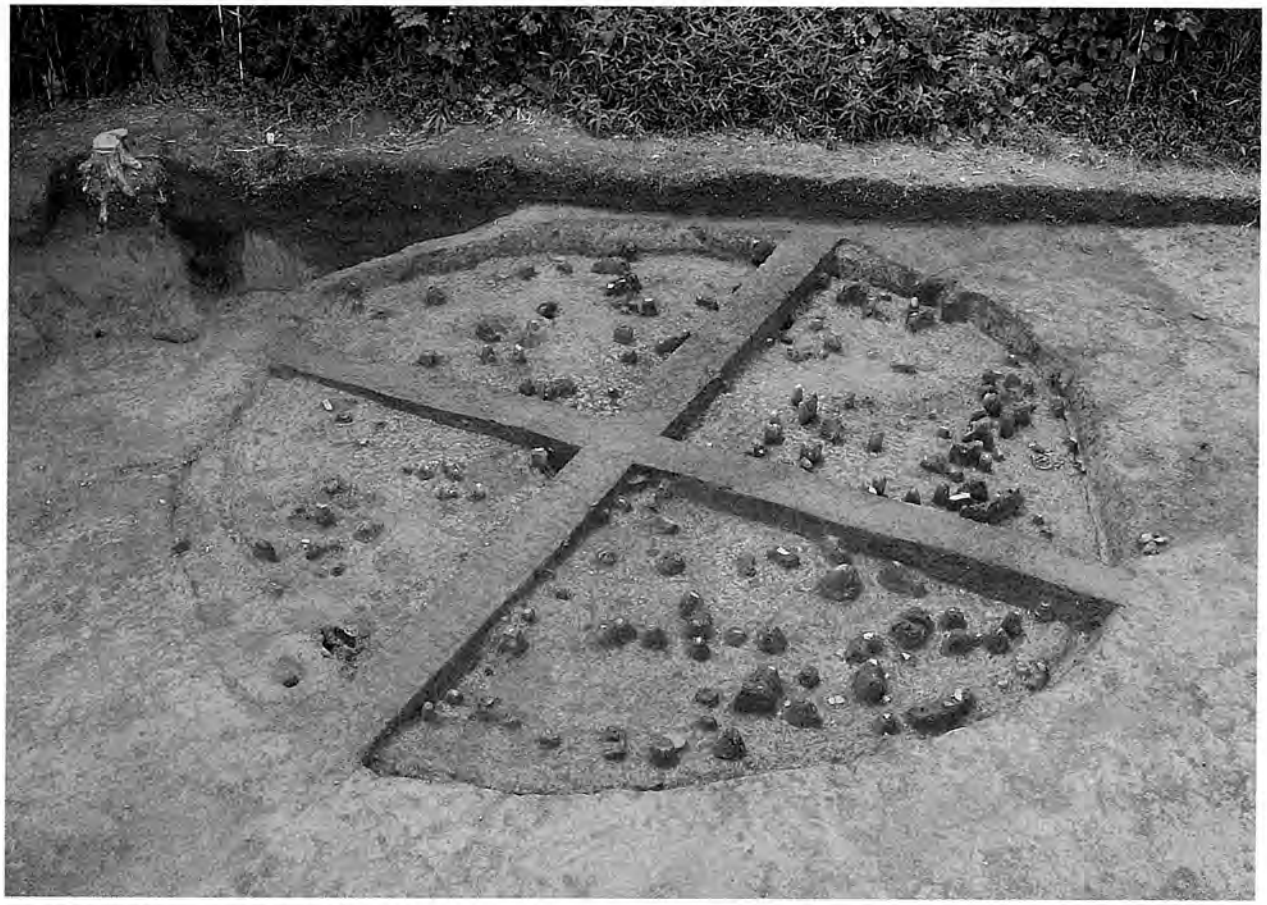
4　竪穴住居７土層断面（南から）

図版4　茶畑第１遺跡

1　竪穴住居６炭化物出土状況（北から）

2　竪穴住居６Ｐ５遺物出土状況（北から）

3　竪穴住居６完掘状況（北西から）



1　竪穴住居８・９遺物出土状況（北から）

2　竪穴住居８・９・10完掘状況（北から）

図版6　茶畑第１遺跡

1　竪穴住居９遺物出土状況（西から）

2　竪穴住居９炭化材出土状況（北から）

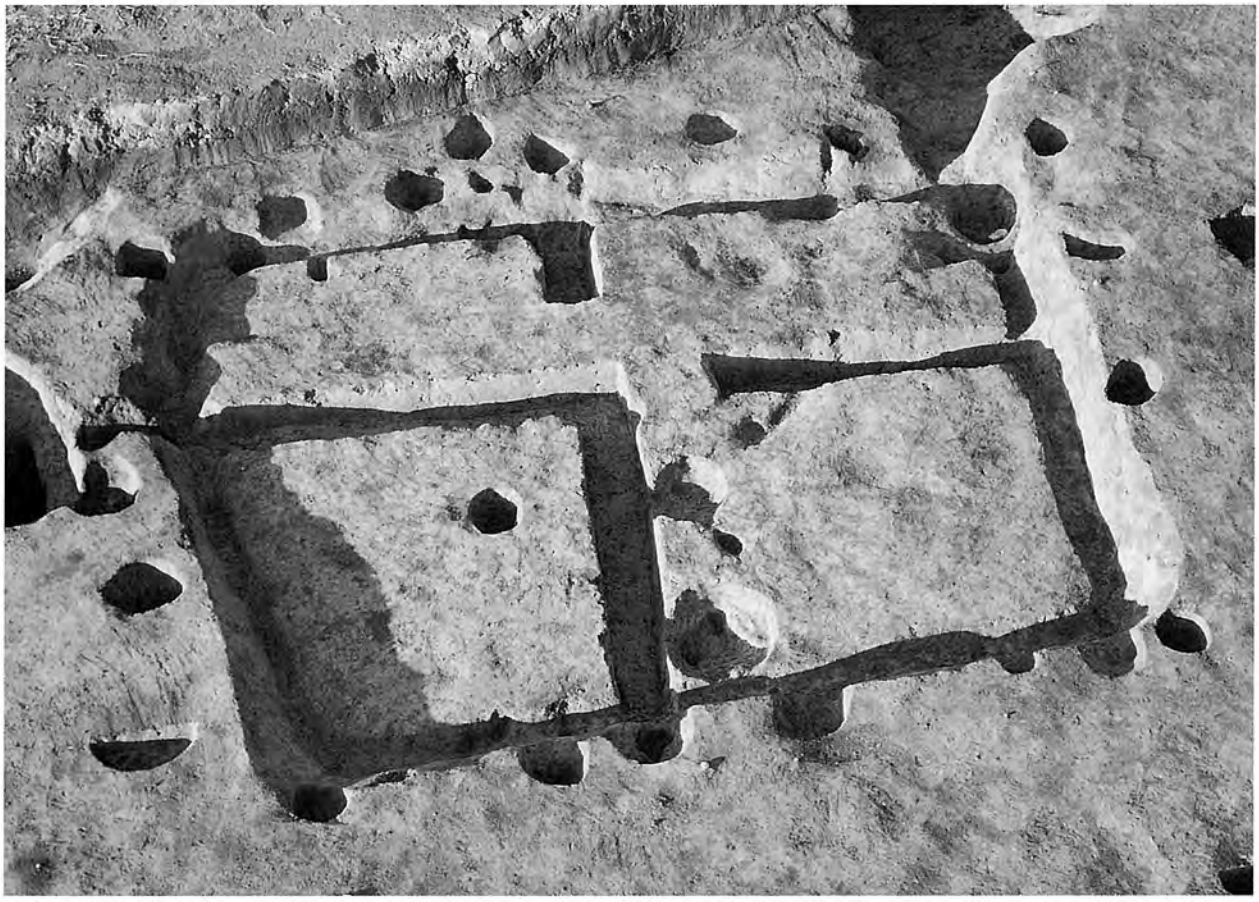
3　竪穴住居９・10切り合い状況（北から）

1　竪穴住居11P７礫堆積状況（南から）

2　竪穴住居11完掘状況（南から）

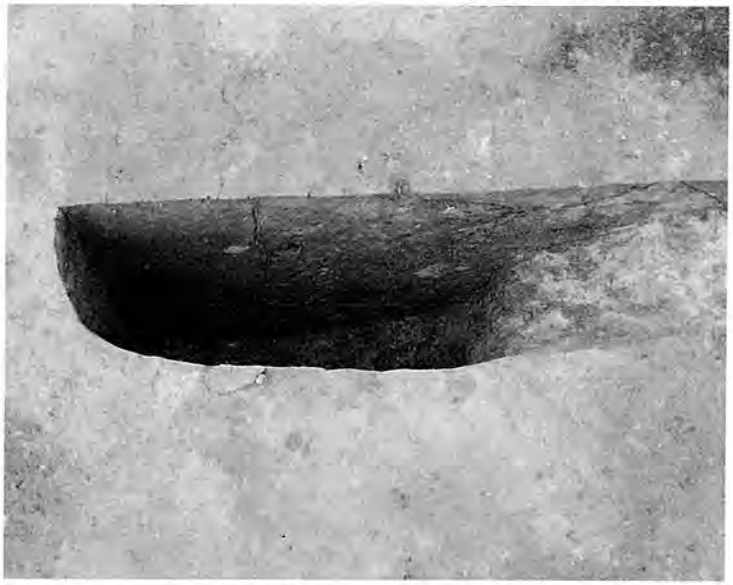
図版8　茶畑第１遺跡

1　竪穴住居12遺物出土状況（南から）

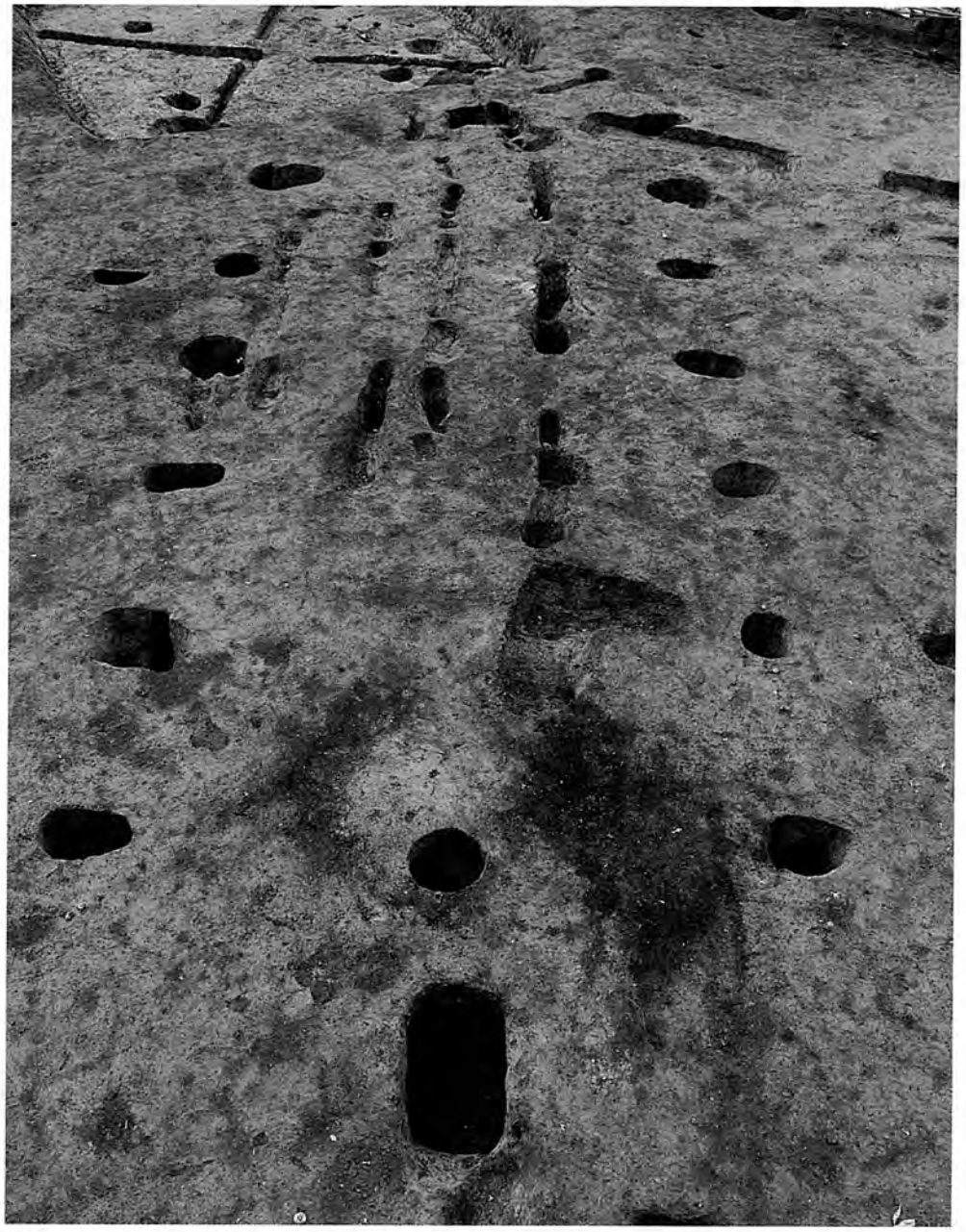


2　竪穴住居12完掘状況（南から）

1　掘立柱建物１南独立棟持柱完掘状況（南から）



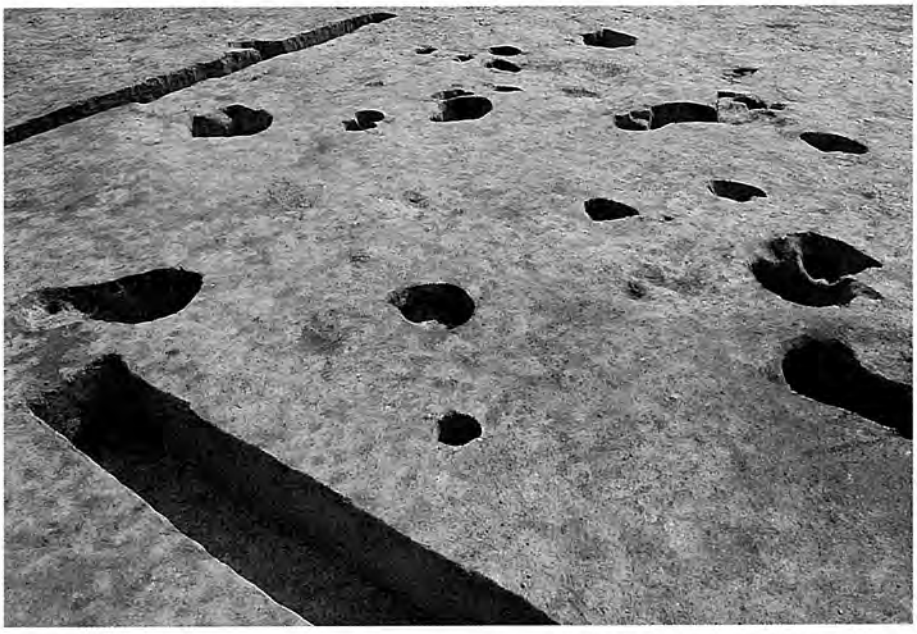
2　掘立柱建物１南独立棟持柱土層断面（西から）



3　掘立柱建物１
完掘状況（南から）

図版10　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物２Ｐ２
遺物出土状況（南東から）



2　掘立柱建物２
完掘状況（北西から）

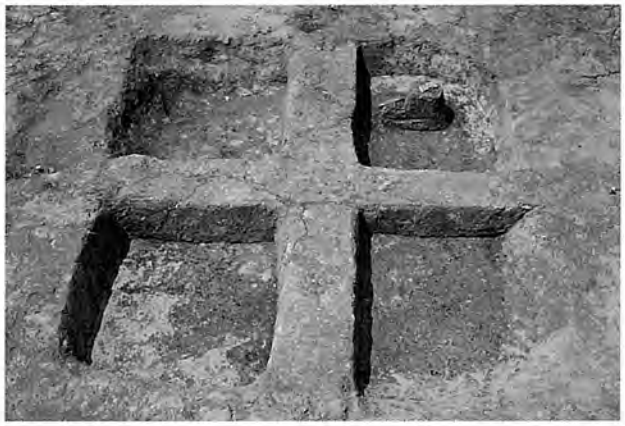
3　掘立柱建物３
完掘状況（西から）

1　掘立柱建物４
完掘状況（南から）

2　掘立柱建物５
完掘状況（北から）

3　掘立柱建物６
完掘状況（南から）

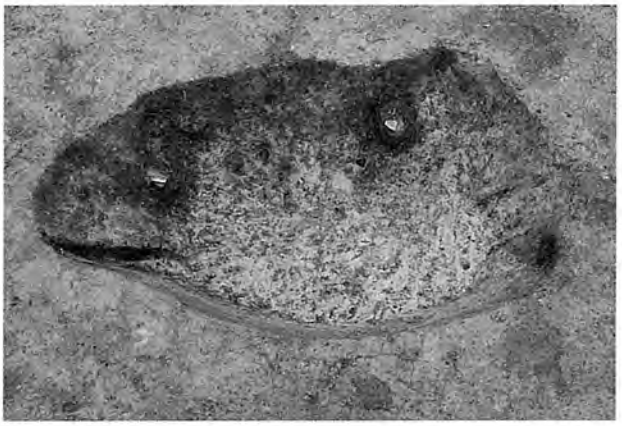
図版12　茶畑第１遺跡



1　土坑１炭・焼土検出状況（南から）

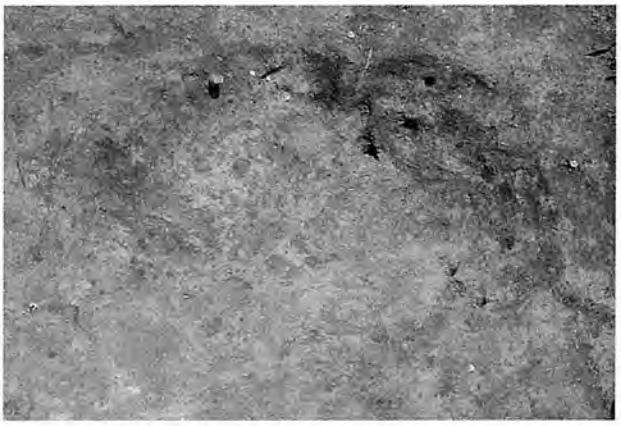
2　土坑２土層断面（南西から）

3　土坑３遺物出土状況（西から）



4　土坑４遺物出土状況（西から）

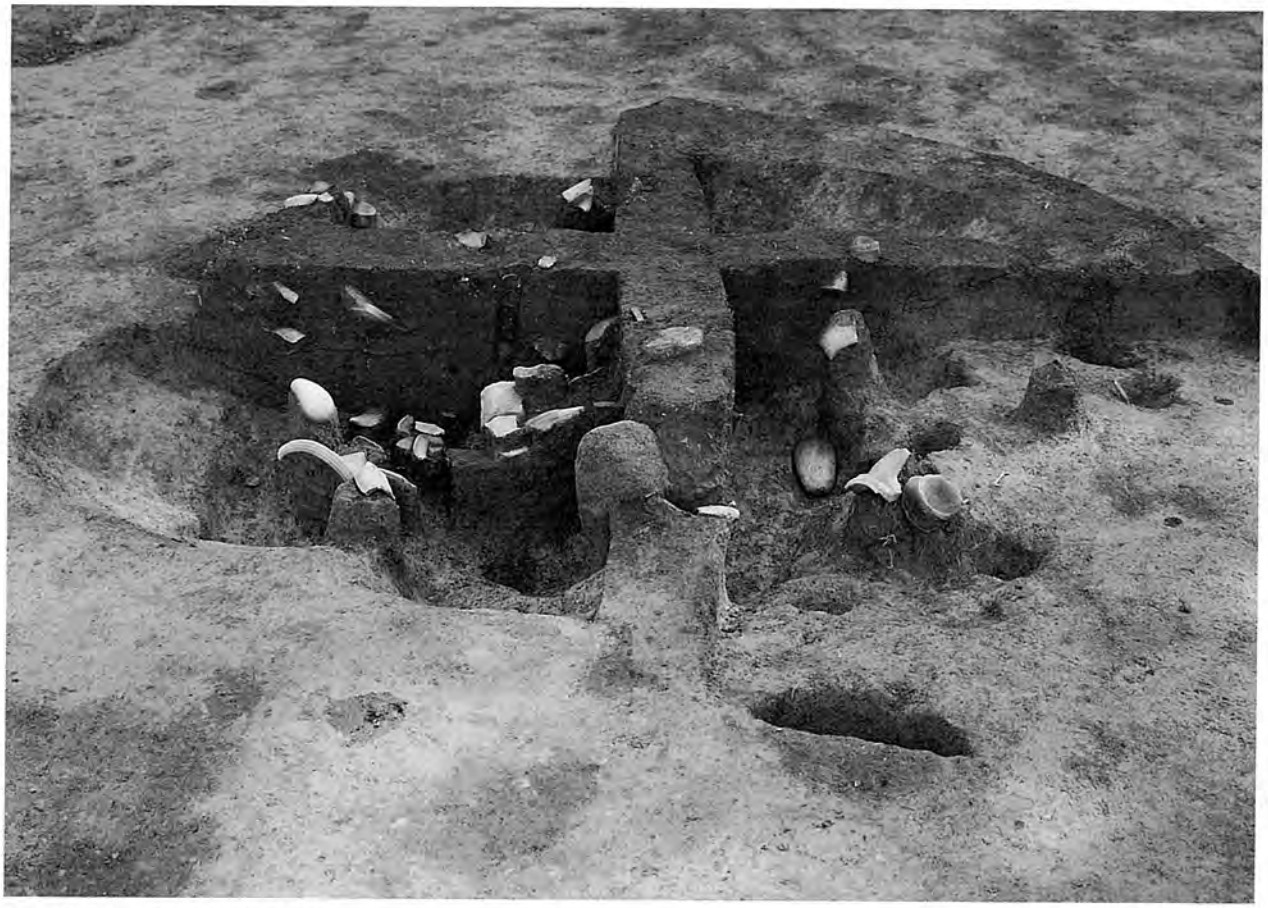
5　土坑５遺物出土状況（北から）



6　土坑６完掘状況（西から）

7　土坑７遺物出土状況（北から）

8　土坑９完掘状況（北東から）



1　土坑８土層断面（北から）

2　土坑８遺物出土状況（東から）

図版14　茶畑第１遺跡

1　土坑11土層断面（北から）

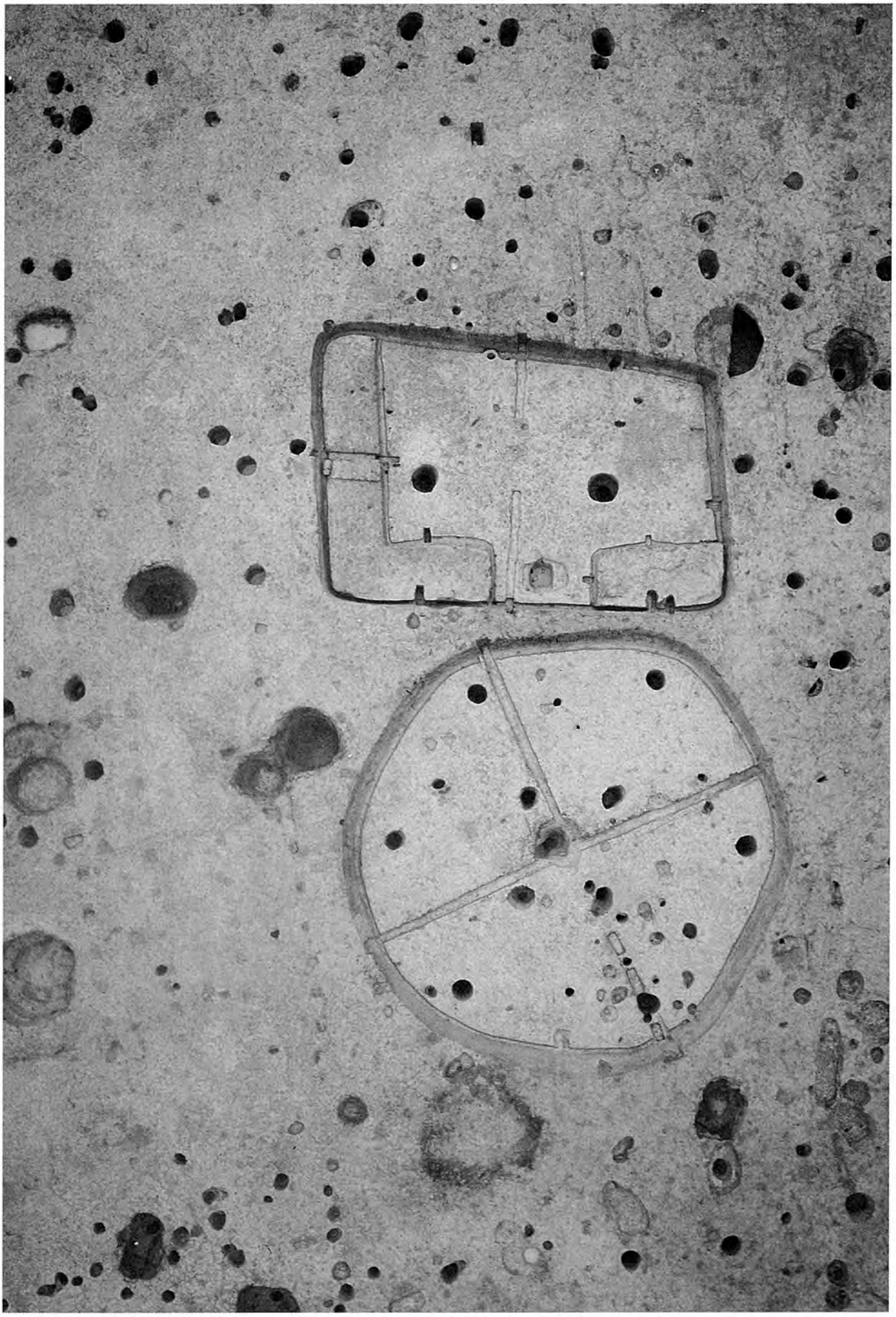
2　土坑11遺物出土状況（南から）

1　竪穴住居14地床炉検出状況（南から）

2　竪穴住居14鉄鎌出土状況（南から）

3　竪穴住居14周壁溝土層断面（西から）

図版16　茶畑第１遺跡



竪穴住居14・16完掘状況（空撮）

1　竪穴住居15
土層断面（西から）

2　竪穴住居15
遺物出土状況（南西から）

3　竪穴住居15
完掘状況（西から）

図版18　茶畑第１遺跡

1　竪穴住居16検出状況（西から）

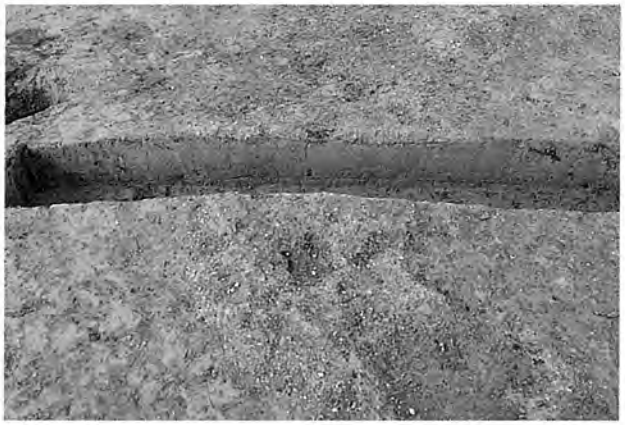
2　竪穴住居16遺物出土状況（北東から）

3　竪穴住居16土層断面（西から）

4　竪穴住居16Ｐ11周堤断面（南から）

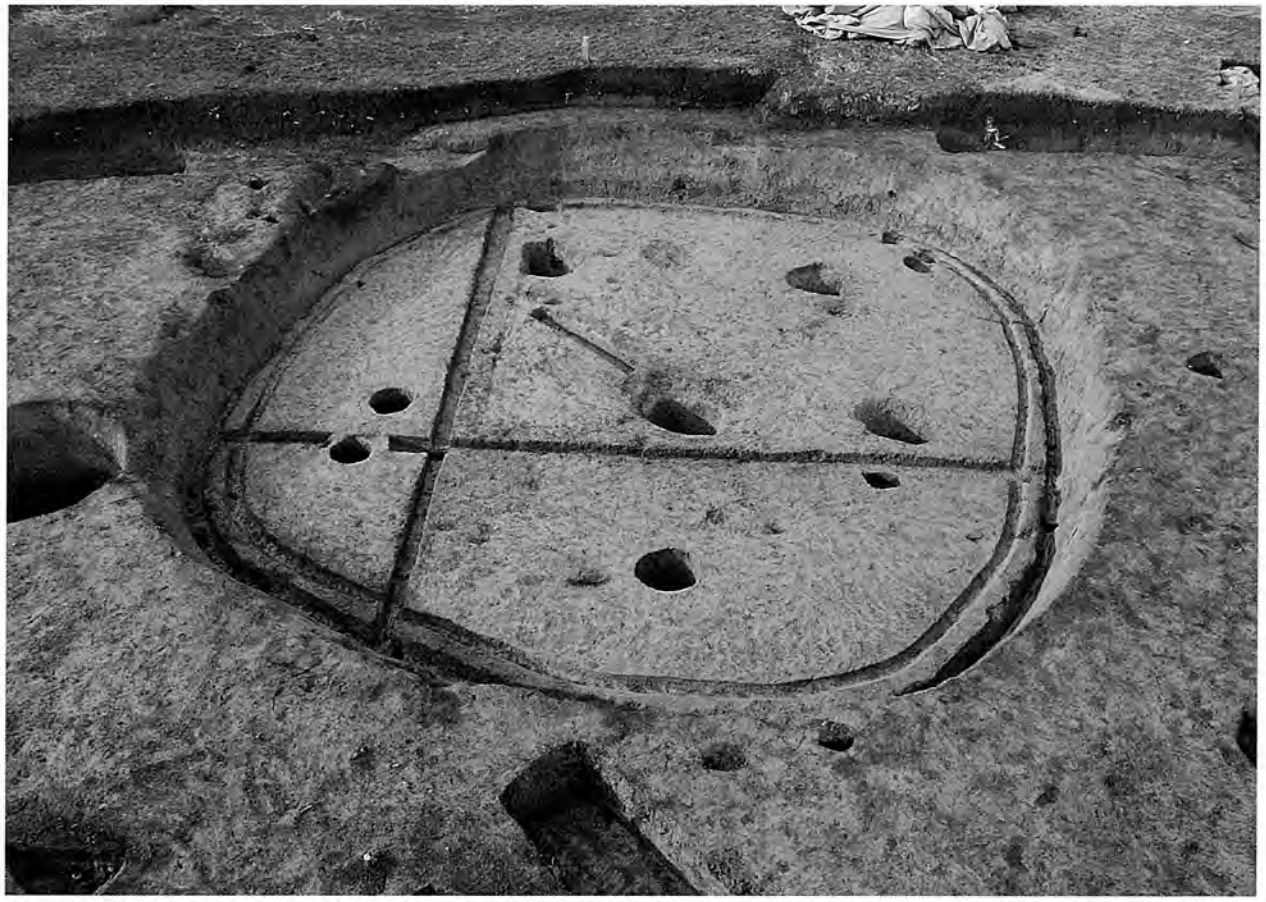
1　竪穴住居17鉄器出土状況（北から）

2　竪穴住居17遺物出土状況（北から）



3　竪穴住居17床面粗砂部断面（南から）

4　竪穴住居17土層断面（南から）



5　竪穴住居17完掘状況（南から）

図版20　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物７
完掘状況（西から）

2　土坑12
遺物出土状況（西から）

3　溝１
土層断面（南から）

1　茶畑14・15号墳間周溝
土層断面（北東から）

2　茶畑15号墳周溝
土層断面（南東から）

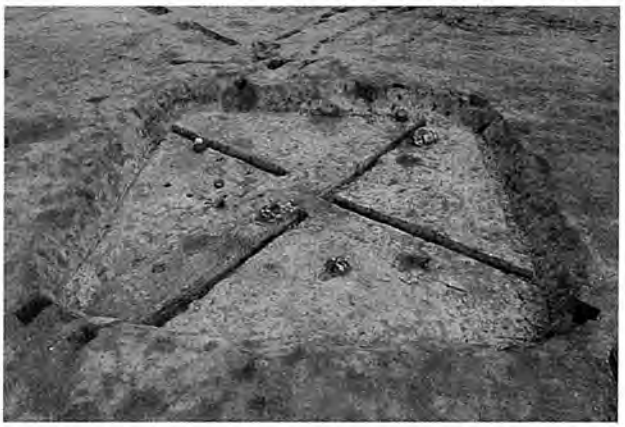
3　茶畑16号墳周溝内
遺物出土状況（北東から）

図版22　茶畑第１遺跡

1　茶畑14号墳墓壙完掘状況（東から）

2　茶畑14～16号墳完掘状況（北から）

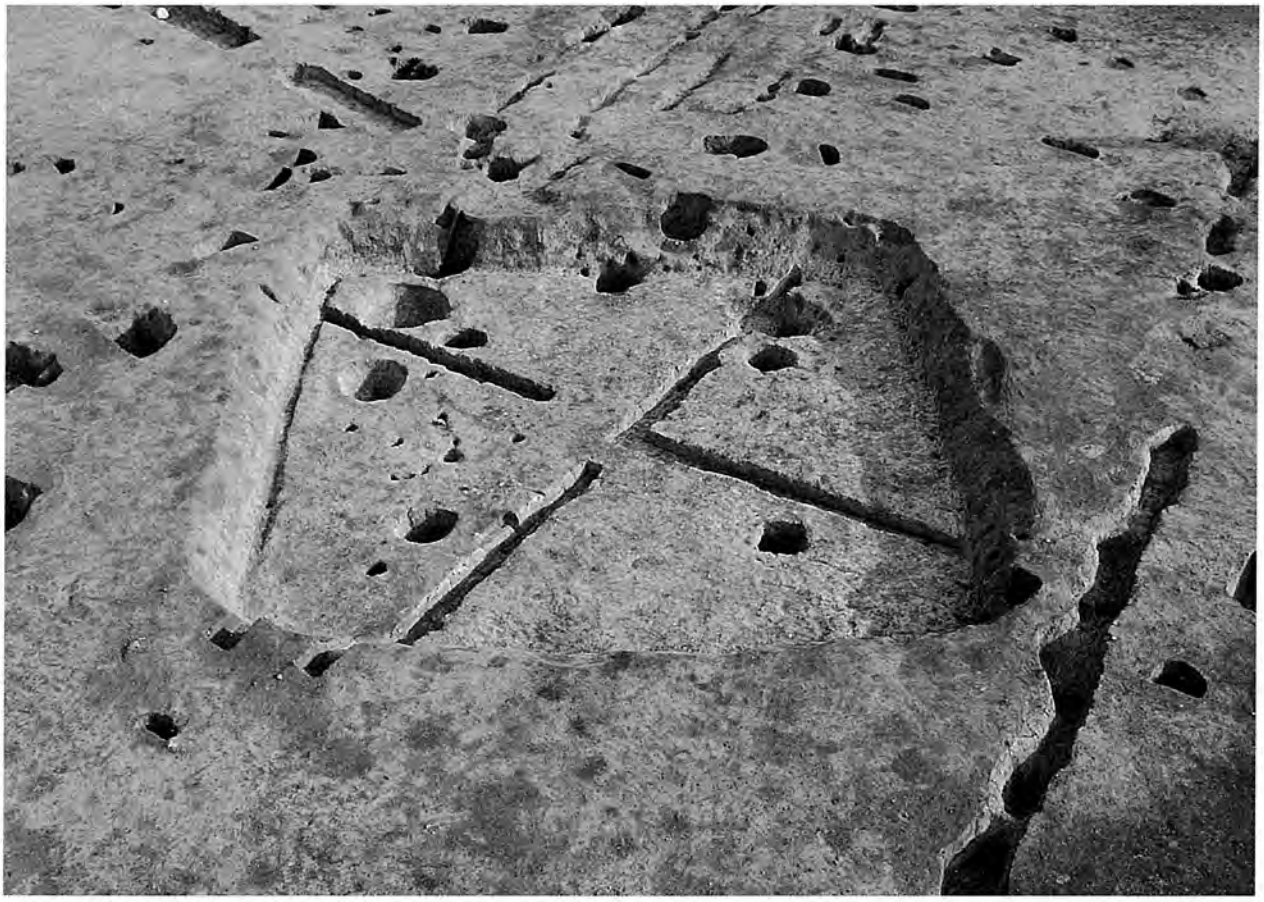
1　竪穴住居18遺物出土状況１（西から）



2　竪穴住居18遺物出土状況２（北西から）

3　竪穴住居18遺物出土状況３（南東から）

4　竪穴住居18遺物出土状況４（南西から）



5　竪穴住居18完掘状況（北西から）

図版24　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物８Ｐ６
遺物出土状況（西から）

2　掘立柱建物８
完掘状況（西から）

3　土坑14
遺物出土状況（北から）

1　土坑15遺物出土状況（南西から）

2　土坑19
遺物出土状況（南東から）

3　土坑24
遺物出土状況（南から）

図版26　茶畑第１遺跡

1　土坑23遺物出土状況（東から）

2　土坑23底面ピット裏込石検出状況（東から）

1　土坑16土層断面（西から）

2　土坑17完掘状況（南西から）

3　土坑18完掘状況（西から）

4　土坑20完掘状況（南から）

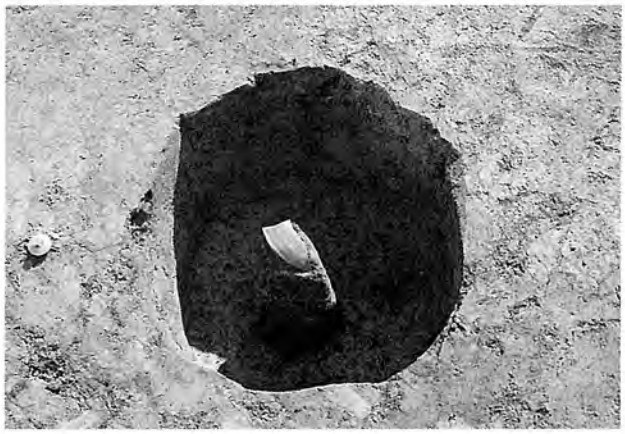
5　土坑21完掘状況（南西から）

6　土坑25完掘状況（北から）

7　土坑22土層断面（南から）

8　土坑22完掘状況（南から）

図版28　茶畑第１遺跡



1　掘立柱建物９Ｐ11遺物出土状況（北から）

2　掘立柱建物９完掘状況（南から）

3　掘立柱建物９Ｐ４遺物出土状況（東から）

4　掘立柱建物９Ｐ12遺物出土状況（南から）

1　竪穴住居19床面
粗砂部断面（東から）

2　竪穴住居19
土層断面（東から）

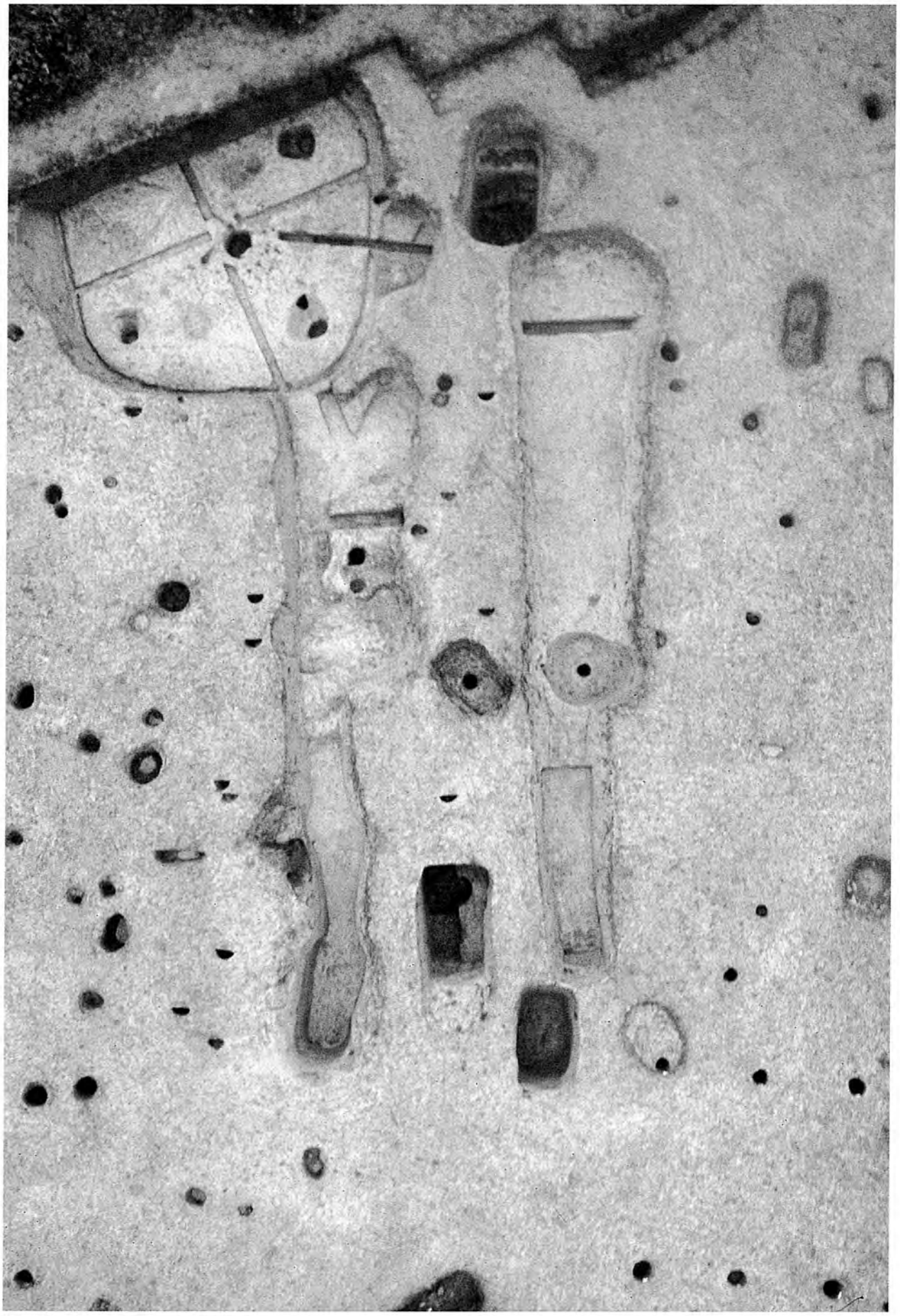
3　竪穴住居19完掘状況（南から）

図版30　茶畑第１遺跡

1　竪穴住居20
完掘状況（西から）

2　竪穴住居21
土層断面（南から）

3　竪穴住居22
土層断面（南から）



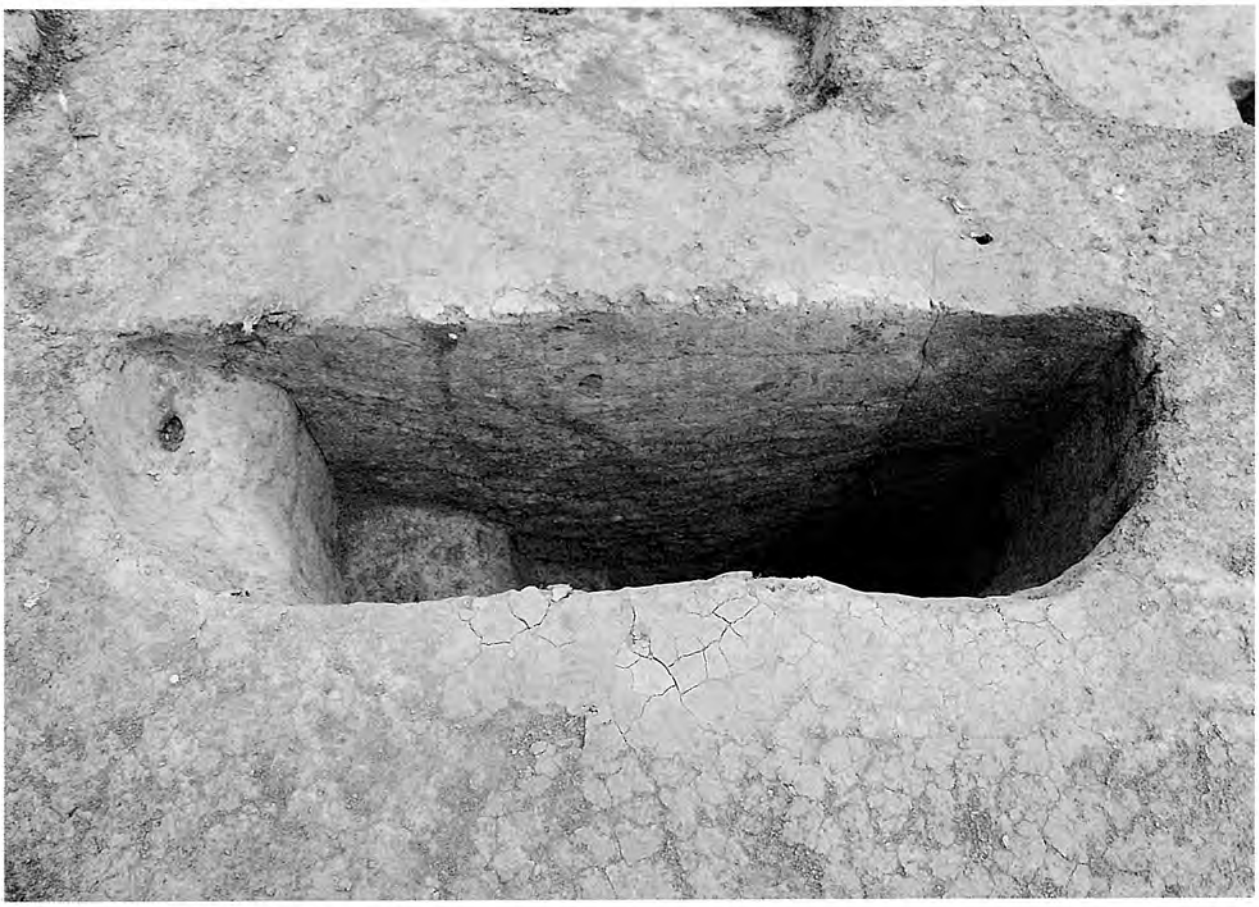
掘立柱建物10完掘状況（空撮）

図版32　茶畑第１遺跡

掘立柱建物10東側布掘り検出状況（北から）

掘立柱建物10西側布掘り検出状況（北から）

図版34　茶畑第１遺跡



1　掘立柱建物10Ｐ１土層断面（西から）

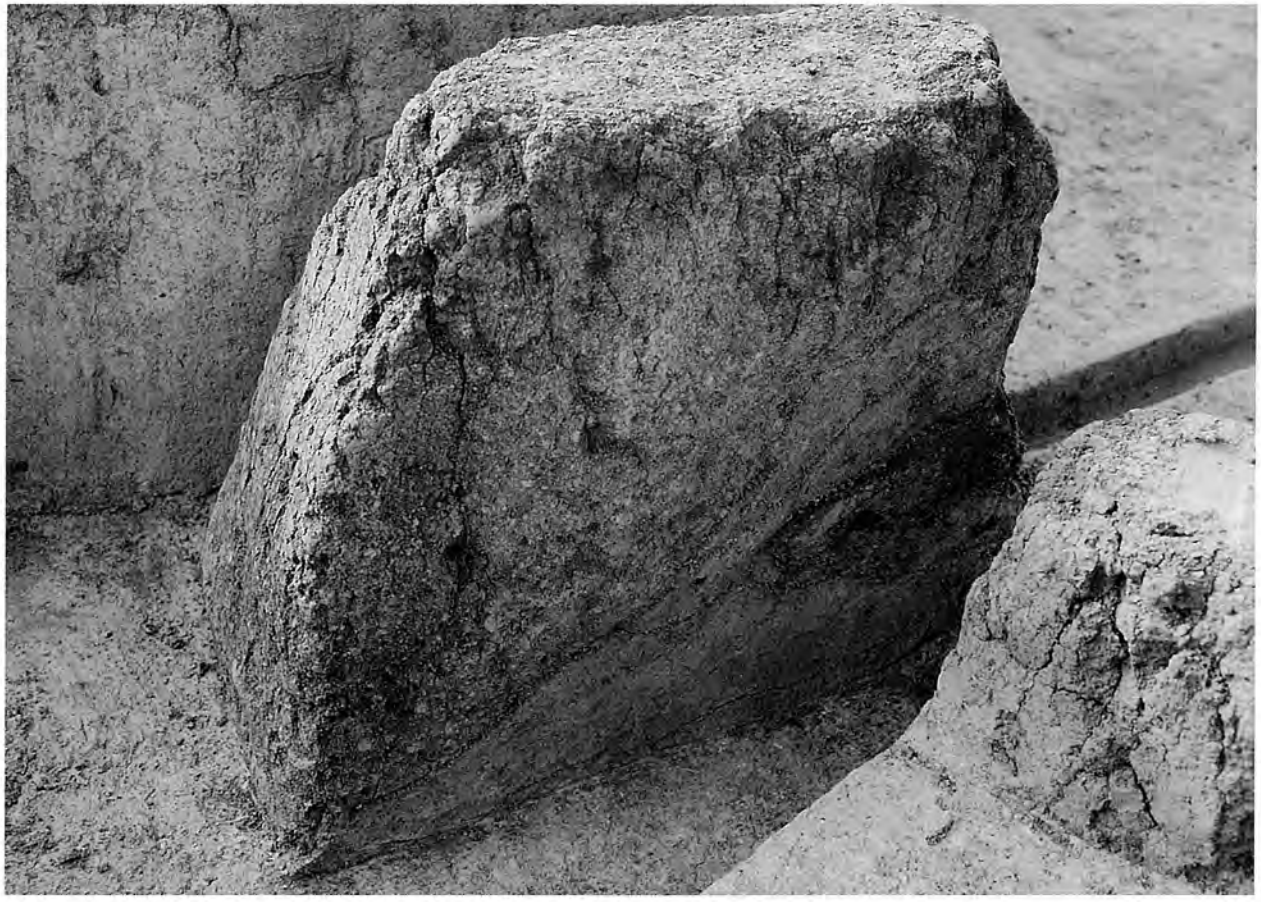
2　掘立柱建物10Ｐ２土層断面（西から）

1　掘立柱建物10西側布掘りK－K'土層断面（北から）

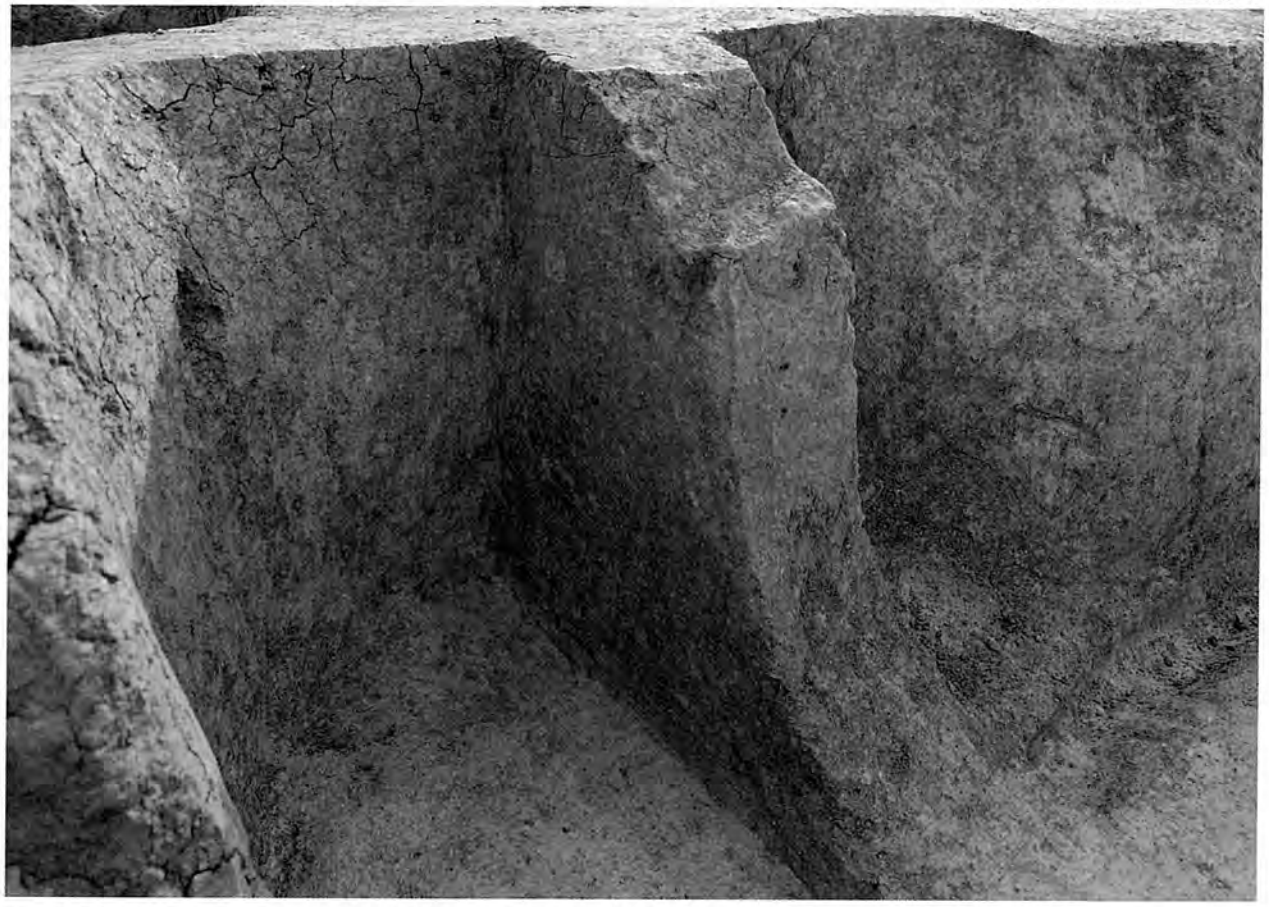
2　掘立柱建物10西側布掘りI－I'土層断面（北から）

図版36　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物10東側布掘りＢ－Ｂ'土層断面（北から）



2　掘立柱建物10西側布掘りと竪穴住居15切合部（Ｇ－Ｇ'）（北西から）



1　竪穴住居15に切られる掘立柱建物10Ｐ５土層断面（北西から）

2　竪穴住居15貼床下にある掘立柱建物10Ｐ４土層断面（西から）

図版38　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物11Ｐ１土層断面（西から）

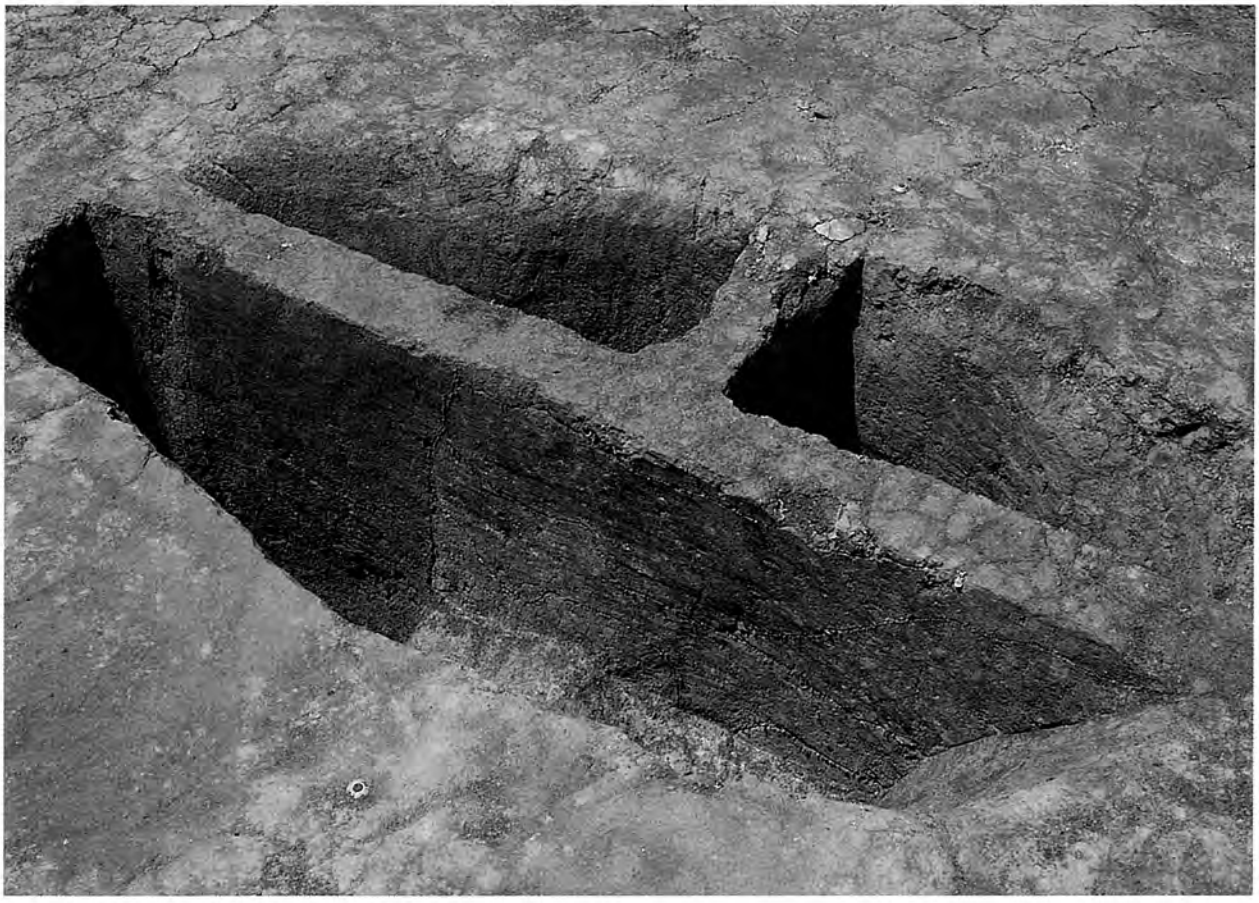
2　掘立柱建物11Ｐ２完掘状況（西から）

1　掘立柱建物11Ｐ３土層断面（西から）

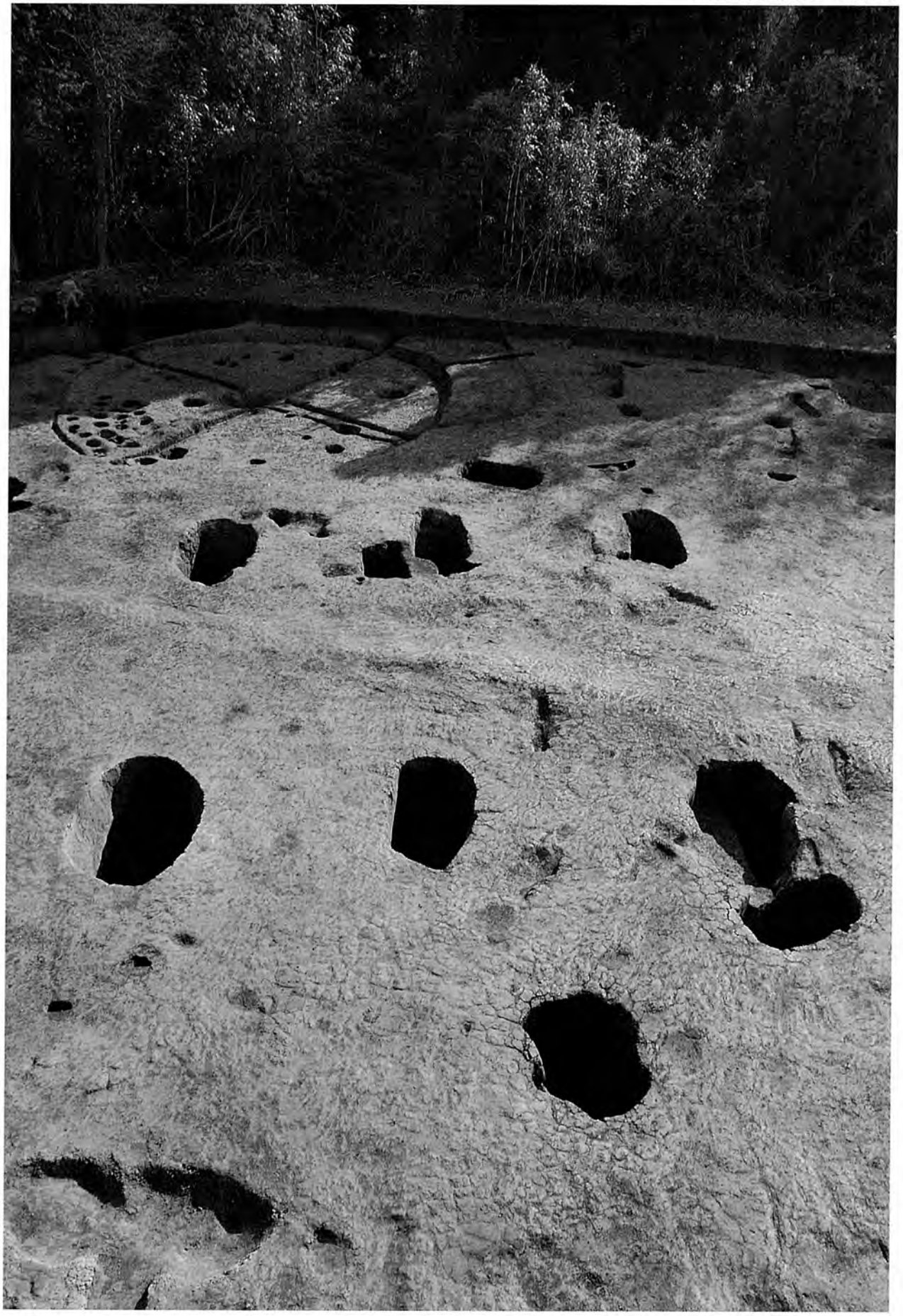
2　掘立柱建物11Ｐ４土層断面（西から）

図版40　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物11Ｐ５土層断面（西から）



2　掘立柱建物11Ｐ６土層断面（東から）



掘立柱建物11完掘状況（北から）

図版42　茶畑第１遺跡

掘立柱建物12完掘状況（東から）

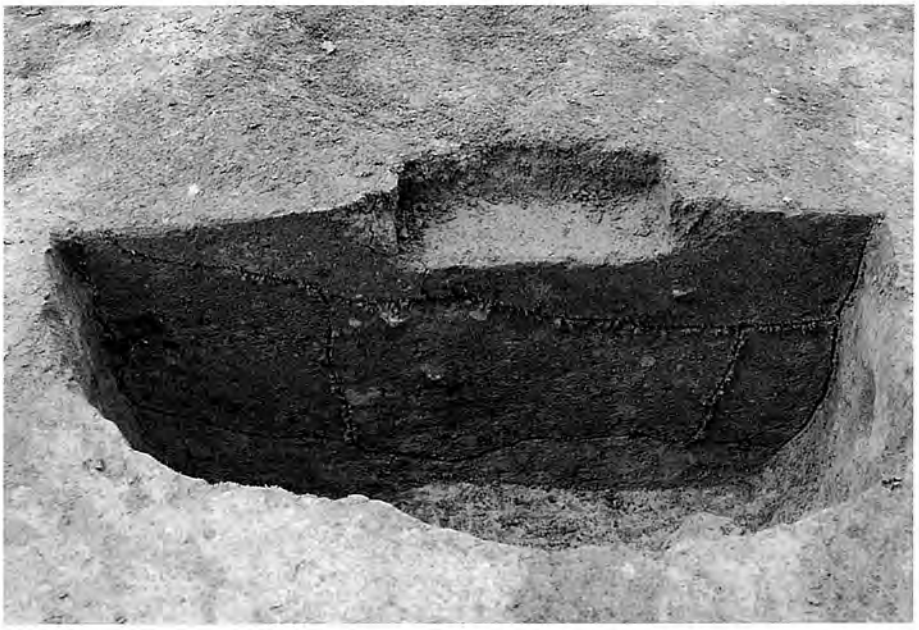
1　掘立柱建物12Ｐ4と竪穴住居19の切合土層断面（東から）

2　掘立柱建物12Ｐ23土層断面（南から）

図版44　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物12Ｐ14
土層断面（南から）

2　掘立柱建物12Ｐ5
土層断面（南から）



3　掘立柱建物12Ｐ21
土層断面（東から）

1　掘立柱建物13
完掘状況（東から）

2　掘立柱建物14～16
完掘状況（東から）

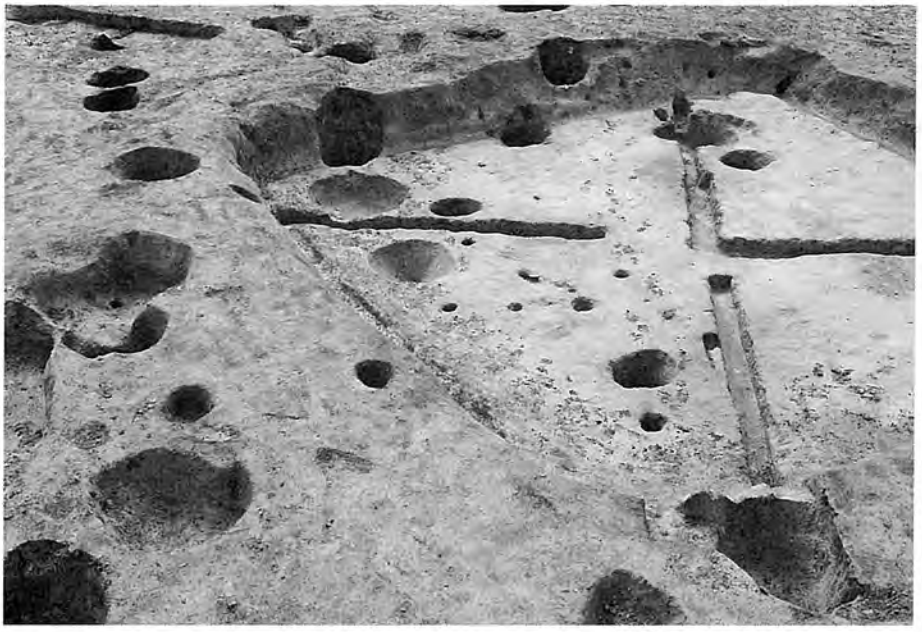
3　掘立柱建物18
完掘状況（北から）

図版46　茶畑第１遺跡

1　掘立柱建物24
完掘状況（南から）

2　掘立柱建物25～27
完掘状況（北から）

3　掘立柱建物28Ｐ５
土層断面（南から）

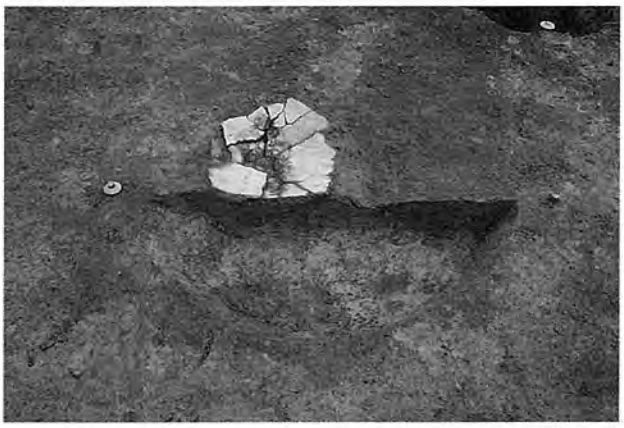


1　掘立柱建物31
完掘状況（北から）

2　掘立柱建物32
完掘状況（北から）

3　掘立柱建物33
完掘状況（南から）

図版48　茶畑第１遺跡



1　土坑27遺物出土状況（南東から）

2　土坑29遺物出土状況（南から）

3　土坑39完掘状況（西から）

4　土坑65完掘状況（南から）

5　土坑84完掘状況（西から）

6　土坑103土層断面（北西から）

7　土坑117土層断面（南東から）

8　土坑117完掘状況（北から）

1　テラス２土層断面
（北東から）

2　溝２土層断面
（北から）

3　溝３完掘状況（西から）

4　溝４完掘状況（東から）

図版50　茶畑第１遺跡

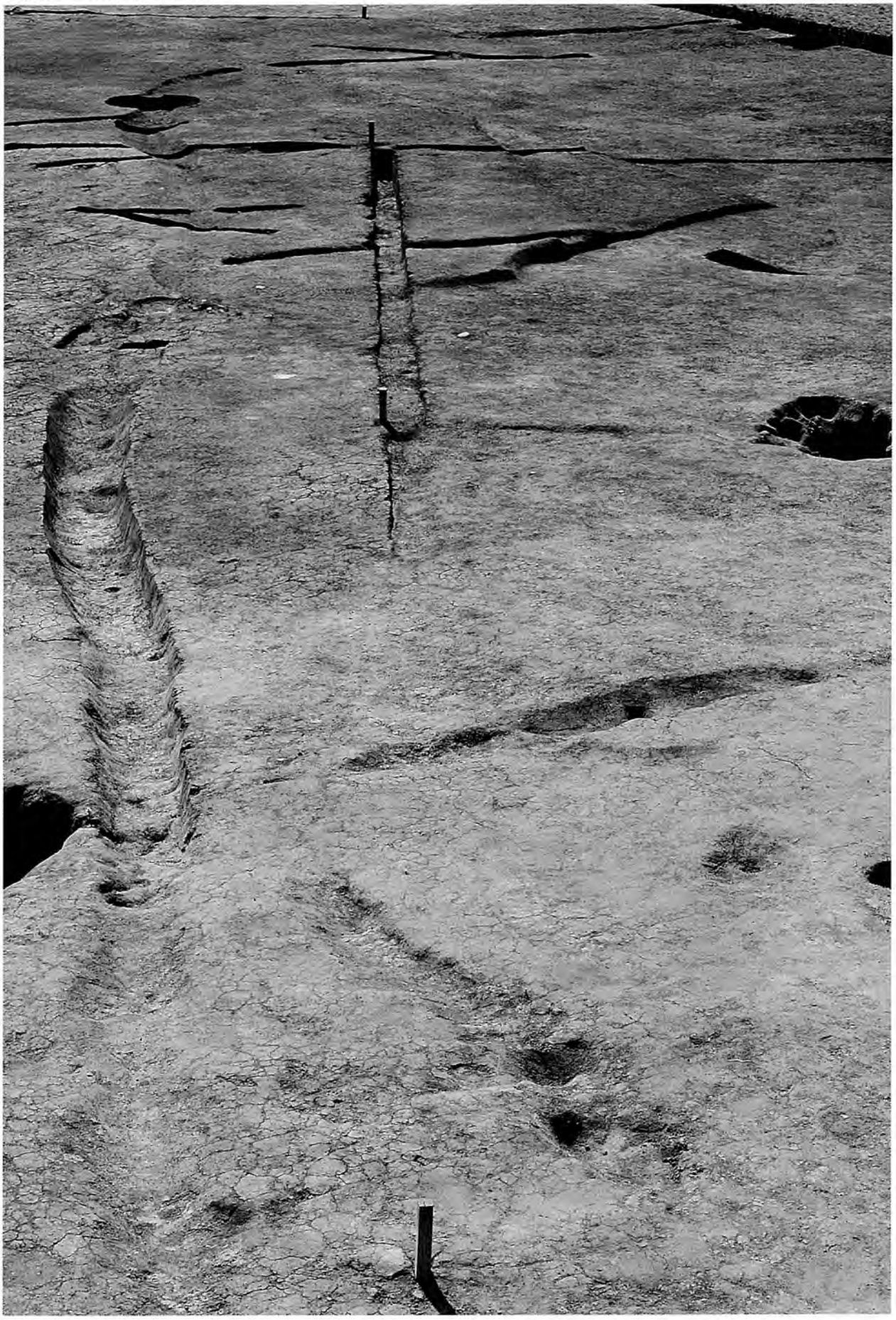
1　溝５土層断面１（北東から）

2　溝５完掘状況１（北東から）

1　溝５土層断面２（北東から）

2　溝５完掘状況２（北東から）

図版52　茶畑第１遺跡



溝６完掘状況（東から）

1　溝６土層断面１（南から）

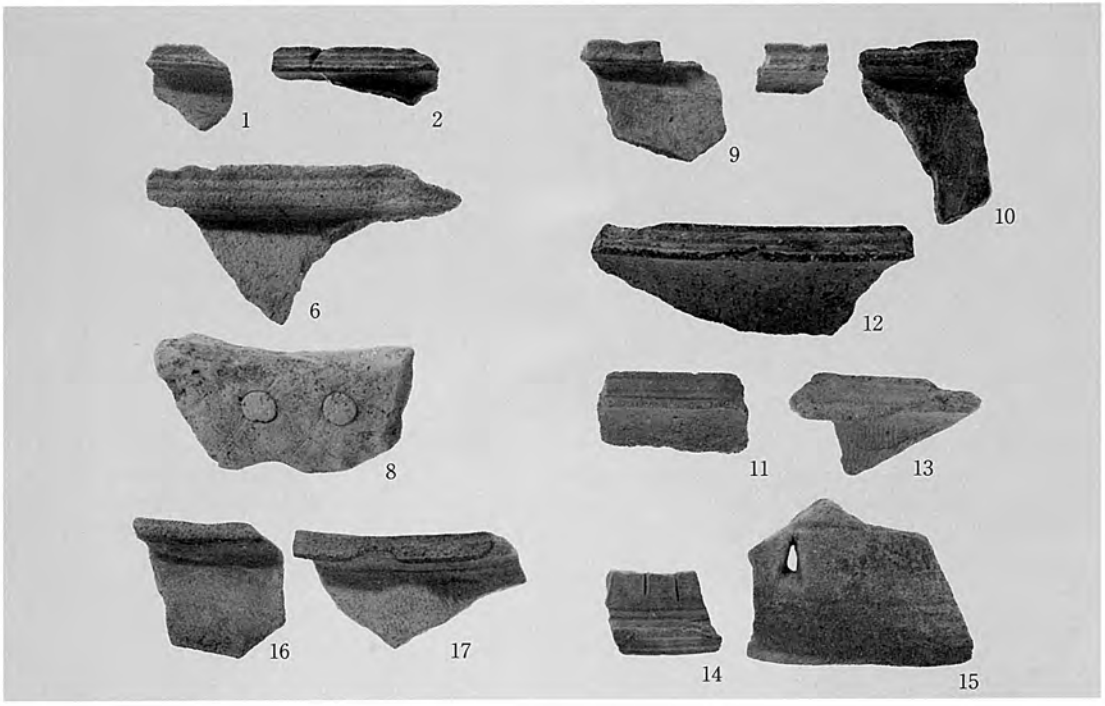
2　溝６土層断面２（東から）

3　溝６土層断面３（東から）

4　斜面調査地土層断面（南から）

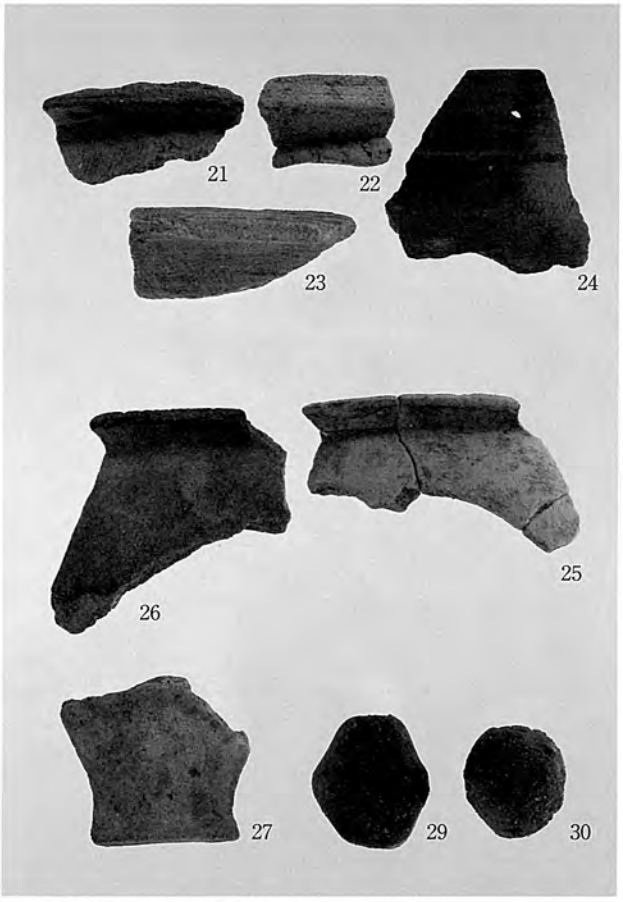
図版54　茶畑第１遺跡

1　竪穴住居１出土遺物



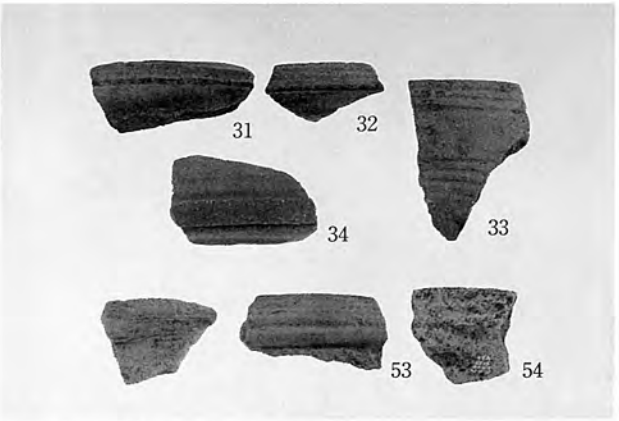
2　竪穴住居１・２・３出土遺物

3　竪穴住居４出土遺物

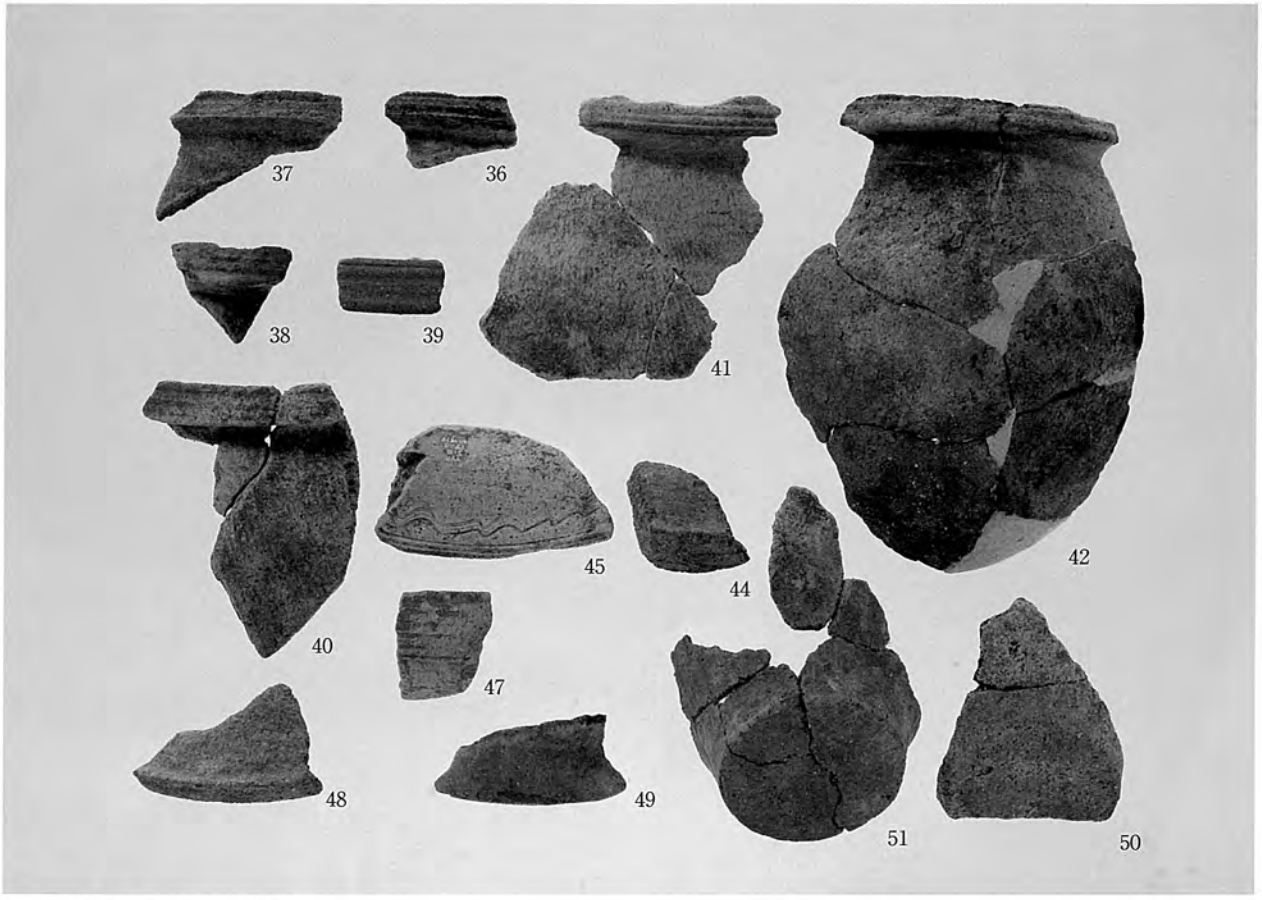


1　竪穴住居５・６出土遺物

2　竪穴住居６分銅形土製品



3　竪穴住居７・10出土遺物



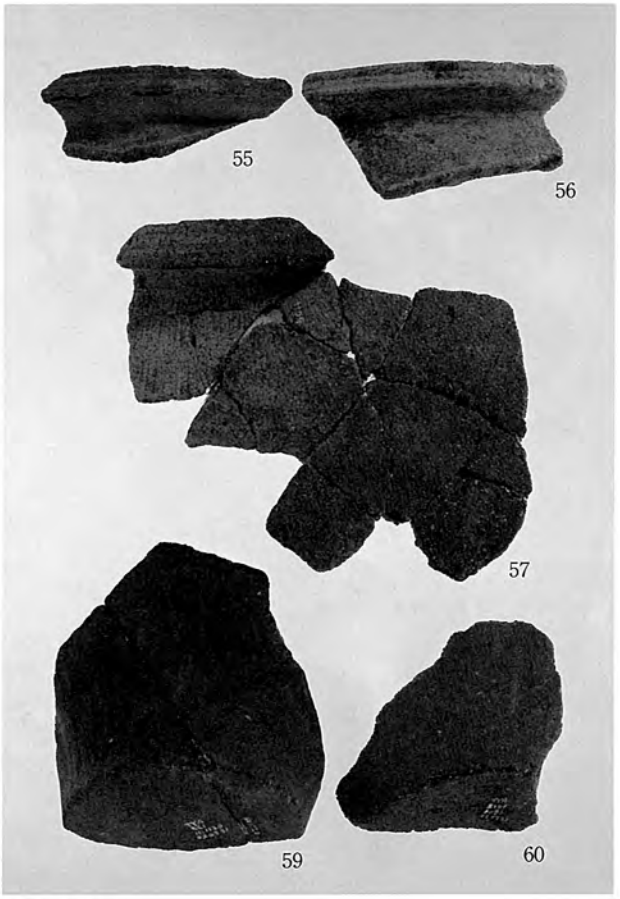
4　竪穴住居８出土遺物（１）

図版56　茶畑第１遺跡

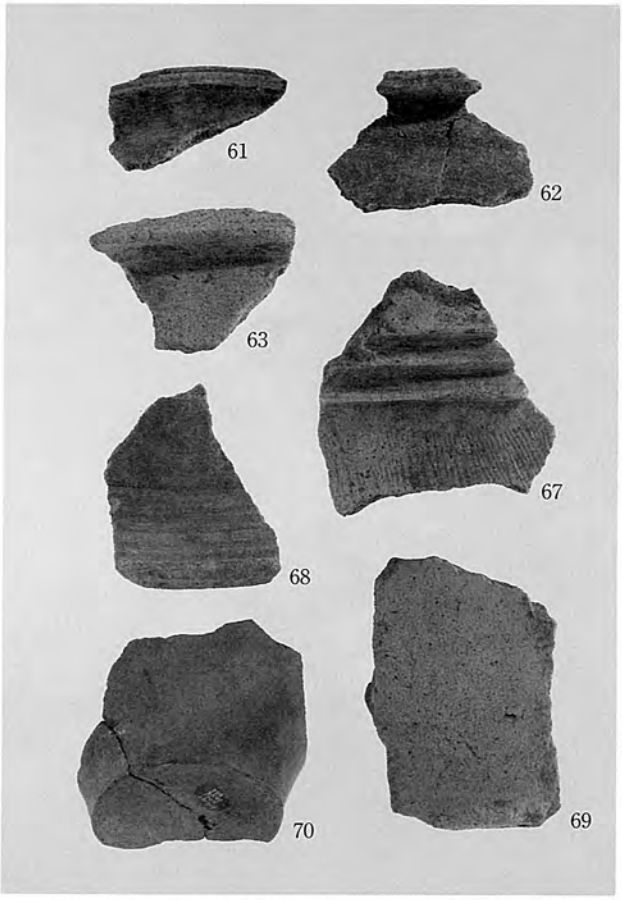
1　竪穴住居８出土遺物（２）

2　竪穴住居９出土遺物

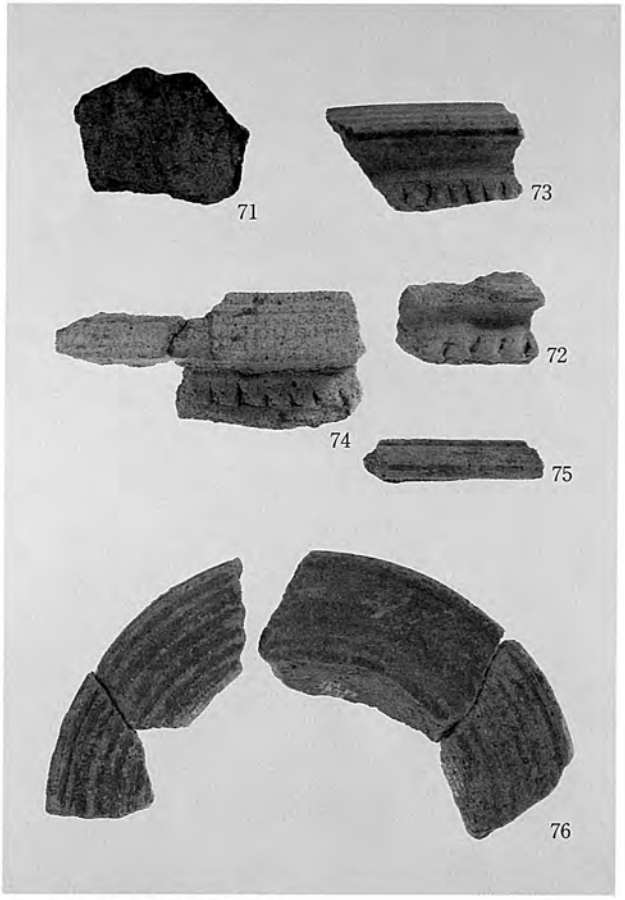
3　竪穴住居９出土高坏



4　竪穴住居11出土遺物

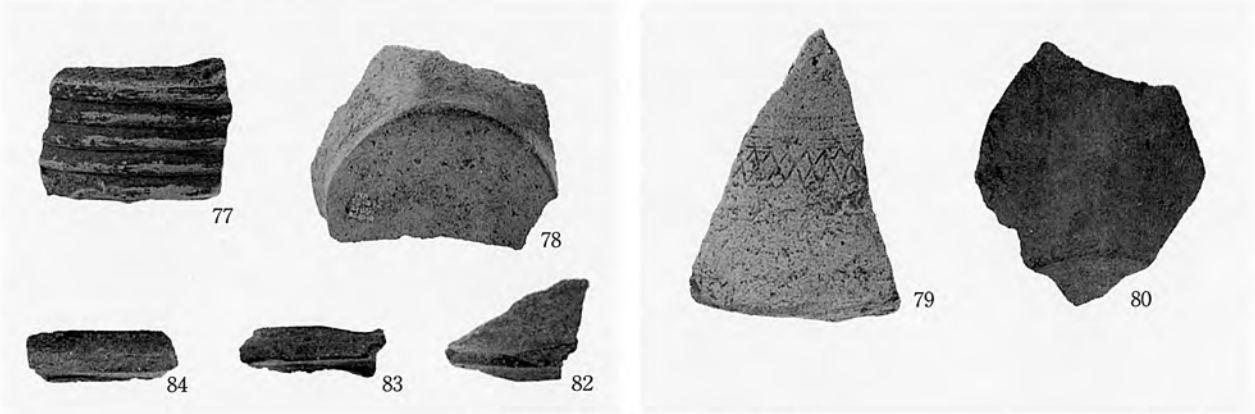


1　竪穴住居12出土遺物

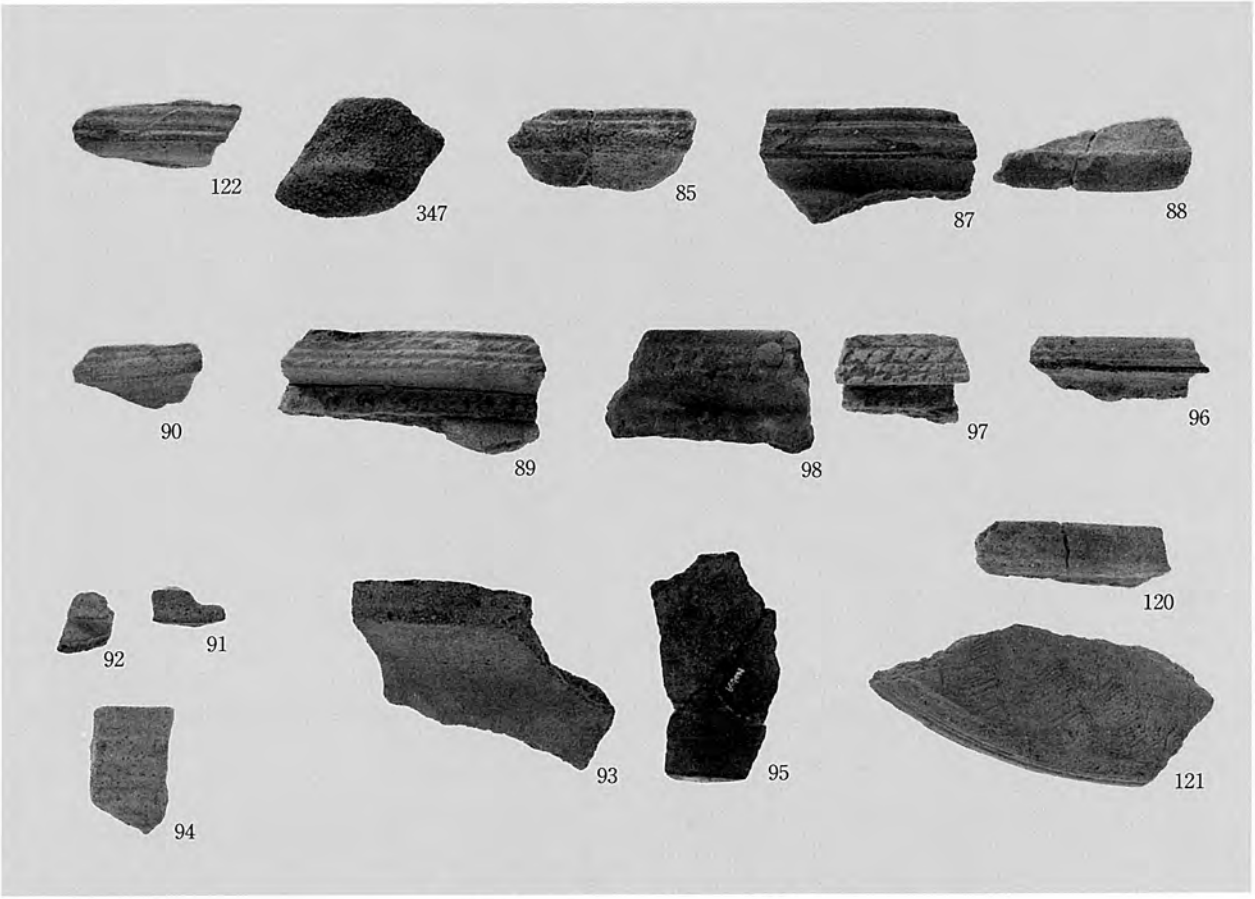


2　掘立柱建物１出土遺物

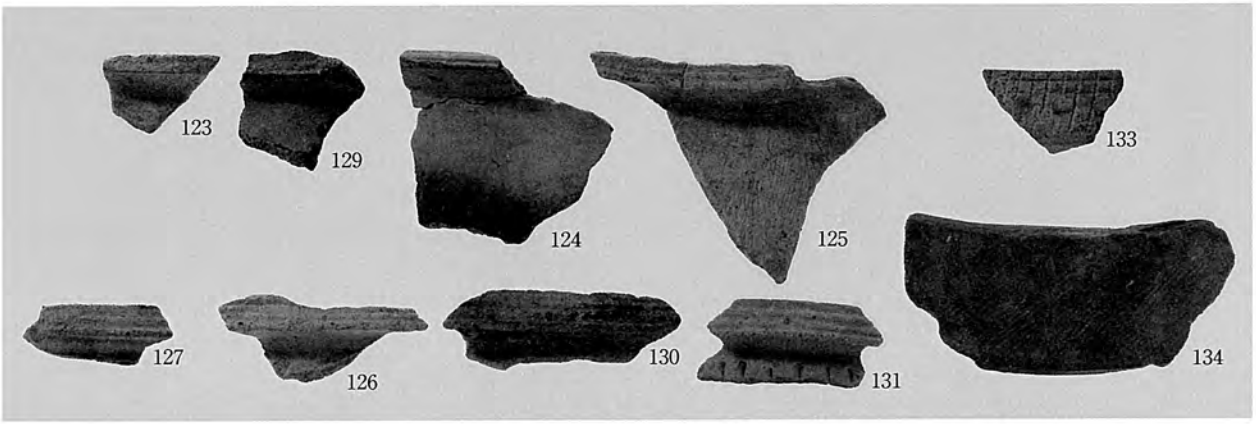
図版58　茶畑第１遺跡



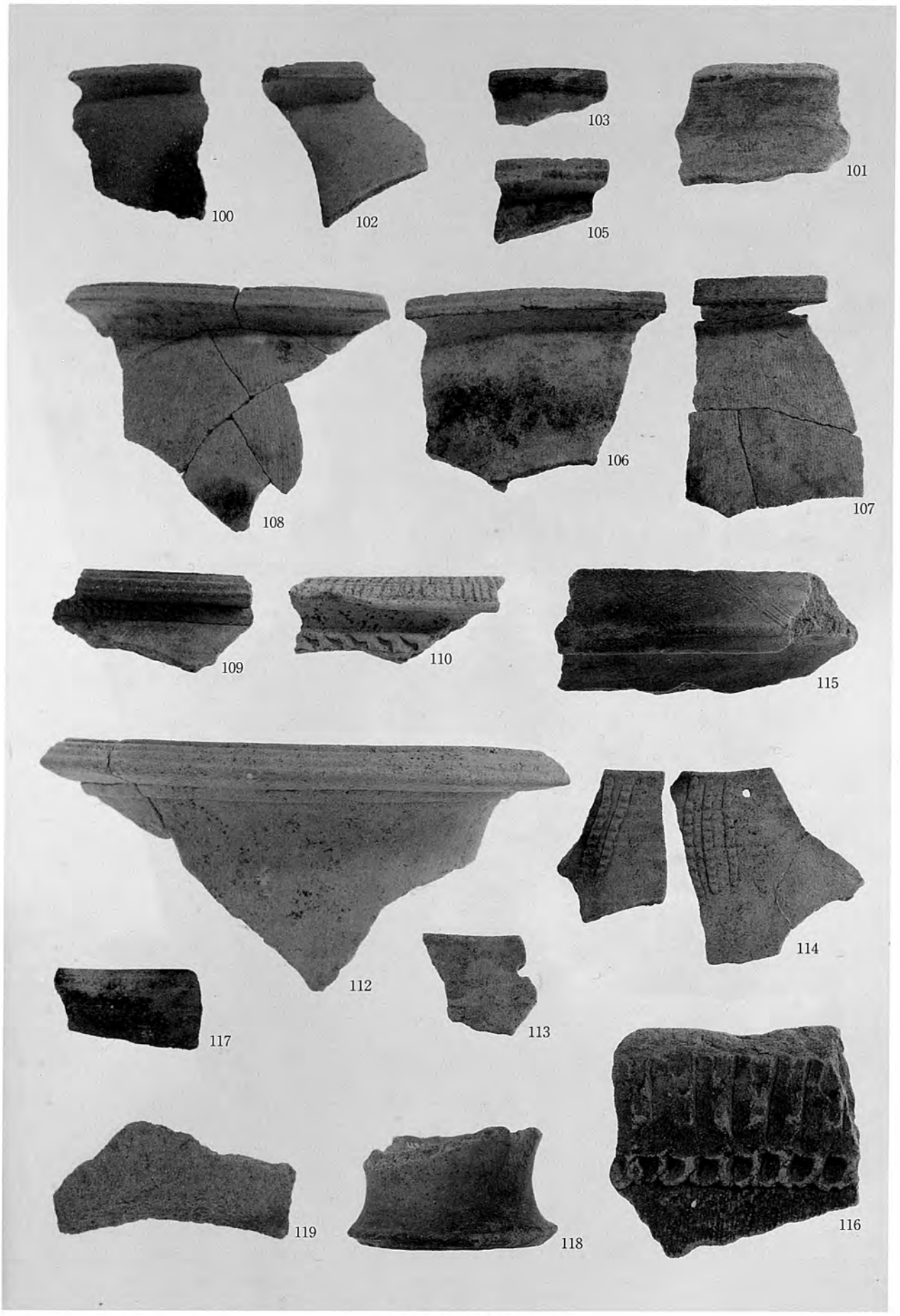
1　掘立柱建物２～６出土遺物



2　土坑１～７・９・10・26出土遺物

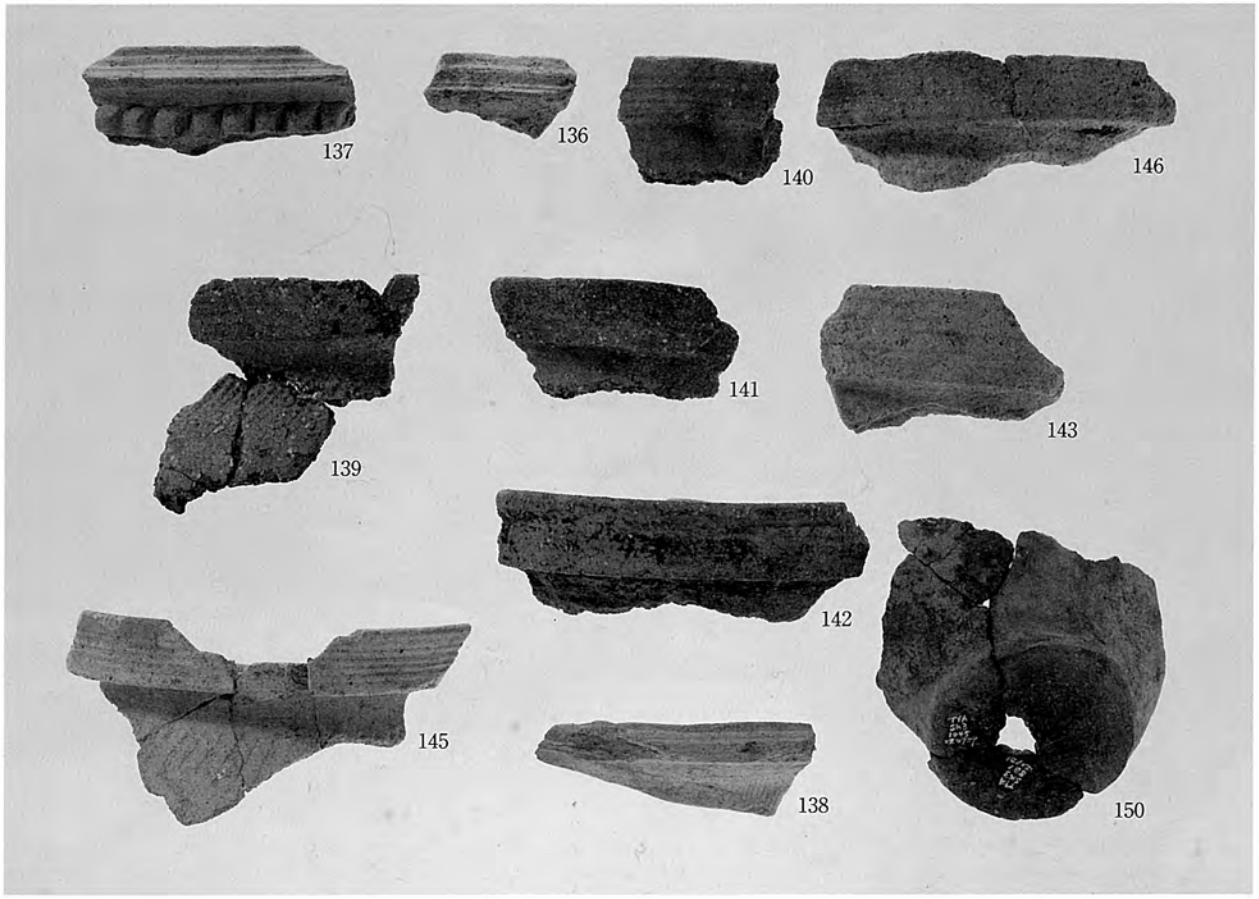


3　テラス１出土遺物

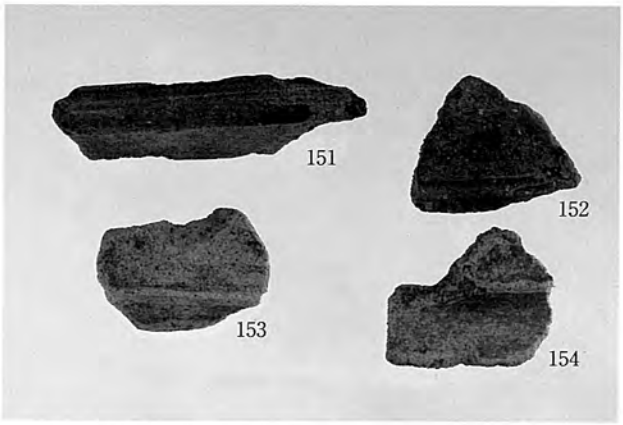

100
102
103
105
101
108
106
107
109
110
115
112
114
117
113
119
118
116

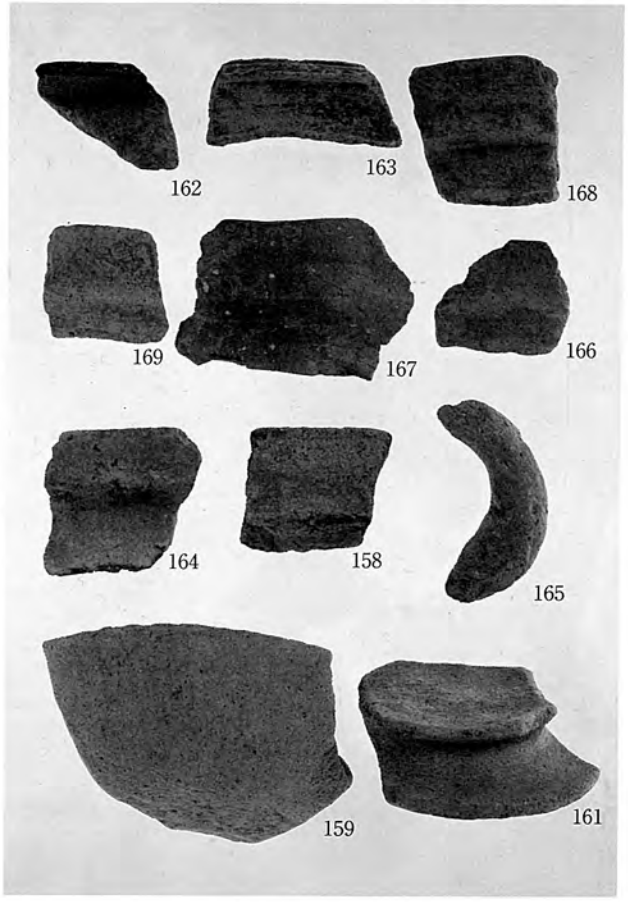
土坑８出土遺物

図版60　茶畑第１遺跡

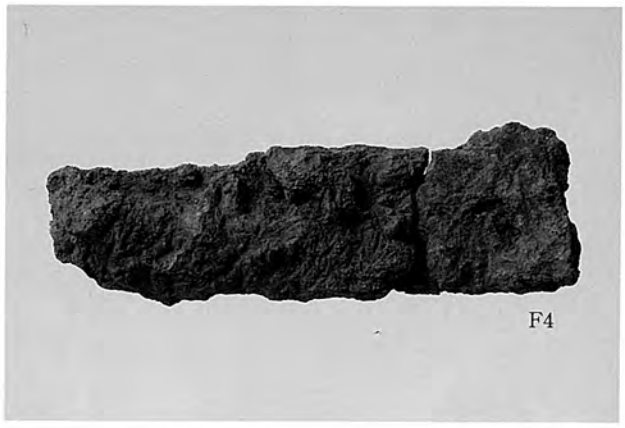


土坑11出土遺物



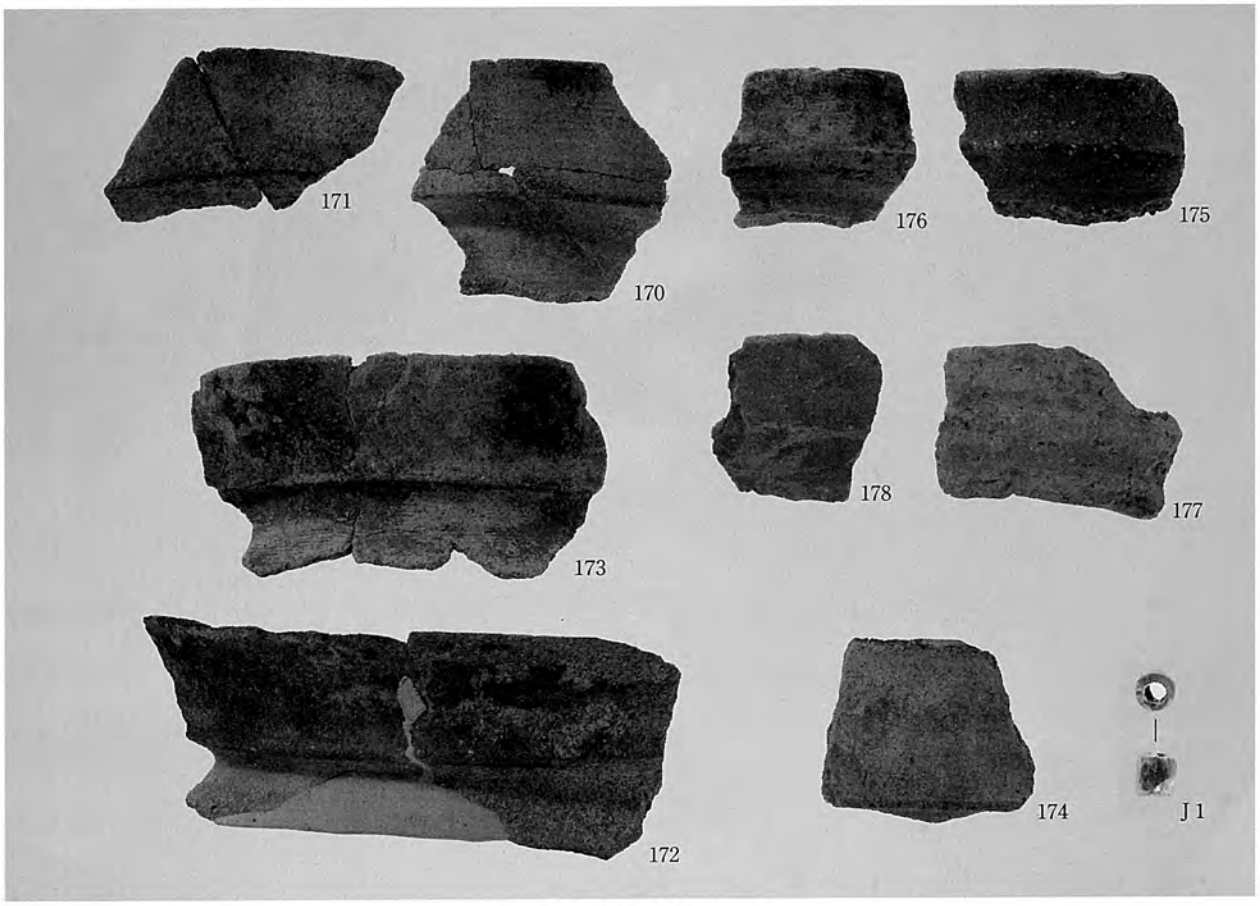


1　竪穴住居13出土遺物

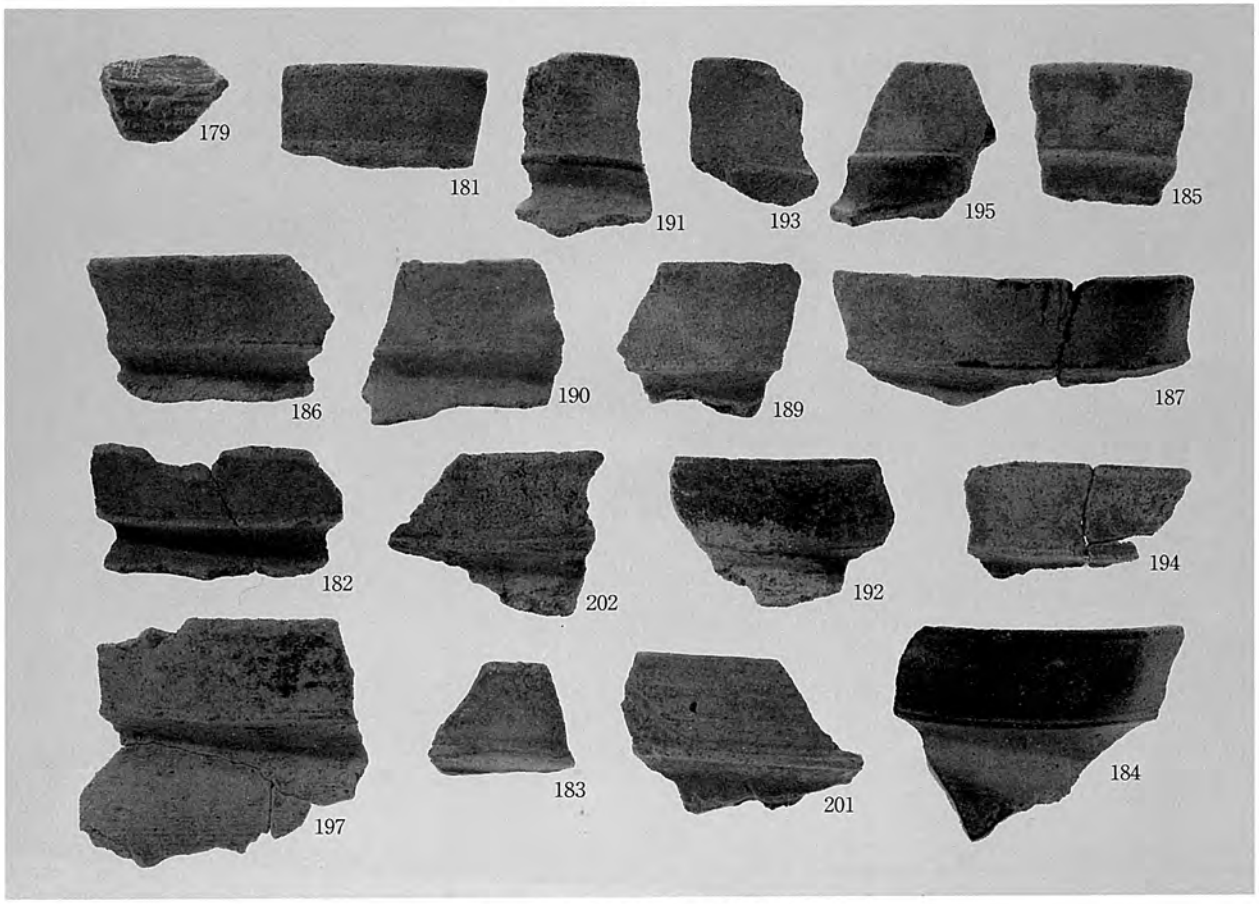


2　竪穴住居14出土遺物

図版62　茶畑第１遺跡

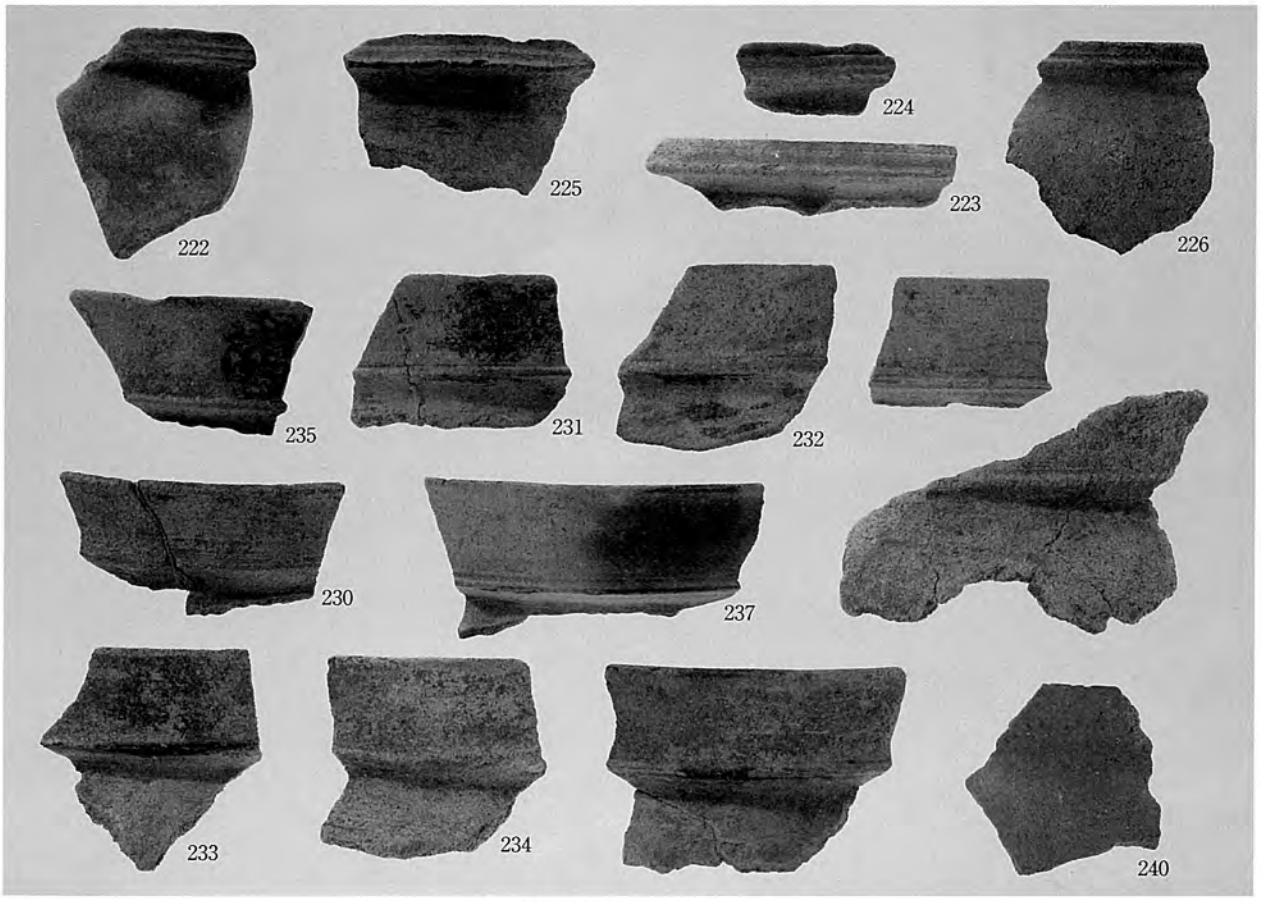


1　竪穴住居15出土遺物



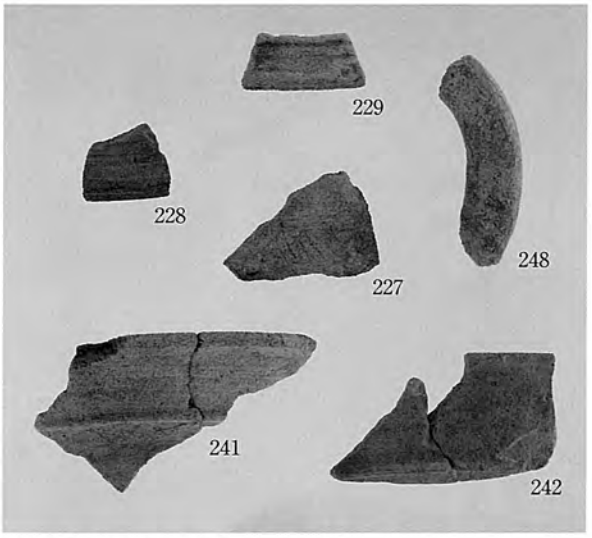
2　竪穴住居16出土遺物（１）

1　竪穴住居16出土遺物（２）

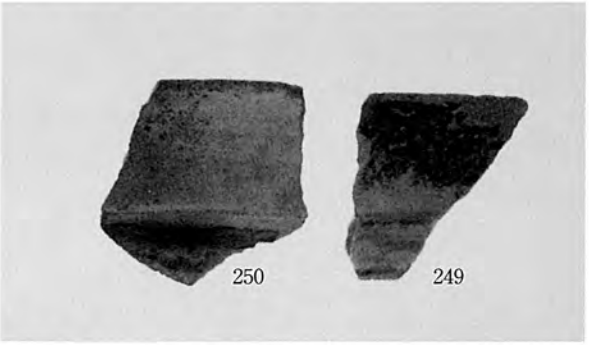


2　竪穴住居17出土遺物（１）

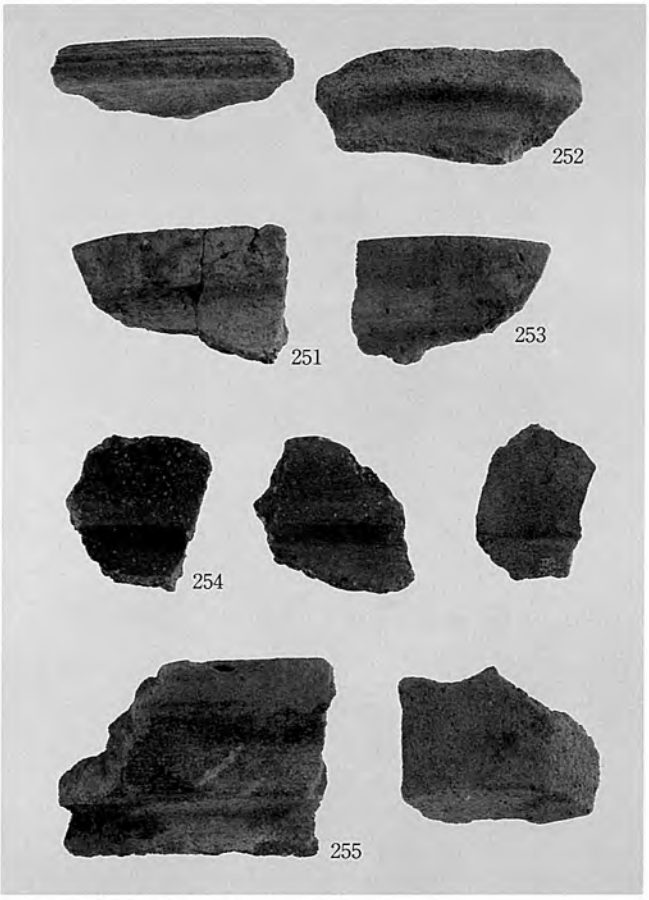
図版64　茶畑第１遺跡



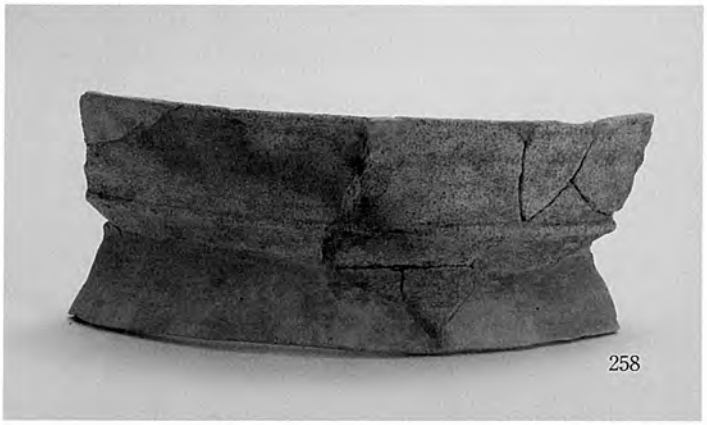
1　竪穴住居17出土遺物（２）

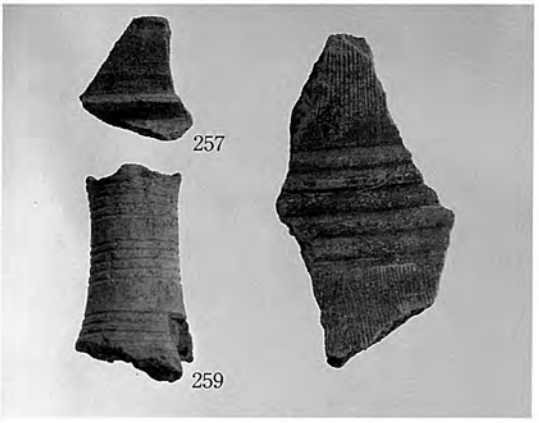


2　掘立柱建物７出土遺物

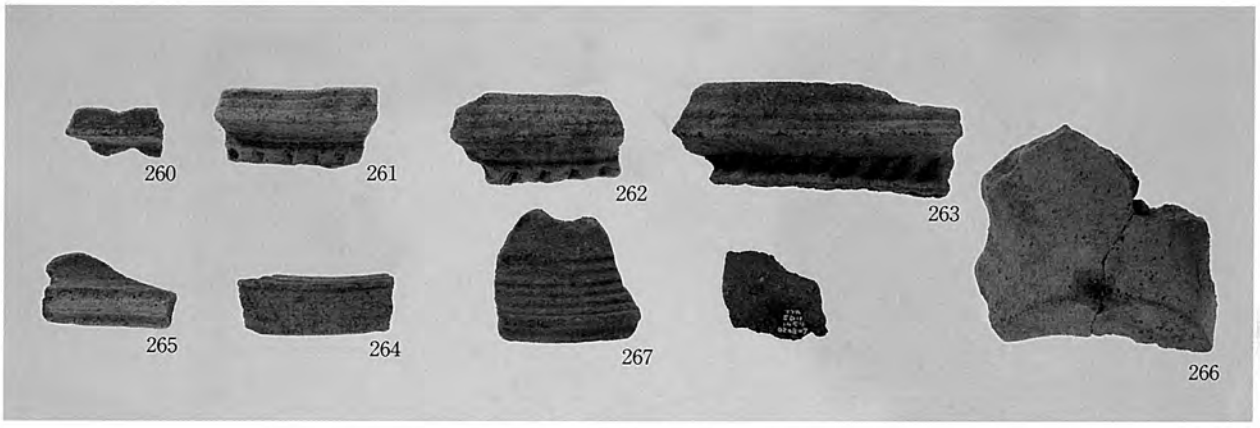


3　土坑12出土遺物





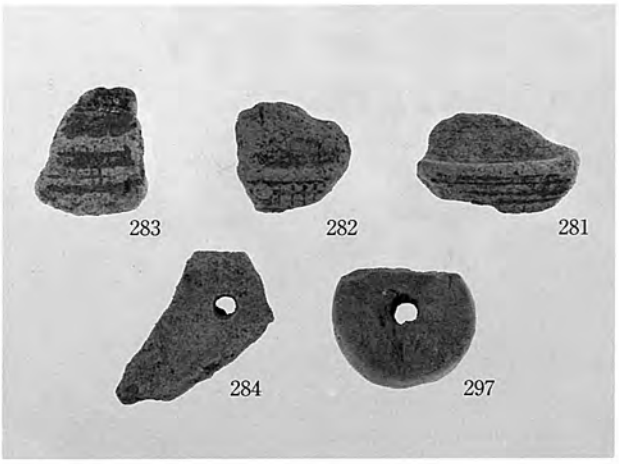
1　土坑13出土遺物

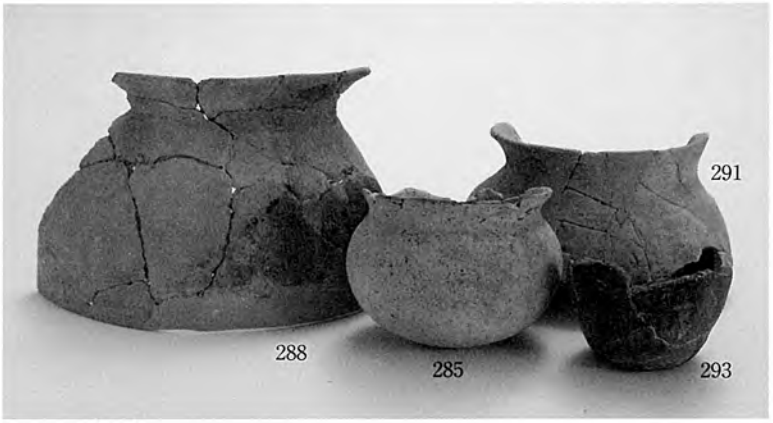


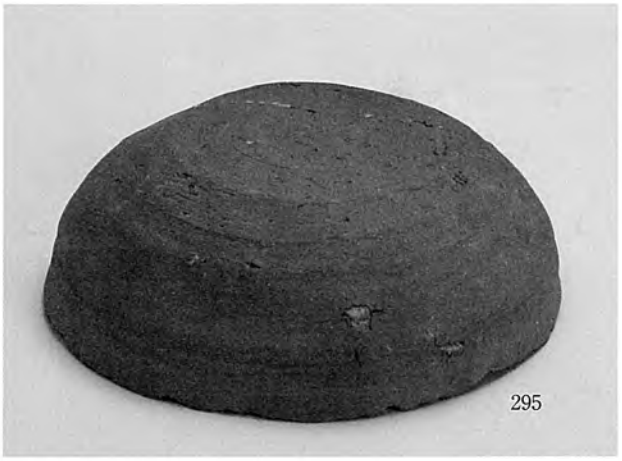
2　溝１出土遺物

3　茶畑14・15・16号墳出土遺物

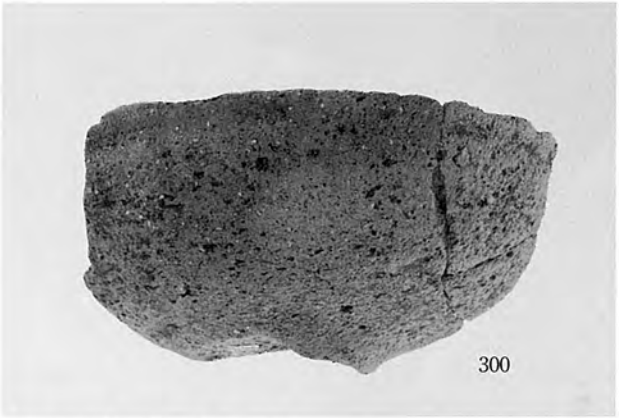
図版66　茶畑第１遺跡





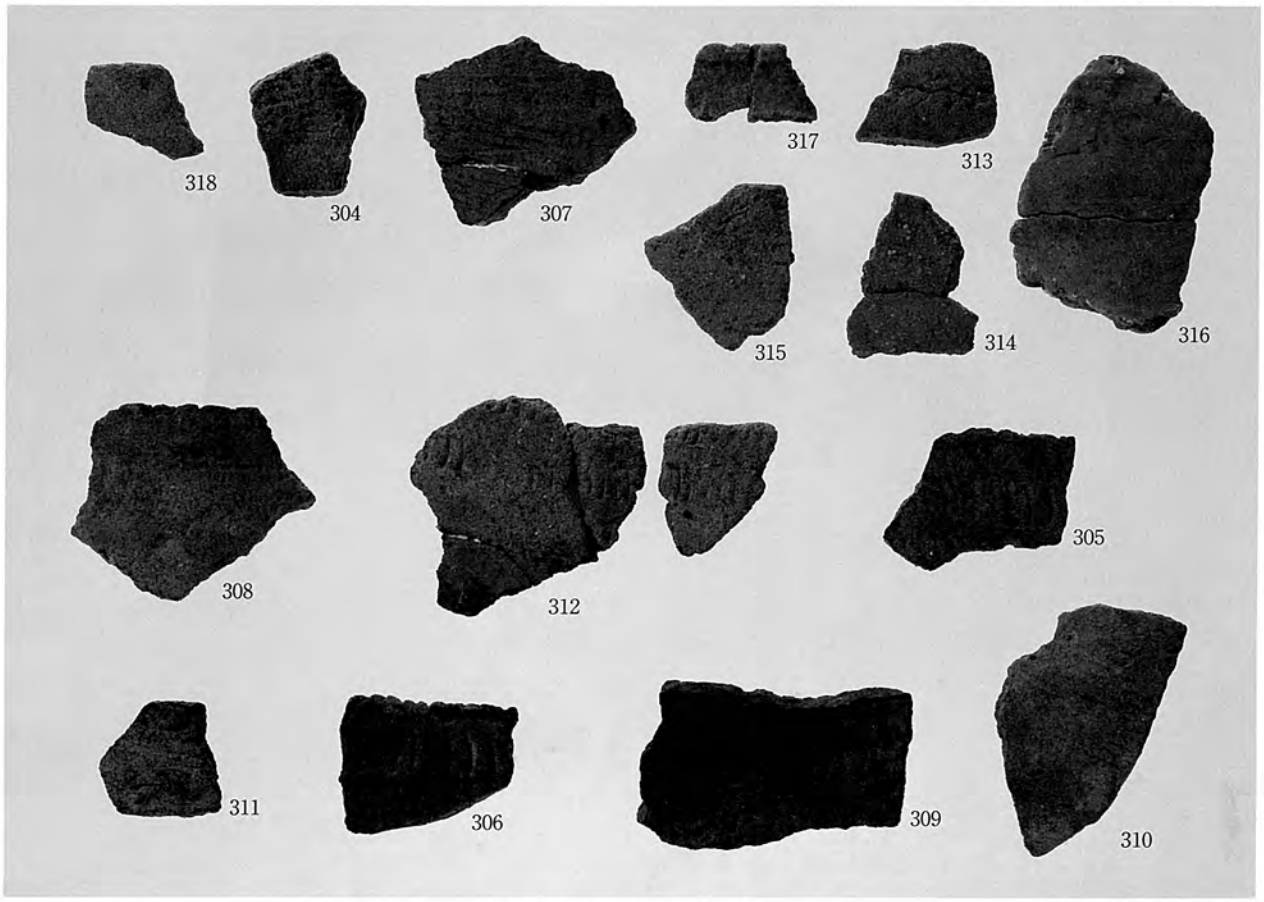


1　竪穴住居18出土遺物

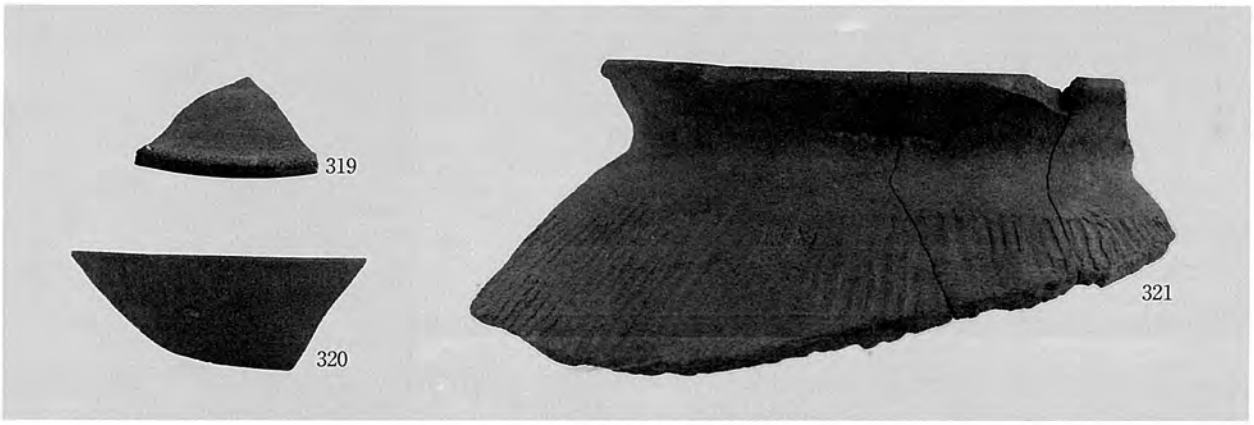


2　掘立柱建物８出土遺物

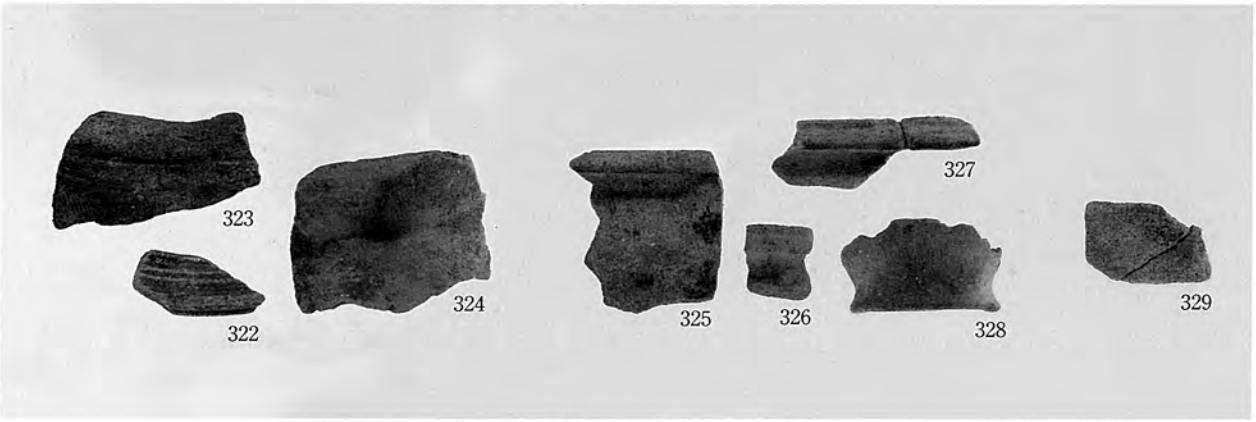
3　土坑14出土遺物



1　土坑15～25出土遺物

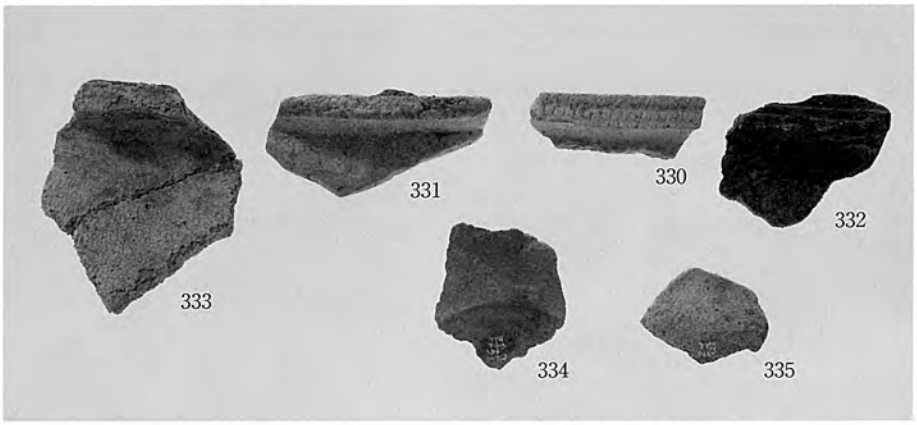


2　掘立柱建物９出土遺物

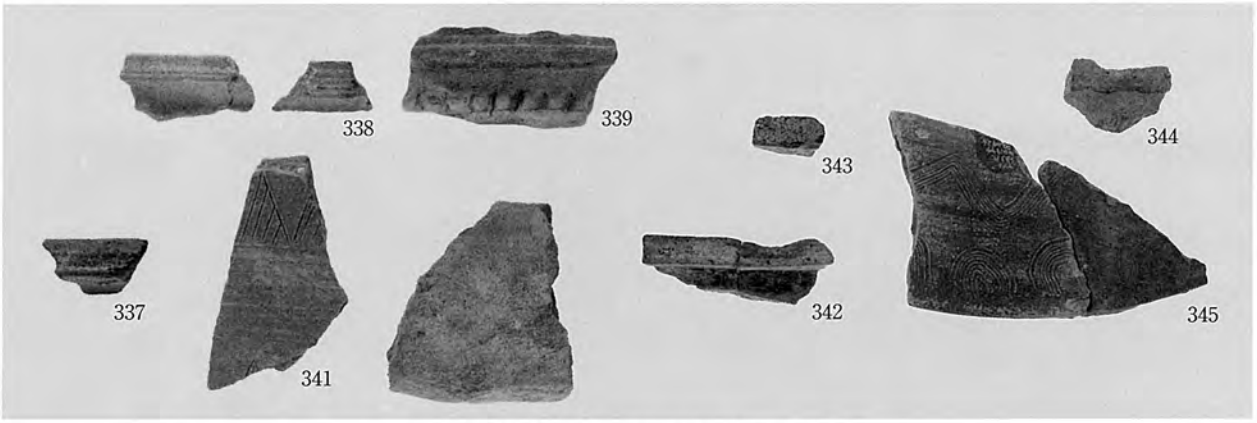


3　竪穴住居19～21出土遺物

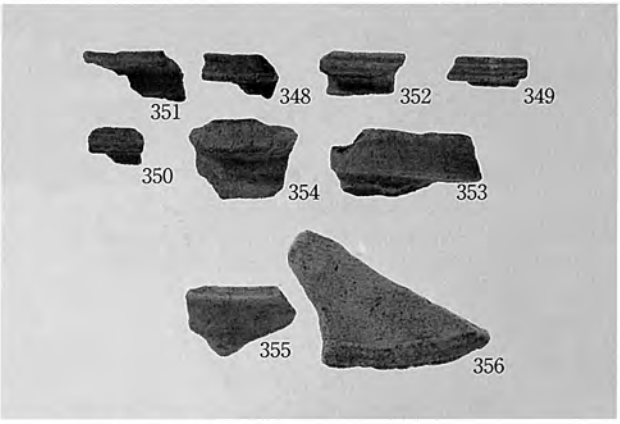
図版68　茶畑第１遺跡



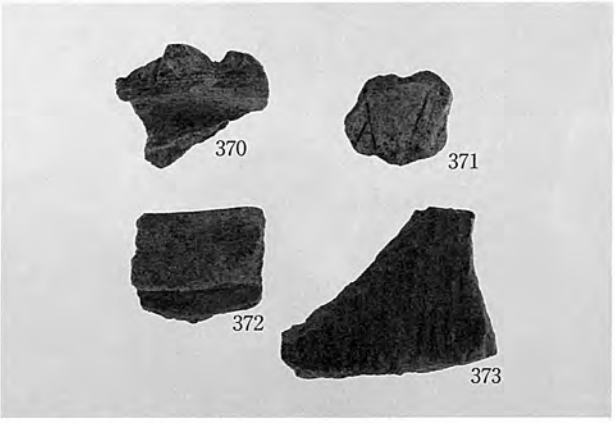
1　掘立柱建物10出土遺物



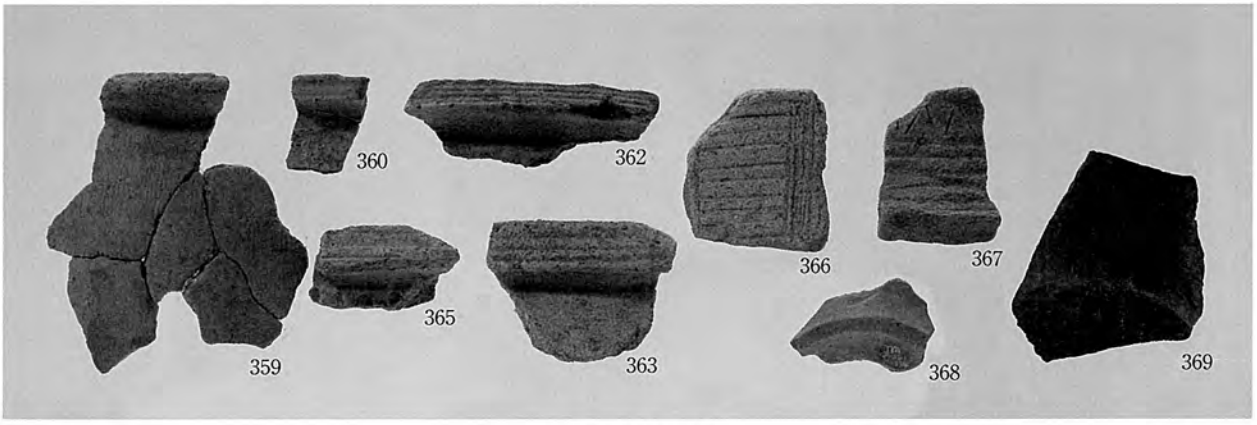
2　掘立柱建物11・12・14・16出土遺物



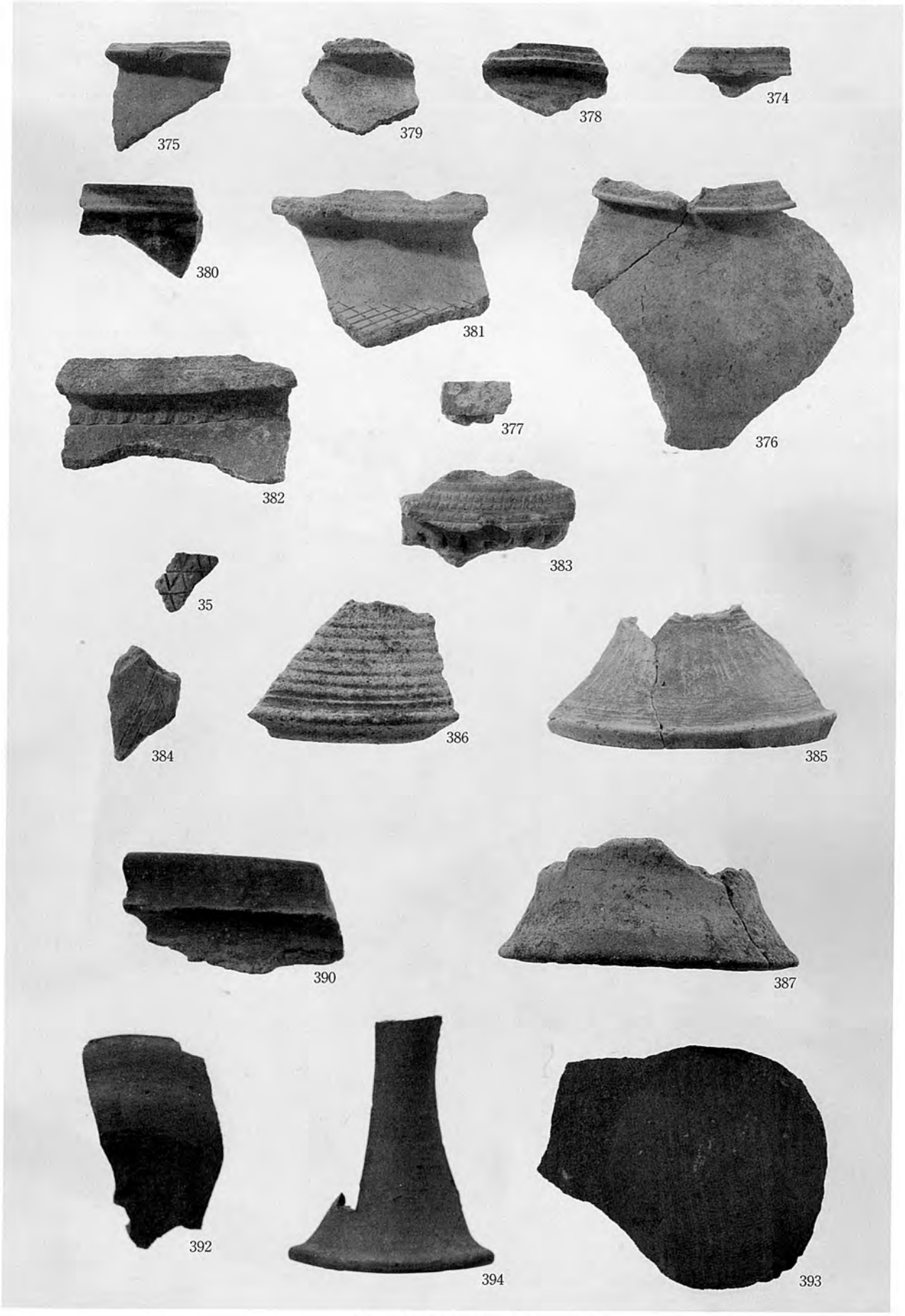
3　テラス２・３出土遺物



4　溝６出土遺物



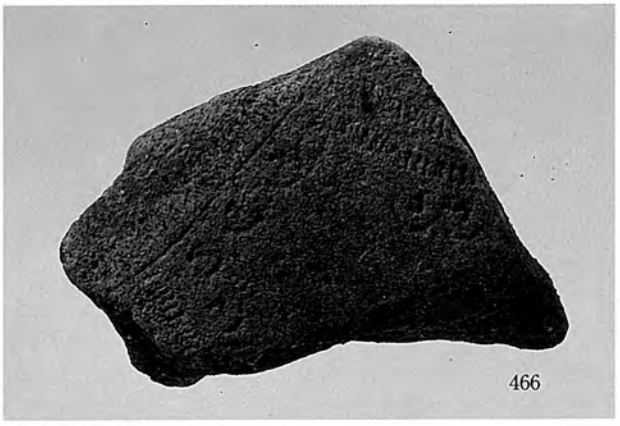
5　溝５出土遺物


375
379
378
374
380
381
376
377
382
383
35
384
386
385
390
387
392
394
393

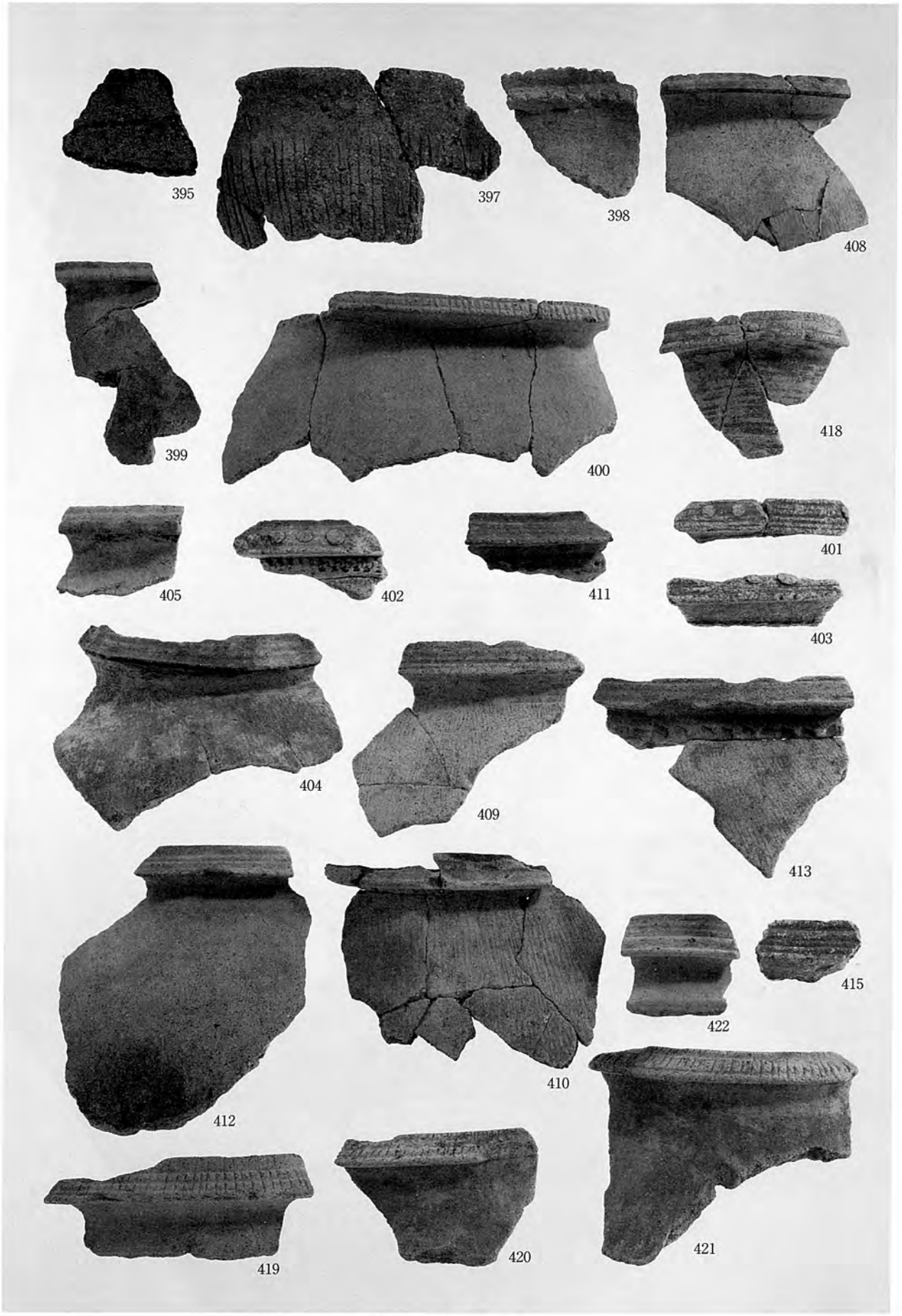
ピット内出土遺物（１）

図版70　茶畑第１遺跡

1　ピット内出土遺物（2）

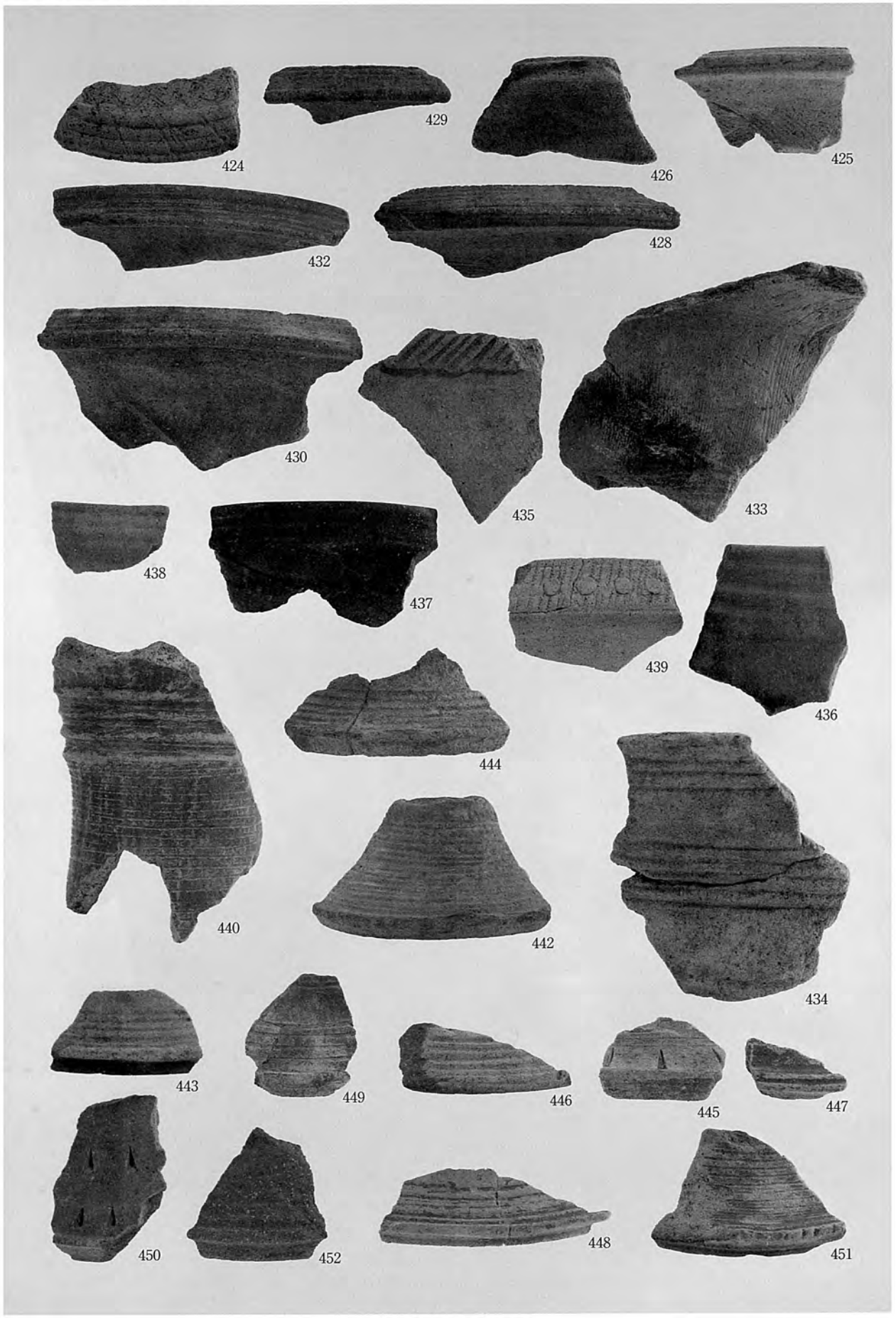


2　遺構外出土遺物（1）


395
397
398
408
399
400
418
405
402
411
401
403
404
409
413
412
410
422
415
419
420
421

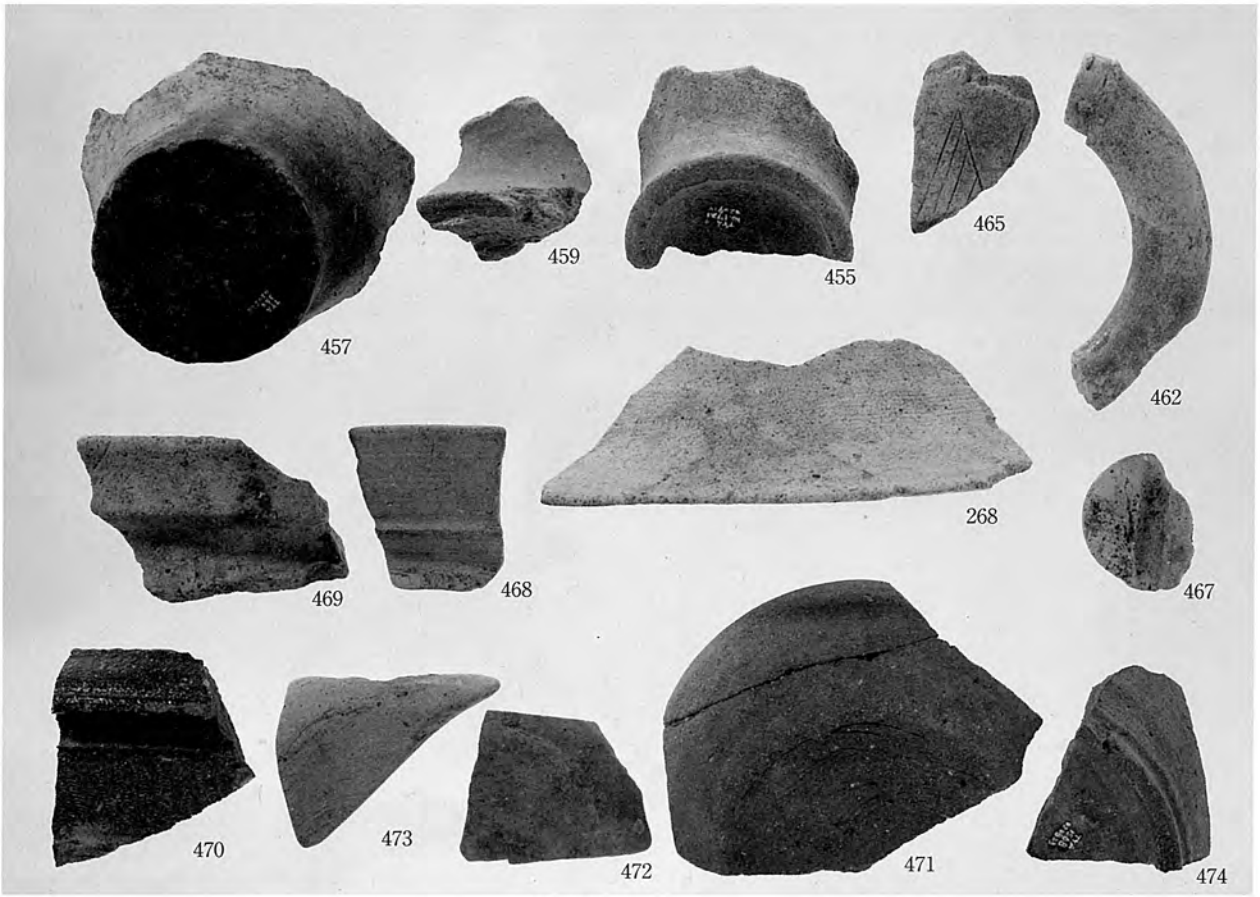
遺構外出土遺物（２）

図版72　茶畑第１遺跡



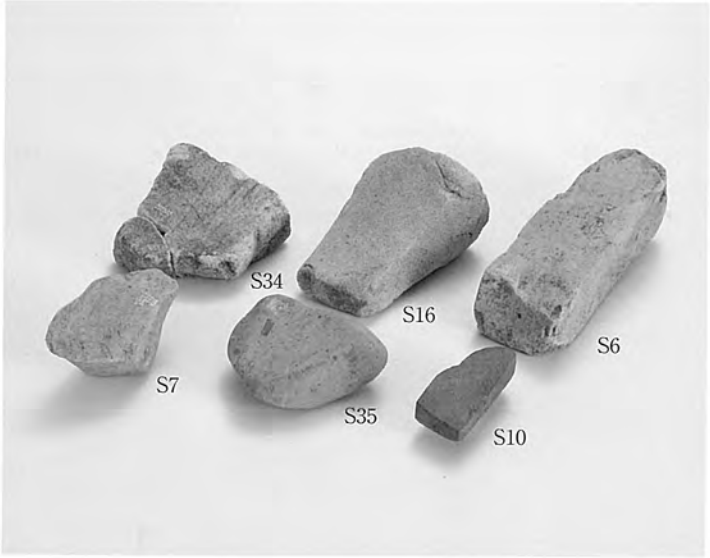
遺構外出土遺物（３）

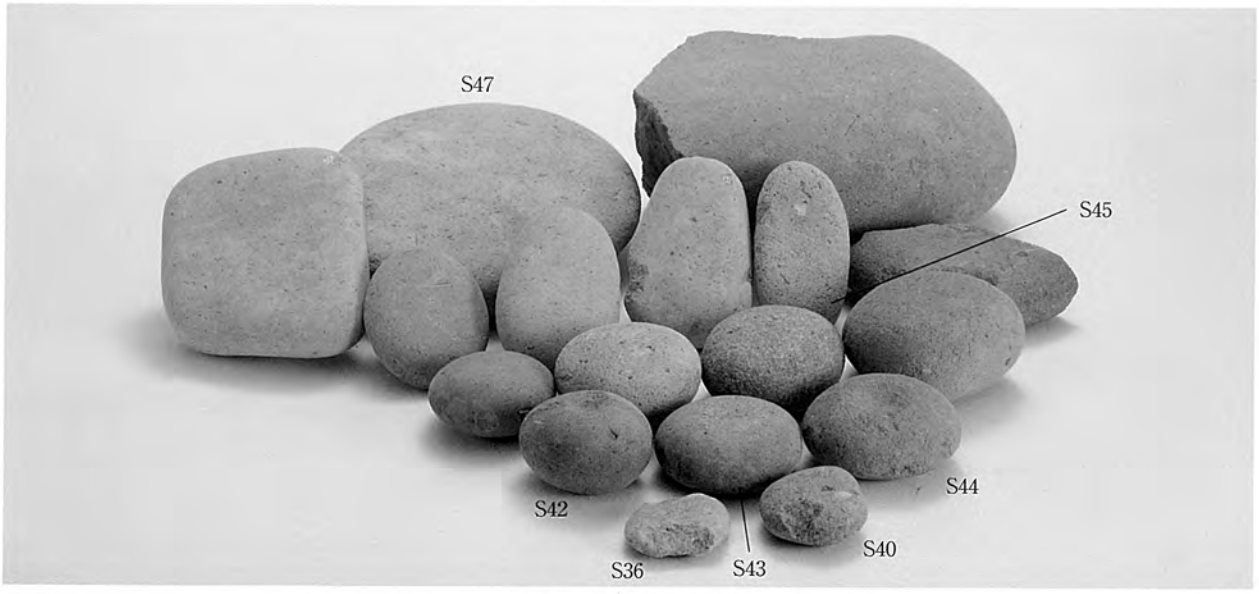
416
417
423
427


457
459
455
465
462
268
469
468
467
470
473
472
471
474

遺構外出土遺物（４）

図版74　茶畑第１遺跡

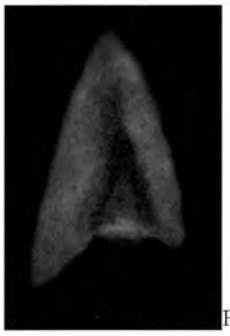


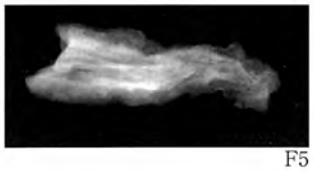


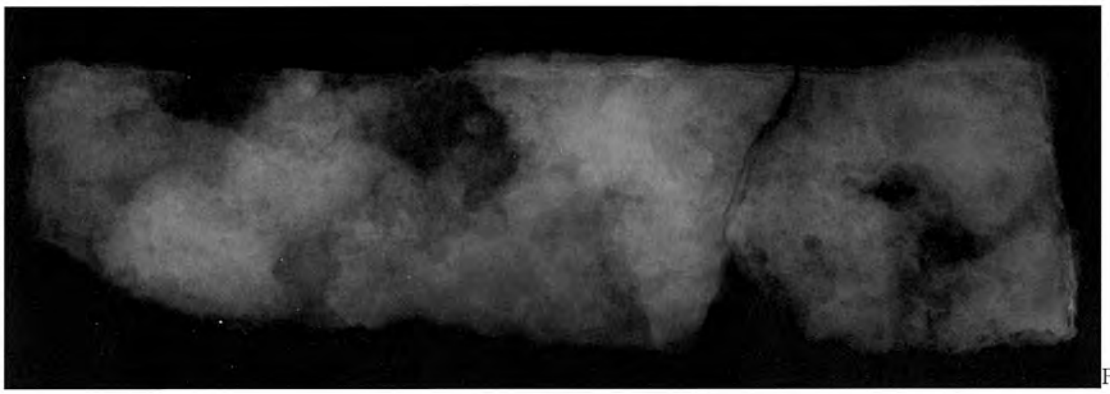
調査地内出土石製品

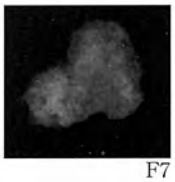
F1

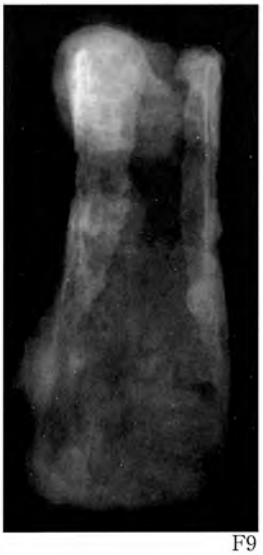
F2

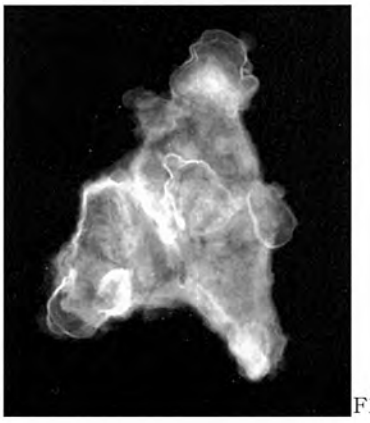

F3


F5

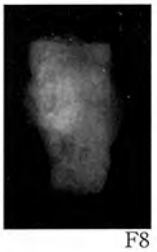

F4

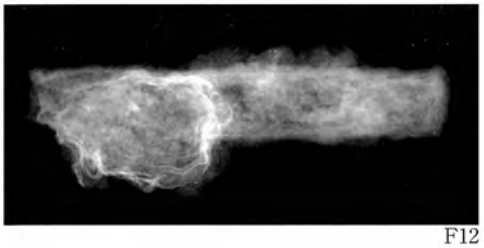

F7


F9

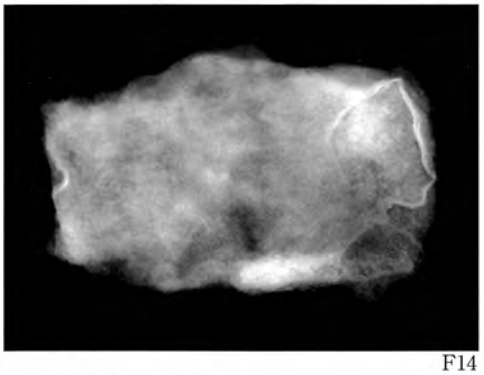

F11

F13


F8


F12

F10


F14

F15

鉄製品Ｘ線写真

鳥取県教育文化財団調査報告書93

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ（第１分冊）
鳥取県西伯郡名和町

茶畑遺跡群

茶畑第１遺跡

発　行　2004年３月31日
編　集　財団法人　鳥取県教育文化財団
　　埋蔵文化財センター
　　〒680-0151　岩美郡国府町宮下1260
　　電話　（0857）27－6717
発行者　財団法人　鳥取県教育文化財団
印　刷　米子プリント社